2020年度
文学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2020/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【A3819】歴史地理学（1）［米家　志乃布］春学期 1
【A3820】歴史地理学（2）［米家　志乃布］秋学期 2
【A3809】民俗学Ⅰ［室井　康成］春学期 3
【A3810】民俗学Ⅱ［室井　康成］秋学期 4
【A3811】イスラム世界論Ⅰ［小澤　一郎］春学期 4
【A3812】イスラム世界論Ⅱ［小澤　一郎］秋学期 5
【A3813】文学部生のキャリア形成［西塚　俊太、松本　剣志郎、吉田　智］春学期 6
【A3814】現代のコモンセンス［中沢　けい、丹治　愛、高橋　敏治］秋学期 7
【A2304】哲学概論１［中釜　浩一］春学期 8
【A2305】哲学概論２［中釜　浩一］秋学期 9
【A2306】論理学概論１［安東　祐希］春学期 10
【A2307】論理学概論２［安東　祐希］秋学期 10
【A2308】倫理学概論１［山口　誠一］春学期 11
【A2309】倫理学概論２［山口　誠一］秋学期 11
【A2310】西洋哲学史Ⅰ－１　［奥田　和夫］春学期 12
【A2311】西洋哲学史Ⅰ－２　［奥田　和夫］秋学期 12
【A2312】西洋哲学史Ⅱ－１　［君嶋　泰明］春学期 13
【A2313】西洋哲学史Ⅱ－２　［君嶋　泰明］秋学期 13
【A2206】基礎演習１［安孫子　信］春学期 14
【A2209】基礎演習２［西塚　俊太］秋学期 14
【A2207】基礎演習１［西塚　俊太］春学期 15
【A2210】基礎演習２［安孫子　信］秋学期 16
【A2212】哲学特講（1）－１［奥田　和夫］春学期 17
【A2213】哲学特講（1）－２［山下　真］秋学期 18
【A2216】哲学特講（3）－１［松本　力］春学期 19
【A2217】哲学特講（3）－２［古屋　俊彦］秋学期 19
【A2218】哲学特講（4）－１［鵜澤　和彦］春学期 20
【A2219】哲学特講（4）－２［近堂　秀］秋学期 22
【A2220】哲学特講（5）－１［西塚　俊太］春学期 22
【A2221】哲学特講（5）－２［相原　博］秋学期 23
【A2222】哲学特講（6）－１［大橋　基］春学期 24
【A2223】哲学特講（6）－２［小井沼　広嗣］秋学期 25
【A2224】哲学特講（7）－１［君嶋　泰明］春学期 26
【A2225】哲学特講（7）－２［大森　一三］秋学期 27
【A2226】哲学特講（8）－１［木島　泰三］春学期 28
【A2227】哲学特講（8）－２［中釜　浩一］秋学期 30
【A2301】国際哲学特講［安孫子　信］秋学期 30
【A2230】哲学演習（1）［安孫子　信］年間 31
【A2231】哲学演習（2）［奥田　和夫］年間 32
【A2232】哲学演習（3）［相原　博］年間 33
【A2233】哲学演習（4）［酒井　健］年間 34
【A2234】哲学演習（5）［笠原　賢介］年間 36
【A2235】哲学演習（6）［君嶋　泰明］年間 37
【A2236】哲学演習（7）［西塚　俊太］年間 38
【A2237】哲学演習（8）［安東　祐希］年間 40
【A2238】哲学演習（9）［中釜　浩一］年間 41
【A2239】哲学演習（１０）［山口　誠一］年間 42
【A2240】哲学演習（１１）［内藤　淳］年間 43
【A2241】科学哲学１［中釜　浩一］春学期 44
【A2242】科学哲学２［中釜　浩一］秋学期 45
【A2245】現代思想２（フランスの思想）１［大池　惣太郎］春学期 46
【A2246】現代思想２（フランスの思想）２［大池　惣太郎］秋学期 47
【A2247】美学・芸術学１［武田　昭彦］春学期 48

【A2248】美学・芸術学２［武田　昭彦］秋学期 48
【A2249】東洋哲学史１［青野　道彦］春学期 49
【A2250】東洋哲学史２［頼住　光子］秋学期 50
【A2251】宗教学１（伝統宗教）１［杉本　隆司］春学期 51
【A2252】宗教学１（伝統宗教）２［杉本　隆司］秋学期 52
【A2260】日本思想史１［西塚　俊太］春学期 53
【A2261】日本思想史２［西塚　俊太］秋学期 54
【A2262】文化史１［伊藤　直樹］春学期 55
【A2263】文化史２［伊藤　直樹］秋学期 56
【A2264】社会思想１（社会学概論）１［岩野　卓司］春学期 57
【A2265】社会思想１（社会学概論）２［岩野　卓司］秋学期 58
【A2266】社会思想２（社会思想史）１［政井　啓子］春学期 59
【A2267】社会思想２（社会思想史）２［鈴木　由加里］秋学期 60
【A2268】ラテン語１［金子　佳司］春学期 61
【A2269】ラテン語２［金子　佳司］秋学期 62
【A2270】ギリシア語１［白根　裕里枝］春学期 63
【A2271】ギリシア語２［白根　裕里枝］秋学期 64
【A2413,A2414,A2415,A2416,A2417,A2418,A2419,A2420,A2421,A2422A2424】大学での国語力［加藤　昌嘉］春学期 65
【A2401】日本文芸学概論Ａ［加藤　昌嘉］春学期 66
【A2402】日本文芸学概論Ａ［加藤　昌嘉］春学期 67
【A2403】日本文芸学概論Ｂ［加藤　昌嘉］秋学期 68
【A2404】日本文芸学概論Ｂ［加藤　昌嘉］秋学期 69
【A2409】日本言語学概論Ａ［間宮　厚司］春学期 70
【A2410】日本言語学概論Ａ［古牧　久典］春学期 70
【A2411】日本言語学概論Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 71
【A2412】日本言語学概論Ｂ［古牧　久典］秋学期 72
【A2405】日本文芸史ⅠＡ［坂本　勝］春学期 73
【A2406】日本文芸史ⅠＡ［坂本　勝］春学期 74
【A2407】日本文芸史ⅠＢ［小林　ふみ子、阿部　真弓］秋学期 74
【A2408】日本文芸史ⅠＢ［小林　ふみ子、阿部　真弓］秋学期 75
【A2425】文学概論Ａ［中丸　宣明］春学期 75
【A2426】文学概論Ａ［岡野　幸江］春学期 76
【A2427】文学概論Ｂ［中丸　宣明］秋学期 77
【A2428】文学概論Ｂ［岡野　幸江］秋学期 78
【A2429】日本文芸史ⅡＡ［矢澤 美佐紀］春学期 79
【A2431】日本文芸史ⅡＢ［矢澤 美佐紀］秋学期 80
【A2615】ゼミナール１Ａ［遠藤　星希］春学期 80
【A2616】ゼミナール１Ｂ［遠藤　星希］秋学期 81
【A2617】ゼミナール２Ａ［坂本　勝］春学期 82
【A2618】ゼミナール２Ｂ［坂本　勝］秋学期 83
【A2619】ゼミナール３Ａ［加藤　昌嘉］春学期 83
【A2620】ゼミナール３Ｂ［加藤　昌嘉］秋学期 84
【A2621】ゼミナール４Ａ［阿部　真弓］春学期 85
【A2622】ゼミナール４Ｂ［阿部　真弓］秋学期 86
【A2623】ゼミナール５Ａ［小秋元　段］春学期 87
【A2624】ゼミナール５Ｂ［小秋元　段］秋学期 88
【A2625】ゼミナール６Ａ［小林　ふみ子］春学期 88
【A2626】ゼミナール６Ｂ［小林　ふみ子］秋学期 89
【A2627】ゼミナール７Ａ［本塚　亘］春学期 90
【A2628】ゼミナール７Ｂ［本塚　亘］秋学期 91
【A2629】ゼミナール８Ａ［伊海　孝充］春学期 92
【A2630】ゼミナール８Ｂ［伊海　孝充］秋学期 93
【A2631】ゼミナール９Ａ［中丸　宣明］春学期 94
【A2632】ゼミナール９Ｂ［中丸　宣明］秋学期 94
【A2635】ゼミナール１１Ａ［細沼　祐介］春学期 95
【A2636】ゼミナール１１Ｂ［細沼　祐介］秋学期 96

【A2637】ゼミナール１２Ａ［三井　喜美子］春学期 97
【A2638】ゼミナール１２Ｂ［三井　喜美子］秋学期 98
【A2639】ゼミナール１３Ａ［間宮　厚司］春学期 99
【A2640】ゼミナール１３Ｂ［間宮　厚司］秋学期 99
【A2641】ゼミナール１４Ａ［間宮　厚司］春学期 100
【A2642】ゼミナール１４Ｂ［間宮　厚司］秋学期 100
【A2643】ゼミナール１５Ａ［尾谷　昌則］春学期 101
【A2644】ゼミナール１５Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 102
【A2645】ゼミナール１６Ａ［尾谷　昌則］春学期 102
【A2646】ゼミナール１６Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 103
【A2647】ゼミナール１７Ａ［中沢　けい］春学期 104
【A2648】ゼミナール１７Ｂ［中沢　けい］秋学期 105
【A2649】ゼミナール１８Ａ［中沢　けい］春学期 105
【A2650】ゼミナール１８Ｂ［中沢　けい］秋学期 106
【A2651】ゼミナール１９Ａ［田中　和生］春学期 107
【A2652】ゼミナール１９Ｂ［田中　和生］秋学期 107
【A2653】ゼミナール２０Ａ［田中　和生］春学期 108
【A2654】ゼミナール２０Ｂ［田中　和生］秋学期 108
【A2655】ゼミナール２１Ａ［根本　昌夫］春学期 109
【A2656】ゼミナール２１Ｂ［根本　昌夫］秋学期 110
【A2657】日本文芸研究特講（１）上代Ａ［坂本　勝］春学期 111
【A2658】日本文芸研究特講（１）上代Ｂ［坂本　勝］秋学期 111
【A2661】日本文芸研究特講（２）中古Ａ［栗山　元子］春学期 112
【A2662】日本文芸研究特講（２）中古Ｂ［栗山　元子］秋学期 113
【A2663】日本文芸研究特講（２）中古Ｃ［加藤　昌嘉］春学期 114
【A2664】日本文芸研究特講（２）中古Ｄ［加藤　昌嘉］秋学期 115
【A2665】日本文芸研究特講（３）中世Ａ［小秋元　段］春学期 116
【A2666】日本文芸研究特講（３）中世Ｂ［小秋元　段］秋学期 117
【A2668】日本文芸研究特講（３）中世Ｄ［阿部　真弓］秋学期 118
【A2669】日本文芸研究特講（４）近世Ａ［眞島　望］春学期 119
【A2670】日本文芸研究特講（４）近世Ｂ［小林　ふみ子］秋学期 120
【A2671】日本文芸研究特講（４）近世Ｃ［宮本　祐規子］春学期 121
【A2673】日本文芸研究特講（５）近代Ａ［村山　龍］春学期 121
【A2674】日本文芸研究特講（５）近代Ｂ［中丸　宣明］秋学期 122
【A2675】日本文芸研究特講（５）近代Ｃ［高口　智史］春学期 123
【A2676】日本文芸研究特講（５）近代Ｄ［梅澤　亜由美］秋学期 124
【A2677】日本文芸研究特講（６）現代Ａ［藤木　直実］春学期 125
【A2678】日本文芸研究特講（６）現代Ｂ［藤木　直実］秋学期 126
【A2681】日本文芸研究特講（７）漢文Ａ［遠藤　星希］春学期 127
【A2682】日本文芸研究特講（７）漢文Ｂ［遠藤　星希］秋学期 128
【A2683】日本文芸研究特講（７）漢文Ｃ［吉井　涼子］春学期 129
【A2684】日本文芸研究特講（７）漢文Ｄ［吉井　涼子］秋学期 130
【A2685】日本文芸研究特講（８）言語Ａ［尾谷　昌則］春学期 131
【A2686】日本文芸研究特講（８）言語Ｂ［間宮　厚司］秋学期 132
【A2687】日本文芸研究特講（９）表現Ａ［藤谷　治］春学期 132
【A2688】日本文芸研究特講（９）表現Ｂ［藤谷　治］秋学期 133
【A2689】日本文芸研究特講（１０）演劇Ａ［伊海　孝充］春学期 133
【A2690】日本文芸研究特講（１０）演劇Ｂ［伊海　孝充］秋学期 134
【A2693】日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ａ［本塚　亘］春学期 134
【A2694】日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ｂ［本塚　亘］秋学期 135
【A2695】日本文芸研究特講（１２）詩歌Ａ［池井　昌樹］春学期 136
【A2696】日本文芸研究特講（１２）詩歌Ｂ［池井　昌樹］秋学期 137
【A2697】日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ａ［三井　喜美子］春学期 137
【A2698】日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ｂ［三井　喜美子］秋学期 138
【A2699】日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ａ［福　寛美］春学期 139
【A2700】日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｂ［福　寛美］秋学期 140
【A2701】日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｃ［小山　和行］春学期 141

【A2702】日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｄ［小山　和行］秋学期 142
【A2707】日本文芸研究特講（１６）特域Ｃ［安原　眞琴］春学期 142
【A2708】日本文芸研究特講（１６）特域Ｄ［湯本　豪一］秋学期 143
【A2605,A2606,A2607,A2608,A2609,A2610,A2611,A2612,A2613,A2614】ゼミナール入門［加藤　昌嘉］秋学期 144
【A2433】日本言語史Ａ［阿部 美菜子］春学期 145
【A2434】日本言語史Ａ［間宮　厚司］春学期 145
【A2435】日本言語史Ｂ［阿部 美菜子］秋学期 146
【A2436】日本言語史Ｂ［間宮　厚司］秋学期 146
【A2437】日本文法論Ａ［尾谷　昌則］春学期 147
【A2439】日本文法論Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 148
【A2441】日本文章史Ａ［中沢　けい］春学期 149
【A2442】日本文章史Ａ［藤谷　治］春学期 150
【A2443】日本文章史Ｂ［中沢　けい］秋学期 150
【A2444】日本文章史Ｂ［藤谷　治］秋学期 151
【A2445】文章表現論Ａ［田中　和生］春学期 152
【A2447】文章表現論Ｂ［田中　和生］秋学期 153
【A2553】日本文芸批評史Ａ［川鍋　義一］春学期 154
【A2555】日本文芸批評史Ｂ［川鍋　義一］秋学期 155
【A2558】日本言語学特殊研究Ａ［間宮　厚司］春学期 156
【A2560】日本言語学特殊研究Ｂ［間宮　厚司］秋学期 156
【A2561】中国文芸史Ａ［遠藤　星希］春学期 157
【A2563】中国文芸史Ｂ［遠藤　星希］秋学期 158
【A2566】書誌学［山口　恭子］春学期 159
【A2568】メディアと社会［中沢　けい］秋学期 160
【A2569】音楽芸能史特殊研究Ａ［野川　美穂子］春学期 161
【A2571】音楽芸能史特殊研究Ｂ［野川　美穂子］秋学期 162
【A2709】編集理論Ａ［福江　泰太］春学期 163
【A2710】編集理論Ｂ［福江　泰太］秋学期 164
【A2574】編集実務Ａ［谷村　順一］春学期 165
【A2576】編集実務Ｂ［谷村　順一］秋学期 166
【A2584】表現と著作権Ａ［内藤　裕之］春学期 167
【A2586】表現と著作権Ｂ［内藤　裕之］秋学期 168
【A2604】古文・漢文の基礎［萩野　了子］秋学期 169
【A2711】書道(書写を中心とする)［橋本　匡朗］年間 170
【A2712】書道(書写を中心とする)［橋本　匡朗］年間 171
【A2577】美術史（西洋）Ａ［安藤　智子］春学期 172
【A2578】美術史（西洋）Ｂ［安藤　智子］秋学期 173
【A2715】情報リテラシー実習Ａ［谷村　順一］春学期 174
【A2716】情報リテラシー実習Ｂ［谷村　順一］秋学期 175
【A2717】情報メディア演習Ａ［武田　俊、新見　直］春学期 176
【A2718】情報メディア演習Ｂ［武田　俊、新見　直］秋学期 177
【A2901】英語史Ａ［大沢　ふよう］春学期 178
【A2902】英語史Ｂ［関田　誠］秋学期 179
【A2903】英文学史Ａ［丹治　愛］春学期 179
【A2904】英文学史Ｂ［丹治　愛］秋学期 180
【A2905】米文学史Ａ［宮川　雅］春学期 181
【A2906】米文学史Ｂ［宮川　雅］秋学期 182
【A2804】英語学概論Ａ［椎名　美智］春学期 183
【A2805】英語学概論Ｂ［大沢　ふよう］秋学期 184
【A2806】言語学概論Ａ［石川　潔］春学期 185
【A2807】言語学概論Ｂ［石井　創］秋学期 186
【A2808】英語・言語学講義Ａ［椎名　美智］秋学期 187
【A2809】英語・言語学講義Ｂ［石川　潔］秋学期 188
【A2810】社会言語学［塩田　雄大］春学期 189
【A2811】応用言語学［福田　純也］春学期 190
【A2907】英米文学講義ＩＡ［宮川　雅］春学期 191
【A2908】英米文学講義ＩＢ［宮川　雅］秋学期 192

【A2909】英米文学講義ⅡA［丹治　愛］春学期 192
【A2910】英米文学講義ⅡB［丹治　愛］秋学期 193
【A2911】英語学講義A［大沢　ふよう］春学期 194
【A2912】英語学講義B［大沢　ふよう］秋学期 195
【A2913】言語学講義ⅠA［石川　潔］春学期 196
【A2914】言語学講義ⅠB［石川　潔］秋学期 197
【A2915】言語学講義ⅡA［伊藤　達也］春学期 197
【A2916】言語学講義ⅡB［伊藤　達也］秋学期 198
【A2917】英語音声学A［矢澤　翔］春学期 198
【A2918】英語音声学B［矢澤　翔］秋学期 199
【A2969】文学研究方法論A［小島　尚人］春学期 199
【A2970】文学研究方法論B［小島　尚人］秋学期 200
【A2981】比較文化論（1）［小島　尚人］秋学期 201
【A2988】Comparative Culture(2)［小島　尚人］春学期 202
【A2989】Comparative Culture(3)［小島　尚人］秋学期 203
【A2982】英米文化概論 A［田中　裕希］春学期 204
【A2983】英米文化概論 B［田中　裕希］秋学期 205
【A2824】比較文学A［松枝　佳奈］春学期 205
【A2825】比較文学B［松枝　佳奈］秋学期 206
【A2826】英語表現演習 (Writing)(1) A［畑　和樹］春学期 207
【A2827】英語表現演習 (Writing)(1) B［畑　和樹］秋学期 208
【A2828】英語表現演習 (Writing)(2) A［安藤　和弘］春学期 209
【A2829】英語表現演習 (Writing)(2) B［安藤　和弘］秋学期 210
【A2830】英語表現演習 (Writing)(3) A［ティモシー・ライト］春学期 211
【A2831】英語表現演習 (Writing)(3) B［ティモシー・ライト］秋学期 212
【A2834】英語表現演習 (Writing)(5) A［杉　亜希子］春学期 213
【A2835】英語表現演習 (Writing)(5) B［杉　亜希子］秋学期 214
【A2836】英語表現演習 (Writing)(6)A［若澤　佑典］春学期 215
【A2837】英語表現演習 (Writing)(6) B［若澤　佑典］秋学期 216
【A2838】英語表現演習 (Writing)(7) A［ティモシー・ライト］春学期 217
【A2839】英語表現演習 (Writing)(7) B［ティモシー・ライト］秋学期 218
【A2840】英語表現演習 (Writing)(8) A［田尻　歩］春学期 219
【A2997】英語表現演習 (Writing)(8) A［田中　裕希］春学期 220
【A2841】英語表現演習 (Writing)(8) B［田尻　歩］秋学期 221
【A2998】英語表現演習 (Writing)(8) B［田中　裕希］秋学期 222
【A2846】英語表現演習 (Speaking)(1) A［杉　亜希子］春学期 222
【A2847】英語表現演習 (Speaking)(1) B［杉　亜希子］秋学期 223
【A2848】英語表現演習 (Speaking)(2) A［田尻　歩］春学期 224
【A2849】英語表現演習 (Speaking)(2) B［田尻　歩］秋学期 225
【A2850】英語表現演習 (Speaking)(3) A［ニアル・ムルター］春学期 226
【A2851】英語表現演習 (Speaking)(3) B［ニアル・ムルター］秋学期 227
【A2854】英語表現演習 (Speaking)(5) A［ニアル・ムルター］春学期 227
【A2855】英語表現演習 (Speaking)(5) B［ニアル・ムルター］秋学期 228
【A2856】英語表現演習 (Speaking)(6) A［ティモシー・ライト］春学期 228
【A2857】英語表現演習 (Speaking)(6) B［ティモシー・ライト］秋学期 229
【A2858】英語表現演習 (Speaking)(7) A［若澤　佑典］春学期 230
【A2859】英語表現演習 (Speaking)(7) B［若澤　佑典］秋学期 231
【A2860】英語表現演習 (Speaking)(8) A［田尻　歩］春学期 232
【A2999】英語表現演習 (Speaking)(8) A［畑　和樹］春学期 233
【A2861】英語表現演習 (Speaking)(8) B［田尻　歩］秋学期 234
【A3000】英語表現演習 (Speaking)(8) B［畑　和樹］秋学期 235
【A2844】英語表現演習 (翻訳) (1) A［吉川　純子］春学期 236
【A2845】英語表現演習 (翻訳) (1) B［吉川　純子］秋学期 237
【A2866】英語表現演習 (翻訳) (2) A［安藤　和弘］春学期 238
【A2867】英語表現演習 (翻訳) (2) B［安藤　和弘］秋学期 239
【A2993,A2994】英語表現演習 (総合)［ブライアン・ウィスナー］春学期 240
【A2995,A2996】英語表現演習 (総合)［ブライアン・ウィスナー］秋学期 241

【A2984】Academic Writing A［若澤　佑典］春学期 242
【A2985】Academic Writing B［若澤　佑典］秋学期 243
【A2991】Public Speaking［椎名　美智］春学期 244
【A2889】海外英語演習［ブライアン・ウィスナー］夏期集中 245
【A2971】２年次演習（１）［田中　裕希］春学期 246
【A2972】２年次演習（２）［丹治　愛］春学期 246
【A2973】２年次演習（３）［小島　尚人］春学期 247
【A2974】２年次演習（４）［ブライアン・ウィスナー］春学期 248
【A2975】２年次演習（５）［椎名　美智］春学期 249
【A2976】２年次演習（６）［石川　潔］春学期 250
【A2986】Seminar in Cross-cultural Studies A［田中　裕希］春学期 251
【A2987】Seminar in Cross-cultural Studies B［田中　裕希］秋学期 251
【A2961】英語教育学演習Ａ［ブライアン・ウィスナー］春学期 252
【A2962】英語教育学演習Ｂ［ブライアン・ウィスナー］秋学期 253
【A2965】英米文学特殊講義Ⅰ［若澤　佑典］春学期 254
【A2966】英米文学特殊講義Ⅱ［小島　尚人］秋学期 255
【A3001】言語習得論演習 A［中田　達也］春学期 256
【A3002】言語習得論演習 B［中田　達也］秋学期 256
【A2935】英語学演習 (1) Ａ［大沢　ふよう］春学期 257
【A2936】英語学演習 (1) Ｂ［大沢　ふよう］秋学期 258
【A2937】英語学演習 (2) Ａ［椎名　美智］春学期 259
【A2938】英語学演習 (2) Ｂ［椎名　美智］秋学期 260
【A2939】言語学演習 (1) Ａ［石川　潔］春学期 261
【A2940】言語学演習 (1) Ｂ［石川　潔］秋学期 261
【A2941】言語学演習 (2) Ａ［矢澤　翔］春学期 262
【A2942】言語学演習 (2) Ｂ［矢澤　翔］秋学期 262
【A2943】英米文学演習 (1) Ａ［宮川　雅］春学期 263
【A2944】英米文学演習 (1) Ｂ［宮川　雅］秋学期 264
【A2951】英米文学演習 (5) Ａ［小島　尚人］春学期 265
【A2952】英米文学演習 (5) Ｂ［小島　尚人］秋学期 266
【A2953】英米文学演習 (6) Ａ［丹治　愛］春学期 267
【A2954】英米文学演習 (6) Ｂ［丹治　愛］秋学期 268
【A2957】英米文学演習 (8) Ａ［山崎　暁子］春学期 269
【A2958】英米文学演習 (8) Ｂ［山崎　暁子］秋学期 270
【A2959】英米文学演習 (9) Ａ［利根川　真紀］春学期 271
【A2960】英米文学演習 (9) Ｂ［利根川　真紀］秋学期 272
【A2977】英語の文法力Ⅰ［椎名　美智］春学期 273
【A2978】英語の文法力Ⅱ［椎名　美智］秋学期 274
【A2979】メディア・リテラシーⅠ［田中　邦佳］秋学期 275
【A2980】メディア・リテラシーⅡ［吉川　純子］秋学期 276
【A3101】日本史概説Ⅰ［小倉　淳一］春学期 277
【A3102】日本史概説Ⅱ［大塚　紀弘］秋学期 278
【A3103】日本史概説Ⅲ［松本　剣志郎］春学期 279
【A3104】日本史概説Ⅳ［長井　純市］秋学期 280
【A3105】東洋史概説Ⅰ［塩沢　裕仁］春学期 281
【A3106】東洋史概説Ⅱ［塩沢　裕仁］秋学期 282
【A3107】東洋史概説Ⅲ［宇都宮　美生］春学期 283
【A3108】東洋史概説Ⅳ［宇都宮　美生］秋学期 284
【A3109】西洋史概説Ⅰ［後藤　篤子］春学期 285
【A3110】西洋史概説Ⅱ［後藤　篤子］秋学期 286
【A3111】西洋史概説Ⅲ［高澤　紀恵］春学期 287
【A3112】西洋史概説Ⅳ［高澤　紀恵］秋学期 288
【A3152】考古学概論［小倉　淳一］春学期 288
【A3153】史学概論［秋山　千恵］春学期 289
【A3119】日本考古資料学Ⅰ［阿部　朝衛］春学期 290
【A3120】日本考古資料学Ⅱ［阿部　朝衛］秋学期 291
【A3121】日本古代史料学Ⅰ［春名　宏昭］秋学期 292

【A3205】日本古代史料学Ⅱｂ［新井　重行］春学期 293
【A3206】日本古文書学Ⅰ［大塚　紀弘］春学期 293
【A3207】日本古文書学Ⅱ［大塚　紀弘］秋学期 294
【A3124】日本近世史料学Ⅰ［松本　剣志郎］春学期 295
【A3125】日本近世史料学Ⅱ［松本　剣志郎］秋学期 296
【A3126】日本近代史料学［長井　純市］秋学期 297
【A3127】日本現代史料学［劉　傑］秋学期 298
【A3139】東洋史外書講読Ⅰ［塩沢　裕仁］秋学期 299
【A3140】東洋史外書講読Ⅱ［宇佐美　久美子］秋学期 300
【A3147】西洋史外書講読Ⅰ［後藤　篤子］秋学期 301
【A3148】西洋史外書講読Ⅱ［古川　高子］春学期 302
【A3128】日本考古学演習［小倉　淳一］年間 303
【A3129】日本古代史演習［春名　宏昭］年間 304
【A3130】日本中世史演習［大塚　紀弘］年間 305
【A3131】日本近世史演習［松本　剣志郎］年間 306
【A3203】日本近代史演習［長井　純市］年間 307
【A3134】日本現代史演習［差波　亜紀子］年間 309
【A3210】東洋史物質資料演習［塩沢　裕仁］年間 310
【A3211】東洋史文献史料演習［齋藤　勝］年間 311
【A3150】西洋前近代史演習［後藤　篤子］年間 312
【A3149】西洋現代史演習［大澤　広晃］年間 313
【A3151】西洋近代史演習［高澤　紀恵］年間 314
【A3113】日本考古学［小倉　淳一］秋学期 315
【A3114】日本古代史［春名　宏昭］春学期 315
【A3115】日本中世史［及川　亘］秋学期 316
【A3116】日本近世史［松本　剣志郎］秋学期 317
【A3117】日本近代史［長井　純市］春学期 318
【A3118】日本現代史［劉　傑］春学期 319
【A3154】日本史特講Ⅰ［中山　学］春学期 320
【A3155】日本史特講Ⅱ［大塚　紀弘］春学期 321
【A3156】日本史特講Ⅲ［稲田　奈津子］秋学期 322
【A3157】日本史特講Ⅳ［中山　学］秋学期 323
【A3158】日本史特講Ⅴ［友田　昌宏］秋学期 323
【A3159】日本史特講Ⅵ［米崎　清実］春学期 325
【A3160】日本史特講Ⅶ［山田　康弘］春学期 326
【A3201】日本史特講Ⅸ［長井　純市］春学期 327
【A3202】日本史特講Ⅹ［森田　貴子］秋学期 328
【A3135】東洋古代史［飯尾　秀幸］春学期 328
【A3136】東洋中世史［山﨑　美保］春学期 329
【A3208】東洋近現代史［芦沢　知絵］春学期 330
【A3209】東洋考古・美術史［塩沢　裕仁］春学期 331
【A3162】東洋史特講Ⅰ［飯尾　秀幸］秋学期 332
【A3163】東洋史特講Ⅱ［山﨑　美保］秋学期 333
【A3164】東洋史特講Ⅲ［芦沢　知絵］秋学期 334
【A3165】東洋史特講Ⅳ［塩沢　裕仁］秋学期 335
【A3166】東洋史特講Ⅴ［宇佐美　久美子］春学期 336
【A3217】東洋史特講Ⅶ［久野　美樹］春学期 337
【A3218】東洋史特講Ⅷ［小澤　一郎］春学期 337
【A3143】西洋古代史［後藤　篤子］春学期 338
【A3144】西洋中世史［小沼　明生］春学期 339
【A3145】西洋近代史［中嶋　毅］春学期 340
【A3146】西洋現代史［古川　高子］秋学期 341
【A3168】西洋史特講Ⅰ［後藤　篤子］秋学期 342
【A3169】西洋史特講Ⅱ［小沼　明生］秋学期 343
【A3170】西洋史特講Ⅲ［篠原　琢］秋学期 344
【A3171】西洋史特講Ⅳ［高澤　紀恵］春学期 345
【A3172】西洋史特講Ⅴ［高澤　紀恵］秋学期 346

【A3173】西洋史特講Ⅵ［高田　馨里］春学期 346
【A3174】西洋史特講Ⅶ［高田　馨里］秋学期 347
【A3219】西洋史特講Ⅸ［大和久　悌一郎］秋学期 348
【A3212】日本史序説Ⅰ［川上　真理］春学期 349
【A3213】日本史序説Ⅱ［齋藤　智志］秋学期 350
【A3214】東洋史序説［塩沢　裕仁］春学期 351
【A3215】西洋史序説［志内　一興］春学期 352
【A3176】美術史（日本）A［稲本　万里子］春学期 353
【A3177】美術史（日本）B［稲本　万里子］秋学期 354
【A3401】地理学概論（1）［小寺　浩二］春学期 355
【A3402】地理学概論（2）［中俣　均］秋学期 356
【A3403】地理実習（1）［小原　丈明］秋学期 357
【A3404】地理実習（1）［小原　丈明］春学期 358
【A3405】地理実習（2）［羽佐田　紘大］春学期 359
【A3406】地理実習（2）［羽佐田　紘大］秋学期 360
【A3407】現地研究［片岡　義晴］年間 361
【A3408】地誌学概論（1）［小寺　浩二］春学期 362
【A3409】地誌学概論（2）［小原　丈明］春学期 363
【A3410】日本地誌（1）［中俣　均］春学期 364
【A3411】日本地誌（2）［中山　大地］春学期 365
【A3412】地球科学概論Ⅰ［宍倉　正展］春学期 366
【A3413】地球科学概論Ⅱ［宍倉　正展］秋学期 367
【A3509】地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）［小寺　浩二］春学期 368
【A3510】地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）［小寺　浩二］秋学期 369
【A3511】地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）［加藤　美雄］春学期 370
【A3512】地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）［加藤　美雄］秋学期 371
【A3416】地質・岩石学及び実験［外田　智千］春学期 372
【A3417】自然環境論［羽佐田　紘大］春学期 373
【A3418】地形学及び実験Ⅰ［前杢　英明］春学期 374
【A3419】地形学及び実験Ⅱ［前杢　英明］秋学期 375
【A3420】生物・土壌地理学及び実験Ⅰ［小川　滋之］春学期 376
【A3421】生物・土壌地理学及び実験Ⅱ［小川　滋之］秋学期 377
【A3422】気候・気象学及び実験Ⅰ［山口　隆子］春学期 378
【A3423】気候・気象学及び実験Ⅱ［山口　隆子］秋学期 379
【A3424】海洋・陸水学及び実験Ⅰ［小寺　浩二］春学期 379
【A3425】海洋・陸水学及び実験Ⅱ［小寺　浩二］秋学期 380
【A3426】社会経済地理学（1）［小原　丈明］秋学期 381
【A3427】社会経済地理学（2）［中川　秀一］秋学期 382
【A3428】社会経済地理学（3）［片岡　義晴］秋学期 383
【A3481】社会経済地理学（4）（エコツーリズム）［呉羽　正昭］秋学期 384
【A3482】文化地理学（1）［中俣　均］春学期 385
【A3483】文化地理学（2）［中俣　均］秋学期 386
【A3513】地理学史［中俣　均］秋学期 386
【A3434】自然地理学演習（1）［山口　隆子］年間 387
【A3435】自然地理学演習（2）［小寺　浩二］年間 388
【A3436】自然地理学演習（3）［前杢　英明］年間 389
【A3437】人文地理学演習（1）［片岡　義晴］年間 390
【A3438】人文地理学演習（2）［中俣　均］年間 391
【A3439】人文地理学演習（3）［小原　丈明］年間 392
【A3440】人文地理学演習（4）［中川　秀一］年間 393
【A3441】人文地理学演習（5）［米家　志乃布］年間 394
【A3443】世界地誌（1）［狩野　真規］春学期 395
【A3444】世界地誌（2）［小原　丈明］秋学期 396
【A3447】世界地誌（5）［吉村　郊子］春学期 397
【A3448】世界地誌（6）［加賀美　雅弘］オータムセッション/Autumn Session 398
【A3449】地理学読図演習（1）［山口　隆子］春学期 399
【A3450】地理学読図演習（2）［山口　隆子］秋学期 400

【A3500】自然地理学特講（1）［羽佐田　紘大］秋学期 401
【A3453】自然地理学特講（3）［山口　隆子］春学期 402
【A3488】自然地理学特講（4）(生態学)［近藤　博史］春学期 402
【A3455】人文地理学特講（1）［小田　宏信］春学期 403
【A3456】人文地理学特講（2）［片岡　義晴］春学期 404
【A3457】人文地理学特講（3）［小原　丈明］春学期 405
【A3538】人文地理学特講（4）［中川　秀一］春学期 406
【A3459】地図学Ⅰ［若林　芳樹］春学期 407
【A3460】地図学Ⅱ［鈴木　厚志］秋学期 408
【A3461】測量学及び測量実習Ⅰ［川本　利一］秋学期 409
【A3462】測量学及び測量実習Ⅱ［川本　利一］秋学期 410
【A3463】写真判読Ⅰ［宮内　崇裕］春学期 411
【A3464】写真判読Ⅱ［郭　栄珠］秋学期 412
【A3466】数理地理学（2）［永保　敏伸］春学期 413
【A3469】外書講読（1）［前杢　英明］秋学期 414
【A3470】外書講読（2）［中俣　均］秋学期 415
【A3471】地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅰ［中山　大地］春学期 416
【A3472】地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅱ［中山　大地］秋学期 417
【A3514】物理学概論Ⅰ［石川　壮一］春学期 418
【A3515】物理学概論Ⅱ［石川　壮一］秋学期 418
【A3516】化学概論Ⅰ［中島　弘一］春学期 419
【A3517】化学概論Ⅱ［中島　弘一］秋学期 420
【A3518】生物学概論Ⅰ［植木　紀子］春学期 420
【A3519】生物学概論Ⅱ［植木　紀子］秋学期 421
【A3520】物理学実験Ⅰ(コンピュータ活用含)［吉田　智］春学期 422
【A3521】物理学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)［吉田　智］秋学期 423
【A3522】化学実験Ⅰ(コンピュータ活用含)［向井　知大］春学期 423
【A3523】化学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)［向井　知大］秋学期 424
【A3524】生物学実験Ⅰ(コンピュータ活用含)［島野　智之］春学期 424
【A3525】生物学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)［島野　智之］秋学期 425
【A3601】心理学概論［福田　由紀］春学期 426
【A3602】心理学史［高砂　美樹］秋学期 427
【A3619】脳の科学［高橋　敏治］秋学期 428
【A3620】認知心理学［吉村　浩一］秋学期 429
【A3622】発達心理学［渡辺　弥生］春学期 430
【A3667】言語心理学［福田　由紀］春学期 431
【A3624】学習心理学［藤田　哲也］春学期 432
【A3670】行動分析学［島宗　理］春学期 433
【A3625】社会心理学［越智　啓太］春学期 434
【A3621】認知科学入門［田嶋　圭一］春学期 435
【A3701】心理統計法Ⅰ［三浦　大志］春学期 436
【A3702】心理統計法Ⅱ［三浦　大志］秋学期 437
【A3703】心理統計法実習Ⅰ［伊藤　尚枝］春学期 438
【A3704】心理統計法実習Ⅰ［伊藤　尚枝］春学期 439
【A3705】心理統計法実習Ⅱ［伊藤　尚枝］秋学期 440
【A3706】心理統計法実習Ⅱ［伊藤　尚枝］秋学期 441
【A3707】心理学基礎実験Ⅰ［島宗　理］春学期 442
【A3708】心理学基礎実験Ⅰ［島宗　理］春学期 444
【A3709】心理学基礎実験Ⅱ［矢口　幸康］秋学期 445
【A3710】心理学基礎実験Ⅱ［矢口　幸康］秋学期 446
【A3611】心理学測定法Ⅰ［藤田　哲也］春学期 446
【A3612】心理学測定法Ⅰ［藤田　哲也］春学期 447
【A3613】心理学測定法Ⅱ［芳賀　道匡］秋学期 448
【A3614】心理学測定法Ⅱ［芳賀　道匡］秋学期 449
【A3615】心理検査法Ⅰ［石川　菜津美］春学期 450
【A3616】心理検査法Ⅰ［石川　菜津美］春学期 451
【A3617】心理検査法Ⅱ［石川　菜津美］秋学期 452

【A3618】心理検査法Ⅱ［石川　菜津美］秋学期 453
【A3627】演習Ⅰ（1）［高橋　敏治］春学期 454
【A3628】演習Ⅰ（2）［渡辺　弥生］春学期 455
【A3629】演習Ⅰ（3）［三浦　大志］春学期 456
【A3630】演習Ⅰ（4）［下山　晃司］春学期 457
【A3631】演習Ⅰ（5）［矢口　幸康］春学期 458
【A3711】演習Ⅱ（1）［福田　由紀］秋学期 459
【A3712】演習Ⅱ（2）［藤巻　峻］秋学期 460
【A3713】演習Ⅱ（3）［吉村　浩一］秋学期 461
【A3714】演習Ⅱ（4）［藤田　哲也］秋学期 462
【A3715】演習Ⅱ（5）［田嶋　圭一］秋学期 463
【A3643】研究法Ⅰ（1）［高橋　敏治］春学期 464
【A3644】研究法Ⅰ（2）［吉村　浩一］春学期 465
【A3645】研究法Ⅰ（3）［渡辺　弥生］春学期 466
【A3646】研究法Ⅰ（4）［福田　由紀］春学期 467
【A3647】研究法Ⅰ（5）［田嶋　圭一］春学期 468
【A3648】研究法Ⅰ（6）［藤田　哲也］春学期 469
【A3649】研究法Ⅰ（7）［島宗　理］春学期 470
【A3650】研究法Ⅰ（8）［越智　啓太］春学期 471
【A3651】研究法Ⅱ（1）［高橋　敏治］秋学期 472
【A3652】研究法Ⅱ（2）［吉村　浩一］秋学期 473
【A3653】研究法Ⅱ（3）［渡辺　弥生］秋学期 474
【A3654】研究法Ⅱ（4）［福田　由紀］秋学期 475
【A3655】研究法Ⅱ（5）［田嶋　圭一］秋学期 476
【A3656】研究法Ⅱ（6）［藤田　哲也］秋学期 477
【A3657】研究法Ⅱ（7）［島宗　理］秋学期 478
【A3658】研究法Ⅱ（8）［越智　啓太］秋学期 480
【A3717】研究法Ⅰ（10）［林　容市］春学期 481
【A3719】研究法Ⅱ（10）［林　容市］秋学期 482
【A3665】生理心理学［松田　いづみ］春学期 483
【A3666】生理心理学実習［松田　いづみ］秋学期 484
【A3668】感情心理学［足立　にれか］秋学期 485
【A3671】対人認知論［足立　にれか］春学期 486
【A3721】産業組織心理学［島宗　理］秋学期 487
【A3674】人工知能［市瀬　龍太郎］春学期 488
【A3659】精神生理学特講［高橋　敏治］春学期 489
【A3660】言語学特講Ⅰ［田嶋　圭一］春学期 490
【A3661】言語学特講Ⅱ［田嶋　圭一］秋学期 491
【A3662】認知科学特講［田嶋　圭一］秋学期 492
【A3663】認知心理学特講［吉村　浩一］春学期 493
【A3723】言語心理学特講［福田　由紀］秋学期 494
【A3669】行動分析学特講［島宗　理］秋学期 495
【A3682】学習心理学特講［藤田　哲也］秋学期 496
【A3675】情報処理技法Ⅰ［山口　剛］春学期 497
【A3676】情報処理技法Ⅰ［山口　剛］春学期 498
【A3677】情報処理技法Ⅱ［山口　剛］秋学期 499
【A3678】情報処理技法Ⅱ［山口　剛］秋学期 500
【A3720】心理学英語Ⅰ［常深　浩平］春学期 501
【A3623】教育心理学［福田　由紀］秋学期 501
【A3626】学校心理学［原田　恵理子］秋学期 502
【A3683】発達臨床心理学Ⅰ［桜井　美加］春学期 503
【A3684】発達臨床心理学Ⅱ［桜井　美加］秋学期 504
【A3685】精神保健学Ⅰ［高橋　敏治］春学期 505
【A3686】精神保健学Ⅱ［高橋　敏治］秋学期 506
【A3724】人格心理学［杉山　崇］春学期 507
【A3725】集団社会心理学［越智　啓太］秋学期 508
【A3690】臨床心理学［杉山　崇］秋学期 509

【A3691】犯罪心理学［越智　啓太］春学期 510
【A3726】カウンセリング心理学［下山　晃司］秋学期 511
【A3680】発達心理学特講［渡辺　弥生］秋学期 512
【A3664】スポーツ心理学特講［日比　千里］秋学期 513
【A3730】心理学英語Ⅱ［常深　浩平］秋学期 514
【A3722】心理学特殊講義Ⅰ［島宗　理］秋学期 515
【A3738】身体運動の心理と生理［林　容市］春学期 516
【A2724】国語科教育法（1）［須貝　千里］春学期 517
【A2725】国語科教育法（2）［須貝　千里］秋学期 518
【A2727】国語科教育法（3）［福田　淑子］春学期 519
【A2728】国語科教育法（4）［福田　淑子］秋学期 520
【A3527】理科教育法（1）［狩野　真規］春学期 521
【A3528】理科教育法（2）［狩野　真規］秋学期 522
【A3530】理科教育法（3）［狩野　真規］春学期 523
【A3531】理科教育法（4）［狩野　真規］秋学期 524

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家　志乃布

授業コード：A3819　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1．日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2．日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3．日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明，成績評価の方法など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に，日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産，特に，平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産，特に，古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史，平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造，歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン，城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展，現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺，豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備，徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義，大阪のまちづくり
第 14 回	歴史観光都市・観光地の取り組み①	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。各自で積極的に旅行して、地域と観光の在り方を経験してください。テレビの旅行番組を見たり、旅行記なども読んで、様々な国や地域の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、授業内でプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験 100%で評価します。授業内で配布したプリントは持ち込み不可ですが、あらかじめ、試験のテーマは予告します。欠席者には、最終授業日に今までの余ったプリントがあれば、まとめて配布します。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【Outline and objectives】
This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家　志乃布

授業コード：A3820　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理
　本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19 世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17 世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける 17 世紀～20 世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して，受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。2．北方領土問題について学びます。3．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。
授業内で北方領土問題やアイヌ民族に関するビデオ観賞をしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明，成績評価の方法
第 2 回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第 3 回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第 4 回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第 5 回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第 6 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第 7 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第 8 回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第 9 回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について，歴史地理学的方法で考える
第 10 回	北方領土問題①	NHK スペシャルのビデオ鑑賞を通して，北方領土問題を考える
第 11 回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係，北方領土問題の歴史を考える
第 12 回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 13 回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 14 回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ，日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世日本と蝦夷地-古地図からみる北海道』2021 年予定、法政大学出版局から出版予定　のなかから適宜、必要な個所を配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【Outline and objectives】
This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

CUA200BA

民俗学Ⅰ

室井　康成

授業コード：A3809　｜　曜日・時限：**木曜１限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 － 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。
【オンライン授業に関する特例措置】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」でその都度提示するので、適宜ご確認ください。本授業の開始日は 4 月 23 日（木）1 限とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（森話社）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。
【オンライン授業時の注意事項】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する場合があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示しますので、ご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の実施にともない、受信機器の準備が必要な場合があります。詳しくは「学習支援システム」の本科目サイトで通知します。

【その他の重要事項】
【オンライン授業について】
授業開始予定日は 4 月 23 日（木）1 限です。その前日までに、「学習支援システム」の本科目サイトにおいて、詳しい進め方をお知らせします。また、本科目に関わる情報は、講師の Twitter（@ MuroiKosei）でも発信しますので、「学習支援システム」での情報とあわせて、ご確認ください。

【Outline and objectives】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

CUA200BA

民俗学Ⅱ

室井　康成

授業コード：A3810　｜　曜日・時限：**木曜１限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本人」「日本文化」のイメージが、どのように形成されたのかを、民俗学の立場から考えていく。具体的には、「事大主義」という言葉の意味の変遷を手掛かりに、通常、私たちが抱くであろう「日本」や「東アジア」のイメージが、どのような時代背景のもとに構築されてきたのか、歴史的に確かめていく。

【到達目標】
近代以降の日本と東アジアをめぐる国際情勢を押さえながら、当時の人々が、「日本人」という自画像を、当時身近な他者であった沖縄や朝鮮を「鏡」として形成させてきた軌跡を追う。最終的には、そうした国家的な自画像・他者像を相対化し、今一度「日本文化」を内省することを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	「事大主義」という見方	テキスト講読。
第 3 回	福沢諭吉「造語説」の真偽	テキスト講読。
第 4 回	朝鮮に対する全体表象へ	テキスト講読。
第 5 回	韓国併合と反転する「事大主義」観	テキスト講読。
第 6 回	日本＝「島国」の国民性	テキスト講読。
第 7 回	大正デモクラシーと事大主義批判	テキスト講読。
第 8 回	沖縄「事大主義」言説を追う	テキスト講読。
第 9 回	敗戦前後の「事大主義」観	テキスト講読。
第 10 回	「良き選挙民」を育てるために	テキスト講読。
第 11 回	朝鮮半島への「輸出」	テキスト講読。
第 12 回	南北朝鮮いずれが「事大主義」か	テキスト講読。
第 13 回	「鏡」としての近現代東アジア	テキスト講読。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義ではテキストの講読を行なう。そのため予習・復習は、各回で取り上げる教科書の該当箇所を通読しておくこと。また教科書の巻末には多数の参考文献が列記されており、その中の重要文献は講義中に指示するので、図書館等で調べること（テキスト通読で 2 時間、必要文献の調査で 2 時間の合計 4 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（中公新書）

【参考書】
教科書の巻末に記された文献一覧を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will take a look at the image of "Japanese" and "Japanese culture" in modern times, using as an example the transition of the meaning of the word "JIDAISHUGI = toadyism".

HIS200BA

イスラム世界論Ⅰ

小澤　一郎

授業コード：A3811　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。また、関連する時事問題についても解説を付していく。

【到達目標】
この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。
今年度の授業は、当面の間オンデマンドでの教材配信による遠隔授業とし、既定の日時までに①毎回の授業教材を視聴したうえで、②オンラインでリアクションペーパーを提出する、という手順で行う。質問がある場合もリアクションペーパーに記入してもらい、次回の授業の際に取りまとめてフィードバックする。また、授業の出欠もリアクションペーパーの提出をもって代えるので、忘れずに提出すること。
なお、教材を配信する本格的な授業開始は 5 月 1 日（金）からとするが、4 月 26 日（日）に授業実施方法に関する詳細を学習支援システムにアップロードするので、よく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	『クルアーン』とアラビア語
第 3 回	イスラームの教義	六信五行など
第 4 回	イスラームの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラームに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラームの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大
第 6 回	イスラーム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラーム共同体の変質
第 7 回	イスラーム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラーム神秘主義と聖者	イスラームの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	イスラームとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 10 回	20 世紀のイスラーム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 11 回	20 世紀のイスラーム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 12 回	総括	授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008

佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（60%）と毎回の授業教材視聴後に提出するコメントシート（40 %）で評価する。レポートではイスラーム世界に関する諸問題について、講義で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
イスラーム世界の歴史だけではなく、社会や文化についても詳しく紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
配信する教材は最初の数回についてはパワーポイントのスライドショーとし、大容量の動画教材などは使用しない予定である（受講者の通信環境やデバイスの保有状況によっては変更の可能性あり）。そのため、PC やタブレットがあれば受講可能である。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is three-fold: 1) to provide students with knowledge about the basics of Islam, such as the prophet Muhammad and Qur'an, the concept of God (Allah) in Islam, religious acts and law, etc.; 2) to learn the concise history of Islam, including Islam's rise and expansion, Islam in the pre-modern era and its relation with Europe, and Islam in the face of modern era; and 3) to understand Islam in the contemporary world, focusing on such topics as the rise of Islamism, the activities of the "extremists," etc. Through this lecture, students will grasp various aspects of Islam, setting aside bias surrounding it.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

小澤　一郎

授業コード：A3812　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論 I」では、イスラーム世界の多様な在り方について解説するが、この授業では、イスラーム世界の中でも特にイランを中心とする地域に焦点を当てる。1979 年のイラン・イスラーム革命以降、イスラーム的価値観に基づく国家づくりを掲げ、国際的に孤立してきたイランであるが、その歴史や文化の実態についてはあまり知られていない。前近代において、イスラーム文化は非アラブ圏においても、イラン地域を中心に独自の発展を遂げた。その影響は中央アジア、インド、トルコなど広範囲に及び、イスラームという宗教やその文化を考える上で看過できない重要な位置をしめる。この授業では、イスラーム以前の在来文化と融合しながら発展してきたイラン地域固有のイスラームの在り方を提示し、アラブ世界に代表される一般的なイスラーム認識を相対化することを目指す。その上で、現代のイランに関する諸問題を考えるための基礎的な知識を提供したい。

【到達目標】
この授業は、イランを中心とする地域の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、イランをはじめとする現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム諸国の中から、一般的なイスラーム像ではくくることのできない、イランの歴史を扱う。授業の前半部では、現代のイラン・イスラーム共和国の社会と文化に関する基礎的知識について、後半部では、イランにおけるイスラームの受容から現代に至るまでの歴史について、政治史だけではなく、文化史にも焦点を当てながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イランという国やイラン人を体感できる場としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	イランに対するイメージ
第 2 回	イランとイラン人	イランにおける多様な民族と言語
第 3 回	シーア派とは何か？	イランの国教イスラーム教シーア派
第 4 回	イランの暦と祝祭	イランに特有の暦と祝祭
第 5 回	ペルシア語とペルシア語文化圏	イランの国語ペルシア語
第 6 回	イラン高原のイスラーム化	イラン高原におけるイスラームの受容
第 7 回	イラン高原におけるトルコ人	トルコ系ムスリム諸王朝の支配
第 8 回	モンゴル帝国とイラン	モンゴル系イルハーン朝の支配
第 9 回	サファヴィー朝とイラン	シーア派の国教化
第 10 回	ガージャール朝	ガージャール朝時代のイラン社会と列強の進出
第 11 回	パフラヴィー朝	パフラヴィー朝時代のイラン社会と国際社会
第 12 回	イラン・イスラーム革命	イラン革命が国際社会に与えたインパクト
第 13 回	現代のイラン	革命後のイランと国際社会
第 14 回	総括	総括、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジア・中央アジア地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
永田雄三編『西アジア史 II（イラン・トルコ）』山川出版社、2002
坂本勉・鈴木董編『イスラーム復興はなるか』講談社現代新書、1993
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40 %）で評価する。試験は持ち込み可。イランに関する諸問題について、授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
画像や映像を多用して、イランの社会や文化についても詳しく紹介する。

【その他の重要事項】
「イスラム世界論 II」は春学期に開講される「イスラム世界論 I」の内容を踏まえて解説するので、春学期と併せて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】
This lecture deals with the culture, religion, and history of Iran, particularly focusing on the influences brought about, and the role played, by Islam. Students will understand the way how Islam and indigenous cultural and religious elements merged together to create the particular type of Islam in Iran, and relativize the ordinary image of Islam constructed based on the information from the Arab world. In addition, the biased image of Iran, with such labels as “theocracy” and “religious fanaticism,” will be revised based on adequate knowledge.

CAR200BA

文学部生のキャリア形成

西塚　俊太、松本　剣志郎、吉田　智

授業コード：A3813　｜　曜日・時限：**金曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話しいただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。
＊この授業は, 就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】
以下の 3 つが到達目標です。
① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行います。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/10)
第 2 回	ゲスト講師の講演（1）	人材紹介 (4/17)
第 3 回	ゲスト講師の講演（2）	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/24)
第 4 回	ゲスト講師の講演（3）	中学校教員 (5/8)
第 5 回	Workshop（1）	学内講師によるワークショップ (5/15)
第 6 回	ゲスト講師の講演（4）	中・高校教員 (5/22)
第 7 回	ゲスト講師の講演（5）	出版・編集業務 (5/29)
第 8 回	ゲスト講師の講演（6）	人事関係 (6/5)
第 9 回	ゲスト講師の講演（7）	ホテル業務 (6/12)
第 10 回	ゲスト講師の講演（8）	外資系サービス業 (6/19)
第 11 回	Workshop（2）	キャリアセンター職員によるワークショップ (6/26)
第 12 回	ゲスト講師の講演（9）	銀行業務（2）(7/3)
第 13 回	ゲスト講師の講演（10）	民間放送業（総合職）(7/10)
第 14 回	まとめ	総括リポート作成 (7/17)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】
適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
①毎回の小レポート（10 ～ 15 分程度でまとめるもの）の成績（80 %）
②学期末レポートの成績（20 %）

※①②は授業の評価のために必須とします。①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。その時以外の提出は認められません。また、４回以上の欠席（①小レポートの未提出）がある場合にはＥ評価とします。遅刻２回で欠席１回とカウントします。

【学生の意見等からの気づき】
「今後の人生・生活」における働き方や働くことの意義を考えるために、各ゲスト講師に「働き方」や「働くこと」に関連したいくつかのキーワードをふまえてご講演をお願いし、半期の授業全体を通して受講生が自らのライフプランを描くことが可能となるよう授業内容に配慮しました。
多様な職種の多様なゲスト講師それぞれのワーク・ライフバランスとワーク・ライフヒストリーを学生のみなさんは各自の視点から、また多様な関心の次元で受け止め、評価していることが、各回のレポートや学期末のレポートから読み取れました。そうした面でこの科目が学生のみなさんのキャリア形成、またワーク・ライフプランの形成過程に少なからず貢献できていると感じています。
そうした多様性（diversity）を今後も大事にしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】
①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
②定員は 200 名程度です。受講希望者多数の場合には、第１回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第１回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。
③担当教員が全授業に同席し、担当します。
④本学学部を卒業し、公務員、教員、銀行、出版、放送などでの勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をする。

【Outline and objectives】
This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.
This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.
Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

CAR200BA

現代のコモンセンス

中沢　けい、丹治　愛、高橋　敏治

授業コード：A3814　｜　曜日・時限：**金曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。
この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】
①自分自身を顧み、改善できるようになる。
②対人関係を顧み、改善できるようになる。
③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答を行い、最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出する。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。また、受講希望者数が過多と判断された場合には選抜を行なうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	社会と規範１	LGBT の動向とメンタルヘルス
第 3 回	対人問題１	依存症とメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範２	身近なハラスメントとＤＶ問題
第 5 回	対人問題２	パーソナリティ障害と発達障害
第 6 回	実践と倫理１	減胎手術は許されるか
第 7 回	社会と規範３	若者をねらう悪質商法と、SNS の注意点紹介
第 8 回	社会と規範４	職業モラルと社会人のマナー
第 9 回	社会と規範５	ビジネス・コンプライアンス（職場と法令遵守）
第 10 回	社会と文化１	都市開発・まちづくりにおけるジレンマ
第 11 回	実践と倫理２	「耐える」・「辞める」以外の「職場を改善する」という選択肢を考える
第 12 回	社会と文化２	イサム・ノグチの庭園文化論
第 13 回	実践と倫理３	著作権の現在
第 14 回	まとめ	総括　レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①小レポート（10 ～ 15 分程度でまとめるもの）（80 %）
②学期末試験（レポート形式）（20 %）

なお，4 回以上授業に欠席した場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、E 評価とする。また，遅刻 2 回で 1 回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を履修して良かった人の割合は 76%でした。様々な専門分野からの話を「どう自分の生活や学習に役立てるのか？」そんな視点で授業を受けると，より得られるものが多いのではないでしょうか。

【その他の重要事項】
①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
②担当者が全授業に同席し、担当する。
③成績評価の仕方や授業進め方等について，初回の授業で説明をしますので，必ず初回の授業に出席してください。初回欠席も欠席 1 回とカウントします。

【Outline and objectives】
コモンセンス
The purpose of this course is to learn various approaches trying to solve the problems our society faces today. A wide range of social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding, by participating in group activities and by individual literature study.

PHL100BB

哲学概論 1

中釜　浩一

授業コード：A2304　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学や哲学者に関する知識を一切前提とすることなく、現実の中で生じてくるいくつかの具体的な「哲学的問」を検討することで、各自が哲学的に思考する能力の基礎を身につけることを目指す。春学期は、主により基本的なトピックを扱う。

【到達目標】
①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
③「哲学すること」の意味に気付き、哲学的思考・議論の能力が現代においてどのような役割を果たしうるのかを了解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関する問に対してリアクションペーパーの提出を課し、次回の授業の冒頭で、それに基づいて前回の内容に関する疑問点の解明や補足的説明等を行う。
4 月 23 日より、ネット等を用いて授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	何のために、どうやって？
第 2 回	知識の問題（1）	「知ること」と「信じること」の違い
第 3 回	知識の問題（2）	懐疑論と独我論
第 4 回	自己と他者（1）	「自分を知る」とはどういうことか？
第 5 回	自己と他者（2）	「他人を知る」とはどういうことか？
第 6 回	心のありか（1）	心 ≠ 脳　or 心＝脳？
第 7 回	心のありか（2）	コンピュータは心を持つか？
第 8 回	自由と必然（1）	決定論は反論できるか？
第 9 回	自由と必然（2）	「自由」は果たして／いかなるしかたで可能なのか？
第 10 回	道徳の根拠（1）	罪と罰：どんな行為が「罪」なのか？ どんな「罰」が正当なのか？
第 11 回	道徳の根拠（2）	「正しさ」の基準に関する様々な見解
第 12 回	生と死（1）	死は悪なのか？
第 13 回	生と死（2）	生の意味／無意味
第 14 回	まとめ	まとめの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された図書やプリント等を読んでおく。
授業内容に関する疑問点を要約しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）
プラトン、デカルト、ヒューム、カント等の古典に親しんでおくこと。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーの内容：７０％
期末のレポート：３０％

【学生の意見等からの気づき】
新規担当のため該当しない。

【Outline and objectives】
Without presupposing any knowledge of philosophy and philosophers, by directly discussing some of the main philosophical problems,we aim to acquire the basic ability to philosophize or to think philosophically. In this lecture, we will focus on basic topics of philosophy.

PHL100BB

哲学概論２

中釜　浩一

授業コード：A2305　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学概論１に引き続き、いくつかの具体的「哲学的問」を検討することで、自ら哲学的に思考する能力の基礎を身につけることを目指す。哲学概論２では、哲学概論１よりもより進んだトピックを扱う。

【到達目標】
①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
③「哲学すること」の意味に気付き、哲学的思考・議論能力が現代においてどのような役割を果たしうるのかを了解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関する問に対してリアクションペーパーの提出を課し、次回の授業の冒頭で、それに基づいて前回の内容に関する疑問点の解明や補足的説明等を行う。問点の解明や補足的説明等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	逆説と哲学
第 2 回	否定（1）	ないものはあるのか
第 3 回	否定（2）	ないものは語れるのか
第 4 回	ゼノンのパラドクス（1）	飛ぶ矢のパラドクス
第 5 回	ゼノンのパラドクス（2）	アキレスと亀
第 6 回	過去と未来（1）	未来は変えられるか
第 7 回	過去と未来（2）	過去は変えられるか
第 8 回	合理論と経験論（1）	合理論の議論
第 9 回	合理論と経験論（2）	経験論の議論
第 10 回	因果と予測（1）	ヒュームの問
第 11 回	因果と予測（2）	未来の予測可能性
第 12 回	倫理的ディレンマ（1）	自由と義務
第 13 回	倫理的ディレンマ（2）	幸福と平等
第 14 回	まとめ	哲学的思考とは。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された図書やプリント等を読んでおく。
授業内容に関する疑問点を要約しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
プラトン、デカルト、ヒューム、カント等の古典。
サンデル「これからの「正義」の話をしよう」

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーの内容：７０％
期末のレポート：３０％

【学生の意見等からの気づき】
新規担当のため該当しない。

【Outline and objectives】
Continuing A2304, by directly discussing some of the main philosophical problems,we aim to acquire the basic ability to philosophize or to think philosophically.In this lecture, we will focus on the more advanced topics.

PHL100BB

論理学概論 1

安東　祐希

授業コード：A2306　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・命題はどのように表すことができるのか。
・命題が「正しい」とはどういうことか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。
（4 月 20 日追記）
教室使用ができない期間については、学習支援システムを通じた授業となり、その開始日は 5 月 6 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理的な言明	日常言語における例
第 2 回	命題と論証	真偽と妥当性
第 3 回	命題の組み立て	論理結合子
第 4 回	主語と述語	変数と述語記号
第 5 回	「全て」と「存在」	量化子
第 6 回	形式的表現の整理	括弧の省略
第 7 回	多義性の分析	量化子の順序
第 8 回	命題論理の意味論	付値と真理値関数
第 9 回	命題の比較	論理式の同値
第 10 回	命題とは（再考）	同値による分類
第 11 回	論理的とは（再考）	恒真式と妥当な論証
第 12 回	述語の取り扱い	1 変数述語記号の解釈
第 13 回	述語論理の意味論	量化子と解釈
第 14 回	関係の取り扱い	2 変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・松本和夫『復刊　数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度を適切に調整したい。

【その他の重要事項】
単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論 2」を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the way of formalization for propositions and the semantics for propositional and predicate logic.

PHL100BB

論理学概論 2

安東　祐希

授業コード：A2307　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、論証の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・論証の妥当性を判定することは可能か。
・妥当な論証をすべて作り出す方法はあるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	前提と結論の表現	推件式の定義
第 2 回	論理式との関係	推件式の意味論
第 3 回	妥当性の表現	恒真な推件式
第 4 回	判定機の組立て	木構造の表現
第 5 回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第 6 回	「または」の分析	選言の恒真分解
第 7 回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第 8 回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第 9 回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第 10 回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第 11 回	演繹体系の定義	LK 証明図の推論規則
第 12 回	構造規則の役割	LK 証明図 (命題論理)
第 13 回	変数の選択	LK 証明図 (述語論理)
第 14 回	演繹体系の性質	健全性と完全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・松本和夫『復刊　数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度を適切に調整したい。

【その他の重要事項】
履修にあたり、春期科目「論理学概論 1」の内容を理解していることが求められる。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the analysis for the validity of sequents and the definition of one of the sound and complete logical systems.

PHL200BB

倫理学概論１

山口　誠一

授業コード：A2308　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理的善さとニヒリズムに関連する主要学説を紹介する。

【到達目標】
倫理学の基本問題としての倫理的善さとニヒリズムについて理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は授業時間帯にとらわれないオンラインでの開講となります。それにともなう各回授業計画変更は学習支援システムでその都度お知らせします。この授業の開始日は 5 月 8 日として、4 月 24 日までに具体的なオンライン授業の方法などのオリエンテーションを学習支援システムでお知らせします。
倫理学の基礎となる善さと現代倫理の出発点となるニヒリズムについて主要学説を紹介しながら講述する。節目ごとにリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要をシラバスに沿って紹介する
第 2 回	《善さとは何か？》	善さの日常用法から倫理的善さへプラトンを手がかりとしながら絞り込む。
第 3 回	倫理的善さと自由	カントを手がかりとしながら、自由と倫理的善さの関係について考察する。
第 4 回	自律的自由	自由をめぐる主要学説を紹介しながら自律的自由について説明する。
第 5 回	《善さの意味は定義できるか？》	ムーアの自然主義の誤謬という学説を紹介する。
第 6 回	《行為とは何か？》	行為の三つの位相を考察する。
第 7 回	現代日本の内閉	倫理の前提となる自己の内閉を、現代日本の文化をてがかりにして解明する。
第 8 回	《無の問いはどのようにして生まれるのか？》	ハイデガーを手がかりとしながら人間存在に巣くう無を解明する。
第 9 回	《どのような気分のときに無を問うことができるのか？》	根本的不安の根源にある死について考察する。
第 10 回	仮象ーー深さからして表面的	本体よりも仮象が輝く現代を解明する。
第 11 回	幻影の哲学者ニーチェ	ニーチェをてがかりとしながら仮象を美しい幻影へと絞り込む。
第 12 回	創造的言語としての音声形象	音声形象による幻影としての仮象の創造について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業支援システムから配布するテキストを読み、参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に授業支援システムから配布する。

【参考書】
講義時に紹介する。矢島洋吉『新版倫理学の根本問題』(福村出版)、山口誠一『ニーチェとヘーゲル――ディオニュソス哲学の地下通路――』(法政大学出版局) など。

【成績評価の方法と基準】
セメスター末試験を基準 (70%) として、小レポート (15%) と出席回数 (15%) も参考とする。

【学生の意見等からの気づき】
参考文献をその都度紹介する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with an essential understanding of ethical goodness and nihilism and ethical actions, with texts drawn from German and Japanese.

PHL200BB

倫理学概論２

山口　誠一

授業コード：A2309　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自己意識の問題と倫理的行為の問題に関連する主要学説を概説する。

【到達目標】
倫理の前提としての自己意識と倫理的行為を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
倫理の前提となる自己意識と倫理的行為について主要学説を紹介しながら講述する。節目ごとにリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序論《倫理学とは？》	哲学や論理学との関係で倫理学の体系的位置を講述する。
第 2 回	現代の自己意識論―ヘンリッヒの場合―	人間的生と自己意識との関係を講述する。
第 3 回	ドイツ観念論の自己意識論をめぐって	フィヒテからヘーゲルに到る自己意識論を概説する。
第 4 回	ヘーゲルの自己意識論（一）	欲望としての自己意識を検討する。
第 5 回	ヘーゲルの自己意識論（二）	相互承認を通しての自己意識の自立性を解明する。
第 6 回	フィヒテからヘーゲルへ	ヘンリッヒの自己意識を手がかりにしながら近世の倫理学の前提を解明する。
第 7 回	自己意識の可能性―ナトルプとフッサール―	現代の現象学における自己意識について 講述する。
第 8 回	宗教的自己意識	ヘンリッヒの自己意識を手がかりにしながら宗教と自己意識との関係を考察する。
第 9 回	《倫理的行為と？》	行為と価値・規範との関係を解明する。
第 10 回	《人はなぜ抑制を失うのか？》	アリストテレス倫理学をてがかりにしなら、無抑制について考察する。
第 11 回	行為における欲求の問題	テイラーを手がかりにしながら反省的欲求について検討する。
第 12 回	行為における自由と愛	フィヒテを手がかりにしながら自由と愛との関係を解明する。
第 13 回	共同体と運命	青年期ヘーゲルを手がかりにしながら運命を生み出す共同体について考察する。
第 14 回	まとめ	授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業支援システムから配布するテキストを読み、参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に授業支援システムから配布する。

【参考書】
講義時に紹介する。山口誠一『ヘーゲル哲学の根源――〈精神現象学〉の問い――』(法政大学出版局) など。

【成績評価の方法と基準】
セメスター末試験を基準 (70%) として、小レポート (15%) と出席回数 (15%) も参考とする。

【学生の意見等からの気づき】
参考文献をその都度紹介する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfawareness and ethical actions, with texts drawn from German and Japanese.

PHL100BB

西洋哲学史Ｉ－１

奥田　和夫

授業コード：A2310　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史Ｉ－２」（秋学期）とともに履修すること。

【到達目標】
各哲学者の思想を正確にかつ重要点をおさえて理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにともない、各回の授業計画の変更が生じる。その変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は４月 22 日を予定している。具体的なすすめ方は学習支援システムに掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	哲学史を学ぶ意義　古代哲学史研究の対象と制限
第 2 回	ミレトス学派	哲学の始まり
第 3 回	ピュタゴラスとその学派	輪廻転生と数的世界観
第 4 回	ヘラクレイトス	対立するものの調和、ロゴスの哲学
第 5 回	パルメニデス	有るものと有らぬもの 1
第 6 回	ゼノン、メリッソス	有るものと有らぬもの 2
第 7 回	エンペドクレス	多元論 1
第 8 回	アナクサゴラス	多元論 2
第 9 回	デモクリトス	原子論
第 10 回	ソフィストたち	プロタゴラス、ゴルギアス、ヒッピアス、プロディコス、「ノモスとピュシス」
第 11 回	ソクラテス 1	生涯、無知の自覚
第 12 回	ソクラテス 2	魂の配慮、エレンコス
第 13 回	ソクラテス 3	哲学と政治
第 14 回	小ソクラテス学派 春学期のまとめ	キュレネ学派、キュニコス学派、メガラ学派 ミレトス学派から小ソクラテス学派までの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期用：広川洋一『ソクラテス以前の哲学者』（講談社学術文庫）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、オンラインでの開講中の小レポートの内容と期末試験（または状況により期末レポート）の内容によって評価するが、小レポートの回数により、小レポートの内容評価の割合が 30～70 %になりうることがあり、比例して期末テスト（または期末レポート）の内容評価の割合が 70～30 %になりうる。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】
な　し。

【その他の重要事項】
「西洋哲学史Ｉ－２」（秋学期）とともに履修すること。

【Outline and objectives】
In this class we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Thales to the Minor Socratics in the term.

PHL100BB

西洋哲学史Ｉ－２

奥田　和夫

授業コード：A2311　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史Ｉ－１」（春学期）とともに履修すること。

【到達目標】
各哲学者の思想を正確にかつ重要点をおさえて理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各哲学者の著作の一部および関連資料を参照しながら、その思想の特徴・意義・問題点などを解説する。授業は、毎回、プリントを配布し講義形式で行う。また、学生から教員への質問に答える時間を毎回設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション プラトン 1	ソクラテスまでの哲学史 生涯、著作
第 2 回	プラトン 2	ソクラテス哲学の継承
第 3 回	プラトン 3	『国家』等の著作に見られるイデア論
第 4 回	プラトン 4	哲人統治説と政治哲学
第 5 回	アリストテレス 1	生涯、著作
第 6 回	アリストテレス 2	哲学体系、形而上学
第 7 回	アリストテレス 3	自然学、倫理学
第 8 回	アリストテレス 4	政治学
第 9 回	エピクロス	認識論、自然学、倫理学
第 10 回	ストア学派	認識論、自然学、倫理学
第 11 回	懐疑派	認識論、倫理学
第 12 回	プロティノス 1	形而上学
第 13 回	プロティノス 2	世界の構造
第 14 回	古代哲学の終焉 秋学期のまとめ	古代哲学の思考世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
秋学期：教科書は使用しない（配布プリント、資料を使用）。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に筆記試験を行い、それをもとに評価する (100 %)。基礎的な知識の修得、各テーマの理解、解答記述の論理性、総じて到達目標の「達成度」に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】
な　し。

【その他の重要事項】
「西洋哲学史Ｉ－１」（春学期）とともに履修すること。

【Outline and objectives】
In this class we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We start to study from Plato to Plotinus in the term.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－１

君嶋　泰明

授業コード：A2312　｜　曜日・時限：**金曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋近代の哲学史を入門的に学びます。春学期は、中世におけるアリストテレス哲学の受容の概観から始めて、トマス、スアレスといった中世の哲学者からの影響を踏まえながら、イギリス経験論までの歴史を辿ります。受講者は、この時期の西洋哲学史の大まかな流れと、代表的な哲学者の主要な問題関心と理論について学ぶことができます。

【到達目標】
(A) 西洋近代哲学史の大きな流れを理解する。
(B) この時期を代表する哲学者の主要な問題関心と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。
追記（4 月 13 日）：春学期の少なくとも前半は、オンラインで授業を行います。具体的な授業の進め方は学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、必ず仮登録をして、その説明を読んでから受講してください。なお本授業の開始日は 4 月 24 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方と概要
第 2 回	中世哲学のデカルトへの影響①	中世におけるアリストテレス哲学の受容
第 3 回	中世哲学のデカルトへの影響②	トマス・アクィナス
第 4 回	中世哲学のデカルトへの影響③	スアレス
第 5 回	近代科学の特質	ガリレオ、ニュートン
第 6 回	デカルト①	主観の発見
第 7 回	デカルト②	近代科学の基礎づけ
第 8 回	パスカル	デカルト批判
第 9 回	スピノザ	決定論と自由
第 10 回	ライプニッツ	モナドロジー
第 11 回	イギリス経験論①	ロック
第 12 回	イギリス経験論②	バークリ
第 13 回	イギリス経験論③	ヒューム
第 14 回	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 40%、期末試験が 60%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とします。後者では上記の到達目標 (A) (B) がどれだけ達成されているかを見ます。
追記（4 月 13 日）：オンラインで授業を行う期間は、成績評価の仕方も変更します。こちらも学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、そちらをご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
We will learn about the history of modern Western philosophy in an introductory manner. In the spring semester, beginning with an overview on the reception of Aristotle's philsophy in the medieval times, we will trace the history from the influence of Thomas and Suarez to the British empiricism. Students will acquire an overview on the history of Western philosophy in this period and learn about the interests and theories of representative philosophers of the period.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－２

君嶋　泰明

授業コード：A2313　｜　曜日・時限：**金曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋近代の哲学史を入門的に学びます。秋学期は、ヴォルフ学派とそのカントへの影響の概観から始めて、カントから新カント学派までの歴史を辿ります。受講者は、この時期の西洋哲学史の大まかな流れと、代表的な哲学者の主要な問題関心と理論について学ぶことができます。

【到達目標】
(A) 西洋近代哲学史の大きな流れを理解する。
(B) この時期を代表する哲学者の主要な問題関心と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期の振り返り
第 2 回	ヴォルフ学派のカントへの影響	ヴォルフ、バウムガルテン
第 3 回	カント①	アプリオリな総合判断
第 4 回	カント②	人格の概念
第 5 回	ヘーゲル	西洋哲学史の一つの頂点
第 6 回	ショーペンハウアー	根拠律
第 7 回	フォイエルバッハ	ヘーゲル批判
第 8 回	キルケゴール	実存の概念
第 9 回	ニーチェ①	道徳批判
第 10 回	ニーチェ②	力への意志
第 11 回	ディルタイ	生の哲学
第 12 回	新カント学派①	マールブルク学派
第 13 回	新カント学派②	西南ドイツ学派
第 14 回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 40%、期末試験が 60%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とします。後者では上記の到達目標 (A) (B) がどれだけ達成されているかを見ます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
We will learn about the history of modern Western philosophy in an introductory manner. In the fall semester, beginning with an overview on the influence of the Wolff school on Kant, we will trace the history from Kant to the Neokantianism. Students will acquire an overview on the history of Western philosophy in this period and learn about the interests and theories of representative philosophers of the period.

PHL200BB

基礎演習１

安孫子　信

授業コード：A2206　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■パスカルの人間観を学びます。
―パスカル (1623-62) の遺稿である『パンセ』をテキストに、人間を〈ひとり死すもの〉とみなすパスカルの人間観を学びます。
―テキストを〈読む〉、読んで〈考える〉、考えて〈書く〉という哲学の基礎作業のトレーニングを行います。

【到達目標】
■パスカルの人間観に迫り、その中で哲学の基礎力を鍛えます。
―『パンセ』に散りばめられている赤裸々な人間観を学び、最後には「人間は考える葦である」という周知の言葉の隠れた意味を理解します。
―テキスト読解とそれに基づくレポート作成に挑む中で、〈読み〉、〈考え〉、〈書く〉力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
※オンラインで授業を 4 月 27 日に開講します。
■テキスト読解とレポート作成
―『パンセ』は断章からなります。毎回の授業は一つのテーマと、それに対応する断章をめぐって行われます。
―その際の議論は、受講者がそのテーマと断章について、前回に提出しており、その回に添削後返却されている小レポートに基づいて行われます。
―すなわち、受講者は、毎回、次回授業で用いることになる小レポートを作成し、それを持参して授業に参加します。
―なお学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	恋愛	授業の進め方の説明
第 2 回	気晴らし	活動する人間について　その 1
第 3 回	むなしさ・虚栄	活動する人間について　その 2
第 4 回	想像力	認識する人間について　その 1
第 5 回	習慣	認識する人間について　その 2
第 6 回	自己・自己愛	個としての人間について
第 7 回	社会と正義	集団としての人間について
第 8 回	死	人間の存在の根本条件　その 1
第 9 回	広漠たる中間	人間の存在の根本条件　その 2
第 10 回	懐疑論と独断論	理性の批判　その 1
第 11 回	デカルト批判	理性の批判　その 2
第 12 回	繊細の精神と幾何学的精神	理性の批判　その 3
第 13 回	理性	理性の批判　その 4
第 14 回	実存主義	パスカルの思想史上の位置について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―毎回提出の小レポートを作成します。
―学期末にはまとめのレポート（予定テーマ「考える葦」）を作成します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
パスカル『パンセ』（前田陽一・由木康訳，中公文庫）が必携テキストです。

【参考書】
野田又男『パスカル』（岩波新書）
松浪信三郎『実存主義』（岩波新書）
前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点 3 割、小レポート 4 割、学期末レポート 3 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、平常点ではおもにパスカル理解によって、レポートでは理解が 5 割、表現が 5 割の重みで、それぞれ評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけわかりやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline and objectives】
We will learn about Pascal's view of humanity, with Pascal's manuscript PENSEES as text, considering human beings to die alone. At the same time, we will train the fundamental work of philosophy of reading, thinking and writing.

PHL200BB

基礎演習２

西塚　俊太

授業コード：A2209　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
三木清の著作『パスカルに於ける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】
・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）受講者全員に三木清の『パスカルに於ける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	三木清『パスカルに於ける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一　の発表と検討
第 4 回	「第一　人間の分析」の二	「第一　人間の分析」の二　の発表と検討
第 5 回	「第一　人間の分析」の三	「第一　人間の分析」の三　の発表と検討
第 6 回	「第二　賭」の一	「第二　賭」の一　の発表と検討
第 7 回	「第二　賭」の二	「第二　賭」の二　の発表と検討
第 8 回	「第三　愛の情念に関する説」の前半	「第三　愛の情念に関する説」　の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一　の発表と検討
第 10 回	「第四　三つの秩序」の二	「第四　三つの秩序」の二　の発表と検討
第 11 回	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一　の発表と検討
第 12 回	「第五　方法」の二	「第五　方法」の二　の発表と検討
第 13 回	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一　の発表と検討
第 14 回	「第六　宗教における生の解釈」の二　総まとめ	「第六　宗教における生の解釈」の二　および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】
まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルに於ける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。
参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（35 %）と学期末レポート（25 %）の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】
学生の討論時間を長く確保できるよう、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

PHL200BB

基礎演習 1

西塚　俊太

授業コード：A2207　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
三木清の著作『パスカルに於ける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】
・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予定通り 4 月 27 日開始です
（1）受講者全員に三木清の『パスカルに於ける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	三木清『パスカルに於ける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一　の発表と検討
第 4 回	「第一　人間の分析」の二	「第一　人間の分析」の二　の発表と検討
第 5 回	「第一　人間の分析」の三	「第一　人間の分析」の三　の発表と検討
第 6 回	「第二　賭」の一	「第二　賭」の一　の発表と検討
第 7 回	「第二　賭」の二	「第二　賭」の二　の発表と検討
第 8 回	「第三　愛の情念に関する説」の前半	「第三　愛の情念に関する説」　の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一　の発表と検討
第 10 回	「第四　三つの秩序」の二	「第四　三つの秩序」の二　の発表と検討
第 11 回	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一　の発表と検討
第 12 回	「第五　方法」の二	「第五　方法」の二　の発表と検討
第 13 回	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一　の発表と検討
第 14 回	「第六　宗教における生の解釈」の二　総まとめ	「第六　宗教における生の解釈」の二　および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】
まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルに於ける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。

参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（35 %）と学期末レポート（25 %）の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】
学生の討論時間を長く確保できるよう、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】
※重要
2020 年度の春学期はオンラインでの実施が初回から続くことになる。非常に変則的な形での演習の実施となるので、学習支援システムを毎週欠かすことなく確認することが不可欠である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

PHL200BB

基礎演習２

安孫子　信

授業コード：A2210　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■パスカルの人間観を学びます。
―パスカル (1623-62) の遺稿である『パンセ』をテキストに、人間を〈ひとり死すもの〉とみなすパスカルの人間観を学びます。
―テキストを〈読む〉、読んで〈考える〉、考えて〈書く〉という哲学の基礎作業のトレーニングを行います。

【到達目標】
■パスカルの人間観に迫り、その中で哲学の基礎力を鍛えます。
―『パンセ』に散りばめられている赤裸々な人間観を学び、最後には「人間は考える葦である」という周知の言葉の隠れた意味を理解します。
―テキスト読解とそれに基づくレポート作成に挑む中で、〈読み〉、〈考え〉、〈書く〉力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
■テキスト読解とレポート作成
―『パンセ』は断章からなります。毎回の授業は一つのテーマと、それに対応する断章をめぐって行われます。
―その際の議論は、受講者がそのテーマと断章について、前回に提出しており、その回に添削後返却されている小レポートに基づいて行われます。
―すなわち、受講者は、毎回、次回授業で用いることになる小レポートを作成し、それを持参して授業に参加します。
―なお学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	恋愛	授業の進め方の説明
第 2 回	気晴らし	活動する人間について　その 1
第 3 回	むなしさ・虚栄	活動する人間について　その 2
第 4 回	想像力	認識する人間について　その 1
第 5 回	習慣	認識する人間について　その 2
第 6 回	自己・自己愛	個としての人間について
第 7 回	社会と正義	集団としての人間について
第 8 回	死	人間の存在の根本条件　その 1
第 9 回	広漠たる中間	人間の存在の根本条件　その 2
第 10 回	懐疑論と独断論	理性の批判　その 1
第 11 回	デカルト批判	理性の批判　その 2
第 12 回	繊細の精神と幾何学的精神	理性の批判　その 3
第 13 回	理性	理性の批判　その 4
第 14 回	実存主義	パスカルの思想史上の位置について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―毎回提出の小レポートを作成します。
―学期末にはまとめのレポート（予定テーマ「考える葦」）を作成します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
パスカル『パンセ』（前田陽一・由木康訳，中公文庫）が必携テキストです。

【参考書】
野田又男『パスカル』（岩波新書）
松浪信三郎『実存主義』（岩波新書）
前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点 3 割、小レポート 4 割、学期末レポート 3 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、平常点ではおもにパスカル理解によって、レポートでは理解が 5 割、表現が 5 割の重みで、それぞれ評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけわかりやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline and objectives】
We will learn about Pascal's view of humanity, with Pascal's manuscript PENSEES as text, considering human beings to die alone. At the same time, we will train the fundamental work of philosophy of reading, thinking and writing.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田　和夫

授業コード：A2212　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではアリストテレスの倫理思想を検討する。具体的にはアリストテレスの『二コマコス倫理学』の内容・意義を考察することが目的である。また、そのさい、現代社会の倫理的諸問題を対置する時、アリストテレス倫理学はどのように対応するのか（しないのか）という問題も受講生には考察してもらいたい。

【到達目標】
アリストテレスの倫理学の内容を理解しその意義を考察することができること、が到達目標である。意義を考察するさい、現代社会の倫理的諸問題、たとえば幸福の問題を対置してみよう。そのとき、アリストテレスの倫理学はどのように対応するのか（しないのか）という問題をどこまで自分で考えることができるか。その考えをすこし先までのばしてみることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
アリストテレス『ニコマコス倫理学』の内容に沿いながら、各トピックスを検討する。
ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更があり、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始は４月２１日を予定している。具体的なすすめ方は学習支援システムに掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	生の目的	目的の階層と最高善（幸福）
第 2 回	性格の徳と中庸説	性格の徳の形成と中庸説の検討・理解
第 3 回	性格の徳とは何か	性格の徳の検討・理解
第 4 回	性格の徳各論	とくに勇気と節制の検討・理解
第 5 回	性格の徳各論（続）	その他の性格の徳の検討・理解
第 6 回	正義	正議の検討・理解
第 7 回	不正	不正の検討・理解
第 8 回	思考の徳	思考の徳の検討・理解
第 9 回	思考の徳各論	思考の徳の検討・理解（続）
第 10 回	無抑制	無抑制の検討・理解
第 11 回	快楽論	快楽論の検討・理解
第 12 回	友愛論	友愛論の検討・理解
第 13 回	快楽と幸福	快楽と幸福の諸問題の検討・理解
第 14 回	『二コマコス倫理学』全体のまとめ	『二コマコス倫理学』全体の検討・理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際に『ニコマコス倫理学』を読み、内容を把握すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回の講義で講義概要と資料を配布する。
『二コマコス倫理学』の邦訳書としては次のものがある。
1．高田三郎 訳（岩波文庫）　2．加藤信朗 訳（岩波旧版『アリストテレス全集』）　3．朴一功 訳（京都大学学術出版会）　4．神崎繁 訳（岩波新版『アリストテレス全集』第 15 巻）5．渡辺邦夫・立花幸司 訳（光文社古典新訳文庫）

【参考書】
山口義久『アリストテレス入門』（ちくま新書）。その他は講義にて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、小レポートの内容と期末レポートの内容によって評価するが、小レポートの回数が増えることにより、小レポートの内容評価の割合が 50～70 %になり、比例して期末レポートの割合が 50～30 %になる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
な　し

【その他の重要事項】
な　し

【Outline and objectives】
This class gives a lecture on Aristotle's "Nicomcean Ethics". We analyze the points of his ethical thoughts and estimate their philosophical values.

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下　真

授業コード：A2213　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義のテーマは、「主体主義と実存思想」です。
　デカルトにおける「考える我」の発見以来、西洋の近現代哲学は、人間の存在から出発する主体主義（ないし主観主義）の思想として自覚的に展開されました。主体としての人間とは、世界全体に対峙しつつ、むしろ世界の成立を可能とし、基礎づけている根源的な働きを意味します。しかし、この思想は同時に、主体の限界や有限性への直面を通じて、自己自身の存在を徹底的に問いに付す営みでもあります。講義では、カントの超越論的哲学から、ニーチェのパースペクティヴィズム（遠近法主義）を経て、ハイデガー、ヤスパースによる 20 世紀ドイツの実存思想へと至る発展を跡づけます。
　これにより受講者は、西洋哲学を一貫する主体主義思想の多面性について理解を深め、単なる独我論や人間中心主義を超え出る、その可能性を学ぶこととなるでしょう。

【到達目標】
　受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。
　① 主体主義的哲学の展開とその基本構想を学ぶ。
　② 歴史的背景や思想状況との関連を視野に入れながら、20 世紀ドイツの実存をめぐる哲学が持つ、問題意識や独自性を理解する。
　③ 現代に生きる自分たちにとって、主体や人間存在という概念が持つ意義と限界を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	近世主体主義の成立とパースペクティヴの思想
第 2 回	デカルト	方法的懐疑と〈我〉の発見
第 3 回	カント	超越論的主体主義とは何か
第 4 回	ニーチェ	パースペクティヴィズムと〈力への意志〉
第 5 回	実存思想の誕生	主体から自己の有限的実存への変容
第 6 回	ハイデガー (1)	〈存在の問い〉と基礎存在論
第 7 回	ハイデガー (2)	存在了解の実存論的構造
第 8 回	ハイデガー (3)	〈死への先駆〉と決意性
第 9 回	ヤスパース (1)	実存哲学の問題構成と限界状況
第 10 回	ヤスパース (2)	実存的決断と交わりの思想
第 11 回	ヤスパース (3)	〈暗号解読〉の形而上学
第 12 回	ハイデガーのニーチェ論	近代主観性の原理と形而上学の完成
第 13 回	ヤスパースのニーチェ論	パースペクティヴの多元性の空間
第 14 回	講義全体の総括	主体概念の展開と深化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間と規定されています）。
　各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】
　特定のテキストは使用しません。

【参考書】
　桂壽一『近世主体主義の発展と限界』東京大学出版会、1974 年。
　その他は多岐に渡るので、各回の授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50 %）と、学期末の課題レポート（50 %）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な実例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテクストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。

【Outline and objectives】
This course deals with the philosophy of subjectivism. Western modern philosophy since Descartes has discussed human existence as an epistemological subject. But subjectivism also is a question of the limit and finiteness of subjectivity. After Nietzsche's perspectivism, it developed to German existential thoughts by Heidegger and Jaspers. The student will obtain basic knowledge about the thinking and concepts of philosophers of subjectivism. The goal of this course is to understand today's possibility of subject as "Existenz".

PHL300BB

哲学特講（3）－1

松本　力

授業コード：A2216　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『方法序説』では、デカルトが自らの哲学を打ち立てる動機を読み取ることで、デカルト哲学が目指す到達点を理解し、その到達点にたどり着くために『省察』において具体的にどのような議論を行っているかを学ぶことになる。

【到達目標】
デカルトにとっての理性とは何か。その理性をもちいて到達する「考える私」の確かさ、そして「考える私」と「誠実なる神」との関係について考察することで、デカルト哲学の中心的な概念を理解し、説明できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
デカルトの主要な著作である『方法序説』と『省察』を読み進め、毎回、授業内容についての確認のアンケートを提出してもらう。
授業開始日は、4 月 24 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	デカルトの生涯と著作	デカルト哲学の全体像。
第 2 回	『方法序説』第一部	デカルト哲学の目的。
第 3 回	『方法序説』第二部	デカルト哲学の方法。
第 4 回	『方法序説』第三部	デカルトの暫定道徳。
第 5 回	『方法序説』第四部	「我思う故に我あり」。
第 6 回	『省察』第一部	疑いをさしはさみうるものについて。
第 7 回	『省察』第二部	考えるとはどのようなことか。
第 8 回	『省察』第三部前半	神の存在証明第一、神の観念の原因として。
第 9 回	『省察』第三部後半	神の存在証明第二、私の存在の原因として。
第 10 回	『省察』第四部	誤謬の原因について。
第 11 回	『省察』第五部	神の存在証明第三、神の存在論的証明。
第 12 回	『省察』第六部前半	想像すること、感覚すること、そして理解すること。
第 13 回	『省察』第六部後半	精神と身体との関係について。
第 14 回	試験	筆記試験により授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り扱う箇所を読み込み、その内容の要約し、疑問点をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『方法序説』については資料を配付する。『省察』については次のものを各自用意すること。『デカルト　省察　情念論』（中央公論新社、中公クラシックス、2002 年、1500 円＋税）

【参考書】
野田又夫『デカルト』（岩波新書、1966 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）によりデカルト哲学の重要概念の理解を確認することになるが、その重要概念にたどり着くまでの議論の理解を毎授業時の授業アンケート（30 %）により確認する。

【学生の意見等からの気づき】
必ず授業前にテキストを読んでおくこと。授業に出席しているだけでは単位を取ることはできません。自分の中で理解できていること、理解できていないことを確認しながら読み進めることが求められます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Meditations on First Philosophy of Descartes.

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋　俊彦

授業コード：A2217　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。
構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知る事が不可欠である。

【到達目標】
ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき　その１	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第 3 回	まえおき　その２	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第 4 回	まえおき　その３	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第 5 回	前年度までの内容	序論、第１部、第２部の第４章まで
第 6 回	第２部　共時言語学	第５章　連辞関係と連合関係
第 7 回	第２部　共時言語学	第６章　ラングの機構
第 8 回	第２部　共時言語学	第７章　文法とその下位区分 第８章　文法のおける抽象的な実体の役割
第 9 回	第３部　通時言語学	第１章　総論 第２章　音変化
第 10 回	第３部　通時言語学	第３章　音的進化の文法的帰結
第 11 回	第３部　通時言語学	第４章　類推 第５章　類推と進化
第 12 回	第３部　通時言語学	第６章　民間語源 第７章　膠着 第８章　通時的な単位、同一性、現実性
第 13 回	第３部と第４部への付録 第４部　言語地理学	第１章　言語の多様性について 第２章　地理的多様性の複雑化 第３章　地理的多様性の原因 第４章　言語的な波の伝搬
第 14 回	第５部　回顧的言語学の諸問題　結論 まとめ	第１章　通時言語学の２つの観点 第２章　最古の言語と原型 第３章　再建 第４章　人類学と先史学での言語の証拠 第５章　語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、３５００円

【参考書】
授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】
小論文８０％

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。
平常点２０％
毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】
要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline and objectives】
Reading of the 'Course in the General Languistics' by Ferdinand de Saussure in japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

PHL300BB

哲学特講（４）－１

鵜澤　和彦

授業コード：A2218　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、たとえ答えることができなくても、自己・世界・神について関心を抱きます。しかし、そもそも何をどこまで知ることができるのでしょうか。カントは、理性の限界を定めることによって、形而上学の可能性を考えました。本授業は『純粋理性批判』と関連テキストを読みながら、こうしたカントの哲学を分かりやすく解説することをテーマとします。

【到達目標】
①カント認識論の基礎知識を習得することができる。[知識]
②『純粋理性批判』の受容史や解釈史を理解することができる。[知識]
③「なぜ」と問う態度を身につけることができる。[態度]
④論理的な文章を読み解くことができる。[技術]
⑤論拠に基づいて筋道を立てて文章を書くことができるようになる。[技術]

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の授業は、オンデマンド型オンライン授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題、質疑応答が行われます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題の提出をもって、出席と判断します。**授業開始日は 4 月 21 日（火曜日）です。第 1 回課題提出は、仮登録期間が終了する 5 月 11 日です。**なお、法政大学学習支援システム Hoppii のサーバーにアクセスできない場合、本授業のバックアップサイト（Google Classroom の同名サイト）から教材等をダウンロードしてください。クラスコードは dx7zvnd です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介、授業の到達目標、教育内容と方法、参考書、成績評価の方法と基準、受講上の注意について説明します。
第 2 回	主要概念：カント哲学の出発点	形而上学の根本問題、ライプニッツ・ヴォルフ哲学との対決、存在論と認識論などの概念を解説します。
第 3 回	主要概念：コペルニクス的転回の意味	客観と主観、思考法の革命、理性の自己反省、幾何学的構成、空間と時間、形式と内容、構想力の概念について説明します。
第 4 回	主要概念：「超越論的」と「主観性」	現象と物自体、超越論的と超越的、主観性、数学および代数学の命題の構成を解説します。
第 5 回	主要概念：ア・プリオリな綜合	ア・プリオリとア・ポステリオリ、分析判断と綜合判断、ア・プリオリな綜合、純粋直感、投企（投げ入れ）の概念を説明します。

第 6 回	主要概念：経験の可能性の条件	直観形式としての空間と時間、純粋悟性概念としてのカテゴリー、演繹および図式の概念について説明します。
第 7 回	分析論：カテゴリーの体系	アリストテレスのカテゴリー論に対する批判、カテゴリーの導出原理（判断表）、量・質・関係・様相のカテゴリーの体系を解説します。
第 8 回	分析論：直観の公理の原則	外延量（空間的大きさ、幾何学的形象）の産出、構想力の形成的綜合と現象における把捉の綜合について説明します。
第 9 回	分析論：知覚の先取の原則	感覚、現象的実在性、内包量（質）の概念、物理的変化の連続性を解説します。
第 10 回	分析論：経験の類推の原則	類比と比例、時間の三つの根本規定としての持続性、継起、同時存在、そして、実体、因果性、相互性のカテゴリーについて説明します。
第 11 回	分析論：経験的思考一般の要請の原則	認識主体と客体との関係、可能性、現実性、必然性の概念を説明します。
第 12 回	弁証論：心理学的理念	仮象の論理学としての弁証論、伝統的な自我概念（魂）の批判、媒概念曖昧の虚偽について解説します。
第 13 回	弁証論：宇宙論的理念	世界概念の二律背反（アンチノミー）、理念の構成的使用と統制的使用について説明します。
第 14 回	弁証論：神学的理念	神の概念、神の宇宙論的証明、物理神学的証明、存在論的証明に対する批判、理想と原型、詐取の概念を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：原著翻訳の関連個所とテキストを読み、理解できない点をまとめる。また、それに関連する哲学の諸概念を調べる。（2 時間）
復習：再度、原著翻訳の関連個所とテキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認する。疑問があれば、課題プリントに質問を記入する。また、課題プリントの問題に答える。（3 時間）

【テキスト（教科書）】
牧野英二編『新・カント読本』（法政大学出版局）

【参考書】
原佑/渡辺二郎 [訳]『純粋理性批判』上、中、下（平凡社ライブラリー）

【成績評価の方法と基準】
①平常点と毎回の課題プリント（到達目標の知識と態度の習得）、②セメスター末の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を 70%、②を 30%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、カントの理論哲学の概念とその議論を的確に理解しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされてあります。このシステムを活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。もし可能であれば、Web カメラとプリンターを用意してください。

【その他の重要事項】
オンデマンド型オンライン授業の詳細は、すでに学習支援システム Hoppii に掲載していますので、そちらをご覧ください。

【Outline and objectives】
We are concerned about ourselves, the world, and God, even if we cannot answer. But what can we know and to what extent? Kant considered the possibilities of metaphysics by setting the limits of reason. This class aims to explain Kant's philosophy understandably while reading "Critique of Pure Reason" and related texts.

PHL300BB

哲学特講（4）－2

近堂　秀

授業コード：A2219　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イマヌエル・カントの『純粋理性批判』を読みながら，カントの哲学思想の意義を検討する。

【到達目標】
学問としての哲学の特徴を理解し，哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実際に『純粋理性批判』を読んでみる。そのうえで，関連文献を参照しながら，現代社会に対してカントの哲学思想にどのような意義があるかを検討する。基本的に講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	近代の哲学思想
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カント哲学の概要
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの理論哲学
第 5 回	『純粋理性批判』を読む (1)	「超越論的感性論」
第 6 回	『純粋理性批判』を読む (2)	「空間概念の形而上学的究明・第一の議論」
第 7 回	『純粋理性批判』を読む (3)	「空間概念の形而上学的究明・第二の議論」
第 8 回	『純粋理性批判』を読む (4)	「空間概念の形而上学的究明・第三および第四の議論」
第 9 回	『純粋理性批判』を読む (5)	「空間概念の超越論的究明」
第 10 回	カントの哲学思想 (4)	カントの実践哲学
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (1)	カント哲学の解釈
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとプラグマティズム
第 14 回	カントと現代の哲学思想 (4)	カントと言語分析哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で参照を指示した資料文献を分析し，関連文献を調査する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。

【参考書】
牧野英二編『新・カント読本』，法政大学出版局，2018 年。
近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈――カントにおける知の非還元主義』，晃洋書房，2018 年。
トム・ロックモア『カントの航跡のなかで――二十世紀の哲学』牧野英二監訳，法政大学出版局，2008 年。

【成績評価の方法と基準】
学問としての哲学の特徴を理解し，哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって，哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって，それぞれ 30 %と 70 %の割合で評価する。
※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容，到達目標と内容理解度のバランスを調整する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental problems of Kant's philosophy.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚　俊太

授業コード：A2220　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の近代哲学を代表する西田幾多郎・和辻哲郎・九鬼周造・三木清を中心とした諸哲学を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】
・日本近代の様々な哲学書を読み解くことが出来る。
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
予定通り 4 月 24 日開始です、変更なし。
（1）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
（2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
（3）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第 2 回	独我論の視る「夢」	「他者」の存在と言語による伝達の関係とは
第 3 回	西田哲学の「純粋経験」①	西田幾多郎の「純粋経験」は西洋哲学の文脈で読み解くべきか、禅仏教の文脈で読み解くべきか
第 4 回	西田哲学の「純粋経験」②	言語が介在し得ないはずの「純粋経験」をそれでも「語る」方法とは何か
第 5 回	西田幾多郎の自発自展する思想	「統一」が「自発自展」するとはいかなる事態であるのか
第 6 回	西田幾多郎の自発自展する文体	自発自展する思想を文章のもとに捉えるには、いかなる文体が要請されるのか
第 7 回	存在論	実在論と唯名論に関する哲学史上の諸思想を紹介し、検討していく
第 8 回	人生の悲哀と「絶対無」「真の無」	西田幾多郎の「人生の悲哀」という感情が、いかなる形で「絶対無」の哲学へと繋がっていったのか
第 9 回	西田哲学の時間論	西田幾多郎の「永遠の今」概念に関する考察と検討
第 10 回	時間論と身体論	時間論と身体論に関する哲学史上の諸思想の紹介と考察
第 11 回	和辻哲郎の「人間の学」の構想	和辻哲郎の「人間の学」がどれほどの射程を有しているのかという点についての検討
第 12 回	三木清の「ひと」概念と「責任」	三木清の「ひと」に関する思想からどのような「責任」観が浮かび上がってくるのかという点についての検討
第 13 回	三木清の「私と汝」概念と「責任」	三木清の「私と汝」概念からどのような「責任」論を導くことが出来るのかという点についての検討
第 14 回	哲学的死生学	生と死に関する思想について、西田幾多郎と三木清の対比を通じて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は各 3 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】
参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末レポート（55 %）によって評価する。
講義における質問や発言は高く評価するポイントとなるが、講義の進行の妨げとなる言動（私語の継続・不必要な携帯端末の使用・不要な入退出の繰り返しなど）に対しては非常に厳しく対応することになるので、その点に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
※重要
2020 年度の春学期はオンラインでの実施が初回から続くことになる。非常に変則的な形での講義の実施となるので、学習支援システムを毎週欠かすことなく確認することが不可欠である。
それだけでなく、日本近代哲学の原典読解をオンラインで実施することは不可能であり、上記のシラバス通りに講義を実施することも困難である。よって、上記シラバスとは根本的に異なる形式で講義を実施することになる。内容面は授業支援システムなどで伝えることになるが、履修に際してはその点を了承頂いた上で決断して欲しい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原　博

授業コード：A2221　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、人間の尊厳というテーマで行います。人間の尊厳は、人間の絶対的な価値を意味し、人間を尊重する根拠になるものです。近年は日本でも、クローン技術を規制する法律などで、この概念が使用されています。しかし、人間の尊厳が何を意味するのかについては、さまざまな議論があるため合意に至っていません。そこで授業では、西洋の哲学や思想を手がかりに、応用倫理学の議論も考慮しながら、人間の尊厳の内容や意義について考察します。人間の尊厳は、たしかに西洋思想に由来する概念ですが、基本的人権の根拠として、第二次世界大戦後に注目されるようになりました。もっとも現在では、厳しい批判もあり、人間の尊厳の内実が問い直されています。受講生には、中絶や尊厳死など応用倫理学の問題を手がかりに、人間の尊厳について議論してもらいます。その議論によって、人間の「かけがえのなさ」や「絶対的な価値」について考えることになるはずです。

【到達目標】
第一に、人間の尊厳とは何か、この概念の内容を説明できることです。
第二に、人工妊娠中絶や尊厳死など、応用倫理学の問題を理解して、これらの問題における尊厳概念の意義を説明できることです。
第三に、人工妊娠中絶や尊厳死について、自分の考えを言語化し表現できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、グループディスカッションを実施します。受講にあたっては、自分自身で考えること、また授業で発言できることが必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、尊厳概念の必要性	授業の概要と方法、どうして尊厳概念が必要なのか説明する
第 2 回	尊厳概念の歴史 (1)	古代から中世まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 3 回	尊厳概念の歴史 (2)	ルネサンスから現代まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 4 回	尊厳概念へのアプローチと拷問	尊厳概念を解明する方法と、「拷問」という尊厳侵害の実例を考察する
第 5 回	グループディスカッション (1)	胎児の障がいを理由とした人工妊娠中絶について、受講生と議論する
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ	胎児の障がいを理由とした人工妊娠中絶について、その問題点を説明する
第 7 回	カントの尊厳概念	「道徳的行為」の可能性を重視した、カントの尊厳概念を説明する
第 8 回	マルセルの尊厳概念	人間の弱さと「兄弟愛」を重視した、マルセルの尊厳概念を説明する
第 9 回	マルガリートの尊厳概念	屈辱なき「良識ある社会」を構想した、マルガリートの尊厳概念を説明する
第 10 回	グループディスカッション (2)	障がいを理由とした尊厳死について、受講生と議論する
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ	障がいを理由とした尊厳死について、その問題点を説明する
第 12 回	医療技術の進展と人間の尊厳	エンハンスメント（能力の改善を目的として心身に医学的に介入すること）の問題点、および人間の「卓越性」を重視するカスの尊厳概念を説明する
第 13 回	今日の尊厳概念	人間の尊厳とは何か、結論を提起する
第 14 回	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ディスカッションの前には、レポートを提出する必要があります。なおレポートが提出できない場合、ディスカッションには参加できません。また授業はやや発展的な内容を含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】
松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』、知泉書館、2005 年
金子晴勇『ヨーロッパの人間像』、知泉書館、2002 年
その他、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度と授業後のレポートによって、自分の考えを表現できるかどうか評価します (40%)。また学期末試験によって、人間の尊厳の内容を説明できるかどうか、応用倫理学の問題を理解できているかどうか評価します (60%)。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline and objectives】
This course elucidates a concept of human dignity. Human dignity means the absolute value of human being. And it is also ground to respect a human being. Recently in Japan, human dignity came to be mentioned by laws to regulate the use of the new biotechnology. However, there is no agreement about what human dignity means. Therefore, considering arguments of western philosophy and applied ethics, this course presents meanings of human dignity. Being a concept which derives from western thoughts, human dignity came to attract attention as a basis of fundamental human rights after World War Ⅱ. But there is severe criticism against this concept. In this course you will discuss with human dignity in various contexts of applied ethics and finally think about human absolute value.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋　基

授業コード：A2222　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代社会を背景として成立した「アイデンティティ」という自己了解の構造を踏まえて、その危機的状況に関して提示されてきた哲学的見解の妥当性を考察する。
＊授業の進行は予定通りとしますが、新型コロナウイルス対策で講義が中止される期間があるため、範囲を短縮することがあります。そうした変更点に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」で告知するので、随時、確認して下さい。なお、本講義の「授業開始日」は 4 月 23 日とします。

【到達目標】
ヘーゲルの「相互承認」論の見地から「アイデンティティ」という概念の存立構造を説明することができる。
日常生活で生じる様々な「承認の欠如」や「歪んだ承認」に関する哲学的見解を批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が作成した「講義用資料」（授業時に配布する）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。
適宜、問題発見型のグループワークを行い、毎回の授業終了時には、リアクションペーパーを提出する。
＊新型コロナウイルス対策で講義ができない期間は、学習課題を課すので、随時、「学習支援システム」の「お知らせ」を確認して下さい。なお、学習に必要な資料に関しては、4 月 21 日以降、「学習支援システム」の「教材」で配信されます。なお、本講義の「授業開始日」は 4 月 23 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容と成績評価についての説明
第 2 回	「私」とは何のことか？	法律上の「人格の同一性」と現実的な「自己同一性」の違い
第 3 回	「アイデンティティ」が成立する条件	ヘーゲルにおける「自己意識」と「相互承認」
第 4 回	お仕着せの「らしさ」への反抗	シャネルの「モード革命」とカントの「趣味判断」
第 5 回	自己防衛のための二つの処世術	ホッブズの「心理学的利己主義」とバトラーの「自分語り」
第 6 回	「恋愛」に見出された対照的な目的	「結婚の準備」（ヘーゲル）と「性欲の偽装」（ショーペンハウアー）
第 7 回	「結婚生活」の近未来像	ラッセルの「試験結婚」とフロムの「愛する技術」
第 8 回	「死に場所」としての「病院」	現代医療の「進歩」が要求した「死の処方」
第 9 回	「孤独死」は「不幸な死」なのか？	シェーラーの「人格の永生」とメイヤロフの「ケアの倫理」
第 10 回	「職業に貴賤はない」は本当か？	「リベラリズム」に関するノージックとロールズの見解
第 11 回	「格差是正」が向かうべき目的	「正義」の実現に関するセンとウォルツァーの提案
第 12 回	安心安全な「管理社会」は心地よいか？	ホッブズとルソー、それぞれが導いた国家権力
第 13 回	「異文化共生」は云うに易く、行うに難し	バーリンの「寛容」とデリダの「歓待」
第 14 回	「アイデンティティ・クライシス」への処方箋	「分裂」と「縫合」を繰り返す「継ぎ接ぎだらけの私」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
＊新型コロナウイルス対策で講義ができない期間は、各自、自宅学習となります。学習内容に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」で確認し、「教材」にアップされている「資料」を参照し、質問は「掲示板」に書き込んで下さい。なお、質問がプライバシーに関わる場合は、教員の個人用アドレス（motoi.ohashi@gmail.com）までメールを送信して下さい。

【テキスト（教科書）】
大橋 基『18 歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019 年（3200 円＋税）
＊法政大学生協書籍部で通信販売を予定しています。

【参考書】
授業内に指示する。
＊「学習支援システム」の「掲示板」での質問にも対応します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやＥメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。
＊新型コロナウイルス対策で教室での試験ができない場合、レポート提出（上記試験の代替）によって成績を評価します。それ以外にも、学習の習熟度を測るために「学習支援システム」を通じて小テスト（上記平常点の代替）を実施する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help student acquire an understanding of the philosophical view of "self-identity" in order to give careful consideration to the matters of our ordinary life in which various identity-crises occur. It deals with 6 themes as follow: 1. Hegel's theory of "mutual recognition" as the necessary condition for self-identification, 2. the attempt to change the instituted standard of "beauty" and "ugliness", 3. the modernization of the relation of "love" and "sexual desire", 4. the forms of "death" in the modern society and the difficulty of "caring", 5. the permission limit of the "inequity" in the liberal society, 6. the ethical attitude to "the others" in the multi-cultural society.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

小井沼　広嗣

授業コード：A2223　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「ヘーゲル哲学と現代思想」をテーマとする。
「ヘーゲルには途方もない力があります。……私がここでみなさんにお話した思想のどれ一つとして、ヘーゲル哲学の中に少なくとも傾向として含まれていないものなど何一つない、ということを、私は十分自覚しています」（アドルノ『否定弁証法講義』）。
このように語ったのはアドルノだが、彼だけではなく、現代の多くの哲学者は、批判的にせよ受容的にせよ、ヘーゲル哲学から多大なインパクトを受けつつ、そこから独自の思想を展開している。そこでこの授業では、現代思想の動向の一端を、ヘーゲル哲学の批判・継承・発展という視角から検討していく。またそれを通じて、精神、人倫、欲望、否定性、相互承認、絶対的自由、外化、理念、絶対者といったヘーゲル哲学の主要な諸概念がもつ現代的意義を考察する。
具体的な人物とトピックとしては、チャールズ・テイラーの共同体主義・多文化主義、ユルゲン・ハーバーマスのコミュニケーション論・宗教論、アクセル・ホネットの承認論、ジェルジ・ルカーチの物象化論、ジュディス・バトラーのポストモダン・フェミニズム、マルクス・ガブリエルの新実在論、ロバート・ブランダムのネオ・プラグマティズム、森岡正博の生命学、を取り上げる。

【到達目標】
・多種多様なヘーゲル解釈やヘーゲル評価に触れることで、哲学古典のもつ豊かなポテンシャルを学ぶこと。
・現代思想において取り組まれている哲学的な諸問題とヘーゲル哲学との関連を、概略的にせよ、適切に説明できるだけの知識を習得すること。
・その知識をもとに、現代社会が抱えている諸課題について各自が理解と洞察を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・教員による講義と受講者によるレジュメ発表とを組み合わせて進める。
・講義については、パワーポイントと配布プリントを用いる。
・各回の授業テーマについて、教科書内容のレジュメ発表（10～15 分程度）を特定の受講者に担当してもらう。受講者は全員、レジュメ発表を少なくとも一回は担当しなければならない。
・毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でそのレスポンスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／イントロダクション	授業の進め方と成績評価の確認／ヘーゲル哲学の概要
第 2 回	テイラーのヘーゲル理解と哲学的人間学	啓蒙主義的な人間観と自由観への批判
第 3 回	テイラーの道徳文化論と政治哲学	「真正さ」の倫理と差異の相互承認
第 4 回	ヘーゲルとフランクフルト学派	ハーバーマスのコミュニケーション論とホネットの相互承認論
第 5 回	ルカーチの物象化論	資本主義とその変革主体をめぐって
第 6 回	ヘーゲルとポストモダン思想	ポストモダン思想におけるヘーゲル受容とバトラーのジェンダー論
第 7 回	バトラーの『アンティゴネー』論	『アンティゴネー』解釈とジェンダー問題
第 8 回	現代哲学の脱宗教化	ヘーゲルの宗教論とハーバーマスの世俗化論
第 9 回	ヘーゲルとネオ・プラグマティズム	分析哲学におけるヘーゲルの復権
第 10 回	ブランダムのヘーゲル解釈	「意味論的プラグマティズム」について
第 11 回	現代哲学の「実在論」的転回	新たな実在論の興隆とガブリエルの「世界の不在」論
第 12 回	ガブリエルの新実在論	領域的存在論とヘーゲル的な「絶対者」の行方
第 13 回	ヘーゲルと現代の生命論	「理念」としての生命把握
第 14 回	総括と展望	ヘーゲル哲学の現代的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回ごと教科書範囲を指定するので、かならず事前に読んでくること。

・レジュメ担当者は、事前に教科書の内容の要約レジュメを作り、授業日の二日前までに教員に送ること。また、分からない内容についてはできるかぎり調べておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
寄川条路編著『ヘーゲルと現代社会』晃洋書房、2018 年（定価 1900 円＋税）

【参考書】
寄川条路編著『ヘーゲルと現代思想』晃洋書房
岡本裕一朗『ヘーゲルと現代思想の臨界』ナカニシヤ出版
仲正昌樹『ヘーゲルを超えるヘーゲル』講談社現代新書
それ以外の個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（14%）、各回のリアクションペーパーの提出とその内容（28 %）、レジュメ発表（18%）、期末レポート（40 %）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの応答を丁寧に行い、双方向的な授業を心がけたい。

【Outline and objectives】
The theme of this class is “Hegel’s philosophy and contemporary thought”.
Hegel’s philosophy has a great impact on many contemporary philosophers, each of whom is influenced critically or receptively by Hegel’s idea and develops his/her own thought.
In this class, we will examine the thoughts of some contemporary philosophers from the following perspectives; criticism, inheritance and development of Hegel’s idea. We will also examine the today’s significance of Hegel’s important ideas, such as Spirit, ethical life, desire, negativity, mutual recognition, absolute freedom, externalization, the Idea, the Absolute.
The following persons and topics are discussed in this class; Charles Taylor’s communitarianism and multiculturalism, Jürgen Habermas’s theory of communicative action and his thought on religion, Axel Honneth’s theory of recognition, Georg Lukács’s theory of reification, Judith Butler’s postmodern feminism, Markus Gabriel’s new realism, Robert Brandom’s neo-pragmatism, Masahiro Morioka’s life studies.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋　泰明

授業コード：A2224　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルティン・ハイデガーの思想の形成過程について学びます。彼はキリスト教の信仰のあり方を問い直すことから出発し、キリスト教への古代ギリシア哲学の影響を見極めるべく、まずはアリストテレス研究へと向かいました。そしてそのなかで、西洋形而上学の歴史がある隠された基礎をもっていることに気づき、主著『存在と時間』でそのことを明らかにしようとしました。しかもこの一連の過程においてハイデガーは、一貫して、同時代の有力な哲学潮流の一つであった現象学の手法を用いています。
このように、ハイデガーの『存在と時間』へと至る道は、複数の要素が独特な仕方で一つになることによって形成されています。この授業では、その形成過程を見届けることを通じて、ハイデガーがいかにして同書を著すに至ったかを理解することを目指します。

【到達目標】
(A) ハイデガーの思想において、キリスト教、アリストテレス哲学、現象学という三つの要素がいかに結びついているかを理解する。
(B) ハイデガーがいかにして主著『存在と時間』を著すに至ったのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。
追記（4 月 13 日）：春学期の少なくとも前半は、オンラインで授業を行います。具体的な授業の進め方は学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、必ず仮登録をして、その説明を読んでから受講してください。なお本授業の開始日は 4 月 23 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方と概要の説明
第 2 回	リッカート批判①	新カント派のリッカートの認識論
第 3 回	リッカート批判②	それへのハイデガーの批判
第 4 回	ハイデガー I	リッカート批判から見てとれるハイデガーの最初期の現象学的哲学
第 5 回	フッサール	フッサールの現象学との比較
第 6 回	ハイデガー II	ハイデガーが得たいくつかの成果
第 7 回	アウグスティヌス①	ハイデガーの『告白』第 10 巻解釈
第 8 回	アウグスティヌス②	ハイデガーがアウグスティヌスから受け取ったもの
第 9 回	アリストテレス①	ハイデガーのアリストテレス解釈
第 10 回	アリストテレス②	ハイデガーのアリストテレスにたいするアンビヴァレントな立場
第 11 回	デカルト	ハイデガーのデカルト解釈
第 12 回	ハイデガー III ①	『存在と時間』の哲学
第 13 回	ハイデガー III ②	これまでの歩みがいかに結実しているか
第 14 回	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業中に指示される参考書に目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問や発言を評価の対象とします。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見ます。
追記（4 月 13 日）：オンラインで授業を行う期間は、成績評価の仕方も変更します。こちらも学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、そちらをご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】
個々の学生の関心にも配慮した説明を心がけます。

【Outline and objectives】
We will study the early history of the formation of Martin Heidegger's thought. He departs from the problem of Christian faith and heads for the study of Aristotle in order to investigate the influence of ancient philosophy on Christianity. In this investigation, Heidegger finds out that the history of Western metaphysics is based on a hidden ground, and goes on to attempt to lay bare it in his main book Being and Time. Moreover, throughout these early stages of development, Heidegger consistently uses the method of phenomeology, one of the most influential contemporary schools of philosophy at that time. In summary, Heidegger's way to Being and Time is formed by several elements uniquely merged together. In this course, by seeing this process of development, we aim to understand how Heidegger's early attempt ends up Being and Time.

PHL300BB

哲学特講（7）－2

大森　一三

授業コード：A2225　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは「ケア倫理」です。ミルトン・メイヤロフおよびネル・ノディングスらによる「ケア / ケアリング 」についての思想を中心に、「ケア倫理」と関連する問題群を考察してゆきます。
「ケア倫理」は、応用倫理学、臨床哲学、医療倫理、教育哲学、フェミニズムの分野で取り扱わ れることが多いテーマです。したがって上記分野に興味がある方は、引き寄せやすいと思います。 従来の倫理が「道徳的原理」や「普遍性」、「自発性」などを重視するのに対し、「ケア倫理」は 「受容性」や「個別性」、「応答」に基づく倫理を展開します。本講義では、「ケア倫理」とはどのような考え方であり、どのような点で他の立場と区別されるのか、代表的な論者の主張を紹介し てゆきます。

【到達目標】
「ケア倫理」とは、どのようなものであり、どのような態度でどのような問題を扱い、解決を与 えようとしてきたのかを理解すること。そして「ケア倫理」が、たとえば「規範主義的倫理」や 「功利主義」「共同体主義」などの異なる立場とどのような関係にあるのかを理解することが本講 義の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義とディスカッションを行います。講義に際しては、毎回のテーマに即した資料 を配布し、パワーポイントを用いて説明を行います。「ケア倫理」について、一定の理解が進んだ 段階でディスカッションを行います。ディスカッションの形式は、参加人数によって再検討します が、基本的には全員参加型で行う予定です。 また各授業内でレポートを提出していただき、翌週の授業ではそのレポート内容を紹介しながら 講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、講義の進め方など
第 2 回	「ケアリング」とはどういうことか?	「ケアリング」の概説的考察
第 3 回	「ケアする人」と「ケアされる人」の関係	ケア倫理の基本的立場
第 4 回	「ケアする人」について	「ケアする人」の特徴と倫理について
第 5 回	「ケアされる人」について	「ケアされる人」の特徴と倫理について
第 6 回	ディスカッション	「ケアと倫理」についてのディスカッション
第 7 回	「ケア」と自律	メイヤロフにおけるケアと自律
第 8 回	「ケア」と教育	学校と社会とケアリング
第 9 回	「ケア」と医療	医療現場におけるケア倫理の特徴
第 10 回	ケア倫理と義務について	義務倫理学とケア倫理の関係
第 11 回	ケアの理想の構築について	徳倫理学とケア倫理の関係
第 12 回	ケアの理想の減殺について	功利主義とケア倫理
第 13 回	オルタナティブとしてのケア倫理	応用倫理学とケア倫理
第 14 回	本講義のまとめ	あらためて全体像をとらえなおす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後、自分なりのイメージをまとめてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義内容が多岐にわたるため、特定のテキストは定めません。必要資料は授業内で紹介します。 また、一部コピー等も配布します。

【参考書】
授業内で随時紹介します。興味がある方は、J・デューイ『学校と社会』(岩波文庫)、R・コールバーグ『道徳性の発達と道徳教育』(麗沢大学出版会) を読んでおくことをおすすめします。

【成績評価の方法と基準】
授業態度、ディスカッションでの発言の評価 (30%)、授業内レポート (40%)、期末レポー ト (30%)

【学生の意見等からの気づき】
スライドを使ったプレゼン形式での講義は継続する。ディスカッションが好評だったため、できるだけ多くの機会を設けたいと思います。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand "Ethics of Care".
After taking this course you will be able to deepen the understandings feature of the Ethics of Care and its terminology. This course will be taught in Japanese.

PHL300BB

哲学特講（8）－1

木島　泰三

授業コード：A2226　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「近代的自然観の成立と自由意志問題」をテーマに、近代科学の成立と共に始まる「機械論的自然観」と人間の「自由意志」をめぐる哲学的問題について学び、またこの主題について哲学的に考えていく力を身につける。
　近代の「機械論的自然観」の成立と共に「自由意志問題」が論じられるようになった、というのは一般的な認識だが、近代の「機械論的自然観」と前近代の「目的論的自然観」との相克を自由意志問題に関連づける、という見方はそれほど一般的ではない。本講義では、この特定の視角をとったときに見えてくる近代世界の中での人間の姿を明らかにしたい。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、近代科学の成立に伴う自然観の変化と「自由意志論争」に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【2020/4/22 追記】
・グーグルクラスルーム（クラスコードは ehccs6l）に資料等をアップロードしていく予定。初回コンテンツはアップロード済み。その中に進め方を詳しく書いたので、シラバスでも通知しておく。
・当面、ウェブ自修コンテンツとして、口頭での講義内容を文章でまとめたものをアップロードしていく。今後、動画による講義等の他の方法を実施するかどうかは未定）。
・例年、学期末に確認テストと期末レポート回収を行ってきたが、ウェブ講義が続く場合、テストの実施が難しいと思われるので、レポートのみの実施となる可能性がある。新型コロナ感染拡大の恐れがある間は、教室授業が許可されたとしてもウェブ講義を続けるべきだと考えているので、14 回の講義すべてをウェブ上で行う（これは現段階で許可されている）、という見込みが大きい。
・コンテンツ更新のタイミングは、当初、週 1 回、月曜午前中に新しい授業内容をアップしていく、という形態を考えていたが、受講者側から見ても、配信する側から見ても、定期更新から得られる利益は少ないのではないかと考え直した。また、4 月 7 日開始のスケジュールが 21 日開始になったことで、2 回分の講義を本来のスケジュール外で行う必要が発生している事態にも対応したい。そこで方針としては、「12 週中に 14 回分の講義内容をアップロードする」という対応をとる。そうなると週 1 回 1 講義よりも少し速いペースで講義コンテンツのアップロードを行わなければならない。今のところ、とりあえず 27 日（月）には第 2 回のコンテンツをアップロードする予定でいる。その後、講義 14 回分のアップロードが完了するまでは、「最低限、毎週、月曜日朝までに更新分 1 講義のアップロードをする」という体制で進めようと思う。予定としては、まずは早い内に 2 回の不足分を埋め、その後もこころもち早めにコンテンツのアップロードを進めて、授業期間終了前に全 14 回分のアップロードを済ませてしまう、という流れを考えている。もちろん受講者側は、自分なりの無理のないペースでコンテンツをダウンロードして学修を進めてよい。それによって、期末の成績評価の時期までに、本講義に関して、最終的に 1 コマ 2 単位分の学習（「オンラインでの受講と学生自身による学習を合わせて、標準的な学生にとって 90 時間を要する学修内容」）を 14 回分行えればよいことになる。また講義の性格上、各コンテンツごとに必ず何らかのリアクションを求めて受講確認をする。
【2020/4/21 追記・その 2】授業開始日はスケジュール通り 4 月 27 日（授業期間最初の月曜）を予定しているが、初回授業のコンテンツをそれ以前にアップロードする可能性もある（その場合、シラバスと学習支援システム、グーグルクラスルームで告知する）。
【2020/4/21 追記】学習支援システムがアクセスしにくくなっているとのことで、Google Classroo にも同一コンテンツを配信し、場合によってはそちらをメインの媒体とする。クラスコードは下記。
ehccs6l
【2020/4/12 追記】新型コロナウィルス対策による学年暦変更と入構制限に対応し、授業形態の変更を予定している。詳しくは今後、学習支援システムを通じて告知するが、基本方針としては、同一スケジュールの授業を、適宜、教室授業の代替方式を用いて実施していく予定。（以下参考として、もとの授業予定も削除せずに残しておく）
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：「決定論と自由意志」問題と自然観の問題	自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など。
第 2 回	現代の自由意志論争の見取り図／ソクラテスとスピノザに見る自由意志と自然観の問題	はじめに現代の自由意志論争のいくつかの立場を整理し、次にソクラテスとスピノザという異なる時代の哲学者の言葉を手がかりに、自由意志問題と自然観の問題の結びつきを確認する
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観	古代に確立し、中世ヨーロッパで正統説とされたアリストテレスの「目的論的自然観」を見ていく
第 4 回	科学革命における目的論的自然観への批判	近代科学の確立によってアリストテレスの目的論的自然観がどのように退けられていったかを見ていく
第 5 回	ストア派とエピクロス派／決定論と運命論／中世から近代初期までの自由意志論争	古代後期にいったん戻り、ストア派とエピクロス派における自然観と自由意志の問題を見た後、「決定論と運命論の違い」を考え、その後キリスト教化した西ヨーロッパにおける自由意志論争を概観する
第 6 回	デカルトにおける「機械としての自然」と「自由な精神」	機械論的自然観を哲学的に基礎づけたデカルトの哲学に則して、自然観と自由意志の問題を見ていく
第 7 回	スピノザの必然主義	スピノザにおける、数学的／機械論的自然観にもとづく因果的決定論の徹底と、それにもとづく自由意志の否定の思想を見ていく
第 8 回	ライプニッツによる機械論と目的論の調停	スピノザ主義を忌避し目的論と機械論の調停をはかろうとしたライプニッツの苦闘を見ていく
第 9 回	ライプニッツにおける自由と必然の問題	スピノザ主義を忌避し自由意志と決定論の調停をはかろうとしたライプニッツの苦闘を見ていく
第 10 回	ニュートンの生命主義的自然観およびその後の自然観の展開	ライプニッツの機械論と決定論を生命主義的な観点から批判するニュートンの思想と、その後のダーウィンの前の時代までの自然観の展開を概観する
第 11 回	ダーウィンによる目的論の自然化	ダーウィンによる「目的論的自然観の否定／目的論の自然化」という両義的な革新を見ていく
第 12 回	現代の自然化された目的論――「利己的」な遺伝子他	現代におけるダーウィン主義的思考の洗練された形態を、「利己的遺伝子」の考え方を中心に見ていく
第 13 回	自然化された運命論？	「利己的遺伝子に操られる人間」や「脳に操られる私」のような考え方の妥当性を検討する
第 14 回	まとめ：科学革命と現代／授業内試験／レポート回収	今期の内容を振り返り、そのあと授業内試験・レポート回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、歴史的知識に関しては、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、オットー・マイアー『時計じかけのヨーロッパ』（平凡社）など。自由意志や科学的人間観の問題に関してはダニエル・デネット『自由は進化する』（NTT 出版）、戸田山和久『哲学入門』（ちくま新書）など。

【成績評価の方法と基準】
レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
【2020/4/12 追記】教室授業の代替方式の決定に応じて一定のネット環境等が必要となる場合がある。最低限、学習支援システムの閲覧環境（レジメ等の閲覧が問題なくできる環境）は確保してほしい。

【Outline and objectives】
Our primary objective is to learn about the so-called 'free-will problem' against the background of the establish of modern science. You shall learn the free-will problem, which have arisen with the beginning of modern science and the so-called 'mechanical world view'. You should acquire several proper knowledge and perception about this topic in order to think this topic philosophically.
Though it is a commonplace that the modern free-will problem started with the rise of the mechanical world view, yet it is not too common view that connects the free-will problem with the conflict between the teleological worldview and the mechanical one. But with taking this view, we shall get a better view of how human kind should be situated in this modern world.

PHL300BB

哲学特講（８）－２

中釜　浩一

授業コード：A2227　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：心の科学哲学
現代の「心の哲学」は，「物理的世界における心の位置づけ」を主要な課題として発展してきた。この講義では、デカルトから現代に至る・心に関する様々な立場を検討することで、「心は世界の究極的な構成要素なのか」、「心と身体（脳）の関係はいかなるものか」、「心は果たして／いかにして因果的力をもつのか」等の問題を考える．

【到達目標】
「心」に関する現代的な立場に関して、それを支える議論とその問題点を理解し、心をめぐる諸問題に対する自らの考え方とその根拠を明確にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこなう。毎回リアクションペーパーによって疑問点、説明を補足するべき点等を確認し、次回授業の冒頭で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の心の哲学の課題	心の何が問題か
第 2 回	デカルトの心の哲学 (1)	デカルト的二元論の議論
第 3 回	デカルトの心の哲学 (2)	デカルト的二元論の問題点
第 4 回	哲学的行動主義（1）	ライルの議論の検討
第 5 回	哲学的行動主義（2）	行動主義の問題点
第 6 回	心脳同一説（1）	心脳同一説の論拠
第 7 回	心脳同一説（2）	心脳同一説の問題点
第 8 回	機能主義（1）	機能主義とはいかなる考えか
第 9 回	機能主義（2）	パトナムの議論
第 10 回	消去主義	チャーチランドの議論
第 11 回	非還元的唯物論（1）	非還元的唯物論とはいかなる立場か
第 12 回	非還元的唯物論（2）	非還元的唯物論の問題
第 13 回	汎心論	汎心論の根拠
第 14 回	まとめ	「心」に対していかなる立場をとるべきか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
デカルト，ライル，ネーゲル，サール等の原典を参照するとともに，授業で紹介する各種の入門書を読んでおく．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
デカルト「省察」
ライル「心の概念」
サール「マインド」
シリーズ　心の現代哲学
その他適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー　６０％
期末のレポート　４０％

【学生の意見等からの気づき】
電子機材やプリント等に頼らず、あえて Talk & Chalk の伝統的やり方に従った方が、哲学的議論を解説・検討する際には有効だと感じている。

【Outline and objectives】
Theme: Philosophy of Mind
Modern philosophy of mind has developed through considering what status mind occupies in the physical world. In this course, we will discuss some of main philosophical positions concerning Mind from Descartes to 21 century, focusing on the problems such as 'Is mind a fundamental element of the world?', ' What is the relation between body and mind?' and 'What is the mental causation?'.

PHL200BB

国際哲学特講

安孫子　信

授業コード：A2301　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■〈異文化理解〉の問題を海外で学びます．
―文化理解の問題を教室だけではなく，学期末に海外に出かけ，実際に異文化との接触の中で学びます．
―海外研修ではストラスブール大学（フランス）とハイデルベルグ大学（ドイツ）で合同ゼミを行います．
―日本語学科の学生たちとの合同ゼミで，交流は日本語で行います．
―合同ゼミの合間をぬって，滞在地フランス，ドイツの文化遺産を見学し，食を始めとする生活文化に触れます．

【到達目標】
■〈自文化〉を学び直します．
―合同ゼミでは〈異文化〉の例として〈日本文化〉を取り上げます．そのため半期の教室授業では〈日本文化〉を学び直します．
■〈異文化〉を肌で知ります．
―海外研修では，フランス，ドイツの風物とともに，交流する学生たちの考え方に直接触れて，両文化をいわば肌で学びます．
■〈異文化理解〉の意味を学び直します．
―〈日本文化〉理解に打ち込むフランス，ドイツの学生たちとの交流を通して，〈異文化理解〉が知識の問題ではなく，生き方の問題であることを学びます．
■〈自分〉の見直しが生じます．
―「今までの大学生活で自分は何をしてきたのだろう」，「初めて外国語を本当に勉強したいと思った」などの言葉が，帰路に学生たちの口からもれます．〈異文化理解〉で何より理解されてくるのは，実はあるべき〈自分〉の姿です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
■国内での授業
― 9 月からの授業期間には，教室で通常のゼミ形式の授業を行います．
―ただそれは，学期末に行う海外研修に備えてのもので，合同ゼミで取り上げられる問題に応じたテーマが取り扱われます．扱うテーマはハイデルベルク大学，ストラスブール大学との協議の上で，夏休み明けに決定します．
―ストラスブール大学との間では，秋学期の通常授業期間中に，スカイプで合同ゼミの予行演習を 3 － 4 回行います．
■海外での研修
― 2 月に 1 週間，フランス，アルザス地方にあるアルザス欧州日本学研究所（CEEJA）に滞在し，そこを拠点として，ハイデルベルグとストラスブールに移動しながら，両大学の学生と合同の授業を 5 回行います．
―その他の時間には，アルザスの歴史と現在に触れる多方面の見学を行います．
■注意事項
―この特講での単位取得には海外研修参加が必要です．
―ですから，長時間の飛行機での移動が健康上可能であること，また航空券代金を含む参加費の負担が可能であることが受講の条件となります．
―参加費は旅費・滞在費すべてを含めて 25 万円ほどを予定しています．なおその内の 4 分の 1(上限 5 万円) については大学から一人一人に補助が出ます．（以上の数字はあくまでも目安です．為替レートや航空運賃の変動に左右されます）．
―これは特講ですので 2 年生～4 年生まで受講可能です．ただ他の特講とは違って複数回の受講はできません．他方で，2 年生の特講受講の上限は，この特講を取るときは 6 単位まで引き上げられます（そうでなければ 4 単位までです）．
―また受講者数は 20 名程度を目安としています．万が一それを大きく超える受講希望者がいた場合には，受講希望者に前もって提出してもらう「受講希望理由」と過年度の成績（GPA）とで選抜を行う場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の意義と流れの説明．
第 2 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (1)	『陰翳礼賛』と和辻哲郎『風土』
第 3 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (2)	『陰翳礼賛』と岡倉天心『茶の本』
第 4 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (3)	『陰翳礼賛』と谷崎の東洋趣味
第 5 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (4)	『陰翳礼賛』と谷崎の西洋趣味
第 6 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (5)	『陰翳礼賛』に見る日本主義

第 7 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (6)	『陰翳礼賛』に見る反日本主義
第 8 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (7)	『陰翳礼賛』とメルロ＝ポンティ『眼と精神』が言う「見えないもの」
第 9 回	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』の問題 (8)	『陰翳礼賛』とメルロ＝ポンティ『眼と精神』が言う「存在のテクスチャー」
第 10 回	日本における LGBTQ s の問題 (1)	日本における LGBTQ s とフェミニズム
第 11 回	日本における LGBTQ s の問題 (2)	日本における LGBTQ s と日本の社会
第 12 回	日本における LGBTQ s の問題 (3)	日本における LGBTQ s と日本の教育
第 13 回	日本における LGBTQ s の問題 (4)	日本における LGBTQ s と日本の文化
第 14 回	総括	参加者からの問題提起を受けて，全体で総括の討論を行います.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―扱うテキストに事前に目を通す.
―当番の各回でレジュメ発表準備を行う.
―節目節目で小レポート（リアクション・ペーパー）を作成する.
―海外合同ゼミでのパワポ発表準備を行う.
―海外合同授業での代表質問準備を行う.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※授業計画中に上げたものは，昨年度の合同ゼミでのテキストで，今年度のものについては，今後，ハイデルベルグ大学およびストラスブール大学との協議で，合同ゼミテーマと同時に決定されます.

【参考書】
※滞在するアルザスについては次のようなものがあります.
新田俊三『アルザスからヨーロッパの文化を考える』（東京書籍）
内田日出美『物語ストラスブールの歴史』（中公新書）
内村卓彦『アルザス文化史』（人文書院）

【成績評価の方法と基準】
学期内の通常の教室授業での平常点が 5 割，海外研修の合同セミでの平常点が 5 割で評価します．到達目標の達成度との関係では、2 つの評価方法の各々で、自文化理解 2 割、異文化理解 3 割、異文化理解の意味の理解 3 割、自分の理解 2 割の割合で勘案を行います。

【学生の意見等からの気づき】
国内・国外のプログラムの充実を図りつつも，過密・過重にならない工夫を行っていきます.

【その他の重要事項】
この特講についての「説明会」を 4 月新学期時に開催します．関心ある人は参加して下さい．（「説明会」の詳細については別途掲示します）.

【Outline and objectives】
We will learn about cultural understanding problems not only in the classroom but also abroad at the end of the term, actually in contact with different cultures. Concretely speaking, we will hold a joint seminar at Strasbourg University (France) and Heidelberg University (Germany), and visit the cultural heritage of France and Germany, and touch life and culture.

PHL400BB

哲学演習（1）

安孫子　信

授業コード：A2230　｜　曜日・時限：**火曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈社会を開く、自分を開く〉
■レインボー・プライドなどの運動を通じて、セクシャル・マイノリティである LGBT への理解も進みつつあります。しかしその理解も、L(レズ) だ G（ゲイ）だといういわばレッテルを該当者に貼った上でのことで、そのレッテルの下にある、一人一人の個性は必ずしも見えません。また、レッテルの有無で、当事者とそうでない者との間の溝もやはり残ります。その点を踏まえて、今日では SOGI（ソジ）ということばが使われ始めています。これはどんな人間にも備わる性的指向 Sexual Orientation と性自認 Gender Identity を指します。SOGI は顔がそうであるように、すべての人に備わっており、しかも一人一人で異なります。（昨年度、国際哲学特講で学んだことです）。
■問題はこうして、人々のあいだに「違い」を見る〈繊細の精神〉と、「違い」を見ずにレッテルに向かう〈幾何学の精神〉との対比になります（『パンセ』断章 7）。そして、今日の〈幾何学の精神〉は、LGBT の安易な排除は行わないとしても、「LGBT は総人口の９％、経済効果は 5 兆円」と言った、LGBT の道具化の議論にすぐに走るでしょう。それに対して、〈繊細の精神〉が SOGI を言うとき、それはセクシュアリティにおける個性の尊重に向かいます。
■パスカルの〈繊細〉vs〈幾何学〉の対比を、〈開いた〉vs〈閉じた〉に置き換えて、現代における〈開いた社会〉vs〈閉じた社会〉の問題を論じたのが、ベルクソンの『道徳と宗教の二源泉』（1932）です。〈閉じた社会〉は、それが〈よい社会〉であるとしても（〈よい社会〉であればあるほど）、構成員の画一化に、また他の社会の排除に向かいます。〈よい社会〉の〈よい子〉圧力は、〈悪い子〉を謝絶し、〈よい大学〉、〈よい会社〉へ進むようにと私たちを圧し続けます。このような圧力の出所はどこなのか。この圧力を免れる道はあるのか。それを免れる〈開いた社会〉とはどんな社会なのか。これらが問われる問いとなります。
■カント、ヘーゲルを生んだ理性の国であるドイツが、〈閉じた社会〉としてナチスの全体主義に全面的に屈していくその只中で書かれた『二源泉』は、次の言葉で閉じられます。「人類は今、自らのなしとげた進歩の重圧に半ば打ちひしがれて呻いている。しかも人類の将来が一にかかって人類自身にあることが、充分に自覚されていない。まず今後とも生き続ける意志があるのかどうか、それを確かめる責任は人類にある」。AI 圧力さえ加わる今日、私たちに〈閉じた社会〉を破る「生き続ける意志」は残されているのでしょうか。この問いを、『二源泉』第 1 章を読む中でともに考えていきたいと思います。

【到達目標】
―ベルクソンの〈生の哲学〉を通じて、日ごろ私たちには見えづらい〈開いた社会〉と〈閉じた社会〉の区別の問題への気づきを得ます。
―その気づきによって、ベルクソンに従って、私たちの先入見の転換を果たします。すなわち、「理性の命令は本能的もしくは夢遊病的性質のものだ」ということ。「一切の道徳は生物学的本質のものだ」ということ。
―そのような気づきによって、自分が生きていることを、新たに見直すことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
※オンラインで授業を 4 月 21 日に開講します。
―ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』を参照しつつ、〈開いた〉と〈閉じた〉と言われる二つの〈社会〉の問題を学んでいきます。
―授業では毎回テキスト箇所を定め、それについてのレポーターの発表を手がかりに、全員でテキスト読解を進めます。
―授業内容への感想や意見を記したリアクション・ペーパーを、毎回の授業後に提出してもらいます。
―学年末にはまとめのレポートの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	ゼミの流れの確認
第 2 回	道徳的責務 (1)	「社会の秩序と自然の秩序」の検討
第 3 回	道徳的責務 (2)	「社会のうちの個人」の検討
第 4 回	道徳的責務 (3)	「個人のうちの社会」の検討
第 5 回	道徳的責務 (4)	「自発的服従」の検討
第 6 回	道徳的責務 (5)	「抵抗への抵抗」の検討
第 7 回	道徳的責務 (6)	「定言命法について」の検討
第 8 回	道徳的責務 (7)	「責務と生命」の検討
第 9 回	道徳的責務 (8)	「閉じた社会」の検討
第 10 回	道徳的責務 (9)	「神的人間の招き」の検討
第 11 回	道徳的責務 (10)	「閉じた魂と開いた魂」の検討
第 12 回	道徳的責務 (11)	「情動と駆動力」の検討

第 13 回	道徳的責務 (12)	「情動と創造」の検討
第 14 回	道徳的責務 (13)	「情動と表象」の検討

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	道徳的責務 (14)	「解放感」の検討
第 16 回	道徳的責務 (15)	「前進」の検討
第 17 回	道徳的責務 (16)	「閉じた道徳と開いた道徳」の検討
第 18 回	道徳的責務 (17)	「閉じたものと開いたものの間」の検討
第 19 回	道徳的責務 (18)	「自己敬重」の検討
第 20 回	道徳的責務 (19)	「正義」の検討 ―閉じた正義
第 21 回	道徳的責務 (20)	「正義」の検討 ―開いた正義
第 22 回	道徳的責務 (21)	「圧迫と熱望」の検討
第 23 回	道徳的責務 (22)	「主知主義」の検討 ―カント批判
第 24 回	道徳的責務 (23)	「主知主義」の検討 ―功利主義批判
第 25 回	道徳的責務 (24)	「主知主義」の検討 ―生命の必然力
第 26 回	道徳的責務 (25)	「生の躍動」の検討
第 27 回	道徳的責務 (26)	「躾と神秘的生」の検討
第 28 回	授業のまとめ	ゼミで得られたことの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―毎回、当該箇所のテキストの検討を行って授業に参加します。
―毎回、授業後にリアクション・ペーパーを作成します。
―学期に数回、発表レジュメを作成してレポーター役を果たします。
―各学期末にまとめのレポートを作成します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』（合田正人・小野浩太郎訳、ちくま学芸文庫）

【参考書】
『思想―ベルクソン生誕 150 年』（2009 年 12 月，岩波書店）
久米博・中田光雄・安孫子信（編）『ベルクソン読本』（法政大学出版局）
平井靖史・藤田尚志・安孫子信（編）『ベルクソン「物質と記憶」を解剖する』（書肆心水）
平井靖史・藤田尚志・安孫子信（編）『ベルクソン「物質と記憶」を診断する』（書肆心水）
平井靖史・藤田尚志・安孫子信（編）『ベルクソン「物質と記憶」を再起動する』（書肆心水）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパーを含む平常点 4 割、レジュメ発表 3 割、まとめのレポート 3 割で評価します。その際、各評価では、個々の問題の理解を 4 割、問題と他の問題とのつながりの理解を 3 割、問題と自分自身とのつながりの理解を 3 割で、勘案して行きます。

【学生の意見等からの気づき】
授業ではできるだけわれわれの日常に近い場所で考え論じるように努めます。

【Outline and objectives】
Closed society and open society
Germany, which is the nation of reason created by Kant and Hegel, succumbed to the Nazi totalitarianism as a < closed society > . At that time, Bergson was writing Two Sources of Morality and Religion (1932) . These are the words that close this book : “Mankind lies groaning, half-crushed beneath the weight of its own progress. Men do not sufficiently realize that their future is in their own hands. Theirs is the task of determining first of all whether they want to go on living or not.” Do we still have the will “to go on living” today, despite the inceasingly IT oriented and closed society? We’ll consider this question together while reading Chapter 1 of Two Sources.

PHL400BB

哲学演習（2）

奥田　和夫

授業コード：A2231　｜　曜日・時限：**金曜２限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プラトンの主著『国家』全十巻の読解（内容の理解と検討）をとおしてイデア論と哲人統治説に象徴される、プラトン中期思想（そして中心思想）の把握と哲学的意義の考察が目的である。

【到達目標】
プラトンの主著『国家』全十巻を精読し、プラトン中期思想（中心思想）を把握しつつ、その哲学的意義を考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
『国家』はプラトン哲学の理解のための中心的なテクストであり、また正義と幸福と哲学というテーマをめぐって論じられる問題はきわめて多岐にわたる。この著作は今日の哲学的問題や現代社会の課題を考察する際にも、多くのヒントを提供する、文字どおりの古典中の古典である。この著作を翻訳をとおしてではあるが、精読・吟味する。必要な箇所は原文と英訳等を参照しつつ内容理解を深める。
履修者による「担当箇所の内容要旨・問題点・考察」の発表および発表者と参加者との討議によりすすめる。
【追記】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにともない、各回の授業計画の変更が生じる。その変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は４月 2 ４日（金）を予定している。具体的なすすめ方は学習支援システムに掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 巻第 1 － 8 章の検討・理解	老年論から正義論へ
第 2 回	同巻第 9 － 16 章の検討・理解	正議論：正義とは強者の利益である
第 3 回	同巻第 17 － 24 章の検討・理解	正議論
第 4 回	第 2 巻第 1 － 7 章の検討・理解	主題の再設定：真の正義とは何か
第 5 回	同巻第 8 － 14 章の検討・理解	国家論：国家の成立と国家の守護者
第 6 回	同巻第 15 － 21 章、第 3 巻第 1 － 7 章の検討・理解	守護者の教育：音楽・文芸論
第 7 回	同巻第 8 － 14 章の検討・理解	守護者の教育：体育
第 8 回	同巻第 15 － 21 章の検討・理解	守護者の資質と選抜
第 9 回	第 4 巻第 1 － 6 章の検討・理解	守護者の生活と任務
第 10 回	同巻第 7 － 12 章の検討・理解	国家の四元徳の規定
第 11 回	同巻第 13 － 19 章の検討・理解	魂の機能の三区分説 個人の四元徳の規定
第 12 回	第 5 巻第 1 － 7 章の検討・理解	守護者（男女）の教育と任務
第 13 回	同巻第 8 － 14 章の検討・理解	夫・妻・子供の共有制
第 14 回	同巻第 15 － 22 章の検討・理解	哲人統治説、哲学の規定 春学期のまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	第 6 巻第 1 － 7 章の検討・理解	哲学者の政治（統治）的資質
第 16 回	同巻第 8 － 14 章の検討・理解	非哲学と哲人統治
第 17 回	同巻第 15 － 21 章の検討・理解	善のイデア（太陽の比喩）、線分の比喩
第 18 回	第 7 巻第 1 － 6 章の検討・理解	洞窟の比喩
第 19 回	同巻第 7 － 12 章の検討・理解	哲学者のための高度教育：数学的諸学科

第 20 回	同巻第 13 － 18 章の検討・理解	ディアレクティケーと高度教育プログラム
第 21 回	第 8 巻第 1 － 6 章の検討・理解	不正な国家と人間：名誉支配制
第 22 回	不正な国家と人間：名誉支配制	承前：寡頭制、民主制
第 23 回	同巻第 13 － 19 章の検討・理解	承前：民主制と僭主独裁制
第 24 回	第 9 巻第 1 － 4 章の検討・理解	承前：僭主独裁制
第 25 回	同巻第 5 － 8 章の検討・理解	もっとも不幸な人間ともっとも幸福な人間
第 26 回	同巻第 9 － 13 章の検討・理解	幸福と正義
第 27 回	第 10 巻第 1 － 10 章の検討・理解	ミーメーシス（模倣）としての詩論
第 28 回	同巻第 11 － 16 章の検討・理解	魂の不死と正義の報酬 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プラトン『国家』全巻を精読する。プラトンの考えの是非とその理由を考える。また、参考書を読み、参考にすべき意見と批判すべき意見をその理由とともに考える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プラトン『国家』（上・下）（藤沢令夫訳　岩波文庫）各自用意すること。

【参考書】
田中美知太郎『プラトン』Ⅰ―Ⅳ（岩波書店）
藤沢令夫『プラトンの哲学』（岩波新書）
加来彰俊『プラトンの弁明』（岩波書店）
内山勝利『プラトン『国家』逆説のユートピア』（岩波書店）
小池澄夫『イデアへの途』（京都大学学術出版会）
納富信留『プラトン理想国の現在』（慶応義塾大学出版会）
その他の専門書等は随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での発表、討議への参加・貢献度（50%）と、2 回の期末レポートの内容（50%）とを理解度に照らして評価する。
【追記】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、その期間中の成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、オンラインでの開講中の毎回の小レポートの内容とそこから計られる理解度を勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
正確な読解力を鍛えること。

【学生が準備すべき機器他】
な　し

【その他の重要事項】
な　し

【Outline and objectives】
In this class we read PLato's "Republic." Plato wrote it in his middle period, and it contains his main thoughts. We will aim to understand and estimate them.

PHL400BB

哲学演習（3）

相原　博

授業コード：A2232　｜　曜日・時限：**月曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カントの『人倫の形而上学の基礎づけ』を読む
どんな場合でも絶対に善いものは何か。この問いにカントは、それは善い意志だけであると答えました。財産や健康、家族や友人など、この世に善いと言われるものは多数あるなかで、意志の働きだけが本当の意味で善いと言うのです。そして、この善い意志を明らかにするために、人間のなすべき行為を分析することが、『人倫の形而上学の基礎づけ』の大きな狙いです。カントの意見に容易には賛成できないかもしれません。しかしながら、この意見が、まさに倫理学で「義務論」と呼ばれる立場を確立して、後世に大きな影響を与えたものなのです。善い意志とはどのような意志か。人間がなすべき行為とはどのようなものか。これらの問いの答えを求めながら、カントの義務論の意義を考えます。

【到達目標】
カントの『人倫の形而上学の基礎づけ』の読解により、カントの義務論について理解を深めて、その現代的な意義を考える。また次の能力を高めることも目標になる。
〔読解力・理解力〕テキストや他人の発言を正しく理解できる。
〔思考力・推理力〕論理的に思考できるとともに、新たな問題を発見できる。
〔文章力・表現力〕平易な日本語で文章を書き、かつ発言できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
詳細は学習支援システムの資料を参照すること。
カントの『人倫の形而上学の基礎づけ』を第一章から読み進める。対面による授業が実施できない場合、受講生は毎週、該当箇所を自分で読み、課題を提出して添削を受けることとする。
また補助手段として、学習支援システムの掲示板を利用し、受講生による質疑応答や議論を行う予定である。なお対面で授業が実施できるようになった場合には、変更する可能性がある。授業は 4 月 27 日より開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介と『人倫の形而上学の基礎づけ』
第 2 回	善意志について（第一章）	テキスト 240 頁から 241 頁まで
第 3 回	善意志の善さについて	テキスト 241 頁から 243 頁まで
第 4 回	理性の目的について	テキスト 243 頁から 245 頁まで
第 5 回	理性の真の任務について	テキスト 245 頁から 246 頁まで
第 6 回	義務にもとづく行為について	テキスト 246 頁から 248 頁まで
第 7 回	行為の道徳的価値について	テキスト 248 頁から 251 頁まで
第 8 回	行為の格率について	テキスト 251 頁から 253 頁まで
第 9 回	行為の普遍的法則性について	テキスト 253 頁から 254 頁まで
第 10 回	いつわりの約束について	テキスト 254 頁から 256 頁まで
第 11 回	普遍的立法に対する尊敬について	テキスト 256 頁から 259 頁まで
第 12 回	義務の法則に反対する議論について	テキスト 259 頁から 261 頁まで
第 13 回	義務の概念に対する苦情について（第二章）	テキスト 263 頁から 264 頁まで
第 14 回	義務の概念を経験からとり出すことについて	テキスト 265 頁から 266 頁まで

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	義務の概念の必然性について	テキスト 266 頁から 268 頁まで
第 16 回	道徳の原理の哲学的認識について	テキスト 268 頁から 270 頁まで
第 17 回	人倫の形而上学について	テキスト 270 頁から 272 頁まで
第 18 回	実践的理性能力について	テキスト 272 頁から 274 頁まで
第 19 回	仮言的命法と定言的命法について	テキスト 274 頁から 276 頁まで
第 20 回	熟練の命法について	テキスト 276 頁から 278 頁まで
第 21 回	命法における強制の仕方のちがいについて	テキスト 278 頁から 280 頁まで

第 22 回	利口の命法の可能性について	テキスト 280 頁から 283 頁まで
第 23 回	道徳の命法の可能性について	テキスト 283 頁から 284 頁まで
第 24 回	定言的命法の解明の困難について	テキスト 284 頁から 286 頁まで
第 25 回	完全義務について	テキスト 286 頁から 288 頁まで
第 26 回	不完全義務について	テキスト 288 頁から 290 頁まで
第 27 回	義務に違反する行為について	テキスト 290 頁から 291 頁まで
第 28 回	『人倫の形而上学の基礎づけ』の意義を考える	テキスト第一章および第二章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
対面の授業が実施できない場合、授業時間外の学習が特に必要になる。

【テキスト（教科書）】
カント『人倫の形而上学の基礎づけ』野田又夫訳、中央公論社、2005 年（中公クラシックス『カント』に所収）

【参考書】
小牧治『カント』、清水書院、1967 年
御子柴善之『自分で考える勇気　カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、2015 年
中島義道『悪について』、岩波新書、2005 年
H・J・ペイトン『定言命法』杉田聡訳、行路社、1986 年
その他、ゼミで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題レポート（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Reading Kant's ″Groundwork for the Metaphysics of Morals″
What is absolutely good in any case? Kant answered this question that it was only a good will. There are many things that are said to be good in this world, such as property, health, family and friends. But Kant said that only the function of will was really good. In order to explain this good will, analyzing the duty of human beings is a purpose of Kant's ″Groundwork for the Metaphysics of Morals″ You may not agree with Kant's opinion. However, this was the opinion that established a position in ethics called deontology and had a great influence on posterity. What is the good will? What should human beings do? While finding the answer to these questions, we consider the significance of Kant's deontology.

PHL400BB

哲学演習（4）

酒井　健

授業コード：A2233　｜　曜日・時限：**木曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス現代思想の広さと深さを学ぶ。芸術、共同体、宗教、政治、性などアクチュアルな問題とのつながりを学んでいく。

【到達目標】
ミシェル・フーコーの『知への意志』（『性の歴史』第 1 巻）を中心にして理性的なものと非理性的なもののかかわりを現代社会に照らして考えていく。ジョルジュ・バタイユの『エロティシズム』との対比も随時試みる。
1. 現代社会に対する哲学的考察＝性の問題に介入する政治権力と一般民衆の間の関係を欲望の視点から新たに捉えられるようにする。
2. 理性の可能性と限界への哲学的考察＝「知る」と「語る」という理性の働きの可能性と限界について新たな見方を手に入れる。
3. 表現の可能性への哲学的考察＝性の表現の問題に関して、芸術と倫理の視点から新たな見方を得られるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の発表が中心になる。
今年度の開校日は 4 月 23 日とし、その後しばらくのあいだオンラインで授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	この演習の特色を紹介。
第 2 回	フランス現代思想とフーコーの紹介	20 世紀から今日まで世界の思想界をリードしてきたフランス現代思想の歴史とフーコーの思想の概要を紹介
第 3 回	『知への意志』第 1 回	『性の歴史』3 巻本とその第 1 巻『知への意志』についての概説
第 4 回	『知への意志』第 2 回	バタイユの『エロティシズム』との異同を概説する。
第 5 回	『知への意志』第 3 回	第 1 章「我らヴィクトリア朝の人間」（邦訳 9 − 22 頁）の 9 − 12 頁の学生発表
第 6 回	『知への意志』第 4 回	第 1 章「我らヴィクトリア朝の人間」（邦訳 9 − 22 頁）の 13 − 16 頁の学生発表
第 7 回	『知への意志』第 5 回	第 1 章「我らヴィクトリア朝の人間」（邦訳 9 − 22 頁）の 17 − 19 頁の学生発表
第 8 回	『知への意志』第 6 回	第 1 章「我らヴィクトリア朝の人間」（邦訳 9 − 22 頁）の 20 − 22 頁の学生発表
第 9 回	『知への意志』第 7 回	第 2 章「抑圧の仮説」（25 − 65 頁）の 25 − 30 頁の学生発表
第 10 回	『知への意志』第 8 回	第 2 章「抑圧の仮説」（25 − 65 頁）の 31 − 35 頁の学生発表
第 11 回	『知への意志』第 9 回	第 2 章「抑圧の仮説」（25 − 65 頁）の 36 − 40 頁の学生発表

第 12 回	『知への意志』第 10 回	第 2 章「抑圧の仮説」（25 － 65 頁）の 41 － 45 頁の学生発表
第 13 回	『知への意志』第 11 回	第 2 章「抑圧の仮説」（25 － 65 頁）の 45 － 50 頁の学生発表
第 14 回	まとめ	第 2 章「抑圧の仮説」（25 － 65 頁）の 51 － 60 頁を対象にした記述論文試験

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	『知への意志』第 12 回	第 3 章「性の科学」（69-97 頁）の 69-75 頁の学生発表
第 16 回	『知への意志』第 13 回	第 3 章「性の科学」（69-97 頁）の 76-97 頁の学生発表
第 17 回	『知への意志』第 14 回	第 4 章「性的欲望の装置」（101-167 頁）の 101 － 105 頁の学生発表
第 18 回	『知への意志』第 15 回	第 4 章「性的欲望の装置」（101-167 頁）の「1. 目的」106 － 118 頁の学生発表
第 19 回	『知への意志』第 16 回	第 4 章「性的欲望の装置」（101-167 頁）の「2. 方法」119 － 132 頁の学生発表
第 20 回	『知への意志』第 17 回	第 4 章「性的欲望の装置」（101-167 頁）の「3. 領域」（133 － 146 頁）の学生発表
第 21 回	『知への意志』第 18 回	第 4 章「性的欲望の装置」（101-167 頁）の「4. 時代区分」（147 － 167 頁）の学生発表
第 22 回	『知への意志』第 19 回	第 5 章「死に対する権利と生に対する権利」（171 － 203 頁）の 171 － 176 頁の学生発表
第 23 回	『知への意志』第 20 回	第 5 章「死に対する権利と生に対する権利」（171 － 203 頁）の 177 － 182 頁の学生発表
第 24 回	『知への意志』第 21 回	第 5 章「死に対する権利と生に対する権利」（171 － 203 頁）の 183 － 188 頁の学生発表
第 25 回	『知への意志』第 22 回	第 5 章「死に対する権利と生に対する権利」（171 － 203 頁）の 189 － 194 頁の学生発表
第 26 回	『知への意志』第 23 回	第 5 章「死に対する権利と生に対する権利」（171 － 203 頁）の 195 － 200 頁の学生発表
第 27 回	『知への意志』第 24 回	第 5 章「死に対する権利と生に対する権利」（171 － 203 頁）の 201 － 203 頁の学生発表
第 28 回	まとめ	秋学期の復習をかねた記述論文テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. フーコーやバタイユの入門書を読んでおくこと。
2. フロイトの『精神分析入門』を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ミシェル・フーコー著『知への意志』渡辺守章訳、新潮社

【参考書】
バタイユ著『エロティシズム』酒井健訳、ちくま学芸文庫
フロイト著『精神分析入門』上・下、高橋義孝著、新潮文庫
中山元著『フーコー入門』ちくま新書
酒井健著『バタイユ入門』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
1）上記「到達目標」に記した 3 つの目標をどれだけ達成しているかに基準をおく。
2）授業での発表（25 %）、その際作成し配布される発表原稿（25 %）、期末の復習テスト（50 %）によって判定する。
3）オンラインでの授業により 2）の最初の項目二つに関して、学習支援システムで出される課題への回答をもってかえる。

【学生の意見等からの気づき】
とくにない。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【その他の重要事項】
発表をしっかり行うこと。無断欠席は厳禁。

【Outline and objectives】
This course introduces breadth and depth of French modern thoughtespecially through our current problems as art, communityn, politics and sexuality.

PHL400BB

哲学演習（5）

笠原　賢介

授業コード：A2234　｜　曜日・時限：**月曜３限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実な時代を考え、生きてゆくうえで見落とすことのできない哲学者ニーチェを取り上げます。
本年度は、ニーチェ哲学のエッセンスが詰まったアフォリズム集『悦ばしき知恵』を読みます。同じ時期に書かれた『ツァラトゥストラ』との関係、ニーチェ哲学の現代哲学・思想・芸術への影響、哲学の伝統との関係にもふれてゆきます。
一般に流布されたニーチェについての既成観念を取り払って、ニーチェの言葉に直接耳を傾け、対話・討論することを目指します。

【到達目標】
ニーチェのテクストに直接触れ、討論を通して、ニーチェ哲学についての理解を深める。一般に流布されたニーチェ像を越えて、ニーチェ哲学の現代的な意義、魅力、問題点を各人の目でとらえ、討議する。現代哲学・思想、芸術に与えた影響、哲学の伝統との関係、ニーチェの時代のコンテクストをとらえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
『悦ばしき知恵』は 382 の断章からなっています。はじめにいくつかの断章でニーチェの考え方の特徴を確認した後、テーマ別に代表的な断章を選んで読み進めます。
テクストは『愉しい学問』（森一郎訳）講談社学術文庫を用います。
毎回、取り上げる範囲と報告者を決めて進めてゆきます。報告者は、レジュメを作成し、担当箇所を解きほぐした上で、問題点や疑問点を提起します。討論を通して、複数の視点から内容への理解を深めるという形で進めてゆきます。必要に応じて、補いのプリントを配ります。
＊授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。授業は、4 月 27 日（月）から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方について。ニーチェと『悦ばしき知恵』についての導入的な話をします。
第 2 回	さまざまなニーチェ像・ニーチェ理解	ニーチェについてのイメージや理解を出し合いながら、ニーチェのとらえ難さと魅力を確認し、今後の読み進めの方向性を探ります。以下の進度は、おおよその目安です。
第 3 回	『悦ばしき知恵』（1）ニーチェのアフォリズムの魅力	『悦ばしき知恵』のいくつかの断章を読み、ニーチェの言葉の魅力をとらえます。
第 4 回	『悦ばしき知恵』（2）	引き続き『悦ばしき知恵』のいくつかの断章を読み、ニーチェの言葉の魅力をとらえます。
第 5 回	『悦ばしき知恵』（3）アフォリズム的思考の特徴と哲学	ニーチェがなぜアフォリズムという表現形式を採用したのか、そこにはどのような哲学が潜んでいるのかを考えます。
第 6 回	『悦ばしき知恵』（4）	引き続きアフォリズムという表現形式の背後にあるニーチェの哲学を探ります。
第 7 回	『悦ばしき知恵』（5）〈知〉〈真理〉をめぐって	〈知〉〈真理〉〈学問〉をめぐる断章を取り上げ、哲学についてのニーチェのとらえかたを掘り下げます。
第 8 回	『悦ばしき知恵』（6）	引き続き〈知〉〈真理〉〈学問〉をめぐるニーチェの省察をとらえ、討議します。
第 9 回	『悦ばしき知恵』（7）ニーチェとプラトン、デカルト	ニーチェが哲学の伝統とどのように対決したのか、プラトン、デカルトを論じた断章を取り上げて考えます。
第 10 回	『悦ばしき知恵』（8）	引き続きニーチェが哲学の伝統とどのように対決したのかを考えます。
第 11 回	『悦ばしき知恵』（9）〈神の死〉をめぐって	〈神の死〉が語られたいくつかの断章を取り上げ、その意味を考えます。
第 12 回	『悦ばしき知恵』（10）	引き続き〈神の死〉が語られたいくつかの断章を取り上げ、その意味を考えます。
第 13 回	『悦ばしき知恵』（11）	〈神の死〉をめぐるニーチェの思索をまとめます。
第 14 回	春学期のまとめ	期末レポートの執筆を見すえながら、春学期に取り組んだ内容を振り返り、討論とまとめをおこないます。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のふりかえりと秋学期の展望	春学期レポートの回収。春学期の内容を整理し、秋学期の内容を展望します。
第 16 回	『悦ばしき知恵』（12）〈運命愛〉をめぐって	〈運命愛〉が語られた断章およびそれに関連する断章を取り上げ、考えます。
第 17 回	『悦ばしき知恵』（13）	引き続き〈運命愛〉が語られた断章およびそれに関連する断章を取り上げ、掘り下げます。
第 18 回	レポートに基づく発表（1）	春学期のレポートのいくつかについて、執筆者が発表をし、皆で討議します。
第 19 回	レポートに基づく発表（2）	春学期のレポートのいくつかについて、執筆者が発表をし、皆で討議します。
第 20 回	『悦ばしき知恵』（14）〈時間〉をめぐって	〈時間〉をめぐる思索が示された断章を取り上げ、『ツァラトゥストラ』と関連させて考えます。
第 21 回	『悦ばしき知恵』（15）	引き続き〈時間〉をめぐる思索が示された断章を取り上げ、『ツァラトゥストラ』と関連させて考えます。
第 22 回	卒業論文の中間発表	卒論執筆者が内容の要点を発表し、討議します。
第 23 回	『悦ばしき知恵』（16）〈音楽〉をめぐって	〈音楽〉を論じたいくつかの断章を取り上げ、ニーチェの〈音楽〉観をとらえます。
第 24 回	『悦ばしき知恵』（17）〈芸術〉をめぐって	ニーチェの〈芸術〉観が示されたいくつかの断章を取り上げ、その奥行きをとらえます。
第 25 回	『悦ばしき知恵』（18）	引き続きニーチェの〈芸術〉観が示されたいくつかの断章を取り上げ、一年間で明らかになったこととの関連を考えます。

第 26 回	哲学者たちのニーチェ理解	ヤスパース、ハイデガー、ピヒトのニーチェ解釈を示して、これまでに学んだ内容と関連させて討論します。
第 27 回	秋学期のまとめ	期末レポートの執筆を見すえながら、秋学期に取り組んだ内容を振り返り、討論とまとめをおこないます。
第 28 回	全体のまとめ。	今年度に取り組んだ内容の全体をふりかえり、討論とまとめをおこないます。秋学期レポートの回収。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる断章をあらかじめ読んでゼミにのぞむこと。各回の担当者は、担当箇所についてプリントをあらかじめ作成すること。補いの資料を配布した場合には、それを読んでポイントを確認すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ニーチェ (森一郎訳)『愉しい学問』講談社学術文庫。

【参考書】
ニーチェ（氷上英廣訳）『ツァラトゥストラはこう言った（上）・（下）』岩波文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』日本放送出版協会。ピヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。三島憲一他編『ニーチェ事典』弘文堂。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ハイデガー（細谷貞雄監訳）『ニーチェ I・II』平凡社ライブラリー。

【成績評価の方法と基準】
平常点（討論・質疑応答への参加と発表、リアクションペーパー）とレポート（春学期末、秋学期末それぞれ一回）によって、到達目標を基準にして評価します（平常点 50 %、レポート 50 %）。
＊授業内容・方法の変更にともなう成績評価の方法と基準の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【学生の意見等からの気づき】
報告、質疑応答、討論に積極的に参加してほしい。リアクションペーパーを活用してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【Outline and objectives】
Seminar on Nietzsche's Philosophy. Key words: The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra; Diverse interpretations on Nietzsche' thought, Nietzsche's influence to modern thoughts, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tadition.

PHL400BB

哲学演習（6）

君嶋　泰明

授業コード：A2235　｜　曜日・時限：**木曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルティン・ハイデガーの講義『現象学の根本問題』の邦訳を読みます。この講義は彼の主著『存在と時間』が刊行された年に行われました。カントやアリストテレスについての解釈が展開されますが、『存在と時間』よりも読みやすいので、ハイデガーの用語や考え方に馴染むのによいテキストです。前年度に引き続き、受講生にはテキストを一文一文丁寧に、粘り強く読もうとする姿勢を求めます。というのも、この授業では、たんにハイデガーの思想を理解するだけでなく、一般に哲学のテキストを読むとはどのようなことなのかを学ぶことを目的としているからです。

【到達目標】
(A) 哲学のテキストを十分に理解できた状態というのがどのようなものかを大まかに把握している。
(B) 難解なテキストを読むさい、そのような状態に少しでも近づくべく創意工夫を凝らすことができる。
(C) 読解において自分の理解度を正確に把握し、「わかったつもり」にならないよう気をつけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の担当者と質問者を決めておきます。担当者はテキストの担当箇所について、自分の理解した内容をまとめておき、それを授業で報告します。質問者も事前に同じ箇所を読み込み、質問を考えておきます。授業では担当者による報告、質問者による質問、それへの担当者による応答を足がかりとして、参加者全員でテキストをよりよく理解するために意見を出し合います。
なお本授業の開始日は 4 月 23 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方の説明、テキストを読む前に知っておくべきことの解説
第 2 回	存在にかんするカントのテーゼ	報告と討議
第 3 回	カントのテーゼが置かれている文脈	報告と討議
第 4 回	カントのテーゼの内容	報告と討議
第 5 回	カントの存在概念	報告と討議
第 6 回	カントの存在概念の曖昧さ	報告と討議
第 7 回	存在と知覚の関係	報告と討議
第 8 回	何かを知覚することに備わっている構造	報告と討議
第 9 回	知覚の志向性	報告と討議
第 10 回	志向性と存在の関係	報告と討議
第 11 回	カントのテーゼから見てとれること	報告と討議
第 12 回	存在するとはどのようなことか	報告と討議
第 13 回	ハイデガーの狙い	報告と討議
第 14 回	まとめ	春学期を振り返る

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	存在と本質の区別にかんするアリストテレスのテーゼ	報告と討議
第 16 回	アリストテレスのテーゼの内容	報告と討議
第 17 回	テーゼの内容にかんする伝統的な議論	報告と討議
第 18 回	トマス・アクィナスの見解	報告と討議
第 19 回	ドゥンス・スコトゥスの見解	報告と討議
第 20 回	スアレスの見解	報告と討議
第 21 回	区別の起源を問うこと	報告と討議
第 22 回	区別の起源にある物を製作する態度	報告と討議
第 23 回	物を製作することに備わる志向性	報告と討議

第 24 回	カントのテーゼとの関係	報告と討議
第 25 回	製作にたいする直観の優位	報告と討議
第 26 回	区別が妥当する範囲について	報告と討議
第 27 回	ハイデガーの狙い	報告と討議
第 28 回	まとめ	秋学期を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者はテキストの担当箇所について、自分の理解した内容をまとめたレジュメを作成します。質問者は内容の理解に資するような質問を考えておきます。参加者も積極的に議論に参加できるよう該当箇所を熟読しておきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
M. ハイデガー著・木田元・平田裕之・迫田健一訳, 『現象学の根本諸問題』, 作品社, 2010 年.
聴講者のノートを翻訳したもので、ハイデガー全集所収のテキストと厳密に一致するわけではありません。ただし翻訳としての読みやすさを考慮してこちらを用います。
希望者にはコピーを配りますので、必ずしも購入する必要はありません。

【参考書】
全集版の翻訳は以下です。
M. ハイデガー著・溝口兢一・松本長彦・杉野祥一・S. ミュラー訳, 『現象学の根本諸問題』, 創文社, 2001 年.
その他の参考書は適宜授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
担当者および質問者としての評価が 70%、参加者としての評価が 30%です。前者はレジュメおよび質問や応答の内容を、後者は議論への積極的な参加とそこでの発言を評価の対象とします。そのさい、上記の到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度を配慮しながら適宜解説を加えつつ授業を進めます。

【Outline and objectives】
We will read Martin Heidegger's lecture course *The Basic Problems of Phenomenology*. This course was held in the year Heidegger's main book Being and Time was published. The text is more readable than Being and Time and so good for getting used to Heidegger's way of thinking and his terminology. Students are required to read the text carefully and patiently, sentence by sentence. This is because the objective of this course is not just to understand Heidegger's thought, but to learn how to read a philosophical text in general.

PHL400BB

哲学演習（7）

西塚　俊太

授業コード：A2236 ｜ 曜日・時限：**木曜２限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
唯円『歎異抄』（春学期）と九鬼周造『偶然性の問題』（秋学期）を読み進めることを通じて、日本思想史における多様な側面を把握していく。特に、仏教思想と九鬼周造の近代哲学に共通する「出会い」に関する思想の理解を目指していくことになる。

【到達目標】
・唯円『歎異抄』と九鬼周造『偶然性の問題』の著作を中心に、日本思想史における原典を読み解くことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
定通り 4 月 23 日開始です
（1）受講者全員に佐藤正英校註『〈定本〉歎異抄』（春学期）と九鬼周造『偶然性の問題』（秋学期）の担当箇所を割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈について参加者全員で議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『〈定本〉歎異抄』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	討論の技法と論文作法	演習を進めるにあたっての討論の方法と、卒業論文を執筆するための論文の書き方を習得していく
第 3 回	「異義条々」の「序」および第一条	「異義条々」の「序」および第一条の発表と検討 pp.11-17 （頁表記はすべて『〈定本〉歎異抄』（青土社）による）
第 4 回	「異義条々」の第二条	「異義条々」の第二条の発表と検討 pp.18-25
第 5 回	「異義条々」の第三条	「異義条々」の第三条の発表と検討 pp.26-35
第 6 回	「異義条々」の第四条	「異義条々」の第四条の発表と検討 pp.36-40
第 7 回	「異義条々」の第五条	「異義条々」の第五条の発表と検討 pp.41-46
第 8 回	「異義条々」の第六条	「異義条々」の第六条の発表と検討 pp.47-51
第 9 回	「異義条々」の第七条	「異義条々」の第七条の発表と検討 pp.52-54
第 10 回	「異義条々」の第八条	「異義条々」の第八条の発表と検討 pp.55-57
第 11 回	「異義条々」の第九条	「異義条々」の第九条の発表と検討 pp.58-62
第 12 回	「歎異抄」の序・漢文序・第一条・第二条	「歎異抄」の序・漢文序・第一条・第二条の全体的なまとめと発表 pp.65-82
第 13 回	「歎異抄」の第三条から第六条	「歎異抄」の第三条から第六条についての発表と検討 pp.83-93
第 14 回	「歎異抄」の第七条から第十条	「歎異抄」の第七条から第十条についての発表と検討 pp.94-104

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	九鬼周造『偶然性の問題』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	九鬼周造『偶然性の問題』の「序」および「序説」	九鬼周造『偶然性の問題』の「序」「序説」　の検討 pp.11-21（頁数は岩波文庫の表記による）

第 3 回	第一章「定言的偶然」の一節から五節	第一章「定言的偶然」の一節から五節の検討 pp.23-44
第 4 回	第一章「定言的偶然」の六節と七節、および第二章「仮説的偶然」の一節から三節	第一章「定言的偶然」の六節と七節、および第二章「仮説的偶然」の一節から三節　の検討 pp.44-65
第 5 回	第二章「仮説的偶然」の四節から七節	第二章「仮説的偶然」の四節から七節の検討 pp.66-89
第 6 回	第二章「仮説的偶然」の八節から十一節	第二章「仮説的偶然」の八節から十一節　の検討 pp.89-105
第 7 回	第二章「仮説的偶然」の十二節から十四節	第二章「仮説的偶然」の十二節から十四節　の検討 pp.105-128
第 8 回	第二章「仮説的偶然」の十五節から十八節	第二章「仮説的偶然」の十五節から十八節　の検討 pp.128-152
第 9 回	第二章「仮説的偶然」の十九節から二十一節、および第三章「離接的偶然」の一節・二節	第二章「仮説的偶然」の十九節から二十一節、および第三章「離接的偶然」の一節・二節　の検討 pp.152-174
第 10 回	第三章「離接的偶然」の第三節から第六節	第三章「離接的偶然」の第三節から第六節　の検討 pp.175-206
第 11 回	第三章「離接的偶然」の第七節から第九節	第三章「離接的偶然」の第七節から第九節　の検討 pp.206-233
第 12 回	第三章「離接的偶然」の第十節から第十二節	第三章「離接的偶然」の第十節から第十二節　の検討 pp.233-256
第 13 回	第三章「離接的偶然」の第十三節および第十四節	第三章「離接的偶然」の第十三節および第十四節　の検討 pp.256-271
第 14 回	「結論」および演習全体の総まとめ	「結論」　の検討 pp.273-282 演習全体の総まとめを含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
春学期：佐藤正英校註『〈定本〉歎異抄』（青土社）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で演習に参加すること。
秋学期：九鬼周造『偶然性の問題』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で演習に参加すること。

【参考書】
まずは参考書などを参照せず、唯円と九鬼周造の原典そのものにあたって入念に読み込むことが先決である。そこで理解しきれなかった点を、講義内の議論を通じて深めていくことになる。
参考文献は講義内で適宜指示していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（30 %）と、学期末レポート（30 %）の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】
演習内容や発表内容が卒論執筆に向けた訓練となるように、よりいっそう文章指導を充実していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】
※重要
2020 年度の春学期はオンラインでの実施が初回から続くことになる。非常に変則的な形での演習の実施となるので、学習支援システムを毎週欠かすことなく確認することが不可欠である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese Buddhism and modern philosophy through reading thoroughly "Tannisho" by Yuien and "The issues of Coincidence" by Kuki Shuzo. By the end of this course, students should be able to fully grasp the background of Japanese thought about "Encounter."

PHL400BB

哲学演習（8）

安東　祐希

授業コード：A2237　｜　曜日・時限：**火曜２限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数とは何か、数はどのようにして定義されうるものなのか、について学ぶ。ここで考察の対象とする数は、複素数のような「複雑な」数ではない。1や2、あるいは0や－3といった、われわれに大変なじみのある数である。しかしそのなじみのある数、「意味」がよくわかっているつもりの数について、あらためてそれが何であるかと問われたらどうか。当たり前に感ずるものである分、かえって返答に窮するかもしれない。例えば、5とは何か、さらに整数（…、－2、－1、0、1、2、…）とは何か。また、整数が定義できたとして、2 × 3と3 × 2はなぜ等しいのか、一般に整数a、bに対しa × bとb × aはなぜ等しいのか。これらを含め、整数の定義、およびそれに従って証明される整数の性質について学んでゆく。

【到達目標】
整数の定義方法を理解し、それを用いて、整数の基本的性質が成り立つことを証明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に従い、省略されている詳細部分も含め、定義・定理・証明あるいは例を履修者が分担して発表し、それに対して教員および他の参加者により質疑応答を行う。
（4 月 20 日追記）
教室使用ができない期間については、学習支援システムを通じた授業となり、その開始日は 4 月 28 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	何をどのように学ぶか	授業概要の説明
第 2 回	準備（集合の表現と演算）	教科書「前書き」前半
第 3 回	準備（写像と同値関係）	教科書「前書き」後半
第 4 回	整数の公理（公理 I）	教科書第 1 章 §1 序盤
第 5 回	整数の公理（公理 II）	教科書第 1 章 §1 中盤
第 6 回	整数の公理（公理 I、II の妥当性）	教科書第 1 章 §1 終盤
第 7 回	一般定理（定理 1.1、定理 1.2）	教科書第 1 章 §2 序盤
第 8 回	一般定理（定理 1.3、定理 1.4）	教科書第 1 章 §2 中盤
第 9 回	一般定理（定理 1.5、定理 1.6）	教科書第 1 章 §2 終盤
第 10 回	無限列としての整数（定理 1.7、定理 1.8）	教科書第 1 章 §3 序盤
第 11 回	無限列としての整数（定理 1.9、定理 1.10）	教科書第 1 章 §3 中盤
第 12 回	無限列としての整数（定理 1.11、定理 1.12、定理 1.13）	教科書第 1 章 §3 終盤
第 13 回	加法（定理 1.14、定理 1.15、定理 1.16）	教科書第 1 章 §4 前半
第 14 回	加法（定理 1.17、定理 1.18、定理 1.19）	教科書第 1 章 §4 後半

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	乗法（定理 1.20、定理 1.21）	教科書第 1 章 §5 序盤
第 16 回	乗法（定理 1.22、定理 1.23）	教科書第 1 章 §5 中盤
第 17 回	乗法（定理 1.24、定理 1.25）	教科書第 1 章 §5 終盤
第 18 回	無限列の範疇性（定理 1.26）	教科書第 1 章 §6 前半
第 19 回	無限列の範疇性（対角線的操作）	教科書第 1 章 §6 後半
第 20 回	自然数、正負の整数（Peano の公理）	教科書第 1 章 §7 前半
第 21 回	自然数、正負の整数（正と負）	教科書第 1 章 §7 後半
第 22 回	物の数、計量数（定理 1.27）	教科書第 1 章 §8 前半
第 23 回	物の数、計量数（定理 1.28）	教科書第 1 章 §8 後半
第 24 回	無限集合（定理 1.29）	教科書第 1 章 §9 前半
第 25 回	無限集合（定理 1.30）	教科書第 1 章 §9 後半
第 26 回	環（定理 1.31）	教科書第 1 章 §10 前半
第 27 回	環（指標）	教科書第 1 章 §10 後半
第 28 回	整数とは何か	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の定理について、紙に書きながら試行錯誤して自ら証明することを目指し、充分な演習を行うこと。また、発表に際しては、行間の説明や具体例の提示などを含めて準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・高木貞治『数の概念』（岩波書店）改訂版 1970 年［初版 1949 年］
なお、上記は現在品切れであるが、次の新装版がある。
・高木貞治『数の概念』（講談社ブルーバックス）2019 年
履修にあたって準備する教科書は岩波書店の改訂版、講談社ブルーバックスの新装版のどちらでもよい。

【参考書】
・足立恒雄『数とは何か そしてまた何であったか』（共立出版）2011 年
・リヒャルト・デデキント（渕野昌 訳）『数とは何か そして何であるべきか』（ちくま学芸文庫）2013 年

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容（60 %）において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者間の議論がより活発となるように、ゼミの運営方法を工夫したい。

【その他の重要事項】
（1）夏休み中に合宿を行います。合宿では、授業の一環となる集中的なゼミ時間を設け、全員参加を原則とします。
（2）火曜1限の選択科目「言語と論理3（集合論）A／B」で関連する内容を扱います。同時に履修することをお勧めします。

【Outline and objectives】
This course deals with the definition and some properties of integers.

PHL400BB

哲学演習（9）

中釜　浩一

授業コード：A2238　｜　曜日・時限：**火曜３限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「心」の正体を探る。心の存在・機能、脳と心、意識と無意識、自己等に関する心をめぐる現代の議論を検討し、心はいかなる仕方で存在するのか、心と身体との関係は何か、機械は心を持てるのか、等の問題に関して、自分と異なる立場の者たちとディベートを重ねながら、自分自身の見解を確立する。

【到達目標】
ジョン・サール「マインド／心の哲学」をテキストとして、心に関する現代の種々の議論を検討し、ディスカッションを通して「心」に対する理解を深めるとともに、哲学的議論し反論する方法に熟達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの各章に関して、発表者、反論者、司会者の分担を決め，担当学生およびフロアー側学生による発表，反論，討論によって授業を進める．学生間のディスカッションやディベートを主体とし、教員は最小限のアドヴァイス、ヒント、補足等を与える役割を務める。4 月 21 日より、ネット等を通じて授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員によるゼミの目的・方法の説明
第 2 回	第一章　心の哲学が抱える十二の問題（1）	第一章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 3 回	第一章　心の哲学が抱える十二の問題（2）	第一章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 4 回	第二章　唯物論への転回（1）	第二章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 5 回	第二章　唯物論への転回（2）	第二章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 6 回	第三章　唯物論への反論（1）	第三章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 7 回	第三章　唯物論への反論（2）	第三章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 8 回	第四章　意識と心身問題（1）	第四章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 9 回	第四章　意識の心身問題（2）	第四章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 10 回	第五章　意識の構造と神経生物学（1）	第五章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 11 回	第五章　意識の構造と神経生物学（2）	第五章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 12 回	第六章　志向性（1）	第六章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 13 回	第六章　志向性（2）	第六章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 14 回	ここまでのまとめ	まとめのディスカッション

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	後半の問題	教員による解説
第 16 回	第七章　心的因果（1）	第七章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 17 回	第七章　心的因果（2）	第七章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 18 回	第八章　自由意志（1）	第八章前半部に関する学生による発表・反論・討論
第 19 回	第八章　自由意志（2）	第八章中間部に関する学生による発表・反論・討論
第 20 回	第八章　自由意志（3）	第八章後半部学生による発表・反論・討論
第 21 回	第九章　無意識と行動（1）	第九章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 22 回	第九章　無意識と行動（2）	第九章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 23 回	第十章　知覚（1）	第十章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 24 回	第十章　知覚（2）	第十章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 25 回	第十一章　自己（1）	第十一章前半部に関する学生による発表・反論・討論
第 26 回	第十一章　自己（2）	第十一章中間部に関する学生による発表・反論・討論
第 27 回	第十一章　自己（3）	第十一章後半部に関する学生による発表・反論・討論
第 28 回	全体のまとめ	まとめのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者とコメンテータは分担部分に関するレジュメを作成する
司会者は発表者・コメンテータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論をどう進めていくかのプランを立てる。
他のものは毎回のテキストを精読し，各自質問を用意しておく．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジョン・サール「マインド・心の哲学」（ちくま学芸文庫）

【参考書】
トマス・ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（勁草書房）
ティム・クレイン「心は機械で作れるか」（勁草書房）など。

【成績評価の方法と基準】
心の哲学の諸問題の理解（授業内の発表と討論への参加）：８５％
心に関する自らの哲学的立場の展開（期末レポート）：１５％

【学生の意見等からの気づき】
司会・発表者・代表反論者以外のフロアー側の者がより多く議論に加われるように工夫する。

【Outline and objectives】
We will argue and debate about some of the main problems of Mind, such as its existence,its functions, the relation between Brain and Mind, computer and mind, consciousness and unconsciousness, Self etc. and try to establish our own positions concerning the nature of Mind.

PHL400BB

哲学演習（１０）

山口　誠一

授業コード：A2239　｜　曜日・時限：**金曜３限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニーチェのデビュー作『悲劇の誕生ーあるいはギリシア精神とペシミズム』の世界へ案内します。さらにその世界ののスリリングな地下通路を踏み歩くことにします。そこでは、現代ニヒリズムや運命と自由の相補的関係も見えてくるでしょう。

【到達目標】
ニーチェなどの文章を正確に読み解いて卒業論文にしたりできます。また、学生はゼミレポートでは、プレゼンテーションスキルで難解な内容をわかりやすい言葉や概念図にして説明できます。映像から思想を読み取ることによって、基礎科目や総合科目で身に着けた映像哲学を発展させることにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は授業時間帯にとらわれないオンラインでの開講となります。それにともなう各回授業計画変更は学習支援システムでその都度お知らせします。この授業の開始日は 5 月 8 日として、4 月 24 日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムでお知らせします。
現代日本でもっともよく親しまれているニーチェの原型を、ディオニュソス的なものとアポロン的なものの関係に求めます。そのために『悲劇の誕生』を最初から関連資料も使用しながら精読します。ニーチェ関連映画やヘーゲルとニーチェ共通のルーツであるギリシア悲劇も鑑賞します。ゼミレポートや配布資料は、ＤＶＤに収録して卒論作成に使用できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミオリエンテーション	スライドショー形式によるビジュアルで詳細なゼミ紹介
第 2 回	映画『ワーグナーとコジマ』	哲学者ニーチェと音楽家ワーグナーとの思想的交流
第 3 回	ニーチェの思索方法について	ヤスパース、ギース、ドゥルーズのニーチェ論紹介
第 4 回	晩期ニーチェの『悲劇の誕生』批判	『悲劇の誕生』「或る自己批判の試み」前半部の検討
第 5 回	晩期ニーチェのディオニュソス哲学	『悲劇の誕生』「或る自己批判の試み」後半部の検討
第 6 回	ディオニュソス的なものとアポロン的なもの	『悲劇の誕生』第１節前部の検討
第 7 回	アポロン的夢とディオニュソス的陶酔	『悲劇の誕生』第１節中間部の検討
第 8 回	ディオニュソス音楽「歓喜の歌」	『悲劇の誕生』第１節後部の検討
第 9 回	『悲劇の誕生』の弁証法哲学	関連資料「ドイツ近代哲学史におけるディオニュソス神話」前半部の検討
第 10 回	『悲劇の誕生』の弁証法 (2)	関連資料「ドイツ近代哲学史におけるディオニュソス神話」後半部の検討
第 11 回	『曙光』序説について	ニーチェの自己否定の論理の検討
第 12 回	ヘーゲル弁証法について	矛盾の論理

秋学期

回	テーマ	内容
第 13 回	根源一者としてのディオニュソス	『悲劇の誕生』第４節後半の検討
第 14 回	エマソンからニーチェへ到る新プラトン主義	エマソン「大霊」の検討
第 15 回	ディオニュソス文化の先駆者抒情詩人について	『悲劇の誕生』第４節前半の検討
第 16 回	審美的現象としての存在世界	『悲劇の誕生』第４節後半の検討
第 17 回	ニーチェの仮象論	関連資料「仮象ー深さからして表面的」の検討
第 18 回	言語のリズムと意味	関連資料「創造的言語としての音声形象」の検討
第 19 回	ソフォクレスのギリシア悲劇	『悲劇の誕生』第９節前半の検討
第 20 回	アイスキュロスのギリシア悲劇	『悲劇の誕生』第９節後半の検討
第 21 回	ギリシア悲劇のディオニュソス的本質	『悲劇の誕生』第１０節の検討
第 22 回	ギリシア悲劇の没落	『悲劇の誕生』第１０節の検討
第 23 回	ギリシア悲劇とソクラテス	『悲劇の誕生』第１１節の検討
第 24 回	ギリシア悲劇の現代的再生 (1)	『悲劇の誕生』第２１節前半の検討
第 25 回	ギリシア悲劇の現代的再生 (2)	『悲劇の誕生』第２１節後半の検討
第 26 回	ワーグナー楽劇について	ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』第３幕の鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で扱うテキストを事前に精読し、疑問点を明確にしておいてください。映像教材の場合には、該当作品をなるべく事前に鑑賞しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
主要テキストとしては、ニーチェ講読には、ニーチェ『悲劇の誕生』(秋山英夫訳、岩波学芸文庫) を用います。これ以外の参考文献やデジタルメディアは、その都度こちらで用意します。

【参考書】
渡邊二郎編訳『ニーチェ・セレクション』、平凡社ライブラリー
廣松渉・加藤尚武編訳『ヘーゲル・セレクション』、平凡社ライブラリー
山口誠一著『ニーチェとヘーゲル』、法政大学出版局、２０１０年

【成績評価の方法と基準】
原則として、テキストと映像の理解度 (40%) と、夏期休暇課題レポート (30%) とゼミでのプレゼンテーション発表 (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
映像と概念図などによるわかりやすさと哲学テキストの読みの深さを調和させてゆくことを心がけたいと思います。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche and Hegel, with texts drawn from German and Japanese.

PHL400BB

哲学演習（１１）

内藤　淳

授業コード：A2240　｜　曜日・時限：**金曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当面の間、学習支援システムを通じた課題設定による代替措置を実施する。森村進『自由はどこまで可能か』（講談社現代新書、2001 年、840 円＋税）をテキストとし、内容上のポイントごとに学習支援システムを通じて課題を出していく（例えば 1000 字程度の小論文課題など）。授業の進め方、課題の詳細、成績評価の方法など、具体的な内容は学習支援システムに適宜掲載する。また、テキストを各自で入手しておくこと。
授業開始は 4/21 からとするが、5/8 までを準備期間とするので、受講希望者はそれまでに所定の準備をすること。詳細は学習支援システムの「お知らせ」を参照。
【注意】以下のすべての項目のシラバス内容は、代替措置以前の通常時のものであるが、授業のコンセプトを示すためにそのまま掲載しておく。通常授業が可能になった場合は適宜こちらの計画内容を反映させる。
フィリッパ・フット『人間にとって善とは何か：徳倫理学入門』（筑摩書房、2014 年）を精読する。善に関する倫理学での論点や議論の歴史に触れることを通じて、善悪の本質やそれと人間本性との関係についての洞察を深めると同時に、倫理学的な思考と議論とはどういうものかを理解することが授業の目的である。

【到達目標】
(1)「善」に関する倫理学での理論や立場を把握し、それらの間の対立点や争点を理解する。
(2) そうした知識を踏まえて、「善」について（直感や思い付きではなく）倫理学的な観点から、自分なりの見方や意見を持てるようになる。
(3) 専門的な説明文章を読んで適切に理解する読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
(4) 自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
*授業開始は 4/21 からとするが、5/8 までを準備期間とするので、受講希望者はそれまでに所定の準備をすること。詳細は学習支援システムの「お知らせ」を参照。
毎回あらかじめ報告者と応答者、小論担当者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見、小論担当者による自説の主張を中心に、参加者間での討論を行う。それらを通じて、受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。
なお、ここでの内容は、善悪や道徳、人間やその心理、社会に関する倫理学的・哲学的・科学的な検討がねらいであって、政治的主張やイデオロギーを唱えたり戦わせたりすることはしないので十分注意すること。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。開講後の議論・検討状況等に応じて、進度や検討箇所は随時柔軟に設定していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・やり方の説明
第 2 回	進行準備	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など
第 3 回	『人間にとって善とは何か』講読	序章
第 4 回	『人間にとって善とは何か』講読	「解説」の講読
第 5 回	『人間にとって善とは何か』講読	「解説」の論点検討
第 6 回	『人間にとって善とは何か』講読	第１章「道徳哲学への再出発」前半の講読
第 7 回	『人間にとって善とは何か』講読	第１章「道徳哲学への再出発」後半の講読
第 8 回	『人間にとって善とは何か』講読	第１章「道徳哲学への再出発」疑問点の検討
第 9 回	『人間にとって善とは何か』講読	第２章「自然的な規範」前半の講読
第 10 回	『人間にとって善とは何か』講読	第２章「自然的な規範」後半の講読
第 11 回	『人間にとって善とは何か』講読	第３章「人間への適用」前半の講読
第 12 回	『人間にとって善とは何か』講読	第３章「人間への適用」後半の講読
第 13 回	『人間にとって善とは何か』講読	第２章と第３章の疑問点の検討
第 14 回	『人間にとって善とは何か』講読	春学期の主要論点の検討

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	『人間にとって善とは何か』講読	第４章「実践的合理性」前半の講読
第 16 回	『人間にとって善とは何か』講読	第４章「実践的合理性」後半の講読
第 17 回	卒論構想報告１	卒論の内容構成の報告（４年生の第一グループ）
第 18 回	卒論構想報告２	卒論の内容構成の報告（４年生の第二グループ）
第 19 回	卒論構想報告３	卒論の内容構成の報告（４年生の第三グループ）
第 20 回	『人間にとって善とは何か』講読	第５章「人間にとっての善さ」前半の講読
第 21 回	『人間にとって善とは何か』講読	第５章「人間にとっての善さ」後半の講読
第 22 回	『人間にとって善とは何か』講読	第５章「人間にとっての善さ」疑問点の検討
第 23 回	『人間にとって善とは何か』講読	第６章「幸福と人間にとっての善さ」前半の講読
第 24 回	『人間にとって善とは何か』講読	第６章「幸福と人間にとっての善さ」後半の講読
第 25 回	『人間にとって善とは何か』講読	第６章「幸福と人間にとっての善さ」疑問点の検討
第 26 回	『人間にとって善とは何か』講読	第７章「反道徳主義」前半の講読
第 27 回	『人間にとって善とは何か』講読	第７章「反道徳主義」後半の講読
第 28 回	『人間にとって善とは何か』講読	これまでの授業で出た主要論点の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は、担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。小論担当者は、担当箇所について自分の考えを論じた小論文を書く。その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。報告者をはじめいずれの立場においても、テキストの内容について「分かったところ」「分からないところ」を正確且つ具体的に特定できるよう求めるので、中途半端でない十分な読解を予習として行うこと。詳細は授業の中で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
フィリッパ・フット『人間にとって善とは何か：徳倫理学入門』（筑摩書房、2014 年）

【参考書】
赤林朗・児玉聡『入門・倫理学』（勁草書房、2018 年）
児玉聡『功利と直観：英米倫理思想史入門』（勁草書房、2010 年）
ピーター・シンガー『実践の倫理　新版』（昭和堂、1999 年）
ピーター・シンガー『私たちはどう生きるべきか』（ちくま学芸文庫、2013 年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①担当回の報告・コメント内容、②執筆小論文の内容、③討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した (1)〜(4) の達成度を評価する。①②の点数を基礎に、③の内容に応じて 0〜30 %程度の範囲で加点・減点して成績を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見やコメントを積極的に取り上げて、討論での検討の材料にしたい。

【その他の重要事項】
授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】
This course introduces ethical theories on goodness by reading "Natural Goodness?" (Philippa Foot). The aim of this course is to help students acquire specialist knowledge of ethics and ethical thinking. At the end of the course, participants are expected to have their own opinions on goodness and explain them rationally.

PHL200BB

科学哲学１

中釜　浩一

授業コード：A2241　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様相（必然、偶然、可能、不可能）の概念は、現代の哲学の理解にとって必須の概念上の装置である。科学哲学１では、様相概念の意味の理解と、それに関わる論理に習熟することを目指す。

【到達目標】
様相論理学の基本的概念，タブロー法を用いた証明のテクニックを学び，様相概念とそれに関わる哲学的議論との理解を深める．この講義では通常の命題論理ＰＣと様相論理体系Ｋと Ｔ とを扱う．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
ＰＣとＫに関する基本的概念を説明しする．タブロー法による証明の方法に習熟するため，多数の練習問題を解く．
4 月 23 日より、ネット等を用いて授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と様相論理	通常の論理と様相論理の違い
第 2 回	命題論理とタブロー法（その１）	命題論理の形式化
第 3 回	命題論理とタブロー法（その２）	論証の妥当性
第 4 回	命題論理とタブロー法（その３）	論証の妥当性に関するタブロー法による解法
第 5 回	体系Ｋ（その１）	体系Ｋの基本概念の説明
第 6 回	体系Ｋ（その２）	体系Ｋのモデル
第 7 回	体系Ｋ（その３）	推理規則Ｋへの拡張
第 8 回	体系Ｋ（その４）	タブロー法のＫへの拡張
第 9 回	中間のまとめ	練習問題の解答と解説
第 10 回	体系Ｔ（その１）	体系Ｔの基本概念の説明
第 11 回	体系Ｔ（その２）	体系Ｔのモデル
第 12 回	体系Ｔ（その３）	推理規則Ｔ
第 13 回	体系Ｔ（その４）	体系Ｔへのタブロー法の拡張
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題として出される練習問題を自分で解く．
論理学概論程度の内容を理解しておく．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない．

【参考書】
リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】
授業時の練習問題　２０％
中間試験　３５％
期末の試験　４５％

【学生の意見等からの気づき】
現行の方式で効果が得られている．

【その他の重要事項】
科学哲学２と合わせることで、様相命題論理を一通り理解することになるので、科学哲学２を合わせて受講すること。

【Outline and objectives】
To understand the meanings of modal concepts(necessity, contingency, possibility, impossibility) is a key to modern philosophy. We try to
acquire some skills of modal propositional logic in terms of tableau method, and deepen our thought about modality.

PHL200BB

科学哲学２

中釜　浩一

授業コード：A2242　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様相（必然、偶然、可能、不可能）は、現代の哲学の理解にとって必須の概念的装置である。科学哲学２では、科学哲学１に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系 S4、S5 と、時制論理への応用を扱う。

【到達目標】
科学哲学１の十分な理解を前提とし、タブローの方法の様相論理の体系Ｓ４，Ｓ５までの拡張、および時制論理についての同様の取り扱いを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
様相体系Ｓ４とＳ５および時制論理に関する基本的概念を説明し，タブロー法による証明の方法に習熟するため，多数の練習問題を解く．さらに同様の方法が時制論理に拡張できることを説明する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	体系K，T，およびタブロー法に関する復習	科学哲学Ｉの内容の復習
第 2 回	体系Ｓ４（その１）	体系Ｓ４の概念の説明
第 3 回	体系Ｓ４（その２）	Ｓ４のモデル
第 4 回	体系Ｓ４（その３）	推理規則 S4 の導入
第 5 回	体系Ｓ４（その４）	タブロー法のＳ４への拡張
第 6 回	体系Ｓ５（その１）	体系Ｓ５の概念の説明
第 7 回	体系Ｓ５（その２）	Ｓ５のモデル
第 8 回	体系Ｓ５（その３）	推理規則 S5 の導入
第 9 回	体系Ｓ５（その４）	タブロー法のＳ５への拡張
第 10 回	中間まとめ	練習問題の解答と解説
第 11 回	時制論理（その１）	体系 Kt とタブロー法
第 12 回	時制論理（その２）	体系 Kt4 とタブロー法
第 13 回	時制論理（その３）	体系 Ct とタブロー法
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題として出される練習問題を自分で解く．
論理学概論・科学哲学１の内容を理解しておく．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない．

【参考書】
リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】
練習問題の回答：２０％
中間試験：３５％
期末の試験：４５％

【学生の意見等からの気づき】
現行の方式で効果が得られている．

【その他の重要事項】
科学哲学１の内容の理解を前提とするので、科学哲学１を受講しておくこと。

【Outline and objectives】
To understand the meanings of modal concepts(necessity, contingency, possibility, impossibility) is a key to modern philosophy. We try to
master some skills of modal propositional logic in terms of tableau method, and deepen our thought about modality.

PHL200BB

現代思想２（フランスの思想） 1

大池　惣太郎

授業コード：A2245　｜　曜日・時限：**金曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルクス・ガブリエルや分析系哲学者など、近年、様々な方面から実存哲学の見直しが行われています。そうした状況を踏まえつつ、この授業では 20 世紀フランスの実存主義をあらためて読み直し、その可能性や問題点がどこにあったのかを考察します。最初に近年の実存論をいくつか参照し、実存哲学が自然主義哲学や心の哲学に対してどのような特徴を持つかを確認した上で、J.-P. サルトルの『存在と無』（L'être et le néant, 1943）を講読します。サルトルの言う「現象学的実在論」と近年の実在論との違いをよく理解しながら、20 世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性を学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】
⑴ 20 世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
⑵ 発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深める方法を学ぶこと。
⑶ 単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加します。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成します。授業では、まず担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行います。授業で用いるテクストについては教員が用意します。
【更新 20.04.16】春学期（少なくとも前半）はオンラインでの開講となる（Zoom などを用いた双方向型ではなく、各自が教材や課題をダウンロードして行うオンデマンド式）。本授業の開始日は 5 月 8 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムを通じて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「実存主義とは何か」	ハンナ・アレントの視点から
第 2 回	「新実存主義」の論点⑴	自然主義との差異
第 3 回	「新実存主義」の論点⑵	心と脳の関係の争点
第 4 回	サルトルの実存主義	サルトル実存哲学の概説
第 5 回	『存在と無』講読 1	「反省以前的コギト」という仮説
第 6 回	『存在と無』講読 2	「即自存在」について
第 7 回	『存在と無』講読 3	否定の起源とは何か
第 8 回	『存在と無』講読 4	「無」について
第 9 回	『存在と無』講読 5	「自己欺瞞」について
第 10 回	『存在と無』講読 6	「対自」の事実性
第 11 回	『存在と無』講読 7	「対自」と自己性の関係について
第 12 回	『存在と無』講読 8	時間の現象学的解釈
第 13 回	『存在と無』講読 9	根源的時間性と心的時間性
第 14 回	『存在と無』講読 10	「超越」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参加者は、指定された著作や文献をあらかじめよく読んだ上で授業に参加します。各自、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】
マルクス・ガブリエル『新実存主義』（岩波新書、2020 年、800 円）、ジャン＝ポール・サルトル『存在と無　現象学的実在論の試み I、II、III』（ちくま学芸文庫、2008 年、各 1800 円）

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業での発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価します（ただし平常的な出席者の数が 7 人以下だった場合は、発表・参加のみで評価します）。
評価は以下の基準で行います。
⑴　20 世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができているか。
⑵　発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深められているか。
⑶　単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できているか。
【更新 20.04.16】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to reconsider the sartrian existential philosophy, compared to recent "new existentialism". We read mainly Sartre's monumental work, Being and Nothingness: An Essay on Phenomenological Ontology (1943), to examine some possibilities and problems of sartrian existentialism from the point of view of today's philosophical discourses concerning the "existence", human or not.

PHL200BB

現代思想２（フランスの思想）２

大池　惣太郎

授業コード：A2246　｜　曜日・時限：**金曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に引き続き、J.-P. サルトルの『存在と無』（L'être et le néant, 1943）を講読します。実存哲学は自然主義哲学や「心の哲学」と比べてどのような特徴を持つ哲学なのか、サルトルの実存主義は現在見直されている実存論・実在論の議論とどのような点で共通し、あるいは異なるのか、といった問いを念頭に置き講読を進めることで、サルトルの「現象学的実在論」について理解を深めます。全体を通じて、フランス実存哲学の争点、射程、問題点、可能性を学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】
⑴　20 世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
⑵　発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深める方法を学ぶこと。
⑶　単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加します。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成します。授業では、まず担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行います。授業で用いるテクストについては教員が用意します。できるだけ前期科目も履修することが望まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	前学期の復習	実存主義を捉え返す
第 2 回	『存在と無』講読　１１	他者の存在の現象学的理解
第 3 回	『存在と無』講読　１２	「まなざし」について
第 4 回	『存在と無』講読　１３	身体の三つの次元
第 5 回	『存在と無』講読　１４	実存論とエロティシズム
第 6 回	『存在と無』講読　１５	「われわれ」の存在論
第 7 回	『存在と無』講読　１６	「自由」の条件
第 8 回	『存在と無』講読　１７	「在る」と自由
第 9 回	『存在と無』講読　１８	「為す」と自由
第 10 回	『存在と無』講読　１９	自由と死の関係について
第 11 回	『存在と無』講読　２０	「実存的精神分析」について
第 12 回	『存在と無』講読　２１	「為す」と「持つ」
第 13 回	『存在と無』講読　２２	実存論と形而上学
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参加者は、指定された著作や文献をあらかじめよく読んだ上で授業に参加します。各自、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】
ジャン＝ポール・サルトル『存在と無　現象学的実在論の試み Ⅰ、II、III』（ちくま学芸文庫、2008 年、各 1800 円）

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業での発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価します（ただし平常的な出席者の数が 8 人以下だった場合は、発表・参加のみで評価します）。
評価は以下の基準で行います。
⑴　20 世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができているか。
⑵　発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深められているか。
⑶　単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できているか。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to reconsider the sartrian existential philosophy, compared to recent “new existentialism”. We read mainly Sartre’s monumental work, Being and Nothingness: An Essay on Phenomenological Ontology (1943), to examine some possibilities and problems of sartrian existentialism from the point of view of today’s philosophical discourses concerning the “existence”, human or not.

ART200BB

美学・芸術学１

武田　昭彦

授業コード：A2247　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソクラテスからヘーゲルまでの美学に造形美術を関係づけながら，美学を具体的に学ぶ.

【到達目標】
古代ギリシアから 17 世紀のデカルトまでの哲学・美学を各時代の造形美術との関連において理解することが目標である.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストとしてのプリントとスライドを使い講義する.
＊なお，春学期は 4 月 21 日より，学習支援システムにて授業を開始する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ピュグマリオンの物語. ホメロスとヘシオドス.
第 2 回	古代哲学・美学 1	プロメテウス神話. 彫刻家・哲学者としてのソクラテス.
第 3 回	古代哲学・美学 2	プラトン『エウチュプロン』. 何故ソクラテスは彫刻を捨てたのか.
第 4 回	古代哲学・美学 3	クセノポン『ソクラテス言行録』から，芸術の本質とは.
第 5 回	古代哲学・美学 4	ニーチェ『悲劇の誕生』におけるソクラテス論.
第 6 回	古代哲学・美学 5	プラトンにおける芸術と技術.
第 7 回	古代哲学・美学 6	アリストテレス『形而上学』. 彫刻の 4 原因説.
第 8 回	古代哲学・美学	プロティノスの非物質主義と見えないものの再現.
第 9 回	中世哲学・美学	アウグスティヌスの彫刻に関する考え方，彫刻家の創造力の否定.
第 10 回	ルネサンスからデカルトまで 1	天才と規則，ミケランジェロの場合.
第 11 回	ルネサンスからデカルトまで 2	天才と規則，チェリーニの場合.
第 12 回	ルネサンスからデカルトまで 3	デカルトの哲学・美学，音楽論.
第 13 回	ルネサンスからデカルトまで 4	デカルト哲学・美学，彫刻像とロボット， 芸術と科学との関係.
第 14 回	期末試験	ソクラテスからデカルトまでの哲学・美学のまとめと理解度の確認試験.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館，ギャラリーなどには，もちろん足を運んでほしいが，公園や公共空間に置かれた立体作品にも注意を向けてほしい．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テクストしてのプリントを配布する.

【参考書】
クルターマン『芸術論の歴史』（神林・太田訳，勁草書房）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する小論等の期末試験の成績によって 100 %評価する.

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【Outline and objectives】
You concretely learn the aesthetics from Socrates to Hegel in relations to plastic arts.

ART200BB

美学・芸術学２

武田　昭彦

授業コード：A2248　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソクラテスからヘーゲルまでの美学に造形美術を関係づけながら，美学を具体的に学ぶ.

【到達目標】
秋学期では，春学期に学んだことの復習から始め，18 世紀～20 世紀の哲学・美学と彫刻を中心とした造形美術との関係，および造形美術に対する哲学・美学側からの解釈を学び，理解することが到達目標となる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストとしてのプリントとスライドを使い講義する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	勉強の仕方と春学期のソクラテスからデカルトまでの哲学・美学を復習.
第 2 回	18 世紀の哲学・美学 1	ラ・メトリの『人間機械論』，コンディヤックの彫刻における感覚.
第 3 回	18 世紀の哲学・美学 2	『百科全書』の技術と彫刻の概念.
第 4 回	18 世紀の哲学・美学 3	カント美学の彫刻と技術に関する定義．天才と技術.
第 5 回	18 世紀の哲学・美学 4	オウイディウスの『変身物語とルソーの『ピグマリオン』の自己贈与.
第 6 回	19 世紀の哲学・美学 1	ヘルダーの『彫刻』，ピグマリオンの造形に関する夢の見地から「形と姿」について.
第 7 回	19 世紀の哲学・美学 1	ヘーゲルの『美学講義』，哲学と美術史.
第 8 回	19 世紀の哲学・美学 2	ヘーゲルの『美学講義』，芸術作品の認識，彫刻の本質.
第 9 回	19 世紀の哲学・美学 3	ヘーゲルの『美学講義』，彫刻の理想，美と技術.
第 10 回	19 世紀の哲学・美学 1	ヘーゲルの『美学講義』，彫刻の歴史，形態の歴史と分類.
第 11 回	19 世紀の哲学・美学 1	ヘーゲルの『美学講義』，彫刻とパトス，芸術の理想と哲学的概念.
第 12 回	19 世紀の哲学・美学 1	ヘーゲルの『美学講義』，彫刻・詩・哲学．芸術の死と彫刻の変転.
第 13 回	20 世紀の哲学・美学 1	サルトル，メルロ＝ポンティの現象学的哲学・美学とジャコメッティの現象学的彫刻.
第 14 回	期末試験	秋学期のまとめと理解度の確認試験.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館，ギャラリーなどへはもちろん足を運んでほしいが，公園や公共空間に置かれた立体作品にも眼を注いでほしい．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テクストとしてプリントを配布する.

【参考書】
クルターマン『芸術論の歴史』（神林・太田訳，勁草書房）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する小論等の期末試験の成績によって 100 %評価する.

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【Outline and objectives】
You concretely learn the aesthetics from Socrates to Hegel in relations to plastic arts.

PHL200BB

東洋哲学史１

青野　道彦

授業コード：A2249　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏教について語る際、我々はその教理・教義に注目することが多い。確かにそれは仏教において主要な位置を占めているが、戒律（生活規範・制度）もまた重要である。そのことは十分に理解されておらず、本講義では、規範・制度なくして仏教は成り立ち得ないことを示したい。

【到達目標】
・仏教における規範・制度の重要性を理解する。
・仏教の基本的用語を理解する。
・戒律の発展・展開について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。資料はスライドで提示するとともに、適宜プリントを配布します。授業の最後にコメントペーパーの提出をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	インドでの仏教成立及び諸地域への伝播について概説する。
第 2 回	戒律の概要	戒律の成立経緯、目的、種類、構成等について概説する。
第 3 回	仏教教団の成り立ち	仏教教団の構成、成立経緯、成立基盤（界）について概説する。
第 4 回	入門儀礼と教育制度	出家・受戒儀礼、出家者の教育について概説する。
第 5 回	出家者の日常生活１	出家者の衣服、食事について概説する。
第 6 回	出家者の日常生活２	出家者の居住環境について概説する。
第 7 回	出家者の年中行事	布薩、安居、自恣、カティナ等の年中行事について概説する。
第 8 回	破戒者の処罰	仏教教団は戒律に違反した比丘をどの様に処するのか概説する。
第 9 回	懲罰制度	仏教教団は重大な違法行為、脱法行為をどの様に処すのか概説する。
第 10 回	出家者と病	病で臥せった出家者をどの様に看病し、又、看取るのか概説する。
第 11 回	出家者と死	出家者の葬儀、遺産配分について概説する。
第 12 回	現代上座部仏教の出家者	現代の上座部仏教の出家者達が古代に成立した戒律を現代社会の中でどの様に用いているのか概説する。
第 13 回	まとめ	全授業内容の再確認
第 14 回	試験	戒律の基本概念について理解を問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習の必要はありませんが、授業中に紹介する参考書を読んで仏教について自ら積極的に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜資料を配布します。

【参考書】
佐々木閑『出家とはなにか』大蔵出版、1999 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度・コメントペーパー（40 %）を考慮しつつ、授業内容への理解度を問う試験（60 %）に基づき評価します。
※定期試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
視覚資料をできる限り用います。

【None】
None

【Outline and objectives】
This course gives an overview of the monastic discipline of Buddhism from ancient time to present day. Students will learn how Buddhist monasticism was established and developed and how Buddhist communities are administrated by monks and nuns.

PHL200BB

東洋哲学史２

頼住　光子

授業コード：A2250　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、東洋哲学の基礎をなす仏教を中心として、儒教や神道についてもその思惟方法を理解します。特に日本において仏教がどのように受容され日本の思想の中で展開していったのかを具体的に検討します。
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
・仏教、儒教、神道などの重要用語・重要概念を知っている。
・日本における主な思想の展開を説明できる。
・　東洋哲学の主要なテーマとなる超越、自己、世界、時間などについて、西洋哲学と比較しながら特徴を説明できる。

【到達目標】
仏教に関しては、インドから中国、日本と仏教が展開した経緯とその過程における思想の変容について理解を深めます。その際、具体的な生活文化を取り上げ、考える手掛かりとします。
また仏教、儒教、神道の世界観、人間観、歴史観の具体的に違いについても検討します。
さらに、日本思想や文化において（たとえば茶の湯や武士道など）仏教をはじめとする東洋哲学のどのような考え方が反映されているのかを考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋哲学と宗教	東洋哲学の基本を形作っている仏教、儒教の教えについて概説し、神道の思惟方法についても紹介します。
第 2 回	仏教の基本思想	仏教の基本思想として、「無我」「無常」「縁起―無自性―空」等を取り上げ、それが何を意味しているのかを考えます。
第 3 回	インド、中国、日本における仏教の展開	仏教の東洋における具体的な展開について検討します。特に、中国における儒教との相克や融合、日本における神仏習合について取り上げます。
第 4 回	仏教における「食」の意味	仏教において「食」はどのような基本的意味を持っているのかを検討します。
第 5 回	仏教における「食」の諸相	部派仏教、大乗仏教、中国仏教、日本仏教のそれぞれにおける「食」の諸相を検討します。
第 6 回	武士の思想と仏教―武士とは何か	武士の倫理思想について、従来行われてきた諸説を紹介しつつ検討します。
第 7 回	武士の思想と仏教――武士の道徳と仏教との関係	武士の道徳と仏教との関係について、相互補完的関係、対立関係という２側面から検討します。
第 8 回	「和」とは何か	「和」について、その語源や、仏教や儒教における「和」の思想を手掛かりとして考えます。
第 9 回	『十七条憲法』における「和」	「和をもって貴しとす」の意味するところと、その現代的意義について検討します。
第 10 回	わび茶における「和敬清寂」	「和」の思想について、千利休の侘び茶の考え方を手掛かりとして考えます。
第 11 回	「和敬清寂」の空間としての茶室	「和」の思想の具体的表現としての茶室について具体例に即しながら検討します。
第 12 回	日本仏教における中世と近世	「修行」と「修養」という二つの概念を手掛かりとして、日本の中世仏教と近世仏教の思想的特徴について検討します。
第 13 回	共生の根拠	仏教、儒教、神道を取り上げて、それぞれにおける共生の根拠を探求します。
第 14 回	総括	授業の総括を行い、理解度をはかる試験をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定範囲を予習しておいてください。
また、適宜、手に入りやすい参考書を授業内で紹介しますので、各自、読んで内容をよく理解し復習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
頼住光子『さとりと日本人』ぷねうま舎、２０１７年

【参考書】
手に入りやすい入門的な辞典としては『岩波 仏教辞典 第二版』（岩波書店、２００２年）をおすすめします。それ以外の参考書については、授業内で適宜、ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（９０％）と平常点（１０％）

【学生の意見等からの気づき】
仏教独自の難しい概念や言い回し等については初心者向けに丁寧に説明し、板書の際には仏教特有の呉音読みの言葉を中心にルビをその都度ふるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Recognize and recall major terms and concepts in Buddhism, Confucianism, Shintoism and so on.
· Describe and explain development of Japanese philosophy.
· Describe and explain concepts such as transcendence, self, World and time in Eastern philosophy, comparing those in Western philosophy.

PHL200BB

宗教学１（伝統宗教）１

杉本　隆司

授業コード：A2251　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
☞【重要（4.10 付）：履修予定の皆さんへのお知らせ。新型コロナの影響に伴う変更があります。このシラバスの最後の欄「その他の重要事項」をまず参照してください】
☞【重要： 4.17 付変更】「授業の進め方と方法」の欄を参照してください。
21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように宗教間の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっている。近年も世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつある。この授業では西欧における「他者の信仰」の歴史を学び、国際社会の宗教問題を広い視野から主体的に考察する知識を身につける。

【到達目標】
世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教はじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいここ２世紀のことにすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
☞【重要： 4.17 付変更】5 月 7 日の対面授業再開を模索してきましたが、昨今の社会的状況に鑑み、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講としたいと思います。すでに【4.10 付変更】でお知らせしたように、5 月 7 日まで「課題」レポート（中間テストの代替）に取り組んでもらい、5 月 7 日（木）の授業（4 月 30 日は休講）からオンデマンド型授業（録画配信視聴）を予定している。動画と資料は毎週授業日当日までに「学習支援システム」にアップロード（予定）するので、必ずチェックするようにお願いします。以上
中世までもっぱらユダヤ・キリスト教だけが本当の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにがしかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。１．古代異教の復活（ルネサンス）。２．カトリック＝異教論の登場（宗教改革）。３．新大陸の異教との遭遇（大航海時代）。おもに西洋が経験したこの３つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です（授業計画参照）。
なお、この授業は秋学期の「宗教学１（伝統宗教）２」と連動しているので、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション☞**【変更 → シラバス最下段「その他の重要事項」参照】**	授業のテーマの説明
第 2 回	「他者の信仰」と現代（1）	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代（2）	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ＝キリスト教史（1）	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ＝キリスト教史（2）	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	古代・中世キリスト教（1）	異教概念の成立
第 7 回	古代・中世キリスト教（2）	教父の偶像崇拝批判
第 8 回	宗教改革と異教批判（1）	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判（2）	異教＝教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判（3）	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判（4）	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服（1）	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服（2）	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回プリント配布。

【参考書】
ジル・ケペル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
ハルバータル、マルガリート共著『偶像崇拝―その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年
木崎喜代治『信仰の運命―フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】
出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。２つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【その他の重要事項】
☞新型コロナの影響に伴う措置として、第 1 回授業（4.23）をレポート課題に差し替えます。その代わり、そのレポートをもって、学期半ばに予定していた中間テストの代替とします。
授業初日からイレギュラーな授業となりますが、昨今の事情によりどうか了解のほどよろしく願います。具体的な課題の内容、期限、今後の予定などについては、近日中（4.10～）に大学の「学習支援システム（Hoppii）」（https://hoppii.hosei.ac.jp ）に、「課題」としてアップするので必ずそれを見るようにしてください。
以上

【Outline and objectives】
In the 21st century, as symbolized by the Western world and the Islamic world, the issue of friction and secularization among religions is getting political attention. In recent years, violence over religious values has become visible around the world, and it is becoming not an issue unrelated to us either. This course introduces the history of " the beliefs of others " in Western Europe to students taking this course, and the aim of course is to help students acquire knowledge to consider the religious problems of the international community from a broad perspective.

PHL200BB

宗教学１（伝統宗教）２

杉本　隆司

授業コード：A2252　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に考察する。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して１９世紀の宗教学の成立までを概観し、現代の政教分離の原則や近代国家と宗教の関係がどのように確立されたのかを学ぶ。

【到達目標】
宗教学の誕生は、19 世紀のキリスト教神学から宗教学（科学）への転換によって特徴づけられる。これは、中世までのように「宗教」がいわば空気のごとく自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」（クリティックの対象）として立ち現れたという認識の転換でもある。この授業ではおもに世俗の思想家たちの異教への視線や宗教観を通して、宗教学の成立と非宗教的な（ライックな）国民国家の形成を、キリスト教（教会権力）の相対化という長期的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし１７世紀以降、異教問題は世俗の思想家や哲学者の宗教（不）寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、１９世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します（授業計画参照）。
なお、この授業は春学期の「宗教学１（伝統宗教）１」と連動しているので、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第 2 回	ルネサンスとユマニスム（1）	モアのユートピア宗教
第 3 回	ルネサンスとユマニスム（2）	新プラトン主義と合理主義神学
第 4 回	理神論と自然宗教（1）	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第 5 回	理神論と自然宗教（2）	スピノザの汎神論
第 6 回	理神論と自然宗教（3）	ロックの生得観念批判
第 7 回	啓蒙思想と宗教批判（1）	フランス啓蒙の自然宗教論
第 8 回	啓蒙思想と宗教批判（2）	ヒュームの理神論批判
第 9 回	啓蒙思想と宗教批判（3）	ド・ブロスのフェティシズム論
第 10 回	仏革命とロマン主義（1）	革命宗教と非キリスト教化運動
第 11 回	仏革命とロマン主義（2）	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第 12 回	実証主義と人間の宗教（1）	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第 13 回	実証主義と人間の宗教（2）	デュルケムと宗教学の制度化
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回プリント配布。

【参考書】
ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見―宗教学と近代』岩波書店、2005 年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010 年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】
出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。２つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical aspects of criticism of "religion". Continuing from the semester of the spring semester, this course deals with the historical issues such as "beliefs of others" and religious tolerance. In the autumn semester, while also considering the political dynamics between secular state and church authority, the goals of this course are to understand the current from the Renaissance through the enlightenment thought to the establishment of the science of religion of the 19th century, and to obtain basic knowledge about the principle of contemporary separation of church and state.

PHL200BB

日本思想史１

西塚　俊太

授業コード：A2260　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。その際、「やさしさ」「かなしみ」「愛」「別れ」「祈り」「祀り」「道」などの様々なテーマのもとで考察することで、現代にも受け継がれている日本思想・日本文化の特徴を把握することを目的とする。

【到達目標】
・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
予定通り 4 月 21 日開始です
（1）講義形式を基本とする。
（2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
（3）毎回の講義の終盤に、次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と「自然」	日本思想における理想としての「自然」についての考察
第 3 回	別離の思想史的意義	喪失と別離についての日本思想的考察
第 4 回	「祀り」の思想	他なる世界と関係を結ぶことに関する思想史的考察
第 5 回	日本思想史における「仏教」	仏教の受容と日本化の過程についての検討
第 6 回	古の物語に見る思想	神々の世界と人間の世界とを結ぶ思想のあり方について
第 7 回	「物」語りとは	日本語の端々に現れる「物」とは一体何であるのか
第 8 回	「武」の思想	「武」の社会の人間関係のあり方についての検討
第 9 回	「決断」の思想	武の世界に生きる者たちが示した「思い切ること」の意義の考察
第 10 回	集団が生み出す論理	集団の中に生まれてくる思想のあり方について
第 11 回	国際社会と日本の伝統	映像資料を用いて、日本の伝統思想と国際化との関係を考察する
第 12 回	「型」と「道」の思想史	日本の思想史の中に現れる「型」と「道」の思想の確認と検討
第 13 回	「愛」と「粋」	「愛すること」の中に見る思想のあり方の考察
第 14 回	「糸」と「ナイルの一滴」	人と人が出会うことの奇蹟についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】
参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末試験（55 %）によって評価する。
講義における質問や発言は高く評価するポイントとなるが、講義の進行の妨げとなる言動（私語の継続・不必要な携帯端末の使用・不要な入退出の繰り返しなど）に対しては非常に厳しく対応することになるので、その点に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
正当な理由のない遅刻者に対する対応をより厳密にして、講義が途中入室者への対応で中断しないよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
※重要
2020 年度の春学期はオンラインでの実施が初回から続くことになる。非常に変則的な形での講義の実施となるので、学習支援システムを毎週欠かすことなく確認することが不可欠である。
内容が 2 回分圧縮され、かつ上記シラバスとは大きく異なる順序で講義を実施することになる。
今年度は対面式回が大きく減少すると考えられ、さらにはレポート課題へのコメントも従来よりは減ってしまうと考えられる。その点も含めて完全な形での講義を受講したい場合は他年度に受講することも考えて欲しい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL200BB

日本思想史２

西塚　俊太

授業コード：A2261　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。春学期開講の「日本思想史１」よりもいっそう「原典」の読解力の養成を重視する。

【到達目標】
・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
（2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
（3）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と神話世界①	『古事記』に表現されている世界像について
第 3 回	日本思想と神話世界②	『古事記』の神代と人代の世界像の相違について
第 4 回	近世世界における神話の受容と変容	本居宣長と平田篤胤における神話世界観の検討
第 5 回	近代的な「記紀神話」読解	丸山真男の記紀神話読解に関する考察
第 6 回	厭離穢土と欣求浄土	求められる「浄土」とは何か、なぜ「浄土」は求められるのか、『往生要集』を通じて考察する
第 7 回	『歎異抄』の思想①	現代人は唯円の語る「悪人」を理解出来ているのだろうか
第 8 回	『歎異抄』の思想②	騙されているとしても「信じる」とはいかなる事態か
第 9 回	王朝文化とは何か	現世で到達し得る最高のあり方とはいかなるあり様か
第 10 回	『曾我物語』の思想①	武士社会の形成の原像についての検討
第 11 回	『曾我物語』の思想②	「敵討ち」で実現された「武士」像の研究
第 12 回	『三河物語』の思想②	戦闘者としての武士の社会から官僚としての侍の社会への変様を検討する
第 13 回	『三河物語』の思想②	大久保彦左衛門はなぜ「詞がけ」を希求したのか
第 14 回	『葉隠』の思想	『葉隠』の思想を、世間に流布しているイメージを排して一から読み直していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】
参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義時に課すミニレポートの評価（40 %）と、学期末レポート（60 %）によって評価する。

講義における質問や発言は高く評価するポイントとなるが、講義の進行の妨げとなる言動（私語の継続・不必要な携帯端末の使用・不要な入退出の繰り返しなど）に対しては非常に厳しく対応することになるので、その点に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
正当な理由がない遅刻者への対応を厳密にすることで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『三河物語』における譜代意識の根底―「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から―」（『倫理学紀要第 24 輯』、2017）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL300BB

文化史１

伊藤　直樹

授業コード：A2262　｜　曜日・時限：**火曜１限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめ、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。
かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつがＡＩでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなものでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。
　本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

【到達目標】
講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
内容的には次のようになります。
まず、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』――と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、最近出た光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「２０００年間、クリエーターたちの必読書である。「ストーリー創作」の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ（悲劇）が出来上がるのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者 H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。
授業開始日 4 月 21 日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	下記の【その他の重要事項】の部分を参照してください。
第 2 回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第 3 回	アリストテレスの『詩学』（1）	アリストテレス思想の全体像
第 4 回	アリストテレスの『詩学』（2）	アリストテレスの『詩学』について；ミメーシス、歴史との違いなど
第 5 回	アリストテレスの『詩学』（3）	アリストテレスの『詩学』続き；カタルシスなど
第 6 回	ギリシア悲劇について（1）	ソフォクレス『オイディプス王』について
第 7 回	ギリシア悲劇について（2）	『オイディプス王』を観る
第 8 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（1）	ニーチェ思想の全体像
第 9 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（2）	ディオニュソスとアポロン
第 10 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（3）	ソクラテス主義と悲劇の死
第 11 回	ガダマーの芸術論（1）	ガダマー思想の全体像
第 12 回	ガダマーの芸術論（2）	芸術と遊び
第 13 回	ガダマーの芸術論（3）	形態化への変貌、ミメーシスの本質
第 14 回	まとめ	授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。
授業で使用する資料を、学習支援システムにアップしますので、それをダウンロードし、プリントアウトしておいてください。
オンライン授業の際にも、手元にその資料を置いて授業を受けてください。
もし、自宅にプリンターがない場合は、近くのコンビニで、プリントアウトすることになろうかと思います。
ファミリーマート、セブンイレブンでプリントアウトする場合には、次のサイトを参考にしてください。
ファミリーマート　https://networkprint.ne.jp/sharp_netprint/ja/top.aspx
セブンイレブン　https://www.printing.ne.jp/index_p.html

【参考書】
参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
原則的に、参加２／３以上、学期末のレポート、というように考えています。ただし、春学期の授業の展開次第で変更もありえます。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるが、ギリシア悲劇などを扱った箇所が重なるので、その点に関する受講生のコメントを紹介する。
「私はアリストテレスの模倣のくだりが楽しかった。ニーチェの『悲劇の誕生』についてレポートを書こうとしていたが、『詩学』にしようと思う。半年間面白い授業でした。英文学科として刺激のある哲学の授業でした。」（英文４年）
次のようなものもあった。ギリシア悲劇についてのイメージをはっきり持たれている。
「何も知らない状態から、授業を受けて、今終わると面白かったです。ギリシア悲劇のドロドロした感じがとくに面白かったです。」（哲学３年）

【その他の重要事項】
第１回の授業は、オンデマンド形式にします。学習支援システムの「教材」の項目に、リンクを張ります。
4 月 21 日の 8 ： 00 より、4 月 27 日 24 ： 00 まで配信します。そのあいだに視聴してください。
講義全体について説明した上で、第３回までのあいだに行うことを説明します。
予定としては、第２回のときに、資料としてマンガ形式の『ギリシア神話』を紹介しますので、それに目を通してもらいます。
第３回の授業までに、ギリシア神話の印象や感想を述べてもらうことにします。

【Outline and objectives】
This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc.
The culture of human beings was once restricted by mother nature. Humans, however, resolved those restrictions one by one over time eventually removing all of them by using the natural sciences. A.I. might be one of the results of such processes.
What was that restriction in ancient Greek? It was the law and order created by gods and goddesses. Humans were ruled by the order, accepted it, but eventually resisted and tried to create their own. Greek tragedy attempts to portray those struggles, and those struggles become the basis of theatricals.
This very drama is the central theme of this course.

PHL300BB

文化史２

伊藤　直樹

授業コード：A2263　｜　曜日・時限：**火曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず自伝の本質とは何かということについて解説する。そのうえで、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』を、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。
昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。
○高橋是清 『高橋是清自伝』○アゴタ・クリストフ『文盲 アゴタ・クリストフ自伝』○チャップリン『チャップリン自伝―若き日々』○室井滋『キトキトの魚』○鎌田實『「がんばらない」を生きる』○ハービー・ハンコック『ハービー・ハンコック自伝 新しいジャズの可能性を追う旅』○シュリーマン『古代への情熱－シュリーマン自伝－』○ときど『東大卒プロゲーマー 論理は結局、情熱にはかなわない』○岡本太郎『自分の中に毒を持て あなたは“常識人間”を捨てられるか』○福沢諭吉『福翁自伝』○小保方晴子『あの日』○草間彌生『無限の網』○梅原大吾『勝ち続ける意志力』○柳井正『一勝九敗』○CLAYTON&ELLEN KERSHAW『Arise』○栗原類『発達障害の僕が輝ける場所をみつけられた理由』○スティーブ・ジョブズ『スティーブ・ジョブズ』○ロアルド・ダール『少年』○村田諒太『１０１％のプライド』○チョン・ダヨン『モムチャン式 １０年後もキレイな女でいる方法』
いろいろあって、興味深い。

【到達目標】
この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション　―「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明；自伝とはなにか（1）	自伝の定義：ルジュンヌなどを手がかりに、自伝とはなにかということを明らかにします。
第２回	自伝とはなにか（2）	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第３回	自伝とはなにか（3）	さまざまな自伝を歴史的に概観します。
第４回	アウグスティヌス『告白』（1）	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第５回	アウグスティヌス『告白』（2）	アウグスティヌスの『告白』の構造を解明します。
第６回	ルソー『告白』（1）	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第７回	ルソー『告白』（2）	ルソーの『告白』の構造を解明します。
第８回	ゲーテ『詩と真実』（1）	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第９回	ゲーテ『詩と真実』（2）	ゲーテの『詩と真実』の構造を解明します。
第10回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第11回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第12回	自伝紹介１	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第13回	自伝紹介２	前回同様、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第14回	まとめ	全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
11 月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】
取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫 ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】
自伝紹介レポートの提出および発表。（自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。）
課題レポート。（授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。）
授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）３０％　レポート７０％
自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分での自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。
※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の受講生に感想を書いてもらいました。
まず次のようなものがありました。
「自伝をこの時期に読んで良かったと思います。僕はルソーの『告白』を読みましたが、自分の人生を飾ることなくありのままに示す姿勢には考えさせられるものがありました。就活で少しでも自分をよく見せようとか、評価をあげようとか、一辺倒になりがちですが、素の自分をそのまま見せることが、結局、読み手の心、聞き手の感情をゆさぶるものだと気がつくことができました」（英文３年）。
さらに次のようなもの。
「今までに自伝に触れた機会といえば、自己啓発本のようなものを読んだことがあるくらいでした。今回の授業では聞き手と語り手という視点から構造を読み取ったり、史実と照らし合わせることで、自伝の持つあいまいさや表現を学びました。自分史を書いてみて、想像以上にスラスラと書けたことがおどろきでした」（心理３年）。
こういうものもありました。
「自伝は今まで読んだことがありませんでした。なぜならば、他の人生を語ったつまらないものと考えていたからです。しかしこの授業を通してその考えはくつがえされました。自伝はただその人の人生を語ったものではなく、その人の人生と自分の人生を重ね合わせる事で、自分の人生を振り返るきっかけになる自己啓発的な役割もはたすことをしてくれる書籍であると感じました」（英文３年）。
次のようなもの。
「自伝は自分の事よりむしろ他人をいかに描くかじゃないかと思った。人がする事なんて大体他人もやっている。むしろ、行為を共にした人物と自分との関係性がオリジナルになるんだから、そこが充実していないと何かの焼き増しの様で、面白くない」（哲学３年）。

【Outline and objectives】
This course deals with the autobiography. We will start with the essence of autobiography. Its essence is “an autobiography contract” according to Philippe Lejene. Then we will look into separate autobiographies, for example, Augustinus ”Confessions”, Jean-Jacque Rousseau “Confessions”, Goethe ”My Life :Poetry and Truth”, Benjamin Franklin “ Autobiography”, and Fukuzawa Yukichi “Autobiography of Fukuzawa Yukichi”. These works are considered cultural historically in this course. All students are to give a presentation about their favorite autobiography.

PHL200BB

社会思想１（社会学概論）１

岩野　卓司

授業コード：A2264　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】
今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えてみると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。授業では、この共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を簡単に説明したあと、講義では次の４つのテーマを検討していく。（１）人類は文明化によって人肉食をなくしてきたが、臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を所有することで、人肉食と同じことをしているのではないだろうか。他者の肉体の贈与とカニバリズムの関係を考えてみる。（２）介護やボランティアは自己犠牲や滅私奉公などの物語を通して語られてきたが、本当にそうだろうか。そこに見返りのない贈与があるのだろうか。（３）資本主義は商品の交換による利益を求める関係を人間に強いる。また、未開社会の人間関係も互酬的な贈与交換に縛られている。現代のアナキズムは、こういった人間関係の根底に見返りも求めず「ただ与えるだけ」の人間関係を見出す。こういった考え方がどう現代社会に寄与していくかについて考えていく。（４）地球温暖化によって気候変動がもたらされ、地球の危機が訪れる可能性がある。われわれは自然との関係を見直さなければならない。自然の恵み（贈与）をどうとらえていけばいいのかを考えてみる。
授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom の録画を使ったオンライン講義。毎回課題を出す。５月７日より授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	共同体とは何か？ 贈与とは何か？
第 2 回	資本主義と無縁社会	行き過ぎた資本主義による人間関係の希薄化を検討。
第 3 回	肉食をどう考えるか。	宮沢賢治に例をとりながら肉食の禁止について考えてみる。
第 4 回	どうして人肉食は禁止されているのか。	カニバリズムと人間の本質
第 5 回	臓器移植と人肉食	臓器移植は人肉食の現代版というレヴィ＝ストロースの考えの検討。
第 6 回	ケアの倫理	人にサービスしたくなる感情、社会におけるケアの問題点。
第 7 回	ボランティアの哲学	ボランティアは純粋な贈与か。
第 8 回	相互扶助	資本主義に対抗する人間関係。互酬的ではない贈与の可能性。
第 9 回	現代アナキズムの可能性	グレーバーの『負債論』の検討。
第 10 回	利益に縛られない共同性	財産の私有によるのでもなければ財産の共有によるのでもない人間の共同性。
第 11 回	気候変動にどう対処すべきか？	自然の恵み（贈与）の再解釈。
第 12 回	コモンズ（共有されるもの）の可能性	共有地からはじまり空気、水、海に至るまでの共有物をどう考えていくべきか。
第 13 回	「所有」から「贈与」へ	人間どうしの関係や人間と自然との関係の根本にある贈与を考えてみる。
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との
関係に照らし合わせて、よく考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業でプリントを配布
岩野卓司『贈与論　資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）

【参考書】
モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』（ちくま文庫）
岩野卓司編『共にあることの哲学』（書肆心水）
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水）
マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）
森元斎『アナキズム入門』（ちくま新書）
栗原康『大杉栄伝』（夜光社）
栗原康『現代暴力論』（角川新書）
デヴィッド・グレーバー『負債論』（以文社）
アナ・チン『マツタケ』（みすず書房）
クロード・レヴィ＝ストロース『われらみな食人種（カニバル）』（創元社）
NHK スペシャル取材班『無縁社会』（文春文庫）
クロポトキン『相互扶助論』（同時代社）
平川克美『２１世紀の楕円幻想論』（ミシマ社）
ファビエンヌ・ブルジェール『ケアの倫理』（白水社）
仁平典宏『「ボランティア」の誕生と終焉』（名古屋大学出版会）
斉藤幸平『大洪水の前に』（堀之内出版）
斉藤幸平編『未来への大分岐点』（集英社新書）
中沢新一『カイエ・ソヴァージュ』（講談社）
中沢新一『日本の大転換』（集英社新書）
『宮沢賢治全集』（ちくま文庫）
金山秋男編『日本人の魂の古層』（明治大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（毎回の課題への回答の提出）
到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Zoom、資料配布や課題提出のために授業支援システム

【その他の重要事項】
外国語の能力は必要とされない。社会思想の予備知識もいらない。

【Outline and objectives】
In modern times the relationship between people and society is becoming thin.　The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e - mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure.　Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves.　"Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

PHL200BB

社会思想１（社会学概論）２

岩野　卓司

授業コード：A2265　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目的である。

【到達目標】
クリスマスやバレンタインのプレゼントや、お中元やお歳暮といったかたちで、われわれの身近には多くの贈与の習慣が存在している。ところで今日、この贈与が注目を集めている。というのも、ボランティア、臓器移植、ベーシックインカムといった今日的問題を語る際に贈与の論理が使われているからである。また、利益獲得の計算の上に発展した資本主義は、格差の増大、派遣労働者や失業、環境破壊といった今日多くの問題をもたらしており、再び贈与経済を見直そうという動きがあるからでもある。そして、資本主義に対抗する贈与経済の重要性に最初に注目したのは、フランスの人類学者マルセル・モースである。本講義では、まずモースの『贈与論』を分かりやすく紹介し、彼の贈与交換の理論について考えてみる。そのあとで、交換とは異なる贈与についても考察しながら、モースの理論の限界を指摘し、この理論を補ってさらに発展させなければならない必要について説明する。それを踏まえたうえで、日本文化における贈与の重要性について検討する。日本文化は、自然との関係において特異な贈与の考えを生み出してきた。その新たな可能性について考えていきたい。
最終的に、未来の社会における贈与の重要性を理解することが授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：贈与とは何か？	お中元やバレンタインなどの贈与の風習などに潜むわれわれの無意識。
第 2 回	マルセル・モース『贈与論』（1）	資本主義と贈与経済
第 3 回	マルセル・モース『贈与論』（2）	未開社会の贈与の慣習（1）：ハウ
第 4 回	マルセル・モース『贈与論』（3）	未開社会の贈与の慣習：（2）ポトラッチ
第 5 回	マルセル・モース『贈与論』（4）	平和主義や協同組合と贈与の思想
第 6 回	反功利主義の運動	モースの影響を受けた社会学者たちの活動。
第 7 回	狩猟時代の贈与	農耕以前の狩猟社会における贈与の役割。
第 8 回	縄文時代と弥生時代	日本文化の起源を考えながら、狩猟社会の贈与と定住社会の贈与の違いの検証する。
第 9 回	アイヌと海民	農耕社会の外に位置するアイヌと海民の密接な関係を考察する。
第 10 回	宮沢賢治の贈与観	賢治が「贈与」を通して何を語ろうとしたか。
第 11 回	折口信夫における神々の世界	折口が考えた古代の神であるマレビトと産霊の神における贈与の役割。
第 12 回	吉本隆明『母型論』を読む。	母系の未開社会における贈与の役割の分析。
第 13 回	日本文化における贈与	日本の慣習の考察
第 14 回	まとめ	理解の確認のための復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書、配布のプリント、参考書をよく読み、復習しておくこと。さらに、自分の日常と照らし合わせながら、よく考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントの配布。
ならびに岩野卓司『贈与論　資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）

【参考書】
マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）
アラン・カイエ『功利的理性批判』（以文社）
セルジュ・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』（作品社）
ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』（ちくま学芸文庫）
ジャック・デリダ『他者の言語』（法政大学出版）
マーシャル。サーリンズ『石器時代の経済学』（法政大学出版）
奥野克己『ありがとうもごめんなさいもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』（亜希書房）
煎川孝『アイヌの熊祭り』（雄山閣）
網野善彦『海民と日本社会』（人物往来社）
山田康弘『縄文時代の歴史』（講談社現代新書）
吉本隆明『母型論』（思潮社）
吉本隆明『共同幻想論』（角川文庫）
『宮沢賢治全集』（ちくま文庫）
『折口信夫全集』（中央公論社）
金山秋男編『日本人の魂の古層』（明治大学出版会）
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水）
中沢新一『カイエ・ソバージュ』（講談社）
桜井英治『贈与の歴史学』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）学期末の試験（70 %）
到達目標にどれだけ近づいているかが成績に反映される。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
外国語の能力は必要とはされない。春学期の授業を取らないでも、理解できる内容である。

【Outline and objectives】
In modern times the relationship between people and society is becoming thin.　The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e - mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure.　Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves.　"Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

PHL200BB

社会思想２（社会思想史）１

政井　啓子

授業コード：A2266　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史である。春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから 18 世紀初頭までの基本的な諸思想を学び、学生が現代社会を考察する際に、それら古典思想の探求の仕方を参考にできることを目標とする。
古代ギリシャから近代まで、哲学者たちは「自然本来の不変な秩序」を探求していた。この「不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、また人間社会での、真偽、正不正、美醜善悪などを区別するための基準となるものでもある。探求の仕方は、理性主義あるいは感覚重視など、哲学者によって異なり、そして、「人間に認識可能な不変な秩序というものは無い」という思想も含めて、多様な世界観と人間観が提示される。このような全体的な探求に基づいて、望ましい社会のあり方が様々に考案された。
本授業では古典にふれながら、常識や教科書的な通説とされることを一度疑ってみることの重要性、順序正しく考えることの大切さなど、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようになることを目指す。

【到達目標】
（1）学生が、古典的な思想を学ぶことを通して、「社会」のあり方に対する、基本的な問いの立て方と論理的な思考法を習得する。
（2）現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養う。
（3）自分の考えをできるだけ明確にして、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式でおこない、受講生には、毎回、授業の終わりに質問や感想意見を書いてもらう。できれば授業内でも質問や意見を交換し合う時間を設けたい。
（追記 4 月 14 日）春学期の少なくとも前半は、オンラインで授業を行います。授業方法などの変更については、学習支援システムの「お知らせ」で説明しています。本授業の開始日は 4 月 22 日です。
☆注意☆（追記 4 月 19 日）
4 月 22 日に「授業計画と方法、成績評価の基準、その他」、4 月 29 日に「春学期の概説」を、学習支援システムの「教材」で配付します。（配付予定日を変更しました）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	古代から近代までの社会思想の概観。レポートに関する説明。
第 2 回	民主制社会における思想	「自然本来の不変な秩序」と「人間社会の法」との関係
第 3 回	プロタゴラスの思想（人間は万物の尺度である）	「人間尺度論」と民主制
第 4 回	「道徳的相対主義」に対するソクラテスの思想	愛知の精神
第 5 回	プラトンの思想 1	イデア論
第 6 回	プラトンの思想 2	理想の「国家」
第 7 回	アリストテレスの思想	人間の幸福
第 8 回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第 9 回	ルネサンスの思想	古代哲学の復興
第 10 回	科学革命	「自然」の探求
第 11 回	デカルトの思想	「私は考える、ゆえに私は在る」、自然科学の基礎付け
第 12 回	近代の自然法思想	社会契約説
第 13 回	道徳哲学の２潮流	利己主義と利他主義
第 14 回	モラルセンス説の展開	ヒュームとアダム・スミスの思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業で配布する資料のプリントおよび授業内で紹介する文献を読んで、予習と復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『社会思想史』（法政大学通信教育部　発行）。プラトンやアリストテレスなどの哲学者の著作。その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末のレポートと、数回の小レポート（授業内も有り）を提出。大体の目安としては、期末レポート 40 %、小レポート 30 %、毎授業後の感想質問 30 %。期末レポートと小レポートでは、授業で扱う各思想を単に要約説明するだけではなくて、学習した内容を理解した上で、現代社会の問題と関係づけながら、各思想に対する自分自身の考えを論理的にまとめてもらう。詳しいことは最初の授業の時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自分の疑問点や意見を授業中にまとめることができるように、板書や配布資料も工夫して、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire　an understanding of some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the early of the 18th century.

PHL200BB

社会思想２（社会思想史）２

鈴木　由加里

授業コード：A2267　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】
社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについて学問的に分析し、自分なりの見解を口頭及び文章で発表できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心であるが、文献・映像資料を多数紹介する予定である。講義 → 資料紹介 → ディスカッション → リアクション・ペーパー作成　という流れで授業を行う。
リアクション・ペーパー（授業に関連したテーマについての短い考察を文章化）は毎回提出してもらう予定である。また、テーマ内容についての口頭での意見も求める。
テーマごとに講義内容のレジメ、参考文献票などを適宜配布する予定である。

なお、受講学生の興味関心にあわせて授業内容を変更する可能性がある。受講学生とは積極的に対話していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	社会思想としての「フェミニズム」について	何を学ぶのかを説明したあとに、４５分程度の作品を視聴し、その意義を考える。単位取得についてなどの説明も行う。
第 2 回	社会思想とはどのような学問か？（概論）	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第 3 回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第 4 回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第 5 回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第 6 回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？ 第二波フェミニズムの日本への影響について
第 7 回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第 8 回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ
第 9 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第 10 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第 11 回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第 12 回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する
第 13 回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第 14 回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。 授業内で総括的な見解論述作成をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、次回の授業時にすべき質問事項をまとめておく。
参考文献の一部を紹介しておいたので、それらを読んでおく。
授業後については、時間の関係上、映像資料などを一部分しか紹介出来ないことが多いので、できる限り全編を各自で視聴しておく。授業内で配布された資料に目を通し、学習を深めておこう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業で配布。

【参考書】
『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子 (編集), 金井 淑子 (編集)　新曜社 (1997/09)
『フェミニズムの歴史』　ジャン・ラボー著　加藤康子訳新評論 (1987/10)
『現代日本女性史―フェミニズムを軸として』　鹿野政直　有斐閣（2004/07）
『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』　水田珠枝　筑摩書房 (1994/05)
『フェミニズム　（思考のフロンティア)』竹村和子　岩波書店（2000/10/20）

【成績評価の方法と基準】
○出席は、単位取得の基本条件である。
2 回以上欠席した場合、代替措置として ExtraReport を提出してもらう。
出席は、授業内で作成されるリアクション・ペーパーの提出で確認する。
○レポートは 2 本提出　各　40%　→80%

授業で学んだ「フェミニズム」「ジェンダー」に関連する概念を正しく使って、学問的に論述することができるということはレポート作成の大前提である。
レポートの評価を 100 とすると、概念理解の正しさ 30%　論理構成力 30%　考察の深さユニークさ 30%　日本語表記としての正しさ 10 %
上記の基準が達成できてない場合は、レポートの再提出を求める。
レポートの具体的な評価基準は授業時に印刷したものを配布する。
○平常点　授業への参加態度や授業内容の習熟度　　20%

【学生の意見等からの気づき】
学生の知識量のばらつきをどう埋めるのかが課題である。昨年度は、知識を補うための資料を配布したが、それを各自がきちんと消化しているかどうかを確認する時間がなかった。授業内容を削ってまで、復習をしているかどうかを確認するのは大学の授業としては妥当ではないだろう。ディスカッションにおいて、自分の言葉で考えていることを説明することの難しさを感じている学生が多かったので、意見を述べるための基礎練習についても行う必要がある。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought."Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality.This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

LIN200BB

ラテン語１

金子　佳司

授業コード：A2268　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語１では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。
古典ラテン語は紀元前１世紀から紀元後１世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
ラテン語１では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、教科書の２～３課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってもらいます。教科書が少し進んだら、教科書以外の簡単な読み物を読んでみたいと思います。
なお、授業開始日は４月２１日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第１課・第２課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第 2 回	練習問題 1,2 第３課～第５課の説明	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第 3 回	練習問題 3,5,7 引用句 1 第６課～第８課の説明	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1) 動詞未完了過去形
第 4 回	練習問題 9,11,13 引用句 2,3 第９課～第 11 課の説明	名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形
第 5 回	練習問題 15,17,19 引用句 4,5 第 12 課～第 14 課の説明	前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum,possum の変化 i 音幹名詞
第 6 回	練習問題 21,23,25 引用句 6,7 第 15 課～第 17 課の説明	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第 7 回	練習問題 27,29,31 引用句 8,9 第 18 課・第 19 課の説明	黙音幹名詞、混合幹名詞
第 8 回	練習問題 33,35 引用句 10 第 20 課・第 21 課の説明	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第 9 回	練習問題 37,39 引用句 11,12 第 22 課・第 23 課の説明	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第 10 回	練習問題 41,43 引用句 13,14 第 24 課・第 25 課の説明	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,malo の変化
第 11 回	練習問題 45,47 引用句 15 第 26 課・第 27 課の説明	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio,fero の変化
第 12 回	練習問題 49,51 引用句 16 第 28 課・第 29 課の説明	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第 13 回	練習問題 53,55 引用句 17,18 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第 14 回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳してくるとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにしておくこと。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、授業中に行ってもらう和訳（50%）と期末試験（50%）の結果で評価しますが、無断欠席や遅刻は減点しますので、理由があって欠席や遅刻をするときには、必ず書面で報告すること。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ラテン語２

金子　佳司

授業コード：A2269　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語２では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語２はラテン語１とは独立した科目ですが、ラテン語１で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語２をとる場合は、できる限りラテン語１も受講してください。
古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
ラテン語２では、ラテン語１で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、教科書の２課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってもらいます。教科書がすべて終わったら、教科書以外の短い読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の授業の復習	動詞接続法現在形、未完了過去形、目
	第 30 課・第 31 課の説明	的節で使われる接続法
		人称代名詞
第 2 回	練習問題 57,59	所有形容詞、強意代名詞
	引用句 19,20	動詞接続法完了形、過去完了過去形、
	第 32 課・第 33 課の説明	間接疑問文で使われる接続法
第 3 回	練習問題 61,63	事実に反する仮定を表す条件文
	引用句 21	仮想を表す条件文と予想を表す条件文
	第 34 課・第 35 課の説明	
第 4 回	練習問題 65,67	動詞完了不定詞、対格不定詞節
	引用句 22,23	動詞未来不定詞
	第 36 課・第 37 課の説明	
第 5 回	練習問題 67,69	関係代名詞
	引用句 24	非人称動詞
	第 38 課・第 39 課の説明	
第 6 回	練習問題 73,75	動詞現在分詞
	第 40 課・第 41 課の説明	動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す
		分詞
第 7 回	練習問題 77,79	パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
	文例 1	奪格の独立的用法
	第 42 課・第 43 課の説明	形容詞の比較級、最上級
第 8 回	練習問題 81,83	パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
	引用句 25,26	形容詞の不規則な比較級、最上級
	文例 2	数詞
	第 44 課・第 45 課の説明	
第 9 回	練習問題 85,87	動名詞
	第 46 課・第 47 課の説明	動形容詞
第 10 回	文例 3	カエサル『ガリア戦記』を読む。
	練習問題 89,91	動名詞の代わりに用いられる動形容詞
	引用句 27	動詞命令法
	第 48 課・第 49 課の説明	
第 11 回	練習問題 93,95	キケロ『善と悪の究極について』を
	文例 4,5	読む。
	第 50 課・第 51 課の説明	デカルト『省察』を読む。
		能動相（能動態）欠如動詞の命令法、
		主文における接続法
		目的分詞
第 12 回	練習問題 97,99	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
	引用句 28,29	
	文例 6	
第 13 回	読み物	ラテン語で書かれた読み物を読む。
第 14 回	理解度の確認	秋学期に扱った練習問題、引用句、文
		例、読み物が理解できたかどうかを確
		認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳してくるとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにしておくこと。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、授業中に行ってもらう和訳（50%）と期末試験（50%）の結果で評価しますが、無断欠席や遅刻は減点しますので、理由があって欠席や遅刻をするときには、必ず書面で報告すること。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ギリシア語１

白根　裕里枝

授業コード：A2270　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の$\Sigma\ \pi\ \gamma\ \beta\ \theta\ \mu$ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。
できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。
★授業の開始日は４月３０日をめどとしますが、学習支援にログインできない状況なので、５月６日となるかも知れません。また再度お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古典ギリシア語の概要	文字の読み方
第 2 回	文字を知る	文字と発音
第 3 回	読み方の規則	発音と朗読
第 4 回	名詞・形容詞の変化 1	格変化の基礎
第 5 回	冠詞・形容詞の位置	練習問題 3
第 6 回	名詞・形容詞の変化 2	練習問題 4
第 7 回	動詞変化 1 現在・未来	練習問題 5
第 8 回	動詞変化 2 過去	練習問題 6
第 9 回	動詞変化 3 不定法	練習問題 6-2
第 10 回	動詞変化 4 アオリスト	練習問題 7
第 11 回	動詞変化の整理	練習問題 7-2
第 12 回	代名詞の用法	練習問題 8
第 13 回	動詞変化 5	練習問題 8-2
第 14 回	第 3 変化の名詞	練習問題 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】
『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30 %、ギリシア語の読み書きや暗証 30 %、毎回の解答 40 %）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIN200BB

ギリシア語２

白根　裕里枝

授業コード：A2271　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン (ソクラテス) の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字のΣ π γ β θ μ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
　授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。
　できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞変化の基礎
第 2 回	第 3 変化の名詞 2	練習問題 10-11
第 3 回	関係代名詞	練習問題 11
第 4 回	指示・強意代名詞	練習問題 12
第 5 回	比較級・約音動詞	練習問題 13-14
第 6 回	不規則な形容詞	練習問題 15-17
第 7 回	動詞変化 6	練習問題 18-19
第 8 回	分詞の用法	練習問題 20-21
第 9 回	接続法と条件文	練習問題 22
第 10 回	希求法と条件文	練習問題 23-24
第 11 回	中・受動相	練習問題 25-26
第 12 回	条件文（接続法・希求法）	練習問題 27-29
第 13 回	受動相・完了	練習問題 30-32
第 14 回	命令法・数詞	練習問題 33-36

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】
『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30 %、ギリシア語の読み書きや暗証 30 %、毎回の解答 40 %）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ギリシア語という未知の言語に触れることのできる数少ない機会で、難しいが、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。教科書の最後までやりとおすために、なお一層、計画を立ててじっくり進めたい。

【その他の重要事項】
　ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんか、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

BSP100BC

大学での国語力

加藤　昌嘉

共通

授業コード:A2413,A2414,A2415,A2416,A2417,A2418,A2419,A2420,A2421,A2422A2424

｜　曜日・時限：**月曜３限，月曜４限，火曜５限**

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力” が必要とされます。

その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

《4/18 追記 ↓》

★日本文学科の “必修科目” です。日本文学科１年生は、かならず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、受講できるクラス・時限が指定されています。以下のページの＜日本文学科＞の所に掲載されているクラス表に従って、履修登録してください。

https://hosei-rinji.com/letters/bun_class-2/

【到達目標】

１．論理的な文章を正確に読解することができる

２．必要な文献を探索し参考にすることができる

３．自らの見解を論理的に表現することができる

以上のような力を身につけたうえで、「2000 字程度のレポートを書く」ことを、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000 字程度のレポートを完成させます。

図書館ガイダンスに相当する内容も、オンライン授業で実施します。

《4/20 追記 ↓》

「大学での国語力」10 クラスとも、4 月 27 日（月曜）以降に、Hoppii の「お知らせ」欄・「教材」欄から、連絡事項や資料を up します。

※ただし、再履修者クラスは、4 月 21 日（火曜）以降。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス１	自己紹介
2	ガイダンス２	図書館ガイダンス（実施日はクラスによって異なります）
3	導入編１	ノートの取り方
4	導入編２	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編３	文章を読む（要約）
6	導入編４	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編１	レポートの書き方
8	基礎編２	資料の探し方
9	基礎編３	文献引用の仕方
10	基礎編４	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編１	「問い」と「答え」の設定
12	発展編２	章立て（目次）を検討する
13	発展編３	レポート完成／相互採点
14	発展編４	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

《4/18 追記 ↓》

「Hoppii」の「お知らせ」欄＆「教材」欄に、随時、連絡事項や、教材・課題を up してゆきます。

【参考書】

《4/18 追記 ↓》

以下のページに、『法政大学　学習支援ハンドブック』PDF 版が掲載されています。

http://www.hoseikyoiku.jp/lf/handbook/

【成績評価の方法と基準】

《4/18 追記 ↓》

１．各回の課題提出（３０％）。

２．最終レポートの出来（７０％）。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「レポート作成の手順が分かった」という感想が多く寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（昼間時間帯１０クラス、夜間時間帯１クラス開講）。

【Outline and objectives】

This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

LIT100BC

日本文芸学概論 A

加藤　昌嘉

授業コード：A2401　｜　曜日・時限：**土曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。
《4/19 追記 ↓》
★春学期「日本文芸学概論 A」は日本文学科の “必修科目” です。
★ A2401（土曜２限）か A2402（水曜６限）いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。
《4/20 追記 ↓》
★春学期は、日本文学科の専任教員 5 名（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が担当します。
★ 4 月 25 日（土）に、初回ガイダンス資料を、Hoppii の「教材」欄に up します。以後は、“毎週土曜” に、教材や課題を up してゆきます。Hoppii の「日本文芸学概論Ａ」「教材」欄を、毎週、確認するようにしてください。
★下記【授業計画】を変更しました。内容は、受講しているみなさんの動向を見ながら、臨機応変に考えてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	4 月 11 日（土）全学休講	履修の準備
2	4 月 18 日（土）全学休講	履修の準備
3	加藤昌嘉《ガイダンス》	春学期の概要説明
4	中沢けい《現代文学・創作》	アジアの中の日本現代文学
5	中沢けい《現代文学・創作》	フォローアップ
6	田中和生《現代文学・創作》	近代批評・現代批評
7	田中和生《現代文学・創作》	フォローアップ
8	中丸宣明《近代文学》	近代小説の形成
9	中丸宣明《近代文学》	フォローアップ
10	小林ふみ子《近世文学》	雅俗の近世文学
11	小林ふみ子《近世文学》	フォローアップ
12	小秋元段《中世文学》	『平家物語』の魅力
13	小秋元段《中世文学》	フォローアップ
14	加藤昌嘉《まとめ》	春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
《4/19 修正》
各教員が up する「教材」をよく読み、「課題」を提出してください。

【テキスト（教科書）】
《4/19 修正》
各教員（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が、Hoppii の「教材」欄に、プリントなどを up します。

【参考書】
《4/19 修正》
各教員（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
《4/19 修正》
各教員（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が、Hoppii に「教材」を up し、「課題」を出します。その課題の提出状況（２０％）、課題の出来（８０％）。
※授業最終の “筆記試験” はおこないません。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるため、各回の目標・ねらいを、わかりやすく示します。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIT100BC

日本文芸学概論 A

加藤　昌嘉

夜間時間帯
授業コード：A2402　｜　曜日・時限：**水曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。
《4/19 追記 ↓》
★春学期「日本文芸学概論 A」は日本文学科の “必修科目” です。
★ A2401（土曜２限）か A2402（水曜６限）いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。
《4/20 追記 ↓》
★春学期は、日本文学科の専任教員 5 名（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が担当します。
★ 4 月 22 日（水）に、初回ガイダンス資料を、Hoppii の「教材」欄に up します。以後は、“毎週水曜” に、教材や課題を up してゆきます。Hoppii の「日本文芸学概論Ａ」「教材」欄を、毎週、確認するようにしてください。
★下記【授業計画】を変更しました。内容は、受講しているみなさんの動向を見ながら、臨機応変に考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	4 月 8 日（水）全学休講	履修の準備
2	4 月 15 日（水）全学休講	履修の準備
3	加藤昌嘉《ガイダンス》	春学期の概要説明
4	中沢けい《現代文学・創作》	アジアの中の日本現代文学
5	中沢けい《現代文学・創作》	フォローアップ
6	田中和生《現代文学・創作》	近代批評・現代批評
7	田中和生《現代文学・創作》	フォローアップ
8	中丸宣明《近代文学》	近代小説の形成
9	中丸宣明《近代文学》	フォローアップ
10	小林ふみ子《近世文学》	雅俗の近世文学
11	小林ふみ子《近世文学》	フォローアップ
12	小秋元段《中世文学》	『平家物語』の魅力
13	小秋元段《中世文学》	フォローアップ
14	加藤昌嘉《まとめ》	春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
《4/19 修正》
各教員が up する「教材」をよく読み、「課題」を提出してください。

【テキスト（教科書）】
《4/19 修正》
各教員（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が、Hoppii の「教材」欄に、プリントなどを up します。

【参考書】
《4/19 修正》
各教員（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
《4/19 修正》
各教員（中沢、田中、中丸、小林、小秋元）が、Hoppii に「教材」を up し、「課題」を出します。その課題の提出状況（２０％）、課題の出来（８０％）。
※授業最終の “筆記試験” はおこないません。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるため、各回の目標・ねらいを、わかりやすく示します。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIN100BC

日本文芸学概論 B

加藤　昌嘉

授業コード：A2403　｜　曜日・時限：**土曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。
《4/19 追記 ↓》
★秋学期「日本文芸学概論 B」は日本文学科の “必修科目” です。
★ A2403（土曜２限）か A2404（水曜６限）いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。
《4/19 追記 ↓》
★秋学期「日本文芸学概論 B」は、9 月 19 日（土）スタートの予定です。
★秋学期は、日本文学科の専任教員 6 名（加藤、阿部、伊海、坂本、遠藤、王）が担当します。
★下記【授業計画】を一部変更しました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	加藤昌嘉《中古文学》	写本・版本の姿
2	加藤昌嘉《中古文学》	『源氏物語』の謎
3	阿部真弓《中世文学》	日記文学の面白さ
4	阿部真弓《中世文学》	本歌取り・物語取りは盗作か
5	伊海孝充《能楽研究》	能が描く空間①
6	伊海孝充《能楽研究》	能が描く空間②
7	坂本勝《上代文学》	上代文学の世界①
8	坂本勝《上代文学》	上代文学の世界②
9	遠藤星希《中国古典文学》	李白「静夜思」を読む
10	遠藤星希《中国古典文学》	白居易「長恨歌」を読む
11	王安《対照言語学》	外国語から日本語を考える①
12	王安《対照言語学》	外国語から日本語を考える②
13	加藤昌嘉《理解度チェック》	振り返り＆筆記試験
14	加藤昌嘉《まとめ》	授業と試験の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各教員の指示に従って、予習・復習を行うこと。各回で示される「授業のねらい」を意識して、復習をしっかり行うようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
各教員がプリントを配布します。

【参考書】
各教員が紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の成績を重視します（８８%）。試験は記述式です（プリントや資料等を参照することはできません）。
また、毎回提出してもらうリアクションペーパーにより、授業の理解度をチェックします（１２%）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるため、各回の目標・ねらいを、わかりやすく示します。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIN100BC

日本文芸学概論 B

加藤　昌嘉

夜間時間帯
授業コード：A2404　｜　曜日・時限：**水曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。
《4/19 追記 ↓》
★秋学期「日本文芸学概論 B」は日本文学科の “必修科目” です。
★ A2403（土曜２限）か A2404（水曜６限）いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
日本の文学・言語・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。
《4/19 追記 ↓》
★秋学期「日本文芸学概論 B」は、9 月 24 日（水）スタートの予定です。
★秋学期は、日本文学科の専任教員 6 名（加藤、阿部、伊海、坂本、遠藤、王）が担当します。
★下記【授業計画】を一部変更しました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	加藤昌嘉《中古文学》	写本・版本の姿
2	加藤昌嘉《中古文学》	『源氏物語』の謎
3	阿部真弓《中世文学》	日記文学の面白さ
4	阿部真弓《中世文学》	本歌取り・物語取りは盗作か
5	伊海孝充《能楽研究》	能が描く空間①
6	伊海孝充《能楽研究》	能が描く空間②
7	坂本勝《上代文学》	上代文学の世界①
8	坂本勝《上代文学》	上代文学の世界②
9	遠藤星希《中国古典文学》	李白「静夜思」を読む
10	遠藤星希《中国古典文学》	白居易「長恨歌」を読む
11	王安《対照言語学》	外国語から日本語を考える①
12	王安《対照言語学》	外国語から日本語を考える②
13	加藤昌嘉《理解度チェック》	振り返り＆筆記試験
14	加藤昌嘉《まとめ》	授業と試験の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各教員の指示に従って、予習・復習を行うこと。各回で示される「授業のねらい」を意識して、復習をしっかり行うようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各教員がプリントを配布します。

【参考書】
各教員が紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の成績を重視します（７４％）。試験は記述式です（プリントや資料等を参照することはできません）。
また、毎回提出してもらうリアクションペーパーにより、授業の理解度をチェックします（２６％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるため、各回の目標・ねらいを、わかりやすく示します。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIN100BC

日本言語学概論 A

間宮　厚司

授業コード：A2409　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語に関する知識を幅広く修得し、応用のきく考える力を多方面から養います。沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』の言語を大和古語と比較することで、問題の立て方、資料の集め方、論の組み立て方、書き方についても学びます。その他、日本語の興味深い点について、いろいろと紹介します。

【到達目標】
この授業は、1 年生から履修できる日文の必修科目ということで、日本語を様々な角度からよく観察し、客観的に分析する方法を学ぶことによって、日本言語学への理解を深め、その魅力を知ることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は、4 月 22 日（水）になります。詳細は、Hoppii を御覧ください。
授業はプリントとテキストを併用して進めます。前半は、プリントで具体例を示しながら、身近な日本語の意外に知られていない面を受講生と共に考えます。後半は、テキストを用いて、沖縄方言の古い姿を大和古語と比較することで、語源・文法・表記について丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	沖縄古語の語源（1）	グスク（城）の語源
第 3 回	沖縄古語の語源（2）	テダ（太陽）の語源
第 4 回	沖縄古語の語源（3）	オモロ（神歌）の語源
第 5 回	沖縄古語の語源（4）	アヂ（按司）の語源
第 6 回	沖縄古語の語源（5）	ミルヤ・カナヤ（神観念語）の語源
第 7 回	沖縄古語の語源（6）	アマミヤ・シネリヤ（神観念語）の語源
第 8 回	沖縄古語の語源（7）	オボツ・カグラ（神観念語）の語源
第 9 回	沖縄古語の語源（8）	ヂャウ（門）とウリズン（季節語）の語源
第 10 回	沖縄古語の文法（1）	係り結びの種類と用法
第 11 回	沖縄古語の文法（2）	形容詞の種類と用法 自称名詞ア・ワ（我）
第 12 回	沖縄古語の表記（1）	助詞ガの表記 助詞テの表記と語釈
第 13 回	沖縄古語の表記（2）	類推表記をめぐって 助詞ハの表記・発音
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
間宮厚司『沖縄古語の深層［増補版］』（森話社、2014 年、1900 円＋税）

【参考書】
山口佳紀編『暮らしのことば 新 語源辞典』（講談社、2008 年、4500 円）
山口仲美編『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』（講談社、2003 年、3800 円）

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細は、Hoppii を御覧ください。
平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室内の温度を調整してほしい。

【Outline and objectives】
In this lecture, you are going to use a textbook that I've showed on the list. The lecture introduces the problems of Japanese Language to students taking this course.

LIN100BC

日本言語学概論 A

古牧　久典

夜間時間帯
授業コード：A2410　｜　曜日・時限：**火曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
・多角的な視点からことばを観察することができる。
・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理する。
—（追記事項）—
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システム（Hoppii の「おしらせ」欄）で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「日本言語学概論」の概要
第 2 回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第 3 回	「言語学」とは？	言語学の考え方
第 4 回	言語はヒトだけのものか？	言語の使用
第 5 回	言語の祖先はどのようなものか？	歴史・比較言語学
第 6 回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第 7 回	ことばの比喩とは？	レトリック・比喩論
第 8 回	心とことばの関係は？	心理言語学
第 9 回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第 10 回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第 11 回	「方言」とは？	地域方言学
第 12 回	ことばの世代差・男女差とは？	社会方言学
第 13 回	対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（50 %）、期末レポート（50 %）
—（追記事項）—
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付ける。

【Outline and objectives】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives on languages, in the areas of approaches to language as a sign system (General linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), sociology of language (sociolinguistics), etc.

LIN100BC

日本言語学概論 B

尾谷　昌則

授業コード：A2411　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語学には様々な領域があるが、本講義では主要な領域となる音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野を概観する。

【到達目標】
各領域における基礎概念・用語を理解し、その概念について具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントのスライドを用いて、様々なことばの問題・具体例を示しながら、それが言語学でどのように分析されているのかを紹介する。見解が分かれるような問題も取り上げるので、受講生にも意見を述べてもらう機会が多くなると思われる。その際は遠慮無く発言してほしい。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	外国語としてみた日本語
第 2 回	音韻論	音素、異音、音脱落、音添加など
第 3 回	形態論 (1)	形態素と語構成
第 4 回	形態論 (2)	連濁と複合語の意味
第 5 回	統語論 (1)	品詞と活用
第 6 回	統語論 (2)	文の要素と文法
第 7 回	統語論 (3)	４つの文法カテゴリー
第 8 回	意味論 (1)	語彙の意味
第 9 回	意味論 (2)	品詞の意味と文法
第 10 回	意味論 (3)	意味と認知
第 11 回	語用論 (1)	意味論から語用論へ
第 12 回	語用論 (2)	会話の含意
第 13 回	語用論 (3)	敬語と待遇表現
第 14 回	まとめ	半期の講義を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習　（１時間）
授業の復習　（２時間）
リアクションペーパーに書く具体事例探し　（１時間）

【テキスト（教科書）】
毎回独自のプリントを配布する。

【参考書】
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか、朝倉書店）
『言語学大辞典』（三省堂）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語学研究事典』（飛田良文ほか、明治書院）
『日本語語用論のしくみ』（加藤重広、研究社）
『日本語音声学のしくみ』（猪塚元・猪塚 恵美子、研究社）
『認知意味論のしくみ』（籾山洋介、研究社）
『日本語文法のしくみ』（井上優、研究社）
『日本語学のしくみ』（加藤重広、研究社）
『言語学のしくみ』（町田健、研究社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
具体例が多く分かりやすいとの意見が多いが、スライドの進行が早いとの苦情もあった。しかし、スライドを全て丸写しするのではなく、要領良くまとめてノートをとる練習でもあるため、そのような意識が学生に芽生えるよう注意したい。

【Outline and objectives】
We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

LIN100BC

日本言語学概論 B

古牧　久典

夜間時間帯
授業コード：A2412　｜　曜日・時限：**火曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・言語学の基礎知識を習得する。
・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ことばの学問
第 2 回	ことばの様々な側面	言語学の射程・言語学の関連分野
第 3 回	ことばの共通性をどう考えるか？	言語普遍論
第 4 回	ことばの相違性をどう考えるか？	言語類型論
第 5 回	コミュニケーションとは？	語用論・コミュニケーション論
第 6 回	ことばの意味とは？	意味論・語彙論
第 7 回	文法とは？	文法論
第 8 回	文の構造とは？	統語論
第 9 回	単語とは？	形態論
第 10 回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第 11 回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第 12 回	文章が成立している背景とは？	テクスト言語学・談話分析
第 13 回	ことばでどう表現するか？	認知言語学
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回に登場する用語・概念について、授業後、定義とその具体例が説明できるようにする。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる姿勢を身につける。（本授業は、同科目Ａを履修済みである方が望ましいが必須ではない。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付ける。

【Outline and objectives】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics). At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

LIT200BC

日本文芸史Ｉ Ａ

坂本　勝

授業コード：A2405　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

【到達目標】
（A）古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。（C）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。第１回授業はＨｏｐｐｉｉ上で４月２２日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	授業概説
第 2 回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第 3 回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第 4 回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第 5 回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第 6 回	『古今和歌集』	文ｇ飼う詩における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第 7 回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第 8 回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第 9 回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第 10 回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第 11 回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第 12 回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第 13 回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第 14 回	春学期総括、試験、まとめ。	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
国語教育プロジェクト『ビジュアル資料　原色シグマ新国語便覧　増補三訂版』（文英堂）

【参考書】
授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
「定期試験期間」に行う筆記試験（72 %）、各回のリアクションペーパーなど、授業への参加度（28 %）

【学生の意見等からの気づき】
個々の作品について理解することだけではなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

【Outline and objectives】
A history of literature in the Nara Heian Period is learned.

LIT200BC

日本文芸史Ｉ Ａ

坂本　勝

夜間時間帯
授業コード：A2406　｜　曜日・時限：**火曜６限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

【到達目標】
（A）古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。（C）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。第１回授業は Hoppii 上で４月２１日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	授業概説
第 2 回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第 3 回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第 4 回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第 5 回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第 6 回	『古今和歌集』	文 g 飼う詩における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第 7 回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第 8 回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第 9 回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第 10 回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第 11 回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第 12 回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第 13 回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第 14 回	春学期総括、試験、まとめ。	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
国語教育プロジェクト『ビジュアル資料　原色シグマ新国語便覧　増補三訂版』（文英堂）

【参考書】
授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
「定期試験期間」に行う筆記試験（72 %）、各回のリアクションペーパーなど、授業への参加度（28 %）

【学生の意見等からの気づき】
個々の作品について理解することだけではなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

【Outline and objectives】
A history of literature in the Nara Heian Period is learned.

LIT200BC

日本文芸史Ｉ Ｂ

小林　ふみ子、阿部　真弓

授業コード：A2407　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】
（A）古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
（B）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
中世 (阿部）と近世（小林）の担当者で前半と後半を分担します。
講義を基本とし、適宜授業中に発言を求めることがあります。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世１	中世的世界の始まり
第 2 回	中世２	説話
第 3 回	中世３	韻文
第 4 回	中世４	随筆
第 5 回	中世５	軍記物語
第 6 回	中世６	お伽草子
第 7 回	中世７	中世文学のまとめ
第 8 回	近世１	近世の始まり 仮名草子
第 9 回	近世２	近世前期～中期・上方の小説
第 10 回	近世３	俳諧
第 11 回	近世４	漢詩・和歌・狂歌
第 12 回	近世５	人形浄瑠璃・歌舞伎
第 13 回	近世６	近世中期・江戸の小説
第 14 回	近世７	近世後期・江戸の小説 近世文学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を覚えているうちに復習し、試験に備えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回、資料を配付する。

【参考書】
作品・ジャンルごとに、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験期間に行う筆記試験（85 %）と各回のリアクションペーパー（15 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないよう内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにしたいと思います。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

【Outline and objectives】
Learnig the history of Japanese Litrature from the medieval(late12-16th C.)to early modern(17-early19th C) times in various genres.

LIT200BC

日本文芸史ＩＢ

小林　ふみ子、阿部　真弓

夜間時間帯
授業コード：A2408　｜　曜日・時限：**火曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】
（A）古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
（B）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
中世 (阿部）と近世（小林）の担当者で前半と後半を分担します。
講義を基本とし、適宜授業中に発言を求めることがあります。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世１	中世的世界の始まり
第 2 回	中世２	説話
第 3 回	中世３	韻文
第 4 回	中世４	随筆
第 5 回	中世５	軍記物語
第 6 回	中世６	お伽草子
第 7 回	中世７	中世文学のまとめ
第 8 回	近世１	近世の始まり 仮名草子
第 9 回	近世２	近世前期～中期・上方の小説
第 10 回	近世３	俳諧
第 11 回	近世４	漢詩・和歌・狂歌
第 12 回	近世５	人形浄瑠璃・歌舞伎
第 13 回	近世６	近世中期・江戸の小説
第 14 回	近世７	近世後期・江戸の小説 近世文学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を覚えているうちに復習し、試験に備えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回、資料を配付する。

【参考書】
作品・ジャンルごとに、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験期間に行う筆記試験（70 %）と各回のリアクションペーパー（30 %）で総合的に評価する。6 限開講の当科目は各回のリアクションペーパーを重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないよう内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにしたいと思います。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

【Outline and objectives】
Learnig the history of Japanese Litrature from the medieval(late12-16th C.)to early modern(17-early19th C) times in various genres.

LIT200BC

文学概論Ａ

中丸　宣明

授業コード：A2425　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】
これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
緊急：オンライン授業ですので 4 月 28 日から配信を始めます。21 日以降なるべく早い時期にご挨拶します。
講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	一年間の講義の概要
第 2 回	文学史の時代区分について	口承から写本へ
第 3 回	文学史の時代区分について	印刷から出版へ
第 4 回	文学史の時代区分について	IT 時代へ
第 5 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 1
第 6 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 2
第 7 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 1
第 8 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 2
第 9 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 3
第 10 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 1
第 11 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 2
第 12 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 3
第 13 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 1
第 14 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず。必要な場合はプリントによる。

【参考書】
講義中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末レポートないしテスト（60 %）。および毎講義に提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（40 %）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT200BC

文学概論 A

岡野　幸江

夜間時間帯
授業コード：A2426　｜　曜日・時限：**水曜６限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学創作にはどのような要素が働き、文学作品はどのように成立するのか、前提となる事項について学びます。
併せて具体的な作品を通して文学の面白さを味わいながら文学鑑賞力を高めていきます。

【到達目標】
文学作品が成立する上で重要な事項について検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解すると同時に、文学鑑賞ができるようになることが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義を中心としますが、各作品については感想などを発表してもらう時間も設けたいと思います。
ただし、現在、新型コロナウイルスの感染拡大によって教室での対面授業はできません。したがって、対面授業再開までの期間は、テキスト『文芸学講義』（小田切秀雄著）の第１章（第２回の授業に対応）から順次読み進め（各回がそれぞれ１章ずつに相当します）、シラバスに取りあげてある主要な文学作品についても、読んでおいてください。
なお、授業は４月２１日（火）から始まります（本授業は２２日が初回となります）。詳しくは学習支援システムで課題などを出しますので、そちらを見てください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス―春季授業のコンセプトについて	春季授業の概要についてろ、これまでに読んだことのある作品で印象に残るものについて話し合います。
第２回	創作過程の分析	作家論、作品論、生成研究などについて、現在どのような研究状況かを考えます。
第３回	体験・実感／制作の前段階１	作家の体験談をどう読むか、作品の前段階とは何かを考えます。
第４回	体験・実感／制作の前段階２	二葉亭四迷『浮雲』の成立を「作家の苦心談」「余が言文一致の由来」「余が半生の懺悔」などから考えます。
第５回	モチーフと書き出し１	書き出しが作品に与える影響について考えます。
第６回	モチーフと書き出し２	樋口一葉「たけくらべ」「にごりえ」から、作品のモチーフと書き出しについて考えます。
第７回	素材・題材の所在１	作品の素材や題材はどこにあるか考えます。
第８回	素材・題材の所在２	原民喜『夏の花』、大田洋子『屍の街』から素材や題材の問題を考えます。
第９回	想像力の働き１	想像力が文学制作にどのような働きをするか考えます。
第10回	想像力の働き２	野間宏『全体小説と想像力』から、想像力とは何かについて考えます。
第11回	意図と主題の関係１	意図と主題の違いや関係性について考えます。
第12回	意図と主題の関係２	芥川龍之介「文芸的な余りに文芸的な」を通し、大正期テーマ小説との関係を考えます。
第13回	作品解釈および鑑賞力向上についてのまとめ	取りあげた作品を振り返り作品解釈と鑑賞力向上に何が必要か考えます。
第14回	まとめと試験	取りあげた作品を振り返り、自分の考えをしっかり表現できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取りあげた作品については必ず読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016 年、2000 円＋税

【参考書】
『日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編、ひつじ書房、2016 年、2600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
A+:100 ～ 90 点、 A:89 ～ 80 点、 B:79 ～ 70 点、 C:69 ～ 60 点、 D ： 59 点以下　 E:受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験 60 %、ミニレポートの内容 20 %、授業参加度 20 %とし、各項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさんの作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

【その他の重要事項】
取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces a basic problem concerning literary essence, idea, interest, use, genre and the relation between history and literature to student taking this course. At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about literary appreciation.

LIT200BC

文学概論 B

中丸　宣明

授業コード：A2427　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】
これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の内容の確認と秋学期授業を聞く上での知識の確認。（春学期講義未受講者への対策指導あり）
第 2 回	メディア論	メディアとは何か 1 リテラシーと都市
第 3 回	メディア論	リテラシーの質
第 4 回	書籍出版論	仮名草子の世界
第 5 回	書籍出版論	江戸期の出版
第 6 回	書籍出版論	明治期の出版
第 7 回	新聞論	瓦版から
第 8 回	新聞論	幕末維新期の情報伝達
第 9 回	新聞論	明治期の新聞
第 10 回	雑誌論	江戸期のから伝統
第 11 回	雑誌論	投稿雑誌
第 12 回	雑誌論	文学雑誌へ／から
第 13 回	デジタルメディア論	ＩＴ革命とは
第 14 回	デジタルメディア論	これからのメディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであると言うことを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず。必要な場合はプリントによる。

【参考書】
授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

【成績評価の方法と基準】
期末レポートないしテスト（60 %）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40 %）。リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT200BC

文学概論 B

岡野　幸江

夜間時間帯
授業コード：A2428　｜　曜日・時限：**水曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学概論Aをふまえ、文学作品がどのような方法で描かれ、どのようなメッセージを発しているか、文学作品を分析、鑑賞するにあたって欠かせない事項について学びます。
併せて具体的な作品を通して文学の面白さを味わいながら、文学鑑賞力をさらに高めていきます。

【到達目標】
文学作品が表現されるうえで重要な事項について検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解すると同時に、文学鑑賞力を高めることが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義を中心としますが、各作品については感想などを発表してもらう場面も設けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	構想・構成・筋・フィクション 1	構想・構成・筋・フィクションの関係性について考えます。
第 2 回	構想・構成・筋・フィクション２	樋口一葉「にごりえ」を通して、構想、構成、筋、フィクションについて考えます。
第 3 回	様々な表現・描写、技法・手法１	様々な表現・描写論について考えます。
第 4 回	様々な表現・描写、技法・手法２	梅崎春雄「桜島」「日の果て」を通し、表現・描写について考えます。
第 5 回	様々な表現・描写、技法・手法３	芥川龍之介「枯野抄」を通して、技法・手法について考えます。
第 6 回	スタイル・文体・個性の創出 1	スタイルと文体の関係、作家の個性とは何かについて考えます。
第 7 回	スタイル・文体・個性の創出 2	田村俊子「生血」などを通して、スタイル・文体・個性の問題を考えます。
第 8 回	典型とは何か１	文学作品において典型とはどのようなものかについて考えます。
第 9 回	典型とは何か２	夏目漱石『それから』を通して、典型とは何かを考えます。
第 10 回	表現と思想の関係１	観念や思想が形象化された表現とはどのようなものか考えます。
第 11 回	表現と思想の関係２	カミュ『異邦人』を通して、思考・思想の生動化について考えます。
第 12 回	詩法・ドラマトゥルギーとは何か	詩法やドラマトゥルギーとは何か、ドラマとレーゼドラマの違いなどについて考えます。
第 13 回	まとめ	取りあげた作品を振り返り、鑑賞力の向上と作品研究へのいとぐちを考えます。
第 14 回	まとめと試験	取りあげた作品を振り返り、自分の考えをしっかり表現できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの各章と取りあげた作品については必ず読んでおくことが必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016 年、2000 円＋税

【参考書】
『日本近代文学研究の方法 』日本近代文学会編、ひつじ書房、2016 年、2600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
A+:100 ～ 90 点、A:89 ～ 80 点、B:79 ～ 70 点、C:69 ～ 60 点、D：59 点以下　E:受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験 60 %、ミニレポートの内容 20 %、授業参加度 20 %とし、各項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさんの作品に接することができるよう心掛けたいと思います

【その他の重要事項】
取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces a basic problem concerning literary essence, idea, interest, use, genre and the relation between history and literature to student taking this course. At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about literary appreciation.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ A

矢澤 美佐紀

授業コード：A2429 ｜ 曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。
文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その歴史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】
日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受するための基本的な力を身につけ、多様な視点からものごとをとらえる能力の育成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の対面授業が開始されるまで、学習支援システムでの指示に従ってください。
以下の通りには運営できませんので承知してください。本格的に課題を出すのは、５月 11 日となります。
春学期セメスターでは、明治初期から中期、日本近代文学の出発期の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品にあたりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しいと思います。
授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。小テストを一回実施します。また、テクストへの理解を補うために、適宜、関連する映像作品を鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス 日本近代文学の成立について①	文明開化と啓蒙主義思想－福沢諭吉
第 2 回	日本近代文学の成立について②	文明開化と戯作文学 ー三遊亭円朝
第 3 回	日本近代文学の成立について③	国家政策と標準語の成り立ち
第 4 回	坪内逍遥の挑戦	「小説神髄」と「当世書生気質」
第 5 回	二葉亭四迷の挑戦①	「浮雲」の世界
第 6 回	二葉亭四迷の挑戦②	「浮雲」の現代性を考える
第 7 回	小テスト 森鷗外の場合①	６回までの授業内容から出題 テスト後、「舞姫」を読む①
第 8 回	森鷗外の場合②	「舞姫」を読む②
第 9 回	森鷗外の場合③	「舞姫」続編・「普請中」を読む
第 10 回	女性作家の動向①	森しげの文学世界
第 11 回	女性作家の動向②	清水紫琴の文学世界
第 12 回	硯友社の文学①	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む①
第 13 回	硯友社の文学②	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む②
第 14 回	試験・まとめと解説	近代文学の展開についてのまとめと、試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通してくることで、おおよその流れがつかみやすくなります。毎回二時間を目安に予習するよう心がけてください。
また、講義で身に付けた知識を復習し、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨きましょう。こちらも、毎回二時間の学習を目安にしてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。随時、資料のプリントを配布します。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】
日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとよいでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】
試験の成績６０％、授業内の小テスト２０％、リアクションペーパーの提出率及び内容２０％、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】
文学史の学習は、ともすれば作家や作品の羅列的暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史的知識とする為には、できるだけ多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家にふれ、多様な作品を読み進めていってほしいと思います。

【Outline and objectives】
Through the history of Japanese literature in the Meiji era,students learn about the generation of modern literature,relationships with society,literary consciousness and theory.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ B

矢澤 美佐紀

授業コード：A2431 ｜ 曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。
文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】
A と同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。
授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で感想を書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。復習の小テストを一回実施します。また、テクストへの理解を補うために適宜関連する映像作品を鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近代文学の見取り図	明治期の文芸史についての概括的な解説
第 2 回	浪漫主義の文学①	北村透谷の文学論
第 3 回	浪漫主義の文学②	北村透谷の恋愛論と与謝野晶子の作品
第 4 回	樋口一葉の文学世界①	一葉作品の文学史的意義
第 5 回	樋口一葉の文学世界②	「十三夜」を読む
第 6 回	樋口一葉の文学世界③	「わかれ道」を読む
第 7 回	小テスト	６回までの授業内容から出題
	女性作家の動向①	テスト後、田澤稲舟の文学について
第 8 回	女性作家の動向②	田村俊子の文学について
第 9 回	自然主義文学①	島崎藤村「破戒」を読む
第 10 回	自然主義文学②	島崎藤村「破戒」と清水紫琴「移民学園」
第 11 回	自然主義文学③	田山花袋『蒲団』を読む
第 12 回	自然主義文学への反応①	夏目漱石の場合
第 13 回	自然主義文学への反応②	芥川龍之介の場合
第 14 回	試験・まとめと解説	授業のまとめと、試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本文芸史ⅡＡに同じ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本文芸史ⅡＡに同じ。

【参考書】
日本文芸史ⅡＡに同じ。

【成績評価の方法と基準】
試験の成績 70 %、授業内で随時行う小レポートやリアクションペーパーの提出率及び内容 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】
日本文芸史ⅡＡに同じ。

【Outline and objectives】
Through the history of Japanese literature in the latter part of the Meiji era,students learn about the establishment and diversification of the modern literature.

LIT300BC

ゼミナール１A

遠藤　星希

授業コード：A2615 ｜ 曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【『唐詩選』精読】
『唐詩選』は、明代の李攀龍（1514 ― 1570）が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 465 首の詩を収録）であり、江戸時代の日本で最もよく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『唐詩選』の中から比較的短い詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】
1．『唐詩選』についての基礎的な知識を習得する。
2．唐詩の形式や規則を把握する。
3．唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4．既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。３年生と２年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	『唐詩選』と唐詩についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	ガイダンス（2）	唐詩の形式と規則についての概説。
第 3 回	ガイダンス（3）	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第 4 回	『唐詩選』精読（1）	担当者による発表と討論（1）
第 5 回	『唐詩選』精読（2）	担当者による発表と討論（2）
第 6 回	『唐詩選』精読（3）	担当者による発表と討論（3）
第 7 回	『唐詩選』精読（4）	担当者による発表と討論（4）
第 8 回	『唐詩選』精読（5）	担当者による発表と討論（5）
第 9 回	『唐詩選』精読（6）	担当者による発表と討論（6）
第 10 回	『唐詩選』精読（7）	担当者による発表と討論（7）
第 11 回	『唐詩選』精読（8）	担当者による発表と討論（8）
第 12 回	『唐詩選』精読（9）	担当者による発表と討論（9）
第 13 回	『唐詩選』精読（１０）	担当者による発表と討論（１０）
第 14 回	『唐詩選』精読（１１）	担当者による発表と討論（１１）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
・前野直彬注解『唐詩選』上・中・下巻（岩波文庫、1961-1963）
・高木正一著『唐詩選』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告者としての発表内容（４０%）、学期末レポート（４０%）、討論への参加度・貢献度（２０%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。

・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。

【Outline and objectives】

Selected Tang Poems is an anthology of Tang poetry (a total of 465 poems were collected) compiled by Li Panlong (1514-1570) during the Ming dynasty, and is known to be a most widely read Chinese classic during the Edo period in Japan. In this course, we will select and closely read relatively short poems from the Selected Tang Poems, and while appreciating its charm, we will complete an original translation by critically examining existing Japanese translations as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn the social background, culture and custom during the Tang which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as forms and rules of Tang poetry.

LIT300BC

ゼミナール１Ｂ

遠藤　星希

授業コード：A2616　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【『三体詩』精読】

『三体詩』は、南宋の周弼が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 494 首の詩を収録）であり、室町時代の日本で大変よく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『三体詩』の中から代表的な詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

１．『三体詩』についての基礎的な知識を習得する。
２．唐詩の形式や規則を把握する。
３．唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
４．既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。３年生と２年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『三体詩』についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	春学期の復習	春学期で習得した知識の復習と秋学期における新たな課題の提示。
第 3 回	『三体詩』精読（１）	担当者による発表と討論（１）
第 4 回	『三体詩』精読（２）	担当者による発表と討論（２）
第 5 回	『三体詩』精読（３）	担当者による発表と討論（３）
第 6 回	『三体詩』精読（４）	担当者による発表と討論（４）
第 7 回	『三体詩』精読（５）	担当者による発表と討論（５）
第 8 回	『三体詩』精読（６）	担当者による発表と討論（６）
第 9 回	『三体詩』精読（７）	担当者による発表と討論（７）
第 10 回	『三体詩』精読（８）	担当者による発表と討論（８）
第 11 回	『三体詩』精読（９）	担当者による発表と討論（９）
第 12 回	『三体詩』精読（１０）	担当者による発表と討論（１０）
第 13 回	『三体詩』精読（１１）	担当者による発表と討論（１１）
第 14 回	『三体詩』精読（１２）	担当者による発表と討論（１２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

・村上哲見著『三体詩』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
・田部井文雄著『唐詩三百首詳解』上巻・下巻（大修館書店、1988-1990）
・村上哲見著『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ、1994）
・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
・村上哲見著『中国文学と日本　十二講』（創文社、2013）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（４０％）、学期末レポート（４０％）、討論への参加度・貢献度（２０％）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。

【Outline and objectives】
Santi Tangshi is an anthology (a total of 494 poems were collected) believed to be compiled by Zhou Bi in the South Song Dynasty, which is known to have been read quite broadly in Japan during the Muromachi period. In this course, we will select and closely read exemplary poems from Santi Tangshi, and while appreciating its charm, we will complete an original translation by critically examining Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn the social background, culture and custom during the Tang dynasty which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as forms and rules of Tang poetry.

LIT300BC

ゼミナール２Ａ

坂本　勝

授業コード：A2617　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることで現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】
古典文学の読み方、研究法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に着ける。２１世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。
夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます。ただし本年度は新型コロナ感染の状況次第で変更する可能性があります。）第１回授業はＨｏｐｐｉｉ上で４月２７日です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	古事記について基本的な解説を行う。解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。
第 2 回	テキストについて	古事記のテキスト概説
第 3 回	研究史について	古事記の研究史概説
第 4 回	参考文献について	古事記研究の参考文献概説
第 5 回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第 6 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ	教員による春学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】
参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期各 1 回のリポート提出 (約 60 %)、平常点（約 40 %。ゼミへの参加状況、発表など）も考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline and objectives】
We would study Japanese classics focusing on Kojiki and Manyoshu. The aim of study is to acquire basic skills to write bachelor's thesis, like how to read classic literature and how to study them.

LIT300BC

ゼミナール２Ｂ

坂本　勝

授業コード：A2618　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることで現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】
古典文学の読み方、研究法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に着ける。２１世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。
夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	万葉集について基本的な解説を行う。解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。
第 2 回	テキストについて	万葉集のテキスト概説
第 3 回	研究史について	万葉集の研究史概説
第 4 回	参考文献について	万葉集研究の参考文献概説
第 5 回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第 6 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ	教員による秋学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】
参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期各 1 回のリポート提出 (約 60 %)、平常点（約 40 %。ゼミへの参加状況、発表など）も考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline and objectives】
We would study Japanese classics focusing on Kojiki and Manyoshu. The aim of study is to acquire basic skills to write bachelor's thesis, like how to read classic literature and how to study them.

LIT300BC

ゼミナール３Ａ

加藤　昌嘉

授業コード：A2619　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆『源氏物語』の第１部を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】
◆以下の４つの力を養うことを目標とします。
１、『源氏物語』の本文を正確に読む力
２、問題点を発見し、調査する力
３、わかりやすいプレゼンを行う力
４、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
◆春学期は、「桐壺」～「賢木」巻を読みます。
◆２人１組の班が発表を行い、全員で議論します。
《4/20 追記 ↓》
ゼミ生には、すでに LINE で連絡をしました。4 月 27 日（月曜）午後 5 時以降に、Hoppii の「お知らせ」欄・「教材」欄に、春学期の進め方についての資料を up します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	『源氏物語』概説
2	桐壺①	Ａ班発表
3	桐壺②	Ｂ班発表
4	ガイダンス②	注釈書の比較
5	若紫①	Ｃ班発表
6	若紫②	Ｄ班発表
7	若紫③	Ｅ班発表
8	紅葉賀①	Ｆ班発表
9	紅葉賀②	Ｇ班発表
10	花宴	Ｈ班発表
11	葵①	Ｉ班発表
12	葵②	Ｊ班発表
13	賢木①	Ｋ班発表
14	総括と展望	秋学期の概説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆『源氏物語』「桐壺」～「賢木」巻を読み進めること。

【テキスト（教科書）】
◆以下の現代語訳・注釈書のいずれかを購入し熟読すること。
◎大塚ひかり 訳『源氏物語』１（ちくま文庫）
◎林望『謹訳源氏物語　改訂新修』１（祥伝社文庫）
◎柳井滋ほか校注『源氏物語』１（岩波文庫）

【参考書】
◎竹内正彦『図説 あらすじと地図で面白いほどわかる！　源氏物語』（青春新書）

【成績評価の方法と基準】
◆以下の２点を重視します。
１、詳しく調査し、明快なプレゼンを行ったかどうか（５０％）
２、意欲的にディスカッションに加わったかどうか（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
◆自由に発言できる雰囲気作りを心がけます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to read "The Tale of Genji" intensively.

LIT300BC

ゼミナール３Ｂ

加藤　昌嘉

授業コード：A2620　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆『源氏物語』の第１部を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】
◆以下の４つの力を養うことを目標とします。
１、『源氏物語』の本文を正確に読む力
２、問題点を発見し、調査する力
３、わかりやすいプレゼンを行う力
４、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
◆秋学期は、「帚木」～「澪標」巻を読みます。
◆２人１組の班が発表を行い、全員で議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	紫上系玉鬘系概説
2	帚木①	Ｌ班発表
3	帚木②＆空蝉	M班発表
4	夕顔	Ｎ班発表
5	賢木②	Ｏ班発表
6	賢木③	Ｐ班発表
7	須磨①	Ｑ班発表
8	須磨②	Ｒ班発表
9	明石①	Ｓ班発表
10	明石②	Ｔ班発表
11	澪標①	Ｕ班発表
12	澪標②	Ｖ班発表
13	総括	秋学期のまとめ
14	合評会	卒論プラン発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆『源氏物語』「帚木」～「澪標」巻を読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
◆以下の現代語訳・注釈書のいずれかを購入し熟読すること。
◎大塚ひかり 訳『源氏物語』２（ちくま文庫）
◎林望『謹訳源氏物語　改訂新修』２、３（祥伝社文庫）
◎柳井滋ほか 校注『源氏物語』２、３（岩波文庫）

【参考書】
◎大野晋＆丸谷才一『光る源氏の物語』上（中公文庫）
◎藤原克己監修『はじめて読む源氏物語』（花鳥社）

【成績評価の方法と基準】
◆以下の２点を重視します。
１、詳しく調査し、明快なプレゼンを行ったかどうか（５０％）
２、意欲的にディスカッションに加わったかどうか（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
◆近世の源氏絵を使い、視覚的に把握できるようにします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to read "The Tale of Genji" intensively.

LIT300BC

ゼミナール４Ａ

阿部　真弓

授業コード：A2621　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『百人一首』を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。
< 2020 年 4 月 19 日追記>
オンライン授業実施にともない、以下のいくつかの項目について、追記または変更点があります。それも合わせて、よく確認してください。

【到達目標】
①作品の注解作業を通して、文献調査、作品分析、考究の方法等、古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
②プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
③ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
④簡単なくずし字が読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自が担当歌について調べ、考察したことを、作成した資料を用いながら発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、変体仮名解読練習等を行います。また、夏休み中にゼミ合宿をします。
< 2020 年 4 月 19 日変更>
当面は学習支援システムを使った、教員によるオンライン授業で進めます（パワーポイント文書・ワード文書等の教材をアップします）。Web 会議システムの使用が可能になる、教室での授業が開始される等、発表ができる環境が整えば、受講生による発表・討論を行います。そのため、【授業計画】が大幅に変更されることが予想されます。なお、ゼミ合宿の時期は状況を見て判断します。
〈2020 年 4 月 20 日追記〉
本授業の開始日は 4 月 21 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	『百人一首』概説
第 2 回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第 3 回	変体仮名解読練習	変体仮名についての解説・解読練習
第 4 回	変体仮名解読練習	変体仮名についての解説・解読練習
第 5 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 6 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 7 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 8 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 9 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 10 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 11 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 12 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 13 回	『百人一首』読解	発表と討論
第 14 回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞむこと。発表者以外の受講者は、発表される和歌について予習をした上で授業にのぞむこと。
・テキストは影印本ですので、各自、くずし字の解読練習に励んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988 年）
・『百人一首』のテキストはコピーを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。
< 2020 年 4 月 19 日追記>
学習支援システムに参考文献リストをアップロードしますので、それをダウンロードしてください。

【成績評価の方法と基準】
【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 %（①②④）、レポート 40 %（①②③）、討論への参加状況 20 %（②）という配分で、総合的に評価します。
< 2020 年 4 月 19 日追記>
受講生による発表が行えた場合、上記の方法と基準で成績を評価しますが、状況により発表ができない場合は、代替のレポート 70 %、平常点 30 %（学習支援システムを通じて課された課題の提出状況およびその内容）という配分で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】
発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

【Outline and objectives】
This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets). The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the Medieval Japanese Literature and the fundamentals of the study of waka poetry.

LIT300BC

ゼミナール４Ｂ

阿部　真弓

授業コード：A2622　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『枕草子』を取り上げ、ゼミナール形式で読解し、考察します。

【到達目標】
①自らテーマを選び、考究する力を養う。
②文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
④ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自がテーマを決め、調べ、考察したことを発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、卒業論文ミニ発表会等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	『枕草子』概説
第 2 回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第 3 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 4 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 5 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 6 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 7 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 8 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 9 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 10 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 11 回	『枕草子』研究	発表と討論
第 12 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括
第 13 回	卒業論文について	卒業論文執筆に関する説明
第 14 回	卒業論文ミニ発表会	３年生による卒業論文テーマの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞみ、発表者以外の受講者は、事前に配布されたレジュメを読み、発表内容について予習をした上で授業にのぞみましょう。
なお、発表前に変体がなの小テストを行うので、テキスト（『実用変体がな』）をしっかり自習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新編日本古典文学全集 18『枕草子』（小学館、1997 年）
・『実用変体がな』（かな研究会 編、新典社、1988 年）

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 %（①②③）、レポート 40 %（①②④）、討論への参加状況 20 %（③）という配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】
発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

【Outline and objectives】
This course deals with *The Pillow Book* (枕草子, *Makura no Sōshi*). The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

LIT300BC

ゼミナール５Ａ

小秋元　段

夜間時間帯
授業コード：A2623　｜　曜日・時限：**金曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】
本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。
1．『平家物語』について、その内容を正確に理解すること。
2．先行研究の批判、諸本の差違の考察、資史料との比較などを通じて、虚構化された作品世界の特質を理解すること。
3．自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
『平家物語』を教材とする。2〜3 人で 1 グループを作り、希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論してもらう。
〔以下、4 月 21 日加筆〕授業は 4 月 10 日に web 会議システムにより開始済み。5 月 8 日までの課題を「学習支援システム」で指示しているところである。今後、順次課題を提示するので、対応をお願いしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第 2 回	『平家物語』について（1）	作品の概要、成立、作者の解説。
第 3 回	『平家物語』について（2）	諸本の解説。
第 4 回	研究方法について	先行研究の検索方法についての解説。
第 5 回	調査（1）	グループごとに、研究テーマを設定する。
第 6 回	調査（2）	グループごとに、先行研究、諸本、資史料を収集し、問題点を整理する。
第 7 回	調査（3）	グループごとに、レジュメを作成し、発表方法について検討する。
第 8 回	発表（1）	発表（A グループ）
第 9 回	発表（2）	発表（B グループ）
第 10 回	発表（3）	発表（C グループ）
第 11 回	発表（4）	発表（D グループ）
第 12 回	発表（5）	発表（E グループ）
第 13 回	発表（6）	発表（F グループ）
第 14 回	発表（7）	発表（G グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
口頭発表の準備をグループごとに授業時間以外に行ってもらう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000 年）

【参考書】
大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
授業時の討論の状況、研究発表の内容に 1/2 ずつの比重を置く。なお。欠席は 2 回までしか認めない。
〔以下、4 月 21 日加筆〕提示した課題の完成度により評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【その他の重要事項】
例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。
2007 年度　京都
2008 年度　厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009 年度　平泉（岩手）
2010 年度　太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011 年度　京都
2012 年度　呉、厳島神社（広島）
2013 年度　京都
2014 年度　松江、出雲、大森銀山
2015 年度　京都
2016 年度　札幌、小樽
2017 年度　京都
2018 年度　太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019 年度　京都

【Outline and objectives】
In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT300BC

ゼミナール５Ｂ

小秋元　段

夜間時間帯
授業コード：A2624　｜　曜日・時限：**金曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世文学を読む、調べる、発表する。お伽草子をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】
本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。
1．お伽草子について、その内容を正確に理解すること。
2．先行研究の批判、諸本の差違の考察、関連作品との比較などを通じて、作品世界の特質を理解すること。
3．自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
お伽草子を教材とする。2〜3 人で 1 グループを作り、希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業内容の紹介。
第 2 回	お伽草子について（1）	作品の概要の解説。
第 3 回	お伽草子について（2）	作品の特徴の解説。
第 4 回	研究方法について	関連作品との比較方法についての解説。
第 5 回	調査（1）	グループごとに、研究テーマを設定する。
第 6 回	調査（2）	グループごとに、先行研究、諸本、資史料を収集し、問題点を整理する。
第 7 回	調査（3）	グループごとに、レジュメを作成し、発表方法について検討する。
第 8 回	発表（1）	発表（A グループ）
第 9 回	発表（2）	発表（B グループ）
第 10 回	発表（3）	発表（C グループ）
第 11 回	発表（4）	発表（D グループ）
第 12 回	発表（5）	発表（E グループ）
第 13 回	発表（6）	発表（F グループ）
第 14 回	発表（7）	発表（G グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
口頭発表の準備をグループごとに授業時間以外に行ってもらう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
市古貞次校注、岩波文庫『御伽草子』上・下（岩波書店、1985・86 年）

【参考書】
徳田和夫編『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）
神田龍身・西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版、2002 年）

【成績評価の方法と基準】
夏休み中のレポート、授業時の討論の状況、研究発表の内容に 1/3 ずつの比重を置く。なお、欠席は 2 回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】
グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【Outline and objectives】
In this course, we will read Otogizosi.

LIT300BC

ゼミナール６Ａ

小林　ふみ子

授業コード：A2625　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このゼミでは、近世文学について学びます。
　韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたる近世文学の中でも、春学期は西鶴と京伝の恋の表現を比較し、上方と江戸、また時代の違いを考えます。
（このテーマは年度末の新入ゼミ生と２年生との顔合わせ会で決めたものです）

【到達目標】
（1）辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
（2）研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
（3）作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
（4）近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す（2 年間を通じて）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
4 月 28 日 (火曜) に事前課題だったバーチャル？ ビブリオバトルの〆切りを告知し、学年別にそれぞれ UP して投票するようにします。それと併行して？『好色五人女』を少しずつ読み、それぞれが設定された「問い」への答えを毎週載せるようにしていきましょう。
学習支援システムと LINE とを併用して、やりやすい方法を模索していきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第 2 回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第 3 回	グループ①発表	第１話
第 4 回	グループ①発表	同上
第 5 回	グループ②発表	第２話
第 6 回	グループ②発表	同上
第 7 回	グループ③発表	第３話
第 8 回	グループ③発表	同上
第 9 回	グループ④発表	第４話
第 10 回	グループ④発表	同上
第 11 回	グループ⑤発表	第５話
第 12 回	グループ⑤発表	同上
第 13 回	グループ⑥発表	第６話
第 14 回	グループ⑥発表	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の班の担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新編日本古典文学全集 66　井原西鶴集 1　好色五人女（ほか）』(小学館、1996)
　そのうち『五人女』巻四恋草からげし八百屋物語
『日本古典文学大系　黄表紙　洒落本集』（岩波書店、1968）
　そのうち『傾城買四十八手』

＊図書館でコピーもできる範囲ですので、高額な新本は買わないでOK。古本にもあります。

【参考書】
『対訳西鶴全集３好色五人女』（明治書院、1974）

【成績評価の方法と基準】
担当日の発表（35 %）、各期末のレポート (4000 字程度・35 %)、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に１回）や発言その他のゼミへの貢献度（30 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生間での意見交換が活発にできるように話し合いでは小グループ→ 全体という流れを継続します。

【学生が準備すべき機器他】
発表時には全員分配付資料を印刷してきてください。
レポートなどの提出で授業支援システムを使用することがあります。

【その他の重要事項】
ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席はみんなでもりあげるため、当然の前提です。積極的な参加を期待しています。合宿にも行きましょう！
ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、それを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。
意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

【Outline and objectives】
Studying early modern(Tokugawa period) literature from various genres, especially stories by Saikaku and Kyoden .

LIT300BC

ゼミナール６Ｂ

小林　ふみ子

授業コード：A2626　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、近世文学について学びます。
秋学期のテーマや進め方は春学期の様子をふまえて話し合いで決定します。
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと卒論につながる関心が育っていいかなと教員としては思いますが、どうしたらいちばんいいのかみんなでしっかり議論して決めましょう。

【到達目標】
（1）既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
（2）研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
（3）作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
（4）近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。（２年間を通じて）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループを作り、グループごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。
各学期に１グループ２～３回担当（グループ数による）。
発表グループは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。
秋学期も引きつづき、近世文学のさまざまな作品を簡単に紹介する 5 分スピーチをしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第 2 回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第 3 回	グループ①	作品の概要紹介
第 4 回	グループ①	研究発表
第 5 回	グループ②	作品の概要紹介
第 6 回	グループ②	研究発表
第 7 回	グループ③	作品の概要紹介
第 8 回	グループ③	研究発表
第 9 回	グループ④	作品の概要紹介
第 10 回	グループ④	研究発表
第 11 回	グループ⑤	作品の概要紹介
第 12 回	グループ⑤	研究発表
第 13 回	グループ⑥	作品の概要紹介
第 14 回	グループ⑥	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
他のグループの発表の場合も、各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
未定

【参考書】
『新版　近世文学研究事典』（おうふう　2006 年）
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

【成績評価の方法と基準】
担当日の発表（35 %）、各期末のレポート (4000 字程度・35 %)、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に 1 回）や発言その他のゼミへの貢献度（30 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
発表時には全員分配付資料を印刷してきてください。
レポートなどの提出で授業支援システムを使用することがあります。

【その他の重要事項】
みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていってくれることを期待しています！

【Outline and objectives】
Studying early modern(Tokugawa period) literature from various genres.

ART300BC

ゼミナール７Ａ

本塚　亘

授業コード：A2627　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは「『源氏物語』と音楽」についての研究を行います。『源氏物語』における歌唱場面、演奏場面に注目し、テキストを精確に読み解きながら、『源氏物語』における音楽の機能、音楽史との関係、および後世への影響などを追究していきます。春学期は、『源氏物語』における歌唱場面を中心に研究を進めます。各場面で歌われる催馬楽、風俗歌などの詞章解釈を精確に行った上で、各場面における歌謡の機能について考察を深めていきます。

【到達目標】
1．テキストを正確に読み解くことことができる
2．当時の文化（特に音楽文化）との関係を理解することができる
3．課題に対する調査を入念に行い、明快に報告することができる
4．他学生に対し適切な批判と助言を行うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【※授業開始日は 4 月 23 日です。26 日締切の課題を出題します。Hoppii での仮登録ができずにお困りの場合は、本塚（wataru.motozuka.76@hosei.ac.jp）までメールしてください】『源氏物語』におけるいくつかの歌唱場面について全員で課題をみつけ、分担を決めて調査、報告する。主な発表機会は 2 回。1 回目の発表は物語中に歌われた歌曲について。2 回目の発表は、その歌曲が『源氏物語』の中でどのように機能しているかについて。2 回の発表をふまえ、全員で課題を精査し、再分担して期末レポートにまとめる。教員は全体の進捗をみて、適宜補足や助言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	情報探索の基本 1	『源氏物語』の歌唱場面に関するクイズを出題、グループごとに情報を探索し、解答とその根拠を探索する（学内の移動を許可する）。
第 2 回	情報探索の基本 2	第 1 回の課題に対する解答を報告する。解答に至った調査手段についても報告する。解答から派生する疑問を列挙、整理する。
第 3 回	課題の明確化	第 2 回に整理した課題ごとに担当を決め、調査の計画を立てる。発表スケジュールを決定し、発表に向けた調査計画を練る。
第 4 回	調査計画の報告	各人の調査・発表計画を報告する。全員で助言や改善点などの意見交換をする。
第 5 回	歌曲についての発表①	（課題例）催馬楽《高砂》について——歌曲の登場場面についての概説の後、詞章の現代語訳を行う。
第 6 回	歌曲についての発表②	（課題例）催馬楽《東屋》について
第 7 回	歌曲についての発表③	（課題例）催馬楽《山城》について
第 8 回	歌曲についての発表④	（課題例）催馬楽《貫河》について

第 9 回	課題の確認と次の発表計画	第 5 回から第 8 回までの発表内容をふまえ、新たに生じた課題やその調査方法についての情報を共有する。
第 10 回	歌唱場面についての発表①	（課題例）催馬楽《高砂》を歌う人物について――詞章の内容をふまえ、物語における歌曲の機能について発表する。
第 11 回	歌唱場面についての発表②	（課題例）「紅葉賀」巻における《東屋》と《山城》について
第 12 回	歌唱場面についての発表③	（課題例）「花宴」における「寝る夜はなくて」の意味について
第 13 回	歌唱場面についての発表④	（課題例）「少女」巻における「萩が花摺り」という詞章について
第 14 回	春学期末レポート課題の確認	春学期末レポートの課題について確認し、その調査計画をたてる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の発表準備とは別に、授業の中で積極的に疑問点や課題を探し出し、自発的に追加調査を行い、その成果をゼミ全体で共有してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新編日本古典文学全集『源氏物語』①～⑥（小学館、1994-1998）。
新編日本古典文学全集『神楽歌・催馬楽・梁塵秘抄・閑吟集』（小学館、2000）。
大学図書館所蔵のものは借りずに適宜コピーして利用すること。古本屋などで定価以下のものをみつけたら迷わず購入すること。

【参考書】
小泉吉宏『まろ、ん？　大掴源氏物語』（幻冬舎、2002）
その他の参考資料については一緒に探し回りましょう。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】に照らして、以下の内容を評価します。
プレゼンテーション・・・25 %
他学生に対する適切な批判、助言、および情報提供・・・50 %※
学期末レポート・・・25 %
※ゼミ全体に対する「貢献度」として、最も高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
内容的に深く関わるので、2 年次までに特講（11）「音楽芸能史Ａ／Ｂ」の単位取得を済ませることが望ましい。

【Outline and objectives】
This undergraduate seminar deals with music in *The Tale of the Genji*. It aims to decipher the ancient text precisely, uncover the effects of music scenes in the tale, and understand each scene based on the history of music and literature. In the spring semester, we will focus on scenes of singing of songs like *saibara* and *fuzoku-uta* in the tale. We accurately interpret their lyrics, and investigate the functions of the songs in each scene.

ART300BC

ゼミナール７Ｂ

本塚　亘

授業コード：A2628　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは「『源氏物語』と音楽」についての研究を行います。『源氏物語』における歌唱場面や演奏場面に注目し、テキストを精確に読み解きながら、『源氏物語』における音楽の機能、音楽史との関係、および後世への影響などを追究していきます。秋学期は、楽器の演奏場面についての研究を進めます。各場面で用いられる楽器や曲名について正しく理解した上で、各場面における音楽描写の機能について考察を深めていきます。

【到達目標】
1．テキストを正確に読み解くことことができる
2．当時の文化（特に音楽文化）との関係を理解することができる
3．課題に対する調査を入念に行い、明快に報告することができる
4．他学生に対し適切な批判と助言を行うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
『源氏物語』におけるいくつかの楽器の演奏場面について全員で課題をみつけ、分担を決めて調査、報告する。主な発表機会は 2 回。1 回目の発表は物語中で演奏された曲目または用いられた楽器について。2 回目の発表は、その曲や楽器が『源氏物語』の中でどのように機能しているかについて。2 回の発表をふまえ、全員で課題を精査し、再分担して期末レポートにまとめる。教員は全体の進捗をみて、適宜補足や助言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	情報探索の基本１	『源氏物語』の楽器演奏場面に関するクイズを出題、グループごとに情報を探索し、解答とその根拠を探索する（学内の移動を許可する）。
第 2 回	情報探索の基本２	第 1 回の課題に対する解答を報告する。解答に至った調査手段についても報告する。解答から派生する疑問を列挙、整理する。
第 3 回	課題の明確化	第 2 回に整理した課題ごとに担当を決め、調査の計画を立てる。発表スケジュールを決定し、発表に向けた調査計画を練る。
第 4 回	調査計画の報告	各人の調査・発表計画を報告する。全員で助言や改善点などの意見交換をする。
第 5 回	曲目・楽器についての発表①	（課題例）横笛について――楽器の演奏場面についての概説の後、曲目や楽器などに関する発表を行う。
第 6 回	曲目・楽器についての発表②	（課題例）和琴について
第 7 回	曲目・楽器についての発表③	（課題例）琵琶とその独奏曲について
第 8 回	曲目・楽器についての発表④	（課題例）箏の琴とその独奏曲について

第 9 回	課題の確認と次の発表計画	第 5 回から第 8 回までの発表内容をふまえ、新たに生じた課題やその調査方法についての情報を共有する。
第 10 回	演奏場面についての発表①	（課題例）薫の演奏する横笛について――一度目の発表内容をふまえ、物語における音楽の機能について発表する。
第 11 回	演奏場面についての発表②	（課題例）薫の演奏する和琴について
第 12 回	演奏場面についての発表③	（課題例）「手習」巻における和琴の演奏について
第 13 回	演奏場面についての発表④	（課題例）「帚木」巻における合奏場面について
第 14 回	秋学期末レポート課題の確認	秋学期末レポートの課題について確認し、その調査計画をたてる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の発表準備とは別に、授業の中で積極的に疑問点や課題を探し出し、自発的に追加調査を行い、その成果をゼミ全体で共有してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新編日本古典文学全集『源氏物語』①～⑥（小学館、1994-1998）。
新編日本古典文学全集『神楽歌・催馬楽・梁塵秘抄・閑吟集』（小学館、2000）。
大学図書館所蔵のものは借りずに適宜コピーして利用すること。古本屋などで定価以下のものをみつけたら迷わず購入すること。

【参考書】
小泉吉宏『まろ、ん？　大掴源氏物語』（幻冬舎、2002）
その他の参考資料については一緒に探し回りましょう。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】に照らして、以下の内容を評価します。
プレゼンテーション・・・25 %
他学生に対する適切な批判、助言、および情報提供・・・50 %※
学期末レポート・・・25 %
※ゼミ全体に対する「貢献度」として、最も高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline and objectives】
This undergraduate seminar deals with music in *The Tale of the Genji*. It aims to decipher the ancient text precisely, uncover the effects of music scenes in the tale, and understand each scene based on the history of music and literature. In the autumn semester, we will focus on scenes of playing instruments in the tale. We will attempt to understand correctly the instruments and pieces, and analyze the functions of the music depicted in each scene.

LIT300BC

ゼミナール８Ａ

伊海　孝充

授業コード：A2629　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深めることによって、多角的に能という芸能を捉えることができるようにする。

【到達目標】
能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に個人の発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年１，２回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、夏期は、能楽に関わる芸能の見学を兼ねて合宿に行く予定。（開始は４月２８日）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。
第 2 回	能楽の基礎知識	能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。
第 3 回	能の種類	能の分類について解説する。
第 4 回	能の歴史について	世阿弥の功績と能作者について。
第 5 回	能の演技	実技体験（予定）。
第 6 回	能楽研究事始（1）	研究の方法と実践。
第 7 回	能楽研究事初（2）	「本説」と他芸能との関係。
第 8 回	謡曲精読（1）	脇能を口語訳しながら精読する。
第 9 回	謡曲精読（2）	修羅能を口語訳しながら精読する。
第 10 回	謡曲精読（3）	鬘物を口語訳しながら精読する。
第 11 回	謡曲精読（4）	物狂能を口語訳しながら精読する。
第 12 回	謡曲精読（5）	四番目物を口語訳しながら精読する。
第 13 回	謡曲精読（6）	鬼能を口語訳しながら精読する。
第 14 回	春学期のまとめ	これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】
『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】
授業での発表　４０％
授業での発言やゼミ活動への積極的参加　４０％
学期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
能楽の基本知識を適宜確認しながら進める。

【Outline and objectives】
We learn the work of many Noh and understand Noh deeply. we learn as many works as possible while also accumulating knowledge about the history of Noh in this seminar. Noh is a general art born in the Muromachi period. By Learning classical literature, Japanese culture, and various performing arts deeply, we will be able to capture the performing arts of Noh multifacetedly.

LIT300BC

ゼミナール８Ｂ

伊海　孝充

授業コード：A2630　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

【到達目標】
能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的にグループごとの発表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけではなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。また１，２回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、ミニ遠足を行なう予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期のまとめと秋学期の展望
第 2 回	グループ発表―課題曲１（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 3 回	グループ発表―課題曲１（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 4 回	グループ発表―課題曲１（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 5 回	グループ発表―課題曲１（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 6 回	グループ発表―課題曲２（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 7 回	グループ発表―課題曲２（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 8 回	グループ発表―課題曲２（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 9 回	グループ発表―課題曲２（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 10 回	グループ発表―課題曲３（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 11 回	グループ発表―課題曲３（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 12 回	グループ発表―課題曲３（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 13 回	グループ発表―課題曲３（本説）	課題曲の典拠の調査。
第 14 回	第 13 回　グループ発表―課題曲３（まとめ）	問題点のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ発表は、グループ構成メンバーと綿密に相談し、適宜サブゼミを開いて準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】
『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】
授業での発表　４０％
授業での発言やゼミ活動への積極的参加　４０％
学期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
３年生には、卒業論文への計画と関わらせながら、発表をしてもらう。

【Outline and objectives】
Through personal and group presentations of Noh and Kyogen, we deepen the understanding of this performing arts. It is the same as spring semester to learn not only Nohgaku but also knowledge of classical literature, Japanese culture and various entertainment, but focus on learning how to output that knowledge. By discussing with members of the seminar, we also aim to reconsider the appearance of No I thought many times.

LIT300BC

ゼミナール９Ａ

中丸　宣明

授業コード：A2631　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１９世紀・２０世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学・芸能・演劇をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。

【到達目標】
文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。
・先行文献の調査・整理の方法
・注釈の方法
・文学・文化学の理論の理解と応用
・立論から行論・結論への構成法
・プレゼンテーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
緊急：オンライン授業ですので 4 月 21 日から配信を始めます。なるべく早い時期にご挨拶します。既にメーリングリスト配信済みです。確認してください。
各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の便宜・要請に従って、決定する。発表者は当該作品のテクストを決定し、ゼミ員に指示すること。

【参考書】
各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】
各自の発表内容（40 %）と討議参加内容（40 %）期末レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT300BC

ゼミナール９Ｂ

中丸　宣明

授業コード：A2632　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミナール９Ａに引き続き、１９世紀・２０世紀前半の日本文学の研究。化政期（19 世紀前半、天保の改革まで）・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された小説・詩歌・演劇・芸能をとりあげ、文学・文化研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるよう、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

【到達目標】
文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。
・先行文献の調査・整理の方法
・注釈の方法
・文学・文化学の理論の理解と応用
・立論から行論・結論への構成法
・プレゼンテーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の便宜・要請に従って、岩波文庫版『日本近代短篇小説選　明治編大正篇』ないし『文壇出世作全集』（中央公論社, 昭和 10）を用いる。

【参考書】
各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】
各自の発表内容（40 %）討議に参加内容（40 %）と期末レポート (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT300BC

ゼミナール１１Ａ

細沼　祐介

授業コード：A2635　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】
最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。
そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探求すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。
このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを的確に論として表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。
担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。
また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800 字程度）を毎回作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。小レポートは回収して添削やコメントを加えたのち返却します。
なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。
毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。
※今年度はコロナウィルス感染拡大防止の観点から、特別に上記と異なる日程での授業を行います。4 月 28 日が発表開始第一日目となり、三週間で二回の発表へと変更になります。ゼミ内のメーリングリスト等をよくチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方Ⅰ	発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス
第 2 回	ゼミナールの進め方Ⅱ	発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定
第 3 回	第三の新人の文学Ⅰ	遠藤周作「海と毒薬」①問題提起と討議
第 4 回	第三の新人の文学Ⅱ	遠藤周作「海と毒薬」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 5 回	第三の新人の文学Ⅲ	遠藤周作「海と毒薬」③総括
第 6 回	戦後の文学Ⅰ	島尾敏雄「出発は遂に訪れず・出孤島記・あの夏の日」①問題提起と討議
第 7 回	戦後の文学Ⅱ	島尾敏雄「出発は遂に訪れず・出孤島記・あの夏の日」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 8 回	戦後の文学Ⅲ	島尾敏雄「出発は遂に訪れず・出孤島記・あの夏の日」③総括
第 9 回	1950 年代の文学Ⅰ	大江健三郎「飼育」①問題提起と討議
第 10 回	1950 年代の文学Ⅱ	大江健三郎「飼育」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 11 回	1950 年代の文学Ⅲ	大江健三郎「飼育」③総括
第 12 回	無頼派の文学Ⅰ	織田作之助「夫婦善哉」①問題提起と討議
第 13 回	無頼派の文学Ⅱ	織田作之助「夫婦善哉」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 14 回	無頼派の文学Ⅲ	織田作之助「夫婦善哉」③総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。
また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。
一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すことになります。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各種文庫・作品集・個人全集・文学全集所収のものなど、いずれを用いても構いません。

【参考書】
併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくと良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】
全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）
発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】
発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】
Learn concrete methods to comprehend,analyze,and evolute through the works of many Japanese writers from showa to the postwar period to the present age.

LIT300BC

ゼミナール１１Ｂ

細沼　祐介

授業コード：A2636　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】
最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。
そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探求すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。
このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論として的確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
戦後から現在にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。
担当班（５名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。
また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800 字程度）を毎回作成し、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。小レポートは回収して添削やコメントを加えたのち返却します。
なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方	発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定
第 2 回	大家による戦後の文学Ⅰ	川端康成「千羽鶴」①問題提起と討議
第 3 回	大家による戦後の文学Ⅱ	川端康成「千羽鶴」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 4 回	大家による戦後の文学Ⅲ	川端康成「千羽鶴」③総括
第 5 回	無頼派の文学Ⅳ	石川淳「紫苑物語」①問題提起と討議
第 6 回	無頼派の文学Ⅴ	石川淳「紫苑物語」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 7 回	無頼派の文学Ⅵ	石川淳「紫苑物語」③総括
第 8 回	幻想文学Ⅰ	澁澤龍彦「高丘親王航海記」①問題提起と討議
第 9 回	幻想文学Ⅱ	澁澤龍彦「高丘親王航海記」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 10 回	幻想文学Ⅲ	澁澤龍彦「高丘親王航海記」③先行研究の検討と総括
第 11 回	ミステリー文学Ⅰ	綾辻行人「十角館の殺人」①問題提起と討議
第 12 回	ミステリー文学Ⅱ	綾辻行人「十角館の殺人」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 13 回	ミステリー文学Ⅲ	綾辻行人「十角館の殺人」③総括
第 14 回	総括	現代文学の展望について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。
また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。
一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すことになります。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各種文庫・作品集・個人全集・文学全集所収のものなど、いずれを用いても構いません。

【参考書】
併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくと良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】
全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）
発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】
発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】
Learn concrete methods to comprehend,analyze,and evolute through the wopks of many Japanese writers from showa to the postwar period to the present age.

LIT300BC

ゼミナール１２Ａ

三井　喜美子

授業コード：A2637　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本児童文学及び翻訳児童文学を研究対象とし、子どもと文学の問題を探求する。児童文学とは何かを、児童文学史や児童文学の作者及び作品、児童文化史などを研究することを通して捉えていくこと。実際に創作もする。現代児童文学研究に貢献的な研究課題を自ら考えていくことが重要である

【到達目標】
児童文学の研究課題を自ら設定し、参考文献及び資料のリストアップの方法を身につけ、グループで研究発表をすること。ディスカッションをすることができる。日本児童文学史の概要を理解すること。近代児童文学の誕生、『赤い鳥』の代表作家と作品、戦後児童文学作家と作品、反戦平和児童文学、現代児童文学の課題などについて理解することができる。作品創作をし、合評会を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
演習。グループ研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。
テーマ別に学年混合グループを編成し、グループで協力して研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容も盛り込んだレポートを作成して提出すること。
2020 年 4 月 21 日の週から開講。詳細は授業支援システムで確認のこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの心得と今期の目標設定	ゼミに参加する心構えの確認。自己紹介。先輩からのアドバイス。目標設定。演習計画を立て、グループ編成。
第 2 回	研究資料作成について	資料の検索方法の紹介。図書館ガイダンス
第 3 回	研究計画の作成	グループごとに研究計画を作成し、資料収集
第 4 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン①	一人７分のプレゼンテーション。質疑応答 3 分
第 5 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン②	一人７分のプレゼンテーション。質疑応答 3 分
第 6 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン③	一人７分のプレゼンテーション。質疑応答 3 分
第 7 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン④	一人７分のプレゼンテーション。質疑応答 3 分
第 8 回	第１回ゼミ発表とディスカッション	第１グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 9 回	第２回ゼミ発表とディスカッション	第２グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 10 回	第３回ゼミ発表とディスカッション	第３グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 11 回	第４回ゼミ発表とディスカッション	第４グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 12 回	第５回ゼミ発表とディスカッション	第５グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 13 回	第６回ゼミ発表とディスカッション	第６グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 14 回	ゼミ発表予備日 論文の書き方について 今期の発表の総括	過去のレポートや論文を参考に、論文の書き方について講義。今期のゼミ発表から学んだことを発表し合い、各自の次の課題を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマを設定する。発表に向けてグループで立てた研究計画に応じて資料収集、資料整理などをして、発表準備を進める。グループで事前に発表内容を研究し、レジュメを作成する。
発表資料は前週配布。他のグループの発表で扱うテキストや資料については事前に読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
『日本児童文学大系』『児童文学辞典』『日本児童文学成立序説』『少年文学の系譜』その他必要に応じて順次紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）20 ％　発表 60% レポート 20 ％

【学生の意見等からの気づき】
発表に向けた取り組み段階におけるアドバイスをメールなどを通して行うこと

【学生が準備すべき機器他】
ゼミの SNS を作成し、全体の連絡情報交換などを行う。

【その他の重要事項】
秋学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline and objectives】
Students will research Japanese and translated children's literature and look into issues related to children and literature. Through the research of the history of children's literature, the authors and their works, students will be able to perceive what children's literature is. Will create a story and publish a collection of works within the class.

LIT300BC

ゼミナール１２Ｂ

三井　喜美子

授業コード：A2638　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春期ゼミナール１２ A を受け、個人の研究テーマを探求し、ゼミ発表を行う事ができる。
発表に関してディスカッションができるように、各テーマについての事前研究をすることができる。創作集の合評会を行い、児童文学についての理解を深める事ができる。

【到達目標】
創作集の合評をし、創作活動を促進するとともに、児童文学の理解を深める。
春期の研究を活かし、研究課題を新たに設定し、個人発表をすることができる。
研究をまとめて論文を作成する事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
演習。個人研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。
春期の研究方法を活かし、個人で研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容も盛り込んで論文としてまとめる。
創作合評会を行い、創作意欲を持つ。
2020 年 4 月 21 日の週から開講

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	創作提出。 夏期合宿のまとめ 秋期の研究計画作成	文集委員に創作を提出し、文集作成を開始する。 夏期合宿の成果を報告しあう。 秋期のゼミ計画を立てる
第 2 回	昨年度の注目作品に関する意見交換	現代に求められている児童文学とは何かを捉える。２年生は共通研究テーマを設定する
第 3 回	個人発表１	3 年生の個人発表。2 名
第 4 回	個人発表２	3 年生の個人発表。2 名
第 5 回	個人発表３	3 年生の個人発表。2 名
第 6 回	個人発表４	3 年生の個人発表。2 名
第 7 回	個人発表５	3 年生の個人発表。2 名
第 8 回	個人発表６	3 年生の個人発表。2 名
第 9 回	２年生の個人発表１	２年生の個人発表。２名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 10 回	２年生の個人発表２	２年生の個人発表。２名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 11 回	２年生の個人発表３	２年生の個人発表。２名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 12 回	２年生の個人発表４	２年生の個人発表。２名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 13 回	２年生の個人発表５	２年生の個人発表。２名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 14 回	合評会	創作合評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
児童文学作品を夏休み中に創作し、最初の講義で提出することができる。
文集委員は編集。冊子作りは全員協力のこと。
3 年生は卒論を意識して課題を設定し、個人発表を充実させることができる。
ゼミ発表の課題図書を読む必ず読んでディスカッションができるようにすること。
論文を書く事ができる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ作成児童文学用語集

【参考書】
児童文学概論　児童文学用語集　日本児童文学史　世界児童文学史など

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）20 %　発表 40% 論文 20 %　創作作品 20 %

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーション能力を高めること。
ディスカッションが活発にできるようにすること。
ゼミのコミュニケーションを大事にすること。

【その他の重要事項】
春学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline and objectives】
After finishing the Spring Seminar 12A, students will be able to pursue his/her personal research theme and conduct seminar presentations. They will conduct pre-studies on teach themes to be able to do discussions concerning each presentation.　Students will together evaluate the class's collection of works and deepen their understanding of children's literature.

LIN300BC

ゼミナール１３Ａ

間宮　厚司

授業コード：A2639　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は、4 月 21 日（火）になります。詳細は、Hoppii を御覧ください。
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第 3 回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細は、Hoppii を御覧ください。
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業以外に懇親の場を設けてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１３Ｂ

間宮　厚司

授業コード：A2640　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室を変えないでほしいという意見が多かった。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１４Ａ

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2641　｜　曜日・時限：**月曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は、4 月 27 日（月）になります。詳細は、Hoppii を御覧ください。
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第 3 回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細は、Hoppii を御覧ください。
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業以外に懇親の場を多く設けてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１４Ｂ

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2642　｜　曜日・時限：**月曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室を変えないでほしいという意見が多かった。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１５Ａ

尾谷　昌則

授業コード：A2643　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常の言葉を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】
（1）論文の主張を的確に理解・要約することができる。
（2）論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
（3）コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼第 1 回目の授業は、オンラインで、4 月 21 日に、所定の時間通り行う。それまでに Hoppii の「お知らせ」欄を確認しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、コンコーダンスの使い方	様々なコーパスとツールの紹介
第 2 回	個人発表１	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 3 回	個人発表２	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 4 回	グループ発表1	各グループの自己紹介とテーマ紹介
第 5 回	個人発表３	３年生による個人研究発表
第 6 回	論文レポート１	定量的分析を行っている論文を読み、全員で討議する
第 7 回	グループ発表２	各グループの研究テーマの先行研究について発表
第 8 回	個人発表４	３年生による個人研究発表
第 9 回	個人発表５	３年生による個人研究発表
第 10 回	論文２	意味変化に関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	個人発表６	３年生による個人研究発
第 12 回	論文リポート１	２年生による論文リポート
第 13 回	論文リポート２	２年生による論文リポート
第 14 回	グループ発表３	各グループが調査したことを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）課題論文の基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。　（2）グループワークでは各自の分担を明確にし、毎週のミーティング時に報告し、グループに貢献すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
（1）『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
（2）『日本語研究のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
（3）『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション３０％
ディスカッション３０％
レポート課題４０％
半期のうちに３回欠席した者は即刻単位不認定とする。
遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークが嫌だという意見があったが、社会に出た際にそれでは困るので、今年もやります。

【学生が準備すべき機器他】
グループ発表用の PC。個人でノート PC を所有することが望ましい。

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the structures and the meanings of Japanese we use in our dairy life.

LIN300BC

ゼミナール１５Ｂ

尾谷　昌則

授業コード：A2644　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本語を客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】
（1）言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。
（2）ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
（3）グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、各自で決めたトピックについてデータを採取し、自分なりに分析し、研究発表を行う。全員で読むべき重要な論文の場合には、課題として要約レポートを書いてもらい、その添削を行いながら内容の確認とディスカッションを行う。数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表１	３年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表２	３年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表３	３年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表１	２年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文１	定量的分析を行ってる論文を読む
第 6 回	コーパス実習１	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表２	２年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文２	言語変化について定量的に分析した論文を読む
第 9 回	コーパス実習２	KWIC コンコーダンサなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表３	２年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表４	３年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表５	３年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表６	３年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表４	２年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ発表に備え、各グループで毎週１回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などを報告すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『認知言語学研究の方法― 内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
提出課題４０％　発表内容３０％　ディスカッション３０％
半期のうちに３回欠席した者は単位不認定とする。
遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
グループ発表用の PC。個人でノート PC を所有することが望ましい。

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the language grammatically.

LIN300BC

ゼミナール１６Ａ

尾谷　昌則

夜間時間帯
授業コード：A2645　｜　曜日・時限：**月曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】
（1）論文の主張を的確に理解・要約することができる。
（2）論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
（3）コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼第 1 回目の授業は、オンラインで、4 月 27 日の６時間目に行う。それまでに Hoppii の「お知らせ」欄を確認しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、KWIC の使い方	様々なコーパスの紹介を行う
第 2 回	個人発表１	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 3 回	個人発表２	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 4 回	グループ発表１	各グループの自己紹介とテーマ紹介
第 5 回	個人発表３	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 6 回	論文１	若者言葉に関する論文を読み、全員で討議する
第 7 回	グループ発表２	各グループの研究テーマの先行研究について発表
第 8 回	個人発表４	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 9 回	個人発表５	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 10 回	論文２	若者言葉とポライトネスに関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	個人発表６	３年生による個人研究発表と質疑応答
第 12 回	論文リポート１	２年生により論文リポート
第 13 回	論文リポート２	２年生による論文リポート
第 14 回	グループ発表３	各グループが調査したことを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題論文の基本用語・重要概念については事前に下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
(1)『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
(2)『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
(3)『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】
発表内容 30 %、質疑応答の発言 30 %、レポート課題 40 %

【学生の意見等からの気づき】
研究方法についての説明が足りなかったようなので、本年度はその点を重視した。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　現代日本語における意味論、文法論、語用論、認知言語学
＜研究テーマ＞
　認知言語学からみた意味拡張、文法化、構文ネットワーク
＜主要研究業績＞

「アマルガム構文としての『「全然」＋肯定』に関する語用論的分析」（『言葉と認知のメカニズム』pp.103-115. ひつじ書房、2008 年）
「構文文法の歴史的背景と今後の展望」（『人間情報学研究』第 11 巻、pp.25-43. 2006 年）
「接続詞ケドの手続き的意味」（『語用論研究』第 7 号, pp.17-30. 2005 年）
『構文ネットワークと文法　―認知文法論のアプローチ』（共著、研究社、2011 年）

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the structures and the meanings of Japanese we use in our dairy life.

LIN300BC

ゼミナール１６Ｂ

尾谷　昌則

夜間時間帯
授業コード：A2646　｜　曜日・時限：**月曜６限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者ことばを客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】
(1) 言語分析に必要な言語学の基礎概念やコーパス使用法を習得する。　(2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
(3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、２年生はグループ発表中心で、３年生は個人発表中心で行う。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表１	３年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表２	３年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表３	３年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表１	２年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文１	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読む
第 6 回	コーパス実習１	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表２	２年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文２	若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読む
第 9 回	コーパス実習２	KWIC コンコーダンサなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表３	２年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表 4	３年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表 5	３年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表 6	３年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表４	２年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ発表に備え、各グループで毎週１回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『認知言語学研究の方法― 内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
提出課題４０％　発表内容３０％　ディスカッション３０％
半期のうちに３回欠席した者は単位不認定とする。遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループ・ワークのための時間調整が難しい、各人の研究したいテーマが異なるためグループ・テーマが決まらない、という意見が多かったので、今年はそれらに配慮してグループを決めたい。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークではノート PC。発表ではパワーポイント（Google のクラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（中納言版、国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the language grammatically.

LIT300BC

ゼミナール１７Ａ

中沢　けい

授業コード：A2647　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。
Literature creation

【到達目標】
創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
5 月 7 日から授業を始めます。
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	同上	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	同上	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	同上	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	同上	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】
購読作品と関連した本も見つけてみましょう。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
Literature creation

LIT300BC

ゼミナール１７Ｂ

中沢　けい

授業コード：A2648　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】
ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	同上	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	同上	人によって読み方はさまざまです。
第 11 回	同上	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第 12 回	同上	作品はイメージ通りに書けましたか。
第 13 回	同上	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第 14 回	同上	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌

【参考書】
ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
Literature creation

LIT300BC

ゼミナール１８Ａ

中沢　けい

夜間時間帯
授業コード：A2649　｜　曜日・時限：**金曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
　後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。
Literature creation

【到達目標】
5 月 8 日から授業を始めます。
文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	同上	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	同上	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	同上	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	同上	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】
購読作品の関連図書を探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
Literature creation

LIT300BC

ゼミナール１８Ｂ

中沢　けい

夜間時間帯
授業コード：A2650　｜　曜日・時限：**金曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】
ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	同上	読みかたは人によって異なります。
第 10 回	同上	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第 11 回	同上	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第 12 回	同上	作品の修正の方法を考えてみましょう
第 13 回	同上	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第 14 回	同上	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】
自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
Literature creation

LIT300BC

ゼミナール１９Ａ

田中　和生

授業コード：A2651　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。授業は 4 月 21 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	短歌を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む（4）	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む（5）	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む（6）	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール１９Ｂ

田中　和生

授業コード：A2652　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２０Ａ

田中　和生

夜間時間帯
授業コード：A2653　｜　曜日・時限：**月曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。授業は 4 月 27 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	短歌を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む（4）	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む（5）	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む（6）	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内するが、自発的な読書が肝要である。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特になありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したい。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導する。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２０Ｂ

田中　和生

夜間時間帯
授業コード：A2654　｜　曜日・時限：**月曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２１Ａ

根本　昌夫

授業コード：A2655　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること　文学を楽しむこと　言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。
また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】
小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解読

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講座の概要
第 2 回	作品を書く前にすべきこと	文章の基本作法 1
第 3 回	同上	文章の基本作法 2
第 4 回	読むということについて 1	課題作品講評
第 5 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 1	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで
第 6 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 2	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで
第 7 回	読むということについて 2	課題作品講評
第 8 回	散文と詩	文章の基本作法 3
第 9 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 3	島田雅彦・平野啓一郎から上田岳弘・町屋良平まで
第 10 回	読むということについて 3	課題作品講評
第 11 回	批評について	文章の基本作法 4
第 12 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 4	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで
第 13 回	読むということについて 4	課題作品講評
第 14 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 5	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】
吉本隆明「マス・イメージ論」

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、提出作品 50 %の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】
早稲田大学在学中「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。
「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。
退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of literary.

LIT300BC

ゼミナール２１Ｂ

根本　昌夫

授業コード：A2656　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること　文学を楽しむこと　言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。
　また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】
小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解読

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文芸作品のジャンルと方法	1950 年代の文芸
第 2 回	読むということについて 1	提出作品講評 1
第 3 回	読むということについて 2	提出作品講評 2
第 4 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 5 回	読むということについて	提出作品講評 3
第 6 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 7 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 8 回	文芸作品のジャンルと方法	1960 年代の文芸
第 9 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 10 回	読むということについて 9	提出作品講評 4
第 11 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 12 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 13 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 14 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】
根本昌夫「実践小説教室」

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、提出作品 50 %の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】
早稲田大学在学中に「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。
「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。
退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of literary.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１）上代Ａ

坂本　勝

授業コード：A2657　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】
なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第１回授業はＨｏｐｐｉｉ上で４月２３日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	授業全体の概説
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀、風土記の創生神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第 7 回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第 8 回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『はじめての日本神話　古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、７８０円、坂本勝。
書籍がない場合は電子書籍を購入すること
※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google 版を除く）
スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。
ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】
参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（1 回 60 点）に平常点（40 点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline and objectives】
Learn about the myths of ancient Japan.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１）上代Ｂ

坂本　勝

授業コード：A2658　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】
上代文学の読解研究の基礎的方法を身に着ける。古典の面白さを味わい、ことばの重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（1 回,60 点）と平常点（40 点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline and objectives】
We would explore humanity in ancient Japan, through the study of Manyoshu.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山　元子

授業コード：A2661　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古典」というと、文法がややこしい、面白くないという苦手意識を持っている人は多いのではないでしょうか。確かに言葉遣いなどが難しく、とっつきにくさはあると思います。しかし一方で未だに読まれ続けていたり、映画やゲーム、漫画、小説などの素材として再生産され続けたりしているのは、現代人の心にも何かアピールするものがあるからに他ならないのではないでしょうか。この授業ではそうした古典文学作品の名作『源氏物語』の内容を名場面を中心に解説し、その魅力を探っていきます。ストーリーとしての面白さはもちろん、物語本文に施された様々な仕掛け（漢籍や和歌の引用、史実とのかかわりなど）を知ることで、その表現世界をより深く味わうことができます。さらに多様な解釈を許容する表現のあり方についても考えていくことで、主体的に「読む」ことを促したいと考えています。授業期間や回数の変更により、前期は第一巻桐壺巻から第二十一巻目の少女巻までの、光源氏の誕生から栄華の絶頂に向かいつつある時期までを扱います。受講したことで古典作品に対する知識や興味が深まる、そんな授業にしたいと思います。

【到達目標】
①平安期の古典文学の代表的な作品である『源氏物語』について学ぶことで古典作品についての知識を深め、その表現の特殊性や普遍性、文学的芸術的意義および文学史的意義についての理解を深める。
②古典文学作品が有する、時代を超えて人の心を打つ普遍的な魅力とは何かということについての答えを各自が考察して見出し、それを自らの言葉で解説できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
４月３０日より開始します。なおリアルタイムの授業ではありません。講義内容を文字化した物をコンテンツとしてアップするので期間内に読み、課題として出したものを読んで講師の質問に答えてください。掲示板などでの双方向的な質疑討議を通して理解を深めることもやっていきたいと思います（方法については通知します）。通信環境などが整備されるまでは、動画やあまり重い画像配信ができないため、いろいろ制約がある中での配信となりますので、最初の数回は文字資料のみとなります。参考になるようなサイトなども紹介していきます。連絡などを細かくチェックしてください。授業のファイルは PDF とワード文書でタイトルが同じ物は同内容です。また何かあったら連絡をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業についての説明（文書）・授業を受けるに当たって知っておいて欲しいことなどをまとめた参考資料を読む
第 2 回	『源氏物語』の構成について	『源氏物語』が長編物語としてどのような構成になっているのかを確認、光源氏の一代記としてみた場合の特徴などを解説する。
第 3 回	桐壺巻の冒頭表現	桐壺帝による桐壺更衣への寵愛ぶり、桐壺巻の長恨歌引用について見ていく。
第 4 回	桐壺巻－光源氏の誕生	主人公の誕生を語る話型の典型から光源氏の誕生場面を読み解く。
第 5 回	夕顔巻を読む	夕顔巻での夕顔怪死事件の描かれ方について解説、〈読み〉を深める。
第 6 回	若紫巻を読む	源氏が若紫君を垣間見する有名な場面について、前後の内容も合わせ詳説することで理解の深化を促す。
第 7 回	紅葉賀巻を読む－青海波の舞の場面を読む	紅葉賀宴の青海波の舞の場面前後や後の冷泉帝誕生の場面などの読解を通じて、光源氏と藤壺との関係について考えていく。
第 8 回	葵巻の物の怪出現の場面を読む	六条御息所は物の怪になったのかという問題について、さまざまな説を紹介し物語独自の表現に対する理解を深めていく。
第 9 回	須磨巻を読む－配所における光源氏	光源氏の失意の日々を描いた須磨巻で、古来名文とされてきた場面を中心に取り上げ鑑賞する。
第 10 回	薄雲巻－藤壺の死の場面を読む	この巻で亡くなる藤壺宮の死の場面の読解を通じ、光源氏と藤壺との関係について考える。
第 11 回	朝顔巻－巻末の場面を読む	藤壺の死後という時間・紫の上の抱える問題とは何かについて考える。
第 12 回	少女巻を読む－六条院の完成について考える	少女巻では、光源氏の理想がつまった六条院という屋敷が完成する。この屋敷の特徴・持つ意味について見ていく。
第 13 回	なし	なし
第 14 回	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オンライン学習ですので、講義＋課題で授業が成立します。このような状況下ではありますが、オンラインで参考に出来るサイトなどについても都度都度紹介をしていきたいと思います。事前学習としてはスムーズに授業内容に対応できるように、各回授業の前に３０分ほど、取り上げる巻の内容や出てくる登場人物などについて調べておいてください。また授業後には一時間ほど、課題を作成する時間にあててください。授業後には３０分ほど、授業内容を理解した上でさらに深めたいことや知らなかったこと、分からなかった用語などについて調べ学びを深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講師作成の文書を配信します。

【参考書】
中野幸一編『新装版　常用　源氏物語要覧』（武蔵野書院　2012）、林田孝和他編集『源氏物語事典』（大和書房　2002）、秋山虔・三田村雅子『源氏物語を読み解く』（小学館　２００３年）など。また原文を読んでみたい人には、入手しやすいテキストとして岩波文庫『源氏物語』（柳井滋他校注　2017 から刊行中）や角川ソフィア文庫のものなどがあります。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。http://www.iz2.or.jp/
図書館などにも通えないなど、本を入手できないという事情を鑑みて、参考になるサイトなど提示していくことを心がけます。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業に付随する課題を期限内に提出してもらいます。これに対する評価が４０%、期末レポートによる評価が４０%とします。また掲示板などを活用してのトピックへの反応に対する評価を授業を主体的に受講したことの表れとして評価の対象（２０%）とします。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい講義を心がけたいと思います。なお授業に関しての質問や意見には対応をできるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（パソコン）など

【Outline and objectives】
What is the meaning of reading Classic litarerary works? Those words are too archaic and difficult for us,but if you read them,you can find that the contents and expressions of them have something that touches the heart of modern people.So in this class,to discover the appeal and significance of the Classic literary works,we will take the The Tale of Genji as an example.Through reading the famous scenes, you will notice the outstanding skills of expressions of this great literary work easily.And you will also find fun by knowing a rich narrative world that allows a variety of interpretations.In this first semester,we will read from the first volume Kiritubo to the 21st volume Otome.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古Ｂ

栗山　元子

授業コード：A2662　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では前期に引き続き、『源氏物語』を例として古典文学の魅力や楽しさ、その文学的達成について探っていきます。具体的には巻々の名場面を取り上げ、物語の表現が多様な解釈を許容するものであること、先行する漢籍や和歌の表現を織り込んで紡がれていることを確認しながら精読していきます。また物語全体を俯瞰し、その世界観や主題についても考えていきます。後期は光源氏の子として育てられた薫と没落皇族である八の宮家の三姉妹との恋物語を中心とした、いわゆる宇治十帖を含む続編（第４２巻の匂兵部卿巻～第５４巻の夢浮橋巻）を扱っていきます。

【到達目標】
①平安期の古典文学の代表的な作品である『源氏物語』について学ぶことで古典作品についての知識を深め、その表現の特殊性や普遍性、文学的芸術的意義および文学史的意義についての理解を深める。
②古典文学作品が有する、時代を超えて人の心を打つ普遍的な魅力とは何かということについての答えを各自が考察して見出し、それを自らの言葉で解説できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式による。理解度をはかるためのリアクションペーパーを授業時間内に作成し提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスを用いたガイダンスを実施する。
第 2 回	続篇の世界について―匂宮三帖と宇治十帖の世界を概観する	正篇の物語の総括と続篇の物語（匂宮三帖と宇治十帖）の世界について、登場人物の整理や正篇から引き継がれたテーマ、続篇世界の流れと要点などを概観していく。
第 3 回	匂宮三帖の世界概説－匂宮巻を中心に	光源氏が本当の父ではないらしいことに気付き、その引け目から何事にも消極的になってしまった薫の苦悩が語られる場面を読んでいく。
第 4 回	橋姫巻を読む－薫の恋の始まり	薫と八の宮家の姉妹との出会いの場面などを中心に読んでいく。
第 5 回	橋姫巻・椎本巻を読む	八宮亡き後の薫と八宮家の姫君たちとの交渉がどのように描かれていくのかを見ていく。
第 6 回	総角巻を読む―薫と大君のすれ違い	八宮亡き後、大君への恋愛感情をたかぶらせる薫の様子や大君とすれ違っていく様子などを確認していく。
第 7 回	総角巻を読む―大君の死	薫を拒絶したまま死に向かう大君の複雑な心情が描かれている場面などを中心に精読していく。

第 8 回	早蕨巻・宿木巻を読む	大君を喪った薫が、大君の妹である中君に思いを寄せていくといった展開をいくつかの場面を取り上げ確認していく。
第 9 回	宿木巻・東屋巻を読む	大君の身代わりして登場してくる浮舟について、その人物像がどのように語られるのかということを中心に見ていく。
第 10 回	東屋巻を読む―浮舟をめぐる物語を読み解く	浮舟に対する薫の心情、引用される漢詩文の意味などを読み解いていく。
第 11 回	浮舟巻を読む	薫と浮舟、そして匂宮の三角関係について考える。
第 12 回	浮舟巻を読む	薫と匂宮との三角関係に苦悩し、入水しようと追い詰められていく浮舟について、その心情表現を追っていく。
第 13 回	蜻蛉巻・手習巻を読む	浮舟失踪後の薫と匂宮の反応を描いた場面や、横川僧都一行に助け出された浮舟のその後を語った印象的な場面を取り上げ精読していく。
第 14 回	夢浮橋巻を読む	出家した浮舟は薫を拒絶できるのか、横川僧都の手紙の意味するところは何なのかなど、『源氏物語』の最終巻が最後に提示した世界観について考察していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として各授業前に３０分ほど、参考図書として挙げた書籍などを参考に、各巻の概容や登場人物などの確認をしておき、授業内容の理解につなげていくこと。また授業後は論点の整理などを通じて物語内容への理解を深めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に講師作成のプリントを配布します。

【参考書】
中野幸一編『新装版　常用　源氏物語要覧』（武蔵野書院　2012）、秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館　1997 初版）、林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房　2002）、秋山虔・三田村雅子『源氏物語を読み解く』（小学館　2003）など。またさまざまな新書版での入門書もあります。原文で読みたい人には、角川ソフィア文庫や岩波文庫などのものが入手しやすいと思います。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。http://www.iz2.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
授業時作成するコメントシートによる評価（５０％）と期末レポートにおける評価（５０％）とを合算して成績をつけます。なお評価方法については、前者は授業の到達目標①の達成度を、後者は到達目標の①と②をそれぞれ５０％ずつの配分にしてその達成度を計り評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間内に一つのテーマがまとまるように時間配分に留意します。分かりやすくめりはりのついた授業になるよう心がけます。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to discover the appeal and significance of the Classic literary works.So by taking the The Tale of Genji as an example,we will find the reason why people keep reading such an old-fashioned literature.Through
analyzing the famous scenes, you will notice the outstanding skills of expressions of this great literary work.And you will also find fun by knowing a rich narrative world that allows a variety of interpretations.In the second semester,we will read from the 42st volume Niounomiya to the 54st volume Yumenoukihashi-a tragic love story over Kaoru.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古Ｃ

加藤　昌嘉

夜間時間帯
授業コード：A2663　｜　曜日・時限：**金曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【4/24 加筆修正 ↓】
★授業開始日は、５月８日（金）といたします。ただし、ライヴ配信（リアルタイム授業）ではありませんから、毎週、金曜夜～土曜日曜、よろしき時間に、Hoppii の「お知らせ」欄・「教材」欄を確認していただけましたら幸いです。
★ “教室授業不可能”“図書館閉館”“書店休業” という現況を鑑みまして、今回、春学期「中古Ｃ」と秋学期「中古Ｄ」の授業内容を、まるごと入れ替えることといたしました。取り上げる作品や成績評価の方法なども、改変いたしました。
★仮登録中の皆さんには申し訳なく、お詫びいたします。“受講者が自由に本を入手できない中、インターネットだけで何ができるか／できないか” を熟考した結果です。新しいシラバスを改めて御覧いただき、そのうえで、「日本文芸研究特講（２）中古Ｃ・Ｄ」（金曜６限）の受講／不受講を検討していただきたく、お願い申し上げます。［加藤昌嘉］

◆春学期「中古Ｃ」のテーマは、《和歌》《短歌》です。
◆２０世紀の《短歌》を出発点にしながら、『古今和歌集』（平安時代）から『新古今和歌集』（鎌倉時代）に至る、さまざまな《和歌》《歌人》《歌集》を取り上げ、その表現のしくみを考察してゆきます。

【到達目標】
【4/24 加筆修正 ↓】
１．《和歌》《短歌》の表現技法・ことばの仕掛けを学ぶ。
２．自分で《短歌》（5,7,5,7,7）を作る。
３．自分で《歌集》（アンソロジー）を編む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【4/24 加筆修正 ↓】
★授業開始日は、５月８日（金）といたします。ただし、ライヴ配信（リアルタイム授業）ではありません。毎週、金曜の夜、Hoppii の「教材」欄に、プリント（PDF ファイル）や、動画（現在、作成中）を、少しずつ、up してゆく予定でおります。
★わたくしはテクノロジーに疎く、現在、七転八倒しながら、動画の作成に取り組んでおります。受講者の皆さんも、今のうちに、自身のパソコン、通信制限のないインターネット環境、プリンターなどを整えておいてくださりたく、お願い申し上げます。
★下記【授業計画】は、あくまでも “未定の予定” です。受講者の皆さんの様子を見て、臨機応変に組み替えてゆきます。［加藤昌嘉］

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	4 月 10 日、全学休講	履修の準備
2	4 月 17 日、全学休講	履修の準備
3	4 月 24 日	授業内容＆進め方の説明
4	5 月 8 日	現代短歌はとってもアバンギャルド
5	5 月 15 日	和歌が詠まれるシチュエーションは様々
6	5 月 22 日	和歌を翻訳するのはかなり自由

7	5 月 29 日	植物、地名には、特有のイメージがある
8	6 月 5 日	歌集（アンソロジー）を編むにはセンスが必要
9	6 月 12 日	課題①：短歌を作る、和歌を訳す、など
10	6 月 19 日	和泉式部の恋の和歌など
11	6 月 26 日	西行法師の月・花の和歌など
12	7 月 3 日	藤原定家のシュールな言語実験など
13	7 月 10 日	物語・小説（フィクション）の中に嵌め込まれた和歌など
14	7 月 17 日	春学期総括、課題②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【4/24 加筆修正 ↓】
◆授業で取り上げられた作品のうち、面白いと思ったものを、各自、読んでみてください。なるべく入手しやすい本を紹介してゆく予定です。

【テキスト（教科書）】
【4/24 加筆修正 ↓】
★ Hoppii「教材」欄に、プリント（PDF ファイル）などを up してゆきます。

【参考書】
【4/24 加筆修正 ↓】
★もし、書店・古書店・ネット書店、あるいは電子書籍で入手可能であるなら、以下のうちのいずれかを読んで、《和歌》《短歌》の魅力に触れて欲しいと思っています。
▼近現代の《短歌》について
◎穂村弘『短歌の友人』（河出文庫）
◎東直子＆穂村弘『しびれる短歌』（ちくまプリマー新書）
◎倉阪鬼一郎『怖い短歌』（幻冬舎新書）
▼平安～鎌倉時代の《和歌》について
◎渡部泰明『古典和歌入門』（岩波ジュニア新書）
◎渡部泰明　編『和歌のルール』（笠間書院）
◎谷知子『和歌文学の基礎知識』（角川選書）
◎出雲路修『古文表現法講義』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】
【4/24 加筆修正 ↓】
◆春学期中に、２回、「課題」を出します。《和歌》を分析したり、《短歌》を作ったり、《歌集》を編んだりする、というような課題を予定しています。課題①４０％、課題②６０％。

【学生の意見等からの気づき】
◆日本の古典だけでなく、近現代の文学や海外の文学も、積極的に取り挙げます。

【学生が準備すべき機器他】
【4/24 加筆修正 ↓】
★自分用のパソコン（通信制限のかからないインターネット環境）を整えておいてください。今後、レポートや卒業論文を書くとき、スマホだけでは対応不可能ですから。

【Outline and objectives】
This course deals with "WAKA",the classical Japanese 31syllable verse.

LIT200BC

日本文芸研究特講（２）中古Ｄ

加藤　昌嘉

夜間時間帯
授業コード：A2664　｜　曜日・時限：**金曜６限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【4/24 加筆修正 ↓】
★今回、秋学期「中古Ｄ」と春学期「中古Ｃ」の授業内容を、まるごと入れ替えることといたしました。
★仮登録中の皆さんには申し訳なく、お詫びいたします。新しいシラバスを改めて御覧いただき、そのうえで、「日本文芸研究特講（２）中古Ｃ・Ｄ」（金曜６限）の受講／不受講を検討していただきたく、お願い申し上げます。
★秋学期「特講、中古Ｄ」は、９月１８日（金）スタート予定です。もし、図書館閉館・書店休業が続くようなら、以下の授業内容も改変する可能性があります。［加藤昌嘉］

◆秋学期「中古Ｄ」のテーマは、《怪奇》《霊異》《幻想》《不条理》です。
◆『今昔物語集』（平安時代末期）を出発点にしつつ、中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の説話・物語・史書を取り挙げ、「霊」「鬼」「往生」「奇瑞」など、不可思議な話を解読してゆきます。
◆なお、近世（江戸時代）～近現代（２０世紀）の文学も、取り挙げます。

【到達目標】
【4/24 修正 ↓】
◆物語・説話の表現技法を知る。
◆中古～中世の思想・宗教を知る。
◆作劇法（ドラマトゥルギー）を分析する方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	死体	『今昔物語集』
2	謎の女	『今昔物語集』
3	鬼	『今昔物語集』
4	怨霊、祟り	崇徳天皇など
5	狂気	陽成天皇など
6	蛇	『沙石集』など
7	仏罰	『日本霊異記』など
8	往生	『平家物語』など
9	偽悪	『発心集』など
10	腐乱	『閑居友』など
11	音楽、奇瑞	『うつほ物語』など
12	妖美、不条理	泉鏡花など
13	各自の分析	まとめ＆論述試験
14	秋学期総括	試験のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【4/24 一部修正 ↓】
◆授業で取り挙げられた作品のうち、興味を惹かれたものを、読んでみてください。論述試験では、受講者各自に、作品の分析をしてもらう予定です。

【テキスト（教科書）】
◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】
【4/24 修正 ↓】
◆以下の〝入門書〟を推薦します。「面白そうだな」と思うものを、各自、読んでみてください。
◎小峯和明　編『図説あらすじでわかる！　今昔物語集と日本の神と仏』（青春新書）
◎伊藤比呂美・福永武彦・町田康　訳『日本文学全集　日本霊異記・今昔物語・宇治拾遺物語・発心集』（河出書房新社）
◎須永朝彦『日本幻想文学史』（平凡社ライブラリー）
◎水木しげる『今昔物語』上下（中公文庫）
◎ ichida『本当はこわい仏教むかし話』（メディアファクトリー）

【成績評価の方法と基準】
◆筆記試験の出来（７４％）。授業で取り挙げられた作品を熟読した上で、小論文を書いてもらいます。
◆リアクションペーパー（２６％）。質問やアイディアを書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
【4/24 修正 ↓】
◆日本の古典だけでなく、近現代の文学や海外の文学も、積極的に取り挙げます。

【Outline and objectives】
This course deals with many strange stories in the Japanese classics.

LIT200BC

日本文芸研究特講（３）中世Ａ

小秋元　段

授業コード：A2665　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『平家物語』を読む。
『平家物語』は日本文学科に入ったからには、絶対に読んでおきたい偉大な古典である。この授業を通じて『平家物語』に接し、その作品を深く理解してみよう。

【到達目標】
１．『平家物語』を原文で読み、その内容（虚構性や表現の特徴等）を理解し、それを説明する力を身につける。
２．中世の文学と歴史・思想・文化全体への理解を養い、そこから『平家物語』に描かれた諸事象を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、一つの章段をとりあげ、原文を朗読し、その内容を解説する。そして、歴史・思想・文化的背景を説明しながら、『平家物語』の叙述の特徴を指摘する。〔以下、4 月 21 日加筆〕授業は 4 月 28 日以降、動画配信により行う。詳細は「学習支援システム」のうち、「お知らせ：「日本文芸研究特講（３）中世Ａ」の授業の進め方について」を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『平家物語』に触れよう	巻一「祇園精舎」の講読し、『平家物語』の世界に触れる。
第 2 回	『平家物語』概説	『平家物語』のあらすじ、成立、作者に関して講義する。
第 3 回	平家の繁栄～巻 1「殿下乗合」～	巻 1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 4 回	院近臣の策謀～巻 1「鹿谷」～	巻 1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第 5 回	俊寛の悲劇～巻 3「足摺」～	巻 3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第 6 回	以仁王の変の発端～巻 4「競」～	巻 4「競」を講読し、平重盛・宗盛兄弟の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 7 回	いくさ語りの諸相～巻 4「橋合戦」～	巻 4「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第 8 回	清盛の死～巻 6「入道死去」～	巻 6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係を中心に講義する。
第 9 回	平家の都落ち～巻 7「忠教都落」～	巻 7「忠教都落」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 10 回	木曾義仲の入京～巻 8「猫間」～	巻 8「猫間」を講読し、木曾義仲の人物像の特徴を中心に講義する。
第 11 回	一谷の悲劇～巻 9「敦盛最期」～	巻 9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。
第 12 回	扇の的～巻 11「那須与一」～	巻 11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 13 回	平家滅亡～巻 11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻 11「先帝身投」「能登殿最期」を講読し、平知盛の役割を中心に講義する。
第 14 回	宗盛の最期～巻 11「大臣殿被斬」～	巻 11「大臣殿被斬」を講読し、浄土思想的価値観とそれに対峙する作品の姿勢を中心に講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげる本文は、『平家物語』のうちの一部に過ぎない。授業で触れられない章段について、各自、読み進めておいてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント使用。

【参考書】
新潮日本古典集成、水原一校注『平家物語』上・中・下（新潮社、1979～81 年）
新日本古典文学大系、梶原正昭・山下裕明校注『平家物語』上・下（岩波書店、1991・93 年）
新編日本古典文学全集、市古貞次校注・訳『平家物語』上・下（小学館、1994 年）
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』（三弥井書店、1993・2000 年）

大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）
王新禧訳『全訳本平家物語』（上海訳文出版社、2011 年）

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントカード…… 30 %
期末試験…… 70 %
〔以下、4 月 21 日加筆〕教室授業が開始できず、全回の授業が動画配信による場合、コメントカード 50 %、学期末レポート 50 %とする（「学習支援システム」のうち、「お知らせ：「日本文芸研究特講（3）中世A」の授業の進め方について」を参照）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世B

小秋元　段

授業コード：A2666　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世の説話と和歌
日本文学の歴史を深く理解するために、この授業では中世の説話と和歌について講義する。そこから中世文学の特徴について実感し、日本文学史を俯瞰する目を養うことを目的とする。

【到達目標】
1．中世文学の歴史を理解し、それを説明する力を身につける。
2．説話と和歌を原文で読み、その内容や特徴を理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。中世という時代の概説。
第 2 回	『今昔物語集』 1	『今昔物語集』の解題・講読。
第 3 回	『今昔物語集』 2	『今昔物語集』の講読。
第 4 回	『宇治拾遺物語』 1	『宇治拾遺物語』の解題・講読。
第 5 回	『宇治拾遺物語』 2	『宇治拾遺物語』の講読。
第 6 回	『十訓抄』	『十訓抄』の解題・講読。
第 7 回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解題・講読。
第 8 回	『宝物集』	『宝物集』の解題・講読。
第 9 回	『発心集』	『発心集』の解題・講読。
第 10 回	和歌の基礎知識	和歌および和歌集に関する解説。
第 11 回	院政期和歌の展開	院政期（平安時代末期）の歌風の変遷に関する解説。
第 12 回	本歌取りの誕生	本歌取りの誕生、理念、方法についての解説。
第 13 回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第 14 回	歌学書の世界	『無名抄』の解題・講読。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自信のない学生は、個々に自習することを望む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント使用。

【参考書】
『日本古典文学大辞典』全６巻（岩波書店、1983～85 年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998 年）
小山弘志編『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990 年）

【成績評価の方法と基準】
毎時のコメントカード…… 30 %
期末試験…… 70 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In this course, we will read Setsuwa and Waka.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世D

阿部　真弓

夜間時間帯
授業コード：A2668　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『方丈記』を講読します。時代背景や作者鴨長明の事績を押さえつつ読解し、文学史的位置づけを考察します。

【到達目標】
①中世文学に関する基本的な知識を習得する。
②文化的背景、歴史的背景を踏まえて、作品を読解する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使い、講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明など
第 2 回	鴨長明について	経歴
第 3 回	鴨長明について	歌壇での活動
第 4 回	『方丈記』講読	概説
第 5 回	『方丈記』講読	序文
第 6 回	『方丈記』講読	五大災厄
第 7 回	『方丈記』講読	方丈の庵での生活
第 8 回	『方丈記』講読	特質について
第 9 回	『方丈記』講読	まとめ
第 10 回	『無名抄』講読	概説
第 11 回	『無名抄』講読	特質について
第 12 回	『発心集』講読	概説
第 13 回	『発心集』講読	特質について
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ちくま学芸文庫『方丈記』（浅見和彦 校訂・訳、筑摩書房、2011 年）。
その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】
ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 角川ソフィア文庫『方丈記』（角川学芸出版、2007 年）。
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。試験は【授業の到達目標】に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに書かれた質問や感想に対し、できるだけ丁寧に解説を行っていきます。

【Outline and objectives】
This course deals with *Hōjōki* (方丈記), *Mumyō shō*（無名抄）, *Hosshinshū*（発心集）. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the Medieval Japanese Literature.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世A

眞島　望

授業コード：A2669　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近世文学のみならず、本邦の古典を代表する詩人たる芭蕉。その手になる『おくのほそ道』の読解を手がかりに、日本文学の潮流の一つである紀行文学や地誌への理解を深めるとともに、江戸時代の新興文芸である俳諧の特質と、そこに底流する和歌・謡曲をはじめとする日本文化のエッセンス、特に名所や歌枕の概念を学ぶ。また、その主な経路となった東北地方の歴史的な位置づけについて知ることを通して、東国文化の特質や「日本」とはいかなる文化なのかを考える。

【到達目標】
１、紀行文学や地誌の歴史や、他の散文・韻文文芸との関係を理解する。
２、俳諧という文芸の特質や、その代表者の一人である芭蕉の生涯とその芸術について理解する。
３、『おくのほそ道』の文学作品としての特色を説明できるようになる。
４、我々も現在その一部に属している東（あずま）という土地の歴史性に興味をもち、そのことについて自分なりの意見を述べることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
[感染症対策による変更点]
本授業は開講日を 4 月 25 日 (土) とする。なお、受講生の wifi 環境などに配慮し、データ量の重いビデオ・音声を用いたリアルタイムでの授業は行わず、学習支援システムを通じて資料・課題を配信し、学生はそれを提出するという形式で行う。第 2 回以降の資料・課題の配信日時は、原則として毎週火曜日の授業時間を目安とする（4/22 13:00 改訂）。
[通常授業時の進め方・方法]
主に質疑応答を含めた講義形式（適宜資料を配付する）で進めるが、必要に応じて討論や作業（授業内課題など）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概説	授業の概要の説明 芭蕉の図像としてのイメージに触れる。
第 2 回	俳諧の歴史と展開	俳諧文芸の史的展開と、そこに芭蕉がいかに位置付けられるかを知る。
第 3 回	俳人芭蕉の生涯①	芭蕉の前半生について解説し、その作品（談林時代）を鑑賞する。
第 4 回	俳人芭蕉の生涯②	芭蕉の後半生について解説し、その作品（漢詩文調～蕉風開眼以後）を鑑賞して、俳風の変遷を学ぶ。
第 5 回	『おくのほそ道』の諸本とその形態	『おくのほそ道』の諸本とその関係を確認し、紀行文としての特色を知る。
第 6 回	読解①（発端・出立）	旅の目的となっている歌枕とは何かを知る。
第 7 回	読解②（第一夜）	江戸時代の「日本」認識と「東国」・「奥羽」の歴史とイメージを知る。
第 8 回	読解③（室の八島）	歌枕「室の八島」の変遷とその背景に見える当地の歴史を学ぶ。
第 9 回	読解④（日光１）	能・謡曲からの影響と、「東国」の聖地としての日光の歴史を学ぶ。
第 10 回	読解⑤（日光２）	同行者である曽良の経歴と謎の多い半生について知り、日光との関わりを探る。
第 11 回	読解⑥（白河の関）	歌枕「白河の関」の和歌における本意を学び、本文に見える芭蕉の作意を知る。
第 12 回	読解⑦（壺の碑）	東北各藩の歌枕に対する眼差しと、「壺の碑」の来訪で芭蕉が得た芸術理論について知る。
第 13 回	読解⑨（平泉１）	平泉の古戦場としての歴史を知り、芭蕉の歴史観を考察する。
第 14 回	読解⑩（平泉２）・全体のまとめ	後半部を中心に、不易流行論との関係を主題に読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に『おくのほそ道』全文を読み通しておくこと。また、毎授業前に該当箇所の本文・語釈・現代語訳などを確認しておく。授業後には、配布資料や板書事項を中心に復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
穎原退蔵・尾形仂訳注『新版おくのほそ道』〈角川ソフィア文庫〉（角川書店、2003 年３月）￥760
※同出版社・同レーベルの「ビギナーズ・クラッシクス」版は避けて下さい（内容に差異があります）。

【参考書】
阿部喜三男・久富哲雄著『増訂版　詳考奥の細道』（日栄社、1979 年 11 月）
堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典』（東京堂出版、2003 年７月）
上野洋三・櫻井武次郎校注『芭蕉自筆　奥の細道』〈岩波文庫〉（2017 年 7 月）
※そのほか多数。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %・小テスト 30 %・平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this course, students will understand the art of “Haikai” that was new style poetry in the Edo period, and the essence of Japanese traditional culture by reading famous travel literature “Oku no Hosomichi” written by Matsuo Basho. And, students will learn the historical background of the Tohoku Region in japan.
For that purpose, it is necessary to come into contact with the classical texts of japan and china, for example, 31-syllable Japanese poems, Noh songs, or Chinese poetry, because “Oku no Hosomichi” is based on a lot of the different classics.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世Ｂ

小林　ふみ子

授業コード：A2670　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸っ子の笑いと機知を読み解く。
18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑いと機知を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】
1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単元ごとに、概説ののち、グループで作品読解に取り組み、そのあとに全体で共有する形式で進める。戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 時代背景 短詩系文学①	江戸っ子の時代概説 川柳のうがちに触れる。
第 2 回	黄表紙の奇想①	子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙の概説。
第 3 回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－上
第 4 回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－下
第 5 回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本の概説。
第 6 回	見立絵本のしかけ②	妖怪見立て絵本『画本纂怪興』を読み解く。
第 7 回	ここまでのまとめ 中間試験	ここまでを振りかえった講義ののち、 前半の理解を確認する試験を実施する。
第 8 回	試験の振り返り 短詩系文学②	技巧を凝らして笑う狂歌と漢詩型に俗語を盛り込んで笑う狂詩を知る。
第 9 回	滑稽本の表現力①	物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説。
第 10 回	滑稽本の表現力②	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解。
第 11 回	滑稽本の表現力まとめ 合巻の情緒①	前回のまとめと創作課題の発表ののち、 黄表紙から筋立て重視に変化した合巻について概説。
第 12 回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『偐紫田舎源氏』を読み解く。－上
第 13 回	合巻の情緒③	『源氏物語』の江戸時代版『偐紫田舎源氏』を読み解く－下
第 14 回	まとめと最終試験	全体のまとめのあと、試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の週に配る各回の予習資料にもとづいて事前に作品を読解し、ときに創作の課題にとりくみ作品を持ちよる。
中間と最終２回の試験のために課す、事前課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回、資料を配付する。

【参考書】
小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル、2019）

【成績評価の方法と基準】
中間試験 50 %・最終試験 50 %を基本とし（手書きメモのみ持ち込み可の予定）
授業内で課す課題などのパフォーマンスで加点する。

【学生の意見等からの気づき】
口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。
講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解読と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、
できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
作品読解のため『広辞苑』『精選版日本国語大辞典』など電子辞書やアプリ、または前田勇『江戸語の辞典』（講談社学術文庫、品切れのため古書のみ入手可）の持ち込みを推奨。

【その他の重要事項】
受講生の理解を確認し、質問をうけつけるためにリアクションペーパーは回収しますが、集計して成績に反映させることはしません。

【Outline and objectives】
Reading and analizing the comic works from the late 18th centry Edo(now Tokyo) to know diversity of literary style, vocabulary and expressions in those works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世Ｃ

宮本　祐規子

夜間時間帯
授業コード：A2671　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世の前期小説である浮世草子を中心に、近世文学の多様さと面白さを知る。古典の知識、地方の特色、演劇・スキャンダルといった当代性の摂取、後世への影響など、色々な切り口で浮世草子を読む。

【到達目標】
①近世らしさが花開き始めた時期の、上方の文学・文化について知る。
②井原西鶴、江島其磧、上田秋成といった作者の小説を中心に、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７日。この日までに具体的なオンライン授業の方法・課題などを、学習支援システムで提示するので、各自必ず確認してほしい。課題の確認など実際の講義を開始するのは５月４日（月）。この日は、16:50～18:30 にはネット環境を確保すること。
対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作などを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	近世前期という時代	江戸と上方
第２回	近世小説の特徴及び浮世草子の特徴	実用書から小説まで
第３回	浮世草子と古典	西鶴の好色ものと『伊勢物語』『源氏物語』
第４回	浮世草子と挿絵	西鶴『新可笑記』の新しいヨミ
第５回	浮世草子の王道	西鶴の町人もの『世間胸算用』
第６回	浮世草子の毒	西鶴の武家もの『武家義理物語』『武道伝来記』
第７回	浮世草子の怪異①	短編怪談集から『西鶴諸国はなし』
第８回	浮世草子の怪異②	読本の怪異ー秋成『雨月物語』
第９回	浮世草子と近代文学	西鶴から太宰治『新釈諸国噺』
第10回	浮世草子と西鶴以後①	西鶴とその弟子、北条団水
第11回	浮世草子と演劇	八文字屋本と江島其磧
第12回	まとめ	まとめ
	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
遠隔授業時には、毎週課題提出が必要。
対面授業時には、配布する資料に事前に目を通すことを求める。
授業内だけでなく次週のレポート提出や、創作課題を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『新編日本古典文学全集　西鶴集』（小学館）、『八文字屋本全集』（汲古書院）など。

【成績評価の方法と基準】
遠隔授業時の平常点は、毎週の課題提出によって評価する。
平常点　６０％（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書の持ち込みを推奨します。

【その他の重要事項】
遠隔授業時、何か質問があれば、メール等で対応する。
オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire a literature of the Edo period.Ukiyo Zoshi is one of the major literary forms in the early Kinsei Bungaku.

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ａ

村山　龍

授業コード：A2673　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では日本近代文学、とくに 1920～30 年代の文芸状況を学ぶことを目的とする。第一次世界大戦と第二次世界大戦、二つの大戦の間に挟まれた戦間期と呼ばれる時代に、日本文学が文化現象としてどのように立ち現れたのか。変動する〈時代〉と文学との関係を見ていくことで私たちの〈今〉を考える手がかりにしていきたいと考えている。

【到達目標】
・1920 年代から 1940 年代にかけての日本近代文学の状況について説明することができる。
・文学と社会状況の関係について理解し、自分なりの考えを表現することができる。
・文学作品を精読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第２回	戦前の日本の風景	文学の場としての戦前・日本について学ぶ
第３回	エスペラントの誕生①	人工言語エスペラントと国家制度との関わりについて考える
第４回	エスペラントの誕生②	秋田雨雀「緑の野」を読む
第５回	プロレタリア文学運動の射程と限界①	プロレタリア文学運動の背景としての社会主義運動について学ぶ
第６回	プロレタリア文学運動の射程と限界②	プロレタリア文学運動の理念について学ぶ
第７回	プロレタリア文学運動の射程と限界③	前田河廣一郎「川」を読む
第８回	モダニズムの目指したもの①	モダニズムとは何かを考える
第９回	モダニズムの目指したもの②	横光利一「機械」を読む
第10回	モダニズムの目指したもの③	近現代詩の変遷を通じて〈伝統〉概念の生成について学ぶ
第11回	文芸統制の変化①	検閲官・佐伯郁郎と文藝懇話会について考える
第12回	文芸統制の変化②	児童文化統制から戦時統制への接続について考える
第13回	戦争と文学	戦争詩や愛国詩を中心に文学と戦争の関係を考える
第14回	まとめと小テスト	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示したテクストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：30 %
・学期末レポートと小テスト：70 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
授業後のコメントペーパーを書く時間を授業終了前の 10 分程度にしているので「書く時間を延ばして欲しい」という意見があったが、授業内容をインプットするだけでなく限られた時間で要点をアウトプットする練習でもあるので、これまでの流れを踏襲する。力の入ったコメントペーパーを書いてくれる学生が例年多いので、ぜひ積極的に取り組んでほしい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to study modern Japanese literature, especially the literary situation in the 1920s and 30s. It is called the interwar period between World War I and World War II. How did Japanese literature emerge as a cultural phenomenon during this period? By looking at the relationship between the changing times and literature, I hope to use this as a clue to think about the present.

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代B

中丸　宣明

授業コード：A2674　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
二十世紀初頭に成立した日本「自然主義小説」の形成過程を論ずる。島崎藤村・田山花袋・徳田秋声らの出発機からの文学的展開を社会情勢などとの関連においてとらえ、「蒲団」「生」「妻」（花袋）、「破戒」「春」「家」（藤村）、「雲のゆくえ」「黴」などの諸作品の解析を通じて明らかにする。

【到達目標】
日本の自然主義小説の形成過程・特質を理解することによって、日本近代の文学や文化についての見識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講義内容についての概説
第 2 回	十九世紀文学の構想	立身出世主義の文学
第 3 回	田山花袋 1	「少女小説」の時代
第 4 回	田山花袋 2	外国文学の受容
第 5 回	田山花袋 3	「蒲団」の意味
第 6 回	田山花袋 4	「生」から「妻」へ
第 7 回	島崎藤村 1	叙情詩の時代
第 8 回	島崎藤村 2	「破戒」論
第 9 回	島崎藤村 3	「春」の試み
第 10 回	島崎藤村 4	「家」の方法
第 11 回	徳田秋声 1	「雲のゆくえ」模索の時代
第 12 回	徳田秋声 2	「新世帯」、家庭の自覚
第 13 回	徳田秋声 3	「黴」、その達成
第 14 回	総括	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う作品は全部とは言えないが、指示された作品のうち 4 分の 3 は講義前に読了しておくこと。上記に挙げた作品は、前期・夏期休暇時になるべく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
上記作品であれば文庫や文学全集、ネット上の青空文庫や国会図書館の NDL ライブラリなどでも、何でもかまわない。

【参考書】
適宜、講義時に紹介。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容 40 %、期末テスト 60 %。

【学生の意見等からの気づき】
今年度、ピンチヒッターによる登板につき、事前に学生の意見なし。授業開始後は受講生の意見聴取にこれ努める、つもり。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ｃ

高口　智史

夜間時間帯
授業コード：A2675　｜　曜日・時限：**木曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代文学再考――近代日本の〈空虚〉をめぐって
　日本の近代文学が西洋と比較して、なにかひどく痩せ細ったものに感じる人は少なくないと思う。西洋文学のような大長編はほとんどない。その原因の一つは世界史上まれにみる特殊な日本の近代化にあると思われる。日本の近代化が大きなゆがみを伴った発展過程を歩んだことは、早くから透谷（「漫罵」）や漱石（「現代日本の開化」）によって指摘されてきた。二人が共通して問題にしたことは、近代化を支える日本人の精神性・倫理性の欠如だった。
　実際、日本の近代化はあまりに急激で、近代化を支えるはずの近代思想（自由民権思想）は国家によって弾圧されて成熟する余裕もなかった。また宗教も江戸時代に世俗化が進み国民の支えになるほどの力を失い、逆に明治の日本は闘う〈神〉もいない、まさにポスト・モダンの状況だったと言えるのである。
　その結果、近代の日本人は、生きる精神的支えを欠落させた大きな空虚を抱えて生きることとなった。西洋近代ならばその課題を担うのは哲学のはずだった。しかし物質と精神が相即的に発達しえなかった日本近代では、物質的発展に精神の成長が追いつく余裕がなかっただけでなく、モダンがプレモダンとポストモダンと雑居するという前代未聞の状況が出現した。そういう世界を哲学が捕捉できなかったのは当然といえる。そこで近代日本では哲学の代わりを文学が担うことになった。文学なら流動的な近代を物語によって捉まえ、その中で生きながら考えることが可能だったからでもある。
　ただし西洋近代の作家のように、何らかの立場、信念が明確であれば、大きな物語を構想できる。（なぜそうなのかは授業で説明する）しかし空虚の中に身を置く日本の文学者は、西洋のように信念とするものを手探りで探すところから出発しなければならなかった。何のために生きるのか、何を支えに生きるのかという問題を文学者自身が書きながら考えるということが、日本の近代文学に課せられた問題だったのだ。
　ところで近代日本人の精神的な空虚は明治維新から一五〇年経過した現在、過去の問題となったのだろうか。もしそれが過去のものであれば、近代文学は過去の文化遺産に過ぎないといえる。しかしこのような重大な問題が、たかが一五〇年というスパンで解決されるとは思えない。この授業では以上のような問題意識に沿って、現在の私たちの問題を照らし出す鏡として近代文学の代表的な作家、森鷗外、樋口一葉、夏目漱石、志賀直哉、芥川龍之介らの作品を読んでいきたいと思う。そのことで日本の近代文学の意義を再度見直していきたいと思う。

【到達目標】
・日本の近代文学の歴史的意義を新たな視点から理解する。
・文学者や文学作品と歴史との関係について理解する。
・小説の基本的な構造分析と読みの方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月３０日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
また学習支援システムを見るには仮登録を行う必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の主旨について考える	・文学作品へのアプローチ ・歴史（近代）を知ることの必要性（コンテクストをめぐって）
第 2 回	授業の主旨について考える②　日本近代への視覚	・北村透谷「漫罵」夏目漱石「現代日本の開化」を読む
第 3 回	森鷗外「舞姫」を読むⅠ	・物語の特徴―語りの問題を中心に
第 4 回	森鷗外「舞姫」を読むⅡ	・豊太郎の「まことの我」と豊太郎の分裂を読む
第 5 回	森鷗外「舞姫」を読むⅢ	・「舞姫」に表象された日本近代を読む（森鷗外の後期作品も視野に入れて）
第 6 回	樋口一葉「たけくらべ」を読むⅠ	・「たけくらべ」に表象された近代を読む①―コンテクストをめぐって
第 7 回	樋口一葉「たけくらべ」を読むⅡ	「たけくらべ」に表象された近代を読む②―人間への視角
第 8 回	樋口一葉「たけくらべ」を読むⅢ	・樋口一葉の近代批判を読む
第 9 回	夏目漱石「坊っちゃん」を読むⅠ	・「坊っちゃん」の語りの構造と作品構造を読む ・坊ちゃんと清の関係を読む
第 10 回	夏目漱石「坊っちゃん」を読むⅡ	・近代批判のアレゴリーとして読む（アレゴリーという方法について考える）
第 11 回	芥川龍之介「羅生門」志賀直哉「城の崎にて」を読む	・近代文学史上にこの二作品が投げかける意味について考える（高校の読みに歴史を導入する）
第 12 回	春学期のまとめ	試験とまとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず作品を複数回読む。さらに今回取り上げる作品の発表された時代（明治 20 年前後、日露戦後）について予習し、おおまかなイメージをもっていてほしい。

【テキスト（教科書）】
授業で使用するテクストは短編については学習支援システムで配布する。長いものについては「青空文庫」を利用してほしい。

【参考書】
・西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）文学作品をどう読めばよいのかということについて貴重なヒントを与えてくれる。専門領域を超えて文学研究者が読まれなければならない必読書。
・西郷信綱『古典の影』（平凡社ライブラリー）手に入りにくいが、文学作品を読むということはどういうことか徹底して考えるヒントに満ちた本。
・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテクスト論なのか、映画を対象にテクスト分析の実際をわかりやすく論じている。
・内田樹『街場の文体論』（文春文庫）表現とはどういうことか、言語論を中心にわかりやすく論じている。
・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）手に入りにくいが、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
・廣野由美子『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テクスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験　50 %
・平常点　50 %（授業参加度＝課題提出等）
※５月中に通常授業再開のめどが立たない場合は、期末試験は実施せず、全てを課題提出に代える可能性がある。（学習支援システムで後日連絡する）

【学生の意見等からの気づき】
講義形式なのでなかなか学生の声が届きにくく一方向になりがちなので、昨年同様感想の公開などを通し受講生の声が授業に反映するように心掛けたい。

【Outline and objectives】
The peculiar development in Modern Japan had been pointed out earlier by Kitamura Tokoku and Natsume Soseki. What they pointed out was the lack of spirituality and ethics of Japanese people, which supported modernization. The authors in Modern Japan had to consider what they can rely on in the emptiness of the spirit. In other words, they had to tackle the challenges of having problems in Postmodern as well as in Modern. These problems haven't been solved yet. In this lecture, we aim at thinking how the authors in Modern such as Mori Ogai, Higuchi Ichiyo, Natsume Soseki, Shiga Naoya, and Akutagawa Ryunosuke, worked on these problems, reading their masterpieces.

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ｄ

梅澤　亜由美

夜間時間帯
授業コード：A2676　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＊近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。
→ この授業では、1920 年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。文学史的な知識を学ぶと同時に、一人称の小説を対象に語りの構造、および視点に注目し、小説の解釈との関係を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析をしてもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】
１、小説を読み、文学史的な位置づけについて理解することができる。
２、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
３、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義+教室内での意見交換によって進行予定。
→ 受講者数によりますが、アクティブラーニングとしてグループワークを取り入れる予定です。
ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第 2 回	志賀直哉『冬の往来』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第 3 回	志賀直哉『冬の往来』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第 4 回	梶井基次郎『Kの昇天』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第 5 回	梶井基次郎『Kの昇天』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第 6 回	芥川龍之介『河童』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第 7 回	芥川龍之介『河童』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第 8 回	夢野久作『瓶詰地獄』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第 9 回	夢野久作『瓶詰地獄』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第 10 回	江戸川乱歩『押絵と旅する男』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第 11 回	江戸川乱歩『押絵と旅する男』②	語りの構造、視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第 12 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を分析、発表する。
第 13 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を分析、発表する。
第 14 回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定されたテキストを必ず読んでくる。
→ 授業時にテキストの内容について、意見を述べる準備をする。
・授業時に行う各回のワークに臨むための予習。
→ 小説の基本的事項について整理する。
→ 語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは以下。適宜、プリントを配布します。
志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫
梶井基次郎『檸檬』新潮文庫
芥川龍之介『河童・或る阿呆の一生』新潮文庫
夢野久作『死後の恋　夢野久作傑作選』新潮文庫
江戸川乱歩『江戸川乱歩名作選』新潮文庫

【参考書】
安藤宏『「私」をつくる―近代小説の試み』岩波新書
廣野由美子『一人称小説とは何か―異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】
①平常点＝リアクションペーパー、授業内での発言など（40 %）
②授業内ワーク（30 %）
③学期末課題（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、グループワークをとり入れています。他の人の意見を聞くのが刺激になるという声が多いので、基本的にはこのやり方を踏襲したいと思っています。

【Outline and objectives】
This course introduces one of the style of stories called a first-person novel written after the 1920's.We learn about its positioning in the history of literature, and analyze it about the problem of its perspectives style.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木　直実

授業コード：A2677　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
森鷗外の作品とそのアダプテーション (鷗外作品を素材とする演劇や映画) を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して 読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文 学との相関の様 相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テクストを批評的 に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】
近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代的自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞し、感想を小レポートにまとめる。
第 7 回	映画「舞姫」(2)	映画の製作背景を知る
第 8 回	男たちの「妊娠小説」	夏目漱石、長塚節、田村広済などの作品を読む
第 9 回	女たちの「妊娠小説」(1)	水野仙子、森しげ、与謝野晶子などの作品を読む
第 10 回	女たちの「妊娠小説」(2)	村田沙耶香、田中兆子、川上未映子などの作品を読む
第 11 回	鷗外と性欲および性暴力の問題系	「キタ・セクスアリス」「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第 12 回	まとめ	今期の振り返りとレポート提出
第 13 回	課題を以て替える	授業時に指示する
第 14 回	課題を以て替える	授業時に指示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。
【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。
【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる
。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】
『鷗外近代小説集』(岩波書店)、金子幸代編『鷗外女性論集』(不二出版)、山崎明子・藤木直実編『〈妊婦〉アート論』（青弓社）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート (または試験)70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】
明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については学修支援システムとメールで対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講　学籍番号　氏名」とすること。メール宛先： fujiki@olive.ocn.ne.jp
なおこの授業の開講日は 4 月 21 日（火）とする。

【Outline and objectives】
We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木　直実

授業コード：A2678　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
森鷗外の作品とそのアダプテーション (鷗外作品を素材とする演劇や映画) を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して 読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テクストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】
近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」成立までの鷗外と作品の概要
第 3 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	テクスチュアルハラスメント概念についての紹介
第 4 回	森しげ「波瀾」の宛先	森しげ（鷗外夫人）の代表作「波瀾」の概要
第 5 回	森しげ「あだ花」の戦略	森しげの代表作「あだ花」の概要
第 6 回	鷗外・しげの間テキスト性	鷗外夫妻の作品の相互性について
第 7 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	森しげの最後の作品「お鯉さん」の概要
第 8 回	雑誌『三越』と鷗外・しげ	三越百貨店機関誌および百貨店文化と鷗外夫妻との関わりについて
第 9 回	鷗外と与謝野晶子	鷗外と与謝野晶子との影響関係
第 10 回	与謝野晶子と『台湾愛国婦人』	愛国婦人会台湾支部機関誌『台湾愛国婦人』と与謝野晶子
第 11 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」（2014）の鑑賞
第 12 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	「鷗外の怪談」鑑賞の続きと解説
第 13 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下に発表された鷗外作品の概略
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。
【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。
【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリント配布する。

【参考書】
『鷗外近代小説集』(岩波書店)、『明治文学全集』(筑摩書房)、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート (または試験)70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】
明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業後およびリアクションペーパーで対応する。

【Outline and objectives】
We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤　星希

授業コード：A2681　｜　曜日・時限：木曜４限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【諸子百家の文を読む】
先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・荘子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々に思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】
1，漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2，訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3，書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4，諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5，漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する資料を毎回「教材」として学習支援システムにアップロードし、それらを参照しながらオンデマンドの動画で解説を加える。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第 2 回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第 3 回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第 4 回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第 5 回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁恵王上」「尽心上」等より
第 6 回	儒家の思想（5）	『荀子』を読む：「勧学篇」「修身篇」等より
第 7 回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第 8 回	道家の思想（2）	『荘子』を読む（1）：「斉物論篇」「大宗師篇」等より
第 9 回	道家の思想（3）	『荘子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第 10 回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第 11 回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第 12 回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲説篇」等より
第 13 回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第 14 回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業日より前に、各回の教材が学習支援システムにアップロードされるので、あらかじめダウンロードして目を通し、必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。オンデマンドの動画は授業日にアップロードされ、その後も閲覧が可能なので、授業日以後も折に触れて観なおし、教材と合わせて復習することで内容を記憶に定着させること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した教材を、学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】
・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出して頂く小さな課題（過度な負担にならないよう配慮する）60 %、学期末リポート 40 %の配分で評価する。もし学期中に教室での対面授業が可能となれば、学期末リポートを教室での筆記試験に変更する可能性もある。その場合、試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインによる授業は今回が初めてのため、フィードバックが難しい。今回の経験を次回に生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

【その他の重要事項】
・毎回の課題の提出をもって、その回の出席とみなす。
・全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末リポートの提出資格を失うので注意すること。

【Outline and objectives】
We will carefully select relatively famous passages from the writings of zhuzi baijia (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. Zhuzi in zhuzi baijia refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. B ǎ ijiā refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of zhuzi baijia, we will relive their thoughts and in so doing we seek to attain a novel perspective from which to revisit the contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文B

遠藤　星希

授業コード：A2682　｜　曜日・時限：木曜４限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【『戦国策』と『史記』を読む】
史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】
1，漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2，訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3，書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4，『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5，漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第 2 回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第 3 回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第 4 回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第 5 回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第 6 回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第 7 回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第 8 回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「澠池の会」
第 9 回	『史記』精読（3）	「呉太伯世家」より
第 10 回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第 11 回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第 12 回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第 13 回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第 14 回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100 %学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】
We will carefully select and read relatively famous passages from Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States) and Shiji in the original language. Zhan Guo Ce is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read since then. Shiji is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on the Tale of Genji but also had enduring effects on the subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from Zhan Guo Ce and Shiji, we will deepen our understanding on ancient Chinese society and culture and absorb wisdom of people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文C

吉井　涼子

夜間時間帯
授業コード：A2683　｜　曜日・時限：**月曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
親しみのある故事成語の典拠を用い、漢文（古典中国語）の訓読法を学習する。先秦時代の有名な書物の比較的短文のもの、レ点・一二点などを用いるシンプルな文章から始め、中国文化・故事に触れつつ精読し、漢文読解のための基礎力を培う。

【到達目標】
漢文の基礎構造から徐々に漢文訓読のスキルを習得するとともに、教材に有名な故事成語の典拠を用いることで時代背景や文化も学び、中国古典のみならず歴史や文化に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。
各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。
春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。それに伴う内容の変更等は、学習支援システムにて都度お知らせします。
本授業の開始日は、４月２７日（月）１８：３５です。受講予定の方は、この時間以降、遅くとも翌日中に必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代や漢文（古典中国語）の言語的特徴についての概要を学習する。
第 2 回	『論語』を読む	漢文の最も基本的な語順や構造を、短文の多い『論語』を用いて学ぶ。
第 3 回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第 4 回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち栄辱を知る」の成語を学ぶ。
第 5 回	『荘子』を読む	『荘子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第 6 回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第 7 回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』『春秋左氏伝』について解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第 8 回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な呉越の戦いを『史記』越世家を用いて読みとく。
第 9 回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかの部分を読む。
第 10 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第 11 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	引き続き「完璧」の故事の部分を精読し、戦国時代の諸国と秦との関係性を理解する。
第 12 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	出土物や遺跡などの画像も用いて、「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第 13 回	復習と解説	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	総括	第 1 回からの学習が身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
明治書院『新釈漢文大系　論語』
明治書院『新釈漢文大系　孟子』
明治書院『新釈漢文大系　管子』
明治書院『新釈漢文大系　老子・荘子上』
明治書院『新釈漢文大系　荘子下』
明治書院『新釈漢文大系　淮南子』
明治書院『新釈漢文大系　春秋左氏伝一』
明治書院『新釈漢文大系　史記九（列伝二）』
明治書院『新釈漢文大系　史記六（世家中）』
高校時代に使用した国語便覧
など。

【成績評価の方法と基準】
授業時の平常点（主にリアクションペーパー）を３０％、試験を７０％で評価を出す。
出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。
１回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

【Outline and objectives】
Learn kanji reading in classical Chinese by using the authority of familiar stories.
Start with a simple and short sentence, famous books of the pre Qin Dynasty, carefully reading while touching the Chinese culture and story, cultivating the fundamental power for reading classical Chinese.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文D

吉井　涼子

夜間時間帯
授業コード：A2684　｜　曜日・時限：**月曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
親しみのある歴史上人物の話を用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
先ず、当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】
漢文の基礎構造を学び、漢文訓読のスキルを習得する。
テキストに有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを取り扱うことで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。
各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第 2 回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荊軻の部分を精読する。
第 3 回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荊軻の置かれた立場などを理解する。
第 4 回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荊軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第 5 回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荊軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていったのかを理解する。
第 6 回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	本紀について解説し中国史を学ぶ上で欠かせない人物である秦の始皇帝と、その時代について知る。
第 7 回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を、『史記』本紀を読むことで理解する。
第 8 回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを、原文から学ぶ。 項羽本紀は長文のため、全体の概要を解説したのち、特に有名な部分を抜粋して読み解く。
第 9 回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物とそれぞれの立場を整理しながら精読する。
第 10 回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第 11 回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の出典となった部分を精読する。
第 12 回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第 13 回	復習と解説	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	総括	第 1 回からの学習が身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
明治書院『新釈漢文大系　史記九（列伝二）』
明治書院『新釈漢文大系　史記一（本紀上）』
明治書院『新釈漢文大系　史記二（本紀下）』
高校時代に使用した国語便覧
など。

【成績評価の方法と基準】
授業時の平常点（主にリアクションペーパー）を３０％、試験を７０％で評価を出す。
出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

【Outline and objectives】
Using a story of a person on a familiar history, learn the basics of classical Chinese reading
First, carefully read the long sentences while touching the then Chinese culture and history, and raise the fundamental power for reading Chinese sentences.

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語A

尾谷　昌則

授業コード：A2685　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「言葉」はコミュニケーションの最大のツールである。ゆえに、我々は文法的な側面にだけ気をつけて言葉を発している（＝発話している）のではない。相手の発話にどのような含意があるのかを考えたり、同じ依頼をするにしても、どう言えば相手に負担をかけずに済むか（もしくは、自分が嫌われないか）と配慮したり、様々なことを考えながら総合的に言語表現を決定している。本講義では、そういったコミュニケーションの観点から言語を分析する「語用論」という分野について、多用な会話例を用いてじっくり考えながら学ぶ。

【到達目標】
(1) 発話には〈意義〉と〈効力〉という二側面があることを理解する。
(2) 語用論の基礎概念と基礎理論を理解する。
(3) それらの概念・理論を利用して、発話の分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で授業を進めるが、上のテーマがテーマなだけに、受講生で身にグループを作ってディスカッションをしてもらい、様々なグループの意見を確認しながら、ことばの解釈の多様性について考える機会をなるべく多く設ける。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼第 1 回目の授業は、オンラインで、4 月 28 日の所定の時間に行う。それまでに Hoppii の「お知らせ」欄を確認しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	語用論とは	コミュニケーションと言葉の関係について考える
第 2 回	語用論の基礎	文の意味と発話の意味について考える
第 3 回	協調の原理	Grice の提唱した「協調の原理」について考える
第 4 回	関連性理論	Wilson と Sperber が提唱した関連性理論について考える
第 5 回	発話行為論	Austin や Searle の考えた発話行為論について考える
第 6 回	発話機能論	Halliday による機能文法の観点から発話行為を考える
第 7 回	ポライトネス理論（1）	Brown と Levinson が提唱したポライトネス理論のうち、フェイスについて考える
第 8 回	ポライトネス理論（2）	２つのポライトネス・ストラテジーについて考える
第 9 回	ポライトネス理論（3）	日常の言葉遣いに潜む様々なポライトネス・ストラテジーについて考える
第 10 回	ポライトネス理論（4）	「～させて頂く」について考える
第 11 回	日本語の配慮表現（1）	配慮表現とは何かを考える
第 12 回	日本語の配慮表現（2）	敬意表現（敬語を含む）について考える
第 13 回	日本語の配慮表現（3）	配慮表現の多様性と分類について考える
第 14 回	日本語の配慮表現（4）	ポライトネスの観点から配慮表現を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習・質問探し（２時間）
リアクションペーパーに書く具体事例探し（１時間）
講義の復習（１時間）

【テキスト（教科書）】
『新版　日本語語用論入門　コミュニケーション理論から見た日本語』　山岡政紀・横原功・小野正樹（著）　明治書院、1600 円（税別）

【参考書】
『ポライトネス入門』　（滝浦真人、研究社）
『日本語語用論のしくみ』　（加藤重広、研究社）
『言葉通りすぎる男 深読みしすぎる女』　（堀田秀吾、大和書房）
『その言い方が人を怒らせる　―ことばの危機管理術』　（加藤重広、ちくま新書）
『語用論入門　―話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』（ジェニー・トマス (著)、浅羽亮一 (監修訳)、研究社）

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート 60 %　　授業内小レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、身近な会話事例を分析対象にしたのが好評であったため、今年度も引き続き様々な具体例を探して、授業で紹介したい。

【Outline and objectives】
We will survey some major theories of Pragmatics and study how we understand the utterances.

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語B

間宮　厚司

授業コード：A2686　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】
千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの４～２０頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第１話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第２話と第２話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第３話導入と第３話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第４話と第５話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第６話と第７話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第８話と第９話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第１０話と第１１話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第１２話と第１３話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第１４話と第１５話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第１６話と第１７話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（11）	テキストの第１８話と第１９話
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
間宮厚司『万葉異説』（森話社、2011 年、1900 円＋税）

【参考書】
参考書はテキストの１４４頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室内の温度を調整してほしい。座席指定のため、落ち着いて受講することができたという意見が目立ったので、それが可能な教室ならば、今後もそのようにしたい。

【Outline and objectives】
In this lecture, you are going to use a textbook that I've showed on the list. The lecture introduces the way of how to read the poems of "Manyoshu" to students taking this course.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷　治

授業コード：A2687　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】
文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。
（4 月 19 日追記）今次授業計画の変更に伴い、当面は課題をレポート形式で提出することで授業を進めます。課題については、4 月 23 日（木）以降、学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０%。レポート５０%。

【学生の意見等からの気づき】
文学表現の可能性をその時その時で考察しながら授業を進めます。

【その他の重要事項】
職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline and objectives】
We will observe the elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現Ｂ

藤谷　治

授業コード：A2688　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】
表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】
職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline and objectives】
We will analyze the way a story progress with selected example from novels and discuss how the phase of expression is realized in literary works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇Ａ

伊海　孝充

授業コード：A2689　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世阿弥の伝書を読んでいく。室町時代に能という芸能を大成した世阿弥は、２０種ほどの伝書を残している。これらは、室町時代の能の姿、現在にも通ずる能の本質を理解するための重要な言説に富む。また世阿弥の言葉は、「名言」と讃えられるものを多い。こした有名な言葉を取り上げ、分析していくことで、能への理解を深めていく。

【到達目標】
本講義では、世阿弥の言葉を通して、能という芸能の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば、「幽玄」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
あらかじめ、受講者には世阿弥の伝書を読んだ上で、問に答えてもらう。その後解説を加える。その後解説を加える。授業開始日は５月４日とする。詳しくは学習支援システムを参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	能について	能の基本用語
第 2 回	世阿弥について	世阿弥の生涯を学ぶ
第 3 回	稽古論（1）	上手と下手
第 4 回	稽古論（2）	時分の花
第 5 回	稽古論（3）	初心忘るべからず
第 6 回	創作術（1）	能を作ること
第 7 回	創作術（2）	文章の法
第 8 回	創作術（3）	名所と歌
第 9 回	演技論（1）	万能を一心にて綰ぐこと
第 10 回	演技論（2）	目前心後
第 11 回	演技論（3）	男時・女時
第 12 回	伝承（1）	家を継ぐ人
第 13 回	伝承（2）	秘する花
第 14 回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況及び授業の課題の評価　７０％
学期末レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
能を視覚的に捉えられる工夫する。

【Outline and objectives】
In this lecture, We will read books of secrets written by Zeami. Zeami, who developed the art of Noh in the Muromachi era, has left about 20 kinds of books of secrets. These are important discourses for understanding Noh's appearance in the Muromachi era and the essence of Noh that still exists today. Zeami's words are often praised as "quotations." By taking up and analyzing these famous words, we will deepen their understanding of Noh.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇Ｂ

伊海　孝充

授業コード：A2690　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典芸能の「狂言」の基本を学ぶ。狂言はテレビや高校までの芸術鑑賞会で観たことがあるかもしれないが、能との関係やその歴史については知らない者も多いだろう。そうした者を対象として、代表的な演目を通し、狂言の特質を学んでいく。また狂言は、作品が作られた時代の文化を反映した史劇であるとともに、フィクション世界でもある。狂言を通して、中近世の人間模様と非現実な遊戯空間を読み解いていく。

【到達目標】
本講義では、「狂言とはこのような芸能である」と自分の言葉で正確に説明できることを目標とする。そのためには、狂言の台本を正確に読み、また舞台のセリフ・演技を理解することが必要である。中近世の口語で構成されている狂言のセリフ慣れ、狂言の舞台を台本なしで鑑賞できるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	能と狂言の関係
第 2 回	棒縛①	狂言「棒縛」を読む
第 3 回	棒縛②	太郎冠者と次郎冠者
第 4 回	千鳥①	狂言「千鳥」を読む
第 5 回	千鳥②	遊びの世界
第 6 回	二人袴①	狂言「二人袴」を読む
第 7 回	二人袴②	聟と舅
第 8 回	鏡男①	狂言「鏡男」を読む
第 9 回	鏡男②	中世の夫婦の実像と虚像
第 10 回	茸①	狂言「茸」を読む
第 11 回	茸②	中世の宗教家
第 12 回	靭猿①	狂言「靭猿」を読む
第 13 回	靭猿②	狂言のメロドラマ
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布する。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況及びコメントカードの評価　５０％
授業内小テスト（２～３回）　２０％
学期末レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くの作品を紹介したい。

【Outline and objectives】
We learn the basics of "Kyogen" of classic performing arts. Although you may have seen Kyogen at television and the fine arts club in high school, there are many who do not know about the relationship with Noh and its history. We will learn the characteristics of Kyogen through representative performances targeting those people. Kyogen is also a historical drama reflecting the culture of the era in which it was made, as well as the fiction world. Through Kyogen, we will read about human patterns in the Middle Eastern Modern era and unrealistic world.

ART200BC

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ａ

本塚　亘

授業コード：A2693　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】
・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解することができる。
・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解することができる。
・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めることができる。
・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【※授業開始日は 4 月 23 日です。26 日締切の課題を出題します。Hoppii での仮登録ができずにお困りの場合は、本塚（wataru.motozuka.76@hosei.ac.jp）までメールしてください】講義形式。音源や映像などの鑑賞を含む。毎時リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	雅楽《越殿楽》	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第 2 回	日本の様々な伝統楽器	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考える。
第 3 回	東大寺大仏開眼供養会	東大寺大仏開眼供養会の概要、規模、演目について学び、当時の音楽の機能と歴史的背景について考える
第 4 回	日本の音楽の「起源」	出土品や『隋書』倭国伝の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第 5 回	雅楽寮の成立と内外楽の整理	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第 6 回	日本の「在来」歌舞	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第 7 回	大嘗祭の構造と背景	大嘗祭の次第とその構造について学び、大嘗祭の思想的、歴史的な背景について考える。
第 8 回	舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。

第 9 回	管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第 10 回	催馬楽	御遊で歌われる催馬楽ついて学び、『源氏物語』における催馬楽の引用場面について鑑賞する。
第 11 回	仏教と音楽	法会の形式や法要の種類、声明の曲種などについて学び、仏教における音楽の意義や、雅楽との関係について考える。
第 12 回	声明から語り物へ	後の語り物芸能に影響を与えた、和讃や講式などの声明の曲種について学び、その音楽性と文学性について考える。
第 13 回	平家語り、語り物の普遍性	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。
第 14 回	春学期総括・試験	まとめと試験。試験は筆記式、持込可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進度に合わせて、テキストの該当項目を予め通読しておく。
pp. 11-16　一般用語
pp. 17-35　雅楽
pp. 36-44　仏教音楽
pp. 45-56　琵琶楽
授業中に生じた疑問については、リアクションペーパーに記すだけではなく、図書館などを活用して調べてみることが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とする。
・リアクションペーパー　50%
・授業内試験　50%

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline and objectives】
This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we center on the question "What is Japanese music?" by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

ART200BC

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ｂ

本塚　亘

授業コード：A2694　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりを分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】
・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解することができる。
・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解することができる。
・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めることができる。
・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。音源や映像などの鑑賞を含む。毎時リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	和歌を歌う	導入として、歌会始における歌披講を鑑賞し、現代における和歌の歌唱例について考える。
第 2 回	上代における歌唱事例	記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学び、それぞれのうたがどのように、また何のために歌われたのか考える。
第 3 回	和歌のレトリック 1	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第 4 回	和歌のレトリック 2	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第 5 回	歌合における音楽と歌唱	歌合の歴史を概観しながら、歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第 6 回	「誦ず」と「うたふ」	『源氏物語』における歌謡の発声場面で用いられる二つの動詞（誦ず、うたふ）に注目し、その使い分けについて考える。
第 7 回	『源氏物語』と催馬楽	『源氏物語』における催馬楽の歌唱場面に注目し、演奏上の特性や文学的効果について考える。
第 8 回	催馬楽の音楽的性質	催馬楽における二重の同音性について学ぶ。同じ旋律で歌われる催馬楽同士の関係について考える。

第 9 回	催馬楽と唐楽・高麗楽の先後	催馬楽と同じ旋律をもつ唐楽・高麗楽曲との関係について注目し、同音関係の生じた経緯について考える。
第 10 回	越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第 11 回	宮廷歌謡の伝承	音楽説話を参照しながら、宮廷歌謡がどのような人々に伝承されていったのか、殿上・地下の二つの次元から考える。
第 12 回	平家語りの音楽とことば	『平家物語』における朗詠や今様などの音楽描写について注目し、琵琶法師が語る「音楽」の意味について考える。
第 13 回	あらためて、うたを歌うとは	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。
第 14 回	秋学期総括・授業内試験	まとめと試験。試験は筆記式。持込可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進度に合わせて、テキストの該当項目を予め通読しておく。
pp. 11-16　一般用語
pp. 17-35　雅楽
pp. 36-44　仏教音楽
pp. 45-56　琵琶楽
授業中に生じた疑問については、リアクションペーパーに記すだけではなく、図書館などを活用して調べてみることが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
渡部泰明編『和歌のルール』（笠間書院、2014）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とする。
・リアクションペーパー　50%
・期末試験　50%

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline and objectives】
This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１２）詩歌Ａ

池井　昌樹

授業コード：A2695　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1966 年の第一作から 2020 年現在までの自作詩を、70 冊の手書き清書ノート及び 19 冊の単行詩集を軸に講義します。市井で働きながら詩を書き続けた私にとっての詩の意味、詩の価値、生の輝きについて。

【到達目標】
詩の力。詩の無力。詩とヒトとの関りについて正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
とりあえず本年は講義形式から始めます。
本科目の初回授業日は 5 月 6 日（水）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業について説明します。
第 2 回	第一詩集「理科系の路地まで」を中心に	朗読と講義
第 3 回	第二詩集「鮫肌鉄道」	朗読と講義
第 4 回	第三詩集「これは、きたない」、第五詩集「沢海」	朗読と講義
第 5 回	第六詩集「この生は、気味悪いなあ」、第七詩集「ぼたいのいる家」	朗読と講義
第 6 回	第八詩集「水源行」、第九詩集「黒いサンタクロース」	朗読と講義
第 7 回	第十詩集「晴夜」	朗読と講義
第 8 回	第十一詩集「月下の一群」	朗読と講義
第 9 回	第十二詩集「一輪」	朗読と講義
第 10 回	第十三詩集「童子」	朗読と講義
第 11 回	第十四詩集「眠れる旅人」	朗読と講義
第 12 回	第十五詩集「母家」	朗読と講義
第 13 回	第十六詩集「明星」	朗読と講義
第 14 回	第十七詩集「冠雪富士」、第十八詩集「未知」、第十九詩集「遺品」／レポート提出	朗読と講義 総括、レポートの提出説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
詩にのみ限らない様々な言語表現、言語にのみ限らない様々な芸術文化、芸術文化にのみ限らない様々な日常
市井での出会いとときめきを何よりも先ず。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「池井昌樹詩集」（ハルキ文庫）、「現代詩文庫 164 池井昌樹詩集」（思潮社）

【参考書】
上記に未収録の単行詩集（「一輪」より「冠雪富士」まで全て思潮社）
「手から手へ」（集英社）

【成績評価の方法と基準】
授業時に書いてもらう感想 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
詩人。中学 3 年生の時、山本太郎の選で全国学芸コンクール詩部門特選となる。 1977 年第一詩集「理科系の路地まで」を発表。1997 年に発表した「晴夜」で歴程賞と芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。選詩集に「池井昌樹詩集」（現代詩文庫）、その他に植田正治の写真とコラボレーションした写真詩集「手から、手へ」などがある。
1999 年 -「月下の一群」で第 17 回現代詩花椿賞　2006 年 -「童子」で第 22 回詩歌文学館賞詩部門　2009 年 -「眠れる旅人」で第 4 回三好達治賞　2013 年 -「明星」で第 31 回現代詩人賞

【Outline and objectives】
Learn poetry

LIT300BC

日本文芸研究特講（１２）詩歌Ｂ

池井　昌樹

授業コード：A2696　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らが詩を書き続ける中で出会った近現代詩の鑑賞と解釈。それらの詩が「私」を超えやがて「普遍」へと昇華されて行く神秘について、背景となる時代情況を併せて講義します。

【到達目標】
絶えず「詩」とともに在り続けた「ヒト」。時代を超えるその不可避について正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式です。テーマとなる作品及び年譜をプリントして毎回配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業について説明します。
第 2 回	私の「谷内六郎」体験	『遠い日のうた』『旅の絵本』『谷内六郎画集』を中心に。
第 3 回	私の「北原白秋」体験	『思ひ出』『邪宗門』を中心に。
第 4 回	私の「萩原朔太郎」体験	『月に吠える』『青猫』を中心に。
第 5 回	私の「三好達治」体験	『測量船』『南窗集』『閒花集』を中心に。
第 6 回	私の「山村暮鳥」体験	『聖三稜玻璃』『雲』を中心に。
第 7 回	私の「八木重吉」体験	『秋の瞳』を中心に。
第 8 回	私の「田中冬二」体験	『青い夜道』を中心に。
第 9 回	私の「宮沢賢治」体験	『春と修羅』を中心に。
第 10 回	私の「中原中也」体験	『山羊の歌』『在りし日の歌』を中心に。
第 11 回	私の「草野心平」体験	『第百階級』『日本沙漠』を中心に。
第 12 回	私の「山本太郎」体験	『私問者の惑いの唄』『死法』を中心に。
第 13 回	私の「会田綱雄」体験	『鹹湖』『狂言』『汝』『遺言』を中心に。
第 14 回	私の「長田弘」体験	『長田弘全詩集』『最後の詩集』を中心に。／レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回テーマとなる諸作品の多くが文庫化されていますので自主的に役立てて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントして配布します。プリントはファイルしてレポートに役立てて下さい。

【参考書】
思潮社版『現代詩文庫』の各「近代詩人篇」及び新潮、角川、講談、集英、ハルキ他、各文庫版詩集。

【成績評価の方法と基準】
授業時に書いてもらう感想 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
板書・資料をより密にし、各作家、各作品の背景をより詳細にします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
詩人。中学 3 年生の時、山本太郎の選で全国学芸コンクール詩部門特選となる。 1977 年第一詩集「理科系の路地まで」を発表。1997 年に発表した「晴夜」で歴程賞と芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。選詩集に「池井昌樹詩集」(現代詩文庫)、その他に植田正治の写真とコラボレーションした写真詩集「手から、手へ」などがある。
1999 年 -「月下の一群」で第 17 回現代詩花椿賞　2006 年 -「童子」で第 22 回詩歌文学館賞詩部門　2009 年 -「眠れる旅人」で第 4 回三好達治賞　2013 年 -「明星」で第 31 回現代詩人賞

【Outline and objectives】
Learn poetry

LIT300BC

日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ａ

三井　喜美子

授業コード：A2697　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巌谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】
明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巌谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解すること。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えること。また、代表的な作家の業績をとらえること。実際に児童文学の創作をし、合評会で意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、合評会を行うこと。出席表に感想を書き、講師とコミュニケーションをとること。
2020 年 4 月 21 日の週から開講。詳細は授業支援システムで確認のこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巌谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」ここまでに作品を読了しておくこと	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の出発を考えることができる
第 4 回	翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそくと人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の求めたもの	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	浜田廣介	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる 童心主義とは何かを理解する
第 11 回	創作合評	実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1
第 13 回	千葉省三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える
第 14 回	坪田譲治その他	大正から昭和へ作品の変化を理解することができる 大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をすること
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各作家の短編集
小川未明・浜田広介・坪田譲治・新美南吉は文庫本で必携のこと

【参考書】
明治の児童文学　大正期の児童文学　現代児童文学

『児童文学入門』（関口安義著　中教出版　2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編　翰林書房　2000 円）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度と授業感想）30 %　児童文学 (掌編) の創作 20 %　合評会参加 20 %　小論文 30 %
出席は開始１０分までを認める

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大事にすること。
学生同士の交流を取り入れること。
スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】
創作は 6 月末ころを目安に提出し、グループで合評会を行い、優秀作品の選考をする。
合評及び選考会は必ず出席のこと。

【Outline and objectives】
Students will generally understand the history and significance of Japanese children's literature. Topics will focus on themes such as Iwaya Sazanami's works and their significance during the Meiji Era, the influence of translated children's literature, the role that the children's literature magazine Akai Tori played during the Taisho era, and the various phases of Japanese children's literature during the pre- and post-WWII Showa era. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ｂ

三井　喜美子

授業コード：A2698　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の内容を受けて、秋学期では特に昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義を据えるので、、それぞれの作風や表現の特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批評的に見据えていく視座として、児童文学を考えいくことができる。推薦絵本の作品評価をプレゼンテーションする。

【到達目標】
現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、意見を伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介を通して、児童文学の可能性を考えることができる。児童文学の作品評価をプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。特に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、今期は絵本を積極的に取り上げる。
永遠の児童文学、新たなる児童文学の観点を意識して、絵本のビブリオバトルを行う。推奨作品をプレゼンテーションする。制限時間は 3 分。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	大人も楽しむ児童文学 ビブリオバトルのガイド
第 2 回	新美南吉	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	宮沢賢治	宮沢賢治の故郷と文学
第 4 回	絵本ビブリオバトル	各自の推薦絵本のビブリオバトルをグループに分かれて行い、最終的に全体でチャンピオン絵本を決める
第 5 回	宮沢賢治	宮沢賢治の民話的作品の世界を理解することができる
第 6 回	宮沢賢治	宮沢賢治の独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治	銀河鉄道の夜を通して見えてくる賢治の世界を理解することができる
第 8 回	幼年童話	松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 9 回	戦争児童文学	代表作をとり上げて、事実を語ることと文学的真実について理解することができる
第 10 回	戦争児童文学	今西祐行「一つの花」「ヒロシマの歌」を中心に。児童文学と国語教科書の問題について理解することができる
第 11 回	歴史児童文学	歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる
第 12 回	少年少女小説	児童と大人の狭間の読者論的理解
第 13 回	ファンタジー	日本のファンタジーの出発を理解し、特徴を捉えることができる
第 14 回	ファンタジー	ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、紹介したい本を見つけること。推薦絵本のビブリオバトルを行う。グループごとの推薦作品をプレゼンテーションし、最終バトルを決着させる。講義で取り上げる作品は事前に読むこと。
フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】
別冊太陽特集絵本　○○年のベスト絵本　その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】
出席表にその日の講義の感想を書き、教員とコミュニケーションをとること。
授業への参加態度と感想文 30 %、ビブリオバトルによる推薦絵本プレゼンテーション 15 %　ビブリオバトルに参加 15 %　推薦絵本の書評 20 %
レポート 20 %
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】
教員とのコミュニケーションをとること。
学生間のコミュニケーションをとること。
プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】
OHC の使用

【その他の重要事項】
ビブリオバトルには参加必須。
推薦絵本の紹介は、事前に紹介文を提出し、発表当日はそれを印刷したものを全員に配布するので、あらすじなどは基本的に発表内容に含めなくて良い。

【Outline and objectives】
After finishing the spring term, the fall term will focus on children's literature from the Showa era to present, from specific authors or genres and observe their styles and features of each. Students will view children's literature from the media that involve children, as well as read and consider children's literature itself, and through doing so, they will observe the present times, utilizing children's literature as a tool. They will make a presentation on their evaluation of recommended children's books.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ａ

福　寛美

授業コード：A2699　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
J ポップの歌を取り上げ、その神話学的な意味を探ることを目的とする。
なお、「沖縄文芸」の授業なので、琉球・沖縄文学、神話、民俗の事象も授業で積極的に取り上げ、解説する。
歌は本来、分析にはなじまないが、神話の断片を歌詞から拾い上げることができる。
そのような視点で、分析、検討していく。
授業において、沖縄の祭祀や歌の DVD や CD を鑑賞し、沖縄の文化に理解を深めるようにする。

【到達目標】
歌詞のある歌を、普通は聞き流す場合が多い。
しかし、歌が人の心を捉える場合、そこにはそれなりの理由がある。
その理由の一つが、歌の持つ豊富なイメージである。
そのイメージを探ると、神話の断片である場合が多い。
そのことを知ると、歌の鑑賞が変わってくる。
また、琉球・沖縄には本土とは違う文化や歴史、そして民俗がある。
日本本土と琉球・沖縄の近さと遠さを若くて柔軟な時期に知ることは、意義深いものがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「月光」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	鬼束ちひろ、作詞作曲・歌唱の「月光」がキリスト教が成立した頃のグノーシス主義の神観念と類似していることを学ぶ。
第 2 回	「私とワルツを」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	鬼束ちひろ、作詞作曲・歌唱の「私とワルツを」の歌世界の神話性を学ぶ。
第 3 回	「残酷な天使のテーゼ」の歌世界について考察する。 沖縄の音楽の CD を鑑賞する。	大ヒット曲である「残酷な天使のテーゼ」の歌詞の強い神話性について学ぶ。
第 4 回	「魂のルフラン」の歌世界について考察する。 沖縄の音楽の CD を鑑賞する。	大ヒット曲であり、繰り返しが印象的な「魂のルフラン」を通し、歌世界の繰り返しの重要性を学ぶ。
第 5 回	「異邦人」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	「異邦人」は「シルクロードのテーマ」という副題がついている。有名な交易路の持つイメージと神話性を学ぶ。
第 6 回	「天界」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	「天界」は「隕石のような恋」を歌っている。天と地上の対応について、神話的に考察しながら学ぶ。
第 7 回	「さくら」の歌世界について考察する。 沖縄の音楽の CD を鑑賞する。	「さくら」は日本人が好む桜のイメージを歌いあげている。なぜ日本人は桜を好むのか、も含め神話学的に考察する。
第 8 回	「夏の終わり」の歌世界について考察する。 沖縄の音楽の CD を鑑賞する。	「夏の終わり」は恋人を亡くした女性の、夏への感慨を歌う。その歌世界に散見される神話的なイメージを学ぶ。
第 9 回	「ワダツミの木」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	「ワダツミの木」のワダツミは神話では海神の世界を意味する。海の神話を背景にした、この歌世界の神話性を考察する。
第 10 回	「君ヲ想フ」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	若い女性の想いを歌う「君ヲ想フ」の歌世界の神話的イメージを学ぶ。

第 11 回	「月のしずく」の歌世界について考察する。 沖縄の音楽の CD を鑑賞する。	「月のしずく」は『黄泉がえり』という映画の主題歌で、映画は死者のよみがえりを主題とする。きわめて神話的な歌のイメージを学ぶ。
第 12 回	「泪月」の歌世界について考察する。 沖縄の音楽の CD を鑑賞する。	「おぼろ月」とは、涙で月がにじむことを意味する。泪（涙）のイメージと涙がよみがえりの霊力を持つことを学ぶ。
第 13 回	「ナライブサン」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	琉球方言、音階も用いた「ナライブサン」は沖縄の現状を映す鏡のような歌でもある。その歌を通し、沖縄の聖地や神話性を学ぶ。
第 14 回	「ロストレター」の歌世界について考察する。 沖縄の祭祀の DVD を鑑賞する。	「ロストレター」は魂の表象である白い鳥が主人公になっている。鳥と魂について、学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト『新うたの神話学』をよく読むこと。
配布のプリントを参照しながら、受講した内容をより深く理解すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新うたの神話学』福寛美、新典社、2019 年、本体 1100 円＋税

【参考書】
『琉球の恋歌』福寛美、2010 年、新典社
『うたの神話学』福寛美、2010 年、森話社
『夜の海、永劫の海』福寛美、2011 年、新典社
『歌とシャーマン』福寛美、2018 年、南方新社

【成績評価の方法と基準】
記述式の期末試験を行う。
複数の問題を出題し、2 問選んで記述する、という形式をとる。
1 問につき、400 字以上、記述することとする。
成績評価は、期末試験と平常点による。
期末試験が 60%、平常点が 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は『おもろさうし』の講義だったため、難解だった、という意見がきかれた。
本年度は優しい素材を用いる。
また、前年度は学生になじみのない分野のため、「受講しても理解しにくい」という意見があった。
本年度は、理解しやすい授業にするようつとめる。

【その他の重要事項】
大学での授業がいつからできるかわからないので、学習支援システム内で 5 月末と 6 月末に小レポートを提出するよう、指示することも考えています。時々、本授業の学習支援システムを確認してください。
授業開始は 24 日といたします。
学習支援システムに『新うたの神話学』の解説、プリントの活用法をアップしていきますので、ご覧ください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is researching the mythological meaning of Japanese pop (J-pop) song lyrics.
Since this is an “Okinawan literary arts”course, Ryukyu-Okinawan literatures, myths and folklores will be discussed actively in the class.
Mythical elements can be found in the lyrics, although these songs are considered to be inappropriate for academic analyses.
Okinawan culture will be widely understood by watching DVDs and listening CDs of Okinawan festivals and songs in the course.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｂ

福　寛美

授業コード：A2700　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歌は強いシャーマン性を持つことがある。
そのような歌を歌った歌手が藤圭子であり、盲目の女芸人の瞽女（ごぜ）である。
また、奄美の島唄の中にも強いシャーマン性を帯びた歌がある。
それらの歌世界に深く分け入り、歌の持つシャーマン性の意義を考え、学ぶ。

【到達目標】
歌の持つシャーマン性とは、歌の影響力と深く結びつく。
また、歌のシャーマン性は歌の感動をよぶ力の源でもある。
それらを知ることは、歌のみならず音楽、そして芸術一般を理解する際にも役立つ。
芸術を芸術たらしめるインスピレーションは霊感でもあり、霊的な能力と深く結びつく。
それらを知ることにより、芸術全般に対する理解が深まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	藤圭子の歌のシャーマン性を知る。①	藤圭子の歌のあり方にはシャーマン的な側面がある。そのことを理解する。
第 2 回	藤圭子の歌のシャーマン性を知る。②	藤圭子の歌のあり方にはシャーマン的な側面がある。そのことを理解する。
第 3 回	「歌のちから」について考察する。	奄美の島唄、伊豆諸島のシャーマン的な女性の歌について考える。
第 4 回	「瞽女（ごぜ）」のあり方を考察する。	かつて門付（かどづけ）芸人として歌を歌っていた盲目の女芸人、瞽女について学ぶ。
第 5 回	「瞽女の歌の力」を学ぶ。	瞽女の歌はシャーマン的な側面がある。その事象を学ぶ。
第 6 回	「瞽女のシャーマン性」を学ぶ。①	瞽女はシャーマンではないが、シャーマン性がある、とみなされていた。そのことを学ぶ。
第 7 回	「瞽女のシャーマン性」を学ぶ。②	瞽女はシャーマンではないが、シャーマン性がある、とみなされていた。そのことを学ぶ。
第 8 回	「継承されるもの」を学ぶ。	親子で高名な歌手（藤圭子・宇多田ヒカル）は才能が継承されている、と考えられる。そのあり方を学ぶ。
第 9 回	「歌と神霊の世界」を学ぶ。①	歌は不可視の神霊を呼び起こす力がある、とみなされる場合がある。そのことを学ぶ。
第 10 回	「歌と神霊の世界」を学ぶ。②	歌は不可視の神霊を呼び起こす力がある、とみなされる場合がある。そのことを学ぶ。
第 11 回	「生と死」を学ぶ。①	生死のはざまで歌を歌う人、生死の境界を越えて響く歌がある。それらを学ぶ。
第 12 回	「生と死」を学ぶ。②	生死のはざまで歌を歌う人、生死の境界を越えて響く歌がある。それらを学ぶ。
第 13 回	「歌声」を学ぶ。①	かつて、驚異的な歌声を持つ人がいた。また、歌声だからこそ遠方に届く場合があった。そのことを学ぶ。
第 14 回	「歌声」を学ぶ。②	かつて、驚異的な歌声を持つ人がいた。また、歌声だからこそ遠方に届く場合があった。そのことを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト『歌とシャーマン』をよく読むこと。
配布のプリントを参照して、受講した内容の理解を深める。
参考書を読み、テキスト、受講内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『歌とシャーマン』福寛美、南方新社、2015 年、本体 1500 円＋税

【参考書】
『琉球の恋歌』福寛美、新典社、2008 年。
『うたの神話学』福寛美、森話社、2010 年。
『夜の海、永劫の海』福寛美、新典社、2011 年。
『新うたの神話学』福寛美、新典社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】
記述式の期末試験を行う。
複数の問題を出題し、2 問選んでそれぞれ 400 字程度記述することとする。
評価は試験が 60%、平常点が 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は『おもろさうし』を素材としたため、難解で理解しにくい、という声があった。
本年度は優しい素材を用い、学生が理解しやすい授業とするようつとめる。

【Outline and objectives】
Songs tend to show its Shamanistic sides.
A Japanese enka singer Keiko Fuji and the blind minstrels (Goze) performed this kind of Shamanistic songs.
These Shamanistic songs can be found among “Amami Shimauta”(folk songs from Amami islands).

LIT300BC

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｃ

小山　和行

夜間時間帯
授業コード：A2701　｜　曜日・時限：**水曜６限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歌謡、神話、説話、伝承、方言などの文献的資料の考察を中心に、言語によって＜表現＞された世界の多様な魅力にアプローチする。

【到達目標】
沖縄の歴史と文化について学びながら、日本文化に対する＜南からのまなざし＞に注目していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 琉球王権の特質および王国形成史について、神話、伝承、歌謡を通して理解を深める。
② 南西諸島各地の祭りについてビデオやテープを活用しながらその魅力とともに＜宇宙観＞を考える。
本授業は 5/6 より開始いたします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	太平洋文化圏の中の沖縄	文化的位置の理解
第 2 回	オモロにみる英雄たち①	舜天王の伝承
第 3 回	オモロにみる英雄たち②	察度王の伝承
第 4 回	オモロにみる英雄たち③	英祖王の伝承
第 5 回	琉球王国の成立①	第一尚王統について
第 6 回	琉球王国の成立②	尚真王の治世①
第 7 回	琉球王国の成立③	尚真王の治世②
第 8 回	琉球王権の特質①	オナリ神信仰について
第 9 回	琉球王権の特質②	王国の神女組織
第 10 回	琉球王権の特質③	琉球の神々
第 11 回	琉球王権儀礼と久高島①	麦の初穂祭り①
第 12 回	琉球王権儀礼と久高島②	麦の初穂祭り②
第 13 回	琉球王権儀礼と久高島③	イザイホウ祭り①
第 14 回	琉球王権儀礼と久高島④	イザイホウ祭り②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指摘したテキストの該当ページと配布プリントの予習本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①『沖縄の歴史と文化』（外間守善著　中公新書）
②毎回配布のプリント資料
③映像資料

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
　平常点（４０％）と講義内容を中心に最終回のレポート（６０％）提出（必須）を併せて評価する。また、毎回レビューシートを提出してもらう。アンケートも副次的に利用する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出のレビューシートに記された感想、意見、質問について、次回の講義で取り上げ、理解をより深めてもらえるようにしたい。

【Outline and objectives】
Mainly throughout considerations of documentary records, myths,songs, naratives, traditions, Okinawan scripts and so on,we try to approach the diverse attractive of the world expressed in languages.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｄ

小山　和行

夜間時間帯
授業コード：A2702　｜　曜日・時限：**水曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歌謡、神話、説話、伝承、方言などの文献的資料の考察を中心に、言語によって＜表現＞された世界の多様な魅力にアプローチする。

【到達目標】
沖縄の歴史と文化について学びながら、日本文化に対する＜南からのまなざし＞に注目していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 沖縄本島、奄美地方、先島（宮古、八重山）の民謡を鑑賞しながら、言語表現としての＜ウタ＞の問題について探求する。
② 南西諸島各地の祭りについて、ビデオやテープを活用しながら理解を深め、その多様な魅力とともに＜島の生活と文化＞について考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	奄美－＜ウタ＞と伝承の世界①	＜島ウタ＞と八月踊り
第 2 回	奄美－＜ウタ＞と伝承の世界②	＜島ウタ＞と＜節祭り＞①
第 3 回	奄美－＜ウタ＞と伝承の世界③	＜島ウタ＞と＜節祭り＞②
第 4 回	宮古―＜ウタ＞と伝承の世界①	狩俣の祖神祭
第 5 回	宮古―＜ウタ＞と伝承の世界②	来間島のヤーマスプナカ
第 6 回	宮古―＜ウタ＞と伝承の世界③	宮古の民謡
第 7 回	八重山―＜ウタ＞と伝承の世界①	竹富島の種取り祭り
第 8 回	八重山―＜ウタ＞と伝承の世界②	八重山の民謡
第 9 回	宮古の歴史と文化	琉球王権と宮古島
第 10 回	八重山の歴史と文化	琉球王権と八重山
第 11 回	久高島の祭祀的世界①	年中行事①
第 12 回	久高島の祭祀的世界②	年中行事②
第 13 回	久高島の祭祀的世界③	年中行事③
第 14 回	南西諸島の祭祀歌謡を考える	歌謡の多様なジャンルに触れる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指摘したテキストの該当ページと配布プリントの予習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①『沖縄の歴史と文化』（外間守善著　中公新書）
②毎回配布のプリント資料
③祭りの映像資料

【参考書】
参考書は、必要に応じてアドバイスする。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％）と講義内容を中心に最終回のレポート（６０％）提出（必須）を併せて評価する。また、毎回レビューシートを提出してもらう。アンケートも副次的に利用する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出のレビューシートに記された感想、意見、質問について、次回の講義で取り上げ、理解をより深めてもらえるようにしたい。

【Outline and objectives】
Mainly throughout considerations of documentary records, myths,songs, naratives, traditions, Okinawan scripts and so on,we try to approach the diverse attractive of the world expressed in languages.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１６）特域Ｃ

安原　眞琴

夜間時間帯
授業コード：A2707　｜　曜日・時限：**木曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の遊廓、遊女、芸者に関する文化の学習を通して、和食、宴会、おもてなしなどの日本文化の特質を浮き彫りにする。

【到達目標】
日本文化の中の和食、宴会、おもてなしなどについて、歴史と特質を説明することができる。
日本文化をブームに乗るだけでなくより深く理解することで、未来像を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は、４月 23 日（木）です。
オンライン形式（リアルタイム方式やオンデマンド方式などを組み合わせた形式）で行います。
Hoppii で課題提出等を行う予定ですが、動作環境などを確認しながら進めていくので安心してください。以前のシラバスとテーマは同じですが、授業計画は大きく異なることをご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方を説明する。「おもてなし現象」について考えてきてください。
第 2 回	神話時代の女性芸能者	アメノウズメの意義を考える。
第 3 回	歌に詠まれた遊女	古代の遊女について考える。
第 4 回	宴会と女性芸能者（１）	貴族の宴会について考える。
第 5 回	宴会と女性芸能者（２）	武士の宴会について考える。
第 6 回	宴会と女性芸能者（３）	酒宴について考える。
第 7 回	遊廓文化（１）	初期遊廓について考える。
第 8 回	遊廓文化（２）	三都の遊廓について考える。
第 9 回	遊廓文化（３）	芸者について考える。
第 10 回	遊廓文化（４）	遊廓の宴会について考える。
第 11 回	遊廓文化（５）	東京の花街について考える。
第 12 回	遊廓文化（６）	料亭について考える。
第 13 回	遊廓文化（７）	近現代の宴について考える。
第 14 回	遊廓文化（８）	これからの日本文化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習：宿題を出すので調べてくる。（2 時間）
・授業時の復習：リアクションペーパーで宿題の解でもある授業内容をまとめる。（２０分）
・自宅での復習：リアクションペーパーを見直し、各回の授業テーマについて改めて考察し、５００字程度にまとめる（2 時間）。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・安原眞琴監督作品：ドキュメンタリー映画「最後の吉原芸者四代目みな子姐さんー吉原最後の証言記録」（DVD）
・安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海大学出版）
・安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 40 %、復習レポート４０%、期末レポート２０%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間も遅く、また講義以外に時間を割く余裕もないため、授業時にはアクティブラーニングやフィールドワークは行えないが、各自でフィールドワークができるよう、画像やビデオなど視覚資料を多用して講義しています。

【学生が準備すべき機器他】
記録して持ち帰るために、リアクションペーパーを写メすることをおすすめしています。そのためスマホがあればお持ち下さい。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんので、授業後に教壇の前に来てください。もっと時間を要する場合は、メールで対応します。安原眞琴公式サイトから御連絡ください。

【Outline and objectives】
Through learning about the culture of Japanese brothels, prostitutes, and geishas, it highlights the characteristics of Japanese culture such as Japanese food, banquets, and hospitality.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１６）特域Ｄ

湯本　豪一

夜間時間帯
授業コード：A2708　｜　曜日・時限：**木曜６限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の妖怪文化と漫画文化の歩みと広がり

【到達目標】
日本のユニークな文化である妖怪と漫画について、その歩みと広がりを通観し、理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
妖怪文化と漫画文化が大きな広がりをみせた江戸時代から言及して、近代における展開についてもみていきますが、できるだけ原資料を紹介し、それらを直接見たり触れたりすることによって当時の人々が妖怪や漫画とどのように接していたかも知っていただいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要	授業内容の把握
第 2 回	妖怪文化について	妖怪文化の広がり
第 3 回	江戸時代の妖怪文化	絵巻のなかの妖怪
第 4 回	同上	錦絵のなかの妖怪
第 5 回	同上	版本のなかの妖怪
第 6 回	同上	多様な妖怪資料の検討
第 7 回	明治時代の妖怪文化	メディアのなかの妖怪
第 8 回	もう一つの妖怪文化	幻獣とは？
第 9 回	漫画文化について	漫画文化のルーツ
第 10 回	江戸時代の漫画	江戸時代の漫画の隆盛
第 11 回	同上	風刺画の登場
第 12 回	明治時代の漫画	メディアのなかの漫画
第 13 回	大正時代の漫画	漫画界の新しい流れ
第 14 回	昭和戦前期の漫画	戦前、戦中の漫画の動向
	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
妖怪や漫画に関する展覧会などがあったら可能な限り見ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 パーセント、授業の最後に提出するレポート 50 パーセントで配点します。

【学生の意見等からの気づき】
原資料を全員が時間中に余裕を持って見られるようにできるだけ配慮します。

【Outline and objectives】
History and Spreads of Japanese Yokai culture and Japanese Manga culture

BSP100BC

ゼミナール入門

加藤　昌嘉

授業コード:A2605,A2606,A2607,A2608,A2609,A2610,A2611,A2612,A2613,A2614
｜　曜日・時限：**月曜３限，月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　日本文学科では、２年次以降、所属するゼミナールによって文学／言語／文芸の３コースに分かれます。ゼミナールでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、４年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。
　この授業では、ゼミナールで必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。
《4/18 追記 ↓》
★「ゼミナール入門」は、２年次以降、各ゼミで学習してゆくための導入授業です。日本文学科１年生の受講を強く推奨します。
★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、受講できるクラス・時限が指定されています。以下のページの＜日本文学科＞の所に掲載されているクラス表に従って、履修登録してください。
https://hosei-rinji.com/letters/bun_class-2/

【到達目標】
１．問題提起的な発表内容を準備することができる
２．わかりやすいレジュメを作成することができる
３．他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
　以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができる」ことを、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　グループ発表や個人発表を授業の中心とします。文献調査、レジュメの作成、口頭発表、質疑応答など、実践的な課題に取り組んでもらいます。
　１時限分を使って、合同の「コースガイダンス」（2 年次以降の「ゼミナール」の説明会）を開催します。
《4/24 追記 ↓》
★秋学期「ゼミナール入門」は、全クラス、９月２１日（月）スタートの予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス１	自己紹介・課題選択
2	ガイダンス２	コースガイダンス（日時は掲示板で発表）
3	準備編１	テーマを考える
4	準備編２	文献調査
5	準備編３	グループ内ミーティング
6	準備編４	レジュメの準備
7	発展編１	グループ発表・質疑応答
8	発展編２	グループ発表・質疑応答
9	発展編３	グループ発表・質疑応答
10	発展編４	グループ発表・質疑応答
11	応用編１	個人発表・質疑応答
12	応用編２	個人発表・質疑応答
13	応用編３	個人発表・質疑応答
14	応用編４	個人発表・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　レジュメ作成や口頭発表の準備を怠りなく進めること。

【テキスト（教科書）】
　随時、プリントを配布します。

【参考書】
《4/18 追記 ↓》
以下のページに、『法政大学　学習支援ハンドブック』PDF 版が掲載されています。
http://www.hoseikyoiku.jp/lf/handbook/

【成績評価の方法と基準】
《4/18 修正 ↓》
１．授業への積極的な参加（２０％）。
２．発表の内容（４０％）、質疑への積極的な参加（４０％）。発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
◎受講者からは、「プレゼンやディスカッションのノウハウが身についた」という感想が多く寄せられました。
◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】
各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（１０クラス開講）

【Outline and objectives】
This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

LIN200BC

日本言語史 A

阿部 美菜子

授業コード：A2433　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語を概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】
日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストのほか、プリントや映像資料を使った講義形式での授業を基本とします。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともあります。
※春学期はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

※本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日に具体的なオンラインの授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代の日本語（1）	話し言葉中心の社会
第 2 回	奈良時代の日本語（2）	文字との出会い
第 3 回	奈良時代の日本語（3）	万葉仮名
第 4 回	奈良時代の日本語（4）	日本固有の文字
第 5 回	奈良時代の日本語（5）	発音
第 6 回	平安時代の日本語（1）	日本語最古の文章
第 7 回	平安時代の日本語（2）	和語による翻訳
第 8 回	平安時代の日本語（3）	カタカナの誕生
第 9 回	平安時代の日本語（4）	「万葉仮名」から「草仮名」への変化
第 10 回	平安時代の日本語（5）	ひらがなの表現
第 11 回	鎌倉・室町時代の日本語（1）	係り結びの法則（強調表現）
第 12 回	鎌倉・室町時代の日本語（2）	係り結びの法則（疑問・反語表現）
第 13 回	鎌倉・室町時代の日本語（3）	係り結びの衰退、消滅
第 14 回	鎌倉・室町時代の日本語（4）	武士の言葉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや配布資料を事前に読んだ上で授業に臨んで下さい。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、820 円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポート（40%）と授業内試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価します。
※春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。
※具体的な成績評価の方法と基準は、この授業の開始日（4 月 27 日）に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【Outline and objectives】
It is intended to deepen knowledge and the understanding about Japanese of the Nara period - the Kamakura and Muromachi period.

LIN200BC

日本言語史 A

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2434　｜　曜日・時限：**木曜６限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】
日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は、4 月 23 日（木）になります。詳細は、Hoppii を御覧ください。
プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	奈良時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第 3 回	奈良時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第 4 回	奈良時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第 5 回	奈良時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（4）
第 6 回	平安時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第 7 回	平安時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第 8 回	平安時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第 9 回	平安時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第 10 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第 11 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第 12 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）
第 13 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（12）
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】
参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細は、Hoppii を御覧ください。
毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート（50 %）の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室が広すぎるという意見があったので、事務課と相談します。

【Outline and objectives】
In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIN200BC

日本言語史 B

阿部 美菜子

授業コード：A2435 ｜ 曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸時代および明治時代以後の日本語を中心に概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】
日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストのほか、プリントや映像資料を使った講義形式での授業を基本とします。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語概観	先学期の復習、確認
第 2 回	江戸時代の日本語（1）	「話し言葉」と「書き言葉」
第 3 回	江戸時代の日本語（2）	表記と発音
第 4 回	江戸時代の日本語（3）	町人の言葉
第 5 回	江戸時代の日本語（4）	人称代名詞
第 6 回	江戸時代の日本語（5）	敬語表現
第 7 回	明治時代以後の日本語（1）	東京語を標準語へ
第 8 回	明治時代以後の日本語（2）	漢字カナ交じり文
第 9 回	明治時代以後の日本語（3）	言文一致への高い壁
第 10 回	明治時代以後の日本語（4）	二葉亭四迷の功績
第 11 回	明治時代以後の日本語（5）	「である」体
第 12 回	受講生の発表（1）	レポートを基にした発表（奈良時代～平安時代）
第 13 回	受講生の発表（2）	レポートを基にした発表（鎌倉・室町時代～江戸時代）
第 14 回	受講生の発表（3）	レポートを基にした発表（明治時代以後）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや配布資料を事前に読んだ上で授業に臨んで下さい。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、820 円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポート（40%）と授業内試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
It is intended to deepen knowledge and the understanding about Japanese of the Edo and Meiji period.

LIN200BC

日本言語史 B

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2436 ｜ 曜日・時限：**木曜６限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】
日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	江戸時代の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポートの報告（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第 3 回	江戸時代の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第 4 回	江戸時代の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第 5 回	江戸時代の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（4）	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出（4）
第 6 回	明治時代から戦前の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（5）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第 7 回	明治時代から戦前の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（6）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第 8 回	明治時代から戦前の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（7）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第 9 回	明治時代から戦前の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（8）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第 10 回	戦後の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（9）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第 11 回	戦後の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（10）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第 12 回	戦後の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（11）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）
第 13 回	戦後の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（12）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（12）
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】
参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出する小レポート (30%) と最終授業時に提出する大レポート (40%) と発表（30 %）の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
座席指定は良いという意見が多くあったので、続けることにします。

【Outline and objectives】
In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIN200BC

日本文法論 A

尾谷　昌則

授業コード：A2437　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】
(1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解する。
(2) 学校文法の不備・例外について理解する。
(3) 日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、解答（もしくは回答）をリアクションペーパーに書いてもらう。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼第 1 回目の授業は、オンラインで、4 月 28 日に、所定の時間に行う。それまでに Hoppii の「お知らせ」欄を確認しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	品詞	品詞の定義と問題点について
第 2 回	活用	活用のしくみとその問題点について
第 3 回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第 4 回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第 5 回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第 6 回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第 7 回	修飾	連用修飾と連体修飾の問題点について
第 8 回	助動詞 (1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第 9 回	助動詞 (2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第 10 回	助動詞 (3)	モダリティに関して
第 11 回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第 12 回	敬語	敬語の分類とその問題点
第 13 回	文章・談話	文よりも大きな単位の研究について
第 14 回	文法	総括として、文法とは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習（1時間）
授業内レポートの準備（2時間）
その日の講義の復習（1時間）

【テキスト（教科書）】
山田敏弘著『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版.（￥1,600）

【参考書】
庵功雄ほか 2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク.（￥2,310）
町田健　2002.『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（￥735）

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート（小テスト）　60 %
期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

【Outline and objectives】
After reviewing the Japanese traditional grammar adopted to the textbooks for Japanese public junior high schools, we will discuss and study the irregularities or bugs in it. The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

LIN200BC

日本文法論 B

尾谷　昌則

授業コード：A2439　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、実際に学術論文を読むことで、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】
意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1) そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2) そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の 2 点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って講義形式で進めるが、身近な言語事例をできるだけ多く挙げ、皆で会話をするようにじっくり進める。12 月頃には、授業で学習した概念を使用した研究事例となる学術論文を３，４本読みたいと考えている。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	伝統文法から認知言語学まで	言語学史を概観する
第 2 回	認知言語学の特徴 1	記号的言語観、動機付け、経験基盤主義、図地分化について
第 3 回	認知言語学の特賞 2	スキーマやプロトタイプについて
第 4 回	動的用法基盤モデル	Langacker の Usage-based モデルについて
第 5 回	構文文法	構文の定義とネットワークについて
第 6 回	類推拡張	類推に基づく拡張について
第 7 回	構文の分析 1	構文に反映されるスキャニングについて
第 8 回	構文の分析 2	構文に反映される語用論的意味について
第 9 回	構文の分析 3	構文の拡張と再分析
第 10 回	構文の分析 4	文法化と主観化について
第 11 回	事例研究 1	論文（文法化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 12 回	事例研究 2	論文（主観化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 13 回	事例研究 3	論文（スキャニングに関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 14 回	まとめ	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習（１時間）
授業内小レポートの準備（２時間）
その日の講義の復習（１時間）

【テキスト（教科書）】
『構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子著、研究社、3200 円税抜）

【参考書】
参考書・参考資料等
『認知言語学大事典』（新倉書店）
『ことばの認知科学事典』（辻幸夫編集、大修館書店）
『新編　認知言語学キーワード事典』（辻幸夫、研究社）
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか編著、朝倉書店）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語研究のための認知言語学』（籾山洋介著、研究社）
『認知意味論: 言語から見た人間の心』（ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店）
『認知意味論のしくみ』（籾山洋介著、研究社）
『認知意味論の新展開―メタファーとメトニミー』（谷口一美著、研究社）
『概念化と意味の世界　認知意味論のアプローチ』（深田智・仲本康一郎著、研究社）

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート　60 %　　期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生がじっくり考える時間をとったことが好評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

【Outline and objectives】
This course is an introduction of cognitive linguistics and construction grammar.
Following "Nihon Bunpo-ron A" in the spring semester, this semester we will focus on the grammatically exceptional expressions or the extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

LIT200BC

日本文章史Ａ

中沢　けい

授業コード：A2441　｜　曜日・時限：木曜３限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文章史 A 前半ではまず文語文を使っていた古代から近世までの概観を見て行きます。文語文が口語文に切り替わるのは明治時代です。幕末から明治期にかけてなぜそのような大きな変化がおきたのでしょうか？ この変化は近代社会の成立とかかわった変化です。近代の文章が形を整える昭和初期までをあつかいます。

【到達目標】
文章は時代によって変化します。変化の流れをつかみましょう。また変化の理由を考察する力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
5 月 7 日から授業を始めます。今年は学習支援システムを使い参考書などを示しながら授業を進めてゆきます。皆様の御協力をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	原稿用紙はいつ生まれたのか 原稿用紙と私	原稿用紙の重要性について。
第 3 回	近代口語文とは何か 原稿用紙と文明	現在使われている文章についてお話します。
第 4 回	文明と文章	日本の文章はこれまでどのような文明と関わってきたでしょうか？
第 5 回	1970 年代の映像	1970 年代の映像を視聴します。
第 6 回	文語文から口語文へ	なぜ文章改良運動が必要であったの考察します。
第 7 回	文語文の時代を振り返る	古代、中古の文章の特徴を考察します。
第 8 回	文語文の時代を振り返る	中世、近世の文章の特徴を考察します。
第 9 回	「福沢諭吉全集緒言」を読む	口語文の成り立ちを考察します。
第 10 回	第一次世界大戦の映像を見てみましょう	第一次世界大戦の映像を見てみましょう
第 11 回	中原中也の詩と小林秀雄の評論	第一次世界大戦後の変化を考察します。
第 12 回	世界大恐慌時代の映像を見る	アメリカの登場を考察します。
第 13 回	ジャズエイジの作家たちと村上春樹	ジャズエイジの作家たちが村上春樹に与えた影響を考察します。
第 14 回	第二次世界大戦終了後の世界を記録した映像を見ましょう	第二次世界大戦終了後の世界を記録した映像を見ましょう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムを使います。文章を成立させた時代背景を考えるために様々な時代の文章をその時代背景を考えながら読む習慣を持つようにしましょう日文科の授業では文章を読まない日はありません。ほかの授業の文章でもその時代背景を考えるように心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
授業内で本を紹介するようにします。皆さんがお手持ちの本はないかもしれませんが、図書館や町の書店を自由に使えるようになったら探してみてください。合わせて映像資料もご紹介します。

【参考書】
毎日、読む新聞なども時代の資料としての価値を持っています。現在は大きな文明の転換点に立っているのかもしれません。皆さんが何気なく読むもの全てが参考資料です。

【成績評価の方法と基準】
授業時のレポート６０％　期末のレポート４０％。みなさんとお目にかかって授業ができないのはとても残念です。授業時の課題提出はお忘れなくお願いします。

【学生の意見等からの気づき】
時代背景と文章の関連性がつかめなくなることがあります。授業中の積極的な質問は大歓迎です。疑問に思ったことはどんどん質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
400 字詰め原稿用紙のアプリケーション
ネットで探すことができます。また、お手持ちのアプリケーションにも原稿用紙のアプリが入っていることでしょう。

【その他の重要事項】
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
History of sentences

LIT200BC

日本文章史Ａ

藤谷　治

夜間時間帯
授業コード：A2442　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。前期は日本語の文章の成り立ちから、平安・鎌倉期までの文章を読んでいきます。

【到達目標】
古典と見なされている文章から、日本語の文章の多様性を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
日本語の文章を読みながら、講義形式で進めます。
（4 月 19 日追記）今次授業計画の変更に伴い、当面は課題をレポート形式で提出することで授業を進めます。課題については、4 月 23 日（木）以降、学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本文章史と現在の文章	この講義について
第 2 回	日本語の文章が生まれる	「古事記」と「万葉集」を読む
第 3 回	変体漢文と土着	「日本霊異記」を読む
第 4 回	フィクションと歌	「竹取物語」と「伊勢物語」を読む
第 5 回	ドキュメンタリーと話法	「土佐日記」を読む
第 6 回	物語のビッグ・バン	「うつほ物語」を読む
第 7 回	ロマンスと共感	「落窪物語」を読む
第 8 回	つぶやきと内輪話	「枕草子」を読む
第 9 回	統合と完成	「源氏物語」を読む
第 10 回	文章と実人生	「更級日記」を読む
第 11 回	人から聞いた話	「今昔物語集」を読む
第 12 回	主観と文明観	「方丈記」を読む
第 13 回	ドラマと語るための文章	「平家物語」を読む
第 14 回	演じるための文章	「謡曲集」「能狂言」「風姿花伝」を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げる作品を、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度プリントして配布します。

【参考書】
授業計画の内容にある通りです。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

【その他の重要事項】
講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

【Outline and objectives】
During the spring term we will read passages from Japanese writings and old tales from the Kamakura period, and study the origin of sentences.

LIT200BC

日本文章史Ｂ

中沢　けい

授業コード：A2443　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文章史 B では、A の内容を踏まえながら、近代から 1970 年代までの文芸に現われた文章の変化を見てゆきます。その際、世界の政治情勢が文芸ひいては文学に大きな影響を与えたことを映像資料を視聴しながら理解してもらうことを狙いとします。

【到達目標】
文章は時代精神の形成とともに変化します。時代精神はどのような変化をしたのかを世界の中の日本、アジアの中の日本という視点で見てゆきます。歴史の大きな流れの中にある文章の変化についての認識を作りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式です。日本の文章の歴史と変化を実際の文章を読みながら学んで行きます。また映像資料を視聴し、文章が歴史的に変化して行く時代背景について理解を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日中戦争、太平洋戦争の終了と文章の変化	戦後と呼ばれる時代の始まりにどのような文章の変化があったのかを考察します。
第 3 回	1945 年以降の戦争について	第二世界大戦の終了は戦争の全ての戦争の終了ではありません。アジアに起きた戦争について考察します。
第 4 回	朝鮮戦争の映像を見ましょう	第二次世界大戦後の世界の変化に注目しましょう。
第 5 回	ベトナム戦争の映像を見ましょう	社会の変化が文章をも変化させます。
第 6 回	アメリカ社会の変貌を描いた映像を見る	現在への影響を考察します。
第 7 回	大正から昭和初期に確立近代口語文について考察します。	印刷技術と出版文化の関係を考察します。
第 8 回	アメリカの反戦運動、黒人公民権運動の映像を見る	現在を理解するため
第 9 回	テクノロジーと文章	活版印刷からネットまでの変化を考察。
第 10 回	ノンフィクションの興亡	メディアで起きていることについて考察。
第 11 回	映像のアーカイブ化	映像記録と文章記録の違いとは何か。
第 12 回	今何が起きているのか	現在の状況について考察します。
第 13 回	文学の変容と文章の変容について	文章の変化について考える。
第 14 回	レポートの課題説明	レポートの課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
印刷技術から生まれた正書法について理解するために原稿用紙のアプリケーションを使うことをおすすめします。手書きする必要はありませんが、原稿用紙のアプリケーションを用いてレポートなどを制作しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントして配布します。プリントは課題提出時に必要になります。ファイルして下さい。

【参考書】
授業計画に示されてる文章を図書館で探して下さい。映像資料は「映像の世紀」（NHK）を使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業時に書いてもらう映像の感想 50 %　レポート 50 %。授業時に書いてもらう映像の感想では視覚的な情報を言語化する努力を求めます。レポートでは授業を使用した文章を読み込む力を求めます。

【学生の意見等からの気づき】
文章の未来について考察するようにしましょう。また情報技術（IT) は文章にどのような変化をもたらすのかを考えながら知識を収集する努力をしてみてください。

【学生が準備すべき機器他】
４００字詰め原稿用紙のアプリケーション。

【その他の重要事項】
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
History of sentences

LIT200BC

日本文章史Ｂ

藤谷　治

夜間時間帯
授業コード：A2444　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。後期は１７世紀から現代までの文学作品を読みます。

【到達目標】
日本語の文章の多様性から、現代における新しい文章の可能性を探っていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、日本語の文章を読んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	聞かせる文章	説経節を読む
第 2 回	商売のための文章	好色一代男を読む
第 3 回	美の追求	「奥の細道」を読む
第 4 回	スキャンダルの劇化	「曽根崎心中」を読む
第 5 回	学識と芸術	「雨月物語」を読む
第 6 回	江戸の文章	「東海道中膝栗毛」「浮世風呂」を読む
第 7 回	グロテスクと爛熟	「東海道四谷怪談」を読む
第 8 回	予兆なき残光	「南総里見八犬伝」を読む
第 9 回	新時代と旧時代	「真景累が淵」を読む
第 10 回	言文一致	二葉亭四迷と山田美妙を読む
第 11 回	言文を一致させない	樋口一葉、幸田露伴、尾崎紅葉、泉鏡花、を読む
第 12 回	自然主義とその批判	田山花袋ほか自然主義作家と、二葉亭「平凡」、石川啄木を読む
第 13 回	民主主義下の文章	大江健三郎とよしもとばななを読む
第 14 回	現代の文章	東直子と古川日出男を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画の内容にかかわらず、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
講義内容にある通りです。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

【その他の重要事項】
講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

【Outline and objectives】
During the fall term we will read passages from 17th century Japanese literary works to contemporary works.

LIT200BC

文章表現論Ａ

田中　和生

授業コード：A2445　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

【到達目標】
まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。
次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。
以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。毎回講評を行い、学生自身が評価をする機会も設け、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。授業は 4 月 21 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第 2 回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第 3 回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第 4 回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第 5 回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第 6 回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 7 回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第 8 回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第 9 回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第 10 回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけるとはどういうことかを理解します。
第 11 回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第 12 回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第 13 回	作文を評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 14 回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要時応じて指示しますが、とくに 2 回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業中に 4 回 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が 2 回あります。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline and objectives】
Through the exploration of finding what you want to write and writing it as you like, experience the freedom of starting a new writing and understand its difficulties. By knowing both its freedom and difficulties, you will seek phrases in Japanese to well express what you want to say, and acquire the usage of literary words within poetries, stories and criticisms.

LIT200BC

文章表現論Ｂ

田中　和生

授業コード：A2447　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】
まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書こうとすること。
次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。
以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。毎回講評を行い、学生自身が評価する機会も設け、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第 2 回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第 3 回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第 4 回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第 5 回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第 6 回	フィクションを評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 7 回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第 8 回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第 9 回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第 10 回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。
第 11 回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第 12 回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第 13 回	フィクションを評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 14 回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業中に 4 回 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が 2 回あります。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline and objectives】
Understand the difficulty of writing exactly of what you know well and the restriction of its contents, and at the same time experience the freedom of writing texts of unknown and fiction. By paying attention to the difference between texts of the known and unknown, seek out what you want to write as fiction and what is your theme.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

川鍋　義一

授業コード：A2553　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
批評だの評論だのというものは、一体、なんでしょうか？　それは文学原論ともいうべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。
要するに鷗外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。
ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というのもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなると批評ってなんだと考えてみても、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。
ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということを小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したこともないことを描けるのか？」ということを有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」、「文学って役に立つのか？」、「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。
そういった難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すことではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。
上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】
上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということを、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。
文学史上に残る著名な批評を１本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを５講（６作品）で繰り返します。
以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。
また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。
春学期は『小説神髄』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２４日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第 2 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髄」（抄）：近代文学の言語
第 3 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髄」（抄）：近代文学の内容
第 4 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第 5 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解と発展的考察
第 6 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか
第 7 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第 8 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景
第 9 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第 10 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第 11 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第 12 回	春学期総括	春学期総括
第 13 回	（2020 年度に限り、なし）	（2020 年度に限り、なし）
第 14 回	（2020 年度に限り、なし）	（2020 年度に限り、なし）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験（持ち込み不可）：９０％
平常点：１０％
春学期は対面形式の授業がいつからできるか不明なので、状況によってはレポート１００％になる可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】
近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

【その他の重要事項】
春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本文芸批評史 B

川鍋　義一

授業コード：A2555　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたたかいから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。
秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。
したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。
それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。
昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。
秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろんな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】
上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。
文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。
以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。
また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。
秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリヤレアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリヤレアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々なる意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々なる意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「堕落論」	無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「堕落論」	その文学史・思想史上の意義
第 9 回	戦後左翼の分岐点 小田切秀雄「文学における戦争責任の追求」	『新日本文学』について
第 10 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」	『近代文学』について
第 11 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」	「政治と文学」論争
第 12 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	本多文読解
第 13 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	吉本文読解
第 14 回	春学期総括	春学期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験（持ち込み不可）：９０％
平常点：１０％

【学生の意見等からの気づき】
近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

【その他の重要事項】
春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本言語学特殊研究 A

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2558　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】
文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は、4 月 23 日（木）になります。詳細は、Hoppii を御覧ください。
まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて、研究相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細は、Hoppii を御覧ください。
課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
次の授業プリントを友人から受け取ることができるようにしてほしい、という意見があり、そのようにしたいと思います。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to learn about the problems of Japanese Language Studies.

LIT300BC

日本言語学特殊研究 B

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2560　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】
文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて、研究相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室の温度調節を行ってほしい、という意見がありましたので、気をつけようと思います。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to learn about the problems of Japanese Language Studies.

LIT200BC

中国文芸史 A

遠藤　星希

授業コード：A2561　｜　曜日・時限：木曜２限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【中国古典小説史】
中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

【到達目標】
中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、当時の人々が小説をどのようなものと認識していたのか、現代の私たちが考える小説と当時の小説は何が異なっているのかという点について理解を深め、唐より前の時代に書かれた小説の歴史的変遷について、当時の文化的背景と関連づけながら、具体例に即して人に説明できるようになる。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回「教材」として学習支援システムにアップロードし、それらを参照しながらオンデマンドの動画で解説を加える。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国の古典小説と「小説」の原義についての概説
第 2 回	白話小説概説	明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説
第 3 回	小説前史（1）	神話（上）：中国の天地開闢神話とその特徴について
第 4 回	小説前史（2）	神話（下）：神話の時代の大洪水と大旱魃
第 5 回	小説前史（3）	諸子百家と漢代の賦：諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について
第 6 回	小説前史（4）	漢代の作とされる「小説」：中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の書を読む
第 7 回	小説前史（5）	史伝の小説的要素：歴史文学として司馬遷の『史記』を読む
第 8 回	志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第 9 回	志怪小説（2）	志怪小説に見られる仙界訪問譚について
第 10 回	志怪小説（3）	志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響
第 11 回	民間の物語詩	漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む
第 12 回	志人小説	六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説
第 13 回	男装の麗人の物語男装の麗人の物語	木蘭従軍故事について
第 14 回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業日より前に、各回の教材が学習支援システムにアップロードされるので、あらかじめダウンロードして目を通し、授業内容の大まかなイメージを掴んでおくこと。同時に、問題点・疑問点も明確にしておくこと。オンデマンドの動画は授業日にアップロードされ、その後も閲覧が可能なので、授業日以後も折に触れて観なおし、教材と合わせて復習することで内容を記憶に定着させること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した教材を、学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・魯迅著 ; 中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・魯迅著 ; 丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷　魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出して頂く小さな課題（過度な負担にならないよう配慮する）60 %、学期末リポート 40 %の配分で評価する。もし学期中に教室での対面授業が可能となれば、学期末リポートを教室での筆記試験に変更する可能性もある。その場合、試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインによる授業は今回が初めてのため、フィードバックが難しい。今回の経験を次回に生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

【その他の重要事項】
・毎回の課題の提出をもって、その回の出席とみなす。
・全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末リポートの提出資格を失うので注意すること。

【Outline and objectives】
This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Tang dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn “novels” from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.

LIT200BC

中国文芸史 B

遠藤　星希

授業コード：A2563　｜　曜日・時限：木曜２限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【中国古典小説史】
　中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

【到達目標】
　唐代伝奇が全体的にどのような特徴を有し、それまでの中国の「小説」とどのように異なるのかを把握する。また、個々の作品がそれぞれどのような意義を有しているかを、唐代の社会的・文化的背景と関連づけながら、具体例に即して人に説明できるようになる。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	唐代伝奇についての概説
第 2 回	唐代伝奇（1）	唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む
第 3 回	唐代伝奇（2）	魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む
第 4 回	唐代伝奇（3）	象の恩返しの話「安南猟者」を読む
第 5 回	唐代伝奇（4）	狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む
第 6 回	唐代伝奇（5）	『雨月物語』の「夢応の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「薛偉」を読む
第 7 回	唐代伝奇（6）	妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む
第 8 回	唐代伝奇（7）	民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む
第 9 回	唐代伝奇（8）	男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む
第 10 回	唐代伝奇（9）	中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む
第 11 回	唐代伝奇（10）	科挙の受験生と堅気の女性との恋愛譚「鶯鶯伝」を読む
第 12 回	唐代伝奇（11）	芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む
第 13 回	唐代伝奇（12）	トイレの神様に取り憑かれた男の話「李赤伝」を読む
第 14 回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　テキストをあらかじめ購入し、各回で取り上げる作品を読んでおく。また、授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
今村与志雄訳『唐宋伝奇集』上・下（岩波文庫、1988）

【参考書】
・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭　唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）
・溝部良恵著『中国古典小説選６　広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）
・黒田真美子著『中国古典小説選５　枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他』（明治書院、2006）
・成瀬哲生著『中国古典小説選４　古鏡記　補江総白猿伝　遊仙窟』（明治書院、2005）
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・魯迅著 ; 中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・魯迅著 ; 丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷　魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100 %学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
　授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】
　Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called chuan-qi written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, chuan-qi stories were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. Chuan-qi stories during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in chuan-qi stories during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.

LIT300BC

書誌学

山口　恭子

夜間時間帯
授業コード：A2566　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことがらについて講義します。
・授業の目的
日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をともに眺めてゆきましょう。

【到達目標】
・「書誌学」の概念を知る。
・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
日本古典籍書誌学の概念と基礎的事項を講義します。また、書誌学の講義と並行して、書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業も行います。
書誌学については配布プリントをもとに進め、くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。
なお、毎授業終了後リアクションペーパーを提出してもらいます。
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。また、本授業の開始日は 4 月 28 日とします。この日に、本授業の趣旨・概要を記した資料やオンライン授業の具体的な方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・巻子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説 ・中世までの印刷の歴史について
第 9 回	版本の歴史（2）	・キリシタン版について ・古活字版の特徴と種類について
第 10 回	版本の歴史（3）	・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】
・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、１９９８年）
・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、１９９９年）
・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、２００５年・２００７年）
・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、２０１０年）
このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。
※ただし、春学期のオンラインでの開講期間によっては、成績評価の方法と基準も変更となる可能性が高いと考えられます。具体的な方法と基準は、あらためて学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline and objectives】
"Bibliography" is a study of books.
This course deals with the basic concept of bibliography.
The purpose of this course is as follows.
(1) master basic knowledge on Japanese classical bibliography
(2) Understand the culture of books

LIT300BC

メディアと社会

中沢　けい

夜間時間帯
授業コード：A2568　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？ 表現とは何か？ という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。
Relationship between media and society

【到達目標】
　社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報義出の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメントつきの出席をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話します。(中沢けい)
第 2 回	知的財産権の捉え方 1	1 冊の本には多様な著作権者の権利が交錯しています。
第 3 回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第 4 回	表現の対象になる人々の権利 1	取材対象者の権利、モデル問題などを考えます
第 5 回	同上	河原理子講師　（朝日新聞編集委員）
第 6 回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第 7 回	同上	鵜飼哲夫講師（読売編集委員）
第 8 回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第 9 回	同上	仲俣暁生（編集者）
第 10 回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第 11 回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第 12 回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第 13 回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之（建築家、小説家）
第 14 回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きします。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】
　講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】
　「配分（%）」：レポート 30%　平常点　70 %
　「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】
　現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【その他の重要事項】
　授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意下さい。
中沢けい
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】
Relationship between media and society

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 A

野川　美穂子

授業コード：A2569　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降に発展した芸能の魅力（三曲を中心に）

【到達目標】
音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに三曲）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しまれることの多い三曲（地歌・箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは三曲に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌の魅力も引き出す多彩な作品を紹介していきます。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。遠隔授業の今年度は、学習支援システムを用いた授業を 5 月 6 日から開始します。初回はガイダンスです。視聴覚教材については、YouTube などのネット上の映像を紹介する形で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲・段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴② 胡弓楽の歴史と特徴。	尺八本曲の魅力。 胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。
第 14 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】
参考書は、授業時に随時紹介します。三曲の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の３分の２に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline and objectives】
Regarding Japanese performing arts developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, mainly with music. In the spring semester, we mainly target music of koto, shamisen, shakuhachi and kokyu.

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 B

野川　美穂子

授業コード：A2571　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降の音楽芸能の魅力（歌舞伎、文楽を中心に）

【到達目標】
音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（歌舞伎、文楽を中心に）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。
秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、大正時代以降の新しい状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。
多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第 9 回	他の種目との関連（1）	道成寺物の魅力。
第 10 回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第 11 回	長唄②	長唄の多様性。
第 12 回	他の種目との関連（2）	石橋物の魅力。
第 13 回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションによる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の３分の２に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline and objectives】
Regarding Japanese performing arts developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, mainly with music. In Fall semester, we mainly focus on Bunraku and Kabuki.

LIT200BC

編集理論 A

福江　泰太

夜間時間帯
授業コード：A2709　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちはテクストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web 空間におけるテクストについては秋学期に扱います）。まず、テクストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】
これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現在の書籍や雑誌の制作過程を追体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テクスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際的・具体的な授業内容となるよう心がけます。
授業開始日は 5 月 11 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	作者／編集者／読者	テクストに編集という行為はどういう作用を及ぼし、編集者とはいったいどういう存在なのか考えます。
第 2 回	編集の流れ 1	実際の編集作業の流れを、DVD の視聴を通じて理解します。
第 3 回	編集の流れ 2	「ゲラ」の動きを中心に、作家／編集者／校正者／印刷・製本業者の協働を考えます。
第 4 回	資材論 1	印刷用紙の大きさと書籍・雑誌の判型の関係を歴史的に考察します。
第 5 回	資材論 2	「紙」の性質の考察のほか、書籍作りに不可欠な資材について学びます。
第 6 回	文字考	書籍や雑誌に使われる文字の大きさや種類、字形／字体／書体の関係について学びます。
第 7 回	文字と版面	書籍や雑誌のページがどのように設計されるのか、その基礎を学びます。
第 8 回	台割と折	書籍・雑誌の全体のページ展開がどのように構成されているのか、その原則を学びます。
第 9 回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要さを学びます。また当用漢字から新常用漢字に至る国語・国字問題も考察します。
第 10 回	装幀考	そのテクストにふさわしい造本とはどのようなものか、造本感覚について学びます。
第 11 回	現代の印刷・製本について	印刷および製本の基礎的な知識について学びます。
第 12 回	現代の書籍・雑誌の流通	書籍・雑誌の流通は固有な制度によって成り立っています。その制度の問題点を含め、流通全体を概観します。
第 13 回	定価と印税	書籍・雑誌の定価はどのようにして決められていくのか、また印税の歴史についても考察します。
第 14 回	読書／読者考	書店や図書館などの「購書空間」「選書空間」「読書空間」の変遷を含め、本を読むという行為の歴史を考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くリアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢 50%　期末のレポート内容 50%　を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】
編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」大学在学中より編集の世界に携わり、學藝書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline and objectives】
What kind of a task is an editor ? Through an usual work of an editor, I show you the process of publishing.

LIT200BC

編集理論Ｂ

福江　泰太

夜間時間帯
授業コード：A2710　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紙も印刷術も存在しない時代の書物作りから現代の web 空間でのテクストまで、書物の歴史を概観し、旧来の書物制作者から「近代的編集者」がいかに特化し誕生したかを考察します。またテクストと編集行為との関係、さらに加速化するネット社会における新たなテクスト状況についても概観します。

【到達目標】
編集理論 A で対象とした現代の書籍や雑誌は決して最高の到達点ではありません。むしろ切り捨ててしまった面や退化したところも多くあります。書物の姿は時代とともに変遷します。書物制作の歴史を学ぶことにより、書物がそれぞれの時代に提示してきた「豊饒さ」を新たに認識し、編集という行為の歴史的・文化史的意義を学び、同時に電子書籍をはじめとした現代の web 空間におけるテクストのあり方も考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
書物制作の歴史を西洋・東洋ともに概観します。また電子書籍や web 空間での新たな問題も考察します。DVD 視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	書物におけるアナログ／デジタル	なぜ今書物の歴史を学ぶことが大切なのか、その意義を考えます。
第 2 回	紙以前の書写材料	パピルス、羊皮紙、バイラーンなど、紙以前の資材とそれによって作られた書物について考察します。
第 3 回	紙の発明とその伝播	紙はいかに作られたのか、中国から西欧への伝播と、東西での製紙法の差を概観します。
第 4 回	書物の形態考	巻子本と冊子本（コデックス）を中心に、様々な書物の「かたち」を紹介し、書物の「かたち」が読書という行為に与えた影響を考えます。
第 5 回	日本・東洋の書物史 1	百万塔陀羅尼から写経、摺経、写本の時代を考察します。
第 6 回	日本・東洋の書物史 2	膠泥活字、木活字、銅活字、鉛活字による中国・朝鮮・日本の古活字の時代を考察します。
第 7 回	日本・東洋の書物史 3	浮世草子をはじめとした近世の書物制作と、書物問屋という出版制度を考察します。
第 8 回	西洋の書物史 1	グーテンベルク以前の、ギリシア・ローマ時代の書物制作、中世の写本文化を概観します。
第 9 回	西洋の書物史 2	グーテンベルクの印刷術の発明とその影響、ルネッサンス、宗教改革、大航海時代の書物のあり方を概観します。
第 10 回	西洋の書物史 3	産業革命以降の書物制作で、ウィリアム・モリスの「プライベート・プレス」の試みとペーパーバックスの誕生について概観します。
第 11 回	画像表現の歴史	手書きによる挿画、版画の利用、写真の印刷への応用というヴィジュアル・コミュニケーションの変遷を考察します。とりわけ「写真」の果たした役割を考えます。
第 12 回	日本における近代書物の誕生	整版から鉛活字による組版、和本から洋装本へと移行する明治の 20 年間の書物制作者のさまざまな試みを考察します。
第 13 回	出版と書物の大衆化	大正末から昭和初めの円本ブーム以降、戦後の流通革命、印刷・製本技術の革新により、書物が一気に大衆化していったことの意味を考え、現在の書物の姿の根拠をとらえます。
第 14 回	電子書籍と web 空間	テクストが紙媒体であることを脱ぎ捨てようとする現代、そこでは編集という行為はどうなっていくのか、その意味を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時コピーを配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢 50%　期末のレポート内容 50%　を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】
編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」大学在学中より編集の世界に携わり、學藝書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline and objectives】
Through learninng the history of books, I show you the book of the future.

LIT200BC

編集実務 A

谷村　順一

授業コード：A2574　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】
編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具画像編集に使用する Adobe Photoshop、ポスターなどの印刷物やロゴマークなどを政策に使用する Adobe Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、ページものの編集には Adobe InDesign を使用するので、InDesign をあつかう「編集実務 B」と併せて受講することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業内容】
書籍，雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び，実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。数回の小課題の作成とプレゼン，期末課題には小冊子の作成を予定しています。
【授業方法】
アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し，プレゼンを行ってもらいます。
※第 1 回目は 5 月 11 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	DTP とはなにか？	DTP の概略についての講義
第 3 回	Adobe Photoshop ① 切り抜きと合成	Photoshop を用いた画像の切り抜きと合成について
第 4 回	Adobe Photoshop ② 写真のレタッチ	Photoshop を用いた写真のレタッチについて
第 5 回	Adobe Photoshop ③ クリッピングマスク（選択範囲の作成）	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（選択範囲を作成する方法）
第 6 回	Adobe Photoshop ④ クリッピングマスク（クリッピングパスの作成）	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（クリッピングパスを実際に作成する）
第 7 回	Adobe Photoshop ⑤ Illustrator や InDesign との連携	Photoshop で作成したビットマップ画像を、Illustrator や InDesign といったベクター画像を扱うアプリケーションで使用する方法について
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	Adobe Illustrator ① 長方形ツールと楕円形ツール	長方形ツールと楕円形ツールを用いて基本的なオブジェクトの作成方法について
第 10 回	Adobe Illustrator ② オブジェクトの塗りと線の設定	オブジェクトの塗りと線の設定方法について
第 11 回	Adobe Illustrator ③ 選択ツールとダイレクト選択ツール	Illustrator の基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて
第 12 回	Adobe Illustrator ④ 文字の入力	テキストツールを用いた文字の入力方法について
第 13 回	Adobe Illustrator ⑤ Photoshop との連携	Illustrator で作成したオブジェクトを Photoshop で使用する方法について
第 14 回	小課題	小課題作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『文字の組方ルールブック　タテ組編』日本エディタースクール
・『文字の組方ルールブック　ヨコ組編』日本エディタースクール
・『文字組版入門』モリサワ
※その他必要に応じて授業中に紹介します。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点と小課題，期末課題で評価します。
平常点　30 %　小課題＋期末課題　70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
※授業の性質上，自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら，その本の「どこ」が気になるのか，「何」に惹かれるのか，意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。
※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがのぞましい。
※「情報科学実習 1・2（ f コース中の DTP 入門編) を事前に履修しておくとよりいい。

【Outline and objectives】
Learn the actual fact of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry

LIT200BC

編集実務Ｂ

谷村　順一

授業コード：A2576　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】
編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的にはページものの作成に不可欠な Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、画像やイラストなど誌面に必要な要素の作成のために Adobe Photoshop、Illustrator を使用するので「編集実務 A」と併せて受講することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業内容】
　書籍，雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び，実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。数回の小課題の作成とプレゼン，期末課題には小冊子の作成を予定しています。
【授業方法】
　アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し，プレゼンを行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	本作りの過程	企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について
第 3 回	Adobe InDesign ① グリッドフォーマットの作成	誌面作成の基礎となる版面の設定方法について
第 4 回	Adobe InDesign ② マスターページの設定と文字の流し込み	マスターページの役割と文字の流し込みの実際について
第 5 回	Adobe InDesign ③ 文字組み設定	組版の基本となる各種設定について
第 6 回	Adobe InDesign ④ ルビ	ルビの振り方について
第 7 回	Adobe InDesign ⑤ 画像の取り込み	Photoshop や Illustrator で作成した各種画像の取り込み方について
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	総合課題① Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	ラフの作成
第 10 回	総合課題② Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	素材の準備
第 11 回	総合課題③ Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	各種アプリケーションを用いたレイアウト作業
第 12 回	総合課題④ Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	提出データの最終確認
第 13 回	発表と講評	発表と講評
第 14 回	発表と講評	発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『文字の組方ルールブック　タテ組編』日本エディタースクール
・『文字の組方ルールブック　ヨコ組編』日本エディタースクール
・『文字組版入門』モリサワ
※その他必要に応じて授業中に紹介します。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点と小課題，期末課題で評価します。
平常点　30 %　小課題＋期末課題　70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
※授業の性質上，自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら，その本の「どこ」が気になるのか，「何」に惹かれるのか，意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。
※ Illustrator,Photoshop を扱う編集実務 A と併せて履修することがのぞましい。
※「情報科学実習 1・2（ f コース中の DTP 入門編) を事前に履修しておくとよりいい。

【Outline and objectives】
Learn the actual fact of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤　裕之

夜間時間帯
授業コード：A2584　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作者人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した実例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。加えて、テクノロジー、ツールの急激な進化が、誰でも簡単に発信者になれてしまうことの危うさについて受講生に強く警告したい。受信者が簡単に発信者になれる SNS 時代に身を置いていることがどれだけ危険か。安易な発信や軽い気持ちで発信した冗談情報が一人歩きを続ける現実に強く注意喚起したい。新型コロナに伴う、トイレットペーパー、ティッシュ、果ては納豆（免疫力アップ）まで、一つのデマ情報がどこまでの事態を引き起こすか。身の回りの現実に起きた事件・事象から具体的に説き起こしたい。飲食店やコンビ二のアルバイト従業員がふざけておこなった不謹慎動画が、「発信者」の人生を破壊してしまう危険についても強く注意喚起したい。

【到達目標】
知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、「鈍感力」に裏付けられた「謝り力」を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は知的財産権、著作権の実際例を講義、解説し、ジャンル、メディアによる違いを質疑、討論も含めながら、明らかにする。後半においては、編集実務を交えたグループワークやテーマを決めたプレゼンテーションなど、制作現場の模擬体験を通じて、判断の基準を理解する。具体的な方法については、受講人数によって決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と手順、進め方。	法律家ではない現場から見た考え。こんなにある身近な知的財産権。 授業開始日は 5 月 6 日とします。それまでに学習支援システムの授業掲示板に記載されている事項について書き込みをお願いします。
第 2 回	知的財産権には何があるか	著作権も知的財産権の一つ。創作物の何を守らなければいけないのか？
第 3 回	それでは著作権には何があるか。	過去のトラブルの具体的事例から、著作権を侵害しないための注意点を理解する。
第 4 回	「生まれたて写真週刊誌のドタバタ」 個々の権利について出版現場から考える①	週刊誌「ＦＲＩＤＡＹ」編集者としてのエピソードから、著作権保護を考える。
第 5 回	「引用となるかならぬか」 個々の権利について出版現場から考える②	男性ヴィジュアル誌「ＰＥＮＴＨＯＵＳＥ」編集現場の体験から、引用、パロディについて考える。
第 6 回	「平凡なアイデアに魂は宿らない」 個々の権利について出版現場から考える③	文芸誌「群像」小説誌「小説現代」編集者としての経験から、資料と史料などについて考える。
第 7 回	「盗用と剽窃」 個々の権利について出版現場から考える④	文庫、書籍編集者としての体験から、アイデア、企画について著作権の立場から考える。
第 8 回	ジャンルから考える①	音楽、文芸、写真、美術、建築など、表現手段や対象分野の違いによって、どの視点から著作権が守られるべきか、考える。
第 9 回	ジャンルから考える② グループワーク「ディベートしてみよう」	受講者が二つのグループに分かれ、写真分野における著作権侵害の実際に提訴された裁判について、ディベートする。人数によっては裁判官役も設定して、論点の立て方による勝敗の決定も行う。
第 10 回	ジャンルから考える③ グループワーク「ディベートしてみよう」	原告側の主張を調べ、著作権の各権利から、侵害を訴える。被告側は、反論する。
第 11 回	ジャンルから考える④ グループワーク「ディベートしてみよう」	被告側の主張を調べ、反証する。原告側は反論。
第 12 回	ジャンルから考える⑤ グループワーク「ディベートしてみよう」	さて、判決は？　勝つのはどっち？
第 13 回	誰でも発信できる危険な時代	知らないと大変な危機に見舞われるかも。 受信者が発信者と一緒になったとき、悲劇に襲われる
第 14 回	総括	編集者がいつも肝に銘じていること、「編集者とは何か」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。いまリアルタイムに起きた事件を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などを理解していた方が、授業内容の理解の手助けになると思います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて、配付資料を準備します。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】
自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】
出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域（現職）＞　日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。文芸分野（フィクション）を統括する講談社 文芸局長を経験。
＜主要研究業績（社歴）＞
群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline and objectives】
About the intellectual property right,in particular,the copyright and the copyright infringement,the students understand in actual example,which I had experienced on 「FRIDAY」「PENTHOUSE」「GUNZO(Literary magazine)」. Nowadays everybody can send readily anything with SNS. But it is very dangerous. Anyone only to receive can send easily everything,then they will be at risk and don't know it.It is very important to avoid those danger and to get sense of them,

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤　裕之

夜間時間帯
授業コード：A2586　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】
同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」と理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。名作からスタンダードに。
第 10 回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	ＳＮＳ時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けになると思います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】
自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】
出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域（現職）＞　日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。
文芸分野（フィクション）を統括する講談社 元文芸局長。
＜主要研究業績（社歴）＞
群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline and objectives】
If you think the news is all same in every media, that is incorrect.Each media has his original opinion.The newspaper article is not neutral,and also the television. The students must learn the difference of each media news,how different there is and why it will happen.

LIT100BC

古文・漢文の基礎

萩野　了子

授業コード：A2604　｜　曜日・時限：**水曜 6 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・“古文の読み方” と “漢文の読み方” を復習する授業です。（秋学期のみの授業）
・以下のような学生を対象として開かれる、基礎力養成講座です。
(1) 授業で古文・漢文を読むときに苦労している学生、(2) 卒業論文のために古文・漢文を読み込む必要がある学生、(3) 教育実習で古文・漢文を教える予定の学生、(4) 訳本に頼らずに『源氏物語』や『史記』などを読みたい学生

【到達目標】
・“古典文法・漢文句法のメカニズムを理解し、古文・漢文を自力で訳せるようになること” が、この授業の最大目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・後掲のテキストを使って、文法事項や読解の要点を確認します。
・適宜、配布プリントを使って、読解・訳出を行います。
・毎回、《確認テスト》を実施します（期末試験は行いません）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	読解のコツ	腕試しテスト
第 2 回	古文（1）	品詞の考え方
第 3 回	古文（2）	動詞の活用
第 4 回	古文（3）	日本語としての古文
第 5 回	古文（4）	助動詞の学び方
第 6 回	古文（5）	助詞の種類と理解
第 7 回	古文（6）	敬語について
第 8 回	古文（7）	和歌の修辞
第 9 回	漢文（1）	文型
第 10 回	漢文（2）	否定
第 11 回	漢文（3）	疑問・反語
第 12 回	漢文（4）	使役・受身
第 13 回	漢文（5）	比較・仮定・抑揚
第 14 回	漢文（6）	願望・詠嘆・接続語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・古文の用言・助動詞・助詞や漢文の再読文字・句型等に関する基礎知識は、毎回の授業で（古典を読む上で）必要になるので、後掲のテキストをしっかり予習・復習し、定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・授業では、以下の２冊を使用します。必ず購入して持参すること。
古文……山下幸穂『古文読解　演習ドリル』（旺文社　2017 年 9 月）
漢文……三羽邦美『漢文句法　演習ドリル【改訂版】』（旺文社　2017 年 6 月）

【参考書】
・以下の辞典を推薦します。
古文……中村幸弘編『ベネッセ全訳古語辞典【改訂版】』（ベネッセ　2007 年 11 月）
　　林巨樹ほか編『新全訳古語辞典』（大修館書店　2016 年 12 月）
漢文……小川環樹ほか編『新字源【改訂新版】』（角川書店　2017 年 10 月）
・以下の入門書を推薦します。
古文……小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫　2010 年 10 月）
漢文……前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫　2015 年 12 月）

【成績評価の方法と基準】
・毎回実施する《確認テスト》の出来（８５％）。
　授業への参加態度（１５％）。
・欠席は３回までとします。４回以上欠席した学生は、単位を得られません。

【学生の意見等からの気づき】
・高校で習った（が、すっかり忘れている）古典文法・漢文句法を、基礎から丁寧に説明する予定です。

【Outline and objectives】
・This is the class you study “The way of reading of Japanese classic” and “The way of reading of Chinese classic”.(Course only in fall semester)
・It is a basic foundation training course that is held for the following students. In case
(1) Students who are struggling to read Japanese classic and Chinese classic in class,(2) Students who need to read Japanese classic and Chinese classic for graduation thesis,(3) Students who are going to teach Japanese classic and Chinese classic at educational practice,(4) Students who want to read "The tale of Genji" or "Shiki" without relying on a translation.

LIT300BC

書道 (書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2711　｜　曜日・時限：**金曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。本科目の初回授業は 4/２４ (金) です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 16 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 17 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第 18 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第 19 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 20 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 21 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 22 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 23 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 24 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 25 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 26 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 27 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 28 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】
From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

LIT300BC

書道 (書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯
授業コード：A2712　｜　曜日・時限：**金曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。本科目の初回授業は 4/２４ (金) です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 16 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 17 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第 18 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第 19 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 20 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 21 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 22 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 23 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 24 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 25 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 26 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 27 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 28 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】
From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

ART300BC

美術史（西洋）A

安藤　智子

授業コード：A2577　｜　曜日・時限：木曜４限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。
４月２３日中に教材を学習支援システムにアップロードしますので、明日４月２４日から教材のダウンロードが可能になります。履修を考えている学生さんは是非ご視聴ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第 2 回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第 3 回	美術史の基礎用語	絵画作品を解説する基礎用語 造形性
第 4 回	主題から作品へ	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画の考察
第 5 回	アイデアから作品へ	アイデアが即時に反映する素描に始まり、習作をもとに下絵を描き、さらに油彩画面が完成される制作過程を検証する
第 6 回	作品の展示機構	美術教育や展覧会を包括する美術制度を検討し、社会における作品展示について考える
第 7 回	裸婦の系譜	神話の女神であるヴィーナス、娼婦、そして現実社会の女性まで、過去のイメージを転写しながら変容する裸婦のイメージを探る
第 8 回	聖と俗	宗教画の主題が次第に世俗化されていく過程及び宗教主題が大衆に世俗的な媒体で浸透する過程を通して、絵画における聖と俗を対比して考察する
第 9 回	都市と自然	文化が花開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る
第 10 回	美しさと醜さ	絵画作品の鑑賞者によって、「美しさ」と「醜さ」がどのように定義づけられ、解釈されたかを検証する
第 11 回	人間の暗部の表象	醜さに続き、グロテスクなもの、悪、犯罪など、人間の暗部を投影した作品を考察する
第 12 回	無主題の絵画	無主題、無対象の抽象絵画の誕生とその生成過程を考える
第 13 回	見学会	都内の美術館を見学
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館に積極的に出向き、常設のコレクションや企画展において、実際に美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】
『世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン１―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン２－西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（80 %）と、平常点（20 %）を参考に成績評価を決定する。芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含むが、履修人数によっては授業毎に提出してもらう記述コメントを参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。

【Outline and objectives】
Based on the modern art and contemporary art, we will study art works from multiple points of view and learn how to understand them in the context of the art history.

ART300BC

美術史（西洋）B

安藤　智子

授業コード：A2578　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スクリーンに映し出された芸術作品の画像を見ながら、作品を解説し考察を行っていく。毎回の授業の最後にコメントを書いて提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 現在開催されている展覧会の案内
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	瞬間を捉える	物語を叙述する絵画から瞬間的な場面を捉える絵画への移行を検証する
第 4 回	筆触の多様性	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 5 回	視点とパースペクティブ	絵画空間における視点、及びパースペクティヴに着目し、１９世紀後半から２０世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を探る
第 6 回	影の存在	二次元の平面である絵画に、三次元のオブジェをどのように立体的に描いたのかという観点から、立体性をもたらす影に着目して作品を考察する
第 7 回	再現性の消失	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を検証する
第 8 回	異文化との出会い	主に１９世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 9 回	美術コレクションとコレクター	２０世紀初頭に形成されたコートールド・コレクションやバーンズ・コレクションから現代の個人や企業によるコレクションまでを視野に入れ、コレクターとコレクションについて考察する
第 10 回	美術市場の形成	デュラン＝リュエル、ヴォラールなどの過去の画商の活動を参照し、現代のコレクター、美術批評家、芸術家のネットワークを考える
第 11 回	美術館の役割	収集、収蔵、研究、展示、教育など美術館が持つ機能と役割をロンドンの「ナショナル・ギャラリー」を例に考察する
第 12 回	美術作品の値段	ゴッホの〈ひまわり〉などを例にとり、美術品の値段を社会学的に考察する
第 13 回	展覧会見学	実際の作品を見て、これまでのテーマを検証する 都内の美術館を見学予定
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できれば、春学期と通年で履修してください。
様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。
授業内に資料を配付致します。

【参考書】
授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（80 %）と、出席状況や授業内コメント（20 %）を参考にして評価を出します。また、受講者の人数によっては、試験での評価に変更する可能性もあります。ただし、授業全体の 3 分の 1 を超えて欠席した場合、原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
開催中の展覧会などを授業のなかで積極的に紹介して行きます。

【Outline and objectives】
Based on the modern art and the contemporary art, we will study the construction of art works from the multiple view points and learn how to interpret them in the context of the Art History.

PRI100BC

情報リテラシー実習 A

谷村　順一

授業コード：A2715　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】
インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
インターネットや各種電子情報通信機器の仕組みや扱い方、情報化社会で求められる著作権などの知識の取得とともに、電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学び、読みやすい文書とは何かについて考える。なお「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」をあつかう「情報リテラシー実習 B」とあわせて受講することが望ましい。
※第 1 回目は 5 月 11 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	情報メディアの歴史	メディアの発達と変化
第 3 回	情報メディアの技術的背景	高度情報化社会と人間との関わり
第 4 回	情報リテラシーの実際	ネットリテラシーについて
第 5 回	アナログ情報メディアと視聴覚メディア	電子メディアの特性と活用方法
第 6 回	インターネットによる情報検索と発信方法	各種データベース（OPAC 等）と情報検索方法
第 7 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題①	知的財産制度について
第 8 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題②	法規範や情報倫理について
第 9 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題③	創造活動や知的財産権、情報倫理について
第 10 回	Microsoft Word の基本操作	文字入力と変換、書式設定
第 11 回	Microsoft Word で案内状を作成する	インデント設定など
第 12 回	Microsoft Word で暑中見舞いを作成する	Word での画像の扱い方について
第 13 回	Microsoft Word でメニューを作成する	段組の設定
第 14 回	Microsoft Word で表の入った文書を作成する	Word での表の作成方法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】
参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%＋課題 70%
課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
受講に際しては情報センターのユーザー登録情報が必要です。各自、受講前に必ず確認のこと。

【Outline and objectives】
With the theme of characteristics and utilization of information media like Internet and various electronic media etc. Under the information communication environment which continues to progress daily, not only the technology handling traditional traditional media such as books and magazines, but also the 21st century We will explain information gathering means required for us living in an information society such as knowledge and skill acquisition handling information including copyright.

PRI100BC

情報リテラシー実習 B

谷村　順一

授業コード：A2716　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】
インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。「情報リテラシー実習 B」では主に Microsoft Excel を用いた表作成、PowerPoint で作成したスライドを用いた効果的なプレゼン方法の実際について学ぶため、文書作成で使用する Word を主にあつかう「情報リテラシー実習 A」とあわせて受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	Microsoft Excel ① 基本操作	Excel の基本操作について
第 3 回	Microsoft Excel ② セル、行、列について	表作成に必要となるセル、行、列について
第 4 回	Microsoft Excel ③ ワークシート	ワークシートを用いた効率的な表の管理について
第 5 回	Microsoft Excel ④ 数データ入力方法	数値、連続するデータなどの入力方法について
第 6 回	Microsoft Excel ⑤ 表の作成の実際	罫線などの設定方法について
第 7 回	Microsoft Excel ⑥ 表計算	数式と関数を用いて表計算を行う方法について
第 8 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本操作について
第 9 回	Microsoft PowerPoint での入力と書式① 書体のあつかい	スライドの読みやすさの基本となる書体の選択方法などについて
第 10 回	Microsoft PowerPoint での入力と書式② 見やすいスライドとは	行間、インデント等、スライドの見やすさに直接つながる項目の設定方法について
第 11 回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイアウト① スライドのテーマ	共通テーマを設定することでスライドに統一イメージを持たせる方法について
第 12 回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイアウト② スライドのデザイン	スライドのデザインをより印象的なものとするための背景と配色について
第 13 回	Microsoft PowerPoint でのスライドの切り替え方法	アニメーションとトランジションの設定
第 14 回	総合課題	総合課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】
参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%＋課題 70%
課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
受講に際しては情報センターのユーザー登録情報が必要です。各自、受講前に必ず確認のこと。

【Outline and objectives】
With the theme of characteristics and utilization of information media like Internet and various electronic media etc. Under the information communication environment which continues to progress daily, not only the technology handling traditional traditional media such as books and magazines, but also the 21st century We will explain information gathering means required for us living in an information society such as knowledge and skill acquisition handling information including copyright.

PRI100BC

情報メディア演習 A

武田　俊、新見　直

夜間時間帯
授業コード：A2717　｜　曜日・時限：**金曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における、テキストを中心としたメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。演習形式のため、様々なツールを使い生徒一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。
メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】
実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショプを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
※授業開始日は 4 月 24 日（金）です。
※オンライン講義にで通常の授業開始時間より行います。
※詳細は学習支援システムにて当日までにおしらせします。
原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。
講義では、実際に手を動かしすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	現代メディア論｜現代のメディアの縮図	現代社会におけるメディアやその役割について、俯瞰的にお話します。
第 3 回	現代メディア論｜テキストメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web …現代のテキストメディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第 4 回	記事制作 ワークショップ 1 ｜ WEB メディアにはどのような記事があるか	実在する WEB メディアを参照に、記事のタイプや特徴などをリサーチします。
第 5 回	記事制作ワークショップ 2 ：取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。
第 6 回	記事制作ワークショップ 3 ：記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように扱い記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第 7 回	講評	できあがった記事について、プレゼンと講評を行います。
第 8 回	現代編集論：現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがおり、どのような仕事の仕方をしているかお話します。
第 9 回	メディアに携わる仕事｜雑誌編集者	雑誌の編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 10 回	メディアに携わる仕事｜マンガ編集者	マンガの編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 11 回	企画のつくり方	編集者がどのように企画をつくるのか。講師が企画書の制作の仕方についてレクチャーします。
第 12 回	まとめ	企画書の講評とまとめの講義を行います。
第 13 回	新型コロナウィルス対策の影響により中止	新型コロナウィルス対策の影響により中止
第 14 回	新型コロナウィルス対策の影響により中止	新型コロナウィルス対策の影響により中止

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。
講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】
講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。
加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【その他の重要事項】
講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらうとよいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.
It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

PRI100BC

情報メディア演習 B

武田　俊、新見　直

夜間時間帯
授業コード：A2718　｜　曜日・時限：**金曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における、デジタルメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。時には、様々なツールや SNS を使い、生徒一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。
メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】
実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショプを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。
講義では、実際に手を動かしすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第 3 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの変遷	様々な種類の SNS について、その特徴と主だったコンテンツのあり方をレクチャーします。
第 4 回	SNS ワークショップ 1：コンセプトワーク	実際に SNS のアカウントを構築し、運用するためのコンセプトを考えます。
第 5 回	SNS ワークショップ：コンテンツ制作	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え実際に制作・発信します。
第 6 回	講評	運用された SNS のアカウント・コンテンツについてプレゼンしてもらい、講評します
第 7 回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的にお話します
第 8 回	デジタルメディアを知る	様々なメディアに関わる資料を提供・観賞し、ディベートを行います。
第 9 回	メディアに携わる仕事｜デザイナー	デザイナーとはどのような仕事なのか？　何をするのか？　ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 10 回	メディアに携わる仕事｜フォトグラファー	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？　何をするのか？　ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 11 回	メディアに携わる仕事｜映像作家	映像作家とはどのような仕事なのか？　何をするのか？　ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 12 回	ビブリオバトル 1	書評を戦わせるゲーム「ビブリオバトル」について、そのルールや成り立ちを学び企画してもらいます。
第 13 回	ビブリオバトル 2	実際にビブリオバトルを行います。
第 14 回	まとめ	ビブリオバトルの講評とまとめの講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。
講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】
講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【その他の重要事項】
講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらうとよいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces digital media and how to edit it to students taking this course.
It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

LIN200BD

英語史Ａ

大沢　ふよう

授業コード：A2901　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語史というと、なぜ古い英語を勉強するのかと疑問を感ずる人がいるかもしれませんが、現代英語は例外が多く、外国人学習者にとっては見かけより習得が困難であるといわれます。しかし、英語の変化を少し振り返るだけでその例外にも、ある規則性が働いていることがわかり現代英語の理解も容易になります。この授業はその目的のためにあります。古英語から現代に至るまでの英語の変化の基本的知識の獲得をめざします。音韻変化、文字体系の変化、文法の変化などについて学びます。

【到達目標】
現代英語は、例外の集まりのように思えるが、実はその背後には体系性があり、また規則性があることを理解することをめざします。現代英語についてのより深い理解が得られることをめざします。英語を例外の集まりとして丸暗記するのでなく、法則に基づいた逸脱として理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英語がはじまった 5 世紀ごろから今日にいたるまでの、英語の変化についての基本的な知識を得ることを目標とします。内容は、英語そのものの起源と発達、つまり内面史に重点をおいて講義していきます。が、随時外面史つまり英語国民の歴史にも触れ、どのようにして今日の英語と英国という国が成立していったかを考えていきます。古英語、中英語、近代英語の順に、発音、語彙、文法の変化についてみていきます。A では、英語の成立から古英語までを講義する予定です。授業方法は、講義形式で行います。しかし、聞きっぱなしということにならないように、工夫してみたいと思います。質問はいつでも歓迎します。
授業開始日は、4 月２１日です。こに日の前までに、必要な情報は学習支援システムにあげておきます。
ただ、通信事情などで、この日に学習支援システムにアクセスできない人が資料を受信したりできない場合もあると思いますので、その辺の事情は考慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明 英語史を学ぶ意義
第 2 回	英語の親族語	インド・ヨーロッパ祖語など
第 3 回	英語の位置づけ	言語の類似性は音韻体系が決めてとなる
第 4 回	ゲルマン系言語	多くの兄弟言語の存在
第 5 回	古英語：外面史 (1)	英語成立の歴史的背景について
第 6 回	古英語：外面史 (2)	アングロ＝サクソン七王国と古英語の方言
第 7 回	古英語：文字	キリスト教化と文字文化
第 8 回	古英語の発音 (1)	古英語の母音
第 9 回	古英語の発音 (2)	古英語の子音
第 10 回	古英語：名詞	名詞の性とは：３つの性が存在した
第 11 回	古英語の文法：格	名詞の格：格の果たした役割
第 12 回	古英語の文法：修飾語類	形容詞・指示詞・副詞など
第 13 回	古英語の文法：動詞	動詞の人称変化
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書は、英米人の学生を対象に書かれた専門の入門書を使用するので、自分の英語力を向上させる良い機会だと考えて、自分で教科書をすべて読むくらいの態度で臨んでください。英語の文そのものについても質問する場合があるので、辞書を引きながら英文解釈もやってみてください。
また、必ず専用のノートを用意して、講義を耳で聞きながら、要点をメモできるように努力してください。必ず後で役に立つと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Charles Barber 著 The Story of English　　出版社・英宝社です。他の文献からも内容を取り入れます。必要に応じて、プリントを配布する予定です。
授業の前に必ず目を通しておいてください。

【参考書】
初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。
１冊推薦すると
中尾俊夫・寺島迪子著　『図説英語史入門』大修館書店

【成績評価の方法と基準】
評価は最終授業時間内に行う試験の結果で評価します。加えて授業中に行う小テストや提出物も評価に加えます
試験　80 %+小テスト・提出物 20%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの展開速度を遅くして、理解しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
この授業は、A・B と一応独立した科目となっていますが、春学期・秋学期と通年を通じて履修することを勧めます。英語の歴史を A だけ履修しても、その後の歴史を知らないと意味がありません。また、B から履修しても、その前の事情を知らないと理解が難しくなります。留学などの事情で春学期だけ履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

【Outline and objectives】
The course provides an overview of English language history, focusing on language changes, language contact, and the development into a world language in particular.
Students will study the origin and development of the English language, from its earliest beginnings through Old English, Middle English and Early Modern English.

LIN200BD

英語史 B

関田　誠

授業コード：A2902　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
約 1500 年あると言われる英語史の中で、8 世紀に起きたヴァイキングのイギリスへの侵入から、現代に至るまでの英語の変化・発達に重点を置き講義します。古英語、中英語、近代英語における、発音、語彙、文法の変化に焦点を置き、現代英語の成り立ちを歴史的観点から分析します。

【到達目標】
現代英語の語彙の多さや文法の成り立ちなど、現在の英語の在り方を歴史的観点から捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英語に影響を与えた主な出来事を取り上げ、当時の言語の仕組みを見ます。そして、それが現代英語とどのような結びつきになっているかを、発音、語彙、文法に注目して考察します。授業形態は原則講義形式ですが、講義に入る前にその日の授業について学生に Q & A 方式で答えてもらう時間を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古英語の文法と動詞	動詞の活用変化・語順
第 2 回	古英語の語彙	本来語と借用語
第 3 回	ヴァイキング	スカンジナビア語の流入
第 4 回	ノルマン人の征服	政治的背景とフランス語の流入
第 5 回	中英語①	綴り字と発音
第 6 回	中英語②	語彙・文法
第 7 回	初期近代英語①	語形成・借用語（ラテン語）
第 8 回	初期近代英語②	発音の変化：大母音推移
第 9 回	後期近代英語①	綴りと発音
第 10 回	後期近代英語②	語彙と文法
第 11 回	英語の国際化	オーストラリア英語・アメリカ英語
第 12 回	英語の現在	イギリス英語・方言
第 13 回	英語の未来	これからの英語の在り方を考える
第 14 回	まとめ	総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備：教科書を授業前に読む。
・復習：授業内の説明と照らし合わせながら、再度該当箇所を読む。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Charles Barber 著 『The History of English』(英宝社)
授業の前に必ず目を通しておいてください。

【参考書】
文献リストを初回の授業で配布します。

【成績評価の方法と基準】
・試験　　90 %：記述式
・平常点　10%：リアクションペーパー等

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
この授業は、A・B と一応独立した科目となっていますが、春学期・秋学期と通年を通じて履修することを勧めます。英語の歴史を春学期 A だけ履修しても、その後の歴史を知らないと意味がありません。また、秋学期 B から履修しても、その前の事情を知らないと理解が難しくなります。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

【Outline and objectives】
The course provides an overview of English language history, with a focus on language contact and changes in pronunciation, vocabulary and grammar.
Students will study the developmental process from the origin of the English language to present and beyond, through Old English, Middle English and Modern English.

LIT200BD

英文学史 A

丹治　愛

授業コード：A2903　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[今年度は、家にいる時間が多くなりそうです。その間に、なるべくたくさんの作品を実際に読んでもらいたいと思っています。読んでおもしろいのはなんと言ってもシェイクスピアなので、なるべく早くにシェイクスピアに到達するようにします。とりあえずは４大悲劇のうち『ハムレット』と『マクベス』を読みませんか。]
[もうひとつ、この期間を利用して、イギリスについて、とくにその歴史と地理について、概要を理解できるようになってください。授業でもイギリスの歴史を概観していきますが、岩波新書の『イギリス史 10 講』、中公新書の『物語　イギリスの歴史』など手軽に読めるイギリス史の概説書を読みませんか？]
イングランド統一、ノルマン人による征服、百年戦争、宗教改革（英国国教会の成立）、海洋国家としての台頭、ピューリタン革命、議会制度の確立、農業革命と産業革命、連合王国の形成といった歴史的事件を背景にして、古英語の時代（中世前期）から 19 世紀初頭までのイギリス文学の歴史を駆け足でたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】
イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを学習する。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
授業開始日、４月２４日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期—— *Beowulf*	古代から中世前期までの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 2 回	中世後期—— Chaucer,*The Canterbury Tales*; Malory, *Le Morte d'Arthur*; Langland, *Piers Plowman*	中世後期の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	ルネサンス（物語）—— More, *Utopia*	ルネサンスの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（物語）的状況を学習する。
第 4 回	ルネサンス（詩）—— Spenser,*The Faerie Queene*; Shakespeare, *The Sonnets*	ルネサンスの言語的・文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	Shakespeare 映画を見て、ディスカッション	Shakespeare 映画のひとつを見て、その内容について議論する。
第 6 回	ルネサンス（劇）—— Shakespeare, *Richard II*; *King Lear*; *As You Like It*	ルネサンスの言語的・文化的・文学（劇）的状況を学習する。
第 7 回	17 世紀—— Bunyan, *Pilgrim's Progress*; Milton, *Paradise Lost*; *Paradise Regained*	17 世紀の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 8 回	18 世紀前半（小説）—— Defoe, *Robinson Crusoe*	18 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 9 回	18 世紀後半（詩）—— Wordsworth & Coleridge, *Lyrical Ballads*	18 世紀後半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。

第 10 回	19 世紀前半（詩）―― Blake, *Milton* , Wordsworth, *The Prelude*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 11 回	Austen 映画を見て、ディスカッション	Austen, *Sense and Sensibility* を見て、その内容について議論する。
第 12 回	19 世紀前半（小説）（1）―― Austen, *Sense and Sensibility*; *Pride and Prejudice*; *Northanger Abbey*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 13 回	19 世紀前半（小説）（2）―― Austen, *Emma*; *Mansfield Park*; *Persuasion*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料。
Shakespeare の作品ひとつと Austen の作品ひとつ。

【参考書】
教科書以外で、授業であつかうことになる作品。
Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリスの歴史を概観できること。
２．それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験あるいは期末レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアクティブラーニング的な要素を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
質問は授業中に積極的におこなってください。

【Outline and objectives】
This lecture treats the history of English and British literature from the era of the Old English (the early Medieval period) to the early 19th century, with the background of such historical incidents as the Unification of England, the Norman Conquest, the Hundred Years' War, the English Reformation (the Establishment of the Church of England), the Rise as a Maritime State, the English Revolution, the Formation of the Parliamentary System, the Agricultural Revolution and the Industrial Revolution, the Formation of the United Kingdom. In particular, this lecture selects works having relevance to the English national identity, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

LIT200BD

英文学史Ｂ

丹治　愛

授業コード：A2904　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業革命の結果としての急激な都市化、それと反比例する農村の衰退、帝国主義的展開と植民地の拡大、国民退化論の流行、二つの世界大戦、福祉国家への転換、英国病の蔓延とサッチャリズムといった歴史的事件を背景にして、19 世紀から 20 世紀後半までのイギリス文学の歴史をたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】
イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを学習する。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀初頭までの流れ）	19 世紀初頭までの英文学史の流れを、ナショナル・アイデンティティと関連させながら概観する。
第 2 回	19 世紀前半―― Dickens, *Oliver Twist*; Brontë, *Wuthering Heights*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	19 世紀なかば（小説）―― Gaskell, *North and South*; Eliot, *Adam Bede*	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 4 回	19 世紀なかば（詩）―― Tennyson, "In Memoriam"; Arnold, "Dover Beach"	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	19 世紀末―― Hardy, *Tess of the D'Urbervilles*; Morris, *News from Nowhere*	19 世紀末の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 6 回	20 世紀前半（1）―― Gissing, *The Private Papers of Henry Rycloft*	1900 年代の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 7 回	映画 *Howards End* を見てディスカッション	映画 *Howards End* を見て、その内容について議論する。
第 8 回	20 世紀前半（2）―― Forster, *Howards End*; *Maurice*	1910 年代の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 9 回	20 世紀前半（3）―― Woolf, *Mrs Dalloway*; *Between the Acts*	戦間期の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 10 回	20 世紀前半（4）―― Country House Novels	いくつかのカントリーハウス・ノヴェルをとりあげながら、カントリーハウスの文化史をたどる。
第 11 回	20 世紀後半（1）―― Osborne, *Look Back in Anger*; Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	第二次大戦後の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 12 回	映画 *The Remains of the Day* を見て、ディスカッション	映画 *The Remains of the Day* を見て、その内容について議論する。
第 13 回	20 世紀後半 (2) ―― Ishiguro, *The Remains of the Day*	20 世紀後半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。

第 14 回　期末試験とまとめ　　学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料。
授業であつかう作品のうち２つ（１つは *The Remains of the Day*）。

【参考書】
教科書以外で、授業であつかうことになる作品。
Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリスの歴史を概観できること。
２．それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験あるいは期末レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアクティブラーニング的な要素を増やしていきたい。

【Outline and objectives】
This lecture follows the history of English and British literature from the 19th century to the latter half of the 20th century, with the background of such historical incidents as the rapid urbanization as a result of the Industrial Revolution, the decline of rural areas inversely proportional to it, the development of imperialism and the expansion of colonies, the spread of the national degeneration theory, the outburst of two World Wars, the formation of a welfare state, the diffusion of the British disease and the appearance of Thatcherism as the reaction to it. This lecture selects works with relevance to the national identity of England, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

LIT200BD

米文学史 A

宮川　雅

授業コード：A2905　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
春学期Aは、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティヴ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。が、その前に 1960 年代以降の現代文学について概説する。
いっぽう今年ははじめて教科書を使用する（絶版の本なのでプリントを配布）。少なくとも二つの異なった視点からアメリカ文学のヴィジョンめいたものをこしらえてみたい。
目的は、
(1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
(2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティヴを得ることである。

【到達目標】
(1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6) アメリカ文学について人に語れる。
(7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
前期のAでは 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。
講義。教科書の一章を読んできて、アバウトにはそれぞれの章におよそ２週間をかけて講義をする（該当しない内容も語る）。春学期はボルヘスの本の全 14 章の [1]〜[7] 章までと [13] 章を行きつ戻りつする。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。（前回のプリントの残りを毎度教室に持っていくとは限らないので、休んだ者は 601 研究室にもらいに来るなり、友人のをコピーさせてもらうなりの努力をしていただきたい。なるべく時間をおかずに学習支援システムにあげられるものはあげるけれども。）
【4/20 追記】春学期の少なくとも前半以上が「オンライン」での開講となります。それにともなう各回の授業計画（シラバス）の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日はいちおう 4 月 27 日ですけれども、教室授業の時間（月曜２時限）にいわゆる双方向型 Web 会議システムの授業をするにはいたらず、読書用作品リストや課題レポートの提示や、教科書（今年からの変更で、指定テクストを使用することにしちゃった——Jorge Luis Borges の英訳本とそれへの注釈）の pdf のアップロード → ダウンロードなどの作業をおこなってもらうべく、イントロダクションの言葉を、これもプリントとしてアップロードして責をふたぎたいと考えます。そんなかたちが初回のみならず数回は続く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ボルヘスと（北）アメリカ文学	イントロダクション：授業の進め方と課題について／教科書プリントの配布
第 2 回	アメリカ文学とＳＦ、探偵小説、ウェスタン	1960 年代以降のアメリカ現代文学①／ [13]The Detective Story, Science Fiction, & the Far West
第 3 回	ポストモダンの文学	1960 年代以降のアメリカ現代文学②／ピンチョン、バース、ボルヘス
第 4 回	植民地時代の文学	エレジーと名前の重要性／ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力／ [1] Origins
第 5 回	ベンジャミン・フランクリンとアメリカの夢／チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について／プロテスタンティズムと資本主義の精神／自伝とフィクション／ノヴェル対ロマンス／ [2] Franklin, Cooper, & the Historians

第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタン的英雄像／フロンティアと文学的想像力／ [2] Franklin, Cooper, & the Historians
第 7 回	ワシントン・アーヴィングとエドガー・アラン・ポー	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア／アメリカの短篇小説／ [2] Franklin, Cooper, & the Historians ／ [3] Hawthorne & Poe
第 8 回	ポーとナサニエル・ホーソーン	ロマン主義とゴシック／ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義／ホーソーンの小説論／ [3] Hawthorne & Poe
第 9 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義と自己信頼／ [4] Transcendentalism
第 10 回	超絶主義とホイットマン	ソローとホイットマン／ [5] Whitman & Herman Melville
第 11 回	メルヴィルの思想小説	小説の極限について／長篇・短篇・詩／ [5] Whitman & Herman Melville
第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説／プロット、ストーリー、キャラクター／女性読者・女性作家・男性作家
第 13 回	ロングフェローとエミリー・ディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統 [4] Transcendentalism ／ [7] Three Poets of the Nineteenth Century
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会／ [6] The West

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記「授業計画」の「内容」の [番号] はボルヘスの本の章番号を示している。教室でも予告するが、該当する箇所を前もって読んでくることが求められる（確認の小テストをおこなうこともある）。
積極的に作品も読むこと。代表的作品のリストを初回に配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としますが、予習（読書）に力を注いでいただきたい。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。可能な限り学習支援システムにファイルをアップロードする。

【参考書】
現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義　アメリカ文学史 [全４巻]』（研究社、2007, 2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社, 2010）である。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている ⇒ これ [英訳本] を今年は教科書にしてみる）。
さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を２冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソーン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) アメリカ文学作品を読んでのレポート（20 %）、(3) 期末試験（60 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。
【4/20 追記】春学期の少なくとも前半が「オンライン」開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も修正があり得ます。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
こわくならないようにやさしく話すこと。むつかしくなりすぎないようにやさしく話すこと。

【その他の重要事項】
後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】
This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

米文学史 B

宮川　雅

授業コード：A2906　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
秋学期Ｂは、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】
(1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6) アメリカ文学について人に語れる。
(7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
秋学期も春学期に引き続き、ボルヘスのアメリカ文学講義のプリントを使用する（[6] 章の The West に戻って南北戦争とアメリカ文学のリアリズムの話から）。教科書とプリントを併用・補完する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体／教科書プリントや資料の再配布／ [6] The West
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について／ [6] The West
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊と視点の問題	小説の視点（point of view）／ [9] The Expatriates
第 5 回	フランク・ノリス、スティーヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学／ [8] The Narrators
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学／ [8] The Narrators ／ [9] The Expatriates
第 8 回	ＳＦと探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題／ [13] The Detective Story, Science Fiction, & the Far West
第 9 回	Ｔ・Ｓ・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩／ [10] The Poets ／ [9] The Expatriates
第 10 回	アメリカン・シアター	演劇とミュージカル／メロドラマと大衆演劇／ [12] The Theater
第 11 回	1930 年代・1940 年代から戦後へ	[11] The Novel
第 12 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学
第 13 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学／ピンチョンとパース	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える／ポスト=モダンな意識とは何か

第 14 回　アメリカ・インディアンとアメリカ文学　[14] The Oral Poetry of the Indians

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントを読んで考えること。積極的に作品も読むこと。代表的作品リストを初回に配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。

【参考書】
渡辺利雄『講義　アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007, 2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社, 2010)
Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 作品 1 冊を読んでのレポート（20 %）、(3) 期末試験（60 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】
やさしさを心がける。

【その他の重要事項】
前期（春学期）の「米文学史Ａ」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】
This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIN100BD

英語学概論Ａ

椎名　美智

授業コード：A2804　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学の研究領域の全体を、２セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるようにします。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく１年次に履修することが望ましいと思います。

【到達目標】
英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始は 4 月 21 日です。毎週、HOPPII「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしいことを入れます。できればテキストを手に入れてください。授業日が火曜日 3 限ですので、必ず、その日、その時間に覗いてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。少し慣れてきたら、zoom を使って皆さんと繋がります。
＊＊＊＊＊＊＊
「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。
英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。
リアクションペーパーは毎時間、必ず提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション HOPPI を見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第 3 回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第 4 回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第 5 回	形態論 (2)	形態論と形態素
第 6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第 7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第 8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第 9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第 10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第 11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第 12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第 13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第 14 回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、配付されたハンドアウトは必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】
内容ごとに参考文献や資料を紹介し、ハンドアウト等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
通常の授業では、「学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。」ですが、今年度は遠隔授業になったので、検討します。決まったら、お知らせしますので、情報をよく見ておいてください。

【学生の意見等からの気づき】
進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】
課題は、基本的にハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】
・パワーポイントの資料は、必要な場合は、授業後に授業支援システムにアップします。
・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

LIN100BD

英語学概論Ｂ

大沢　ふよう

授業コード：A2805　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】
この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第２言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習:母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説:子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析 (1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語構造の解析 (2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第 11 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 12 回	言語習得 (２)	言語習得を説明する主な理論
第 13 回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第 14 回	学期のまとめ	授業内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎、日比谷潤子、ブレント　デ・シェン　著
くろしお出版

【参考書】
初回の授業で詳しい文献リストを配布する予定です。
また、指定した教科書以外からの文献も利用する場合があります。その場合は、該当箇所をこちらで用意して配布します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に示した、その分野の基礎的知識が充分に理解できているかで評価します。試験は基本的に記述式で行います。選択肢から答えを選ぶような方式の試験は極力行わない方針です。
試験　８０％
平常点　２０％

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの展開の速度が速く、ノートが取りづらいと言う指摘があったので、その点を改善したいと思います。

【その他の重要事項】
できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。また、授業の内容をまとめた資料などを配布しますが、それ以外に自分でもきちんとノートを取る習慣を身につけてください。話を聞きながら、あるいは画面を見ながら、重要だと思ったことを記録できる能力は一生役にたちます。
授業の構成は順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合もあります。
出席は毎回とります。

【Outline and objectives】
This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language.Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

LIN100BD

言語学概論 A

石川　潔

授業コード：A2806　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、授業計画そのものはオンライン化によっては大幅に変更されない見込みです（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。
本授業の開始日は、4 月 22 日を予定しています。「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信、学習支援システムでのテスト」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。初回は、授業内容のオリエンテーションや動画ファイルの見方の解説の pdf ファイルを配信する予定です。初回以降の見込みについても、その際、pdf ファイルに記入しておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その１（音声学・音韻論）	*party* はカタカナで何と言うべき？
第 3 回	「音素」その２（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その１（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その２（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その１（統語論）	「５文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その２（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その３（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その４（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その５（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その６（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その１	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その２	*Without her contributions failed to come in.* ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてハンドアウトを配布します（教室での配布は致しません。）

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
「オンラインでの提出課題」＋期末試験、または「オンラインでの提出課題＋期末課題」（現状ではまだよくわかりません）。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
理解度を上げるべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは学習支援システムにて配布。
学習支援システムには自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、法政 gmail で、自分がアクセスするメアドへの自動転送を設定しておく）こと。

【その他の重要事項】
ハンドアウト類は学習支援システム上で配布します。教室での配布は一切しません。
私語は厳禁。
その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/ を参照のこと。
なお、この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】
An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN100BD

言語学概論Ｂ

石井　創

授業コード：A2807　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】
１．言語学の各分野における基礎知識を理解できる
２．言語的な事実の気付きに敏感になる、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
３．科学研究の方法論に対し、正しい認識をもつ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式ですが、内容理解を助けるために、受講者が練習問題を解く時間を設ける授業回もあります。教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑い直す姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問・コメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介していくつもりです。なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論１	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論２	語の作られ方
第 5 回	形態論３	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学１	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学２	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論１	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論２	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論３	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第 13 回	意味論１	意味の記述と語彙分解
第 14 回	意味論２	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の準備・復習時間は、各２時間とします。
１．準備
前回の授業内容を理解していることを前提に、その日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。さらに、配布されたハンドアウトに次回の授業内容が含まれている場合、その部分にもあらかじめ目を通しておくと、次回の内容理解の助けとなるでしょう。
２．復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいです。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1．期末試験 100%
2．授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）。

【学生の意見等からの気づき】
1．一昨年度の「説明を聞き逃すと理解が追い付かなくなる」という学生からの意見に基づき、昨年度は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されました。また、1つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、一昨年度は終わらせることができた予定学習範囲を昨年度はすべてカバーすることができませんでした。従い、本年度は授業中に学生の理解度をより細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、上記した昨年度の問題を解消できるように努めていきます。
2．昨年度は授業中に学生が練習問題を解く機会を増やしましたが、それに対して「具体例で実際に手を動かしながら考えてみることで、理解が促進された」等の好意的な意見を多くもらいました。よって、本年度も昨年度と同様に、練習問題を解く時間を授業内に積極的に設けていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics on these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名　美智

授業コード：A2808　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
互いに日本語で話をしているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論的意味」と「語用論的意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一局面を探ります。
講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一局面を探ります。

【到達目標】
授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。テキストは英語なので、予習・復習が必要です。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第１章：ポライトネスの背景（１）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第１章：ポライトネスの背景（２）	ポライトネスについて
第 5 回	第２章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（１）	効率と配慮について
第 6 回	第２章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（２）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第３章：敬語とポライトネス（１）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第３章：敬語とポライトネス（２）	敬語と距離感について
第 9 回	第４章：距離とポライトネス（１）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第４章：距離とポライトネス（２）	呼称と指示語について
第 11 回	第５章：ポライトネスのコミュニケーション（１）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第５章：ポライトネスのコミュニケーション（２）	言語の形式と機能について
第 13 回	第６章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
滝浦真人（２００８）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】
「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは火曜日４限です。
「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline and objectives】
This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川　潔

授業コード：A2809　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】
現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的なネタを取り上げた講義、および、訳や作文の実習。
授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その１）	うなぎ文（その１）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その２）	うなぎ文（その２）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その１）	代名詞と役割語
第 4 回	「訳」についての誤解（その２）	意味と文法的手段
第 5 回	ハとガ、英語の冠詞（その１）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その２）	情報の新旧説……日本語の助詞、および英語の倒置構文
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その３）	ハとガは、本当はもっとややこしい……。
第 8 回	「黒人」英語（その１）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その２）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その３）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その４）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	*do* の３単現（その１）
第 13 回	音節量	*do* の３単現（その２）
第 14 回	外来語での音節量調整	*do* の３単現（その３）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えて（書いて）きてください。
また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーのあり方に賛否両論ありました。良い側面を残しつつ悪い側面をなくす（減らす）方策を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、自分が普段アクセスするアドレスへの自動転送を法政 gmail で設定しておく）こと。

【Outline and objectives】
Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

LIN200BD

社会言語学

塩田　雄大

授業コード：A2810　｜　曜日・時限：木曜１限
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。
社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティー／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを全般的に射程に入れつつ、日本語社会を対象とした「近年の言語変化」「近年のことばの地域差」について重点的に取り上げる。毎回の課題準備と学生どうしの意見交換を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】
社会言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【4/21 更新】講義時間帯には、PC（あるいは wifi につないだタブレット・スマホ）を使うことができるのであれば、そちらを用いるようにしたほうがさらに望ましい（ただし、wifi 接続のために学校や無料 wifi スポットに行く必要はない）。講義の質を確保しつつ、できるかぎりデータ通信量を要しない進行方法を検討中である。
【4/17 更新】春学期はすべてオンラインでの開講になる可能性あり。授業計画の変更および各種指示は、4/22 まではこのシラバス上で、4/23 以降は学習支援システム上で提示する予定なので、注意されたい。本授業の開始（講義全般の説明）は 4/23（木）8:50 とする。この時刻に、学習支援システムの「お知らせ」を参照するようにすること。
▼基本的に、春学期毎週１限（8:50 開始）の実施とする。履修にあたっては、この時間帯に落ち着いて PC(あるいはスマホ）の前にいられる環境が整えられることを前提としておくこと。
▼オンラインでの講義にあたっては、できるかぎりデータ容量を要しない方法を検討している。
▼テキストは当初予定のものを用いる予定なので、必ず購入すること。大学構内の書店に発注済み（通信販売可）だが、履修を決めた学生はほかのルートで早めに入手しておいてもよい（予習しておくとさらによい）。５月初旬までは毎回のテキストの部分的コピーを学習支援システム上にアップすることも検討しているが、履修登録（本登録）期間終了後は各自がテキストを持っていることを前提に講義を進める。
【以下は旧情報のため取り消し】講師による講義形式のものだけではなく、毎回、小グループに分かれての学生どうしでの意見交換の実施を検討している。また、スマホ・タブレット・ＰＣを用いたアンケートや意見収集を講義中におこなうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	ことばの多様性	現代におけることばの地域差　ほか
第 3 回	ことばの年齢差	「『やらさせていただきます』はおかしい？」「自分の呼び方は『うち』『わたし』『わたくし』？」　ほか
第 4 回	ことばの変化を把握する	いまある「年齢差」から将来の言語変化を推測できるか　ほか
第 5 回	さまざまな資料の活用	ネット上の諸情報を社会言語学的なデータとして扱うためには　ほか
第 6 回	発音の変化	演歌と J-POP の発音はどう違うのか　ほか
第 7 回	アクセントの変化①	アクセントの平板化　ほか
第 8 回	アクセントの変化②	方言での変化、英語での変化　ほか
第 9 回	動詞可能表現の変遷・変化	「何かを信じてこれたかなぁ」はだめなのか　ほか
第 10 回	形容詞・形容動詞の変遷・変化	「このカレーまじヤバい」「ピンクなシャツ」はおかしいか　ほか
第 11 回	副詞の変遷・変化	「全然ＯＫ」はＯＫか　ほか
第 12 回	配慮表現	「この講義では何を教えるつもりですか」は失礼か　ほか
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【4/17 更新】課題の事前準備として、テキストの批判的検討と、各章末の「練習問題」の回答を求める予定である。
【以下は旧情報のため部分的に取り消し】課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には、課題対応・予習・関連書籍閲読で合計４時間以上）がかかるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】
『はじめて学ぶ社会言語学』（日比谷潤子編著、ミネルヴァ書房、2012 年、2,800 円＋税）
https://www.minervashobo.co.jp/book/b96144.html
専門的な内容も含まれているため必ずしも安価ではないが、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】
一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。
（1）『新世代の言語学　－社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか 編著、くろしお出版、2003 年、1,800 円＋税）
（2）『新版　日本語語用論入門』（山岡政紀・牧原功・小野正樹、明治書院、2018 年、1,600 円＋税）
（3）『朝倉日英対照言語学シリーズ［発展編］1　社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017 年、3,200 円＋税）
（4）『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、2013 年、840 円＋税）
（5）『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、2013 年、800 円＋税）
（6）『日本語の配慮表現の多様性』（野田尚史ほか、くろしお出版、2017 年、3,700 円＋税）

【成績評価の方法と基準】
【4/17 更新】オンラインでのスタートとなったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
【以下は旧情報のため取り消し】毎回の事前準備課題　30 %
意見交換での議論活性化への寄与度　10 %
最終レポート　60 %
講義への全出席を求めるものではないが、ほぼ欠かさず出席して頭を慣らし、自分なりに考える習慣をつけていかない限り、最終レポートが及第点に至ることはおそらくないと思われる。課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したものも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は優秀な学生も多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
【4/17 更新】オンラインでの開講にともない、各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。
【以下は旧情報のため部分的に取り消し】「ふだんよく見るメールアドレス」「word が使える環境」「配布資料を綴じるためのＡ４縦型二穴ファイル（紙ファイルでよい）」を準備しておくこと。
連絡事項をメールで伝える場合があり、またレポート提出もメールを用いるため、（ＳＮＳアカウントではなく）添付ファイル送受信可能なメールアドレスを各自確定させ、講義期間中は受信メールを定期的に確認すること（「メールを見ていませんでした」ということのないように）。
また、レポートの執筆は word を用いることを原則とする（添削を加えるため）。word 以外のワープロソフトを使用している学生は、事前に相談されたい。

【その他の重要事項】
質問・相談は、講義終了後、あるいはメールにて随時受け付ける。講師アドレスは初回講義時に周知する。
本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。留学生の受講も歓迎する。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】
To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.
The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. divercity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range generally, while the themes of "language change in recent years" "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis.

LIN200BD

応用言語学

福田　純也

授業コード：A2811　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、応用言語学のうち言語習得にかかわる基本的問題についてとりあげる。まず、言語研究を通して解明されうる心の問題にはどのようなものがあるのかを理解し、その問題を解き明かすために使用される言語の分析方法や心理学的実験手法に関する基礎的知識を身につける。

【到達目標】
(1) 言語研究を通して解明されうる心の問題にはどのようなものがあるのかを理解する
(2) 先行研究ではどのような言語の分析方法や心理学的実験手法が用いられてきたかを理解する
(3) 当研究分野でどのような研究が行われてきたのかを俯瞰し、研究における問いの立て方・解決の仕方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
4/22 より開始。授業支援システムに資料と課題を掲載するので、それを参照し、指示に従ってください。資料と授業支援システム内の掲示板を使用して、演習方式で授業を展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要および応用言語学という学問の紹介
第 2 回	心の問題 1	言語一般と習得にかかわる問題について
第 3 回	心の問題 2	第二言語習得に特徴的な／特有の問題について
第 4 回	生成的アプローチによる言語習得	生成文法に基づく言語習得論を概観する
第 5 回	UG 原理から言語獲得への予測	第 4 回目に学んだ理論をもとに、言語獲得に関してどのような予測が成り立ち、どのように検証されてきたのかを知る
第 6 回	認知的アプローチによる言語習得論 1	認知言語学およびその関連分野の知見に基づく言語習得論を概観する
第 7 回	認知的アプローチによる言語習得論 2	特に第二言語の習得に焦点を当て、認知的アプローチによる言語習得が生成的アプローチとどのように異なるかを知る
第 8 回	語彙獲得 1	語彙獲得において、どのような論理的問題があるのかを学ぶ
第 9 回	語彙獲得 2	語彙の形式・概念の近年の研究をとりあげる
第 10 回	意識的・無意識的言語習得 1	意識的・無意識的な言語習得において、何が問題なのかを知る
第 11 回	意識的・無意識的言語習得 2	意識的・無意識的な言語習得において、どのような調査がなされ、なにがわかってきているのかを把握する
第 12 回	意識的・無意識的言語習得 2	言語習得における意識の現象論的側面にかかわる問題についてとりあげる
第 13 回	復習・総括	これまでに学んだことを復習・総括する
第 14 回	到達度確認	到達度確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内の学習のみで本演習の扱う基礎的知識を身につけることは極めて困難であることを理解し、講師が授業内で示したポイントについて毎授業後に復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はない。ハンドアウト等を配布する。

【参考書】
『外国語学習に潜む意識と無意識』開拓社、2018 年
『詳説第二言語習得研究− 理論から研究法まで』研究社、2010 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート・到達度確認 70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This lesson focuses on the fundamental issues related to language acquisition in applied linguistics. Students are required to understand what kind of mental problems can be elucidated through linguistic research, and to gain basic knowledge on methods for linguistic analysis and for psychological experiment to address these issues.

LIT200BD

英米文学講義ＩＡ

宮川　雅

授業コード：A2907　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。
(1) 英米文学作品テクストを具体的にかじり読みし、
(2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
(3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】
(1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
(2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
(3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。
【4/20 追記】春学期の少なくとも前半以上が「オンライン」での開講となります。それにともなう各回の授業計画（シラバス）の変更については、学習支援システムでその都度か、ある程度まとめてか、提示・説明します。本授業の開始日はいちおう４月 24 日ですけれども、教室授業の時間（金曜４時限）にいわゆる双方向型 Web 会議システムの授業をするにはすぐにはいたらず、イントロダクションの言葉を pdf にしてアップロードし、読んでもらい、質問を掲示板を使って受けることにします。映画は観られそうもないので、課題のレポートとそれに関する文献紹介や解説を５月にかけて集中的におこないたいと考えます（いろいろな文献を pdf にして学習支援システムにあげ、講義的な原稿をこしらえて併せて読んでもらうかたちを考えています。いちおうは Web シラバスに載っている授業内容を映画以外は消化してゆくつもりでいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	スタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリスとアメリカの特性。
第 7 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカ短篇小説
第 8 回	話法について	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 10 回	イギリスの短篇小説を読む（1）	19 世紀イギリス短篇小説。
第 11 回	Voice について	「態」と声。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	*OED* その他の標準辞典。
第 13 回	スタイルについて	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】
豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社, 1981）
豊田昌倫『英語のスタイル――教えるための文体論入門』（研究社, 2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel*　『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験　60 パーセント
【4/20 追記】春学期の少なくとも前半が「オンライン」開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も修正があり得ます。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
課題を過大にしない。

【Outline and objectives】
This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature.　Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義Ⅰ B

宮川　雅

授業コード：A2908　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。
(1) 英米文学作品テクストを具体的にかじり読みし、
(2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
(3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】
(1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
(2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
(3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコーダンス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテクストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	話法について	とりわけ中間話法について
第 9 回	翻訳について	誤訳、直訳、意訳。
第 10 回	英詩の構造	versification, rhyme, meter, foot。
第 11 回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第 12 回	キャラクターについて	round character と flat character。
第 13 回	イギリスの短篇小説を読む（2）	20 世紀のイギリス短篇小説を読む。
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験　60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】
前期春学期の「英米文学講義ＩＡ」からの継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】
This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

丹治　愛

授業コード：A2909　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[今年度は、家にいる時間が多くなりそうです。その間に、なるべくたくさんの作品を実際に読んでもらいたいと思っています。今学期あつかう作品のなかで、読んでおもしろいのは、スイフトの『ガリヴァー旅行記』第４部、オースティンの『ノーサンガー・アビー』、シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』、ディケンズの『クリスマス・キャロル』でしょういか。がんばって多読を楽しんでみませんか。]
代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18 世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】
18 世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870 年以前）までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
授業開始日、４月２１日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第 2 回	Defoe, *Robinson Crusoe* とピカレスク小説	*Robinson Crusoe* をテクストにして、ピカレスク小説について学習する。
第 3 回	Swift, *Gulliver's Travels* と風刺	*Gulliver's Travels* をテクストにして、風刺文学について学習する。
第 4 回	*Gulliver's Travels*（映画）	*Gulliver's Travels* の映画を見て、その内容を議論する。
第 5 回	Richardson, *Pamela* と書簡体小説	*Pamela* をテクストにして、書簡体小説について学習する。
第 6 回	Fielding, *Joseph Andrews* と三人称の語り	*Joseph Andrews* をテクストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第 7 回	Sterne, *Tristram Shandy* とメタフィクション	*Tristram Shandy* をテクストにして、メタフィクションについて学習する。
第 8 回	Walpole, *The Castle of Otranto* とゴシック的伝統	*The Castle of Otranto* をテクストにしてゴシックについて学習する。
第 9 回	*The Castle of Otranto*（映画）と Radcliffe, *The Italian*	*The Castle of Otranto* の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第 10 回	Austen, *Northanger Abbey* と自由間接話法	*Northanger Abbey* をテクストにして、自由間接話法について学習する。
第 11 回	*Northanger Abbey*（映画）	*Northanger Abbey* の映画を見て、その内容について議論する。
第 12 回	Brontë Sisters, *Jane Eyre* & *Wuthering Heights*	*Jane Eyre* & *Wuthering Heights* をテクストにして、女性の文学について学習する。
第 13 回	Dickens, *Oliver Twist* 以後の社会小説	*Oliver Twist* をテクストにして、社会小説について学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書く。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料
授業であつかう作品のうち２つ

【参考書】
『講座英米文学史８　小説Ⅰ』『講座英米文学史９　小説Ⅱ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
２．それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験あるいは期末レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】
While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ B

丹治　愛

授業コード：A2910　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19 世紀末から 21 世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】
19 世紀末から 21 世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして 19 世紀末までの小説の展開を概観する。
第 2 回	映画 *Bram Stoker's Dracula* を見てディスカッション	映画 *Bram Stoker's Dracula* を見て、その内容を議論する。
第 3 回	世紀末のゴシック（1）恐怖小説とファンタジー―― *Dr Jekyll and Mr Hyde*, *Dracula*, *The Princess and the Goblin*	*Dr Jekyll and Mr Hyde* などをテクストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第 4 回	世紀末のゴシック（2）ミステリーとＳＦ―― Sherlock Holmes もの、*The Time Machine*	*The Time Machine* などをテクストにして、ミステリーとＳＦについて学習する。
第 5 回	唯美主義―― *The Picture of Dorian Gray*	*The Picture of Dorian Gray* をテクストにして、唯美主義について学習する。
第 6 回	主観的・内的リアリズム―― *Heart of Darkness*, *The Secret Agent*, *Mrs Dalloway*	*Heart of Darkness* などをテクストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第 7 回	芸術家小説―― *A Portrait of the Artist as a Young Man*, *Sons and Lovers*, *To the Lighthouse*	*To the Lighthouse* などをテクストにして、芸術家小説について学習する。
第 8 回	アンチユートピア―― *Nineteen Eighty-Four*	*Nineteen Eighty-Four* をテクストにして、アンチユートピアについて学習する。
第 9 回	怒れる若者たち――"The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner"をテクストにして 1950 年代の小説について学習する。
第 10 回	ヒストリオグラフィカル・メタフィクション―― *The French Lieutenant's Woman*	*The French Lieutenant's Woman* などをテクストにして、ヒストリオグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第 11 回	マジック・リアリズム―― *Midnight's Children*	*Midnight's Children* などをテクストにして、マジック・リアリズムについて学習する。
第 12 回	映画 *Atonement* を見てディスカッション	映画 *Atonement* を見て、その内容について議論する。
第 13 回	ポストモダン・メタフィクション―― *Atonement*	*Atonement* をテクストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。

第 14 回　期末試験とまとめ　　全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料
授業であつかう作品のうち２つ

【参考書】
『講座英米文学史９　小説Ⅱ』『講座英米文学史 10　小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
２．それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験あるいは期末レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】
While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIN200BD

英語学講義Ａ

大沢　ふよう

授業コード：A2911　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題をとく機会を設けたいと思います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。理解度を把握して授業内容に活かします。
授業開始日は、4 月２１日です。こに日の前までに、必要な情報は学習支援システムにあげておきます。
ただ、通信事情などで、この日に学習支援システムにアクセスできない人が資料を受信したりできない場合もあると思いますので、その辺の事情は考慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の真実
第 3 回	基本的な概念について	学校英文法の見直し
第 4 回	構造とは何か	１年次で学習してきたことの復習
第 5 回	統語構造の基本	主要部、補部、付加詞について
第 6 回	句構造について	じつは名詞句、動詞句は内部構造は同じである
第 7 回	パラメター	英語と日本語の違いについてー主要部パラメターの違い
第 8 回	構造には２種類ある	深層構造と表層構造
第 9 回	統語構造を作り出す操作ー (1)	どのような基本的操作があるのか
第 10 回	統語構造を作り出す操作ー (2)	どのように、表層構造を作り出すのか
第 11 回	英語の基本的構造ー (1)	深層構造を設定することで説明が可能な構文
第 12 回	英語の基本的構造ー (2)	意味の違いは構造の違いによる
第 13 回	構造と意味の関係	言語は構造が命であるが、そこには意味も関わること
第 14 回	春学期のまとめ	総括としての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
１冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】
初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。
辞書は、以下のものが使い易いです。
Collins COBUILD Advanced Dictionary
Oxford Dictionary of English
Longman Dictionary of Contemporary English
研究社新大英和辞典
ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】
最終試験が６０％

授業中に行う小テストなどの結果　３０％
平常点　１０％

【学生の意見等からの気づき】
説明をわかりやすく工夫したいと思います。授業の冒頭では、前回の講義のまとめを簡単に行います。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

【Outline and objectives】
This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

LIN200BD

英語学講義Ｂ

大沢　ふよう

授業コード：A2912　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。B の授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題をとく機会を設けたいと思います。リアクション・ペーパーの提出も時々してもらいます。理解度や興味を把握し、授業の内容に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の特徴	現代英語は習得しやすい言語ではない
第 3 回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	英語の動詞	非定形動詞について
第 5 回	形容詞＋ to 不定詞構文	現代英語の形容詞＋ to 不定詞構文の多様さ
第 6 回	to 不定詞を使った構文ー(1)	現代英語の to 不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第 7 回	to 不定詞を使った構文ー(2)	共通の性質を持つ不定詞構文について
第 8 回	to 不定詞を使った構文(3)	どこが共通でどこが違うのか
第 9 回	深層構造から見た違い	同じ表層構造でも、深層構造が違う文
第 10 回	統語操作	どのような統語操作が適用されているか
第 11 回	移動分析	移動分析が適用されている構文
第 12 回	形式主語を使った構文	深層構造が同じでも、表層構造が違う構文
第 13 回	理論を使った分析	理論を使うことで、意味の違いが構造によるものであることが理解できる
第 14 回	理論分析の利点	従来の伝統的な考え方との違い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
１冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】
初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。
辞書は、以下のものが使い易いです。
Collins COBUILD Advanced Dictionary
Oxford Dictionary of English
Longman Dictionary of Contemporary English
研究社新大英和辞典
ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】
最終試験が６０％
授業中に行う小テストなどの結果　３０％
平常点　１０％

【学生の意見等からの気づき】
授業中に行う小テストの返却時の説明を丁寧に行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures

LIN200BD

言語学講義Ｉ Ａ

石川　潔

授業コード：A2913　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語と日本語を、音声および統語論の面から比較します。

【到達目標】
母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、授業計画そのものはオンライン化によってはどの程度の変更が生じるかは不明です（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。

本授業の開始日は、４月 27 日を予定しています。「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信、学習支援システムでのテスト」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。初回は、授業内容のオリエンテーションや動画ファイルの見方の解説の pdf ファイルを配信する予定です。初回以降の見込みについても、その際、pdf ファイルに記入しておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	音声１	鼻音についての誤解
第 3 回	音声２	母音挿入
第 4 回	音声３	「半母音」って何？
第 5 回	音声４	「音節」についての誤解
第 6 回	音声５	音声、強勢、母音挿入の音楽におけるあらわれ
第 7 回	音声６	母音・子音の長さの話
第 8 回	音声７	母音の弱化
第 9 回	音声８	英語の聞き取り実習１
第 10 回	音声９	英語の聞き取り実習２
第 11 回	統語論１	*wh* 構文の伝統的な分析
第 12 回	音声と統語論	*gonna*/*wanna* の分析
第 13 回	統語論２	受動態
第 14 回	まとめ	まとめ、秋学期に向けての指針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。
また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】
ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの返信について良い評価をいただきましたが……あれ、めちゃくちゃ時間を取られました。もう少し現実的に効率的な方法を模索したいと思います。

【その他の重要事項】
原則「言語学講義Ｉ Ｂ」と連続履修すること。

【Outline and objectives】
Comparisons of English and Japanese phonetics and syntax.

LIN200BD

言語学講義Ｉ Ｂ

石川　潔

授業コード：A2914　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】
・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
・論理的な分析能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本的に講義形式ですが、授業中に問題を解いてもらう機会も設けたいと思っています。
　授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期後半の復習と秋学期の指針
第 2 回	時制とアスペクト 1	述語の２分類
第 3 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語の進行形の応用
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形
第 6 回	時制とアスペクト 6	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語だって「現在形・過去形」だ！
第 8 回	時制とアスペクト 8	日英で共通の重要な概念
第 9 回	時制とアスペクト 9	従属節の日英比較
第 10 回	時制とアスペクト 10	「～している」の意味（基本編）
第 11 回	時制とアスペクト 11	「～している」の意味（応用編）
第 12 回	文理解 1	文中における曖昧語の理解の仕方
第 13 回	文理解 2	文中における曖昧語の理解の仕方
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語（や英語）に接していれば見つかるはずです。見つけてください。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります）。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】
ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】
（理解度を上げるという観点から言っても）リアクションペーパーへの返信には良い評価をいただけましたが……前年度の方式は時間がかかりすぎるので、もう少し現実的に効率的な方法を模索したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにてハンドアウトを配布します。学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
原則「言語学講義Ｉ A」と連続履修すること。

【Outline and objectives】
Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤　達也

授業コード：A2915　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は言語学の入門コースです。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】
言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。
授業は 4 月 27 日から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	さまざまな意味関係
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と期末試験 (70%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

【Outline and objectives】
This is a general introduction to linguistics. Students are introduced to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

言語学講義ⅡB

伊藤　達也

授業コード：A2916　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は一般言語学のコースです。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】
言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	子音
第 3 回	音声学 (2)	母音
第 4 回	音韻論 (1)	音素と異音
第 5 回	音韻論 (2)	音素の同定
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	歴史言語学 (1)	語彙変化
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	歴史言語学 (2)	音韻変化、統語変化、意味変化
第 10 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 11 回	心理言語学 (1)	文理解
第 12 回	心理言語学 (2)	子供の言語習得の過程
第 13 回	心理言語学 (3)	言語の生得性理論
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と期末試験 (70%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

【Outline and objectives】
This is a general introduction to linguistics. Students are introduced to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN100BD

英語音声学A

矢澤　翔

授業コード：A2917　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
音声学の基礎的な概念や知識を、英語の音声を中心に学んでいきます。

【到達目標】
・英語にどのような音が存在し、発話されるかを客観的に記述できる。
・音素と異音の概念と、その英語学習への関連性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
序盤の数回の授業では、調音器官や国際音声記号等の音声学の基礎を学びます。その後、英語にある個々の音の種類や発音方法を、理論的な説明も交えながら解説していきます。
当面の間はオンラインで授業動画を視聴し、リアクションペーパーを提出する形で開講します。授業計画や評価基準に変更があった場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日（水）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学とは	調音・音響・聴覚音声学
第 2 回	発話器官	呼吸・発声・調音器官
第 3 回	国際音声記号	子音と母音の分類方法
第 4 回	英語の子音 (1)	破裂音・摩擦音・破擦音
第 5 回	英語の子音 (2)	鼻音・流音・わたり音
第 6 回	英語の母音 (1)	単母音
第 7 回	英語の母音 (2)	二重母音・r 音性母音
第 8 回	音素と異音 (1)	音素と異音の概念
第 9 回	音素と異音 (2)	日英語における音素と異音の例
第 10 回	音素と言語習得	日英間における音素の転移
第 11 回	音素と書記素	音素と書記素の対応、綴り字改革
第 12 回	試験・まとめと解説	期末試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は必須ではありませんが、積み重ねの科目ですので、授業内容の復習は入念に行ってください。宿題も試験範囲となるのできちんと行うこと。本授業の復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。

【参考書】
Roach, P. (2009). *English phonetics and phonology: A practical course* (4th ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 80%
小レポート： 20%
※期末試験が行えない場合、期末レポートで代替します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline and objectives】
In this course, students learn basic concepts in phonetics (and phonology) such as the articulation of speech sounds, the International Phonetic Alphabet, and phonemes and allophones, with a primary focus on English sounds.

LIN100BD

英語音声学Ｂ

矢澤　翔

授業コード：A2918　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「英語音声学 A」で学んだ音声学の基礎的な知識を発展させ、英語における音韻的な事象を分析できるようになることを目的とします。

【到達目標】
・「英語音声学 A」の知識を発展させ、音節や韻律のような超分節音的概念を理解する。
・与えられたデータの中から音韻的な規則性を見つけて記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
序盤の数回の授業では、「英語音声学 A」で学んだ音声学の基礎知識を復習します。その後、音節や韻律といった発展的な内容（超分節音的特徴）について学習します。後半には音韻規則について学ぶとともに、具体的なデータ分析も行います。受講者は講義を聴くだけでなく、教員が提示する問題をその場で解くことで講義の理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	春学期の復習（日英の母音と子音）
第 2 回	音声学の基礎 (2)	春学期の復習（音素と異音）
第 3 回	音節 (1)	聞こえ度と音節構造
第 4 回	音節 (2)	日英の音節構造
第 5 回	英語の韻律 (1)	音節と強勢
第 6 回	英語の韻律 (2)	韻脚と韻律句
第 7 回	英語の韻律 (3)	イントネーション
第 8 回	連続音声の特徴	同化・脱落・連結
第 9 回	音韻規則 (1)	音韻規則の記述方法
第 10 回	音韻規則 (2)	英語の音韻規則
第 11 回	音韻規則 (3)	日本語の音韻規則
第 12 回	借用語の音韻変化	英 → 日の借用過程における音韻変化
第 13 回	言語習得と音韻変化	日本語話者による英語発話のエラー分析
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積み重ねの科目ですので、「英語音声学 A」の内容も含めて繰り返し復習してください。
宿題も試験範囲となるのできちんと行うこと。本授業の復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。

【参考書】
Roach, P. (2009). *English phonetics and phonology: A practical course* (4th ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
Carr, P. (2019). *English phonetics and phonology.* (3rd ed.). Wiley Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【その他の重要事項】
本授業は春学期提供科目「英語音声学 A」の履修を前提とします。

【Outline and objectives】
In this course, students develop the basic knowledge of phonetics (and phonology) they gained in "English Phonetics A" by learning about the suprasegmentals and phonological rules of English.

LIT200BD

文学研究方法論Ａ

小島　尚人

授業コード：A2969　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。
①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノヴェル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】
①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
《重要なお知らせ（初回授業日の変更）》
4 月 20 日（月）19 時現在、学習支援システム（Hoppii）に繋がらない状況が続いており、仮登録ができていない学生もいると思います。また、この状況では、明日 21 日（火）に予定していた初回授業の資料へのアクセスや課題提出がうまくできない人も出てくることが予想されます。
そのため、授業開始日時を一週間遅らせ、**【4 月 28 日（火）4 限】に変更**します。
履修を希望される方は、**【4 月 27 日（月）までに】**学習支援システムで授業の仮登録をした上で、4 月 28 日（火）の 4 限開始時（15:00）に、学習支援システム内の本授業のページにアクセスしてください。
＊＊＊＊＊
初回授業は 4/28（火）です。
毎週火曜の 15:00（4 限開始時）に、Hoppii の「学習支援システム」に資料（読むもの、観るもの、聴くもの）や課題（内容、提出方法、締切）の情報をアップロードします。必ず、その日、その時間にチェックするようにしてください。
＊＊＊＊＊
毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる 4 つの問い
第 2 回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは
第 3 回	作品解釈と歴史的コンテクスト	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第 4 回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第 5 回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第 6 回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第 7 回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第 8 回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第 9 回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第 10 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果

第 11 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）
③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】
テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】
この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline and objectives】
This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

LIT200BD

文学研究方法論 B

小島　尚人

授業コード：A2970　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。
①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノヴェル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】
①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第 2 回	心理と無意識に着目する精神分析批評①	理論の概要と実例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第 3 回	心理と無意識に着目する精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第 4 回	性とジェンダーに着目するフェミニズム批評とクィア批評①	理論の概要と実例を知る ベクデル・テストを使いこなす
第 5 回	性とジェンダーに着目するフェミニズム批評とクィア批評②	エルサの物語をどう読むか プルートのジェンダー・アイデンティティ
第 6 回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第 7 回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 8 回	異文化・異民族の描かれ方に着目するポストコロニアル批評①	理論の概要と実例を知る オリエンタリズムとは
第 9 回	異文化・異民族の描かれ方に着目するポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第 10 回	社会的・階級的意味に着目するマルクス主義批評①	理論の概要と実例を知る クラリッサの見えないタクシー
第 11 回	社会的・階級的意味に着目するマルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ、ふたたび	他者を読み、自分を読みかえる経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）
③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】
テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】
この授業は原則として「文学研究方法論 A」と連続履修してください。

【Outline and objectives】
This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

ARS200BD

比較文化論（1）

小島　尚人

授業コード：A2981　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】
1）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
2）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
3）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
4）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
5）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。
授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えてのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカ人の愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えてのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えてのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2 時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1 時間）
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
佐々木英明（編）『異文化への視線――新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）

ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】
授業内での課題および授業への貢献度 30 %
グループ・プレゼンテーション 30 %
授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島　尚人

授業コード：A2988 ｜ 曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
《重要なお知らせ（初回授業・選抜試験日の変更）》
4 月 20 日（月）18 時現在、学習支援システム（Hoppii）に繋がらない状況が続いており、仮登録ができていない学生もいると思います。また、この状況では、明日 21 日（火）に予定していた選抜試験についての指示もうまく見られない人も出てくるかもしれません。
そのため、授業開始／選抜試験の日時を一週間遅らせ、**【4 月 28 日（火）2 限】に変更**します。
この授業の履修を希望される方は、**【4 月 27 日（月）までに】**学習支援システムで授業の仮登録をした上で、選抜試験を必ず受験してください。
＊＊＊＊＊
この授業は履修人数の定員制限があります（文学部生優先）。
4 月 28 日（火）2 限の初回授業時に、学習支援システム上**【またはメールを通じて】**選抜試験を行います。
履修を希望される方は、4 月 27 日（月）までに学習支援システムで授業の仮登録をした上で、選抜試験を必ず受験してください。
授業内容と選抜試験の受験方法の説明は、28 日の 10:40 頃に学習支援システムにアップロードされます**【または、仮登録時に使用したメールアドレスに通知されます】**。
27 日までに仮登録をしていても、28 日 2 限の選抜試験を受験しなかった場合、履修を認められません。
＊＊＊＊＊
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation by the end of the semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第 2 回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第 3 回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's *On the Road*
第 4 回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第 5 回	Americalization	Family and national identity
第 6 回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第 7 回	Social Class	Migrant workers and *The Grapes of Wrath*

第 8 回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in *Thelma & Louise*
第 9 回	Slavery and African American culture	*Adventures of Huckleberry Finn* as travel narrative
第 10 回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第 11 回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in *Lost in the Translation*
第 12 回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第 13 回	Group Presentations (1)	Group presentations on "Family" and "Ethnicity"
第 14 回	Group Presentations (2)	Group presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】
Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.
Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.
King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Unannounced quizzes: 20%
Group presentation: 40%

【学生の意見等からの気づき】
I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
N/A

ARS200BD

Comparative Culture(3)

小島　尚人

授業コード：A2989　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Among the most colorful, complex, and eventful periods in American history, the 1960s marks a turning-point of contemporary world. This course is designed to be an introduction to the history and culture of America in this decade for better understanding of current affairs we are facing today. Through the analysis of cultural materials including films, essays, stories, music tracks and lyrics in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking critically about cultural phenomena and practices in a comparative and historical perspective.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Explain the ways in which the counterculture movement challenged the established norms of American society
2. Analyze cultural phenomena and practices through literary, visual, and audio texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; Overview of the history of the 1960s and introduction to the major issues to be discussed in this course
第 2 回	Society	Comparative overview of the social conditions of the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 3 回	Family	Comparative overview of family and domestic life in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 4 回	Education	Comparative overview of education and school system in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 5 回	Youth	The Beat generation, rock and roll, and drug culture
第 6 回	Race	From Civil Rights to Black Power
第 7 回	Ethnicity	Latinos, Asian Americans, and Native Americans
第 8 回	Gender	The women's movement and the sexual revolution
第 9 回	Sexuality	The gay liberation
第 10 回	Environmentalism	Rachel Carson, *Silent Spring*
第 11 回	International Counterculture	Counterculture in Japan and the UK
第 12 回	Counterculture in the 21st Century	The legacy and future of counterculture
第 13 回	Group Presentations (1)	Group presentations on "Counterculture" and "The Black Arts" in the 1960s
第 14 回	Group Presentations (2)	Group presentations on "The Women's Movement" and "Environmentalism" in the 1960s

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】
Alexander Bloom and Wini Breines, eds. *Takin' it to the Streets: A Sixties Reader*. 4th edition. Oxford University Press, 2015.
Ann Charters, ed. *The Portable Sixties Reader*. Penguin Classics, 2002.
David Farber and Beth Bailey, *The Columbia Guide to America in the 1960s*. Columbia University Press, 2001.
David Farber, *The Age of Great Dreams: America in the 1960s*. Farrar, 1994.
Maurice Isserman and Michael Kazin, *America Divided: The Civil War of the 1960s*. 5th edition. Oxford University Press, 2015.
Todd Gitlin, *The Sixties: Years of Hope, Days of Rage*. Bantam Books, 1993.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Unannounced quizzes: 20%
Group presentation: 40%

【学生の意見等からの気づき】
I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
N/A

ARS200BD

英米文化概論 A

田中　裕希

授業コード：A2982　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。

【到達目標】
歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 27 日です。オンライン授業の方法や課題は、学習支援システムでお知らせします。
パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。
毎回リアクションペーパーを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	*Black Narcissus*	イギリスの植民地政策
第 3 回	*Black Narcissus*	映画分析入門
第 4 回	Joseph Conrad, *Heart of Darkness*	『闇の奥』と帝国主義の歪み
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦と帝国
第 6 回	*The King's Speech*	第二次世界大戦
第 7 回	*The King's Speech*	帝国の崩壊
第 8 回	中間テスト	テストと前半のまとめ
第 9 回	アイルランド詩	アイルランドにおける植民地政策
第 10 回	*Hunger*	北アイルランド問題
第 11 回	*Hunger*	アイルランドの今
第 12 回	*My Beautiful Laundrette*	ポストコロニアリズムとは
第 13 回	*My Beautiful Laundrette*	現代イギリスと人種
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『闇の奥』(光文社古典新訳文庫)　ジョゼフ コンラッド (著), 黒原 敏行 (翻訳)
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】
D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート―映画芸術入門―』(名古屋大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %（出席は毎回とる）
中間テスト 30 %
期末テスト 40 %
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】
This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century.

ARS200BD

英米文化概論 B

田中　裕希

授業コード：A2983　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】
歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。
毎回リアクションペーパーを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, *Song of Myself*	建国の理念と叙事詩
第 3 回	*Stagecoach*	民主主義の夢
第 4 回	*Stagecoach*	西部劇と民主主義
第 5 回	Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby*	幻想としてのアメリカンドリーム
第 6 回	*The Man Who Shot Liberty Valance*	自治と法律
第 7 回	*The Man Who Shot Liberty Valance*	西部劇の終焉
第 8 回	中間テスト	これまでのまとめ
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	*Easy Rider*	60 年代のアメリカ
第 11 回	*Easy Rider*	New Hollywood とは
第 12 回	*Moonlight*	マイノリティーの夢
第 13 回	*Moonlight*	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『グレート・ギャツビー』(新潮文庫) フィツジェラルド (著), 野崎 孝 (翻訳)
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する

【参考書】
D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート―映画芸術入門―』(名古屋大学出版会)
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト 30 % (出席は毎回とる)
中間テスト 30 %
期末テスト 40 %
４回以上の欠席で単位取得資格を失う

【学生の意見等からの気づき】
大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】
In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.

LIT200BD

比較文学 A

松枝　佳奈

授業コード：A2824　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの日本におけるロシア文学の影響・受容関係を、二葉亭四迷と内田魯庵、およびチェーホフの文学作品を中心に学ぶ。「ロシアをめぐる比較文学」を学ぶことで、近代日本文学の成立の過程や、その国際性、複雑な日露関係の歴史を理解し、さまざまな側面から日本の文学や文化を捉え、再考する観点を養うことを目的とする。

【到達目標】
・近代から現代までの日本でロシア文学がいかに受容されてきたか、理解し述べることができる。
・文学作品の読解方法や比較文学の基礎を学び、自ら日本語や英語で書かれた文学作品を読み、形式や文体、表現、技法を解釈して、その魅力を味わうことができる。
・自国の文学や文化を相対化して、柔軟に考える力を養う。
・ロシアの文学や文化、歴史、および日露関係に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とする。具体的なオンライン授業の方法などについては、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	比較文学とは何か	比較文学の歴史――影響・受容研究、対比研究、クロス・ジャンル研究について
第 3 回	文章解読の方法（1）	夏目漱石『永日小品』を例に
第 4 回	文章解読の方法（2）	作品の構造分析――俳句と英語詩を例に
第 5 回	二葉亭四迷とロシア文学（1）	『浮雲』に見るロシア文学の受容
第 6 回	二葉亭四迷とロシア文学（2）	「あひゞき」「めぐりあひ」の文体と音調――トゥルゲーネフ『猟人日記』の翻訳
第 7 回	二葉亭四迷とロシア文学（3）	二葉亭のロシア文学観――近代日本文学と言文一致の成立
第 8 回	中間試験	授業内中間試験のあと、ロシア映画鑑賞
第 9 回	内田魯庵とロシア文学（1）	二葉亭四迷との共同訳――ドストエフスキー『罪と罰』
第 10 回	内田魯庵とロシア文学（2）	二葉亭四迷との共同訳――トルストイ『復活』
第 11 回	内田魯庵とロシア文学（3）	「革命婦人」とオスカー・ワイルド『ヴェラ、実は虚無主義者たち』
第 12 回	イギリスにおけるチェーホフ受容	コンスタンス・ガーネットの英訳版を中心に
第 13 回	近代日本におけるチェーホフ受容	チェーホフと日本文学――芥川龍之介に対するチェーホフの影響
第 14 回	現代日本におけるチェーホフ受容	チェーホフと村上春樹

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で扱う作品の抜粋（日本語または英語）を事前に配布するので、授業前日までに読む。気になった箇所や感想、疑問点などをメモしておき、能動的に授業に参加できるようにしておく。
・授業後、ノートを見返して、授業内で解説された事項を復習する。
・授業で学んだ作家の他の作品や、担当教員が紹介する参考文献、資料を積極的に読んだり、鑑賞したりする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要な教科書テキスト：特になし
担当教員が作成した印刷物を授業内で配布する。

【参考書】
指定の参考書：特になし
必要があれば授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて、受講者の考察や感想、質問を適宜紹介してコメントする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。授業の進度により、授業内容が変更される可能性がある。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of comparative literature, translation studies and the history of the reception of Russian literature in modern Japan. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of comparative literature and understanding the relationship between Japan and Russia from the viewpoint of the literary history from the 19th to the 21th centuries.

LIT200BD

比較文学Ｂ

松枝　佳奈

授業コード：A2825　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ロシアをめぐる比較文学から比較文化、比較芸術へ」を主題に、比較文学に隣接する比較文化や比較芸術に焦点を当てる。
特に近代日本におけるロシアの文化と芸術の影響・受容関係や、近代から現代までのロシア文学と他の文化・芸術分野との関係、ロシア芸術と他の文化領域との影響・受容関係を多角的に学ぶ。それにより、近現代のロシア文化や日本文化の多様性や、異文化理解、文化ジャンルの越境性を考察する観点を持つことを目的とする。

【到達目標】
・近代から現代までの日本でロシア文化・芸術がいかに受容されてきたか、理解し述べることができる。
・ロシアの文学や芸術と他の国や地域、文化領域との影響・受容関係を理解し、述べることができる。
・文化や芸術作品の解釈方法や比較文化と比較芸術の基礎を学び、自ら作品の形式や表現、技法を分析して、その魅力を味わうことができる。
・ロシアの文化、歴史、および日露関係に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
扱う資料・作品（日本語または英語）を事前に配布する。予習を前提に、講義形式で授業を行う。毎回、受講者がリアクション・ペーパーに書いた考察や感想、質問に対して、翌週の授業で教員から適宜フィードバックがなされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	比較文化研究・比較芸術研究の概要	文学・芸術のクロス・エリア研究と芸術のクロス・ジャンル研究
第 3 回	江戸時代の日本とロシアの文化交流（1）	漂流民から見る日露交流の様相
第 4 回	江戸時代の日本とロシアの文化交流（2）	大黒屋光太夫と『北槎聞略』を中心に
第 5 回	ロシアの宗教絵画イコンと日本（1）	イコンとは何か――アンドレイ・ルブリョフを中心に
第 6 回	ロシアの宗教絵画イコンと日本（2）	明治のイコン画家・山下りん
第 7 回	ロシア・バレエに見る比較芸術（1）	19 世紀ロシアにおけるクラシック・バレエの発展――《白鳥の湖》を中心に
第 8 回	中間試験	授業内中間試験のあと、ロシア映画鑑賞
第 9 回	ロシア・バレエに見る比較芸術（2）	バレエ・リュスと二十世紀のバレエの展開
第 10 回	香水《シャネル Ｎ゜ 5》に見るロシアとフランスの文化関係（1）	ココ・シャネルと亡命ロシア人たちの交流
第 11 回	香水《シャネル Ｎ゜ 5》に見るロシアとフランスの文化関係（2）	ロシアの香水文化と《シャネル Ｎ゜ 5》の誕生
第 12 回	ロシア・アヴァンギャルド芸術と社会（1）	1910 年代のロシア（ソ連）におけるアヴァンギャルド・ポスター芸術の発展
第 13 回	ロシア・アヴァンギャルド芸術と社会（2）	1920 年代のソ連におけるモダニズム・ポスター芸術の隆盛と終焉
第 14 回	バレエから見た明治～昭和期の日本とロシア文化	アンナ・パヴロワとエリアナ・パブロバを中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で扱う作品・文章の抜粋や資料（日本語または英語）を事前に配布するので、授業前日までに内容を十分に把握しておく。気になった箇所や感想、疑問点などをメモしておき、能動的に授業に参加できるようにしておく。
・授業後、ノートを見返して、授業内で解説された事項を復習する。
・授業で学んだ作家の他の作品や、担当教員が紹介する参考文献、資料を積極的に読んだり、鑑賞したりする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書：特になし
担当教員が作成した印刷物を授業内で配布する。

【参考書】
指定のものは特にないが、毎回の授業のテーマや取り上げた作品・作家に関する書籍や資料を読み、視聴することは関心と理解を深める。適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクション・ペーパー）：20 %
中間試験：40 %
学期末試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・ペーパー等を通じて、受講者の考察や感想、質問を適宜紹介してコメントする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。授業の進度にあわせて授業内容が変更される可能性がある。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of comparative culture, comparative arts and the history of the reception of Russian culture in modern Japan.
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of comparative culture and arts and understanding the relationship between Japan and Russia from the viewpoint of the cultural history from the 19th to the 21th centuries.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) A

畑　和樹

授業コード：A2826　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は段階的な執筆活動を通じて、履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じて英語ライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持った英文を様々な形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】
本科目は履修生に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。
a) くだけた表現を避けて形式的な文章を使い続けることができる。
b) 授業で扱う基礎文法を駆使して、ある程度正確に執筆することができる。
c) パラグラフの繋がりを意識して文章を構成することができる。
d) 主張や目的のはっきりした「導入」ができる。
e) 指定された形式を保ちながら、一貫性をもつ文章を構成することができる。
f) Oxford 2000 で示された単語を、適宜適切に使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は対話型の演習となる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。
※ 2020 年度（春学期）の初回授業は 4 月 27 日（月）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明／アカデミック・ライティングの基本解説
2	Chapter 1	Supporting an opinion essay (transition words)
3	Chapter 2	Comparing the past and the present (present perfect as a result)
4	Chapter 3	Interpreting a flow chart (making connections)
5	Chapter 4	Introducing a narrative essay (past perfect; quoted speech; time markers)
6	Chapter 5	Describing current trends and causes (present progressive and prepositional phrases)
7	Chapter 6	Making predictions and imaging solutions
8	Chapter 7	Writing about effects with referring to the names of people and organisation
9	Chapter 8	Describing possibility in writing a summary and a personal response
10	Chapter 9	Evaluating information (responding percentages)
11	Writing session A	Chapter 1-3 の復習・エッセイへの応用演習
12	Writing session B	Chapter 4-6 の復習・エッセイへの応用演習
13	Writing session C	Chapter 7-9 の復習・エッセイへの応用演習
14	まとめ	エッセイの最終提出およびフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：履修生は事前に示された箇所を「授業前に」終わらせること。場合により予習箇所を限定することがあるが、その際は前週の授業内で告知する。
復習：履修内容を見直し、該当箇所をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Savage A. and Ward, C. (2015). Trio Writing (Level-3). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-485421-4

（必ず初回授業までに購入しておくこと）

【参考書】
サンプルエッセイやペーパーは適宜配布

【成績評価の方法と基準】
・最終エッセイ: 60%
・定期課題： 30 %
・参加・貢献度： 10%
本科目では履修者の積極的な発言を期待する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン（Microsoft Word が使用可能なこと）

【その他の重要事項】
オフィスアワー：月曜日 12:35 ～ 13:00（富士見坂教授室）

【None】
None

【Outline and objectives】
This course aims to enhance students' prospects for writing essays through step-by-step writing activities. In this module, the students will be provided opportunities to utilise or apply what has been learnt in other modules. In the 14 weeks, the students will be engaged in a series of activities and practices, in which they can apply understanding of several writing styles on given topics.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) B

畑　和樹

授業コード：A2827　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は履修生の学術的な英文ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じてアカデミックライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持ったエッセイを形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】
本科目は履修生に対し、以下の目標を設定する。
a) 意味の逸脱のない程度で文法的および語用的に正しい文章を書くことができる。
b)「主張」のはっきりしたパラグラフの構築ができる。
c) パラグラフ内で「主張の裏付け・論拠」を示すことができる。
d) 他者の意見や論拠を正しく「引用」できる。（本科目ではＡＰＡスタイル）
e) 各パラグラフの繋がりによる「一貫性を持った」エッセイを書くことができる。
f) エッセイの課題を理解し、指示された内容を執筆することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は対話型の授業となる。各授業の初めに担当教員が講義を行い、扱う単元に関する基本項目や概念を説明する。原則、説明は PowerPoint と板書を用いて行う。同時に教材を用いた演習を行うことで、理解の向上や強化および実践を図る。
如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明、アカデミック・ライティングの基本解説
2	Starting the process (p. 16-19)	ライティングのための思考（文法：形式的文章における動詞）
3	Descriptions (1) (p. 28-31)	視覚情報のライティング (文法：名詞句および関係詞節による定義付け)
4	Topic sentences (p. 44-47)	トピックセンテンスと論拠付け (文法：複合名詞句)
5	Essay introduction (p.60-63)	エッセイの主題構築（文法：焦点を保持するための受動態）
6	Essay conclusion (p. 76-79)	一貫性と「結論」の機能と目的 (文法：繰り返しと類語)
7	Descriptions (2) (p. 92-95)	過程を示すパラグラフ・ライティング (文法：能動体と受動態の使い分け)
8	Comparison essays (p. 109-112)	論述のための比較と対照、校正の実践 (文法：従属)
9	Citation and references (p. 124-127)	剽窃の理解と防止、参照物の引用 (文法：引用のための"it"と "there")
10	Argument essays (p. 140-144)	主題の支持と論拠の構築、引用による論拠の支持 (文法：条件節"if"の代替)
11	Cause and effect essays (p. 157-160)	原因と結果の示し方 (文法：原因と結果に関わる語彙と語法)
12	Problem-solution essays (p. 173-176)	問題解決型エッセイの理解と実践 (文法：間接表現と非人称構文)
13	Examination essays (p. 190-194)	エッセイの「一貫性」 (文法：題名における動詞および構造)
14	まとめ・最終課題に関するアドバイス	各単元のまとめ、および実践への応用性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：履修生は、シラバスにて示された教材（下記参照）の該当箇所を「授業前に」終わらせること。場合により予習箇所を限定することがあるが、その際は前週の授業内で告知する。
復習：学習支援システムにアップロードされる資料（授業で使用したスライドや追加資料）を見直し、該当箇所をもう一度見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Chazal, E., & McCarter, S. (2016). *Oxford EAP: A course in English for academic purposes (upper-intermediate / B2)*. Oxford: Oxford University Press.
（履修者は、必ず初回までに教科書を購入すること）

【参考書】
Hewings, M., & McCarthy, M. (2012). *Cambridge academic English B2 upper intermediate student's book: An integrated skills course for EAP*. Cambridge: Cambridge University Press.
（購入の必要なし）

【成績評価の方法と基準】
・最終エッセイ： 70%
・定期課題： 30%
本科目では履修者の積極的な発言を期待する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンの持参を求める場合がある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：月曜日 12:30-13:00（富士見坂教授室）

【None】
None

【Outline and objectives】
English Writing (1B) is designed in accordance with English Writing (1A), which aims to enhance students' academic prospects for writing essays through practical activities. Students will be provided solid understanding of key aspects of academic writing alongside with other common academic practices; including general language and critical thinking skills.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) A

安藤　和弘

授業コード：A2828 ｜ 曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの講座では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】
学生が、大学学部レヴェルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。
授業開始は 4 月 22 日。それ以後の週からの参加も可能だが（履修登録期間まで）、なるべく早い回から参加することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	主題の設定	Topics; Research
第 3 回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	レポート全体の構成	The Working Outline
第 5 回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第 7 回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第 11 回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとおしておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】
教員が配布するプリント。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回は受講にあたり知っておくべきことが詳細に説明される大事な回なので、必ず出席すること。オフィスアワーは水曜日 2 時限前の休み時間とするが、事前にアポイントメントを取っておく必要がある。なお、定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選抜を行う。

【Outline and objectives】
This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) B

安藤　和弘

授業コード：A2829　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの講座では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】
学生が、大学学部レヴェルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。教材は春学期と同じだが、学生は春学期とは違う話題を選び、春学期に学んだことを活かしてより高いレヴェルで学習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	主題の設定	Topics; Research
第 3 回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	レポート全体の構成	The Working Outline
第 5 回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第 7 回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第 11 回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとおしておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】
教員が配布するプリント。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回は受講にあたり知っておくべきことが詳細に説明される大事な回なので、必ず出席すること。オフィスアワーは水曜日 2 時限前の休み時間とするが、事前にアポイントメントを取っておく必要がある。なお、定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選抜を行う。

【Outline and objectives】
This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) A

ティモシー・ライト

授業コード：A2830 ｜ 曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive English Writing

【到達目標】
The target of this course will be to greatly improve students writing ability in L2 English. It will be very important in the coming years for Japanese students to have a strong command of the four major skills of the English language. In order to survive the world of business and society, young people will need more and more to express themselves in the L2 of English. We will work hard to reach this goal.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This will be an intensive L2 English writing class open to a limited group of students. The course will cover work on all skill levels in EFL writing. During the course, students will work on a variety of skill improvement exercises and have weekly writing homework and essays. In addition, students will work on many different exercises to reach this overall goal.
本授業は 5/11 より開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening class with a detailed introduction and explanation of the overall course syllabus.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Penmanship: Learning How Well You Write.	Explanation on penmanship and how to develop your writing skills better. Drills included in second half of class.
第 3 回	Script Drills. Writing exercises I. Development of logical writing.	Penmanship and writing exercises. Chapter 1 of textbook.
第 4 回	Script Drills. Writing exercises I. Logial writing exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 2 of textbook. Logial writing exercises.
第 5 回	Script Drills. Writing exercises I. Communicative writing material will be added.	Penmanship and writing exercises. Chapter 3 of textbook. Logical writing exercises.
第 6 回	Review and Test #1.	Review and test of material covered in the first five weeks.
第 7 回	Script Drills. Writing exercises II. Communicative writing material (1.).	Penmanship and writing exercises. Chapter 4 of textbook.
第 8 回	Script Drills. Writing exercises II. Communicative writing material (2.).	Penmanship and writing exercises. Chapter 5 of textbook.
第 9 回	Test#2. Writing exercises III. Logical writing exercises. Communicative writing material.	Test of material covered in classes 7, 8, & 9. *Review of past two months.
第 10 回	Script Drills. Writing exercises III. Communicative writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 6 of textbook.
第 11 回	Script Drills. Writing exercises III. Logical writing exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 7 of textbook.

第 12 回	Script Drills. Writing exercises IV. Logical writing exercises. Communicative writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 8 of textbook.
第 13 回	Test#3. Overview of past twelve weeks.	Third and final test of spring semester. Review of material covered up to this point.
第 14 回	Review and Final Examination.	Review and examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly writing homework as well as essay writing. In addition, students will be encouraged to enter creative writing and essay contests. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English
By Kevin L. Mark and Yukiko Itoh
TSURUMI SHOTEN
ISBN 978-4-7553-0365-4

【参考書】
Kunihiro Masao Methodology. Tachibana Shuppan
Georgetown University School of Languages & Linguistics.
University of Michigan ESL Program.

【成績評価の方法と基準】
All students will be evaluated on 70% classroom effort, 10% weekly homework assignments, 20% tests, attitude and the final examination.
* Perfect attendance is necessary to receive a high grade. Chronic absences or lates will not be tolerated and result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
I revised some of my syllabus from student feedback. * If a student tries his or her best in the class and has perfect attendance, I will take this into strong consideration during final grading. Please be careful on your attendance.

【学生が準備すべき機器他】
Bring your textbooks to class every week.

【その他の重要事項】
Please have a good attitude and try your best to become good English writers!

【Outline and objectives】
The class will train in basic to intensive English writing every week using a textbook and many handouts. Students will be required to attend and work in class as well as complete weekly homework.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) B

ティモシー・ライト

授業コード：A2831 ｜ 曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive English Writing

【到達目標】
The target of the fall semester is to retain and improve upon what you learned during the spring term in English writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will continue with the textbook and other exercises hoping to increase skill levels for all of the students enrolled. Students should try to make a strong effort to reach even higher levels of English writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back and introduction/explanation of the course.	Introduction of course, guidelines, syllabus, and rules of the class.
第 2 回	Review of all material covered during spring semester.	Review of all material covered during the spring semester. Tips on how to train in English writing.
第 3 回	Writing exercises I. Creative essay drills 1 (1.).	Chapter review of all material covered. Chapter 9 and 10 of textbook.
第 4 回	Writing exercises I. Creative essay drills 2 (2.).	Chapter 11 of textbook.
第 5 回	Writing exercises I. Creative essay drills 3 (3.).	Chapter 12 of textbook.
第 6 回	Review and test #1.	Review and test of material covered during the first 5 weeks of class.
第 7 回	Writing exercises II. Creative essay drills. Logical writing skill development1 (1.).	Chapter 13 of textbook.
第 8 回	Writing exercises II. Creative essay drills. Logical writing skill development 2 (2.).	Chapter 14 of textbook.
第 9 回	Writing exercises II. Creative essay drills. Logical writing skill development 3 (3.).	Chapter 15 of textbook.
第 10 回	Review and test #2.	Review and test of material covered up through week 9.
第 11 回	Writing exercises III. Overview and review of selected material.	Chapter 16 of textbook.
第 12 回	Writing exercises III. Overview of material covered in the spring term.	Chapter 17 of textbook.
第 13 回	Writing exercises III. Prep for the upcoming final exam.	Chapter 18 of textbook.
第 14 回	Review and Final Examination.	Review and examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be weekly writing assignments that will be due the following Monday. In addition, students will be encouraged to write some creative essays on a variety of subjects throughout the semester. Extra work and individual classroom guidance will be offered to any student wishing. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English

By Kevin L. Mark and Yukiko Itoh
Tsurumi Shoten
ISBN 978-4-7553-0365-4

【参考書】
Materials published by the Georgetown University School of Languages and Linguistics.
Materials published by the University of Michigan ESL Program.

【成績評価の方法と基準】
All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, weekly assignments/homework, tests and the final examination.
50% Classwork, and Participation, 30% Homework, 20% Final Examination

【学生の意見等からの気づき】
I will take into strong consideration student comments on the semester surveys. As a result of last year's surveys, I have made a number of changes in my course. If a student tries his or her best despite limitations in ability, I will take this into strong consideration during final grading. However, perfect or near-perfect attendance is necessary. Chronic absences will hurt your overall grade.

【学生が準備すべき機器他】
Bring your textbook weekly to class.

【その他の重要事項】
Try your best to improve yourselves to be good writers and "internationally minded" young people. Work hard and become international!

【Outline and objectives】
The objectives of this class will be to have students progress in their English writing skills through weekly textbook training and handout exercises.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) A

杉　亜希子

授業コード：A2834　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Familiarizing yourself with English paragraph structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.
論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフ構成を学ぶ。
注）英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。
第 1 回で選抜が行われた場合、第 2 回からの参加は原則認められないので注意。

【到達目標】
Through understanding each model paragraph, you will
· Be able to recognize and identify key structures
· Learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
· Get used to editing and improving your writing
· Apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing
論文の基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる Paragraph の構造とスタイルをマスターしていく。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足個所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
＊＊春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 5 月 4 日とし、4 月 27 日に学習支援システムでガイダンスを提示し選抜試験を行い、28 日に結果を発表する。各ユニットごとに指示に従って問題に取り組みながら report の形で提出。そのプロセスに沿って最終的に書いたパラグラフを assessed work として評価していく。
授業再開の場合は以下の方法を取る。
Acquiring the idea of what an English sentence and a paragraph should be like, you will improve your skills to write a paragraph.
1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (a reading about the topic; vocabulary building exercise, etc.) given in the text.
2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise and edit and submit the final draft.
● Preparation for each class will be a must
● Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
● Late submission of the assessed work will NOT be accepted
論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる paragraph スタイルをマスターしていく。英語で書かれている教科書を使い、予習していることを前提に授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing （必要に応じて選抜を行います。講義の性質上、クラス人数は多くても 25 名まで）
第 2 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Planning for writing (Brainstorming, Step 1)
第 3 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Writing a narrative paragraph (Step 2: Topic sentence)
第 4 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Writing a narrative paragraph (Step 2: Body and Concluding sentences, Outline)
第 5 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Writing a narrative paragraph (Revising, First Draft)
第 6 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Writing a narrative paragraph (Editing, Final Draft)

第 7 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Planning for writing (Brainstorming, Step 1)
第 8 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Writing a descriptive paragraph (Step 2: Topic sentence, Body sentences)
第 9 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Writing a descriptive paragraph (Step 2: Concluding sentence, Outline)
第 10 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Writing a descriptive paragraph (Revising, First Draft)
第 11 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Writing a descriptive paragraph (Editing)
第 12 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Writing a descriptive paragraph (Final Draft)
第 13 回	Unit 3: Foods for Thought (Writing an Opinion Paragraph)	Writing an Opinion Paragraph
第 14 回	Unit 3: Foods for Thought (Writing an Opinion Paragraph)	Writing an Opinion Paragraph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Guidance で説明するように、順を追って（教科書に沿って）ライティングを準備していくことが重要。その際、内容理解だけにとどまらず、その構成スタイルを把握しておき、自分のライティングに役立てていく。採点された提出物も再度見直すこと。質問はいつでも受けます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Colin Ward, *Focus on Writing* 3 (Pearson, 2012), ￥2,300+税

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書の積極的な利用を推奨する。
Useful websites:
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
① 70% by assessed works submitted at the end of each unit
② 30% by reports submitted in each unit
学習支援システムに提示される指示に従い、各自が教科書に沿って各ユニットの解説部分を読み、練習問題に取り組み、答合わせをして提出するものを report とします。必要に応じて日本語での解説を入れる予定です。そのプロセスに沿って最終的に完成させ提出する work が assessed work として評価されます。Assessed work は最低でも 2 本の予定です。
（なお、評価方法は状況に応じて変更せざるを得なくなり、その際は学習支援システムまたは授業内に通知します。）

【学生の意見等からの気づき】
Assessed work は全て添削します。「提出物が添削されるのでためになる」とのコメントもありますが、それをどう次に反省させていくかが成長のカギとなります。当初「なんとなくの感覚で」書いていた受講生も最後には「書き方の基本を知れた」「論理的に文の構成を組み立てることが出来るようになった」「プロセスに沿って考えて直したことで力になった」「苦手意識がなくなった！」とコメントしているように、今後学術世界や社会に出て必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感できています。Writing には絶対的な「答え」はありません。自分で主張したい、言いたいことを持てるかどうか、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。
　基本的に書く作業は一人でするものですが、構成理解の段階や、書いたものを仲間と評価しあうペアまたはグループ・ワークで、活発に意見を出し合いお互いを高めて行けるクラスもあります。刺激が多くレベルの高いクラスになる時と、静かに自分の作業に徹するクラスと、学年によって違いが出ているように授業の雰囲気は皆さん次第で決まります！

【学生が準備すべき機器他】
授業内でのパソコン使用可。提出物はワードで指示されたフォーマットに沿って作成し、添付の形で授業支援システムから、又は印刷して提出してもらいます。授業内の指示に従ってください。

【Outline and objectives】
Familiarizing yourself with English paragraph structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) B

杉　亜希子

授業コード：A2835　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.
春学期に学んだパラグラフから発展し、他のテーマで essay を書いていく。論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるための English essay の構成を学ぶ。
注）英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。後期からの受講を希望する場合には要相談。

【到達目標】
Through understanding each model essay, you will
· be able to recognize and identify key structures
· learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
· get used to editing and improving your writing
· apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing
論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出た時に必要となる英文の essay スタイルをマスターしていく。各自で選択したトピックでライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足個所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Acquiring the idea of what an English essay should be like, you will improve your skills to write an essay.
1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (a reading about the topic; vocabulary building exercise, etc.) given in the text.
2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise and edit and submit the final draft.
· Preparation for each class will be a must
· Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
· Late submission of the assessed work will NOT be accepted
You will be writing essays which will be assessed.
予習していることを前提に英語で書かれている教科書を使い基本的に英語で授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Reviewing; Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	General briefing; reviewing paragraph structures; Planning for writing (Short reading)
第 2 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Planning for writing (Building word knowledge; Focused practice; Selecting a topic)
第 3 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Learning the essay structure: Introduction)
第 4 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Learning the essay structure: Body; Outlining)
第 5 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Writing the first draft)
第 6 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Editing)
第 7 回	Unit 4: Public Spaces ; Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a persuasive essay (Peer-editing); Planing for writing (Short reading)
第 8 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Planning for writing (Building word knowledge; Focused practice; Selecting a topic)

第 9 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Outlining) Reviewing and preparing the final draft
第 10 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Outlining) Editing and preparing the final draft
第 11 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Writing the first draft)
第 12 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Editing)
第 13 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Peer-editing and preparing the final draft)
第 14 回	Timed writing	Writing an essay within a set-time

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
模範となるエッセイを授業中に全て訳していく時間はないため、授業外での予習を必ずしておく。その際、内容理解だけにとどまらず、その構成スタイルを把握し、自分のライティングに役立てていく。採点された提出物も再度見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期と同様に、Colin Ward, *Focus on Writing* 3 (Pearson, 2012), ￥2,300+税

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書の積極的な利用を推奨する。
Useful websites:
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
ユニットごとに提出するレポート（Assessed Essay）と授業中に書く作文による評価 (70%) と授業中の参加意欲と努力による評価 (30%)。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各パラグラフや Essay 全体の構成が logic に沿ったものかで評価する。授業中に行うグループ作業での積極姿勢・学びなども総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
春学期同様、Assessed work は全て添削します。受講生は「書き方の基本を知れた」「論理的に文の構成を組み立てることが出来るようになった」「プロセスに沿って考えて直したことで力になった」「苦手意識がなくなった！」とコメントしているように、今後学術世界や社会で必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感しています。その構成の仕方は英語だけでなく、日本語で物事を考えまとめる時にも参考になります。評価の軸となるのは、自分の主張したいことをしっかり見極め、表現し、言いたいことを如何に読者に伝えるかです。書いたものを仲間と読みあい評価しあう Peer-editing の作業では、活発に意見を出し指摘しあえるグループはお互いを高めていくことが出来ています。積極的に授業やグループ作業に参加することで、人に刺激を与え、人から学べる受講生が最終的にかなり伸びています。

【学生が準備すべき機器他】
春学期同様、授業内でのパソコン使用可。提出物はワードで指示されたフォーマットに沿って作成、添付の形で授業支援システムからまたは印刷して提出してもらいます。授業内の指示に従ってください。

【Outline and objectives】
Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6)A

若澤　佑典

授業コード：A2836　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Art of Writing:
一口に英文と言っても、英語の世界には様々なジャンルの文章が存在する。学術論文以外にも例えば、ニュース記事や雑誌のコラム、あるいは書評やインタビューなどがある。さらに日常生活に目を向ければ、日記や手紙を書くことも「ライティング」という営為の一部である。英語ライティングの世界は、学生のみなさんが想像している以上に多様で時に混沌としており、それぞれの文章が彩り豊かな個性を持っている。この授業ではさまざまなジャンルの英文に触れ、自分でも実際に文章を書き、ライティング力の向上を目指す。文章を書く過程で苦しさやもどかしさを感じることも多いが、実のところあれこれ考えながらものを書くのは楽しい！　ライティングに関わる悲喜こもごもを、この授業を通じてぜひ感じてほしい。

【到達目標】
・毎週継続して、50～200 ワードの英文を書き続けることができる。
・自身の文章について、その意図や特徴を他の学生に説明できる。また授業でのやりとりを通じ、どうやって推敲すればより良い文章になるのか理解し、これを実践することができる。
・他者の文章についてその良い点・悪い点を分析し、自身のライティング力向上につなげることができる。またクラスメイトの英文執筆に対して、コメントやアドバイスを通じて貢献することができる。
・英語の世界における多様な文芸ジャンル（の存在）を認識し、それぞれの特徴・機能について理解している。また自身の目的や用途に沿って、適切なジャンルの文章をモデルとして選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週ライティング（あるいはリーディング）課題を出すので、それに沿って（授業前日までに）英文執筆を行ってもらう。授業では履修者同士でお互いのペーパーにコメントをし、どうやったらよりよい文章になるのか、どういった点に気をつければいいのかを考えてもらう。週ごとのテーマに応じて、担当講師による当該ジャンルの概説・解説を行う。履修者同士のディスカッション、講師と学生の双方向的なコミュニケーションを基軸とする、ライティング・ワークショップ形式で授業を展開する。初回授業で参加人数を確認し、クラスのサイズに合わせて授業内容を調整する。
【授業開始日】
４月２１日（火）現在、第１回講義資料は既にアップロードされています。授業支援システムにアクセスし、教材をダウンロードしてください。４月２９日（水）頃までに、第１回の録音講義を聞いていただければ問題ありません。履修登録や教材入手でトラブルが発生することも考えられます。履修・学習が遅延した方たちには、課題提出日の延長や授業スピードの調整など、追加サポートを行います。困ったことがあれば、担当講師までメールでご連絡ください。アドレスは第１回講義資料に掲載されています。健康第一で、英語表現を学んでいきましょう！

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	履修者各自のライティング経験、それにかかわる苦手意識や気持ちを共有する。
第 2 回	自分について書く①	自己紹介の文章を書いてみる。ライティングにおいて「私（の声）」を形作ることの重要さを概説する。
第 3 回	自分について書く②	パーソナル・ステイトメントの役割を理解し、実際に書いてみる。
第 4 回	自分について書く③	自伝というジャンルを理解し、実際に書いてみる。
第 5 回	土地について書く①	旅行記というジャンルを理解し、実際に書いてみる。
第 6 回	土地について書く②	地誌というジャンルを理解し、自分の住む町や故郷について記述してみる。
第 7 回	土地について書く③	ライティングにおいて、読者について想定することの重要性を概説する。これを踏まえて、観光パンフレットを作成してみる。
第 8 回	日記をつける①	日記というジャンルを理解し、実際に一週間の記録をつけてみる。

第 9 回	日記をつける②	記録を残すことは、リサーチにおいても重要なことである。日記をつける習慣を研究の文脈でとらえなおし、実践してみる。
第 10 回	日記をつける③	ライティング力の向上は、他人が書いた文章をどれだけ読み込み精査したか、というリーディング体験と結びついている。日記文学の代表作を読みつつ、書くことと読むことの連環について考える。
第 11 回	手紙を書く①	手紙の社会・文化的役割について考えつつ、自分でも書簡を書いてみる。
第 12 回	手紙を書く②	オープン・レターの機能を理解し、実際に書いてみる。
第 13 回	手紙を書く③	名文とよばれる書簡をいくつか選び、その特徴を分析する。
第 14 回	春学期の総括	これまで学んだジャンルの振り返りを行う。またライティングの在り方や意識の変化について、自己評価を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業課題に基づいて、毎週 50～200 ワード程度の英文を執筆し、授業で公開・共有できる状態にしておく。（2 時間半）
・授業中のコメントを踏まえ、授業後に自身の文章を読み直す。どういった修正・推敲の余地があるか考える。（30 分）
・授業で扱うジャンルについて、関係する文章をサンプル・お手本として目を通す。リーディングを通じて、それぞれのジャンルの特性を理解する。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
Beard, Mary. *Confronting the Classics: Traditions, Adventures, and Innovations*. London: Profile Books, 2013.
—. *It's a Don's Life*. London: Profile Books, 2009.
Phillips, Adam.*In Writing: Essays on Literature*. London: Penguin, 2019.

【成績評価の方法と基準】
毎週のライティング課題に対する取り組み　100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The Art of Writing:
This course introduces undergraduate students to various genres of writing in English. The world of English writing is heterogeneous, and more varied than simply learning how to write academic essays. Students will participate in a weekly workshop including reading and writing letters, diaries, travel journals, book reviews, news articles, magazine columns, and interviews. These activities will develop an awareness that the practice of writing is embedded in everyday life. Writing is not only an academic skill but also an art of living. The course aims to help students experience the pleasure of writing in addition to guiding them toward the improvement of their skills of analysis and critical thinking. The art of writing is deeply involved with the practice of reading, encounters with the work of distinctive writers who have an idiosyncratic voice and singular style. Students will read and analyze some examples, such as David Foster Wallace's commencement speech ("This is Water"), to reflect upon the structure and narrative of their own writing.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6) B

若澤　佑典

授業コード：A2837　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Art of Writing:
一口に英文と言っても、英語の世界には様々なジャンルの文章が存在する。学術論文以外にも例えば、ニュース記事や雑誌のコラム、あるいは書評やインタビューなどがある。さらに日常生活に目を向ければ、日記や手紙を書くことも「ライティング」という営為の一部である。英語ライティングの世界は、学生のみなさんが想像している以上に多様で時に混沌としており、それぞれの文章が彩り豊かな個性を持っている。この授業ではさまざまなジャンルの英文に触れ、自分でも実際に文章を書き、ライティング力の向上を目指す。文章を書く過程で苦しさやもどかしさを感じることも多いが、実のところあれこれ考えながらものを書くのは楽しい！ ライティングに関わる悲喜こもごもを、この授業を通じてぜひ感じてほしい。

【到達目標】
・毎週継続して、50～200 ワードの英文を書き続けることができる。
・自身の文章について、その意図や特徴を他の学生に説明できる。また授業でのやりとりを通じ、どうやって推敲すればより良い文章になるのか理解し、これを実践することができる。
・他者の文章についてその良い点・悪い点を分析し、自身のライティング力向上につなげることができる。またクラスメイトの英文執筆に対して、コメントやアドバイスを通じて貢献することができる。
・英語の世界における多様な文芸ジャンル（の存在）を認識し、それぞれの特徴・機能について理解している。また自身の目的や用途に沿って、適切なジャンルの文章をモデルとして選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週ライティング（あるいはリーディング）課題を出すので、それに沿って（授業前日までに）英文執筆を行ってもらう。授業では履修者同士でお互いのペーパーにコメントをし、どうやったらよりよい文章になるのか、どういった点に気をつければいいのかを考えてもらう。週ごとのテーマに応じて、担当講師による当該ジャンルの概説・解説を行う。履修者同士のディスカッション、講師と学生の双方向的なコミュニケーションを基軸とする、ライティング・ワークショップ形式で授業を展開する。初回授業で参加人数を確認し、クラスのサイズに合わせて授業内容を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語ライティングの世界とアカデミック・イングリッシュの関わりを考える。
第 2 回	出来事について書く①	英字新聞を参照しつつ、ジャーナリストになりきってニュース記事を書いてみる。
第 3 回	出来事について書く②	事典項目を参照しつつ、過去に起こった出来事について記述してみる。
第 4 回	出来事について書く③	文化人類学の文章を参照しつつ、出来事に遭遇する「私」（一人称）の視点について考える。
第 5 回	本について書く①	研究の世界における「書評」の役割・位置づけを考える。実際に英文雑誌に掲載された書評を読んでみる。
第 6 回	本について書く②	実際に書評を書いてみる。
第 7 回	本について書く③	前回に引き続き、書評を書いてみる。これを踏まえて、研究における二次文献の精査（のやり方）を考える。
第 8 回	自然について書く①	ネイチャー・ライティングというジャンルを概説する。動物や森林、海といったテーマで短い文章を書いてみる。
第 9 回	自然について書く②	環境倫理をめぐる文章を読み、コメントを文章にしてみる。
第 10 回	自然について書く③	天気に関わる文章を読み、エコ・クリティシズムについて概説する。
第 11 回	学期末制作①	これまで触れたジャンルの中から、もう一度取り組みたいものを選び、ライティング・プロダクトの制作を行う。
第 12 回	学期末制作②	同上
第 13 回	学期末制作③	同上
第 14 回	秋学期の総括	一年間のまとめを行い、今後の課題を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業課題に基づいて、毎週 50～200 ワード程度の英文を執筆し、授業で公開・共有できる状態にしておく。（2 時間半）
・授業中のコメントを踏まえ、授業後に自身の文章を読み直す。どういった修正・推敲の余地があるか考える。（30 分）
・授業で扱うジャンルについて、関係する文章をサンプル・お手本として目を通す。リーディングを通じて、それぞれのジャンルの特性を理解する。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
Beard, Mary. *Confronting the Classics: Traditions, Adventures, and Innovations*. London: Profile Books, 2013.
—. *It's a Don's Life*. London: Profile Books, 2009.
Phillips, Adam. *In Writing: Essays on Literature.* London: Penguin, 2019.

【成績評価の方法と基準】
毎週のライティング課題に対する取り組み　60 %
学期末制作（ライティング・プロジェクト）　40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The Art of Writing
This course introduces undergraduate students to various genres of writing in English. The world of English writing is heterogeneous, and more varied than simply learning how to write academic essays. Students will participate in a weekly workshop including reading and writing letters, diaries, travel journals, book reviews, news articles, magazine columns, and interviews. These activities will develop an awareness that the practice of writing is embedded in everyday life. Writing is not only an academic skill but also an art of living. The course aims to help students experience the pleasure of writing in addition to guiding them toward the improvement of their skills of analysis and critical thinking. The art of writing is deeply involved with the practice of reading, encounters with the work of distinctive writers who have an idiosyncratic voice and singular style. Students will read and analyze some examples, such as David Foster Wallace's commencement speech ("This is Water"), to reflect upon the structure and narrative of their own writing.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) A

ティモシー・ライト

授業コード：A2838　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive English Writing

【到達目標】
The target of this course will be to greatly improve students writing ability in L2 English. It is going to be vitally important for Hosei students to strongly improve their English writing skills in order to successfully function in the future as business persons and members of society. I hope that this course will help guide you to a better and brighter tomorrow.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This will be an intensive L2 English writing class open to all students hoping to improve their overall level and ability in written English. The course will cover all skill levels in EFL writing. During the course, students will work on a variety of skill improvement exercises and have weekly writing homework and essays.
本授業は 5/11 より開始いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening class with introduction and a detailed explanation of the course syllabus.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Penmanship; Learning How Well You Write.	Explanation on penmanship and how to develop your writing skills better. Drills included in second half of class.
第 3 回	Script Drills. Logical writing exercises. Everyday writing material. Writing exercises I (1.).	Penmanship and writing exercises. Chapter 1 of textbook.
第 4 回	Script Drills. Logical writing exercises. Everyday writing material. Writing exercises I (2.).	Penmanship and writing exercises. Chapter 2 of textbook.
第 5 回	Script Drills. Logical writing exercises. Everyday writing material. Writing exercises I (3.).	Penmanship and writing exercises. Chapter 3 of textbook.
第 6 回	Test #1. Writing exercises II. Logical writing exercises. Everyday writing material.	First test of material covered up to this point. Writing exercises if time permits.
第 7 回	Script Drills. Writing exercises II (1.). Logical writing exercises. Everyday writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 4 of textbook.
第 8 回	Script Drills. Writing exercises II (2.). Logical writing exercises. Everyday writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 5 of textbook.
第 9 回	Script Drills. Writing exercises II. Logical writing exercises. Introduction to Strunk & White.	Penmanship and writing exercises. Chapter 6 of textbook.

第 10 回	Test #2. Review of past 9 weeks of material.	Second test of all material covered up to this point. Review of past 9 weeks.
第 11 回	Script Drills. Writing exercises III. Strunk & White exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 7 of textbook.
第 12 回	Script Drills. Writing exercises III.	Penmanship and writing exercises. Chapter 8 of textbook.
第 13 回	Script Drills. Writing exercises III. Strunk & White exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 9 of textbook.
第 14 回	Review and Final Examination.	Review and examination of all the material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students need to have an open mind and plan on working hard to improve their overall skill level.
There will be weekly writing homework that needs to be submitted at the start of the next class. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English
By Kevin L. Mark and Yukiko Itoh
TSURUMI SHOTEN
ISBN 978-4-0365-4

【参考書】
Materials published by the Georgetown University School of Languages & Linguistics.
Materials published by the University of Michigan ESL Program.

【成績評価の方法と基準】
All students will be graded on 50% attendance, 25% class attitude, work in and outside of class, homework, 25% tests and final examination. Please be serious and aware of the criteria regulations.

【学生の意見等からの気づき】
I have made a number of changes based on student surveys from last year. If a student tries his or her best despite limitations in the language and also has perfect or near-perfect attendance, this will have a positive influence on your final grade. However, chronic absences will only hurt you in the long run, so make sure that you come to class.

【その他の重要事項】
Try your best and have a good attitude. Don't be afraid to challenge yourself to become better! Remember, you need to be a better writer of English for your future success!

【Outline and objectives】
Students will work on improving English writing skills weekly through the textbook and numerous handouts.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) B

ティモシー・ライト

授業コード：A2839 ｜ 曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive English Writing

【到達目標】
The target of the fall semester is to retain as much as possible of the material which we covered during the spring semester to help become better writers of L2 English. All students enrolled in this class should work as hard as possible to achieve these goals.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will continue with the textbook and a variety of exercises hoping to improve skill levels to a high degree.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back and explanation of fall semester.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Review of all material covered during the spring semester.	Complete review of all material covered during the spring semester. Tips on how to train in English writing.
第 3 回	Writing exercises I. In-class essay on the past summer vacation.	Chapter review of all material covered in textbook during the spring semester. Chapter 11 of textbook.
第 4 回	Writing exercises I. Strunk & White exercises. Logical writing exercises (1.).	Chapter 12 of textbook.
第 5 回	Writing exercises I. Strunk & White exercises. Logical writing exercises (2.).	Chapter 13 of textbook.
第 6 回	Review and Test #1.	Review and test of material covered up through week 5 of classes.
第 7 回	Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills (1.).	Chapter 14 of textbook.
第 8 回	Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills (8.).	Chapter 15 of textbook.
第 9 回	Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills (9.).	Chapter 16 of textbook.
第 10 回	Review and Test #2.	Review and test of material covered up through week 9.
第 11 回	Writing exercises III. Overview of material covered during the spring term.	Chapter 17 & 18 of textbook.
第 12 回	Writing exercises III. Final Strunk & White exercises and review.	Chapter 19 of textbook.
第 13 回	Writing exercises III. Final creative writing drills.	Chapter 20 of textbook.

第 14 回	Review and Final Examination.	Review and examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
All students will be obligated to complete weekly writing homework and turn it in each Monday. Students will be encouraged to do a number of creative writing "free" essays as well. Please read as much English as possible in your free time and be focused during this class as well as serious! 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English
By Kevin L. Mark and Yukiko Itoh
TSURUMI SHOTEN
ISBN 978-4-0365-4

【参考書】
Materials published by the Georgetown University School of Languages & Linguistics.
Materials published by the University of Michigan ESL Program.

【成績評価の方法と基準】
All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, homework, tests and the final examination.
Remember, perfect attendance is vital if you hope to get a good grade. Also, be serious about your life, future and upcoming career! Work hard and master English!
50% Classwork and Participation, 30% Homework, 20% Final Examination

【学生の意見等からの気づき】
I have made a number of changes in my course based on last year's student surveys. If a student tries his or her best despite limitations in the language and has perfect or near-perfect attendance, this will have a positive influence on your final grade. However, chronic absences will only hurt you in the end, so make sure that you come to class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Try your absolute best to become good English writers and internationally-minded young people! Good luck!

【Outline and objectives】
Students will work weekly in their textbooks and numberous handouts. The overall objectives will be to reach a marked improvement in English writing skills.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) A

田尻　歩

授業コード：A2840　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業で履修者は、学術的な英語エッセイを書くプロセスと方法を基礎的なレベルから学びます。学期末には履修者みずからで選んだトピックについてエッセイを完成させることを目標として、リサーチの仕方とエッセイの書き方を段階的に学んでいきます。

【到達目標】
本授業の履修者は、
1）英語でエッセイを書くためのプロセスを認識し、習得する。
2）わかりやすく論理的な英文を書くために、パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ。
3）みずからの考えを表現するのに必要な語彙・イディオムの幅を広げる。
4）リサーチや引用、レビューなどの論文執筆に関わる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には指定教科書に沿いながら、英語のエッセイの正しい書き方を学び、期末課題のエッセイ完成を目指して演習を行っていきます。トピック選びやエッセイのアウトライン執筆に際しては、ペアワークやディスカッションも取り入れます。
【2020/04/11 追記：オンライン授業への移行にともない、本シラバスに記載されている通りの授業の進め方は難しくなりました。オンライン授業の進め方に関しては、どういうやり方が学びやすく効率的かを受講生と相談しながら具体化していきたいと考えています。学習支援システム Hoppii を通じて連絡をいたしますので、受講予定者はこまめにチェックしてください。】
【2020/04/19 追記：授業開始日は 5 月 8 日とします。この日までに授業方法などに関して学習支援システムで連絡しますので、受講予定者はチェックをお願いします。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに; What is a Research Paper?	講座の説明および指定教科書 Unit 1
第 2 回	Topics; Research	指定教科書 Unit 2, 3
第 3 回	The Beginning Thesis Statement; The Working Outline	指定教科書 Unit 4, 5
第 4 回	Revising the Thesis Statement and Working Outline	指定教科書 Unit 6
第 5 回	Writing the First Draft	指定教科書 Unit 7
第 6 回	Writing the Title; Writing the Introduction	指定教科書 Unit 8, 9
第 7 回	Support, Accuracy, Logic, and Relevance; Writing the Body	指定教科書 Unit 10, 11
第 8 回	文献購読および課題執筆	エッセイで用いる参考文献二本を読み、短い要旨を書く（課題）
第 9 回	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism	指定教科書 Unit 12, 13
第 10 回	Writing the Reference List; Evaluating and Rewriting	指定教科書 Unit 14, 15
第 11 回	原稿を書く	エッセイの完成をめざす
第 12 回	原稿を書く	エッセイの完成をめざす
第 13 回	原稿を書く	エッセイの完成をめざす（可能であれば学生同士でレビューをおこなう）
第 14 回	まとめ	これまでの授業で学んだことをおさらいします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、教科書の予習（授業前に扱う回の内容を読んでおくこと）、宿題がある場合はそれを実施すること。また、エッセイ完成のために、トピック選びのための時間や日本語および英語の二次文献を読む（少なくとも 3 本以上の論文・ニュース記事）時間も必要になる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Matthew A. Taylor and David E. Kluge. *text* e.g., *Basic Steps to Writing Research Papers*, Second Edition. Cengage Learning. 2018.

【参考書】
文法に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照。

【成績評価の方法と基準】
予習やディスカッション、ピアレビュー、発表などの授業参加（25 %）
参考文献の内容まとめ、第一草稿などの各種課題（25%）
完成させたエッセイ＝期末課題（50 %）
を総合して判断する。
【2020/04/11 追記：オンライン授業への移行にともない、上記成績評価の配分を変更いたします。変更後の配分に関しては決定し次第お知らせします。】
【2020/04/19 追記：変更後の成績評価配分に関しては、授業開始日に提示します。】

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（紙・電子は問わない）はかならず持ってくること。授業中に PC を使ってライティングしても問題ありません。提出課題は PC（Word ソフト）を用いて執筆すること（手書きは不可）。

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選定を行う。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn basic skills to write a research paper in English. You will learn: how to write clearly, conduct a research, and cite sources properly.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) A

田中　裕希

授業コード：A2997　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。春学期は詩が中心、秋学期は散文も積極的に書いていく。

【到達目標】
英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
また言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 23 日です。選抜試験は 23 日の 3 限 (13:00) からです。詳しくは学習支援システムでお知らせします。オンライン授業の方法・課題についても学習支援システムで提示します。20 日までに仮登録をしても、23 日の選抜試験を受験しなければ履修を認められません。
ワークショップ形式を軸した、ディスカッション中心の授業。創作に入っていきやすいよう、お題を出したり既存の文学作品を例として使う。詩を中心に書いていくが、学生の興味に応じて他のジャンルにも挑戦したい。また、毎回お手本の作品を読み、担当学生によるプレゼンテーションも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	ワークショップ（1）	創作、作品合評
第 4 回	ワークショップ（2）	英語と日本語
第 5 回	ワークショップ（3）	英語の文章
第 6 回	ワークショップ（4）	英語の音楽性
第 7 回	ワークショップ（5）	描写
第 8 回	ワークショップ（6）	イメージ
第 9 回	ワークショップ（7）	記憶
第 10 回	ワークショップ（8）	詩と小説
第 11 回	ワークショップ（9）	絵画から言葉へ
第 12 回	ワークショップ（１０）	他ジャンルへの挑戦
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	朗読会後半、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムを通じて配布。

【参考書】
授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
作品群 50%
平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
ワークショップ形式のため少人数制の授業。履修者を２５～２０人以下に抑えるための選抜を第一回目の授業で行う。履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】
This is a workshop-style creative writing class. You will learn how to write not just grammatically correct English but develop a style of your own.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) B

田尻　歩

授業コード：A2841　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業で履修者は、学術的な英語エッセイを書くプロセスと方法を基礎的なレベルから学びます。学期末には履修者みずからで選んだトピックについてエッセイを完成させることを目標として、リサーチの仕方とエッセイの書き方を段階的に学んでいきます。

【到達目標】
本授業の履修者は、
1）英語でエッセイを書くためのプロセスを認識し、習得する。
2）わかりやすく論理的な英文を書くために、パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ。
3）みずからの考えを表現するのに必要な語彙・イディオムの幅を広げる。
4）リサーチや引用、レビューなどの論文執筆に関わる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には指定教科書に沿いながら、英語のエッセイの正しい書き方を学び、期末課題のエッセイ完成を目指して演習を行っていきます。トピック選びやエッセイのアウトライン執筆に際しては、ペアワークやディスカッションも取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに; What is a Research Paper?	講座の説明および指定教科書 Unit 1
第 2 回	Topics; Research	指定教科書 Unit 2, 3
第 3 回	The Beginning Thesis Statement; The Working Outline	指定教科書 Unit 4, 5
第 4 回	Revising the Thesis Statement and Working Outline	指定教科書 Unit 6
第 5 回	Writing the First Draft	指定教科書 Unit 7
第 6 回	Writing the Title; Writing the Introduction	指定教科書 Unit 8, 9
第 7 回	Support, Accuracy, Logic, and Relevance; Writing the Body	指定教科書 Unit 10, 11
第 8 回	文献購読および課題執筆	エッセイで用いる参考文献二本を読み、短い要旨を書く（課題）
第 9 回	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism	指定教科書 Unit 12, 13
第 10 回	Writing the Reference List; Evaluating and Rewriting	指定教科書 Unit 14, 15
第 11 回	原稿を書く	エッセイの完成をめざす
第 12 回	原稿を書く	エッセイの完成をめざす
第 13 回	原稿を書く	エッセイの完成をめざす（可能であれば学生同士でレビューをおこなう）
第 14 回	まとめ	これまでの授業で学んだことをおさらいします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、教科書の予習（授業前に扱う回の内容を読んでおくこと）、宿題がある場合はそれを実施すること。また、エッセイ完成のために、トピック選びのための時間や日本語および英語の二次文献を読む（少なくとも 3 本以上の論文・ニュース記事）時間も必要になる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Matthew A. Taylor and David E. Kluge. *text* e.g., *Basic Steps to Writing Research Papers*, Second Edition. Cengage Learning. 2018.

【参考書】
文法に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照。

【成績評価の方法と基準】
予習やディスカッション、ピアレビュー、発表などの授業参加（25 %）
参考文献の内容まとめ、第一草稿などの各種課題（25%）
完成させたエッセイ＝期末課題（50 %）
を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（紙・電子は問わない）はかならず持ってくること。授業中に PC を使ってライティングしても問題ありません。提出課題は PC（Word ソフト）を用いて執筆すること（手書きは不可）。

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選定を行う。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn basic skills to write a research paper in English. You will learn: how to write clearly, conduct a research, and cite sources properly.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) B

田中　裕希

授業コード：A2998　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。春学期は詩が中心、秋学期は散文も積極的に書いていく。

【到達目標】
英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
また言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ワークショップ形式を軸した、ディスカッション中心の授業。創作に入っていきやすいよう、お題を出したり既存の文学作品を例として使う。また、毎回お手本の作品を読み、担当学生によるプレゼンテーションも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	ワークショップ（1）	春学期の復習
第 3 回	ワークショップ（2）	風景
第 4 回	ワークショップ（3）	人物
第 5 回	ワークショップ（4）	動物
第 6 回	ワークショップ（5）	食べ物
第 7 回	ワークショップ（6）	家
第 8 回	ワークショップ（7）	都市
第 9 回	ワークショップ（8）	物語
第 10 回	ワークショップ（9）	童話
第 11 回	ワークショップ（１０）	他ジャンルへの挑戦
第 12 回	作品の編纂	これまで書いた作品を冊子にまとめる
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	まとめ、朗読会後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムを通じて配布。

【参考書】
授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
作品群 50%
平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
ワークショップ形式のため少人数制の授業。履修者を２５～２０人以下に抑えるための選抜を第一回目の授業で行う。履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】
This is a workshop-style creative writing class. You will learn how to write not just grammatically correct English but develop a style of your own.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) A

杉　亜希子

授業コード：A2846　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.
このクラスは英会話のクラスではない。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高める。
注）英語表現演習 (Speaking)(1)B と併せて受講することが望ましい

【到達目標】
Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions
Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
-Activate and devlop existing English language skills
-Acquire a habit of thinking logically
-Get used to speaking in front of others in English
-Devlop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
＊春学期の少なくとも前半はオンライン授業となる。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、その日に学習支援システムでガイダンスを行う。その後は提示される指示に従い、各自で Assigments や Projects を提出する。
授業再開の場合は以下の方法となる。
-Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
-Input: Listening to a model text; understanding the context
-Output: Based on the model text, making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
-A purpose of leaning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
-Instructions will be given primarily in English
模範テキストとオーディオ機材を使用した英語による講義を模範テキストとする。模範テキストの大筋とスピーチの構成を理解し、発音練習と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1: Self Introduction	Learing expressions for greetings; getting to know your partners
第 3 回	Unit 1: Self Introduction	Introducing your partners to the others
第 4 回	Unit 1: Self Introduction	Learing descriptive adjectives; outlining your speech
第 5 回	Unit 1: Self Introduction	Understanding and learning the model text
第 6 回	Unit 1: Self Introduction	Reviewing; choosing your own topic
第 7 回	Unit 1: Self Introduction	Reviewing your outline; writing out your speech
第 8 回	Unit 1: Self Introduction	Draft editing; speech practice
第 9 回	Unit 1: Self Introduction	First presentation
第 10 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Understanding and learning the model text
第 11 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Reviewing; choosing your own topic and outlining
第 12 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Reviewing your outline; writing out your speech
第 13 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Draft editing; speech practice
第 14 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Second presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Model text や pre-activity で習った表現は復習を徹底し自分のものにしていく。必要に応じて各課題に沿った資料集めをする。スピーチのドラフトを各作業は各自授業外で行っておくことで editing に時間をかけられるようにする。本授業の準備・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Handouts will be given.　プリントを配布する。
(Note: Topics are subject to change.)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書を使用して使われ方を再確認する癖をつけましょう。
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業の場合： Projects60 %、それ以外の Assignments40 %
課題の少なくとも 70 %以上を提出していない場合は、原則として単位修得の資格を失う。
授業再開の場合：発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）
注意：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】
このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。受講生は「ほかの人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じているように人から刺激を受けながら、ただ英語を訳すのではなく、自分の考えを披露することで英語で人を説得する方法も同時に身につけています。原稿はあくまでも流れを忘れないための「助け」であり、自分の意思や意見をスピーチで「いかに相手に伝えるか」が重要です。学年によっては、授業中もなるべく英語での会話を維持し、お互いに刺激しあい高めあうことが出来ていました。多くの受講生が一年を通して感じてきたように、「人前で話す力がつく」や「スピーチのまとめ方がわかった」更には「相手の伝えたいことを理解する姿勢が身についた」など総合的に「英語力が上がった」と言えるようにこの時間を有効に活用できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】
発表で自分のパソコンやタブレットを使用してスライドを見せるなどの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】
欠席した場合、その週に行った授業内容をクラスメートに確認しておくこと。発表日に適切な理由で欠席する場合には必ず連絡を入れ、快復後にその証拠を持参のうえ相談に来ること。

【Outline and objectives】
This is not a conversation class.　The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment.　We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) B

杉　亜希子

授業コード：A2847　｜　曜日・時限：月曜２限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is not a conversation class.　The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment.　We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.
このクラスは英会話のクラスではない。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高める。
注）英語表現演習 (Speaking)(1)A と併せて受講することが望ましい

【到達目標】
Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions
Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
-Activate and devlop existing English language skills
-Acquire a habit of thinking logically
-Get used to speaking in front of others in English
-Devlop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
＊春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
• Input: Listening to a model text; understanding the context
• Output: Based on the model text, making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
• A purpose of leaning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities
from each student is fully expected
· Instructions will be given primarily in English
模範テキストとオーディオ機材を使用した英語による講義を模範テキストとする。模範テキストの大筋とスピーチの構成を理解し、発音練習と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1: Talk about your summer holiday	Talking about your summer
第 3 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Understanding and learning the model text
第 4 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Reviewing (recognizing the structure in Pyramid Principle); choosing your own topic
第 5 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Planning the speech structure
第 6 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Drafting
第 7 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Draft editing; speech practice
第 8 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Presentation
第 9 回	Unit 3: Smoking Issues	Understanding and learning the model text
第 10 回	Unit 3: Smoking Issues	Reviewing; choosing your own topic
第 11 回	Unit 3: Smoking Issues	Outlining; drafting
第 12 回	Unit 3: Smoking Issues	Draft editing
第 13 回	Unit 3: Smoking Issues	Editing 2; speech practice
第 14 回	Unit 3: Smoking Issues	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Model texts や pre-activity の復習、必要に応じて各課題に沿った資料集め。スピーチのドラフトを書く作業は各自授業外で行っておくことで editing に

時間をかけられるようにすること。
本授業の準備・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Handouts will be given. プリントを配布
（Topics are subject to change)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書の使用を勧めます
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）
注意：
このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となります。ここが評価のポイントになります。
＊評価方法は変更を余儀なくされる可能性が高く、その際は授業支援システムまたは授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】
このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。受講生は「ほかの人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じているように人から刺激を受けながら、ただ英語を訳すのではなく、自分の考えを披露することで英語で人を説得する方法も同時に身につけています。原稿はあくまでも流れを忘れないための「助け」であり、自分の意思や意見をスピーチで「いかに相手に伝えるか」が重要です。学年によっては、授業中もなるべく英語での会話を維持し、お互いに刺激しあい高めあうことが出来ていました。多くの受講生が一年を通して感じてきたように、「人前で話す力がつく」や「スピーチのまとめ方がわかった」更には「相手の伝えたいことを理解する姿勢が身についた」など総合的に「英語力が上がった」と言えるようにこの時間を有効に活用できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】
発表で自分のパソコンやタブレットを使用してスライドを見せるなどの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】
欠席した場合、その週に行った授業内容をクラスメートに確認しておくこと。発表日に適切な理由で欠席する場合には必ず連絡を入れ、快復後にその証拠を持参のうえ相談に来ること。

【Outline and objectives】
This is not a conversation class.　The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment.　We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) A

田尻　歩

授業コード：A2848　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学期中に四回おこなう課題プレゼンテーションの発表と準備を通して、論理的にわかりやすく自分の考えを英語で伝えるための表現力を養う。

【到達目標】
本授業の履修者は、
1）英語プレゼンテーションを準備するプロセスを認識し、習得する。
2）良い（わかりやすく伝わりやすい）発表がどういうものかを認識し、それを実践するスキルを獲得する。
3）みずからの考えを表現するのに必要な語彙・イディオムの幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
課題として四回のプレゼンテーションを行うため、発表準備を軸に授業を構成しています。3-4 回分の授業のだいたいの流れは、以下のようになります。指定教科書の該当 Unit を演習 → 発表のトピック選定 → 発表準備・原稿執筆（→ グループごとの発表、他学生・教員のアドバイスを受けて原稿修正）→ 発表・質疑応答・フィードバック。授業ではペアワークやディスカッションを行いますので、積極的に参加してください。
【2020/04/11 追記：オンライン授業への移行にともない、本シラバスに記載されている通りの授業の進め方は難しくなりました。オンライン授業の進め方に関しては、どういうやり方が学びやすく効率的かを受講生と相談しながら具体化していきたいと考えています。学習支援システム Hoppii を通じて連絡をいたしますので、受講予定者はこまめにチェックしてください。】
【2020/04/19 追記：授業開始日は 5 月 8 日とします。この日までに授業方法などに関して学習支援システムで連絡しますので、受講予定者はチェックをお願いします。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに; Self-Introduction	講座の説明および指定教科書 Unit 1
第 2 回	Self-Introduction	発表準備（指定教科書 Unit 1）、原稿執筆
第 3 回	Self-Introduction	発表準備（指定教科書 Unit 1）、発表でのポイント（ジェスチャーとイントネーション）、グループ内発表
第 4 回	Self-Introduction	発表および質疑応答
第 5 回	Places	発表準備（指定教科書 Unit 3）、発表トピック選定
第 6 回	Places	発表準備（指定教科書 Unit 3）、原稿執筆、グループ内発表
第 7 回	Places	発表および質疑応答
第 8 回	Biography	発表準備（指定教科書 Unit 5）、発表トピック選定
第 9 回	Biography	発表準備（指定教科書 Unit 3）、原稿執筆、グループ内発表
第 10 回	Biography	発表および質疑応答
第 11 回	Opinions	発表準備（指定教科書 Unit 4）、発表トピック選定
第 12 回	Opinions	発表準備（指定教科書 Unit 4）、トピック確定、原稿執筆
第 13 回	Opinions	発表準備（指定教科書 Unit 4）、原稿執筆、グループ内発表
第 14 回	Opinions	発表および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、教科書の予習（授業前に扱う回の内容を読んでおくこと）・復習、発表課題のための作業が必要になる。発表課題のための作業には、自分の意見を支え、発表内容を客観的にするための文献購読なども含む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Herman Bartelen, Malcolm Kostiuk.　Ready to Present:　A Guide to Better Presentations. Cengage Language. 2019.

【参考書】
英文法に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照。

【成績評価の方法と基準】
授業の予習・準備、ペアワークおよびディスカッション、他学生の発表に対する質問・コメント・アドバイスなどの授業参加（60 %）
プレゼン課題（40 %）
を総合して判断する。
【2020/04/11 追記：オンライン授業への移行にともない、上記成績評価の配分を変更いたします。変更後の配分に関しては決定し次第お知らせします。】
【2020/04/19 追記：変更後の成績評価配分に関しては、授業開始日に提示します。】

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参すること（紙でも電子辞書でもかまわない）。原稿執筆のための PC 持参 OK。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn how to make a good presentation in English. Thorough various activities, you will be able to: develop an ability to think logically; give a good presentation; learn a variety of new ideas other students present.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) B

田尻　歩

授業コード：A2849　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学期中に四回おこなう課題プレゼンテーションの発表と準備を通して、論理的にわかりやすく自分の考えを英語で伝えるための表現力を養う。

【到達目標】
本授業の履修者は、
1）英語プレゼンテーションを準備するプロセスを認識し、習得する。
2）良い（わかりやすく伝わりやすい）発表がどういうものかを認識し、それを実践するスキルを獲得する。
3）みずからの考えを表現するのに必要な語彙・イディオムの幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
課題として四回のプレゼンテーションを行うため、発表準備を軸に授業を構成しています。3-4 回分の授業のだいたいの流れは、以下のようになります。指定教科書の該当 Unit を演習 → 発表のトピック選定 → 発表準備・原稿執筆（→ グループごとの発表、他学生・教員のアドバイスを受けて原稿修正）→ 発表・質疑応答・フィードバック。授業ではペアワークやディスカッションを行いますので、積極的に参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに; An Important Person or Thing	講座の説明および指定教科書 Unit 2
第 2 回	An Important Person or Thing	発表準備（指定教科書 Unit 2）、原稿執筆
第 3 回	An Important Person or Thing	発表準備（指定教科書 Unit 2）、発表でのポイント（ジェスチャーとイントネーション）、グループ内発表
第 4 回	An Important Person or Thing	発表および質疑応答
第 5 回	Stories	発表準備（指定教科書 Unit 6）、発表トピック選定
第 6 回	Stories	発表準備（指定教科書 Unit 6）、原稿執筆、グループ内発表
第 7 回	Stories	発表および質疑応答
第 8 回	Solving Problems	発表準備（指定教科書 Unit 7）、発表トピック選定
第 9 回	Solving Problems	発表準備（指定教科書 Unit 7）、原稿執筆、グループ内発表
第 10 回	Solving Problems	発表および質疑応答
第 11 回	Final Presentation	発表準備（指定教科書 Unit 8）、発表トピック選定
第 12 回	Final Presentation	発表準備（指定教科書 Unit 8）、トピック確定、原稿執筆
第 13 回	Final Presentation	発表準備（指定教科書 Unit 8）、原稿執筆、グループ内発表
第 14 回	Final Presentation	発表および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、教科書の予習（授業前に扱う回の内容を読んでおくこと）・復習、発表課題のための作業が必要になる。発表課題のための作業には、自分の意見を支え、発表内容を客観的にするための文献購読なども含む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Herman Bartelen, Malcolm Kostiuk. Ready to Present: A Guide to Better Presentations. Cengage Language. 2019.

【参考書】
英文法に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照。

【成績評価の方法と基準】
授業の予習・準備、ペアワークおよびディスカッション、他学生の発表に対する質問・コメント・アドバイスなどの授業参加（60 %）
プレゼン課題（40 %）
を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参すること（紙でも電子辞書でもかまわない）。原稿執筆のための PC 持参 OK。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn how to make a good presentation in English. Thorough various activities, you will be able to: develop an ability to think logically; give a good presentation; learn a variety of new ideas other students present.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) A

ニアル・ムルター

授業コード：A2850 ｜ 曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes begin on April 21. Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第 3 回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第 4 回	Basic expressions	Application of strategies
第 5 回	Development	Conversational examples
第 6 回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第 7 回	Formal expressions	Detailed descriptions
第 8 回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第 9 回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第 10 回	Applications of topics	Expressing opinions
第 11 回	Usage of topics	Expressing regret
第 12 回	Further development	Expressing disagreement
第 13 回	Conclusions	Summary
第 14 回	Speeches	Topics from text book

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
World of Wonders Inspiring the Future, Anthony Sellick, John Barton, Ai Osasawara, SEIBIDO ISBN: 978-4-7919-4796-6, ￥1900 円（+ tax）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/

【Outline and objectives】
The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) B

ニアル・ムルター

授業コード：A2851 ｜ 曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
To enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	General themes	Expressing general ideas
第 3 回	Theme development	Expressing details
第 4 回	Theme strategies	Expressing abstract concepts
第 5 回	Selection of themes	Expressing hypothetical concepts
第 6 回	Confidence Building	Word usage: nouns
第 7 回	Special topics	Word usage: verbs
第 8 回	Work situations	Word usage: adjectives
第 9 回	Academic situations	Word usage: adverbs
第 10 回	Applying ideas covered in spring semester	Speech writing
第 11 回	Applying ideas covered in fall semester	Editing issues
第 12 回	Other applications of ideas	Strategies for improving style
第 13 回	Review and Evaluation	Selected topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading of text and preparation of short presentations and speeches for class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
World of Wonders Inspiring the Future, Anthony Sellick, John Barton, Ai Osasawara, SEIBIDO, ISBN: 978-4-7919-4796-6, ￥1900 円（+ tax）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/

【Outline and objectives】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) A

ニアル・ムルター

授業コード：A2854 ｜ 曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes begin on April 21. Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第 3 回	Development of conversation strategies	Further ideas
第 4 回	General topics	Conversational styles
第 5 回	Academic topics	Application to literary themes
第 6 回	Academic topics	Application to lifestyle
第 7 回	Modern themes	Use of Internet search
第 8 回	News items	Japan-based issues
第 9 回	Society	International issues
第 10 回	Political themes	Controversial issues
第 11 回	Work-place scenarios	Career-based themes
第 12 回	Work-place presentations	Career-based themes
第 13 回	Themes for evaluation	Various topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
English through the News Media, 2020 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15654-5, ￥1700 円（+ tax）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/

【Outline and objectives】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) B

ニアル・ムルター

授業コード：A2855 ｜ 曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally. Students will obtain skills and knowledge for communication and expressing ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Current affairs	Reference to Internet news sites
第 3 回	Japan-oriented topics	Reference to Internet news sites
第 4 回	International topics	Reference to Internet news sites
第 5 回	Topics in literature	Reference to Internet news sites
第 6 回	Topics in sport	Reference to Internet news sites
第 7 回	Speech editing	Use of Internet for grammar issues
第 8 回	Speech motivational strategies	Examples from Internet
第 9 回	Questioning the speaker	Purposes and results
第 10 回	How to improve speeches	Reaction to comments and corrections
第 11 回	Selection of speech topics	Purpose of speeches
第 12 回	Selection of speech topics	Examples of speeches
第 13 回	Evaluation methods	Student selected themes
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
English through the News Media, 2020 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15654-5. ￥1700 円（+ tax）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/

【Outline and objectives】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) A

ティモシー・ライト

授業コード：A2856 ｜ 曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive training in English speech and drama

【到達目標】
The purpose of this class is to help students become better speakers of English through intensive training in English speech communication and drama. Students will spend one semester working on speech theory and numerous dramatic methods such as "Method Acting" in order to help make them more rounded and internationally-minded people. In addition, we will also work on intensive communication drills based on the Oxford University Method as well as American Articulatory Phonetic training in order to improve overall skills in communicative English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will train intensively in speech communication methods to become competent speech makers. In addition, we will also work on English dramatic methods and exercises as well as communicative competence training. Your goal should be to make an effort to become as communicative in the English language as possible.
本授業は 5/11 より開始いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening Class and introduction.	Greetings and detailed explanation of class syllabus and student obligations.
第 2 回	Speech Communication history and introduction to training. Preparation for self-introduction speeches.	Lecture on history of speech in Europe and Asia. Contrasts & Comparisons. Introduction to speech communication training methods.
第 3 回	Speech Training I. Students will give self-introduction speeches	Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method I. One-on-one speeches.
第 4 回	Speech Training II. Hyde Yano Principle.	Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method II. One-on-one speeches.
第 5 回	Speech Training III. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	How to make a speech I. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method III. One-on-one speeches.
第 6 回	Speech Training IV. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	Prepared Speech Exam I. How to make a speech II. Speech critique exercises. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method IV.
第 7 回	Speech Training V. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	How to make a speech III. Group speech training with feedback and critiques. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method V.
第 8 回	Review and Oral Examination I.	Prepared Speech Exam II. Introduction to English Drama. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method VI.
第 9 回	Speech Training VI. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	77 Principle Method VII. Drama exercises. One-on-one speech exercises. Wright Method I.

第 10 回	Speech Training VII. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	Prepared Speech Exam III. 77 Principle Method VIII. Drama exercises. Wright Method II.
第 11 回	Speech Training VIII. Hyde Yano Principles, communicative Training.	77 Principle Method IX. Drama exercises. Wright Method III.
第 12 回	Speech Training IX. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	Prepared Speech Exam IV. 77 Principle Method X. Drama exercises. Wright Method IV.
第 13 回	Review of all material covered during spring term.	77 Principle Method XI. Drama exercises. Wright Method V.
第 14 回	Review and Final Examination.	Review and Final Examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please try to watch Kennedy, King and Obama speeches on YouTube. In addition, make it a point to watch some English movies. It is a wise idea for all of you to read as much English as possible whenever you are outside of class. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「ハイデイの魔法の英語 (ハイデイ矢野著)」講談社

【参考書】
Various Kunihiro Masao books. Review of "method acting."
Georgetown University School of Language and Linguistics outlines.

【成績評価の方法と基準】
70% - Active classroom training and participation.
20% - Speech exams.
10% - Final exam.

【学生の意見等からの気づき】
All students are welcome to give interaction and feedback. Remember, be serious and come to class ready to train intensively. Based on last year's student survey, I have made a number of changes in my course. Please keep in mind that chronic absences will only hurt you in the end, so make sure that you come to class.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

【Outline and objectives】
Classes will train weekly in Communicative English with the overall objective of having students reach a marked improvement in their ability.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) B

ティモシー・ライト

授業コード：A2857 ｜ 曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive training in English speech and drama.

【到達目標】
This course will be focused on working to improve students' ability to become better English speakers through intensive English speech and drama training. We will focus on Hyde Yano and Kunihiro Masao Methodology to help achieve this goal.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will work on improving speech training skills in English. In addition, we will be focusing more on numerous drama techniques, skits, and short plays as well as intensive communicative training methodology.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening Class and introduction.	Greetings and detailed explanation of class syllabus and student obligations for the fall semester.
第 2 回	Overview of numerous methodologies. Preparation for self-introduction speeches for new students and speeches on summer vacation.	Speech communication techniques and drama theory reviewed.
第 3 回	Overview of numerous methodologies. Speeches by all students.	Speech communication techniques and drama theory reviewed.
第 4 回	Overview of numerous methodologies.	Speech communication techniques and drama theory reviewed as well as articulatory phonetics/accent reduction methodology.
第 5 回	Speech & Drama Training I. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Historical speech training and dramatic skits.
第 6 回	Speech & Drama Training II Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam I. Dramatic exercises and team-skits.
第 7 回	Speech & Drama Training III. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Speech communication techniques and dramatic exercises with team-skits.
第 8 回	Speech & Drama Training IV. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam II. Dramatic exercises with dramatic readings.
第 9 回	Review and Mid-term Examination.	Speech communication techniques and dramatic exercises with team-skits.
第 10 回	Speech & Drama Training V. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam III. Wright Method I. Dramatic exercises with team-skits.
第 11 回	Speech & Drama Training VI. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Wright Method II. Dramatic exercises with team-skits.

第 12 回	Speech & Drama Training VII. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam IV. Wright Method III. Dramatic exercises with team-skits.
第 13 回	Speech & Drama Training VIII. Final Communication exercises and Hyde Yano Principle Training.	Final training before review and final examination.
第 14 回	Review and Final Examination.	Review and examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please read English as much as possible and take the EIKEN, UNATE, and TOEFL Examinations if at all possible! I would also strongly like to encourage all students to enter some All-Japan university speech contests. You need to study at least one hour a night as homework to reinforce your skill ability in communicative English. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「ハイデイの魔法の英会話（ハイデイ矢野著）」　講談社

【参考書】
Various Kunihiro Masao books. Review of "method acting."

【成績評価の方法と基準】
70% Active classroom training and participation. 20% Tests 10% Final exam.

【学生の意見等からの気づき】
I have made a number of changes in my new syllabus for this course based on student advice from last year's evaluations. Please keep in mind that chronic absences will hurt your final grade, so please make sure that you come to class and train.

【その他の重要事項】
Work hard, study intensively, enjoy your lives as students and make an all-out effort to improve yourselves as young people and future members of the Global Society. Remember, you will need English in the future!

【Outline and objectives】
This class will meet weekly and work on the textbook as well as numerous handouts with the overall objective of having students make a significant improvement in their English ability.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) A

若澤　佑典

授業コード：A2858　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Elements of Speaking in English
英語で話すことが「苦手」だと感じている人は多い。また、人前に立つこと・聴衆の視線にさらされることに、恐怖を覚える人たちもいる。英語でのコミュニケーションは確かに難しいし、工夫がいる。ただし、英語スピーキングと一括りにしても、そのフォーマットや進め方はさまざまである。演説のように一人で大勢に向かってしゃべりかけるものもあれば、インタビューのように一対一で進むものもある。ディベートのようにあらかじめ立場をハッキリ分けるものもあれば、ディスカッションのように「イエス／ノー」といった二項対立で進めない場もある。この授業では「英語スピーキング」をジャンルや役割といった点から要素分解し、コミュニケーション（という漠然としたスキル）に対する不安を和らげ、楽しくかつ学究的に英語でやり取りすることを目指す。
　魅力的な話し手はよい「聞き手」であることが多い。授業内のワークショップでは、自分から発信する練習だけでなく、相手の発表や言葉に「応答」していく術を学ぶ。また話が上手いとされる人たち―ラジオ・パーソナリティ、コメディアン、政治家、役者―のパフォーマンスを視聴・観察し、その良さを取り入れていく。真剣に「聞く」というのは、受動性とは程遠いアクティヴな行為だということを実感してほしい。また英語スピーキングに基本原理は見いだせるが、万能かつ唯一の「話し方」というものは存在しない。多様なジャンル、そして多彩な語り手やスピーキング・パフォーマンスとの出会いを通じて、自らにフィットした話し方を模索していく。

【到達目標】
・毎週継続して、少なくとも２～５分程度、英語で自身の意見を発表することができる。
・オーディエンスの特徴を把握し、自身の意図と状況を踏まえて、効果的な語り方が選択・実践できる。
・人前に出ても過剰に緊張したりおびえたりすることなく、自身の意見を述べることができる。
・相手の語りに耳を傾け、質問やコメントという形で、過剰な否定を伴わずに応答することができる。
・英語コミュニケーションにおける多様なジャンルを理解し、それぞれの特徴を踏まえたうえで、自身の語りに活用することができる。
・ラジオやテレビ番組といったメディア、あるいは日常生活における他者の語りを観察・分析し、その良さを自分のスピーキングに取り入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
参加者のパフォーマンス／プレゼンを基軸とした、参加型のワークショップ形式で進める。毎週のテーマにあわせ、各自英語で喋ってもらう。また、当該分野で卓越した語り手を挙げ、映像教材を用いてその特徴を分析する。初回授業で履修人数を確認し、そのサイズにあわせてシラバスや課題内容に調整を行う。履修者の習熟度を考慮して、英語／日本語使用のバランスや、ウィークリー課題の難易度を設定する。
【授業開始日】
４月２１日（火）現在、第１回講義資料は既にアップロードされています。４月２８日（火）までに授業支援システムへアクセスし、自宅学習を進めてください。健康を第一にして、慌てず無理をせず授業参加をしてください。
なお、学習支援システムにアクセスが集中し、なかなか授業教材が手に入らないかもしれません。履修登録やダウンロードが遅れた方たちには、課題提出日の延長や学習スピードの調整など、追加サポートを行います。授業を進めるにあたって、さまざまなトラブルが起こるかもしれませんが、皆さん個々人の状況に配慮して対応します。困ったら担当講師までメールでご相談ください。連絡先は第１回講義スライドに掲載されています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	各自のスピーキング経験、苦手意識、授業でやりたいことを共有する。
第 2 回	自分について語る①	英語での自己紹介を練習する。「自己」について語ること、「自分」についてのストーリーを提示することがスピーキングの核であることを確認する。
第 3 回	自分について語る②	映像教材を用い、政治家・役者・作家といった人々の自己紹介を観察する。その分析を通じて、効果的な自己紹介のやり方を考える。

第 4 回	朗読する①	英語圏ではなじみ深い、パブリック・リーディングについて学ぶ。映像教材を用いて、実際の朗読会の様子を眺め分析する。
第 5 回	朗読する②	各自の興味に合わせて本を選び、その内容について紹介してもらった後、実際に朗読してもらう。
第 6 回	朗読する③	聴衆を引き付ける音読の仕方、語りの中に気持ちを込めるやり方をオーディオブックから学ぶ。
第 7 回	質問する①	英語でのインタビュー番組を視聴し、問いの立て方や会話における機能について考える。
第 8 回	質問する②	前回の内容を踏まえ、自分であればどんなインタビューをするか、ロールプレイで実践してもらう。
第 9 回	質問する③	イギリス議会での質疑応答、政治家と新聞記者の問いの応酬など、「問う」ことの力をさまざまな場面に即して考える。また自分たちも当該人物になりきって、Q&A を行ってもらう。
第 10 回	話芸から学ぶ①	コメディアンたちの圧倒的な話術、そのステージ・パフォーマンスからスピーキングの作法を学ぶ。日本ではなじみがないスタンドアップ・コメディというジャンルに親しむ。
第 11 回	話芸から学ぶ②	ラジオ・トークを事例に、会話の広げ方やテーマの探し方を学ぶ。BBC のラジオ番組を実際にいくつか聴き、分析を行う。
第 12 回	話芸から学ぶ③	前回の内容を受け、ラジオにおけるスピーキングの作法をさらに深堀りする。また真似できるところは、ラジオ・パーソナリティになりきって話してもらう。
第 13 回	春学期の総括①	これまでの授業の感想や反省点について、英語でまとめて話してもらう。
第 14 回	春学期の総括②	これまで学んだジャンルの中で、もう一度取り組みたいものを選び、学期末発表をしてもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週の授業課題に従い、プレゼン／スピーチの準備をする。（2時間半）
・週ごとのテーマに沿って、関連するトーク／パフォーマンスを視聴し、その特徴を分析する。（1時間）
・授業中のコミュニケーションでうまくいった点・うまくいかなかった点を振り返る。必要に応じて語彙や表現の確認を行う。（３０分）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
TED Talks
https://www.ted.com/talks
Forum for Philosophy Podcast
https://blogs.lse.ac.uk/theforum/thepodcasts/
BBC Radio 3 Freethinking
https://www.bbc.co.uk/programmes/b0144txn
BBC Radio 4 In Our Time
https://www.bbc.co.uk/programmes/b006qykl
Philosophy Bites
https://philosophybites.com/

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業課題に対する取り組み　１００％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The Elements of Speaking in English:
This course aims to develop communication skills in English through various workshop activities including public reading, theatrical performance, debates and discussions, interviews, book talks, and public speaking. We will also examine and learn from oratorical and communicative practice among diverse professions such as comedians, journalists, politicians, radio presenters, writers, and preachers. This is a course for those who find it difficult to express themselves in front of an unfamiliar audience. The weekly workshops aim to help students experience the joy of shaping their own words, and of interacting with other people. Speaking is a skill which everyone can develop through observation and practice. The only requisite for attending this course is to have a resolution to be engaged with the world of conversation. It will demystify fluent English speaking by dissecting communicative acts into basic elements, clarifying the function of each element in speaking, and exploring diverse genres of English speaking.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) B

若澤　佑典

授業コード：A2859　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Elements of Speaking in English
英語で話すことが「苦手」だと感じている人は多い。また、人前に立つこと・聴衆の視線にさらされることに、恐怖を覚える人たちもいる。英語でのコミュニケーションは確かに難しいし、工夫がいる。ただし、英語スピーキングと一括りにしても、そのフォーマットや進め方はさまざまである。演説のように一人で大勢に向かってしゃべりかけるものもあれば、インタビューのように一対一で進むものもある。ディベートのようにあらかじめ立場をハッキリ分けるものもあれば、ディスカッションのように「イエス／ノー」といった二項対立で進めない場もある。この授業では「英語スピーキング」をジャンルや役割といった点から要素分解し、コミュニケーション（という漠然としたスキル）に対する不安を和らげ、楽しくかつ学究的に英語でやり取りすることを目指す。
　魅力的な話し手はよい「聞き手」であることが多い。授業内のワークショップでは、自分から発信する練習だけでなく、相手の発表や言葉に「応答」していく術を学ぶ。また話が上手いとされる人たち―ラジオ・パーソナリティ、コメディアン、政治家、役者―のパフォーマンスを視聴・観察し、その良さを取り入れていく。真剣に「聞く」というのは、受動性とは程遠いアクティヴな行為だということを実感してほしい。また英語スピーキングに基本原理は見いだせるが、万能かつ唯一の「話し方」というものは存在しない。多様なジャンル、そして多彩な語り手やスピーキング・パフォーマンスとの出会いを通じて、自らにフィットした話し方を模索していく。

【到達目標】
・毎週継続して、少なくとも２～５分程度、英語で自身の意見を発表することができる。
・オーディエンスの特徴を把握し、自身の意図と状況を踏まえて、効果的な語り方が選択・実践できる。
・人前に出ても過剰に緊張したりおびえたりすることなく、自身の意見を述べることができる。
・相手の語りに耳を傾け、質問やコメントという形で、過剰な否定を伴わずに応答することができる。
・英語コミュニケーションにおける多様なジャンルを理解し、それぞれの特徴を踏まえたうえで、自身の語りに活用することができる。
・ラジオやテレビ番組といったメディア、あるいは日常生活における他者の語りを観察・分析し、その良さを自分のスピーキングに取り入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
参加者のパフォーマンス／プレゼンを基軸とした、参加型のワークショップ形式で進める。毎週のテーマにあわせ、各自英語で喋ってもらう。また、当該分野で卓越した語り手を挙げ、映像教材を用いてその特徴を分析する。初回授業で履修人数を確認し、そのサイズにあわせてシラバスや課題内容に調整を行う。履修者の習熟度を考慮して、英語／日本語使用のバランスや、ウィークリー課題の難易度を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	休暇中の出来事について、英語で話してもらう。
第 2 回	本について話す①	ブックトークの番組を視聴し、作家たちが自著を語るさまを眺める。ここからテクストについて語る作法を考え、身につける。
第 3 回	本について話す②	各自テクストを選択し、ブックトークを実際にやってみる。
第 4 回	演説する①	コメンスメント・スピーチ（祝辞）というジャンルに触れる。実際のスピーチ文を使って、演説を体感してみる。
第 5 回	演説する②	前回の内容を受け、コメンスメント・スピーチの読解と実演を進める。
第 6 回	演説する③	政治や社会を動かした歴史的演説をいくつか読み、実演してみる。
第 7 回	演じる①	朗読劇の実演を通して、感情を揺さぶる語りかたを学ぶ。
第 8 回	演じる②	前回に引き続き、朗読劇のパフォーマンスを行う。
第 9 回	講義する／解説する①	テッド・トークを教材に、効果的なプレゼンテーションのやり方を考える。

第 10 回	講義する／解説する②	前回の内容を受けて、各自がショート・レクチャーを実践してみる。
第 11 回	討議する①	英語圏ではなじみ深い、ディスカッション番組から討議の作法について考える。
第 12 回	討議する②	前回の内容を受け、実際に英語での討議を体験してみる。
第 13 回	学年末制作①	これまで学んだジャンルの中で、もう一度振り返りたいものを選択し、学年末発表を行う。
第 14 回	学年末制作②	前回に続けて、学年末発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週の授業課題に従い、プレゼン／スピーチの準備をする。（2時間半）
・週ごとのテーマに沿って、関連するトーク／パフォーマンスを視聴し、その特徴を分析する。（1時間）
・授業中のコミュニケーションでうまくいった点・うまくいかなかった点を振り返る。必要に応じて語彙や表現の確認を行う。（３０分）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
TED Talks
https://www.ted.com/talks
Forum for Philosophy Podcast
https://blogs.lse.ac.uk/theforum/thepodcasts/
BBC Radio 3 Freethinking
https://www.bbc.co.uk/programmes/b0144txn
BBC Radio 4 In Our Time
https://www.bbc.co.uk/programmes/b006qykl
Philosophy Bites
https://philosophybites.com/

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業課題に対する取り組み　６０％
学年末発表　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The Elements of Speaking in English:
This course aims to develop communication skills in English through various workshop activities including public reading, theatrical performance, debates and discussions, interviews, book talks, and public speaking. We will also examine and learn from oratorical and communicative practice among diverse professions such as comedians, journalists, politicians, radio presenters, writers, and preachers. This is a course for those who find it difficult to express themselves in front of an unfamiliar audience. The weekly workshops aim to help students experience the joy of shaping their own words, and of interacting with other people. Speaking is a skill which everyone can develop through observation and practice. The only requisite for attending this course is to have a resolution to be engaged with the world of conversation. It will demystify fluent English speaking by dissecting communicative acts into basic elements, clarifying the function of each element in speaking, and exploring diverse genres of English speaking.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) A

田尻　歩

授業コード：A2860　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学期中に三回おこなう課題プレゼンテーションの発表と準備を通して、論理的にわかりやすく自分の考えを英語で伝えるための表現力を養う。

【到達目標】
本授業の履修者は、
1）英語プレゼンテーションを準備するプロセスを認識し、習得する。
2）良い（わかりやすく伝わりやすい）発表がどういうものかを認識し、それを実践するスキルを獲得する。
3）みずからの考えを表現するのに必要な語彙・イディオムの幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
課題として三回のプレゼンテーションを行うため、発表準備を軸に授業を構成しています。4-5 回分の授業のだいたいの流れは、以下のようになります。指定教科書の該当 Unit を演習 → 発表のトピック選定 → 発表準備・原稿執筆（→ グループごとの発表、他学生・教員のアドバイスを受けて原稿修正）→ 発表・質疑応答・フィードバック。授業ではペアワークやディスカッションを行いますので、積極的に参加してください。
【2020/04/11 追記：オンライン授業への移行にともない、本シラバスに記載されている通りの授業の進め方は難しくなりました。オンライン授業の進め方に関しては、どういうやり方が学びやすく効率的かを受講生と相談しながら具体化していきたいと考えています。学習支援システム Hoppii を通じて連絡をいたしますので、受講予定者はこまめにチェックしてください。】
【2020/04/19 追記：授業開始日は 5 月 8 日とします。この日までに授業方法などに関して学習支援システムで連絡しますので、受講予定者はチェックをお願いします。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに; Self-Introduction	授業の説明および指定教科書 Unit 1
第 2 回	Self-Introduction	発表準備（指定教科書 Unit 1）、原稿執筆
第 3 回	Self-Introduction	発表準備（指定教科書 Unit 1）、発表でのポイント（ジェスチャーとイントネーション）、グループ内発表
第 4 回	Self-Introduction	発表および質疑応答（前半）
第 5 回	Self-Introduction	発表および質疑応答（後半）
第 6 回	Biography	発表準備（指定教科書 Unit 5）、発表トピック選定
第 7 回	Biography	発表準備（指定教科書 Unit 5）、トピック確定、原稿執筆
第 8 回	Biography	発表および質疑応答（前半）
第 9 回	Biography	発表および質疑応答（後半）
第 10 回	Opinions	発表準備（指定教科書 Unit 4）、発表トピック選定
第 11 回	Opinions	トピック確定、原稿執筆
第 12 回	Opinions	原稿執筆、グループ内発表・ピアレビュー
第 13 回	Opinions	発表および質疑応答（前半）
第 14 回	Opinions	発表および質疑応答（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、教科書の予習（授業前に扱う回の内容を読んでおくこと）・復習、発表課題のための作業が必要になる。発表課題のための作業には、自分の意見を支え、発表内容を客観的にするための文献講読なども含む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Herman Bartelen, Malcolm Kostiuk. Ready to Present: A Guide to Better Presentations. Cengage Language. 2019.

【参考書】
英文法に関しては、石黒昭博監『総合英語フォレスト』第 7 版、桐原書店を参照。

【成績評価の方法と基準】
授業の予習・準備、ペアワークおよびディスカッション、他学生の発表に対する質問・コメント・アドバイスなどの授業参加（60 %）
プレゼン課題（Self-Introduction 10%、Biography 10%、Opinions 20%）

を総合して判断する。
【2020/04/11 追記：オンライン授業への移行にともない、上記成績評価の配分を変更いたします。変更後の配分に関しては決定し次第お知らせします。】
【2020/04/19 追記：変更後の成績評価配分に関しては、授業開始日に提示します。】

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参すること（紙でも電子辞書でもかまわない）。原稿執筆のための PC 持参 OK。

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選抜を行う。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn how to make a good presentation in English. Thorough various activities, you will be able to: develop an ability to think logically; give a good presentation; learn a variety of new ideas other students present.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) A

畑　和樹

授業コード：A2999　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to improve the English communication skills of students in both listening and speaking. The course introduces the fundamental principles and practices of communication which students can apply in their daily lives. The classes will also cultivate confidence and competence in using English, preparing students for 'actions-in-the-wild'.

【到達目標】
Students will be trained to:
a) catch the main point in short, clear, and simple messages;
b) generally follow the main points of talks and announcement;
c) cultivate the confidence to communicate effectively in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be conducted via informal and interactive activities (basically, text-based) with many speaking opportunities in pairs or groups.
※ 2020 年度（春学期）の初回授業は 4 月 27 日 （月）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course guidance with general instructions for developing confident and fluent speaking
第 2 回	People (1)	Asking about significant experiences; Talking about important events; Introducing interesting stories; Asking for details
第 3 回	People (2)	Describing pet peeves; Sympathising; Making suggestions; Commenting on suggestions
第 4 回	English in Action (1)	Summary: Sharing opinions and experiences
第 5 回	Socialising (1)	Getting to know people; Asking about people's job; Making invitations; Declining politely
第 6 回	Socialising (2)	Talking about false assumptions; Summarising; Expressing a lack of understanding and opinions without offending someone
第 7 回	English in Action (2)	Summary: Getting to know people
第 8 回	Mid-term review	Group/pair speaking participation and performance
第 9 回	Life Style (1)	Asking for and giving clarification; Giving reasons; Expressing approval
第 10 回	Life Style (2)	Talking about and evaluating lifestyles; Persuading; Disagreeing politely
第 11 回	English in Action (3)	Summary: Clarifying, persuading, and disagreeing
第 12 回	Careers (1)	Asking and talking about career ambitions; Asking interview questions; Describing strength and weaknesses
第 13 回	Careers (2)	Giving clear instructions; Restarting to show that you understand; Giving presentations; Asking follow-up questions
第 14 回	Final assessment	Dyadic conversation assessment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to do practising English (especially, speaking) as much as possible. Note that it is necessary for them to complete weekly assignments before the class to participate well.
Detailed assignment policy will be explained in the first class meeting.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Vargo, M. (2013). Speak NOW (Level-4). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-403041-0

【参考書】
Other resources will be distributed or made available in our online system.

【成績評価の方法と基準】
a) Group/pair speaking participation and performance (35%)
b) Dyadic conversation assessment (35%)
c) In-class participation (30%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
Textbook necessary

【その他の重要事項】
In the course, speaking confidently and actively is more important than 'grammatical correctness'.

【Outline and objectives】
The aim of this course is to improve the English communication skills of students in both listening and speaking. The course introduces the fundamental principles and practices of communication which students can apply in their daily lives. The classes will also cultivate confidence and competence in using English, preparing students for 'actions-in-the-wild'.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) B

田尻　歩

授業コード：A2861　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学期中に三回おこなう課題プレゼンテーションの発表と準備を通して、論理的にわかりやすく自分の考えを英語で伝えるための表現力を養う。

【到達目標】
本授業の履修者は、
1）英語プレゼンテーションを準備するプロセスを認識し、習得する。
2）良い（わかりやすく伝わりやすい）発表がどういうものかを認識し、それを実践するスキルを獲得する。
3）みずからの考えを表現するのに必要な語彙・イディオムの幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
課題として三回のプレゼンテーションを行うため、発表準備を軸に授業を構成しています。4-5 回分の授業のだいたいの流れは、以下のようになります。指定教科書の該当 Unit を演習 → 発表のトピック選定 → 発表準備・原稿執筆（→ グループごとの発表、他学生・教員のアドバイスを受けて原稿修正）→ 発表・質疑応答・フィードバック。授業ではペアワークやディスカッションを行いますので、積極的に参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに; Stories	授業の説明および指定教科書 Unit 6
第 2 回	Stories	発表準備（指定教科書 Unit 6）、原稿執筆
第 3 回	Stories	発表準備（指定教科書 Unit 6）、発表でのポイント（ジェスチャーとイントネーション）、グループ内発表
第 4 回	Stories	発表および質疑応答（前半）
第 5 回	Stories	発表および質疑応答（後半）
第 6 回	Solving Problems	発表準備（指定教科書 Unit 7）、発表トピック選定
第 7 回	Solving Problems	発表準備（指定教科書 Unit 7）、トピック確定、原稿執筆
第 8 回	Solving Problems	発表および質疑応答（前半）
第 9 回	Solving Problems	発表および質疑応答（後半）
第 10 回	Final Presentation	発表準備（指定教科書 Unit 8）、発表トピック選定
第 11 回	Final Presentation	トピック確定、原稿執筆
第 12 回	Final Presentation	原稿執筆、グループ内発表・ピアレビュー
第 13 回	Final Presentation	発表および質疑応答（前半）
第 14 回	Final Presentation	発表および質疑応答（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、教科書の予習（授業前に扱う回の内容を読んでおくこと）・復習、発表課題のための作業が必要になる。発表課題のための作業には、自分の意見を支え、発表内容を客観的にするための文献講読なども含む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Herman Bartelen, Malcolm Kostiuk. Ready to Present: A Guide to Better Presentations. Cengage Language. 2019.

【参考書】
英文法に関しては、石黒昭博監『総合英語フォレスト』第 7 版、桐原書店を参照。

【成績評価の方法と基準】
授業の予習・準備、ペアワークおよびディスカッション、他学生の発表に対する質問・コメント・アドバイスなどの授業参加（60 %）
プレゼン課題（Self-Introduction 10%、Biography 10%、Opinions 20%）を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参すること（紙でも電子辞書でもかまわない）。原稿執筆のための PC 持参 OK。

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選抜を行う。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn how to make a good presentation in English. Thorough various activities, you will be able to: develop an ability to think logically; give a good presentation; learn a variety of new ideas other students present.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) B

畑　和樹

授業コード：A3000　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to improve the English communication skills of students in both listening and speaking. The course introduces the fundamental principles and practices of communication which students can apply in their daily lives. The classes will also cultivate confidence and competence in using English, preparing students for 'actions-in-the-wild'.

【到達目標】
Students will be trained to:
a) catch the main point in short, clear, and simple messages;
b) generally follow the main points of talks and announcement;
c) cultivate the confidence to communicate effectively in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be conducted via informal and interactive activities (basically, text-based) with many speaking opportunities in pairs or groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course guidance with general instructions for developing confident and fluent speaking
第 2 回	Feelings (1)	Asking and talking about fears; Talking about causes of stress; Giving advice by talking about personal experiences
第 3 回	Feelings (2)	Talking about dreams and wishes; Expressing interest and asking for reasons; Asking and talking about regrets
第 4 回	English in Action (5)	Summary: Expressing feelings and emotions
第 5 回	Cultures (1)	Relating the pot of movies; Describing reactions to movies; Describing music; Joining discussions
第 6 回	Cultures (2)	Asking and describing trends; Sharing surprising news; Expressing surprise
第 7 回	English in Action (6)	Summary: Talking about trends
第 8 回	Mid-term review	Group/pair speaking participation and performance
第 9 回	Travel(1)	Checking in at the airport; Confirming information; Reporting bad news; Asking for help or advice
第 10 回	Travel (2)	Comparing and contrasting alternatives; Giving reasons for choices; Describing cultural differences; Explaining why something is a problem
第 11 回	English in Action (7)	Summary: Making travel plans
第 12 回	News (1)	Talking about sporting events; Changing the subject; Interrupting for clarification; Clarifying
第 13 回	News (2)	Giving evidence and examples to support opinions; Asking for opinions about issues; Politely giving opinions
第 14 回	Final assessment	Dyadic conversation assessment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to do practising English (especially, speaking) as much as possible. Note that it is necessary for them to complete weekly assignments before the class to participate well.
Detailed assignment policy will be explained in the first class meeting.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Vargo, M. (2013). Speak NOW (Level-4). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-403041-0

【参考書】
Other resources will be distributed or made available in our online system.

【成績評価の方法と基準】
a) Group/pair speaking participation and performance (35%)
b) Dyadic conversation assessment (35%)
c) In-class participation (30%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
Textbook necessary

【その他の重要事項】
In the course, speaking confidently and actively is more important than 'grammatical correctness'.

【Outline and objectives】
The aim of this course is to improve the English communication skills of students in both listening and speaking. The course introduces the fundamental principles and practices of communication which students can apply in their daily lives. The classes will also cultivate confidence and competence in using English, preparing students for 'actions-in-the-wild'.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (1) A

吉川　純子

授業コード：A2844　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、William　S.　Maugham "Red"を、複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。対面授業では、毎回、授業のはじめの５分程度で日本語の語彙力クイズも行います。
本授業は、4 月 23 日より開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回 4 月 23 日	イントロダクション	オリエンテーション 履修者選抜方法の提示
第 2 回 4 月 30 日	辞書について Maugham（1）	こまめな辞書引き
第 3 回 5 月 7 日	代名詞 Maugham（2）	代名詞の省略 履修許可者の発表
第 4 回	形容詞 Maugham（3）	落とし穴が多い
第 5 回	補充訳 Maugham（4）	時には必要
第 6 回	訳す順番 Maugham（5）	原文の頭から
第 7 回	国語力 Maugham（6）	磨こう
第 8 回	動詞 Maugham（7）	ふくみを見落とさず
第 9 回	名詞 Maugham（8）	誤訳はごまかせない
第 10 回	助動詞 Maugham（9）	甘く見てはいけない
第 11 回	態 Maugham（10）	能動態、受動態の転換
第 12 回	品詞転換訳 Maugham（11）	その技法
第 13 回	訳語がない場合 Maugham（12）	自分で作ろう
第 14 回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金子光茂『英文翻訳上達の秘訣』南雲堂、2009 年。1500 円＋税

【参考書】
文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦める。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦める。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（参加、予習など）30%、試験 70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「日本語の語彙が増えた」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書

【その他の重要事項】
出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】
We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (1) B

吉川　純子

授業コード：A2845　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、、William　S.　Maugham "Red"を、複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの５分程度で日本語の語彙力クイズも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	英文和訳について Maugham（1）	何を日本語に移し換えるのか？
第 3 回	英文和訳について Maugham（2）	どこまで訳してよいか？
第 4 回	代名詞 Maugham（3）	代名詞の省略 (前期の内容復習を含む)
第 5 回	所有格 Maugham（4）	所有格の省略
第 6 回	形容詞 Maugham（5）	働きに注意
第 7 回	不定詞 Maugham（6）	訳の工夫
第 8 回	動名詞 Maugham（7）	訳し方
第 9 回	分詞 Maugham（8）	訳し方
第 10 回	名詞 Maugham（9）	動名詞のように訳す
第 11 回	態 Maugham（１０）	能動態、受動態の転換 (前期の内容復習を含む)
第 12 回	前置詞 Maugham（１１）	どう捉えるのか？
第 13 回	訳語がない場合 Maugham（１２）	自分で作ろう (前期の内容復習を含む)
第 14 回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
矢作三蔵　*Deep Reading*『読みから訳への要領』開文社、1997 年。1600 円＋税

【参考書】
文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦める。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦める。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（参加、予習など）30%、試験 70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「日本語の語彙が増えた」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書

【その他の重要事項】
出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】
We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (2) A

安藤　和弘

授業コード：A2866　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学作品に材をとる翻訳演習。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。取り上げる作品は Jonathan Coe の *The Accidental Woman* (1987)。Coe は痛快な社会諷刺を得意とする作家だが、この授業で取り上げる作品では、現代のイギリス社会を生きる若い女性の友情、恋愛、結婚などが、繊細な感情知性と抒情的な深みをもって描かれている。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。

【到達目標】
文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、特に、ただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の精確な意味と細かなニュアンスまでをも反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。（訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。）授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、数名の学生が日本語訳をメールで事前に提出する。教員はそれを事前にとりまとめ、授業時に紙面で配布する。それを学生全員が検討した上で、最後に教員が講評をする。
授業開始は 4 月 24 日。それ以後の週からの参加も可能だが（履修登録期間まで）、なるべく早い回から参加することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	演習第 1 回	'Beforewards' 第 1 回
第 3 回	演習第 2 回	'Beforewords' 第 2 回
第 4 回	演習第 3 回	'The World of Meaningful Looks' 第 1 回
第 5 回	演習第 4 回	'The World of Meaningful Looks' 第 2 回
第 6 回	演習第 5 回	'Two Companions' 第 1 回
第 7 回	演習第 6 回	'Two Companions' 第 2 回
第 8 回	演習第 7 回	'Two Companions' 第 3 回
第 9 回	演習第 8 回	'The House' 第 1 回
第 10 回	演習第 9 回	'The House' 第 2 回
第 11 回	演習第 10 回	'Last Days' 第 1 回
第 12 回	演習第 11 回	'Last Days' 第 2 回
第 13 回	演習第 12 回	'Last Days' 第 3 回
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目を通しておよその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jonathan Coe, *The Accidental Woman*, Penguin, 2014
ISBN: 978-0241967713
生協に入荷する指定の版を必ず購入すること。（中古の版や電子書籍の使用は認めない。）

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
提出物（授業の前に提出するものと授業時に提出するもの両方）80 %、授業時の発言 20 %を目安に総合評価。受講者が一定数を超える場合には、提出物 70 %、授業時の発言 20 %、学期末に小テストを行いそれを 10 %目安に総合評価。履修者数が決定した時点でこの件については教室で通知する。

【学生の意見等からの気づき】
現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【その他の重要事項】
この授業を受講する上で知っておくべき事柄について初回に詳細にわたり話をするので、可能な限り初回から出席すること。オフィスアワーは授業の後とするが、事前にアポイントメントを取っておく必要がある。なお、定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選考を行う。

【Outline and objectives】
On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *The Accidental Woman* (1987) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (2) B

安藤　和弘

授業コード：A2867　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学作品に材をとる翻訳演習。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。取り上げる作品は Jonathan Coe の *The Accidental Woman* (1987)。Coe は痛快な社会諷刺を得意とする作家だが、この授業で取り上げる作品では、現代のイギリス社会を生きる若い女性の友情、恋愛、結婚などが、繊細な感情知性と抒情的な深みをもって描かれている。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。

【到達目標】
文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、特に、ただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の精確な意味と細かなニュアンスまでをも反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。（訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。）授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、数名の学生が日本語訳をメールで事前に提出する。教員はそれを事前にとりまとめ、授業時に紙面で配布する。それを学生全員が検討した上で、最後に教員が講評をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明と、春学期に読んだ範囲の物語展開の概要
第 2 回	演習第 1 回	'Her First Mistake' 第 1 回
第 3 回	演習第 2 回	'Her First Mistake' 第 2 回
第 4 回	演習第 3 回	'Redunzl' 第 1 回
第 5 回	演習第 4 回	'Redunzl' 第 2 回
第 6 回	演習第 5 回	'Redunzl' 第 3 回
第 7 回	演習第 6 回	'A Great Day for Ronny' 第 1 回
第 8 回	演習第 7 回	'A Great Day for Ronny' 第 2 回
第 9 回	演習第 8 回	'A Great Day for Ronny' 第 3 回
第 10 回	演習第 9 回	'Maria in Exile' 第 1 回
第 11 回	演習第 10 回	'Maria in Exile' 第 2 回
第 12 回	演習第 11 回	'Afterhand' 第 1 回
第 13 回	演習第 12 回	'Afterhand' 第 2 回
第 14 回	総括	総括　この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目を通しておよその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jonathan Coe, *The Accidental Woman*, Penguin, 2014
ISBN: 978-0241967713
生協に入荷する指定の版を必ず購入すること。（中古の版や電子書籍の使用は認めない。）

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
提出物（授業の前に提出するものと授業時に提出するもの両方）80 %、授業時の発言 20 %を目安に総合評価。受講者が一定数を超える場合には、提出物 70 %、授業時の発言 20 %、学期末に小テストを行いそれを 10 %目安に総合評価。履修者数が決定した時点でこの件については教室で通知する。

【学生の意見等からの気づき】
現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【その他の重要事項】
この授業を受講する上で知っておくべき事柄について初回に詳細にわたり話をするので、可能な限り初回から出席すること。オフィスアワーは授業の後とするが、事前にアポイントメントを取っておく必要がある。なお、定員を 30 名とし、それを超える受講希望者がいる場合には初回に選考を行う。

【Outline and objectives】
On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *The Accidental Woman* (1987) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2993,A2994 ｜ 曜日・時限：**木曜２限限，金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted online. Details will be given on the 学習支援システム. The first class for the Thursday course will be on May 7, and the first class for the Friday course will be on May 8.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
The Japan Times
The New York Times

【成績評価の方法と基準】
Presentations: 50%
Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline and objectives】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2995,A2996 ｜ 曜日・時限：**木曜２限限，金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
The Japan Times
The New York Times

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline and objectives】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

BSP200BD

Academic Writing A

若澤　佑典

授業コード：A2984　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Introduction to Academic Writing: Who is Afraid of Essays?
大学の授業では多くの場合、その学びや研究の成果を「アカデミック・エッセイ」という形でまとめることが多い。その集大成が卒業論文である。この授業ではアカデミック・エッセイ（＝論文）の基本構造を理解し、実際にその執筆プロセスを体験してもらう。文献を読み解き、自身の議論が展開できる英語運用能力の向上を目指す。履修者の人数、アカデミック・エッセイの執筆経験、英語ライティングの習熟度にあわせて、授業内容や課題レベルを調節する。エッセイを書いたり論文を読んだりしたことがないまったくの初級者から、授業などで日本語レポート執筆経験がある中級者、留学経験などがあり英語ライティングに慣れた上級者まで幅広い層を対象とする。

【到達目標】
・アカデミック・エッセイと感想文の違いが説明でき、論文の構成要素を理解している。
・自身の関心に基づいて、研究テーマを設定することができる。またそれにかかわる文献資料を見つけることができ、その内容を自身の議論へと取り入れることができる。
・実際にアカデミックな文章を書くことができ、これをエッセイとしてまとめることができる。
・自身の研究成果・執筆の進行状況を把握し、教員・同級生と共有することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アカデミック・ライティングの概要を説明する「講義」と、履修者がそれぞれテーマを設定してエッセイ執筆を行う「ライティング・ワークショップ」の二部構成で授業を進める。春学期の終わりにはエッセイの概要をまとめた「プロポーザル」、秋学期の終わりには「アカデミック・エッセイ」そのものが完成することを目標とする。授業時間内では、執筆作業そのものではなく、それぞれの書いてきたものを共有しコメントしあうことを行う。使用教材、各週の予習課題、エッセイの執筆言語や長さに関しては、履修者の習熟度に合わせて設定を行う。
【授業開始日】
４月２１日（火）現在、第１回授業資料＋音声講義ファイルは、学習支援システムにアップロード済みです。４月２８日（火）までに教材をダウンロードして、それぞれのペースで自宅学習を進めてください。
学習支援システムにアクセスが集中し、なかなか授業ページに接続ができないかもしれません。履修登録やダウンロードが遅れた方には、課題提出日の延長や授業スピードの調整など、追加サポートを行います。健康を第一にして、それぞれのペースで授業参加をしてください。不安な点や問題があれば、担当講師にメールで相談してください。連絡先は第１回講義スライドに載っています。皆さまが健やかに日々を送れるよう、授業を通じてお手伝いできれば幸いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者各自の背景・習熟度を確認する。
第 2 回	アカデミック・ライティングの世界へようこそ	これまでの執筆経験を共有し、実際のペーパーを読んでみる。
第 3 回	アカデミック・エッセイを解剖する①	タイトル／サマリー／アーギュメント／イントロダクションの機能を確認する。
第 4 回	アカデミック・エッセイを解剖する②	結論／引用／注の機能を確認する。
第 5 回	アカデミック・エッセイを解剖する③	スタイルマニュアルについて知るとともに、「剽窃」の概念と具体例を学ぶ。
第 6 回	テーマを設定する①	漠然とした興味関心を具体的な論文テーマに発展させる方法を学ぶ。
第 7 回	テーマを設定する②	論文テーマを具体的なアーギュメントへと深化させるやり方を学ぶ。
第 8 回	テーマを設定する③	テーマ設定の過程で、リーディングをどう活用するか考える。
第 9 回	プロポーザルを書いてみる①	参考文献表を作ってみる。
第 10 回	プロポーザルを書いてみる②	集めた参考文献をベースに引用表を作ってみる。
第 11 回	プロポーザルを書いてみる③	引用表をもとに要約・パラフレーズのやり方を練習する。

第 12 回	プロポーザルを書いてみる④	論文のサマリーとアーギュメントを書いてみる。
第 13 回	中間報告会①	出来上がったプロポーザルをもとに、プレゼンを行ってもらう。
第 14 回	中間報告会②	前回に引き続き、プロポーザルの発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業課題に沿って、自身のエッセイ・トピックの設定、関連文献のサーベイ、本文の執筆を行う。（3時間）
・授業でのコメントを踏まえ、自身のライティング・プロダクトを推敲する。（1時間）

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
佐藤望ほか編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第3版，東京：慶應義塾大学出版会、2020 年.
Greene, Stuart, and April Lidinsky. From Inquiry to Academic Writing: A Practical Guide. 2nd ed. Boston: Bedford, 2012.
Levin, Peter. Writing Great Essays!. 2nd ed. Maidenhead: Open UP, 2009.

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業課題に対する取り組み　６０％
プロポーザル　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Introduction to Academic Writing: Who is Afraid of Essays?
This course helps undergraduate students understand the idea and process of writing academic essays, which is a crucial part of learning and intellectual inquiry at university. Participants in the course will engage with various workshop activities including analyzing the structure of the academic essay, shaping their own research topic and question, the survey of secondary literature, and presenting their research outcome. By the end of the spring term, they are expected to write a proposal of their essay, which briefly explains its title, argument, outline, and bibliography. In the autumn term, they will start writing the substantial body of the essay. In addition to weekly writing assignments, they are encouraged to improve their academic skills through the regular practice of reading and speaking in class. The course aims to cover the demands of diverse students, from those who have never written an academic essay before to those who have studied in the English-speaking world. The level of the course will depend on who attends the class.

BSP200BD

Academic Writing B

若澤　佑典

授業コード：A2985　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Introduction to Academic Writing: Who is Afraid of Essays?
大学の授業では多くの場合、その学びや研究の成果を「アカデミック・エッセイ」という形でまとめることが多い。その集大成が卒業論文である。この授業ではアカデミック・エッセイ（＝論文）の基本構造を理解し、実際にその執筆プロセスを体験してもらう。文献を読み解き、自身の議論が展開できる英語運用能力の向上を目指す。履修者の人数、アカデミック・エッセイの執筆経験、英語ライティングの習熟度にあわせて、授業内容や課題レベルを調節する。エッセイを書いたり論文を読んだりしたことがないまったくの初級者から、授業などで日本語レポート執筆経験がある中級者、留学経験などがあり英語ライティングに慣れた上級者まで幅広い層を対象とする。

【到達目標】
・アカデミック・エッセイと感想文の違いが説明でき、論文の構成要素を理解している。
・自身の関心に基づいて、研究テーマを設定することができる。またそれにかかわる文献資料を見つけることができ、その内容を自身の議論へと取り入れることができる。
・実際にアカデミックな文章を書くことができ、これをエッセイとしてまとめることができる。
・自身の研究成果・執筆の進行状況を把握し、教員・同級生と共有することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アカデミック・ライティングの概要を説明する「講義」と、履修者がそれぞれテーマを設定してエッセイ執筆を行う「ライティング・ワークショップ」の二部構成で授業を進める。春学期の終わりにはエッセイの概要をまとめた「プロポーザル」、秋学期の終わりには「アカデミック・エッセイ」そのものが完成することを目標とする。授業時間内では、執筆作業そのものではなく、それぞれの書いてきたものを共有しコメントしあうことを行う。使用教材、各週の予習課題、エッセイの執筆言語や長さに関しては、履修者の習熟度に合わせて設定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	プロポーザルを実際にエッセイへと発展させるプロセスを確認する。
第 2 回	イントロダクションの執筆①	序論を書いてみる。パラグラフライディングの基礎を確認する。
第 3 回	イントロダクションの執筆②	引き続き序論を書いてみる。研究の位置付け方について考える。
第 4 回	イントロダクションの執筆③	出来上がった序論を見直す。推敲作業の重要性を確認する。
第 5 回	本論の執筆① 書き始める勇気	プロポーザルをもとに本論を書き始める。
第 6 回	本論の執筆② 引用・言い換えの技法	引き続き本論を書き進める。とりわけ効果的な一次文献の引用法、本文への組み込み方に着目する。
第 7 回	本論の執筆③ ミクロ的視点	パラグラフ内における議論の流れ、読者に配慮したライティングのフローに焦点を当てる。
第 8 回	本論の執筆④ マクロ的視点	段落ごとのバランス、本論のボリュームについて考える。
第 9 回	結論部の執筆① 総括する技法	これまでのアーギュメントをどうまとめられるか、結論部の構想を練る。
第 10 回	結論部の執筆② 独自性の提示	前回に引き続き、結論部の執筆を進める。論文のオリジナリティをどう理解し、いかに表現するかに焦点を当てる。
第 11 回	結論部の執筆③ 展望する視点／知の共同体への貢献	前回に引き続き、結論部の執筆を進める。問いへの解答が、新たな課題・次の問いを生み出すダイナミズムに着目する。
第 12 回	推敲する①	出来上がったエッセイを見直す。とりわけイントロダクションと結論部の対応関係に着目する。
第 13 回	推敲する②	引き続き出来上がったエッセイを見直す。パラグラフごとのサインポストやトピックセンテンスに注目する。

第 14 回	総括	出来上がったエッセイの発表と講評会を行う。執筆経験の振り返りもする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業課題に沿って、自身のエッセイ・トピックの設定、関連文献のサーベイ、本文の執筆を行う。（3時間）
・授業でのコメントを踏まえ、自身のライティング・プロダクトを推敲する。（1時間）

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
佐藤望ほか編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第3版，東京：慶應義塾大学出版会、2020 年.
Greene, Stuart, and April Lidinsky. From Inquiry to Academic Writing: A Practical Guide. 2nd ed. Boston: Bedford, 2012.
Levin, Peter. Writing Great Essays!. 2nd ed. Maidenhead: Open UP, 2009.

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業課題に対する取り組み　６０％
アカデミック・エッセイ　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Introduction to Academic Writing: Who is Afraid of Essays?
This course helps undergraduate students understand the idea and process of writing academic essays, which is a crucial part of learning and intellectual inquiry at university. Participants in the course will engage with various workshop activities including analyzing the structure of the academic essay, shaping their own research topic and question, the survey of secondary literature, and presenting their research outcome. By the end of the spring term, they are expected to write a proposal of their essay, which briefly explains its title, argument, outline, and bibliography. In the autumn term, they will start writing the substantial body of the essay. In addition to weekly writing assignments, they are encouraged to improve their academic skills through the regular practice of reading and speaking in class. The course aims to cover the demands of diverse students, from those who have never written an academic essay before to those who have studied in the English-speaking world. The level of the course will depend on who attends the class.

LIN200BD

Public Speaking

椎名　美智

授業コード：A2991　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will focus on developing and improving students' public speaking skills in English by introducing basic technics of public speaking and also by assigning tasks of giving English speeches in the class. Students will deepen their understanding of the linguistic behaviours of public speaking in English by giving speeches themselves and observing their classmates' speeches.

【到達目標】
The goal of this course is to acquire enough linguistic knowledge and skills to make speech in English themselves in the class, and also critical attitude to evaluate other people's speeches.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The first class will start on 21/April. For the time being, please look at the handout that is uploaded. When you have all registered, I will use zoom. I will upload a new mission every week. So please look at the HOPPII every week.
The course will consist of lectures and presentations. Reading tasks and preparing a few speeches are required. Since this course mainly consists of students' presentations, the number of the students should be limited to 20 at maximum. Those who would like to take this class should attend the first class as there may be a selection.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction of the instructor, handing out the syllabi, explanation of grading and attendance policies. Assignment of introductory speeches.
第 2 回	Basic Principles of Speech Communication	Focus class discussion on selected exercises. Explanation of introductory speeches.
第 3 回	Introductory Speeches I	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 4 回	Introductory Speeches II	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 5 回	Speaking to Inform	Assignment of informative speeches: guidelines for informative speaking
第 6 回	Choosing Topics and Purposes	Focus class discussion and lecture on on topics and purposes of speeches
第 7 回	Organizing the Body of the Speech	Focus class discussion and lecture on organization of the body of the speech
第 8 回	Introductions and Conclusions	Focus class discussion and lecture on introductions and conclusions
第 9 回	Outlining the Speech	Focus class discussion and lecture on outlining the speech
第 10 回	Delivering the Speech	Focus class discussion and lecture on delivering the speech
第 11 回	Using Visual Aids	Focus class discussion and lecture on using visual aids
第 12 回	Informative Speeches I	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 13 回	Informative Speeches II	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 14 回	Informative Speeches III	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are responsible for doing required reading and tasks before and/or after each class. Preparation for the speech and presentations will be required for credit. You need two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
Handouts are used in the class

【参考書】
Any English textbooks related to public speaking

【成績評価の方法と基準】
50%: Classroom participation
50%: Presentation

【学生の意見等からの気づき】
I would like to spend more time for students' presentations.

【その他の重要事項】
The order of the classes above mentioned can be changed in order to accommodate the students' needs.

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire linguistic competence in English so that students can make speeches or presentations in public situations confidently when they start working.

BSP900BD

海外英語演習

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2889 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
夏期集中・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏期 SA プログラム～ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン。

【到達目標】
アイルランドのユニバーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）で夏期休暇中の３週間を過ごす「夏期 SA プログラム（UCD）」では、英語圏で生活することにより実践的な英語力を集中的に習得し、アイルランドを含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
出発前には主に安全面の確認のための事前指導を行い、帰国後には SA 報告会と英語による面接試問を通じて事後指導を行う。留学先では、UCD の語学センター（Applied Language Centre）に所属する教員が、英語を母語としない学生を対象とした EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当する。クラスは習熟度別に４段階（Advanced, Upper Intermediate, Intermediate, Lower Intermediate）に分かれ、指導が行き届くよう少人数教育をおこなう。通常、授業は月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 1 時頃まで実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1~14	初回にクラス分け試験が実施され、その結果により、学生は各自、適切なクラスに振り分けられる。そのクラスの担当教員により、毎回の授業の目標が示される。	配属されたクラスごとに、学生のレベルにあわせた目標にそった内容を学習する。Reading, Writing, Listening, Speaking の４技能をバランスよく身につけられる内容の授業がおこなわれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現地で指示される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
現地で提供される。

【参考書】
現地で指示される。

【成績評価の方法と基準】
留学先から送付された成績証明書および出席証明書、留学期間中に現地から SA 委員会に提出する英語レポート、帰国報告会時のプレゼンテーション、口頭試問についての SA 委員会の評価を参考にして総合的に合否を判断する。評価は合格を「RS」、不合格を「D」または「E」とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【その他の重要事項】
詳細は、「夏期 SA プログラム（UCD）」パンフレット参照。

【Outline and objectives】
Students participate in the study abroad program at University College Dublin during the summer term.

BSP200BD

２年次演習（１）

田中　裕希

授業コード：A2971　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年次演習では、英米文学を代表する短編小説・詩・映画を鑑賞し、分析の仕方を学ぶ。受け身の読み手から能動的な読み手になるために、作品を構成する一つ一つの要素（語り、文体、登場人物など）を分析し、言葉の細部を主題に結びつける訓練をする。また、この講座は詩を読んだことのない人・苦手な人のための英詩入門の役割も担っている。一行一行ゆっくり読み、詩と他のジャンルとの違いなども学ぶ。

【到達目標】
精読能力を高め、作品の主題を論じる力を身につける。毎週プレゼンテーションを担当する学生を決め、気づいたことなどを発表し、クラス全体でディスカッションする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 22 日です。オンライン授業の方法や課題は、学習支援システムでお知らせします。
学生のプレゼンテーションとディスカッションを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	精読 (close reading) とは何か
第 2 回	言葉（1）	Ernest Hemingway, "Hills like White Elephants"
第 3 回	言葉（2）	"A Clean, Well-Lighted Place"
第 4 回	言葉（3）	William Stafford, "Traveling through the Dark"
第 5 回	語り（1）	Elizabeth Bishop, "The Fish"
第 6 回	語り（2）	Elizabeth Bowen, "Demon Lover"
第 7 回	詩型（1）	Shakespeare's *Sonnets*
第 8 回	詩型（2）	現代のソネット
第 9 回	映画（1）	*East of Eden*
第 10 回	映画（2）	映画分析の仕方
第 11 回	文学と歴史（1）	アイルランド詩
第 12 回	文学と歴史（2）	戦争詩
第 13 回	プレゼンテーション（1）	期末レポートの発表
第 14 回	プレゼンテーション（2）	期末レポートの発表、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週配布されるテクストを予習し、ディスカッションの準備をする。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)
デイヴィッド ロッジ、柴田元幸訳『小説の技巧』(白水社)

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度 30%
プレゼンテーション 30%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
引き続きアクティブにディスカッションする

【その他の重要事項】
授業中のパソコンと携帯電話の使用は原則禁止。
４回以上の欠席で単位を失う。

【Outline and objectives】
In this class, we will study the art of literature by reading major works of fiction and poetry as well as film in English. We will learn to become more active readers by focusing on what constitutes a literary text (narrative, style, characters etc). This course is also designed to be an introduction to poetry for those who have not read poetry in English before. We will take it slowly, reading line by line, trying to figure out what makes poetry distinct from other genres.

BSP200BD

２年次演習（２）

丹治　愛

授業コード：A2972　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
G. B. Shaw の演劇、*Pygmalion* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、批評の方法を学習する。また、それを原作としたミュージカル映画 *My Fair Lady* を見て、映像の読み方も学ぶ。そのうえでレポートを書く。

【到達目標】
・より正確に英語を読む習慣を身につけることができる。
・文学作品、映画の読み方の基礎を学ぶことができる。
・批評的論文の書き方の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・*Pygmalion* を精読する。
・*Pygmalion* を原作とした映画を観る。
・*Pygmalion* に関する批評を読む。
・以上を踏まえて、自分なりの *Pygmalion* 論を書く。
・基本的に授業は演習形式で進める（１つのテクストに二人の分担者）。
授業開始日、４月２２日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと自己紹介	授業の進め方を（１章の冒頭部分をテクストにして発表の仕方も）説明し、分担者を決定する。その後、学生どうしの自己紹介。
第 2 回	文学批評とは何か	作品から証拠を集め、それらを解析し、そこから作品の解釈を論理的に構築していくこと。映画批評のうちで、とくに映像分析の基本概念も学習する。
第 3 回	作品の精読と映画の鑑賞（1）	*Pygmalion* 第一幕を精読し、議論する。対応する映画の場面を鑑賞する。
第 4 回	作品の精読と映画の鑑賞（2）	*Pygmalion* 第二幕前半を精読し、議論する。対応する映画の場面を鑑賞する。
第 5 回	作品の精読と映画の鑑賞（3）	*Pygmalion* 第二幕後半を精読し、議論する。対応する映画の場面を鑑賞する。
第 6 回	作品の精読と映画の鑑賞（4）	*Pygmalion* 第三幕を精読し、議論する。対応する映画の場面を鑑賞する。
第 7 回	作品の精読と映画の鑑賞（5）	*Pygmalion* 第四幕を精読し、議論する。対応する映画の場面を鑑賞する。
第 8 回	作品の精読と映画の鑑賞（6）	*Pygmalion* 第五幕を精読し、議論する。対応する映画の場面を鑑賞する。
第 9 回	これまでの総括	これまでの議論を振り返り、さらに議論を深める。
第 10 回	映画 *My Fair Lady* 鑑賞（1）	映画 *My Fair Lady* の前半を鑑賞する
第 11 回	映画 *My Fair Lady* 鑑賞（2）	映画 *My Fair Lady* の後半を鑑賞する
第 12 回	演劇と映画の比較	映画の見方、映像の読み方の基本を確認してから、演劇と二つの映画を相互に比較する。
第 13 回	批評論文の読解（1）	批評論文を読解する（1）
第 14 回	批評論文の読解（2）	批評論文を読解する（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、毎週、指示されたテクストは授業前にかならず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
George Bernard Shaw, *Pygmalion* and Alan Jay Lerner, *My Fair Lady* (Signet Classics)

【参考書】
Sparknotes をふくめ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業内での発表・議論への参加（予習のうえ、討議に積極的に参加すること）　５０％
２）4000 字程度の期末レポート（選んだ主題にそって詳しく調査を行い、自分の解釈を論理的に展開する）　５０％

【学生の意見等からの気づき】
議論を促す工夫をする。

【Outline and objectives】
In this class, students read G. B. Shaw's play, *Pygmalion*, read critiques about this work and learn how to interpret literary works. Also, they learn how to read the film by looking at the movie based upon *Pygmalion*, and the musical movie *My Fair Lady* that is another adaptation of *Pygmalion*. Then they write a critical essay.

BSP200BD

２年次演習（３）

小島　尚人

授業コード：A2973　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
F. Scott Fitzgerald の小説 *The Great Gatsby* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、小説について論じる方法を学習する。また、この小説を原作とした映画のうち 2013 年に公開された最新のものを見て、映画の分析の仕方も学ぶ。小説の英語の精読と映像・小説の比較検討というやや趣きの異なる二つの分析方法に同時並行的に取り組むことで、受講者それぞれが作品への理解をより深めるとともに、自分の批評的関心のありかを考える機会をもつことができる。そうした関心を発展させて、期末レポートにまとめる。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解読しようとする習慣をつける。
・アメリカ文学を代表する作品の一つを原書で読みとおすことの達成感を味わうことで、さらなる読書への意欲を持つことができる。
・小説、映画の分析方法について、その基礎を学ぶことができる。
・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持てるようになる。
・文学作品を題材にした発表とディスカッションを通じて、自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
・自分の解釈を、先行研究を踏まえてレポートにまとめる技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
初回授業は 4 月 22 日（水）です。
小説 *The Great Gatsby* を精読する。基本的に授業は演習形式で進め、毎回二人の担当者が発表をおこなった後、受講者全員でディスカッションをする。小説の解釈にくわえて、映画の該当箇所を参照し、さまざまな異同とその意味についても吟味する。学期後半には批評論文の調査、収集、読解の実践を通じて、期末レポートに向けた準備をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／映画版を観る（1）	授業の進め方の説明のあと、映画『華麗なるギャツビー』を観始める。
第 2 回	映画版を観る／導入	映画『華麗なるギャツビー』を観終える。フィツジェラルドの生涯とその作品についての概説。発表の分担を決定する
第 3 回	小説の読解、映画との比較（1）	*The Great Gatsby* の第一章を精読する。発表（初回は教員が担当）と質疑応答、ディスカッション
第 4 回	小説の読解、映画との比較（2）	*The Great Gatsby* の第二章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 5 回	小説の読解、映画との比較（3）	*The Great Gatsby* の第三章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 6 回	小説の読解、映画との比較（4）	*The Great Gatsby* の第四章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 7 回	小説の読解、映画との比較（5）	*The Great Gatsby* の第五章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 8 回	小説の読解、映画との比較（6）	*The Great Gatsby* の第六章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 9 回	小説の読解、映画との比較（7）	*The Great Gatsby* の第七章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 10 回	小説の読解、映画との比較（8）	*The Great Gatsby* の第八章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 11 回	小説の読解、映画との比較（9）	*The Great Gatsby* の第九章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 12 回	批評論文の読解（1）	*The Great Gatsby* について書かれた日本語論文を読む。日本語論文の調査、収集法についても学ぶ
第 13 回	批評論文の読解（2）	*The Great Gatsby* について書かれた英語論文を読む。英語論文の調査、収集法についても学ぶ

第 14 回　まとめ	受講者が各自レポートの計画について発表し、意見交換をする。その後、作品の主題を整理して、授業のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間）。

【テキスト（教科書）】
F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (Scribner, 2004). ISBN: 9780743273565

【参考書】
アンドルー・ターンブル『完訳　フィッツジェラルド伝』（こびあん書房、1988 年）
野崎孝（編）『フィッツジェラルド』（研究社、1966 年）
村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』（中央公論新社、2007 年）
リチャード・リーハン『「偉大なギャツビー」を読む――夢の限界』（旺史社、1995 年）
他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内での発表・議論への参加度： 40 %
期末レポート（3000 字以上）： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to literary studies in seminar classes. Through the close reading of *The Great Gatsby* as well as one of its film adaptations, students will develop their skills to discuss literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

BSP200BD

２年次演習（４）

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2974　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted online. Details will be given on the 学習支援システム. The first class will be on Wednesday, April 22. 2020.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	L2 Fluency	How is L2 fluency developed?
第 6 回	Contexts of instructed L2 acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 7 回	Teaching reading	Approaches to and issues in reading instruction
第 8 回	Speaking and pronunciation	Issues in incorporating pronunciation instruction in L2 classes
第 9 回	Classroom-based assessment	How can L2 performance be assessed?
第 10 回	Communication and fluency	Issues in incorporating communication and fluency practice in L2 classes
第 11 回	Teaching listening	Intensive and extensive approaches to listening instruction
第 12 回	Individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class– this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 50%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline and objectives】
This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

BSP200BD

２年次演習（５）

椎名　美智

授業コード：A2975　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の言語コミュニケーションの中でも、特に言葉の意味に関することについて学びます。

【到達目標】
語用論、コミュニケーション論の基礎的な知識を身につけることにより、日常のコミュニケーションの意味を、言語学的に分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 22 日です。
教員がその日のテーマに関する講義を行いながら授業を進めます。個人やグループで課題に取り組む演習もあります。
今年は変則的なので、しばらくは「教材」に入れた情報を見て学習してください。履修者が確定したら、zoom でお会いしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第 2 回	プレゼンテーション実践 1	自己紹介プレゼンテーションと相互フィードバック
第 3 回	プレゼンテーション実践 2	自己紹介プレゼンテーションと相互フィードバック
第 4 回	語用論の基礎 (1)	語用論の基礎的な事柄についての説明
第 5 回	語用論の基礎（2）	言葉と意味、インプリカチャーについて
第 6 回	研究の方法論	調査の方法について：データ収集と分析方法について
第 7 回	調査課題ワークショップ	学生が自分の研究課題を決めるためのワークショップ
第 8 回	先行研究調査	図書館での演習
第 9 回	研究の進め方	グループでのコンサルテーション
第 10 回	個人調査課題発表会（1）	学生による発表（1）
第 11 回	個人調査課題発表会（2）	学生による発表（2）
第 12 回	英語学文献研究（1）	ビブリオバトル（1）
第 13 回	英語学文献研究（2）	ビブリオバトル（2）
第 14 回	まとめと今後の課題	研究の進め方についてのまとめと今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表の準備、授業の予習・復習が必要です。各自、初回の自己紹介以外に発表が 2 回あります。
・毎回、授業で課題が出されるので、準備をしてくることが必要です。
・言語、コミュニケーションに関する本を自分で読んでおくことが必要です。
・日常のコミュニケーションで気づいたことをメモしておくことが必要です。
準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウトを使います。

【参考書】
授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート 30%、授業への貢献 30%、発表を 40%

【学生の意見等からの気づき】
学生の発表やワークショップに時間をかけると研究への興味が高まるようなので、今年は学生の発表のために、ワークショップやグループワークの時間を多くしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
・初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。
・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回以上欠席した場合、連続して 2 回欠席した場合、発表しなかった場合は D 評価となります。

【Outline and objectives】
This course deals with human communication. Students are expected to find problems regarding meaning of speech.

BSP200BD

２年次演習（６）

石川　潔

授業コード：A2976　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語学の様々な分野への「つまみ食い」的な入門

【到達目標】
・言語学の複数分野について、理解を深めること。
・文献を批判的に読む力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、オンライン化によって大幅に変更されることがほぼ確実です。しかし変更内容はまだ未定です（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。
本授業の開始日は、（導入や環境整備も含めて）４月 22 日を予定しています。「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信、学習支援システムでのテスト」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。初回は、授業内容のオリエンテーションや動画ファイルの見方の解説の pdf ファイルを配信する予定です。初回以降の見込みについても、その際、pdf ファイルに記入しておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明
第 2 回	アクセント１	アクセントって何？
第 3 回	母音動詞と子音動詞	日本語動詞の語幹と語尾への切り分け
第 4 回	アクセント２	名詞＋助詞、および動詞の活用形のアクセント規則
第 5 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性あり）	図書館ガイダンス
第 6 回	音象徴からの音声学入門	obstruent vs. sonorant
第 7 回	統語論１	入門
第 8 回	統語論２	問題演習
第 9 回	文理解１	何が問題か
第 10 回	文理解２	簡単な実験実習
第 11 回	文理解３	prosody と統語構造
第 12 回	文理解４	統語「戦略」： Minimal Attachment, Late Closure
第 13 回	文理解５	統語「戦略」についての問題演習
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の準備や handout の作成、実験の実習。
なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材を配布します。

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
発表点 40 %
take-home exam 20 %

【学生の意見等からの気づき】
前年度は担当しておらず、それ以前に担当した時のアンケート結果は手元にありません（泣）。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段使用するメールアドレスを登録しておく（または、自分が普段使用するメールアドレスへの自動転送を法政 gmail で設定しておく）こと。

【Outline and objectives】
“Choosy” introductions to several fields in linguistics.

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies A

田中　裕希

授業コード：A2986　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「翻訳」をテーマに、様々な国の文学作品・映画を分析する。翻訳を通じて英語と日本語の違いを考え、文化的背景や文化間の摩擦がどのように作品に反映されているのかを読み解く。また、第二言語で書かれた作品や移民文学を通じて、言語と異文化体験の関係にも注目する。

【到達目標】
Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts, and conduct discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The class starts on April 23, and there will be a selection process from 10:40 that day. Please make sure to register for the class by then to be considered for the process. I will send you further instructions through Hoppi.
The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will also translate texts of their own choosing and discuss them in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	What is translation?
第 2 回	Translating Japanese Poetry	Haiku and waka
第 3 回	Orientalism in Translation	Japonism, Imagism, Li Bai
第 4 回	Cross-cultural Fiction	Marguerite Duras, *Lover*
第 5 回	Translation in Practice	Translation workshop
第 6 回	Film Adaptation	Doestoevsky , *White Nights*
第 7 回	continued	Luchino Visconti, *White Nights*
第 8 回	Translation and Immigration	Contemporary American poetry
第 9 回	Exophony － Writing in Second Language	Nabokov, Yoko Tawada, Hideo Levy
第 10 回	Translation in Practice	Translation workshop
第 11 回	Tokyo in Translation	Sophia Coppola, *Lost in Translation*
第 12 回	continued	continued
第 13 回	Presentations	Presentations
第 14 回	Presentations	Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

【テキスト（教科書）】
『英語でよむ万葉集』(岩波新書)　リービ 英雄　(著)
『白夜』 (角川文庫クラシックス) ドストエフスキー　(著)
『愛人 ラマン』 (河出文庫) マルグリット デュラス　(著)

【参考書】
『翻訳語成立事情』(岩波新書)　柳父 章 (著)

【成績評価の方法と基準】
Attendance, Participation, Homework: 30%
Presentation: 30%
Final Paper: 40%
More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
In this class we will explore the theme of translation in the broadest sense of the word. Not only will we study English translations of Japanese literature, we will consider the cultural contexts in which these translations emerged. We will also discuss how some writers translate themselves into their second language.

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies B

田中　裕希

授業コード：A2987　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「翻訳」をテーマに様々な国の文学作品・映画を分析する。翻訳と異文化体験といった春学期のテーマに加え、今学期は映像を言葉に、また言葉を映像に「翻訳」する作品を読むことで、ジャンル論への理解も深める。

【到達目標】
Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts, and conduct discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
For each class, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least two hours preparing for each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Review
第 2 回	Japan in Translation	Henri Cole, *Middle Earth*
第 3 回	SF and Translation	Denis Villeneuve, *Arrival*
第 4 回	continued	continued
第 5 回	Translation in Practice	Translation workshop
第 6 回	Ekphrasis	Words, paintings, surrealism
第 7 回	Cinematic Image	Alan Renair, *Hiroshima Mon Amour*
第 8 回	continued	continued
第 9 回	Translation in Practice	Translation workshop
第 10 回	Japan and Translation	Japanese Modernism
第 11 回	Translation in Practice	Translation workshop
第 12 回	Theory of Translation	What is translation studies?
第 13 回	Presentations	Presentations
第 14 回	Presentations	Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will read a novel, a short story, or a poem. They are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be distributed in class.

【参考書】
To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance, Participation, Homework: 30%
Presentation: 30%
Final Paper: 40%
More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
The course schedule is subject to change, depending on students' interests.

【Outline and objectives】
In this class, we will continue our exploration of the theme of translation. Not only will we further deepen our understanding of translation from the cross-cultural perspective, we will also study how images are translated into words, and vice versa.

LIN300BD

英語教育学演習 A

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2961 ｜ 曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
(1) Explain the L2 acquisition process
(2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted online. Details will be given on the 学習支援システム. The first class will be on Friday, April 24. 2020.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	Input	What is the role of input in L2 learning?
第 3 回	Output	What is the role of output in L2 learning?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Feedback	What is the purpose of feedback in L2 learning?
第 7 回	Implicit negative feedback	What is the role of implicit negative feedback in L2 learning?
第 8 回	Prompts and recasts	What are the effects of prompts and recasts in L2 instruction?
第 9 回	Interactional feedback	Effects of the instructional environment and feedback
第 10 回	Implicit and explicit feedback	Effects of feedback on learning L2 grammar
第 11 回	Focused and unfocused feedback	Effects of focused and unfocused feedback on L2 learning
第 12 回	Oral and written feedback	Effects of oral and written feedback on L2 learning
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 50%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline and objectives】
This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

LIN300BD

英語教育学演習 B

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2962 ｜ 曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
(1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
(2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	From SLA to language pedagogy	Connections between second language acquisition and second language pedagogy
第 3 回	History of second language teaching methods	Traditional approaches to second language teaching
第 4 回	Identifying components of a language course	Key parts of a language course
第 5 回	Second language tasks	The use of tasks in second language teaching
第 6 回	Beginning to listen and speak	Teaching listening and speaking to beginning learners
第 7 回	Teaching listening	Approaches and research in teaching listening
第 8 回	Teaching speaking	Approaches and research in teaching speaking
第 9 回	Teaching reading	Approaches and research in teaching reading
第 10 回	Teaching writing	Approaches and research in teaching writing
第 11 回	Developing fluency	Approaches to and research on fluency development
第 12 回	Designing language tests	Types and purposes of language tests
第 13 回	Analyzing language tests	Methods of analyzing language tests
第 14 回	Research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline and objectives】
This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅰ

若澤　佑典

授業コード：A2965　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
感情の歴史と文学研究：
本講義では「感情の歴史」という学問領域から、文学研究・英語圏文学史について再考する。私たちは日々、笑ったり怒ったりする中で自身の感情を言葉にしている。また、本を読んだり映画を見たりする際は泣いたり怖がったりと、言葉によって特定の感情が呼び起こされたりする。私たちの言語表現と感情の関わり、すなわち文学と感情の相補的な関係について考えたい。１８世紀イギリスのテクストを中心にして、「感情」に関わる語彙／表現／主題／ジャンルを読み解いていく。最終的には授業で提示した枠組みとケーススタディをもとにして、各自の専門分野・研究テクストが論じられるようになることを目指す。

【到達目標】
・「驚き」や「笑い」といった感情の在り方について、文学・歴史・哲学的な観点から理論的に考察することができる。
・個々の英文学作品について、その感情表現や主題化に着目して解釈することができる。
・感情をテーマとした１８世紀英文学に親しみ、その概容や個々の作品の特徴が理解できる。
・英文学研究の方法と実践について、思想史・文化人類学・精神分析といった隣接領域との関わりに注意を払い、学際的な視点を持つことができる。
・講義で提示されたテーマ・事例について、自身の研究関心と結び付け論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義形式で進めるが、アクティヴ・ラーニングを活用して対話的かつ双方向的な授業を目指す。例えばキーコンセプトを説明する際は、理解した内容を履修者にパラフレーズしてもらったり、各人の専門分野や興味関心とのかかわりを考えて話してもらったりする。毎回ではないが、課題文献を指定して授業前に読んできてもらったり、授業内でレスポンスペーパーを書いてもらったりする。履修者には春学期内に１回、１０分～２０分程度の研究発表を行ってもらう。
【授業開始日】
第１回講義資料＋音声ファイルは４月２３日（木）頃、学習支援システムにアップロード予定です。履修者のみなさんはご自身の状況に合わせ、それぞれのペースで内容確認・自宅学習を進めてください。４月末日までに第１回分の学習が完了できれば問題ありません。健康を第一に、新学期を過ごしてください。
また、学習支援すステムへのアクセスが混雑するかもしれません。学習環境やインターネット接続の関係などで履修が遅れた方たちには、授業スピードの調整や課題提出日の延長、追加サポートなどを行います。履修にあたって心配なことがある方は、適宜メールでご相談ください。連絡先は第１回講義資料に載っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：近代イギリスと泣く人々	ミル『自伝』を読む
第 2 回	「感情の歴史」という学問領域の成立	ロンドン大学「感情の歴史研究センター」のマニフェストを読む
第 3 回	「怖がる／恐れる」①：生存の危機における叫び	ホッブズの社会契約説を検討する
第 4 回	「怖がる／恐れる」②：ホラーの悦び	ウォルポールのゴシック小説を読む
第 5 回	「不安になる」：未来への想像力と感情	ヒュームの懐疑論とその言語表現を検討する
第 6 回	「失望する／嘆く」：過去への視点と感情	・ゴドウィン『ケイレブ・ウィリアムズ』を読む ・クリッチリー「哲学は失望から始まる」というテーゼを検討する
第 7 回	「笑う」：体系化からの逸脱	エーコ『薔薇の名前』の一場面（笑いをめぐる教義問答）を取り上げる
第 8 回	「笑う」②：劇場という空間	・シェイクスピアとシェリダンを取り上げる ・パフォーマンス（演じる）と感情表現について考える
第 9 回	「驚く」：推理とその裏切られ方	・「哲学は驚きから始まる」というテーゼを検討する ・ミステリーというジャンルについて考える
第 10 回	中間総括：感情の「分類」というアプローチをめぐって	個々の感情をピックアップする方法について、そのアプローチの有効性と限界を考える
第 11 回	感情の伝染①：「共感」	・１８世紀イギリスの道徳感情論（ヒュームおよびスミス）を検討する ・感傷文学を読む
第 12 回	感情の伝染②：「転移」	精神分析の知見から道徳感情論をアップデートする
第 13 回	感情は誰のものか？　：個人・無意識・集団心理	精神分析から「感情の歴史」をめぐる方法と実践を検討する
第 14 回	「感情の歴史」というフロンティア	春学期講義を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定された文献を数ページでいいので目を通し、重要な点や気になる点をメモする。授業でどのようなコメントをするか考える。（２時間）
・授業で提示した研究テーマや方法について、各自の興味関心とのかかわりを考える。（１時間）
・講義内容をまとめ、そこで疑問に思ったことや興味を惹かれたことを軸に、授業内発表の準備を進める。（１時間）

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
The Queen Mary Centre for the History of the Emotions
https://projects.history.qmul.ac.uk/emotions/
Thomas Dixon “Feelings, and feelings, and feelings” (BBC Radio 3 Freethinking)
https://www.bbc.co.uk/programmes/m0003rsw
Emotion in History (Oxford University Press)
https://global.oup.com/academic/content/series/e/emotions-in-history-eih/?cc=gb&lang=en&
『痛みと感情のイギリス史』と Early English Books Online
http://www.kinokuniya.co.jp/03f/denhan/chadwyck/umi/eebotalk.htm

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（１０分～２０分程度のプレゼンテーション＋質疑応答）　５０％
毎週の授業課題に対する取り組みとレスポンスペーパー　５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The History of Emotions and Literary Studies:
This course explores the history of emotions and its contribution to understanding literary texts.　This is an emerging field of academic inquiry across disciplinary boundaries including social and cultural history, philosophy, anthropology, psychoanalysis and behavior science.　Historians of emotions emphasize that human feelings are embedded in social and cultural practice, and therefore, each emotion has its own “history.”　Instead of reducing various feelings into a simplified theoretical model, they focus on the diverse embodiments and expressions of emotions in everyday life, as the product of interactions between feeling and other human activities.
As part of locating literary studies in the history of emotions (and vice versa), we will examine the intersection between feeling and writing/reading/narrating by exploring eighteenth-century literature and related texts produced in the “age of sensibility.”　The primary texts of this course include Laurence Sterne’s *A Sentimental Journey* (1768), Horace Walpole’s *The Castle of Otranto* (1764), William Godwin’s *Caleb Williams* (1794), Mary Wollstonecraft’s *Letters Written in Sweden, Norway, and Denmark* (1796), Adam Smith’s*The Theory of Moral Sentiments* (1759), and David Hume’sA *Treatise of Human Nature* (1739-40).

LIT200BD

英米文学特殊講義 Ⅱ

小島　尚人

授業コード：A2966　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「ハードボイルド探偵小説とフィルム・ノワール」を主題とし、20 世紀前半のアメリカの小説と映画について学ぶ。米国特有の推理小説がどのような文化的・歴史的背景の中から生まれてきたのか、どのような形式上・内容上の新しさを備えていたのか、そして何を問題としてきたのかを、ダシール・ハメット『マルタの鷹』（1930 年／映画版 1941 年）とレイモンド・チャンドラー『大いなる眠り』（1939 年／映画版 1946 年）という代表的な 2 作品およびその映画版の読解を通じて理解することを目指す。

【到達目標】
①ハードボイルド探偵小説が誕生するに至ったアメリカの文化的・歴史的背景の概略について理解し、説明できるようになる。
②ハードボイルド探偵小説の形式的・内容的特徴を、『マルタの鷹』と『大いなる眠り』の二作の具体的内容に即して丁寧に理解し、自分なりに説明できるようになる。
③小説と映画の解釈および比較分析の実践を通して、文学研究の意義を体験的に理解し、その基本的方法を身につける。
④作品の一部を英語でも講読することを通して英語読解能力を、また能動的な映画視聴を通じてリスニング力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①授業は講義形式で進める。ハードボイルド探偵小説が誕生するに至ったアメリカの文化的・歴史的背景を学んだ上で、当該ジャンルの方向性を決定づけた代表作『マルタの鷹』および『大いなる眠り』の 2 作品を、それぞれの映画版と合わせて詳しく分析する。
②上記 2 つの小説については、指定された版の翻訳を教科書として各自購入し、翌週で扱う範囲を予習として読んできた上で授業に臨む。講義は予習を前提として進められる。予習状況の確認のために、作品の内容理解を問う授業内小テストが計 6 回課される。
③毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述する形で、講義へのレスポンスや作品解釈をおこなう。
④そのような実践の積み重ねを通じて、小説や映画がアメリカの社会・文化の動向とどのように関連しあい、生み出された時代のありさまをどのように反映しているかを能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、学習内容の概観
第 2 回	ハードボイルド探偵小説の起源①：英米探偵小説史	英米それぞれの系譜と特徴：ポー、家庭探偵小説、コリンズ、ドイル、クリスティ、パルプ・マガジン
第 3 回	ハードボイルド探偵小説の起源②：ウエスタン	西部のアメリカン・ヒーローたち、ダイム・ノヴェル、西部劇映画
第 4 回	ジャンルの確立：『マルタの鷹』を読む①	形式と内容における「ハードボイルド」：語りの技法と文体、舞台設定と物語展開、主人公の造形、警察と私立探偵
第 5 回	ジャンルの確立：『マルタの鷹』を読む②	物語の重層性：冒険小説、恋愛小説、推理小説
第 6 回	ジャンルの確立：『マルタの鷹』を読む③	ファム・ファタールと私立探偵の詩学：サム・スペードの決断
第 7 回	フィルム・ノワールとは：『マルタの鷹』を観る①	映像における形式・視点・描写の技法とその効果
第 8 回	フィルム・ノワールとは：『マルタの鷹』を観る②	小説と映画の比較
第 9 回	ジャンルの展開：『大いなる眠り』を読む①	形式と内容における「ハードボイルド」：語りの技法と文体、舞台設定と物語展開、主人公の造形、警察と私立探偵
第 10 回	ジャンルの展開：『大いなる眠り』を読む②	物語の重層性：冒険小説、恋愛小説、推理小説
第 11 回	ジャンルの展開：『大いなる眠り』を読む③	ファム・ファタールと私立探偵の詩学：フィリップ・マーロウの孤独
第 12 回	フィルム・ノワールとは：『三つ数えろ』を観る①	映像における形式・視点・描写の技法とその効果
第 13 回	フィルム・ノワールとは：『三つ数えろ』を観る②	小説と映画の比較
第 14 回	ジャンルの多様化：「ハードボイルド探偵」その後	内省的探偵、暴力的探偵、女性探偵、黒人探偵、21 世紀のハードボイルド探偵

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で扱う作品を事前に読む。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での小テストや課題に対応できるようにしておく。（3 時間）
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
①ダシール・ハメット『マルタの鷹［改訳決定版］』小鷹信光訳、ハヤカワ文庫、2012 年（ISBN: 97841507730761）
②レイモンド・チャンドラー『大いなる眠り』村上春樹訳、ハヤカワ文庫、2014 年（ISBN: 9784150704643）

【参考書】
小鷹信光『ハードボイルド以前』（草思社、1980 年）
小鷹信光『ハードボイルド・アメリカ』（河出書房新社、1983 年）
亀井俊介『アメリカン・ヒーローの系譜』（研究社、1993 年）
野崎六助『北米探偵小説論』（河出書房新社、1998 年）
諏訪部浩一『『マルタの鷹』講義』（研究社、2012 年）
諏訪部浩一『ノワール文学講義』（研究社、2014 年）
John T. Irwin, *Unless the Threat of Death Is Behind Them: Hard-Boiled Fiction and Film Noir* (Johns Hopkins UP, 2009)

【成績評価の方法と基準】
①授業内小テスト（計 6 回）およびワークシート（ほぼ毎週）：35 %
予習ができているか（ちゃんと作品を読んできているか）、授業内容を理解しているか、ワークシートを通じて積極的に参加しているか、自分なりの解釈を試みているか、他の人に伝わるような形で説明できているか
②学期末定期試験：65 %
教科書 2 冊を読み、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される記述・論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできませんが、ワークシートへのフィードバック等を通じて皆さんの考察や疑問をクラス全体に共有しつつ講義内容に反映させていくことで、各々の能動的な参加を促したいと思います。

【その他の重要事項】
必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline and objectives】
This is a special topics course focusing on hardboiled fiction and film noir. Beginning with a historical survey of the origins of the genres, the course offers a close reading of *The Maltese Falcon* and *The Big Sleep*, two of the founding works of the hardboiled detective fiction. Through an intensive discussion on the novels and their film adaptations, students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of quizzes, lectures, and in-class writing assignments.

LIN300BD

言語習得論演習 A

中田　達也

授業コード：A3001　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教室内第二言語習得研究（Instructed Second Language Acquisition research: ISLA）の基礎を習得し、それらを英語教育に生かす方法について考察する。特に、タスク・ベースの言語指導および英語語彙習得に焦点を当て、その理論的背景を理解することを目指す。また、卒業論文の作成を念頭に、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を論文として発表する能力を養う。

【到達目標】
ISLA の基本的な概念（特に、タスク・ベースの言語指導および英語語彙習得）について理解し、さらに学習した理論に基づいた教材や学習活動を作成することができる。また、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を卒業論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	第二言語習得研究入門
第 2 回	卒論テーマ	卒論テーマ発表
第 3 回	タスクの理論	タスク・ベースの言語指導とその実例
第 4 回	タスク	タスクの作成
第 5 回	タスクの実践	作成したタスクのトライアル
第 6 回	タスク発表	作成したタスクに関する発表
第 7 回	第 1 章	研究とは何か？
第 8 回	第 2 章	研究テーマの決め方
第 9 回	第 3 章	先行研究の探し方
第 10 回	第 4 章	研究課題とデータ
第 11 回	卒論テーマ	卒論テーマの発表
第 12 回	卒論構想	卒論構想発表
第 13 回	卒論	卒論進捗発表
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した内容をふまえた教材や学習活動を作成したり、授業内での発表準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浦野研ほか『はじめての英語教育研究』大修館書店

【参考書】
鈴木渉（編著）『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店
中田達也『英単語学習の科学』研究社

【成績評価の方法と基準】
小テストやレポート課題（40%）
授業での発表（30%）
クラスへの貢献度などの平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】
成績評価における小テストの比重が重いというコメントがあったため、調整します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業にやむを得ず遅刻・欠席する際は、事前にメール等で連絡してください。4 回以上欠席した場合は、単位取得不可能になります。原則として、秋学期の「言語習得論演習 B」と連続して履修して下さい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to prepare students to conduct research independently in the field of second language acquisition. Specifically, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers.

LIN300BD

言語習得論演習 B

中田　達也

授業コード：A3002　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教室内第二言語習得研究（Instructed Second Language Acquisition research: ISLA）の基礎を習得し、それらを英語教育に生かす方法について考察する。また、卒業論文の作成を念頭に、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を論文として発表する能力を養う。

【到達目標】
ISLA の基本的な概念について理解し、説明することができる。また、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を卒業論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献講読や講義を通して、教室内第二言語習得研究について学ぶ。また、文献・講義で紹介された概念や理論を実際に体験するための活動や、グループディスカッション等を通して、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	導入
第 2 回	卒論テーマ	卒論テーマ発表
第 3 回	第 5 章	質的研究の進め方
第 4 回	第 6 章	量的研究の進め方
第 5 回	第 7 章	研究成果の公表方法
第 6 回	語彙学習の理論	第二言語語彙学習の基礎
第 7 回	語彙学習	語彙学習活動の作成
第 8 回	先行研究	卒論に関連する先行研究の紹介
第 9 回	卒論構想	卒論構想発表
第 10 回	進捗発表	卒論進捗発表
第 11 回	中間発表	卒論中間発表
第 12 回	ピア・フィードバック	卒論へのピア・フィードバック
第 13 回	成果発表	卒論成果発表
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当箇所を事前に読んだり、授業内での発表準備をすることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浦野研ほか『はじめての英語教育研究』大修館書店

【参考書】
鈴木渉（編著）『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店
中田達也『英単語学習の科学』研究社

【成績評価の方法と基準】
小テストやレポート課題（40%）
授業での発表（30%）
クラスへの貢献度などの平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】
成績評価における小テストの比重が重いというコメントがあったため、調整します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業にやむを得ず遅刻・欠席する際は、事前にメール等で連絡してください。4 回以上欠席した場合は、単位取得不可能になります。原則として、春学期の「言語習得論演習 A」と連続して履修して下さい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to prepare students to conduct research independently in the field of second language acquisition. Specifically, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers.

LIN300BD

英語学演習 (1) A

大沢　ふよう

授業コード：A2935　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学・言語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】
この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
現段階で次のように予定しています。学期中に、取り上げるテーマを幾つか決めます。テーマの中のトピックに関して書かれた論文に関して学生が順番に、内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。取り上げるテーマは、「統語論」「日本語と英語の比較」などを予定しています。
これとは別に受講生個々人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。
また、受講生を何人かのグループに分けて、１グループが１つの research topic について LinguistList を使って調査・分析をするグループ・プロジェクトを行います。結果をまとめてグループごとに発表してもらます。
ただ、現在大学での授業が不可能な状態が当面続くと思われるので、このプロジェクトの開始時期は未定です。
授業の構成や順序は、受講生の理解度などに応じて、柔軟に対応させていく予定です。
授業開始日は、4 月２２日です。こに日の前までに、必要な情報は学習支援システムにあげておきます。
ただ、通信事情などで、この日に学習支援システムにアクセスできない人が資料を受信したりできない場合もあると思いますので、その辺の事情は考慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	専門的研究への準備	英語学・言語学の基礎知識の復習
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (1)
第 3 回	統語論	基本的事項の確認
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (2)
第 4 回	統語論　（英語）	分析の基礎となる理論 (1)
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (3)
第 5 回	統語論　（英語）	分析の基礎となる理論 (2)
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (4)
第 6 回	インターネットを使った調査	LinguistList の使い方、質問項目のたてかた
第 7 回	統語論（英語）	論文精読（１）
第 8 回	統語論　（英語）	論文精読（2）
第 9 回	グループ・プロジェクト	各グループの取り上げるトピックについての発表
第 10 回	統語論（英語）	論文精読 (3) ：批判的な読み方とは
第 11 回	統語論（英語）	現代英語の構造の特徴を正確に理解する
第 12 回	ターム・ペーパーについて	ターム・ペーパーの書き方などの指導
第 13 回	統語論（英語）	現代英語の構造の問題点
第 14 回	統語論（英語）	まとめ 教育実習体験発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。
辞書を常に手元に置いて活用すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
それぞれのテーマの中のトピックについての論文類をプリントして配布します。

【参考書】
初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。
辞書は、英和辞典だけではなく、英英辞典も活用するように心がけることが必要です。どの辞書でも結構ですが、特に以下のものは使いやすいです。
Collins COBUILD Advanced Dictionary
Oxford Dictionary of English
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
テーマについての学習活動、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパー、試験などで、総合的に判断します。
配分：タームペーパー４０％、クラスでの活動、プレゼンテーション、平常点３０％、試験３０％

【学生の意見等からの気づき】
グループで行う活動をおおいに活用してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をみるとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。
また、４年生の卒業論文に関しての重要な連絡や全般的な注意項目の指導などは、この授業を通じて行います。各自留意してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to examine linguistic theory and develop students'research skills.　After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.
This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

LIN300BD

英語学演習 (1) B

大沢　ふよう

授業コード：A2936　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学・言語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」 と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】
この授業を受講することで、学生は既存の学説を批判的に継承し、独自の分析を加えて発展させていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
現段階では次のように予定しています。学期で、取り上げるテーマを幾つか決めます。テーマの中のトピックに関して書かれた論文に関して、順番に内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。取り上げるテーマは、「統語論」「日本語と英語の比較」などを予定しています。
これとは別に受講生個々人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。
春学期に着手したグループ・プロジェクトの結果をグループごとにハンドアウトも用意してその結果を発表してもらいます。
構成や順序は、学生の理解度などに応じて柔軟に対応させていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	統語論	春学期に学んだ内容の確認
第 3 回	統語論（日英比較）	異なる言語を比較する際の問題点
第 4 回	統語論（日英比較）	日本語の構造
第 5 回	統語論（日英比較）	日本語の構造と英語の構造の比較
第 6 回	統語論（日英比較）	日本語と英語はどの点が共通で、どの点が違うのか
第 7 回	各国語比較研究	日本語、英語以外の言語における言語現象について
第 8 回	グループ・プロジェクト	調査結果とその分析について (1)
第 9 回	グループ・プロジェクト	調査結果とその分析について（2)
第 10 回	言語習得	習得理論についての批判的検証
第 11 回	言語習得	まとめとディスカッション
第 12 回	秋学期に学んだことのまとめ	どの程度、知識が蓄積されたかの確認
第 13 回	研究はどのように評価されるのか	論文の評価について
第 14 回	創造的な研究を目指して	授業の総まとめと理解度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者になった場合、割り当てられた論文は精密に読んで、授業に臨むことが大事です。他のゼミ生からの質問に答えられるようにあらゆる角度から準備しておくこを心がけてください。
担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
それぞれのテーマの中のトピックについての論文類をプリントして配布します。

【参考書】
初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。
辞書は、英和辞典だけではなく、英英辞典も活用するように心がけることが必要です。どの辞書でも結構ですが、特に以下のものは使いやすいです。
Collins COBUILD Advanced Dictionary
Oxford Dictionary of English
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
テーマについての学習活動、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパー、試験などで、総合的に判断します。
配分：タームペーパー４０％、クラスでの活動、プレゼンテーション、平常点３０％、試験３０％

【学生の意見等からの気づき】
学生同士が議論できるような環境をできるだけ与えたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をみるとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。
授業を通しての卒業論文に関しての連絡事項も増えていくので、授業は必ず出席すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to examine linguistic theory and develop students'research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.
This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

LIN300BD

英語学演習 (2) A

椎名　美智

授業コード：A2937　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習 (2)B を引き続き履修しなければなりません。

【到達目標】
この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 21 日です。まず（4 年生には）復習と（3 年生には）導入を兼ねて語用論の色々な理論を概観します。演習なので、基本的に、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3 人ずつ発表してもらいます。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分〜 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。テキストの最初の方は重要なので、担当者に全文和訳をしてもらうことになると思います。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず第一回目の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と履修条件について
第 2 回	第 1 章：語用論とは何か（1）	学生による演習と議論
第 3 回	第 1 章：語用論とは何か（2）	学生による演習と議論
第 4 回	第 2 章：グライス語用論（1）	学生による演習と議論
第 5 回	第 2 章：グライス語用論（2）	学生による演習と議論
第 6 回	第３章：情報語用論（1）	学生による演習と議論
第 7 回	第３章：情報語用論（2）	学生による演習と議論
第 8 回	第 4 章：対人語用論（1）	学生による演習と議論
第 9 回	第 4 章：対人語用論（2）	学生による演習と議論
第 10 回	第 5 章：指示語用論（1）	学生による演習と議論
第 11 回	第 5 章：指示語用論（2）	学生による演習と議論
第 12 回	第６章：言語行為論（1）	学生による演習と議論
第 13 回	第６章：言語行為論（2）	学生による演習と議論
第 14 回	これまでの復習	春学期のまとめと今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う予定の箇所を必ず読んで、議論できるように、予習をしてきてください。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
加藤重弘・澤田淳（２０２０）（共編）『はじめての語用論』研究社

【参考書】
語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席は毎回とり、3回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表２割、レポート４割 、出席を含む平常点４割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき４年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、３年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】
椎名が卒論を指導する４年生は、単位に関係なく必ず履修してください。この演習は卒論指導に関して学生と教員が連絡をとる場でもあります。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。ゼミ・コンパへの参加は、勉強のためにも親睦のためにもたいへん重要ですので、参加してください。よって、火曜６限は空けておいてください。また、秋セメスター直前くらいに夏合宿をして、卒論指導と集中演習をしますので、参加してください。積極的にゼミとゼミ関連の活動に参加する学生にだけ履修してほしいタイプのゼミです。

【Outline and objectives】
The students will acquire basic knowledge of pragmatics and communication by reading the text, giving presentations on the topics allotted in every lesson, and discussing the problematics in communication. The students will be able to apply what they have learned in this class and have a better understanding of their own everyday communication.

LIN300BD

英語学演習 (2) B

椎名　美智

授業コード：A2938　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】
この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続き、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、３人ずつ発表してもらいます。担当の学生に全文を和訳してもらうことになると思います。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分～ 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。
学生の要望があれば、ゲスト・スピーカーにコミュニケーションについてレクチャーをしてもらい、学生がプロジェクト発表をする機会を設けることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	第７章：関連性理論（1）	学生による演習と議論
第 3 回	第７章：関連性理論（2）	学生による演習と議論
第 4 回	第８章：認知言語学と語用論	学生による演習と議論
第 5 回	第８章：認知言語学と語用論（2）	学生による演習と議論
第 6 回	第９章：文法研究と語用論（1）	学生による演習と議論
第 7 回	第９章：文法研究と語用論（2）	学生による演習と議論
第 8 回	第１０章：会話分析（1）	学生による演習と議論
第 9 回	第１０章：会話分析（2）	学生による演習と議論
第 10 回	学生によるプロジェクトとゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 11 回	第１１章：メタ語用論（1）	学生による演習と議論
第 12 回	第１１章：メタ語用論（1）	学生による演習と議論
第 13 回	卒論発表会（1）	4 年生による卒論発表とフィードバック
第 14 回	卒論発表会（2）	4 年生による卒論発表とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う予定の箇所に目を通してきてください。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
加藤重弘・澤田淳（２０２０）（共編）『はじめての語用論』研究社

【参考書】
語用論、ポライトネスに関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席は毎回とり、３回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表２割、レポート４割 、出席を含む平常点４割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき４年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、３年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】
・単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習 (2)A を前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独の履修はできません。
・椎名に卒論指導を希望する４年生は、単位に関係なく必ず履修してください。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。また最終の二回の授業は４年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げるための重要なヒントになります。ゼミのコンパへの参加は重要です。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis.　The students will be able to apply what they have learned in understanding their own everyday communication.

LIN300BD

言語学演習 (1) A

石川　潔

授業コード：A2939　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の言語事実（形態音韻論および統語論）を入門レベルで学びます。

【到達目標】
・日本語の言語事実の知識を身に着けること。
・言語学的な議論の仕方を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、オンライン化によって大幅に変更されることがほぼ確実です。しかし変更内容はまだ未定です（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。
本授業の開始日は、（導入や環境整備も含めて）４月 27 日を予定しています。内容、そして学生や大学側の環境の整備に応じて、
・pdf ファイルや動画などの教材の配布（＋課題）
・金曜４限の時間帯での Zoom でのリアルタイム遠隔授業
を適宜、選んでいく予定です。まずは pdf ファイルでの教材配布からスタートします。初回以降の見込みは、学習支援システム上でのアンケート結果や大学側の環境整備の情報に基づいて、改めて学習支援システムの「お知らせ」でアナウンスする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明
第 2 回	アクセント１	アクセントって何？
第 3 回	アクセント２	日英語の比較
第 4 回	アクセント３	名詞＋助詞、および動詞の活用形のアクセント規則
第 5 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性あり）	図書館ガイダンス
第 6 回	研究テーマ発表１	４年生による発表
第 7 回	研究テーマ発表２	３年生による発表
第 8 回	語順とかきまぜ１	基本語順
第 9 回	語順とかきまぜ２	かきまぜ
第 10 回	語順とかきまぜ３	名詞の省略
第 11 回	再帰表現１	「自分」
第 12 回	再帰表現２	「自分自身」
第 13 回	受動態１	直接受け身
第 14 回	受動態２	間接受け身

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムで出題される課題、その他（詳細未定）。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材を配布します。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
発表点 40 %
take-home exam 20 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は方法論をやりましたが、今年度は「コンテンツ」であり、まるで内容が違うので、昨年度への反応は良くも悪くもあまり参考にならないとは思います。が、理解度はより一層上げたいなぁと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または法政 gmail にて自動転送の設定をしておく）こと。

【その他の重要事項】
原則として「言語学演習 (1) B」と連続履修してください。（Zoom 授業などに）欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡をするようにしてください。

【Outline and objectives】
We will study Japanese morphophonology and syntax at an introductory level.

LIN300BD

言語学演習 (1) B

石川　潔

授業コード：A2940　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の言語事実（統語論）を入門レベルで学びます。

【到達目標】
・日本語の言語事実の知識を身に着けること。
・言語学的な議論の仕方を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生による発表、教員による講義や実演などを組み合わせます。
授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業進行の確認
第 2 回	使役１	「を」vs.「に」
第 3 回	使役２	Double-*O* Constraint
第 4 回	使役３	使役受け身
第 5 回	使役４	adversative causative
第 6 回	使役５	lexical vs. syntactic causative
第 7 回	卒論のための実験１	実験実施
第 8 回	卒論のための実験２	実験実施
第 9 回	関係節１	*ga/no* conversion
第 10 回	関係節２	「空所」なしの関係節
第 11 回	関係節３	internally headed relative clauses
第 12 回	軽動詞構文	軽動詞構文
第 13 回	研究成果の発表	４年生による発表
第 14 回	研究テーマ発表	３年生による発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表のために文献や論文にあたること、handout の作成。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材を配布します。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
発表点 40 %
take-home exam 20 %

【学生の意見等からの気づき】
英文読解力養成を喜ぶ声がありましたが、今年度は多いにそれに応えられると思います（昨年度のものに比べたらやさしく読みやすい英語という気もしますけど ^^;）。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または法政 gmail にて自動転送の設定をしておく）こと。

【その他の重要事項】
原則として「言語学演習 (1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡をするようにしてください。また、教員が実施する実験に参加した場合には加点が行われる可能性があります。

【Outline and objectives】
We will study Japanese syntax at an introductory level.

LIT300BD

言語学演習 (2) A

矢澤　翔

授業コード：A2941　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二言語習得に関する基礎的な知識を学び、自らの言葉で発表することを通して、当該分野における分析力と汎用的な発表力を身に付けることを目的とします。

【到達目標】
・第二言語習得の基礎的な知識を用いて、身近な言語現象を分析・説明できる。
・自らの調査や分析の結果を他者に分かりやすく伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員もしくはゼミ生が発表を行い、全体でディスカッションする形式で授業を進めます。
当面の間はオンライン（Zoom を用いたビデオ通話）での授業となります。授業計画や評価基準に変更があった場合は、ゼミ LINE 及び学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	自己紹介・授業説明
第 2 回	テーマ紹介	第二言語習得について
第 3 回	初期状態	学生の発表（初期状態）
第 4 回	学習者と母語話者	学生の発表（学習者と母語話者）
第 5 回	臨界期仮説	学生の発表（臨界期仮説）
第 6 回	発達的段階	学生の発表（発達的段階）
第 7 回	明示的・暗示的学習	学生の発表（明示的・暗示的学習）
第 8 回	インプットとアウトプット	学生の発表（インプットとアウトプット）
第 9 回	個人差	学生の発表（個人差）
第 10 回	指導効果	学生の発表（指導効果）
第 11 回	習得の制約	学生の発表（習得の制約）
第 12 回	卒論テーマ発表	4 年生による卒論テーマ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自 2 回ずつ発表を行います。発表者は授業前までに資料を準備すること（形式自由）。発表者以外も指定された文献を授業前に読み、授業後に復習すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
VanPatten, B., & Benati, A. (2015). *Key terms in second language acquisition* (2nd ed.). London: Bloomsbury.
※ ProQuest（https://ebookcentral.proquest.com/lib/hosei/detail.action?docID=4196325）から電子版が閲覧できます。ただし VPN 接続（AnyConnect）が必要です。
※ 4 月 28 日（火）以降、授業支援システム経由でコピーを配布します。

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30%
授業内発表： 70%
※無断欠席 3 回で D 評価とします。欠席する場合は必ず事前に連絡してください。
※通信環境や健康状態によって止むを得ず発表ができない場合、レポートで代替します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline and objectives】
This course aims to equip the students with the basic knowledge about the field of second language acquisition so that they can analyze linguistic phenomena in our daily life and present about them in a comprehensible manner.

LIT300BD

言語学演習 (2) B

矢澤　翔

授業コード：A2942　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二言語習得に関するキータームを学びながら、卒業論文に繋がるテーマを見つけることを目的とします。学術論文の書き方についても学習します。

【到達目標】
・卒業論文の研究テーマを見つける。
・読者に理解しやすい論文の構成を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員もしくはゼミ生が発表を行い、全体でディスカッションする形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	キーターム辞典の使い方
第 2 回	言語学の諸分野	教員のキーターム辞典を用いた発表
第 3 回	キーターム発表 1	学生のキーターム発表（1 回目）
第 4 回	キーターム発表 2	学生のキーターム発表（1 回目）
第 5 回	キーターム発表 3	学生のキーターム発表（1 回目）
第 6 回	キーターム発表 4	学生のキーターム発表（1 回目）
第 7 回	学術論文の書き方	学術論文の構成と書き方
第 8 回	実際の学術論文の例	第二言語音韻習得に関する論文の例
第 9 回	キーターム発表 5	3 年生によるキーターム発表（2 回目）
第 10 回	キーターム発表 6	3 年生によるキーターム発表（2 回目）
第 11 回	卒論発表 1	4 年生による卒業論文の発表
第 12 回	卒論発表 2	4 年生による卒業論文の発表
第 13 回	卒論発表 3	4 年生による卒業論文の発表
第 14 回	おわりに	第二言語習得のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自 2 回ずつ発表を行います。発表者は授業前までに資料を準備すること（形式自由）。発表者以外も指定された文献を授業前に読み、授業後に復習すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『第二言語習得キーターム辞典』
（著）Bill VanPatten・Alessandro G. Benati
（訳）白畑 知彦・鈴木 孝明・川崎 貴子・近藤 隆子・須田 孝司・藤森 敦之
開拓社　定価 3400 円（税抜）
※授業支援システム経由でハンドアウトを配布します。

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30%
授業内発表： 70%
※無断欠席 3 回で D 評価とします。欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn key terms in second language acquisition in search of potential topics of their graduation thesis. They will also learn about academic writing.

LIT300BD

英米文学演習 (1) A

宮川　雅

授業コード：A2943　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの短篇小説を読む（今年は主に南北戦争以後から現代の短篇小説を読む）
(1) レポーター制による発表・質疑応答により、
①英文テクストを分析・解釈する営みを身につけるとともに、
②読んだ内容・情報を自らのことばでまとめる能力を養い、
③論理的思考力を養う。
(2) レポーター以外も積極的に予習をして、
④辞書を丁寧に引く習慣を身につけるとともに、
⑤議論に参加する積極性を養う。
(3) アメリカ作家とその作品について知識を得る。

【到達目標】
抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、①アメリカ短篇小説の歴史と特徴についてある程度の知識を得る　② 19 世紀後半から現代の代表的なアメリカ短篇作家の作品について、アメリカ文学・文化における位置づけとともに理解している　③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる　④読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１回１短篇（以上）を原則に読む。授業はレポーター制の演習形式で展開する。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べることが必要となる。担当作品の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。
【4/20 追記】春学期の少なくとも前半以上が「オンライン」での開講となるでしょう。それにともなう各回の授業計画（シラバス）の変更については、学習支援システムで示すとともにメール連絡します。本授業の開始日はいちおう４月 24 日ですけれども、教室授業の時間（金曜３時限）にいわゆる双方向型 Web 会議システムの授業をするにはまだいたらず（いずれ Ｚｏｏｍか Google Hangouts Meet かで試そうとは思っておりますが）、参考文献の提示や、作品テクストの pdf のアップロード → ダウンロードなどの作業をおこなってもらうべく、イントロダクションの言葉を、これもプリントとしてアップロードして責をふたぎたいと考えます。それが初回のみならず数回は続く予定です。第１回目に Washington Irving の短篇をふたつほど渡して、２週目（５月）に教員がレポーター役になってハンドアウトを作成、それを元に掲示板でディスカッションしてみようかな、と思います。いちおう初回にレポーターを割り当てると書いたので、希望作家・作品があれば候補として複数考えておいていただけると有難い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカの短篇小説について／参考文献紹介／レポーター割り振り／プリント配布
第 2 回	Washington Irving の *The Sketch-Book* と *Tales of a Traveller*	ワシントン・アーヴィングからアメリカ短篇小説（集）の原型を考える／レポーターによる発表および意見交換①
第 3 回	Samuel Clemens [Mark Twain] (1835-1910) の短篇	語りのスタイル／レポーターによる発表および意見交換②
第 4 回	Stephen Crane (1871-1900) の "The Open Boat" (1897)	自然主義と印象主義／レポーターによる発表および意見交換③
第 5 回	Sherwood Anderson (1876-1941) の "Hands" (1919)	シンボリズム／レポーターによる発表および意見交換④
第 6 回	Ernest Hemingway (1899-1961) の "Hills Like White Elephants" (1927)	showing と telling ／レポーターによる発表および意見交換⑤
第 7 回	William Faulkner (1897-1962) の "A Rose for Emily" (1930)	心理学的洞察／レポーターによる発表および意見交換⑥
第 8 回	F. Scott Fitzgerald (1896-1940) の "Babylon Revisited" (1931)	レポーターによる発表および意見交換⑦
第 9 回	女性作家たち	レポーターによる発表および意見交換⑧
第 10 回	Truman Capote (1924-84) の "Miriam" (1945)	レポーターによる発表および意見交換⑨
第 11 回	J. D. Salinger (1919-2010) の "A Perfect Day for Bananafish" (1948)	フロイト心理学／レポーターによる発表および意見交換⑩
第 12 回	Thomas Pynchon (1937-) の "Entropy" (1958)	SF 的想像力／レポーターによる発表および意見交換⑪
第 13 回	John Barth (1930-) の "Night-Sea Journey" (1966)	アレゴリーと思想／レポーターによる発表および意見交換⑫
第 14 回	Raymond Carver (1938-88)	レポーターによる発表および意見交換⑬／まとめとミニテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。
翻訳を参考にしてかまわないが、演習各回ではあくまでテクスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布プリントを使用。

【参考書】
元田脩一『アメリカ短篇小説の研究――ニュー・ゴシックの系譜』（南雲堂、1972）
ウェイン・ブース、米本弘一ほか訳『フィクションの修辞学』（水声社、1991）
橋本賢二『アメリカ短篇小説の構造』（大阪教育図書、2009）
八木敏雄訳『ポオ評論集』（岩波書店、岩波文庫、2009）
E・M・フォースター『小説の諸相』（みすず書房、新潮文庫、ダビッド社ほか）
その他、教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価）40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い）20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある）40 パーセント
以上の合計を百点法換算して 60 点以上で合格となる。
【4/20 追記】春学期の少なくとも前半が「オンライン」開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
学生がさぼらぬようにきちんと指導する。

【Outline and objectives】
Close reading of a dozen short stories and sketches by various American writers. We will also occasionally examine relationship between a short story with the author's novel, both in themes and plot. Students will also examine literary and psychological theories to analyze and interpret short stories.

LIT300BD

英米文学演習 (1) B

宮川　雅

授業コード：A2944　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ小説研究
半期で読める中篇小説を精読する。今回は、Robert Nathan (1894 — 1985) の *Portrait of Jennie*(1940) を読む。中篇小説を丁寧に精読しながら、分析・解釈の具体的な方法を学ぶことを目的とする。英語の読解・注釈作業をとおして論理的思考やリサーチ能力を高め、説得力のあるプレゼンテーションと質疑応答の能力を身につける。

【到達目標】
抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、①一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる　②読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の注釈書を援用して丁寧に読む。授業はレポーター制の演習形式で展開するが、いっぽうで分析や解釈のポイントないし主題について考えながら読み進める（各回のテーマを参照）。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べることが必要となる。レポーター担当の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	歴史的な概説と文学史的評価など／参考文献紹介／レポーター割り振り／1948 年の映画版を少し観る
第 2 回	論証と精読とリサーチ	William Dieterle 監督、Jennifer Jones 主演の映画を観る
第 3 回	作品分析――テクスト	レポーターによる発表および意見交換①
第 4 回	作品分析――ストーリーとプロット	レポーターによる発表および意見交換②
第 5 回	作品分析――登場人物（キャラクター、ピープル）	レポーターによる発表および意見交換③
第 6 回	作品分析――比喩、イメジ、象徴	レポーターによる発表および意見交換④
第 7 回	作品分析――視点と語り	レポーターによる発表および意見交換⑤
第 8 回	作品分析――ストーリーとフレーム	レポーターによる発表および意見交換⑥
第 9 回	作品解釈――歴史的コンテクスト	レポーターによる発表および意見交換⑦
第 10 回	作品解釈――キャラクター	レポーターによる発表および意見交換⑧
第 11 回	作品解釈――語り	レポーターによる発表および意見交換⑨
第 12 回	作品解釈――視点	レポーターによる発表および意見交換⑩
第 13 回	作品解釈――象徴主義	レポーターによる発表および意見交換⑪
第 14 回	まとめ	レポーターによる発表および意見交換⑫

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。
翻訳を参考にしてかまわないが、演習各回ではあくまでテクスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。逆に、翻訳の限界というか、ミスリーディング misleading/ misreading 問題についても考えてみたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Robert Nathan, *Portrait of Jennie*. 省略箇所を補完するプリントを配布。

【参考書】
邦訳として、山室静訳偕成社文庫、井上一夫訳ハヤカワ文庫、大友香奈子訳創元推理文庫の各版がある。
その他、教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価）40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い）20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある）40 パーセント
以上の合計を百点法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
学生がさぼらぬようにきちんと指導する。学生の積極的参加と議論を促す工夫をする。

【Outline and objectives】
Close reading of Robert Nathan's novella, *Portrait of Jennie*(1940). Use research to deepen understanding text and to develop analytical thinking that demonstrate the connections between the primary and secondary sources.

LIT300BD

英米文学演習 (5) A

小島　尚人

授業コード：A2951　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。今学期は、発表後 150 年を経て今なおアメリカを代表する大衆小説として読み継がれ、また映画化やドラマ化を通じて多くの人々の心を魅了し続ける Louisa May Alcott の *Little Women* 第 1 部（1868）を一学期かけて読破する（第 2 部は翻訳で速読）。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解読しようとする習慣をつける。
・文学作品に関する発表、ディスカッション、レポートの技法を習得する。
・自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
・『若草物語』について、テクストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
・ルイザ・メイ・オルコットの生涯と作品、その時代背景を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
初回授業は 4 月 24 日（金）です。
受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	顔合わせ・自己紹介のあと、授業の進め方と発表の仕方を説明し、発表分担者を決定する。ルイザ・メイ・オルコットとその作品についての導入講義
第 2 回	『若草物語』とその時代、そして現代	19 世紀アメリカ家庭小説史、文化的背景、南北戦争、オルコットの女性作家としてのキャリア形成、などについて講義する。代表的な映画版・ドラマ版の紹介もおこなう。
第 3 回	*Little Women* 読解①――書き出しを分析する	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 4 回	*Little Women* 読解②――『天路歴程』と宗教的背景	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 5 回	*Little Women* 読解③――四姉妹の描き分け	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 6 回	*Little Women* 読解④――家庭と戦争	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 7 回	*Little Women* 読解⑤――メディアとコミュニケーション（本、新聞、手紙、電報）	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 8 回	*Little Women* 読解⑥――ヨーロッパとアメリカ	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 9 回	*Little Women* 読解⑦――マーチ家とオルコット家	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 10 回	*Little Women* 読解⑧――結末のありかた	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 11 回	*Little Women* 第 2 部の速読（前半）――結婚生活の描写	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 12 回	*Little Women* 第 2 部の速読（後半）――ジョーのキャリアの物語とその着地点	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 13 回	批評論文の読解	*Little Women* について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。
授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】
Louisa May Alcott, *Little Women*. Penguin Classics, 1989.
ISBN: 9780140390698

【参考書】
師岡愛子（編）『ルイザ・メイ・オルコット――『若草物語』への道』（表現社、1995 年）
ルイーザ・メイ・オルコット『ルイーザ・メイ・オールコットの日記――もうひとつの若草物語』宮木陽子訳（西村書店、2008 年）
グレゴリー・アイスレイン、アン・K・フィリップス（編）『ルイザ・メイ・オルコット事典』篠目清美訳（雄松堂出版、2008 年）
野口啓子・山口ヨシ子（編）『アメリカ文学にみる女性と仕事――ハウスキーパーからワーキングガールまで』（彩流社、2006 年）
山口ヨシ子『女詐欺師たちのアメリカ――十九世紀女性作家とジャーナリズム』（彩流社、2006 年）
諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
【映画版】
『若草物語』（1933）（ジョージ・キューカー監督、キャサリン・ヘプバーンほか出演）
『若草物語』（1949）（マーヴィン・ルロイ監督、エリザベス・テイラーほか出演）
『若草物語』（1994）（ジリアン・アームストロング監督、ウィノナ・ライダーほか出演）
『ストーリー・オブ・マイライフ/わたしの若草物語』（2019）（グレタ・ガーウィグ監督、シアーシャ・ローナン、エマ・ワトソンほか出演）

【成績評価の方法と基準】
・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）：30 %
・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30 %
・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】
秋学期に英米文学演習 (5) B を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *Little Women* and its film adaptations, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

LIT300BD

英米文学演習 (5) B

小島　尚人

授業コード：A2952　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。今学期は、1920 年代のパリに生きるアメリカの若者たちの姿を革新的な文体で描き出し、「ロスト・ジェネレーション」の文学の代表作となった Ernest Hemingway の *The Sun Also Rises*（1926）を一学期かけて読破する。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解読しようとする習慣をつける。
・文学作品に関する発表、ディスカッション、レポートの技法を習得する。
・自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
・『日はまた昇る』について、テクストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
・アーネスト・ヘミングウェイの生涯と作品、その時代背景を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／卒業論文中間発表会	授業内容の確認と発表分担者の決定決定ののち、4 年生による卒論テーマ、章立て、概要についてのプレゼンテーション
第 2 回	アメリカ小説ブックトーク／ヘミングウェイ概説講義	3 年生によるブックトーク（夏休みに読んだおススメ作品の紹介）ののち、ヘミングウェイとその作品、1920 年代のアメリカとパリ、ロスト・ジェネレーションの文学についての概説講義
第 3 回	*The Sun Also Rises* 読解①――書き出しを分析する	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 4 回	*The Sun Also Rises* 読解②――語り手と文体	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 5 回	*The Sun Also Rises* 読解③―― 1920 年代パリ	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 6 回	*The Sun Also Rises* 読解④――ハードボイルド	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 7 回	映画と小説の比較分析①	映画『陽はまた昇る』（1957 年）の前半部を鑑賞してディスカッション
第 8 回	*The Sun Also Rises* 読解⑤――性とジェンダー	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 9 回	*The Sun Also Rises* 読解⑥――闘牛と「男らしさ」	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 10 回	*The Sun Also Rises* 読解⑦――人種とアイデンティティ	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 11 回	*The Sun Also Rises* 読解⑧――結末の解釈について	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 12 回	映画と小説の比較分析②	映画『陽はまた昇る』（1957 年）の後半部を鑑賞してディスカッション
第 13 回	批評論文の読解	*The Sun Also Rises* について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。
授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】
Ernest Hemingway, *The Sun Also Rises*. Scribner; Hemingway Library Edition, 2016.
ISBN: 9781501121968

【参考書】
島村法夫『ヘミングウェイ――人と文学』（勉誠出版、2005 年）
今村楯夫『ヘミングウェイのパリ・ガイド』（小学館、1998 年）
前田一平『若きヘミングウェイ――生と性の模索』（南雲堂、2009 年）
高野泰志『引き裂かれた身体――ゆらぎの中のヘミングウェイ文学』（松籟社、2008 年）
日本ヘミングウェイ協会（編）『アーネスト・ヘミングウェイ―― 21 世紀から読む作家の地平』（臨川書店、2012 年）
今村楯夫・島村法夫（監修）『ヘミングウェイ大事典』（勉誠出版、2012 年）
諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）：30 %
・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30 %
・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】
春学期に英米文学演習 (5) A を履修しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *The Sun Also Rises* and its film adaptation, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

LIT300BD

英米文学演習 (6) A

丹治　愛

授業コード：A2953　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[春学期には映画の教科書を読むつもりでしたが、遠隔授業になったため、秋学期に読む予定だったイシグロ『日の名残り』を春学期に読みます。そして比較の対象として映画『日の名残り』を観ます。そして秋学期には、『ジェイン・エア』の映画を見ながら、映画の教科書を読んでいきたいと思います。夏休みには小説『ジェイン・エア』にトライしてみてください。きっとおもしろいと思います。]
文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テクスト）を解釈する行為である。解釈とはテクストを読むための特定のコンテクストを定めて、テクストの意味を確定していく行為である。それは感想文とどういう点で異なるのかといった問いをとおして、文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテクスト（イギリス小説）を、文化的社会的コンテクストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、小説を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群を学習する――物語（ストーリー／プロット／ディスコース）、キャラクター、語り手（ナレーター）と視点人物、イメージとシンボルとアレゴリーなど。最終的に、教材となった文学作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】
この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかをはじめに学習したうえで、ひとつの作品（イギリス小説）を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解力、批判的読解をとおして論理的にものを考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習なので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。
授業開始日、４月２１日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文学批評とは何か――テクストの多義性と解釈	文学批評とはなにかを議論する。
第 2 回	論証と精読（批判的読解）とリサーチ	論証と精読（批判的読解）とリサーチの方法について議論する。
第 3 回	作品の分析――物語（ストーリーとプロットとディスコース）	物語（ストーリーとプロットとディスコース）に注目して、作品を分析する。
第 4 回	作品の分析――キャラクター（中心人物と周辺の人物）	キャラクターに注目して、作品を分析する。
第 5 回	作品の分析――ナレーターと視点人物（誰が見ているか、誰が語っているか）	ナレーターと視点人物に注目して作品を分析する。
第 6 回	作品の分析――イメージ、シンボル、アレゴリー	イメージ、シンボル、アレゴリーに注目して、作品を分析する。
第 7 回	これまでのまとめ――質問とディスカッション	これまでのまとめ。教員への質問と学生どうしの議論を行う。
第 8 回	批評作品の読解――物語とキャラクター	物語とキャラクターを論じている具体的な作品論を読む。
第 9 回	批評作品の読解――ナラトロジー（語り手と視点）	語り手と視点を論じている具体的な作品論を読む。
第 10 回	批評作品の読解――イメージ、シンボル、アレゴリー	イメージ、シンボル、アレゴリーを論じている具体的な作品論を読む。
第 11 回	批評作品の読解――文学史的背景	文学史的背景を論じている具体的な作品論を読む。
第 12 回	批評作品の読解――文化社会的背景	文化社会的背景を論じている具体的な作品論を読む。
第 13 回	作品解釈口頭発表（1）――プレゼンテーション	授業であつかってきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。
第 14 回	作品解釈口頭発表（2）――プレゼンテーション	授業であつかってきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテクストを読み、自分の意見をまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『*Film Analysis*　映画分析入門』
Joseph Conrad, *Heart of Darkness*（『闇の奥』）
映画 *Apocalypse Now*（『地獄の黙示録』）

【参考書】
丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技法』（白水社）
Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】
１．文学批評のプロセスを理解している。
２．文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
３．授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。
授業への貢献度　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。

【Outline and objectives】
Literary criticism is primarily an act of interpreting literary works (literary texts). Interpretation is an act of fixing a specific context for reading a text and defining the meaning of the text. After learning the elements for making a literary interpretation through questions such as how it differs from a book report, students concretely analyze a text (a British novel) in relation to some cultural and social context. In that process, students learn the basic concepts and keywords necessary to analyze a novel - stories (plots and discourses), characters, narrators and focalizers, images, symbols and allegories, etc. Finally, students discuss one another's interpretations of the literary work treated in class.

LIT300BD

英米文学演習 (6) B

丹治　愛

授業コード：A2954　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[映画の教科書を読むことと、ヴィクトリア朝の小説を読むことの両方するのは厳しいかなと思いましたが、大学に来られない今年だからこそ、家でじっくり小説らしい小説を読んでもらいたいと思い、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』に挑戦してほしいと思います。夏休みに読むようにしてください。ジェイン・エアの映画もあつかいます。今年はとにかく一冊長めの小説を読みましょう。]
文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テクスト）を解釈する行為である。解釈とはテクストを読むための特定のコンテクストを定めて、テクストの意味を確定していく行為である。文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテクスト（イギリス小説を原作とした映画）を、文化的社会的コンテクストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、映画を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群のうち、映像分析に関わるものを学習する。そして原作との比較をとおして映画を解釈するアダプテーション研究の方法を実践的に学習する。最終的に、教材となった映画作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】
この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかを学習したうえで、ひとつの映画作品を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解・聴解力、批判的読解をとおして論理的にものを考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習なので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	映画批評とは何か――映画の要素	映画批評とは何かを議論する。
第 2 回	映像分析（1）――構図	構図に注目して映像分析を学習する。
第 3 回	映像分析（2）――カメラワーク	カメラワークに注目して映像分析を学習する。
第 4 回	映像分析（3）――編集	編集に注目して映像分析を学習する。
第 5 回	映像分析（4）――アートディレクション	アートディレクションに注目して映像分析を学習する。
第 6 回	アダプテーション研究（1）――理論	アダプテーション研究の理論について学習する。
第 7 回	アダプテーション研究（2）――ストーリー・プロット・ディスコース	ストーリー・プロット・ディスコースに注目して、映画とその原作を比較する。
第 8 回	アダプテーション研究（3）――キャラクター	キャラクターに注目して、映画とその原作を比較する。
第 9 回	アダプテーション研究（4）――語り	語りに注目して、映画とその原作を比較する。
第 10 回	作品批評（英語）講読――原作について	原作についての作品批評（英語で書かれたもの）を講読する。
第 11 回	作品批評（英語）講読――映画について	映画についての作品批評（英語で書かれたもの）を講読する。
第 12 回	作品解釈口頭発表（第 1 回目）――プレゼンテーション	授業であつかってきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。
第 13 回	作品解釈口頭発表（第 2 回目）――プレゼンテーション	授業であつかってきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。
第 14 回	まとめ	授業全体について、相互に質問し、議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテクストを読み、自分の意見をまとめる。 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Charlotte Bronte, *Jane Eyre*, Penguin Books
シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（岩波文庫）上・下
Jane Eyre (film, 2011)]
『*Film Analysis*　映画分析入門』

【参考書】
丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】
1．文学批評のプロセスを理解している。
2．文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
3．授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。
授業への貢献度　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。

【Outline and objectives】
Literary criticism is primarily an act of interpreting literary works (literary texts). Interpretation is an act of fixing a specific context for reading a text and defining the meaning of the text. After learning the elements for making a literary interpretation, students concretely analyze a text (a movie based on a British novel) in relation to some cultural and social context. In that process, students learn the basic concepts and keywords necessary to analyze a film. Then students learn practical methods for adaptation studies to interpret a movie through comparing it with the original work. Finally, students discuss one another's interpretations of the film treated in class.

LIT300BD

英米文学演習 (8) A

山崎　暁子

授業コード：A2957　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】
英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテクストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテクストのなかに現れる、口調の違いや別のテクストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
“journey” をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、George MacDonald, Lucy Maud Montgomery, P. L. Travers, A. A. Milne の作品を扱う。
授業では 1〜2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋) を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。教室での授業ができない間のやり方については学習支援システムで指示する。ディスカッションの司会またはまとめも学生が交代で担当する。
4 月 24 日に開始する予定。履修希望者は学習支援システムに仮登録しておき、「お知らせ」に授業の説明が掲載されたらよく読んで、アンケートに回答すること。アンケートの回答期限は 4 月 24 日（金）14:40 の予定だが、学習支援システムにつながりにくい状態が続く場合は必要に応じて延長する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する
第 2 回	ブレインストーミング	キーワード “journey” についてディスカッション
第 3 回	イングランドの昔話 — 昔話の英語と物語の特徴	"Black Bull of Norroway" の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの代表的作家（1）— 19 世紀後半のイギリス	George MacDonald, "Cross Purposes" の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの代表的作家（2）— 寓話の特徴	George MacDonald, "Cross Purposes" の発表とディスカッション
第 6 回	イギリスの代表的作家（3）— キリスト教的価値観	George MacDonald, "Cross Purposes" の発表とディスカッション
第 7 回	カナダの作家 — 20 世紀初頭のカナダ	Lucy Maud Montgomery, "The Man on the Train" の発表とディスカッション
第 8 回	翻訳（1）—第 4 回〜7 回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 9 回	イギリスの代表的児童文学作家①（1）— 20 世紀初頭のイギリス	P. L. Travers, *Mary Poppins Comes Back* 抜粋の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの代表的児童文学作家①（2）— 枠物語	P. L. Travers, *Mary Poppins Comes Back* 抜粋の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの代表的児童文学作家②（1）— 散文と韻文	A. A. Milne, *Winnie-the Pooh* 抜粋の発表とディスカッション
第 12 回	イギリスの代表的児童文学作家②（2）— 20 世紀初頭の子供像	A. A. Milne, *Winnie-the Pooh* 抜粋の発表とディスカッション
第 13 回	翻訳（2）—第 9 回〜12 回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	春学期に読んだテクストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テクストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえでディスカッションに参加する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】
辞書は必ず持参すること。
石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社　2014 年
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社　2013 年
ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社　2016 年
Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
桂宥子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房　2007 年

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会（まとめ）30 %、期末レポート 40 %の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業で配布する資料を授業支援システムにもアップロードする。

【Outline and objectives】
This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories in English that are related to "journey" and translate some passages into Japanese. At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

LIT300BD

英米文学演習 (8) B

山崎　暁子

授業コード：A2958　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】
英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテクストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテクストのなかに現れる、口調の違いや別のテクストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
“journey” をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Margaret Mahy, Agatha Christie, Ursula K. Le Guin, C. S. Lewis, Janet Frame, Katherine Mansfield の作品を扱う。
授業では 1〜2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋）を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進め、ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期のレポート返却、作品の紹介、受講者の知識・興味の確認
第 2 回	ニュージーランドの代表的児童文学作家（1）— ストーリーテリング	Margaret Mahy, "The Bridge Builder" の発表とディスカッション
第 3 回	ニュージーランドの代表的児童文学作家（2）— ファンタジー	Margaret Mahy, "The Bridge Builder" の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの推理小説作家（1）— 20 世紀前半のイギリス	Agatha Christie, "The Oracle at Delphi" の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの推理小説作家（2）— 伏線の作用	Agatha Christie, "The Oracle at Delphi" の発表とディスカッション
第 6 回	アメリカの SF 作家 — SF	Ursula K. Le Guin, "Direction of the Road" の発表とディスカッション
第 7 回	翻訳（1）—第２回〜６回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 8 回	イギリスの代表的児童文学作家③（1）— 20 世紀後半のイギリス	C. S. Lewis, *The Voyage of the Dawntreader* 抜粋の発表とディスカッション
第 9 回	イギリスの代表的児童文学作家③（2）— メタフィクション	C. S. Lewis, *The Voyage of the Dawntreader* 抜粋の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの代表的児童文学作家④ — リアリズム	発表とディスカッション
第 11 回	ニュージーランドの代表的作家①— 意識の流れ	Janet Frame, "My Cousins–Who Could Eat Cooked Turnips" の発表とディスカッション
第 12 回	ニュージーランドの代表的作家② — 20 世紀前半のニュージーランド	Katherine Mansfield, "The Voyage" の発表とディスカッション
第 13 回	翻訳（2）—第８回〜１２回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	秋学期に読んだテクストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テクストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】
辞書は必ず持参すること。
石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社　2014 年
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社　2013 年
ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社　2016 年
Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
桂宥子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房　2007 年
ゴックシク、カレン・M 他著『映画で実践！ アカデミック・ライティング』小鳥遊書房　2019 年

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業で配布する資料を授業支援システムにもアップロードする。

【Outline and objectives】
This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories in English that are related to "journey" and translate some passages into Japanese. At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

ARS300BD

英米文学演習 (9) A

利根川　真紀

授業コード：A2959　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と食」です。食べることは、誰もが毎日経験する身近な行為ですが、文学作品の中に描かれる食のあり方に着目することによって、料理の種類やおいしさだけでなく、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることもできます。誰といつ何を食べるのか、また食べないのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】
1．扱う作家・作品について理解を深める
2．感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
3．ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
ジョン・スタインベック (1902-68)、アーネスト・ヘミングウェイ (1899-1961)、ジュンパ・ラヒリ (1967-)、バーナード・マラマッド (1914-86) の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。担当箇所を決め、学生による発表、教員による補足説明、全員での討論のという形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が読んで考察する、各 5 分程度のプレゼンテーションも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、次回までの宿題の説明
第 2 回	食についての様々なアプローチ	アメリカと「食」に関する背景的知識
第 3 回	スタインベックと “Breakfast”	夜明けにテントわきで
第 4 回	ヘミングウェイと “The Battler”（前半）	貨物列車のただ乗りを見つかって
第 5 回	“The Battler”（後半）	ポケットのハム・サンドイッチ
第 6 回	ラヒリと “Mrs Sen’s”（3 分の 1）	セン夫人の家で放課後を過ごす少年
第 7 回	“Mrs Sen’s”（3 分の 2）	自動車の運転練習
第 8 回	“Mrs Sen’s”（3 分の 3）	海辺の魚を買いに行く
第 9 回	ペーパーの書き方	短い引用・長い引用・要約の練習、パラグラフ・ライティング
第 10 回	マラマッドの “The Mourners”	マンハッタンの安アパートの住人たち
第 11 回	ブックトーク（スタインベック、ヘミングウェイ、ラヒリ）	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 12 回	ブックトーク（マラマッド、ブラウン、オコナー）	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 13 回	ブックトーク（オースター、ベンダー）	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 14 回	資料持ち込みの試験とまとめ	春学期まとめ、夏休みのペーパー課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はハンドアウトを作成し、人数分コピーを用意します。ハンドアウトの作成方法は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組むこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】
授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
平常点（30 %）、発表（35 %）、資料持ち込みテスト（35 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of food, dining and cooking scenes. Most of the stories we will deal with were written by 20th century and contemporary writers. The seminar also enhances students’ skills in close reading of texts and in effective oral presentations.

ARS300BD

英米文学演習 (9) B

利根川　真紀

授業コード：A2960　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と食」です。食べることは、誰もが毎日経験する身近な行為ですが、文学作品の中に描かれる食のあり方に着目することによって、料理の種類やおいしさだけでなく、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることもできます。誰といつ何を食べるのか、また食べないのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】
1．扱う作家・作品について理解を深める
2．感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
3．ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
4．文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
フラナリー・オコナー (1925-64)、レベッカ・ブラウン (1956-)、ポール・オースター (1947-)、エイミー・ベンダー (1969-) の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。また、夏休みに 3 冊の長編作品の中から 1 冊を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋げます。ゼミ仲間や教員からのフィードバックを参考にしつつ、ペーパーをリヴァイズする作業にも取り組みます。自分が何者なのかわからない男の悲劇が描かれた『八月の光』(1932 年)、11 歳の黒人少女の祈りを描いた『青い眼が欲しい』(1970 年)、第二次大戦中のアジア系アメリカ人の交流を描いた『あの日、パナマホテルで』(2009 年) の 3 冊を予定しています。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、教員による補足説明、全員での討論という形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	短いペーパー提出、文献検索方法	図書館データベースの使い方を学ぶ
第 2 回	文献検索フォローアップ、グループ分け	文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ
第 3 回	オコナーと “Good Country People”（前半）	訪問セールスマンが売るもの
第 4 回	“Good Country People”（後半）	ふたりでピクニックに
第 5 回	ブラウンと “The Gift of Hunger”（前半）	メープルシロップの贈り物
第 6 回	“The Gift of Hunger”（後半）	ディスポーザーのスイッチを入れて
第 7 回	オースターと “Auggie Wren’s Christmas Story”	街角の葉巻屋とカメラとの出会い
第 8 回	研究論文の読み方、映画の読み方	ゼミで扱った作品について書かれた論文を読む
第 9 回	卒論を書くプロセス、卒論途中経過報告	テーマの設定と全体の構成
第 10 回	ベンダーと “Marzipan”	祖母の葬式に出されたケーキのゆくえ
第 11 回	ウィリアム・フォークナーの『八月の光』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 12 回	トニ・モリスンの『青い眼が欲しい』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 13 回	ジェイミー・フォード『あの日、パナマホテルで』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 14 回	秋学期のまとめ、書き直した長めのペーパーの提出と自己評価	食の扱い、ペーパーから卒論準備へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はハンドアウトを作成し、人数分コピーを用意します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。また、図書館データベースを利用しての文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのフィードバックの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備も進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】
授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、発表（35 %）、ペーパー関連（35 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of food, dining and cooking scenes. Most of the stories we will deal with were written by 20th century and contemporary writers. The seminar also enhances students’ skills in close reading of texts and in effective oral presentations and papers.

LIN200BD

英語の文法力Ⅰ

椎名　美智

授業コード：A2977　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生に必要な英語力を身につけるために、reading, listening, speaking, writing の 4 技能をバランスよく勉強します。その基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的にしています。

【到達目標】
英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPT を使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 27 日です。しばらくは「教材」に入れた資料を見て学習してください。できればテキストを手に入れてください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての復習と総括
第 3 回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての演習、小テスト
第 4 回	Unit 2: 動詞２ (1)	学生のプレゼンテーション、動詞についての復習と総括
第 5 回	Unit 2: 動詞２ (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の用法と演習、小テスト
第 6 回	Unit 3: 時制　(1)	学生のプレゼンテーション、時制についての復習と総括
第 7 回	Unit 3: 時制 (2)	学生のプレゼンテーション、時制についての演習、小テスト
第 8 回	中間のまとめと復習	学生のプレゼンテーション、これまでの復習と演習、小テスト
第 9 回	Unit 4: 助動詞　(1)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての復習と総括、小テスト
第 10 回	Unit 4: 助動詞 (2)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての演習、小テスト
第 11 回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (1)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての復習と総括、小テスト
第 12 回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (2)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての演習、小テスト
第 13 回	Unit 6: 形容詞と副詞 (1)	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての復習と総括、小テスト
第 14 回	Unit 6: 形容詞と副詞 (2)、試験とまとめ	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての演習、春セメスターで学んだことについての試験と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
町田健・豊島克己　（２０１４）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】
必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 80 %、プレゼンテーション 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題はハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】
・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋学期と、連続して履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

LIN200BD

英語の文法力Ⅱ

椎名　美智

授業コード：A2978　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生に必要な英語力を身につけるために、reading, listening, speaking, writing の 4 技能をバランスよく勉強します。その基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】
英文法を総復習し、反復的な演習を行うことによって、英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるように練習します。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるように勉強します。また、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションができるようになる練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを中心にして、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生はプレゼンテーションを行います。少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Unit 7: 態　(1)	学生によるプレゼンテーション、態についての復習と総括
第 3 回	Unit 7: 態　(2)	学生によるプレゼンテーション、態についての演習、小テスト
第 4 回	Unit 8: 否定・疑問 (1)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての復習と総括、小テスト
第 5 回	Unit 8: 否定・疑問 (2)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての演習、小テスト
第 6 回	Unit 9: 準動詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての復習と総括、小テスト
第 7 回	Unit 9: 準動詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての演習、小テスト
第 8 回	中間のまとめと復習	学生によるプレゼンテーション、これまでの復習と演習、エッセイライティング
第 9 回	Unit 10: 準動詞２・接続詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞２・接続詞についての復習と総括、小テスト
第 10 回	Unit 10: 形容詞と副詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞２・接続詞についての演習、小テスト
第 11 回	Unit 11: 関係詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての復習と総括、小テスト
第 12 回	Unit 11: 関係詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての演習、小テスト
第 13 回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (1)	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 についての復習と総括、小テスト
第 14 回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (2)、テストと振り返り	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句について演習、秋セメスター全体のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
町田健・豊島克己　（２０１４）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】
必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 80%、プレゼンテーション 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題はハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】
・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋学期と、続けて履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

BSP200BD

メディア・リテラシーⅠ

田中　邦佳

授業コード：A2979　｜　曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されている。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとめ方に何らかの意図が込められている場合もある。
本授業では、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にする。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学ぶ。
授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成させることを最終目的とする。

【到達目標】
(1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
(2) 具体的な場合に応じたデータのグラフ化ができるようになる。
(3) データを客観的に文で報告できるようになる。
(4) 上記の 3 つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように１枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介する。
参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行う。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともある。
授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法についてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明
第 2 回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第 3 回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第 4 回	ヒストグラム	ヒストグラム
第 5 回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第 6 回	２つの手法が組み合わされたグラフ	２つの手法が組み合わされたグラフ
第 7 回	散布図	散布図
第 8 回	円グラフ	円グラフ
第 9 回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第 10 回	データを表にする	データを表にする
第 11 回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第 12 回	平均値と中央値	平均値と中央値
第 13 回	標準偏差	標準偏差
第 14 回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要がある。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
特になし。
個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
40%: 期末課題（ポスター）
30%: 期末テスト
30%: 平常点および授業内外の課題
欠席回数が通算 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。なお、遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。また授業に積極的に参加する姿勢が見られない場合、欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたらと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出のために授業支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】
情報実習室を使用する予定です。履修希望者が教室の定員を上回った場合、選抜を行いますので初回の授業には必ず出席してください。
作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点について紹介します。
本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the methods for summarizing and visualizing data.

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川　純子

授業コード：A2980　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】
学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の前週に、一つのトピックについて資料（プリント）を受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
イントロダクション	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起こるのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	子宮頸がんワクチン	子宮頸がんワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	TPP、遺伝子組み換え食品など
第十回	グローバル化とグローバリズム	何が違うのか？
第十一回	ショック・ドクトリン	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理してくる。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント（本の抜粋や新聞記事など）を配布します。

【参考書】
各回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表 30%、授業への貢献度 30%、レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
「初めて知ったことばかりで、とても勉強になった」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つははメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline and objectives】
We are going to learn how to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

HIS100BE

日本史概説Ⅰ

小倉　淳一

授業コード：A3101　｜　曜日・時限：**水曜１限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】
考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。
春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第 3 回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第 4 回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第 5 回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第 6 回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第 7 回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第 8 回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第 9 回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第 10 回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第 11 回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第 12 回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第 13 回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第 14 回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書　490　倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー　76　縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太一郎編（2002）『日本の時代史　1　倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史　2　倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史１』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権　シリーズ日本古代史２』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
当初は論述式の筆記試験を予定していたが、期末試験を通常通り行えない可能性がある。このため、授業内に課す小レポートによる評価を 50 %とし、期末レポートによる評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】
※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn about Japanese history from the Paleolithic Age to the Kofun period.

HIS100BE

日本史概説Ⅱ

大塚　紀弘

授業コード：A3102　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法に親しむことを目的とする。

【到達目標】
平安時代後期から鎌倉時代における地理感覚や中国との経済的関係の実態について総体的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
７章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章毎に「学習支援システム」にアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジアの中の日本中世史（1）	履修のガイダンスと日本中世史の概説
第 2 回	東アジアの中の日本中世史（2）	履修のガイダンスと日本中世史の概説
第 3 回	中世の国土観と境界地域（1）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第 4 回	中世の国土観と境界地域（2）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第 5 回	唐船の往来と博多綱首（1）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第 6 回	唐船の往来と博多綱首（2）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第 7 回	唐船貿易の構造（1）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第 8 回	唐船貿易の構造（2）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第 9 回	平氏政権と唐船貿易（1）	平清盛の外交・貿易政策
第 10 回	平氏政権と唐船貿易（2）	平清盛の外交・貿易政策
第 11 回	銅銭の輸入と流通（1）	渡来銭の流通と社会の変化
第 12 回	銅銭の輸入と流通（2）	渡来銭の流通と社会の変化
第 13 回	鎌倉幕府と唐船貿易	モンゴル襲来以前の貿易形態
第 14 回	唐船が中世社会にもたらしたもの	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「学習支援システム」にアップロードされたパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。各章毎にプリントを配布する。

【参考書】
村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、２０１３年、初版１９９９年）
榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、２０１０年）
石井正敏『ＮＨＫさかのぼり日本史外交篇８鎌倉　「武家外交」の誕生』（ＮＨＫ出版、２０１３年）
山内晋次『ＮＨＫさかのぼり日本史外交篇９平安・奈良　外交から貿易への大転換』（ＮＨＫ出版、２０１３年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、２０１７年）
その他は、授業の際、各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テストの点数２６％、学期末試験の点数７４％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
授業評価は概して低かったが、記名・無記名のアンケートを合わせても、複数の学生に指摘された問題点はなかった。そこで、改善すべき点について、さらに学生に積極的に意見を出してもらう取り組みをしたい。

【Outline and objectives】
Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS100BE

日本史概説Ⅲ

松本　剣志郎

授業コード：A3103　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史は暗記物ではなく、思考を求めるものである。本授業の目的は、受講生が日本近世史について概略的な説明ができるようになることである。それは単なる事件の羅列ではなく、論理の説明でなければならない。歴史的思考力の鍛錬を求める所以である。本授業は日本近世史について概説するものである。戦国乱世を経て、およそ２６０年の泰平を享受した時代が対象である。とはいえ、仔細にこれを見るならば、そこにさまざまな矛盾を見出すことは容易い。それは表立った政治的な事件の場合もあれば、社会の深部でのうねりであることもある。近世の国家と社会が動いていく大きな方向を見定めていきたい。

【到達目標】
①日本近世の特質を説明できる。
②われわれの常識や慣習が歴史的につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
③江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。授業時に図や表、活字史料のプリントを配布し、それをもとに講義を進める。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴する。
【追記】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容や進め方について
第 2 回	元和偃武	公儀国家の成立と身分制社会
第 3 回	百姓	村のくらし
第 4 回	文治政治	武士の変容
第 5 回	元禄時代	芭蕉と捨て子
第 6 回	都市	荻生徂徠と武陽隠士
第 7 回	享保改革	貨幣経済の進展
第 8 回	宝暦―天明期	絶対主義への傾斜
第 9 回	人物イメージ	二宮尊徳の場合
第 10 回	文人の時代	漢詩・誹諧・狂歌
第 11 回	天保改革	内憂外患、百姓一揆と異国船
第 12 回	志士の時代	尊王、攘夷、倒幕
第 13 回	王政復古	近代化とはなにか
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書などを読むこと。授業中に適宜参考文献を示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書）
藤井譲治ほか『シリーズ日本近世史』１～５（岩波新書）
そのほか授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）
【追記】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
声の大きさには気をつけますが、前の方に座ることを勧めます。

【Outline and objectives】
This course introduces early modern history of Japan to students taking this course.　At the end of the course, participants are expected to describe the characteristics of early modern history of Japan.

HIS100BE

日本史概説Ⅳ

長井　純市

授業コード：A3104　｜　曜日・時限：**水曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：日本近現代史を手がかりとする日本史及び日本史研究に関する概説である。毎回、日本近現代史における政治・経済・外交・軍事・文化・生活に関わるトピックを取り上げ、その概要を説明すると共に、その周辺事情についても日本史全体の流れをふまえた解説を行う。
目的：受講生は日本史、とりわけ日本近現代史に関する基礎的な知識を得ると共に、日本史研究、とりわけ日本近現代史研究の現状に関する基礎的な情報を得る。

【到達目標】
到達目標：１）日本史、あるいは日本近現代史を通観して概略的に説明することができるようになること。２）その上で、人々が歴史を叙述したり、また歴史研究を行ったりしてきたことの意味について、自分自身の捉え方を持つこと。３）過去・現在・未来と自分との関わりを考える手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
進め方：講義形式である。
方法：受講生の能動的な学習を促し、また双方向的な授業運営に努め、受講生の授業後のコメントや疑問などを適宜授業内で取り上げ、受講生との質疑応答を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業全体の概要説明。また、日本史研究に関するビデオの視聴とその解説。
第２回	日本近現代史概観	国会の歴史にかかわるビデオの視聴とその解説。
第３回	ペリー来航とその残像	日本の近代化を前近代及び現代日本との関わりから解説する。
第４回	明治六年政変	日本の近現代における国政指導解説。
第５回	殖産興業	日本の近代産業出発点の解説。
第６回	文明開化	日本の近代化初期における文明開化とそれに対する批判の解説。
第７回	近代政治思想の発達	日本の近代化を進めた政治思想に関するビデオの視聴とその解説。
第８回	日清戦争	日清戦争の種々相の解説。
第９回	日露戦争	日露戦争の種々相の解説。
第10回	大正政変	日本の近代化における政党政治の種々相の解説。
第11回	植民地	日本の植民地統治に関するビデオの視聴とその解説。
第12回	女性運動	日本の近代化における女性の地位向上に関するビデオの視聴とその解説。
第13回	戦争被害	国民の立場で戦争被害を考えるビデオの視聴とその解説。
第14回	まとめ	授業の総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：授業前に、授業テーマに関する記事や参考書を読んでおくこと。
復習：毎回配布される授業プリントを、授業後に読み直すこと。さらに、授業の中で紹介された記事や参考書を読むこと。
本授業の準備・復習時間として、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
刊本としてのテキストは使用しない。毎回、授業内容をまとめたプリントを配布する。

【参考書】
『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全６巻
『現代日本政治史』（吉川弘文館）全５巻
アジア歴史資料センターや独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館のウェブサイトにおける日本史関連解説コラム

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末試験 60 %。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは期末試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本史、あるいは日本近現代史に関する基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、受講生の各授業テーマの前提となる基礎的な知識の理解度や授業で紹介した知識の定着度を試す発問を効果的に利用する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを参照するＩＴ機器。

【その他の重要事項】
やむを得ない事情により欠席する場合には、その事情を証明する文書を必ず提出すること。
新型コロナウィルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学 Web 学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。

【Outline and objectives】
This class has two main points.The first point is to get a basic knowledge on the Japanese history through several topics of the modern Japanese history, for instance, politics, economy, diplomacy, military, culture, or life style. The second one is to get a basic information on the current academic trends in the study of Japanese history.

HIS100BE

東洋史概説Ⅰ

塩沢　裕仁

授業コード：A3105　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。
当授業では東アジアにおける文明の発生から前漢の崩壊までの王朝の歴史や地域空間の変化を講じます。初めて東洋史を学ぶ学生にも、東洋史を学ぶことの意義を理解してもらいたいと思います。

【到達目標】
文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ，時間的・空間的に地域相をとらえながら，東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して，これまでとは違ったものの見方，考え方，接し方，ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸と“覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。
本年度は、5 月 8 日（金）より、授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋史の意義	現在の東アジア状況
第 2 回	東アジアの空間構成	東アジアの地域区分
第 3 回	文明とは	一元論と多元論
第 4 回	新石器時代の意義	新石器の集落展開
第 5 回	草創期の国家とは	王朝の誕生
第 6 回	邑制国家論	殷王朝の意義
第 7 回	封建国家とは	周と封建制度
第 8 回	地域観の成立	春秋時代の諸問題
第 9 回	分裂期の意義	戦国時代の諸問題
第 10 回	領域国家とは	都市国家と秦統一前史
第 11 回	統一国家とは	秦の統一と諸改革
第 12 回	漢帝国成立の意義	漢の登場とその性格
第 13 回	漢帝国拡大の影響	漢帝国の拡大と変容
第 14 回	秦漢代の社会	秦漢代の社会と民衆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・冨谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮渢・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】
質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline and objectives】
On studying Chinese History and Customs change with the times from the beginning of civilization to the collapse of West Han-Dynasty, we will be able to understand importance of study on Oriental History.

HIS100BE

東洋史概説Ⅱ

塩沢　裕仁

授業コード：A3106　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。
当授業では春学期（東洋史概説Ⅰ）の内容を踏まえ、後漢より三国、魏晋南北朝、隋の成立までの東アジア地域の歴史を講じます。東アジア地域の農耕・遊牧民族の性格や仏教文化などを再認識する場にしたいと考えています。

【到達目標】
文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ，時間的・空間的に地域相をとらえながら，東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して，これまでとは違ったものの見方，考え方，接し方，ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし” 覚える歴史” ではなく “考える歴史” を講じていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	豪族社会とは	後漢王朝の性格
第 2 回	曹操が構築したもの	曹操政権の性格
第 3 回	新時代の支配層とは	貴族制の成立
第 4 回	魏晋の民族問題	三国志の興亡と遊牧民族の登場
第 5 回	遊牧民族国家の意義	五胡十六国の興亡
第 6 回	鮮卑勃興の要因とは	部族制の克服
第 7 回	千年帝国論	北魏帝国の成立と変容
第 8 回	仏教の興隆	雲崗と龍門
第 9 回	隋唐時代への流れⅠ	北魏の分裂
第 10 回	隋唐時代への流れⅡ	北周から隋へ
第 11 回	江南王朝の意義	南朝諸王朝の興亡
第 12 回	貴族制の限界	南朝貴族制の変容
第 13 回	稀代の都建康	江南文化の熟成
第 14 回	東アジアの国際関係	古代日本と大陸交渉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上に不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・冨谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮渢・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %
あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】
質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline and objectives】
On studying the Chinese History and the Customs change with the times from East Han-Dynasty to the birth of Sui-Dynasty, we will be able to understand the difference between Agricultural and Nomadic cultures and realize the Buddhist culture.

HIS100BE

東洋史概説Ⅲ

宇都宮　美生

授業コード：A3107　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。
授業開始日：５月７日、前日までに学習支援システムに配布資料を発信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第 2 回	隋による国家統一	隋の成立と文帝の政治
第 3 回	隋の繁栄と衰退	煬帝の時代
第 4 回	隋と周辺民族	高句麗・西域との関係
第 5 回	隋から唐へ	唐王朝の成立とその背景
第 6 回	唐の成熟と国際文化	則天武后から玄宗へ
第 7 回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第 8 回	唐の衰亡	牛李党争から黄巣の乱へ
第 9 回	唐と周辺諸地域	遣唐使、羈縻支配、節度使
第 10 回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第 11 回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第 12 回	党派の争い	王安石と司馬光
第 13 回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第 14 回	遼・金の建国と華北支配	北宋との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』昭和堂、2016 年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』昭和堂、2016 年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』4～7 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】
履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline and objectives】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Sui to Northern Song Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS100BE

東洋史概説Ⅳ

宇都宮　美生

授業コード：A3108　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。南宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方　歴史と日常生活
第 2 回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第 3 回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第 4 回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第 5 回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第 6 回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第 7 回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第 8 回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第 9 回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第 10 回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第 11 回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第 12 回	ヨーロッパの進出と戦乱	アヘン戦争から義和団事件へ
第 13 回	清の文化	中国の伝統とヨーロッパの科学
第 14 回	清の衰退	西太后から宣統帝へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』昭和堂、2016 年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』昭和堂、2016 年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】
履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline and objectives】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS100BE

西洋史概説Ⅰ

後藤　篤子

授業コード：A3109　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、鉄や文字を後世に遺した古代オリエント世界、「民主主義」の原型を生んだ古代ギリシア世界の歴史と文化、アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界について学びます。最後に、アレクサンドロス評価の変遷を見ることで、歴史学の性格について受講生と討議したいと考えています。

【到達目標】
古代メソポタミア文明・古代エジプト文明の成立と展開、古代オリエント世界における「国際化」と「帝国」の出現、古代ギリシア世界の展開と古代アテナイにおける民主政の発展、アレクサンドロス大王の東征とヘレニズム諸王国の成立について、基本的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に１年生を対象に、前 3000 年紀から前２世紀後半までの西アジア・東地中海世界の歴史を講述します。講義形式で授業を進めますが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質問やコメントに応える時間を設けます。また、アレクサンドロス大王に対する評価の変遷を通じて、歴史学の性格について受講生と討議する時間を設ける予定です。
【追記】春学期は当面、学習支援システムの教材・課題・掲示板等の諸機能を使ってのオンライン授業となります。それに伴う授業計画の変更等については、学習支援システムで提示します。本授業の開始日は 4 月 24 日としますので、学習支援システムを必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ古代オリエント史は「西洋史」に区分されるのか
第 2 回	古代メソポタミア文明の成立と展開	西アジア諸国の興亡
第 3 回	古代エジプト文明の成立と展開	統一王国の形成から新王国時代まで
第 4 回	前２千年紀後半のオリエント世界	印欧語族の到来とオリエント世界の「国際化」
第 5 回	東地中海世界の変動	「海の民」と、諸民族―アラム人、ヘブライ人、フェニキア人―の活動
第 6 回	前１千年紀前半の西アジア世界	騎馬遊牧勢力の登場とアッシリア帝国の興亡
第 7 回	前 1 千年紀中葉の西アジア世界	アケメネス朝ペルシアの繁栄
第 8 回	古代ギリシア世界 (1)	エーゲ文明とポリスの誕生
第 9 回	古代ギリシア世界 (2)	アテナイの発展とペルシア戦争
第 10 回	古代ギリシア世界 (3)	アテナイ民主政の完成とペロポネソス戦争
第 11 回	前４世紀のギリシア世界とアレクサンドロス大王	マケドニア王国の台頭とアレクサンドロスの東征
第 12 回	ヘレニズム世界	ヘレニズム諸王国の成立と展開
第 13 回	アレクサンドロス大王をどう評価するか	近代以降のアレクサンドロス評価の変遷と時代背景について考える
第 14 回	授業のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で使用するプリントは原則として１週間前に配布するので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などで下調べをしておく。
授業後は講義内容について復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して調べてみる。それでも解決しない場合は、次回授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決するようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを毎回配布します。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、授業時の配布プリントで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の授業が当面はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準については、授業開始日にその時点での方針を学習支援システムで提示します。その後に何らかの変更をする場合も、必ず学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
配布プリントや授業内フィードバック（質問やコメントへの対応）に関しては総じて好意的評価を得ましたが、「プリントと授業で話す内容がほぼ同じ」という指摘もありました。授業外学習時間が相変わらず少ない（回答率 40 %のうち、44 %が「ほとんど行っていない」とのこと）も悩ましいところです。配布プリントの文字記述の部分をもう少し減らすなど、プリント内容を再考して、受講生が講義を聴きながらノートを取り、復讐しなければならないような工夫をしたいと考えています。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical outlines of the ancient Orient, ancient Greece, and the Hellenistic age.

HIS100BE

西洋史概説Ⅱ

後藤　篤子

授業コード：A3110　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、近代以降の西洋世界に有形無形の大きな遺産を遺した古代ローマの歴史と社会、そしてローマによって統一された古代地中海世界が解体し中世へと移行していく過程について学び、合わせて、古代ローマ人による戦争正当化の論理、「ローマの平和」の功罪など、現代世界に通じる問題についても考えます。

【到達目標】
都市国家として出発したローマが古代地中海世界を支配下に置き「帝国」となる過程、その支配の拡大がローマ社会に及ぼした影響、帝政期ローマの歴史と社会、古代地中海世界が西欧カトリック世界、東欧正教世界、イスラーム世界へと解体していく過程について、基本的知識を習得する。
古代ローマが現代世界に提起する諸問題（戦争正当化の論理、「ローマの平和」の功罪、文明「衰亡論」など）について、批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に１年生を対象に、都市国家ローマの成立から後７世紀頃までの地中海世界の歴史と社会について講述します。講義形式で授業を進めますが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質問やコメントに応える時間を設けます。また、ローマ人による戦争正当化の論理については、関連史料を読んでグループディスカッションする時間を設けたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	西洋史における古代ローマ史の意義
第 2 回	都市国家ローマの成立	建国伝説と歴史学
第 3 回	共和政期ローマの国制	ローマ「共和政」の特質
第 4 回	都市国家から世界帝国へ (1)	イタリア制覇とポエニ戦争
第 5 回	都市国家から世界帝国へ (2)	東地中海制覇とローマ人の戦争正当化の論理
第 6 回	ローマ共和政の動揺	支配拡大による社会の変質とグラックス兄弟の改革
第 7 回	共和政から帝政へ	「内乱の百年」とユリウス・カエサル
第 8 回	皇帝位なき「帝政」の成立	アウグストゥスによる「帝政」樹立と「パンとサーカス」
第 9 回	ローマ帝政前期の政治と社会	「小さな政府」による帝国統治と「ローマ化」の問題
第 10 回	「ローマの平和」をめぐって	「ローマの平和」が現代世界に提起する諸問題
第 11 回	帝国の危機と再編	「３世紀の危機」と帝政後期における「大きな政府」の出現
第 12 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって	「西ローマ帝国の滅亡」に至る政治史と、「衰亡論」の陥穽
第 13 回	古代から中世へ	６～７世紀の地中海世界
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で使用するプリントは原則として１週間前に配布するので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などで下調べをしておく。
授業後は講義内容について復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して調べてみる。それでも解決しない場合は、次回授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決するようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを毎回配布します。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、授業時の配布プリントで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末に行う筆記試験 90 %、平常点（質問等、授業への積極的参加度）10 % で評価します。期末試験は、知識の習得度・講義内容の理解度を確認するための客観問題 50 点、事前に発表する論題について自らの考察を述べる論述問題 50 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内にアンケートを実施できなかったため回答率が約 20 %と低かったのですが、「西洋史概説Ⅰ」と同様、配布プリントに書き込み過ぎたと反省させられる自由記述がありました。配布プリントの内容を再考して、受講生がきちんと講義を聴き、ノートを取らねばならないような工夫を考えます。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical outlines of ancient Rome and the transformation of the ancient Mediterranean world.

HIS100BE

西洋史概説Ⅲ

高澤　紀恵

授業コード：A3111　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アンシアン・レジーム社会からフランス革命に至る経緯を通して、主権国家、憲法、国民主権、政治的自由、政教分離など現代社会の基底にある諸制度が西ヨーロッパで成立した過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
ヨーロッパ近世・近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察できる複眼的視点の獲得を到達目標とする。具体的には、フランス革命がもたらした変化の意味を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッションを組み合わせる。ディスカッションは、事前に課題資料とテーマを提示するので、学生は自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめてグループ・ディスカッションにのぞむこと。レポートは、ディスカッション後に提出のこと。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める
。
☆４月２７日の第一回授業日に授業支援システムを通して５月中旬までのクラスの進め方を出します。その後のことは、状況を見つつ判断します。２７日の指示をよく読んで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近世・近代ヨーロッパと現代社会との繋がり
第 2 回	近世ヨーロッパ政治社会	その複合性について
第 3 回	アンシアン・レジーム（1）	教会と王権
第 4 回	アンシアン・レジーム（2）	官僚制と暴力
第 5 回	アンシアン・レジーム（3）	お金のうごき
第 6 回	ディスカッション	特権の体系とその矛盾をめぐって
第 7 回	フランス革命への道	世論と身分制議会
第 8 回	フランス革命（1）	議会と民衆運動
第 9 回	フランス革命（2）	91 年体制と憲法
第 10 回	ディスカッション	国王処刑をめぐって
第 11 回	フランス革命（3）	ヨーロッパのなかのフランス革命
第 12 回	フランス革命（4）	独裁と暴力
第 13 回	フランス革命（5）	終焉はいつ？
第 14 回	まとめ	フランス革命・ヨーロッパ・日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを用いるので、事前に該当箇所を読んでくることが望ましい。
とくにディスカッションについては、一週間前までに必要な資料が配付されるので、必ずよく読み、自分の意見を A4 一枚程度のレポートにまとめてディスカッションにのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
谷川稔・渡辺和行（編）『近代フランスの歴史――国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房 2006 年。

【参考書】
高澤紀恵「「自由」をめぐる葛藤」歴史学研究会編『世界史 20 講』岩波書店,2014 年。
歴史学研究会編『世界史史料集　6』岩波書店、2007 年。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リーディングを予め配布するスタイルでのディスカッションに加えて、史料を読む度に出来れば毎回短く学生同士でディスカッションすることが有益で授業を活性化することに気づきました。2020 年度もできるだけこの方法を取り入れたいと思います。

【その他の重要事項】
☆４月２７日の第一回授業日に授業支援システムを通して５月中旬までのクラスの進め方を出します。その後のことは、状況を見つつ判断します。２７日の指示をよく読んで下さい。

【Outline and objectives】
This course aims to help students understand the European institutions that underpin the contemporary world by studying French history from the Ancient Régime to the Revolution. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS100BE

西洋史概説Ⅳ

高澤　紀恵

授業コード：A3112　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスを中心に 19 世紀ヨーロッパにおける社会的・経済的・政治的変動プロセスを通して、国民国家、ナショナリズム、帝国主義、ポピュリズムなど現代社会に連なる諸現象が西ヨーロッパで生じた過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会を二度もうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
ヨーロッパ近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察しうる複眼的視点の獲得を到達目標とする。フランスを軸に、ナポレオンの登場から第一次大戦までにヨーロッパ世界の内外で生じた変化を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とグループ・ディスカッションを組み合わせる。
リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近代ヨーロッパの形成とその遺産
第 2 回	ナポレオンの登場	ナポレオンとヨーロッパ
第 3 回	ウィーン体制と復古王政	ウィーン体制下のフランスとヨーロッパ
第 4 回	七月革命	出来事とインパクト
第 5 回	産業化と新しい思潮	自由主義と社会主義
第 6 回	ディスカッション	民衆の政治参加をめぐって
第 7 回	1848 年革命	出来事とインパクト
第 8 回	第二共和政	共和政は根付くのか
第 9 回	第二帝政	理念と変容
第 10 回	ディスカッション	幕末・明治の日本人は何を見たのか？
第 11 回	普仏戦争とパリ・コミューン	パリとフランス
第 12 回	第三共和政と国民統合	統合と排除
第 13 回	第三共和政と帝国主義	文明化の使命の行く末
第 14 回	まとめ	ヨーロッパからの視点、アジアからの視点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を事前に読んでおくことがのぞましい。とくにディスカッションについては、事前に資料を配付するので、資料を熟読の上、出された課題について自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめ、ディスカッションに持参すること。グループ・ディスカッション後にこのレポートは提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
谷川稔・渡辺和行（編）『近代フランスの歴史――国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房 2006 年。

【参考書】
歴史学研究会編『世界史史料集　6』岩波書店、２００７年。
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵（編）『新しく学ぶ西洋の歴史――アジアから考える』ミネルヴァ書房、２０１６年。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
事前に配布した史料を読んでディスカッションするスタイルに加えて、毎回用いる史料を基に短くとも学生同士で議論することが、授業を活性化することに気づきました。今年度もその方式を続けたいと思います。

【Outline and objectives】
This course, focusinf on French history in the 19th century, aims to help students understand the contemporary issues like nationalism, populism, imperialism, and so on. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

考古学概論

小倉　淳一

授業コード：A3152　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】
日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】
当初は論述式の筆記試験を予定していたが、期末試験を通常通り行えない可能性がある。このため、授業内に課す小レポートによる評価を 50 %とし、期末レポートによる評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

史学概論

秋山　千恵

授業コード：A3153　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、歴史を学ぶことの意味や意義を考えることを目的とします。

【到達目標】
歴史学とは何か、歴史的事実とは何か、史料とは何か、史料批判とは何か、歴史認識とは何かという基本的な問題を考えます。そして、現在歴史学がいかなる問題に直面しているのかを検討します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義形式で授業を進めていきます。テーマによっては簡単な小レポートを作成・提出してもらう場合があります。
通常形式の授業では、レジュメ等を直接配布し、OHC や DVD 等を使用する予定です。
オンライン授業の場合には、学生のみなさんが教科書を入手するまでは、学習支援システムでレジュメ・資料等を提示し、簡単な小レポートを提出してもらいます（ただし、毎回ではありません）。教科書入手後は、教科書の内容に沿って課題を設定します。
学習支援システムでの授業開始は 4 月 21 日です。この日は、使用する教科書と、参考文献を提示するにとどめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	「史学概論」で何を学ぶのかを知るための参考文献を示します
第 2 回	歴史学とは (1)	科学としての歴史学について、歴史学の営みについて、レジュメを提示します
第 3 回	史料について（1）	史料とは何かについてレジュメを提示します
第 4 回	史料について（2）	文字史料の史料批判について具体例を挙げて説明します
第 5 回	史料について（3）	史料をよむとはどういうことかを具体的に説明します
第 6 回	現代の歴史学	「言語論的転回」論とそれに対する歴史学の応答を解説します
第 7 回	現代の歴史学	歴史修正主義の問題点について
第 8 回	「記憶」と歴史学（1）	スミソニアン博物館展示問題から「記憶」と歴史学の対抗について考えます
第 9 回	「記憶」と歴史学（2）	「記憶」とオーラルヒストリーについて検討します
第 10 回	「記憶」と歴史学（3）	従軍慰安婦論争について考えます
第 11 回	「記憶」と歴史学（4）	「記憶」を抹殺しようとするものに対する戦いについて
第 12 回	歴史の見直し（1）	ホロコーストをめぐる認識枠組みがどのように転換したのかを検討します
第 13 回	歴史の見直し（2）	ドイツとポーランドの歴史学の試みについて
第 14 回	授業のまとめ	授業内容の総括と筆記試験あるいはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書に指定された文献や指示された参考文献を読んでください。
各回ごとに内容を復習します。各回ごと 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小田中直樹『歴史学って何だ？』PHP 新書 2004 年、￥680
法政大学生協・三省堂で一括購入扱いにはなっておりません。受講生は各自で入手してください。

【参考書】
参考書は授業内で随時紹介しますが、以下の文献を挙げておきます。
渓内　謙『現代史を学ぶ』岩波新書 1995 年、￥819
E. H. カー著・清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書 1962 年-、￥650
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会 2010 年、￥6800
東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく 史料が語るとっておきの 42 話』中公新書 2014 年、￥800

【成績評価の方法と基準】
成績は基本的に論述試験（70%）と授業内に提出する小レポート（30%）で評価します。内容を理解し、自分なりにまとめているかどうかを重視します。ただし、論述試験を行わずレポートに変更することもあります。そのときには前もって通知します。

【学生の意見等からの気づき】
随時受講生の意見を聞きながら、改善点を検討します。

【その他の重要事項】
通常形式の授業ではなくオンライン授業が継続する間は、学習支援システムに提示する資料に目を通してください。また、進捗状況により、上記の講義内容が前後したり、内容を変更することがあります。
通常形式授業の開始以降はレジュメ・資料等を教室で配布します。

【Outline and objectives】
An Introduction to basic principles of historiography; deals with methodology, documentation, and use of concepts, etc.

HIS300BE

日本考古資料学Ⅰ

阿部　朝衛

授業コード：A3119　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。春学期では土器を中心に行います。

【到達目標】
土器の製作・使用にかかわる属性を理解し、先史時代人の細部の意識と行動を推定できる能力を身に付け、同時に土器の所属時期を判断できる基礎的基準を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
4 月 21 日より遠隔授業を開始しますが、ゆっくりと実施します。土器や石器などの実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や拓本、写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験も行います。これによって有用な情報を確認します。まさしく見る目を養います。遺物とは情報の集合体です。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な知識と技術を身に付けることになります。
基本的に室内での作業です。室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・土器研究方法・縄の撚り方
第 2 回	動作研究と縄つくり	縄の撚り方修得と縄・動作の名称
第 3 回	縄文原体作成　1	1・2 段の縄
第 4 回	縄文原体作成　2	3 段の縄、撚り戻し
第 5 回	縄文原体作成　3	合わせ撚り
第 6 回	縄文原体作成　4	結束・結節の縄
第 7 回	縄文原体作成　5	撚り糸文、組紐
第 8 回	土器の文様復元	縄文原体と圧痕の対応関係の確認、および土器片の模様の復元
第 9 回	土器の理解と表現　1	土器の観察と実測
第 10 回	土器の理解と表現　2	土器の外形と実測
第 11 回	土器の理解と表現　3	土器の模様の実測
第 12 回	土器片の理解と表現　1	土器片の観察
第 13 回	土器片の理解と表現　2	土器片の拓本
第 14 回	総括	レポート作成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館などで考古学資料の観察を行ってください。また、研究室にある発掘調査報告書の中で考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討してください。授業時間外で資料を用いた作業を行う場合、教員や史学科室員の指示にしたがって行動してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いませんが、必要な資料はコピーして配布します。参考文献などは随時、教室で紹介します。

【参考書】
参考文献などは随時、教室で紹介します。また参考とする資料はコピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、作業結果（縄文原体、実測図、拓本）およびレポートで評価し、平常点は 30 %、作業結果・レポートは 70 %とします。作業結果は各授業で製作したもの、レポートはそれら製作物についての記述とします。各テーマの作業量はかなり多いので、欠席が多いとレポートを提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組めません。
遠隔授業での課題をしっかりとこなしてください。

【学生の意見等からの気づき】
具体的資料の操作には慣れていないので、小テーマの最初の授業はゆっくり行います。抽出した要素とその意味は、論文等の関連で解説します。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具等は各自が準備してください。

【その他の重要事項】
土器や石器は本物ですので、遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい資料ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。実測用具・トレース用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することにします。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。
授業の最初に当日の目的・方法を説明をし、その後、遺物や道具を使っての作業に入りますので、遅刻をして他者に迷惑をかけないようにしてください。

【Outline and objectives】
This course deals with the archaeological method and practice concerning the technology and typology of the Jomon pottery. Students are expected to twine plant fiber into many kinds of strings, and roll them on clay plate to reproduce the Jomon pottery designs. Students will be able to learn Takuhon (rubbed copy) skill to copy the Jomon designs by using the Takuhon ink and dabber.

HIS300BE

日本考古資料学Ⅱ

阿部　朝衛

授業コード：A3120　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。秋学期は石器を中心に行います。また、写真撮影技術・図版作成方法などの、論文における基礎的表現技術を学ぶことも目的とします。

【到達目標】
石器の製作、使用にかかわる属性を理解し、観察結果の表現方法（文章、図、写真）を修得します。それによって石器製作・使用にかかわる先史時代人の意識と行動を理解できる能力を身に付け、同時に石器の名称、所属時期を判断できる基礎的能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験を行う予定です。これによって有用な情報を確認します。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な技術を身に付けることになります。
室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。ある石器製作技術を習得するのに、手本を見せるだけと、手本を見せて同時に言葉で説明するという二つの方法で学習実験を行ったら、両者に差がなかったという結果が報告されています。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。なお、受講生が多い場合は、写真撮影等の時間は減らします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・石器研究方法
第 2 回	石器製作実験	原石の打ち割り
第 3 回	石器使用実験	剥片で切断作業
第 4 回	石核・剥片接合作業	原石（母岩）分類と石核・剥片の接合
第 5 回	剥片剥離の順番復元	接合剥片の打撃の順番の理解
第 6 回	剥離工程の理解	原石の粗割り、打面作成・調整、目的剥片剥離などの工程把握
第 7 回	剥片石器の実測 1	測量方法の原理
第 8 回	剥片石器の実測 2	図の展開と輪郭線の描き方
第 9 回	剥片石器の実測 3	剥離面の境界線の理解
第 10 回	剥片石器の実測 4	リング、フィッシャーの意味と表現
第 11 回	磨製石器の実測 1	製作工程の理解
第 12 回	磨製石器の実測 2	研磨痕、使用痕の抽出と表現
第 13 回	遺物写真撮影	簡易写場での具体的資料の撮影
第 14 回	総括	作業結果の点検とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館を訪れ、考古学資料の観察を行ってください。研究室にある発掘調査報告書等をみて、石器資料の情報化の在り方を検討してください。授業時間外で実習室・資料を使う場合、教員ないし史学科室員の指示にしたがって作業してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いませんが、必要資料はコピーして配布します。

【参考書】
適宜、指示します。関連資料はコピーし配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、作業結果およびレポートで評価します。配分は、平常点 30 %、作業結果・レポート 70 %です。作業結果は、実測図・トレース・写真を重視し、レポートはそれらで取り扱った石器の記述とします。欠席が多いとレポートは提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組めません。

【学生の意見等からの気づき】
実物の取り扱いに慣れていないので、小テーマの最初の授業の説明はゆっくりと行います。資料の観察と理解を重視しますので、受講人数によっては、写真撮影の時間は多めに取ります。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具等は各自で準備してください。

【その他の重要事項】
遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい遺物ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。しかし、実験石器は剃刀のように切れますので十分な注意が必要です。実測用具・トレース用具・撮影用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することにします。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。
授業の最初に当日の目的・方法を説明し、その後、遺物・道具を使っての作業となりますので、遅刻しないようにしてください。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic method and practice of examining the archaeological materials. Students are expected to understand stoneknapping technology and stonetool typology, through collecting raw materals for stonetool, making stonetools of the materials, and comparing them with the Palaeolithic and Neolithic (Jomon) stonetools.

HIS300BE

日本古代史料学Ⅰ

春名　宏昭

授業コード：A3121　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「続日本紀の史料学」と題して講義を行ないます。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】
続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができる。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概容の説明
第 2 回	天平二年の太政官奏（1）	続日本紀の３つのテキスト
第 3 回	天平二年の太政官奏（2）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 4 回	天平二年の太政官奏（3）	関連史料の検討
第 5 回	税司主鎰（1）	大宝令施行直後の地方政治
第 6 回	税司主鎰（2）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 7 回	税司主鎰（3）	関連史料の検討
第 8 回	皇太妃と中宮職（1）	大宝元年七月壬辰条の紹介
第 9 回	皇太妃と中宮職（2）	天皇のキサキ〈妃と夫人・嬪〉
第 10 回	慶雲元年の公廨銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 11 回	慶雲元年の公廨銀（2）	関連史料の検討
第 12 回	衛士の代易（1）	和銅四年九月甲戌条の紹介
第 13 回	衛士の代易（2）	関連史料の検討
第 14 回	奈良時代史概観	これまでの授業内容をふまえて奈良時代を概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。
この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。
この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】
岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に一般啓蒙書として、中央公論社 (文庫)・小学館 (文庫)・集英社・講談社 (文庫) から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】
板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につきません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉日本古代政治史
〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制
〈主要研究業績〉
『律令国家官制の研究』(吉川弘文館)
『平城天皇』(吉川弘文館)
『皇位継承　歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）
『〈謀反〉の古代史　平安朝の政治改革』(吉川弘文館)

【Outline and objectives】
This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi". In the way of taking up some descriptions of Shokunihongi,we were to learn how to grapple with problems in order to understand how Japan changed in the ancient regime.

HIS300BE

日本古代史料学Ⅱｂ

新井　重行

授業コード：A3205　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、日本古代史の研究において使用される史料のうち、特に出土文字資料に焦点をあて、その特色や歴史研究に活用するうえでの扱い方を学ぶためのものである。

【到達目標】
木簡・漆紙文書・墨書土器などの出土文字資料は、古代社会の実像を生々しく伝えてくれるものであるが、そこに記された文字を読むだけでなく、形状の観察や出土した遺跡の性格などと併せて検討することにより、古代社会の制度や地域的特色をより深く理解することができる。文書・典籍などとも比較しながら、出土文字資料に基づいて正しく情報を引き出す考え方を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
４月２１日、および２８日は授業学定時間にはオンライン講義を行いません。この２回分については、後ほど資料を配信し、小レポートを課します。詳しくは掲示板でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標と進め方、高校地歴教科書における古代史料の解説のあり方と課題
第 2 回	古代史の史料（1）	一次史料と二次史料
第 3 回	古代史の史料（2）	写本の扱い方について
第 4 回	木簡（1）	木簡とは
第 5 回	木簡（2）	荷札・付札の特徴と使用法
第 6 回	木簡（3）	帳簿木簡の特徴と使用法
第 7 回	木簡（4）	文書木簡の特徴と使用法
第 8 回	木簡（5）	削屑・習書木簡の特徴とその意義
第 9 回	木簡（6）	その他の使用法の木簡
第 10 回	漆紙文書（1）	漆紙文書の概要と特色
第 11 回	漆紙文書（2）	さまざまな漆紙文書を読む
第 12 回	墨書土器	墨書土器の概要と特色
第 13 回	金石文	石や金属に刻まれた文字資料
第 14 回	まとめ	講義のまとめと試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱う内容は、高校教科書程度の知識を前提としています。講義内容をよりよく理解するために、日本古代史に関する概説書などに目を通しておくことを望みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】
木簡学会編『木簡から古代がみえる』（岩波書店、２０１０年）
渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』（講談社、２００１年）
平川南・沖森卓也・栄原永遠男・山中章 編『文字と古代日本』１～５（吉川弘文館、２００４～２００６年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業への積極的な貢献度（４０％）および期末に実施する試験（６０％）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】
図版やスライドを用いて例示を行い、より分かりやすい解説となるよう工夫する。

【Outline and objectives】
Lecture of historical sources of Japanese ancient history

HIS300BE

日本古文書学Ⅰ

大塚　紀弘

授業コード：A3206　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本古代（奈良時代から平安時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、読解力を養成することを目的とする。

【到達目標】
律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。
※授業開始日は４月２３日とする。
※対面授業が行なえない場合、「学習支援システム」で各章毎に配布プリントおよび古文書の読み下し案をＰＤＦファイルで配信する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古文書学とは	履修のガイダンス
第 2 回	検非違使別当宣	古文書に親しむ
第 3 回	紛失状	古文書に親しむ
第 4 回	公式様文書　宣命・詔	様式・機能の解説と訓読
第 5 回	公式様文書　符（1）	様式・機能の解説と訓読
第 6 回	公式様文書　符（2）	様式・機能の解説と訓読
第 7 回	公式様文書　移	様式・機能の解説と訓読
第 8 回	公式様文書　牒	様式・機能の解説と訓読
第 9 回	公式様文書　解	様式・機能の解説と訓読
第 10 回	公式様文書　宣旨	様式・機能の解説と訓読
第 11 回	公家様文書　官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第 12 回	公家様文書　院庁下文	様式・機能の解説と訓読
第 13 回	公家様文書　摂関家政所下文	様式・機能の解説と訓読
第 14 回	公式様文書と公家様文書	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を用いて予習し、配布プリントを用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局、２００３年）

【参考書】
日本歴史学会編『概説古文書学　古代・中世編』（吉川弘文館、１９８３年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く１　中世文書の流れ』（山川出版社、２００６年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、２０１５年）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の点数１００％で評価する予定である。
※筆記試験が行なえない場合、「学習支援システム」でレポート課題を配信する予定。

【学生の意見等からの気づき】
次回取り上げる文書を予告する。

【Outline and objectives】
Learn Japanese archaeological studies systematically and acquire the basic ability of reading old documents.

HIS300BE

日本古文書学Ⅱ

大塚　紀弘

授業コード：A3207　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、読解力を養成することを目的とする。

【到達目標】
公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古文書学とは	履修のガイダンス
第 2 回	公家様文書　国司庁宣	様式・機能の解説と訓読
第 3 回	公家様文書　綸旨	様式・機能の解説と訓読
第 4 回	公家様文書　院宣	様式・機能の解説と訓読
第 5 回	公家様文書　御教書	様式・機能の解説と訓読
第 6 回	武家様文書　下文（1）	様式・機能の解説と訓読
第 7 回	武家様文書　下文（2）	様式・機能の解説と訓読
第 8 回	武家様文書　下知状（1）	様式・機能の解説と訓読
第 9 回	武家様文書　下知状（2）	様式・機能の解説と訓読
第 10 回	武家様文書　鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第 11 回	武家様文書　室町幕府の奉書	様式・機能の解説と訓読
第 12 回	武家様文書　室町幕府の直状	様式・機能の解説と訓読
第 13 回	起請文・売券・譲状	様式・機能の解説と訓読
第 14 回	公家様文書と武家様文書	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を用いて予習し、配布プリントを用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局、２００３年）

【参考書】
日本歴史学会編『概説古文書学　古代・中世編』（吉川弘文館、１９８３年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く１　中世文書の流れ』（山川出版社、２００６年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、２０１５年）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の点数１００％で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
次回取り上げる文書を予告する。

【Outline and objectives】
Learn Japanese archaeological studies systematically and acquire the basic ability of reading old documents.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅰ

松本　剣志郎

授業コード：A3124　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世史研究において、くずし字の解読能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】
①くずし字の読解能力を身につける。
②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピーを配布するので、まずは自力で解読に取り組む。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する。
【追記】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書解読入門	近世史料学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。プリントを配布する。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）
【追記】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】
本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅱ

松本　剣志郎

授業コード：A3125　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】
①くずし字を解読することができる。
②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は日本近世史料学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ペリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。プリントを配布する。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
筆の動きをみることが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】
本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近代史料学

長井　純市

授業コード：A3126　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：史料を通して日本近代史の種々相を学ぶ。
目的：和紙に毛筆・草書体で書かれた史料の読解力を養うこと。

【到達目標】
到達目標：１）日本近代史に関する幅広い知識を得る。２）日本近代史研究に関わる史料の所蔵機関や利用法に関わる知識を得ること。３）日本近代史研究に関わる史料の調査・収集に関わる知識を得ること。４）日本近代史研究に関わる史料の読解力を養うこと。５）情報・知識の調査・収集・分析・利用に関わる能力・技術を養い、高める手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
進め方：講義形式である。
方法：受講生の能動的な学習促進と双方向的な授業運営のために、教員と受講生間の質疑応答、受講生グループの助け合い学習による草書体文字の翻刻作業を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第２回	独立行政法人国立公文書館	独立行政法人国立公文書館に関わるビデオの視聴とその解説。
第３回	主な史料所蔵機関のウェブサイト	外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センター、国立国会図書館など主な史料所蔵機関のウェブサイトの説明。
第４回	アジア歴史資料センター	アジア歴史資料センターの受講生による利用実践発表。
第５回	日本近代古文書読解（１）	第１回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第６回	日本近代古文書読解（２）	第２回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第７回	日本近代古文書読解（３）	第３回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第８回	日本近代古文書読解（４）	第４回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第９回	日本近代古文書読解（５）	第５回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第10回	日本近代古文書読解（６）	第６回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第11回	日本近代古文書読解（７）	第７回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第12回	日本近代古文書読解（８）	第８回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第13回	英文史料	米国外交文書の利用法と読解トレーニング。
第14回	まとめ	授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：授業テーマに関するウェブサイトの関連コラムを読んでおくこと。
復習：授業プリントを読み直すこと。

本授業の準備・復習時間は、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
刊本としてのテキストは使用しない。授業の要点をまとめたプリントや史料プリント（国立国会図書館所蔵「寺内正毅関係文書」）を配布する。

【参考書】
くずし字辞典
『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全 6 巻
アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館のウェブサイトにおける日本近代史関連解説コラム。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末試験 60 %。なお、特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは期末試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本近代史に関する基礎的な知識の不足や草書体史料読解スキルの不足を感じている受講生がいることから、教員・受講生間の質疑応答や受講生同士の助け合い学習を積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを利用することができるＩＴ機器。

【その他の重要事項】
「日本近代史」（春学期）との継続履修を強く推奨する。
大学院の学部合同科目（「日本近代史研究Ⅱ」）である。
やむを得ない事情により授業を欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。
新型コロナウィルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学 Web 学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。

【Outline and objectives】
This class has four main points. The first point is to get a basic knowledge about Japanese modern archives. The second one is to get an academic skill for reading old documents written in cursive style of Chinese characters in the Meiji era. The third is to study the Japanese modern history through reading old documents above.The fourth is to get clues for getting or improving the general skill of researching, gathering, analyzing and utilizing of information and knowledge.

HIS300BE

日本現代史料学

劉　傑

授業コード：A3127　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代史史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。
具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の探し方、利用法などを習得する。
昭和 12 年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。
戦後の日本外交は対米関係を基軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】
近現代の日本外交に関連する記録を解読し、近現代日本外交の特徴や、外交政策を影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。
史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。
また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義を受けての討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解読」する方法を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第 2 回	日中戦争下の外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第 3 回	日中戦争下の外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第 4 回	外交官と戦争（1）	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第 5 回	外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第 6 回	太平洋戦争下の外交（1）	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第 7 回	太平洋戦争下の外交（2）	対中外交を軍人の報告書で読む。
第 8 回	太平洋戦争下の外交（3）	占領地政権問題を日記で考える。
第 9 回	終戦外交（1）	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第 10 回	終戦外交（2）	外交記録で終戦を読む。
第 11 回	冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第 12 回	冷戦下の日本外交（2）	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第 13 回	日中国交回復とアジア外交の新展開（1）	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第 14 回	日中国交回復とアジア外交の新展開（2）	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】
その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくと便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史: 黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房 (2016 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック――解説と資料――』（有信堂、2007 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）

劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、普段の評価 3 割。

【学生の意見等からの気づき】
講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて利用する。

【Outline and objectives】
In this lesson we will learn how to research and read historical materials of modern history of Japan. Also think about Japanese diplomacy in historical materials.
Specifically, we will learn how to find and analysis documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.
In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅰ

塩沢　裕仁

授業コード：A3139　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東洋史を研究していく上で不可欠な漢文史料読解の訓練を行います。
基本的かつ様々な種類の漢文史料講読を通じて、東洋史研究への理解を深めることが目的です。東洋史研究で用いる史料に対して，これまでとは違った見方，考え方、接し方ができるようになります。

【到達目標】
史料として馴染みの薄い漢文の史料ですが、単に史料を読み進めていくだけでなく近年増加する考古資料との関わりを考えることによって、より身近なものにすることができます。また、初期段階にある個々人が、史料の講読練習を積み重ねることによってより高みを目指すとともに、東洋史への興味関心を増大させ、特講や演習への理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
史料の読解練習と近年増大する考古学の成果などを踏まえた解説とを交互に行います。史料は『三国志』関羽列伝、『睡虎地秦簡』法律答問、『水経注』という異なる性格の史料を用いますが、平易かつ歴史的に有名なところを選定していますので、興味を持って参加してみることを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講読に必要な入門書・辞書類の紹介並びに訓読基本の解説
第 2 回	テキスト（正史）講読Ⅰ	『三国志』と『三国志演義』の相違
第 3 回	テキスト（正史）講読Ⅱ	『三国志』の講読と三国志研究の現状１
第 4 回	テキスト（正史）講読Ⅲ	『三国志』の講読と三国志研究の現状２
第 5 回	テキスト（正史）講読Ⅳ	『三国志』の講読と三国志研究の現状３
第 6 回	テキスト（簡牘）講読Ⅰ	簡牘に関する説明と研究の現状
第 7 回	テキスト（簡牘）講読Ⅱ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読１
第 8 回	テキスト（簡牘）講読Ⅲ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読２
第 9 回	テキスト（簡牘）講読Ⅳ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読３
第 10 回	テキスト（地理書）講読Ⅰ	『水経注』の解説
第 11 回	テキスト（地理書）講読Ⅱ	『水経注』黄河編の講読１
第 12 回	テキスト（地理書）講読Ⅲ	『水経注』黄河編の講読２
第 13 回	テキスト（地理書）講読Ⅳ	『水経注』黄河編の講読３
第 14 回	テキスト（地理書）講読Ⅴ	『水経注』黄河編の講読４

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を活用することで漢文を学んだことがなくとも十分に対応ができると思いますので、積極的な予習を期待します。また、史料の読解と内容への理解を深めるため、博物館や展示会には頻繁に出掛け自分の目で遺物を観察してもらいたいと思います。
特定の教科書は使用しませんが、『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）と『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）には目を通しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
専門書や大型の辞書などの書籍については個人で購入することは困難です。授業中に収蔵場所などを示しますので、図書館などを積極的に活用し予習するようにしてください。

【その他の重要事項】
継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。

【Outline and objectives】
On reading basic and various Chinese historical records for doing research on Chinese history, we will aim to gain more understanding on Chinese history and be able to see an issue from various perspectives.

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅱ

宇佐美　久美子

授業コード：A3140　｜　曜日・時限：**金曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド洋西海域における移民史研究に関する英語文献を輪読していく。
さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

【到達目標】
英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。
単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようになる。
特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身に付ける。
移民史研究についての基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を講読する。
毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。
英語文献の著者の論旨を正確に理解したうえで、必要に応じて論点の背景などを担当者が調べて後日発表し、それを全受講生が検討することによって理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	テキスト紹介	テキスト配布など
第２回	英文論文読解の基本事項の説明	テキスト購読
第３回	インド洋西海域史研究の概略	テキスト購読
第４回	移民史研究の概略	テキスト購読
第５回	インド洋の自然環境と航海技術	テキスト購読
第６回	14 世紀までのインド洋西海域の移民史	テキスト購読
第７回	15～16 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト購読
第８回	17～18 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト購読
第９回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト購読
第10回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト購読
第11回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (3)	テキスト購読
第12回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト購読
第13回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト購読
第14回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (3) ／小テスト	テキスト購読／小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。
固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。
和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。
復習時には頻出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は第 1 回の授業で決定し配布する。

【参考書】
家島彦一『海域から見た歴史―インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006 年
古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会 2000 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (80 %) と最終講義における小テスト (20 %) を総合して成績を決定する。
平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。
小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。
単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

【学生の意見等からの気づき】
「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」などの意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】
第 1 回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。
難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。

【Outline and objectives】
The students are required to read an English thesis dealing the historical development of community networks and the maritime trade activities in the western part of the Indian Ocean.
They are provided the opportunity to speculate historiography, especially on the historical studies of the immigrant communities or 'slavery/ slave trade' in various areas.

HIS300BE

西洋史外書講読 I

後藤　篤子

授業コード：A3147　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の論説文から著者の主張を正確に読み取る能力は、西洋史で卒業論文を書く際に必要となるだけでなく、グローバル化時代の社会人にも広く求められるものです。この授業では西洋前近代に関する学術論文を素材として、英語論説文の読解方法を学びます。

【到達目標】
（1）英文の構造を正確に把握できるようになる（これは、英文を速読できるようになるためにも、必須の能力です）。
（2）接続詞等に留意しつつ著者の立論をたどり、その主張を正確に理解できるようになる。
（3）英語学術文献の註内容を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
古代ローマが近代のイギリスでどのように受容されたかをテーマにする英語論文を精読します。正確な英文読解の前提となる構文把握の訓練をしつつ、著者の主張を正確に読み解いていきます。あらかじめ邦訳担当者を決めることはしませんので、受講者は全員が毎回、読む予定の範囲について十分に予習してくることが必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業全体のイントロダクション	テキスト配布と予習方法の説明
第 2 回	外国語学術文献の読み方	テキスト 145-146 ページを例に、英文の構造把握、および英語学術文献の注の見方の訓練
第 3 回	著者の主張を正確に読み取る (1)	テキスト 146-147 ページの読解と質疑応答
第 4 回	著者の主張を正確に読み取る (2)	テキスト 147-149 ページの読解と質疑応答
第 5 回	著者の主張を正確に読み取る (3)	テキスト 149-151 ページの読解と質疑応答
第 6 回	著者の主張を正確に読み取る (4)	テキスト 151-152 ページの読解と質疑応答
第 7 回	著者の主張を正確に読み取る (5)	テキスト 153-154 ページの読解と質疑応答
第 8 回	著者の主張を正確に読み取る (6)	テキスト 154-156 ページの読解と質疑応答
第 9 回	著者の主張を正確に読み取る (7)	テキスト 156-158 ページの読解と質疑応答
第 10 回	著者の主張を正確に読み取る (8)	テキスト 158-159 ページの読解と質疑応答
第 11 回	著者の主張を正確に読み取る (9)	テキスト 159-160 ページの読解と質疑応答
第 12 回	著者の主張を正確に読み取る (10)	テキスト 160-161 ページの読解と質疑応答
第 13 回	著者の主張を正確に読み取り、批判的に検証する	テキスト 162 ページの読解と質疑応答。論文全体を振り返っての質疑応答と討議
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、予告された範囲の英文の構造把握と和訳について、各自が十分に予習したうえで授業に臨むこと。合わせて、論文中に出てくる固有名詞等、自分が知らない事項について世界史辞典や百科事典等で調べてくること。授業後には、予習時の不明箇所や自分が誤読した箇所を中心に、授業での解説を踏まえて復習し、疑問点が残れば必ず次回授業時に質問して解決すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Richard Hingley, An imperial legacy: the contribution of classical Rome to the character of the English, in: Richard Hingley ed., *Images of Rome: Perceptions of ancient Rome in Europe and the United States in the modern age*, portsmouth, 2001.

【参考書】
南川高志『海のかなたのローマ帝国―古代ローマとブリテン島』、岩波書店、2003 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（英文読解の予習度・精度、出席状況）20 %、期末試験 80 %で評価します。期末試験は、授業で精読・解説した内容から４題、初めて読む内容の英文１題を出し、和訳してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
和訳を配って欲しいという要望がありましたが、個々人の英語読解力アップの役に立つとは思えませんので、それはしません。その代わり、毎回授業開始時に配布する英文構造の解説プリントは、役に立つと言ってくれる受講生がいますので 2020 年度も続けます。この授業で毎回英文を精読したおかげでゼミの英語論文がすらすら読めた、という趣旨のコメントは嬉しかったです。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students improve themselves in reading comprehension of academic works written in English.

HIS300BE

西洋史外書講読Ⅱ

古川　高子

授業コード：A3148　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の基礎文献を講読し、内容を解説しながら歴史学の基礎概念についての解説も行う。

【到達目標】
基本的な英語文献を丁寧に精読し、歴史学の基礎概念を身につけ、歴史学の研究に必要な英文史資料や英語研究文献の読解力を養成する。英文を理解して、訳せるようにすることが最大の目標である。その際、英文の註表記なども使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1.　Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)（タラ・ザーラ『誘拐された魂　ボヘミア地方における国民的冷淡さと子どもをめぐる闘争　1900 年-1948 年』）の「はじめに」「導入」および第 1 章「チェコ人の子どものためにチェコ語の学校を！」を精読する。本著作はオーストリア＝ハンガリー二重君主国内ボヘミア（＝チェコ）地方において、将来の国民の源泉として地域に住む子どもをいかにしてチェコ人あるいはドイツ人にするかをめぐって行われたチェコ人ナショナリストとドイツ人ナショナリストの相克についての研究書である。多言語地域における住民の生活や教育を学ぶことを通じて国民形成がいかになされるのかを教えてくれるこの本は、近現代史を学ぼうとする学生には好適書だと考えられる。
2.　**注意　オンライン授業への移行に伴う変更あり。但し、教室授業に戻った場合、再び授業方法は変更される。**
・テキスト他は学習支援システムを通して配布する。
・毎回の課題と解説は授業曜日の前週金曜日までに学習支援システムを通して配布する。受講者はそれを読んで、授業がある週の火曜日午後 9 時までに課題を学習支援システムを通して送付すること。この期限を過ぎると、その週の課題は提出できなり、欠席と同じ扱いになるので注意すること。尚、必要に応じてビデオ解説等を行う。
・課題の回答および評は次の週の課題/解説と一緒に送付する。
・受講者は必ず、回答と評を読んで復習して、次回の課題に備えること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	**オンライン授業のため変更** ガイダンス・課題（1）	**オンライン授業のため変更** 英語文献の読み方・調べ方、歴史学についての概論、テキスト・著者の紹介などを書いたガイダンス用レジュメおよび課題（1）Preface と解説を読み、課題を解いて提出
第 2 回	課題（2）	課題（1）の回答と評をよく読んだ後、課題（2）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 3 回	課題（3）	課題（2）の回答と評をよく読んだ後、課題（3）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 4 回	課題（4）	課題（3）の回答と評をよく読んだ後、課題（4）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 5 回	課題（5）	課題（4）の回答と評をよく読んだ後、課題（5）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 6 回	課題（6）	課題（5）の回答と評をよく読んだ後、課題（6）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 7 回	課題（7）	課題（6）の回答と評をよく読んだ後、課題（7）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 8 回	課題（8）	課題（7）の回答と評をよく読んだ後、課題（8）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 9 回	課題（9）	課題（8）の回答と評をよく読んだ後、課題（9）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 10 回	課題（10）	課題（9）の回答と評をよく読んだ後、課題（10）序章の解説を読み、課題を解いて提出

第 11 回	課題（11）	課題（10）の回答と評をよく読んだ後、課題（11）Introduction の解説を読み、課題を解いて提出
第 12 回	まとめの課題（テスト）	課題（11）の回答と評をよく読んだ後、まとめの課題（テスト）を解いて提出
第 13 回	学年歴変更措置によりなし	左記に同じ
第 14 回	学年歴変更措置によりなし	左記に同じ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オンライン授業のため変更
オンライン授業となったため、参加者自身で解説を理解しながら、テキストを読み、課題を解くことになる。教室授業での予習、授業、復習を解説や解答を頼りに自力で行わなくてはならないので、学習時間は長くなることを了承しておくこと。

【テキスト（教科書）】
Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)

【参考書】
オンライン授業のため変更
タラ・ザーラ執筆の別の本が翻訳されたので、参照すること。
タラ・ザーラ著、三時眞貴子/北村陽子監訳/岩下誠/江口布由子訳『失われた子どもたち　第二次世界大戦後のヨーロッパの家族再建』（みすず書房、2019）。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業のため変更
毎回の課題提出（授業への出席とみなす）とその内容（80%）、および最後のまとめ課題の提出（授業への出席とみなす）とその内容（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
オンライン授業のため変更
重要：学習支援システムを通じて授業が行われるので、必ず学習支援システムに仮登録してください。それをしないと授業に参加できません。
・オンライン授業となったため、自学自習する必要がある。
・課題は必ず設定された期限内に出さないと受け付けない。よって、まとめて課題を出すことはできないので、よく注意すること。
・一回分の課題提出を忘れると、一回分の欠席とみなす。
・Introduction 序章は一続きの話を読むので、一回でも間を置いてしまうと話がわからなくなり、次の課題もわからなくなるという「悪のシークエンス」になるので、必ず毎回課題を解いて提出すること。

【Outline and objectives】
Reading an English basic book and lecturing basic concepts of history

HIS300BE

日本考古学演習

小倉　淳一

授業コード：A3128　｜　曜日・時限：**月曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】
2 年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。
3 年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、リポートの研究発表も実施する。
毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。
［2020.4.17 追記］春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第 2 回	論文講読発表（1）	文献解題と討論（1）
第 3 回	論文講読発表（2）	文献解題と討論（2）
第 4 回	論文講読発表（3）	文献解題と討論（3）
第 5 回	論文講読発表（4）	文献解題と討論（4）
第 6 回	論文講読発表（5）	文献解題と討論（5）
第 7 回	研究発表（1）	卒業論文に関連する研究発表（1）
第 8 回	研究発表（2）	卒業論文に関連する研究発表（2）
第 9 回	研究発表（3）	卒業論文に関連する研究発表（3）
第 10 回	論文講読発表（6）	文献解題と討論（6）
第 11 回	論文講読発表（7）	文献解題と討論（7）
第 12 回	論文講読発表（8）	文献解題と討論（8）
第 13 回	論文講読発表（9）	文献解題と討論（9）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
第 16 回	論文講読発表（10）	文献解題と討論（10）
第 17 回	論文講読発表（11）	文献解題と討論（11）
第 18 回	論文講読発表（12）	文献解題と討論（12）
第 19 回	論文講読発表（13）	文献解題と討論（13）
第 20 回	論文講読発表（14）	文献解題と討論（14）
第 21 回	研究発表（4）	卒業論文に関連する研究発表（4）
第 22 回	研究発表（5）	卒業論文に関連する研究発表（5）
第 23 回	研究発表（6）	卒業論文に関連する研究発表（6）
第 24 回	論文講読発表（15）	文献解題と討論（15）
第 25 回	論文講読発表（16）	文献解題と討論（16）
第 26 回	論文講読発表（17）	文献解題と討論（17）
第 27 回	論文講読発表（18）	文献解題と討論（18）
第 28 回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）、コリン・レンフルー，ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学　理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。
［2020.4.17 追記］オンライン授業の期間においては、小レポート等で参加態度や発言・発表内容を評価する。その際 Web 会議システム等の活用もあり得る。授業への出席ならびに各学期の期末レポートは必須である。

【学生の意見等からの気づき】
すべてのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】
※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

HIS300BE

日本古代史演習

春名　宏昭

授業コード：A3129　｜　曜日・時限：**木曜２限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
律令国家のスタートによって国家体制が安定し社会が急速な発展を遂げた奈良時代について、国家が編纂した歴史書である『続日本紀』のそれぞれの記事を出発点として、関連する文献史料を収集・分析し、国家のあり方、社会のあり方を具体的に描きだせるようになることを目標とします。

【到達目標】
『続日本紀』をはじめとする史料のそれぞれの性格をよく理解し、それらから可能な限り多くの正確な情報を抽出して、国家・社会の実態を把握できるようになることを目指します。論を立てるのは様々な史料を性格に理解できてこそですから、卒論を書くために大前提となる基礎学力の獲得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
『続日本紀』を天平三年から条文ごとに担当者を決めて読んでいきます。担当者はその条文を理解する上で必要な関連史料などを収集してレジュメを作成し、それをもとに参加者全員で議論を行ないます。レポートや卒論では、自分の興味あるテーマを選べばよいのですが、この演習では機械的に担当者を決めますから、そのような案件に対してどのようにアプローチしていくか学んでもらいます。まったく関連がないと思えても、卒論のテーマを考える際、前提となる歴史の全体像を理解するのに役立つはずです。
この授業の開始日は、4 月 23 日（木）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『続日本紀』について概説します。
第 2 回	天平三年正月庚戌朔条を読む	中宮・祥瑞
第 3 回	天平三年正月乙亥条・二月庚辰朔条を読む	竈神・日蝕
第 4 回	天平三年三月乙卯条を読む	算生・諏方国
第 5 回	天平三年六月庚寅条・七月辛未朔条を読む	海水変・大伴旅人
第 6 回	天平三年七月乙亥条・八月辛巳条を読む	雅楽寮・勅
第 7 回	天平三年八月癸未条・丁亥条を読む	行基・参議
第 8 回	天平三年八月辛丑条・九月戊申条を読む	詔・宅門
第 9 回	天平三年九月癸酉条・十一月丁未条を読む	大宰府・武官考選
第 10 回	天平三年十一月庚戌条・辛酉条を読む	冬至・京中巡行
第 11 回	天平三年十一月丁卯条・癸酉条を読む	惣管・鎮撫使
第 12 回	天平三年十二月乙酉条・庚寅条を読む	大宰府・武散位
第 13 回	天平三年十二月乙未条・四年正月乙巳朔条を読む	詔・元日朝賀
第 14 回	天平四年正月甲子条・丙寅条を読む	遣新羅使・新羅使

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	天平四年二月戊子条・乙未条を読む	藤原不比等・阿倍広庭
第 16 回	天平四年三月戊申条・乙丑条を読む	新羅使・日下部老
第 17 回	天平四年三月己巳条・五月壬寅朔条を読む	造難波宮・物部依羅人会
第 18 回	天平四年五月壬子条・庚申条・壬戌条を読む	新羅使・年期制
第 19 回	天平四年五月甲子条・乙丑条を読む	祈雨・対馬年粮
第 20 回	天平四年七月丙午条・丁未条を読む	詔・放生
第 21 回	天平四年七月丙辰条・八月丁亥条を読む	地震・遣唐使

第 22 回	天平四年八月壬辰条・九月甲辰条を読む	節度使・遣唐使船
第 23 回	天平四年九月丁卯条・十月癸酉条を読む	駅鈴・造客館司
第 24 回	天平四年十月辛巳条・十一月丙寅条を読む	節度使印・冬至
第 25 回	天平四年十二月丙戌条・五年正月戊申条を読む	狭山下池・星動
第 26 回	天平五年正月庚戌条・丙寅条を読む	橘三千代・芳野監
第 27 回	天平四年二月乙亥条・閏三月戊子条を読む	遷替国司・諸王
第 28 回	まとめ	1 年間の報告内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各記事の意味を深く知るには、奈良時代もしくは天平年間の〈時代性〉を大まかにでも理解しておく必要があります。一般啓蒙書として、中央公論社 (文庫)・小学館 (文庫)・集英社・講談社 (文庫) から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻がありますから、どれでもよいから読んでみましょう。また、担当者の掲げた史料はむつかしいものが多いでしょうから、見ただけですぐ読める、理解できるものではないでしょう。従って、各自で予習しておく必要があります。この演習での準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。報告を担当する回はそれ以上かもしれません。

【テキスト（教科書）】
岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』二。

【参考書】
吉川弘文館・新訂増補国史大系『続日本紀』、平凡社・東洋文庫『続日本紀』、現代思潮社『完訳注釈続日本紀』。岩波書店・日本思想大系『律令』（新装版あり）。

【成績評価の方法と基準】
担当した報告の内容が最優先です。条文の理解が十分か。着目点の正確さ、独自性なども加味します。また、条文理解に資する関連史料が過不足なく取り上げられているか。この点は他のゼミ参加者にとっても重要です。さらに、議論に際して積極的に発言しているかを見ます。

【学生の意見等からの気づき】
かつてゼミを担当した時に感じたことですが、関連史料を丹念に調べても、調べただけで満足してしまってそれで終わりということが目に付きました。これだけ詳しく調べたのなら、疑問点なり着目した事実などを取り上げ、そこから話を自分なりに拡げることをなぜしないのか、非常にもったいなく思いました。
また、報告を聞いていると、すでにある正解を求めているような感が強くしました。ゼミ報告ではそれでもよいのですが、卒論でもその傾向があります。卒論は、まだ正解が得られていない問題を明らかにするもので、正解は自分の力で探さなければなりません。従って、ゼミ報告の際にもそのことを十分意識して様々な史料に向き合ってみて下さい。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉日本古代政治史
〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制
〈主要研究業績〉
『律令国家官制の研究』(吉川弘文館)
『平城天皇』(吉川弘文館)
『皇位継承　歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）
『〈謀反〉の古代史　平安朝の政治改革』(吉川弘文館)

【Outline and objectives】
After the establishument of the rituryo system, Japan realized a stability of the national order and a rapid social growth. On Nara period, through each article of “Shokunihongi",we can describe concretely how the nation or the society should be,by collecting and analyzing sonme related historical materials. We aim at acquiring this ability.

HIS300BE

日本中世史演習

大塚　紀弘

授業コード：A3130　｜　曜日・時限：**木曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世の漢文史料を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
中世の漢文史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解・整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史跡や博物館を見学する機会を設ける。
※授業開始日は４月２３日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第 2 回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と調べ方の解説
第 3 回	『吾妻鏡』講読（1）	読解・考察の報告と議論
第 4 回	『吾妻鏡』講読（2）	読解・考察の報告と議論
第 5 回	『吾妻鏡』講読（3）	読解・考察の報告と議論
第 6 回	『吾妻鏡』講読（4）	読解・考察の報告と議論
第 7 回	『吾妻鏡』講読（5）	読解・考察の報告と議論
第 8 回	『吾妻鏡』講読（6）	読解・考察の報告と議論
第 9 回	『吾妻鏡』講読（7）	読解・考察の報告と議論
第 10 回	『吾妻鏡』講読（8）	読解・考察の報告と議論
第 11 回	『吾妻鏡』講読（9）	読解・考察の報告と議論
第 12 回	『吾妻鏡』講読（１０）	読解・考察の報告と議論
第 13 回	『吾妻鏡』講読（１１）	読解・考察の報告と議論
第 14 回	鎌倉幕府と都市鎌倉	講読・議論内容の総括

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	自由発表（1）	研究または論文批評の報告と議論
第 16 回	自由発表（2）	研究または論文批評の報告と議論
第 17 回	自由発表（3）	研究または論文批評の報告と議論
第 18 回	自由発表（4）	研究または論文批評の報告と議論
第 19 回	自由発表（5）	研究または論文批評の報告と議論
第 20 回	自由発表（6）	研究または論文批評の報告と議論
第 21 回	自由発表（7）	研究または論文批評の報告と議論
第 22 回	自由発表（8）	研究または論文批評の報告と議論
第 23 回	自由発表（9）	研究または論文批評の報告と議論
第 24 回	自由発表（１０）	研究または論文批評の報告と議論
第 25 回	自由発表（１１）	研究または論文批評の報告と議論
第 26 回	自由発表（１２）	研究または論文批評の報告と議論
第 27 回	自由発表（１３）	研究または論文批評の報告と議論
第 28 回	日本中世史研究の課題	報告・議論内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。発表後、レジュメを修正して全員に配布する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表１週間前までに論文をコピーおよびスキャンし、全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。春学期末、秋学期末の２度、所定の課題についてのレポートを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『吾妻鏡』講読では、講読する部分のコピーを配布する。自由発表では、担当者が論文のコピーを配布する。

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点５６％（宿題提出２８％、発言２８％）、発表点２２％（春学期１１％、秋学期１１％）、学期末レポート点２２％（春学期１１％、秋学期１１％）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ５回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく１度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】
議論が活発になるように努める。

【Outline and objectives】
Read the medieval Chinese texts and train the ability to understand the contents deeply.

HIS300BE

日本近世史演習

松本　剣志郎

授業コード：A3131　｜　曜日・時限：**火曜２限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることをまずは目的とする。ついで先行する研究論文の批判的な読解力を身につけることを目指す。そのうえで、学生がそれぞれに深めていく研究テーマを、論理的かつ適切な表現を用いて発表する能力を獲得することを最終的な到達目標とする。歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。それのみならず歴史学は積み重ねの学問であるから、先行研究の正確な理解のうえで、これに対する自らの立場を明らかにすることが必要である。こうして本授業は、適切に課題を把握し、これを実証的に解決していく能力の養成を図っていくものとなる。なお、夏休みには地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を、春休みには受講生全員の卒論報告会を実施する合宿を予定している。

【到達目標】
①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
④史料の解釈について討議できる。
⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
⑥研究論文を批判的に読むことができる。
⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の報告および討議が中心である。春学期は、まず『江戸町触集成』の史料についてグループ毎に発表する。つぎに概ね 2000 年以降の学術雑誌掲載の近世史の論文をグループ毎に講読する。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。
【追記】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに当面の具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの説明
第 2 回	近世史研究入門	研究テーマの見つけ方
第 3 回	図書館の使い方	図書館ガイダンス
第 4 回	史料講読（1）	江戸町触集成１号
第 5 回	史料講読（2）	江戸町触集成２号
第 6 回	史料講読（3）	江戸町触集成３号
第 7 回	史料講読（4）	江戸町触集成４号、ほか
第 8 回	論文講読（1）	政治史研究
第 9 回	論文講読（2）	社会史研究
第 10 回	論文講読（3）	文化史研究
第 11 回	論文講読（4）	村落史研究、ほか
第 12 回	個人発表（1）	４年生の卒論発表
第 13 回	個人発表（2）	３年生の卒論構想発表

第 14 回　個人発表（３）　　２年生の夏休みレポートテーマ発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	３年生研究発表（１）	研究テーマの適切性
第 16 回	３年生研究発表（２）	先行研究の取扱い
第 17 回	３年生研究発表（３）	史料批判の方法
第 18 回	３年生研究発表（４）	史料引用の仕方
第 19 回	３年生研究発表（５）	論理展開の方法
第 20 回	３年生研究発表（６）	研究テーマの位置づけ
第 21 回	３年生研究発表（７）	研究テーマのひろがり
第 22 回	２年生研究発表（１）	研究テーマの適切性
第 23 回	２年生研究発表（２）	先行研究の取扱い
第 24 回	２年生研究発表（３）	史料批判の方法
第 25 回	２年生研究発表（４）	史料引用の仕方
第 26 回	２年生研究発表（５）	論理展開の方法
第 27 回	２年生研究発表（６）	研究テーマの位置づけ
第 28 回	２年生研究発表（７）	研究テーマのひろがり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『江戸町触集成』（塙書房）。ただし、該当部分をコピーして配布する。

【参考書】
『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】
１報告（４０％）。担当者は、レジュメを作成し、出席者に配布する。２レポート (４０％)。３質疑応答（２０％）。グループ割りをするので、第１回および第２回の授業への欠席は原則認められない。
【追記】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the early modern history of Japan.It also enhances the development of student's skill in making oral presentation.

HIS300BE

日本近代史演習

長井　純市

授業コード：A3203　｜　曜日・時限：**月曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：一次史料に基づく日本近代史像を受講生自ら表現する。それを通して、日本近代史理解を深め、知識を増やし、定着させる。また、日本近代史に関わる論文批評を行い、日本近代史研究の現状を学ぶ。
目的：上記 2 つの発表学習を通して、日本近代史全般に関する理解を深めると共に、論文作成のスキルを養い、高める。さらに、現在、将来の日本そのものを考える手がかりを得る。

【到達目標】
到達目標：１）日本近代史に関する草書体史料の読解力を養い、高めること。２）史料や論文に基づく自らの研究視点の設定、関連文献の調査・収集・分析のスキル、発表資料への取りまとめ方などを学び、高めること。３）発表（プレゼンテーション）とそれに基づく質疑応答・ディスカッションのスキルを養い、高める。４）論文作成のスキルを養い、高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
進め方：グループ発表形式の演習である。
方法：『棚橋小虎日記』のコピーと月刊雑誌『日本歴史』2019 年度掲載論文（日本近現代史関係）とをテキストとして、原則として、春秋の各学期１回発表を行う。授業前半は発表、後半は担当教員の講評と受講生同士の質疑応答となる。発表後にはリポートを提出すること。
下の「その他の重要事項」を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明とグループ分け、発表日程の決定。
第 2 回	ガイダンス（1）	発表資料の作成方法に関するガイダンス。
第 3 回	ガイダンス（2）	『棚橋小虎日記』の読解トレーニング。
第 4 回	発表（1）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（1）
第 5 回	発表（2）	『棚橋小虎日記』解説（1）
第 6 回	発表（3）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（2）
第 7 回	発表（4）	『棚橋小虎日記』解説（2）
第 8 回	発表（5）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（3）
第 9 回	発表（6）	『棚橋小虎日記』解説（3）
第 10 回	発表（7）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（4）
第 11 回	発表（8）	『棚橋小虎日記』解説（4）
第 12 回	発表（9）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（5）
第 13 回	発表（10）	『棚橋小虎日記』解説（5）
第 14 回	発表（11）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（6）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	発表（12）	『棚橋小虎日記』解説（６）
第 16 回	発表（13）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（７）
第 17 回	発表（14）	『棚橋小虎日記』解説（７）
第 18 回	発表（15）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（８）
第 19 回	発表（16）	『棚橋小虎日記』解説（８）
第 20 回	発表（17）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（９）
第 21 回	発表（18）	『棚橋小虎日記』解説（９）
第 22 回	発表（19）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（10）
第 23 回	発表（20）	『棚橋小虎日記』解説（10）
第 24 回	発表（21）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（11）
第 25 回	発表（22）	『棚橋小虎日記』解説（11）
第 26 回	発表（23）	『日本歴史』2019 年度掲載論文の論評（12）
第 27 回	発表（24）	『棚橋小虎日記』解説（12）
第 28 回	まとめ	授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：発表班は、グループ内の役割分担や配布資料のとりまとめと配布用印刷を行うこと。受講生はテキストを読んでおき、質問事項を考えておくこと。

復習：発表後のリポート課題に取り組み、リポートを提出すること。

本授業の準備・復習時間は、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

刊本としてのテキストは使用しない。『棚橋小虎日記』についてはプリントで配布し、『日本歴史』掲載論文については各自事前に複写して、授業時に持参すること。

【参考書】

『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全 6 巻

アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館のウェブサイトに掲載された関連解説コラム。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。なお、欠席した受講生には欠席分の学習を促すリポート課題が出される。そのリポートが適切に提出されない場合には、あるいは特別の事情がなく授業への参加度が不良と判断された場合には、不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

草書体史料の読解に困難を感じたり、発表項目の設定に手間取ったりする学生もいることから、発表準備において相談の時間を設けている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板に、毎回発表の要点と講評を記すので、それを利用することができるＩＴ機器。

【その他の重要事項】

やむを得ない事情により欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。

新型コロナウィルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学 Web 学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。

春学期の授業初日は、4 月 27 日である。

【Outline and objectives】

This class has three main points. The first point is to study cursive style of Chinese characters through reading copies of the diary written by Kotora Tanahashi, one of the notable activists of the labor movements in the prewar period. The second one is to get an academic writing skill through reading articles on the Japanese modern history of the Nihon Rekishi, a monthly periodical, issued in 2019. The third is to have a presentation on the above diary and articles by group of two or three and get an academic skill for a presentation. Through this class every student can get a good skill for his/her graduation thesis.

HIS300BE

日本現代史演習

差波　亜紀子

授業コード：A3134　｜　曜日・時限：**水曜３限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、テキストを題材に参加者が報告を行なうことを通じて、日本近現代史研究に取り組むための方法を学ぶ。

【到達目標】
①近現代史に関する知識や関心を養う。
②参考文献・論文や資料を探す方法を身につける。
③論文とはどんなものか、論文の書き方を学ぶ。
④資料の読み方、加工の方法を学ぶ。
⑤調査・検討結果をわかりやすく人に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 22 日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ		内容
第 1 回	授業説明		授業方法の説明
第 2 回	テキスト A	第 1 章	報告と質疑
第 3 回	テキスト A	第 2 章	報告と質疑
第 4 回	テキスト A	第 3 章	報告と質疑
第 5 回	テキスト A	第 4 章	報告と質疑
第 6 回	テキスト A	第 5 章	報告と質疑
第 7 回	テキスト A	第 6 章	報告と質疑
第 8 回	テキスト A	第 7 章	報告と質疑
第 9 回	テキスト A	第 8 章	報告と質疑
第 10 回	テキスト A	第 9 章	報告と質疑
第 11 回	テキスト A	第 10 章	報告と質疑
第 12 回	自由報告①		報告と質疑
第 13 回	自由報告②		報告と質疑
第 14 回	自由報告③		報告と質疑

秋学期

回	テーマ		内容
第 15 回	テキスト B	第 1 章、第 13 章	報告と質疑
第 16 回	テキスト B	第 2 章	報告と質疑
第 17 回	テキスト B	第 3 章	報告と質疑
第 18 回	テキスト B	第 4 章	報告と質疑
第 19 回	テキスト B	第 5 章	報告と質疑
第 20 回	テキスト B	第 6 章	報告と質疑
第 21 回	テキスト B	第 7 章	報告と質疑
第 22 回	テキスト B	第 8 章	報告と質疑
第 23 回	テキスト B	第 9 章	報告と質疑
第 24 回	テキスト B	第 10 章	報告と質疑
第 25 回	テキスト B	第 11 章	報告と質疑
第 26 回	テキスト B	第 12 章	報告と質疑
第 27 回	自由報告①		報告と質疑
第 28 回	自由報告②		報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前には、各自テキストを熟読し、疑問点等をまとめておく。
授業後は報告を踏まえて見解をまとめ、学習支援システムを通じてリアクションペーパーを作成・提出する。
本授業の予習・復習時間には、あわせて 4 時間を要する。

【テキスト（教科書）】
テキスト A　ジャネット・ハンター著、阿部武司・谷本雅之監訳『日本の工業化と女性労働：戦前期の繊維産業』有斐閣、2008 年
テキスト B　ペネロピ・フランクス、ジャネット・ハンター編『歴史のなかの消費者：日本における消費と暮らし　1850-2000』法政大学出版局、2016 年

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者同士の質疑をより活発にしていきたいと考える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配付や課題提出等のために学習支援システムを利用する。そのためパソコンやタブレット、スマートフォン等、インターネットが使用できる情報機器と、必要によりプリンターを用意すること。
また授業の一部において、双方向型 WEB 会議システムを利用する。そのためカメラやマイク、イヤホンなども用意することが望ましい（PC 等に内蔵の場合は別途用意する必要はない）。

【その他の重要事項】
授業方法等の変更指示や質問の受付等は、少なくとも春学期の前半については、学習支援システムを通じて行なう。
そのため授業開始日までに、学習支援システムで授業の仮登録をしておくこと。その後は通知の見落としがないよう留意すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge to read and write thesis about modern and current history of Japan.

HIS300BE

東洋史物質資料演習

塩沢　裕仁

授業コード：A3210　｜　曜日・時限：**火曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジア物質資料への理解

【到達目標】
中国考古・美術・建築に関するテキストの講読を通じて物質資料の性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）をテキストとして用い、その講読と内容発表を行います。各自が興味をもつテーマをテキストの中より選び、そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、報告資料を作成の上、発表を行ってもらいます。物を見る力を養い、関連する資料を如何に見出し資料の性格を理論的に組み立てていくかという問題を互いに議論していく必要があります。
前半では、まずテキストを読み解き、特別な用語に慣れることに主眼をおきます。テキストは現代中国語ですので、読解に慣れた上級生と不慣れな下級生との組み合わせで担当するテーマについて、内容の要約と説明を行ってもらいます。後半では各自の研究計画テーマに沿ってテキストよりテーマを選択し発表してもらいますが、互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していくことを期待します。
本年度は、4 月 21 日より、授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 1	年間計画・テキストの説明と配布
第 2 回	導入 2	基本書籍・工具書の紹介
第 3 回	図書館ガイダンス	物質文化関連書籍の閲覧と図書館利用法
第 4 回	テキストの講読 1	『漢代物質文化資料図説』講読第 1 回
第 5 回	テキストの講読 2	『漢代物質文化資料図説』講読第 2 回
第 6 回	テキストの講読 3	『漢代物質文化資料図説』講読第 3 回
第 7 回	テキストの講読 4	『漢代物質文化資料図説』講読第 4 回
第 8 回	テキストの講読 5	『漢代物質文化資料図説』講読第 5 回
第 9 回	テキストの講読と発表 1	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 1 回
第 10 回	テキストの講読と発表 2	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 2 回
第 11 回	テキストの講読と発表 3	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 3 回
第 12 回	博物館見学	東京国立博物館見学
第 13 回	研究発表 1	4 年生対象 1
第 14 回	研究発表 2	4 年生対象 2

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの講読と発表 4	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 1 回
第 16 回	テキストの講読と発表 5	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 2 回
第 17 回	専門図書館の見学	東洋文庫
第 18 回	テキストの講読と発表 6	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 3 回
第 19 回	テキストの講読と発表 7	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 4 回
第 20 回	テキストの講読と発表 8	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 5 回
第 21 回	テキストの講読と発表 9	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 6 回
第 22 回	テキストの講読と発表 10	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 7 回
第 23 回	テキストの講読と発表 11	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 8 回
第 24 回	テキストの講読と発表 12	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 9 回
第 25 回	研究計画発表 1	3 年生対象 1
第 26 回	研究計画発表 2	3 年生対象 2
第 27 回	研究計画発表 3	2 年生対象 1
第 28 回	研究計画発表 4	2 年生対象 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で見学する博物館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会などに積極的に出掛け、物を見る目を培ってもらいたいと思います。
研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにしてください。
なお、提携先の世界文化遺産龍門石窟での課外学習を予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いますが、プリントして授業にて配布します。

【参考書】
授業の進行に合わせ適宜紹介していきますが、研究室所蔵の資料を積極的に活用してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
興味の対象は多岐にわたると思いますが、学習を進める中で自分のテーマが明確に見えてくると思います。

【Outline and objectives】
On reading various Historical records and doing research about the Oriental Archaeology, Art and Architecture, we will aim to gain the method for doing research on the Oriental Material Culture.

HIS300BE

東洋史文献史料演習

齋藤　勝

授業コード：A3211　｜　曜日・時限：**火曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東洋史研究のための基礎の習得と実践
自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

【到達目標】
東洋史の研究に必要となる文献史料（漢文）と先行研究（日本語・中国語・英語）の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていきたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていきたい。
昨今の情勢のため、授業はメールを用いて行っていきます。メールはこまめに確認するようにしてください。授業開始日は 4 月 21 日になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の概要	進め方、テキストについて
第 2 回	先行研究及び史料	論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方
第 3 回	史料講読	先秦儒家文献（1）『孟子』
第 4 回	史料講読	先秦儒家文献（2）『荀子』
第 5 回	史料講読	先秦諸子文献（1）『墨子』
第 6 回	史料講読	先秦諸子文献（2）『韓非子』
第 7 回	史料講読	正史（1）『史記』
第 8 回	史料講読	正史（2）『史記会注考証』
第 9 回	史料講読	正史（3）『漢書』
第 10 回	史料講読	正史（4）『漢書補注』
第 11 回	史料講読	正史（5）『三国志』
第 12 回	史料講読	正史（6）『三国志集解』
第 13 回	史料講読	編年史書『資治通鑑』
第 14 回	先行研究の整理	中国史

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	先行研究の整理	中国史以外
第 16 回	文献学の基礎	書誌学について
第 17 回	文献学の基礎	漢籍の成立と伝世について
第 18 回	史料講読と考証	考証学・顧炎武・『日知録』について
第 19 回	史料講読と考証	『日知録』の講読・考証
第 20 回	史料講読と考証	『塩鉄論』について
第 21 回	史料講読と考証	『塩鉄論校注』の講読・考証
第 22 回	史料講読と考証	『白居易集』について
第 23 回	史料講読と考証	『白居易集』諸本の比較
第 24 回	中文研究書の講読	陳寅恪の研究
第 25 回	中文研究書の講読	陳垣の研究
第 26 回	英文研究書の講読	近現代中国もしくは諸地域について
第 27 回	卒論準備	卒論の書き方について
第 28 回	卒論準備	卒論の準備状況の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

【参考書】
授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート類 50 %
講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。
レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Learning basic skills to study ancient Chinese history

HIS300BE

西洋前近代史演習

後藤　篤子

授業コード：A3150　｜　曜日・時限：**月曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、西洋前近代史に関する研究を自立的に進めるためのさまざまな基礎力を習得します。

【到達目標】
英語・日本語の学術文献の読解能力を身につける。
各自の関心に沿った文献収集・調査能力を身につける。
レジュメ作成能力と口頭発表能力を身につける。
他者の報告を聞いて疑問点や問題点を発見する能力を身につける。
討議に積極的に参加する態度を身につける。
以上を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は古代ローマ史に関する英語論文の精読を通じて、英語学術文献の読解力を向上させると共に、未知の事項の調べ方や学術論文の技術的側面を学びます。
【追記】春学期は当面、学習支援システムの諸機能を使ったオンライン授業となります。授業開始日は４月 27 日ですので、学習支援システムを必ず確認してください。
秋学期は受講生による研究発表と質疑応答・討論の形で授業を進めます。２年生は自分が選んだ西洋前近代史に関わる学術論文に基づき、レジュメを用意した上で自由研究発表を行います。３年生は２年生の発表の司会とコメンテーターを担当するほか、９月上旬に実施予定のゼミ合宿時と２月初旬に、卒論の中間発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキスト配布と予習方法の説明。研究発表に向けた準備の説明
第 2 回	英語論文講読 (1)	テキスト 564-565 ページの精読と質疑応答
第 3 回	英語論文講読 (2)	テキスト 565-566 ページの精読と質疑応答。著者の問題提起の確認
第 4 回	英語論文講読 (3)	テキスト 566-567 頁の精読と質疑応答
第 5 回	英語論文講読 (4)	テキスト 567-568 頁の精読と質疑応答
第 6 回	英語論文講読 (5)	テキスト 568-570 頁の精読と質疑応答。対外的な「権力」行使に関する著者の立論の確認
第 7 回	英語論文講読 (6)	テキスト 570-571 頁の精読と質疑応答
第 8 回	必要な学術文献の探し方	図書館の専門ゼミ用ガイダンスを利用して、自分の勉学に必要な学術文献の探し方を習得する
第 9 回	英語論文講読 (7)	テキスト 571-572 頁の精読と質疑応答
第 10 回	英語論文講読 (8)	テキスト 572-573 頁の精読と質疑応答。ローマ社会内部における「権力」を分析する著者の主張の確認
第 11 回	英語論文講読 (9)	テキスト 574-575 頁の精読と質疑応答
第 12 回	英語論文講読 (10)	テキスト 575-577 頁の精読と質疑応答。帝政期における「権力」をめぐる著者の主張の確認
第 13 回	質疑応答と討議	英語論文の内容や参考文献を踏まえた、「権力」をめぐるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	質疑応答とゼミ合宿に向けた準備の説明

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期の概要説明	自由研究発表予定および司会・コメンテーターの確認
第 16 回	自分のキャリア形成を考える	さまざまな仕事や自分の適性を知るためのワークショップ
第 17 回	自由研究発表 (1)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (1)
第 18 回	自由研究発表 (2)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (2)
第 19 回	自由研究発表 (3)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (3)
第 20 回	自由研究発表 (4)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (4)
第 21 回	自由研究発表 (5)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (5)
第 22 回	自由研究発表 (6)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (6)
第 23 回	自由研究発表 (7)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (7)
第 24 回	自由研究発表 (8)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (8)
第 25 回	自由研究発表 (9)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (9)
第 26 回	自由研究発表 (10)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (10)
第 27 回	自由研究を深化させる (1)	２年生の「宿題」報告をめぐる討議 (1)
第 28 回	自由研究を深化させる (2)	２年生の「宿題」報告をめぐる討議 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英文講読については、単なる逐語訳にとどまらぬ十分な英文読解の予習、および予習時の不明箇所や自分が誤読した箇所を中心に、授業時の解説を踏まえた復習が、毎回必要。自由研究発表については、２年生は春学期のうちから秋学期の発表に向けた文献収集・読解を進め、レジュメを発表日の１週間前までに作成・提出する。他の受講生は各自、事前に授業支援システムから発表レジュメをダウンロードし、事前配布の参考論文と合わせて予習したうえで、質疑応答や討議に臨むことが必要。報告者は発表後、質疑応答で十分に答えられなかった問題についてさらに調査し、「宿題」報告レジュメを指定された期日までに作成・提出する。３年生は加えて春学期・夏期休暇中に、ゼミ合宿での卒論中間発表に向けた準備を進める。さらに、合宿で指摘されたことを踏まえて自主的に勉学を進め、２度目の卒論中間発表に備える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
William V. Harris, "Power", Chapter 35 of *The Oxford Handbook of Roman Studies*, ed. by A. Barchiesi and W. Scheidel, Oxford, 2010.

【参考書】
クリストファー・ケリー『１冊でわかる　ローマ帝国』、藤井隆訳・南川高志解説、岩波書店、2010 年。
今村仁司・栗原仁『フーコー』（人と思想 158）、清水書院、新装版 2016 年。
中山元『フーコー入門』、ちくま新書、1996 年。
関良徳『フーコーの権力論と自由論―その政治哲学的構成』、勁草書房、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（英文読解の予習度・精度および発表の準備度・内容 70 %、質疑応答・討議への貢献や出席状況から判断する授業への積極的参加度 30 %）で評価します。
【追記】春学期は当面オンラインでの開講となりますが、「平常点」の内容に「学習支援システムでの課題提出や授業参加」を加える以外は、成績評価の方法と基準を大きく変えることは現時点では考えていません。何らかの変更を行う場合は、必ず学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度はシラバスに記載していなかった、邦語文献を読んでのグループ（章によっては個人）発表や、テキストの著者が高く評価していた英語論文について自発的に名乗り出てくれた受講生による要約を加えたが、それに対する不満は出ず、受講生はしっかり対応してくれた。授業外学習時間も増えたようなので、今年度も適切な文献があれば、受講生と相談の上で同様の課題を出したい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the basic academic skills to write a graduation thesis on pre-modern Western history, such as reading comprehension of academic works written in Japanese and English, logical thinking, presentation skills and academic writing.

HIS300BE

西洋現代史演習

大澤　広晃

授業コード：A3149
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年度は、「第一次世界大戦」を演習のテーマとする。春学期は、関連する日本語文献を読み、テーマの多角的理解につとめる。秋学期は、英語文献を講読し、テーマについての理解をさらに深めるとともに、英語論文の読み方やその構造を学ぶ。また、卒業研究や自主研究にかんする発表の機会を設け、受講生が関心をもつテーマについてみなで議論する。

【到達目標】
・西洋現代史の主要なトピックを多角的に検討し、対象を総体としてみる姿勢を身につける。
・歴史学の研究に必要な基礎的スキルを習得する。
・研究成果を学術的作法に即して発表する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で行う。文献講読でも研究発表でも受講生が主体となるので、積極的な授業参加が求められる。
[追記（2020 年 4 月 17 日）]
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムやメール等でその都度提示する。なお、授業日初日は、4 月 27 日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	第一次世界大戦を考えることの意義。春学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 2 回	日本語文献講読 1	『現代の起点　第一次世界大戦』[以下、日本語テキストと表記] 第 1 巻、第 1 章を読む。
第 3 回	日本語文献講読 2	日本語テキスト第 1 巻、第 2、3 章を読む
第 4 回	日本語文献講読 3	日本語テキスト第 1 巻、第 4、5 章を読む
第 5 回	日本語文献講読 4	日本語テキスト第 1 巻、第 6、7 章を読む
第 6 回	日本語文献講読 5	日本語テキスト第 1 巻、第 8、9 章を読む
第 7 回	日本語文献講読 6	日本語テキスト第 2 巻、第 1、2 章を読む
第 8 回	日本語文献講読 7	日本語テキスト第 2 巻、第 3、4 章を読む
第 9 回	日本語文献講読 8	日本語テキスト第 2 巻、第 5、6 章を読む
第 10 回	日本語文献講読 9	日本語テキスト第 2 巻、第 7、8 章を読む
第 11 回	日本語文献講読 10	日本語テキスト第 2 巻、第 9、10 章を読む
第 12 回	自主研究の発表 1	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（1）
第 13 回	自主研究の発表 2	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（2）
第 14 回	自主研究の発表 3	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（3）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 16 回	英語文献講読 1	The British Empire and the First World War [以下、英語テキストと表記]Introduction を読む
第 17 回	英語文献講読 2	英語テキスト第 1 章を読む
第 18 回	英語文献講読 3	英語テキスト第 2 章を読む
第 19 回	英語文献講読 4	英語テキスト第 3 章を読む
第 20 回	英語文献講読 5	英語テキスト第 4 章を読む
第 21 回	英語文献講読 6	英語テキスト第 5 章を読む
第 22 回	英語文献講読 7	英語テキスト第 6 章を読む
第 23 回	自主研究／卒論構想案の発表 1	受講生による自主研究／卒論構想案の発表と質疑・討論（1）
第 24 回	自主研究／卒論構想案の発表 2	受講生による自主研究／卒論構想案の発表と質疑・討論（2）
第 25 回	自主研究／卒論構想案の発表 3	受講生による自主研究／卒論構想案の発表と質疑・討論（3）
第 26 回	自主研究／卒論構想案の発表 4	受講生による自主研究／卒論構想案の発表と質疑・討論（4）
第 27 回	自主研究／卒論構想案の発表 5	受講生による自主研究／卒論構想案の発表と質疑・討論（5）
第 28 回	まとめ	1 年間の学びを総括し、次年度に向けての課題を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読については、課題文を精読し、あらかじめ問いや質問を準備して授業に臨む。研究発表については、図書館やデータベースを活用して自主的に準備を進める。レジュメは事前に提出する。なお、文献講読・研究発表ともに、質疑応答で回答できなかった点については、追加の調査をして、翌週の授業で改めてフィードバックをする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編著『現代の起点　第一次世界大戦』岩波書店、2014 年
Jackson, Ashley, ed. The British Empire and the First World War. London; New York: Routledge, 2016.

【参考書】
「レクチャー　第一次世界大戦を考える」シリーズの各巻

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への取り組み、発表や質疑応答の質などを評価）：50 %
・期末課題： 50 %
[追記： 2020 年 4 月 17 日]
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、学習支援システムやメール等で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
This course explores the history of the First World War (WWI). Students read relevant literature on WWI written in Japanese (spring term) and in English (autumn term), examining aspects of this first modern, total war that human beings had ever experienced. Meanwhile, students are required to give presentations about their graduation research and/or independent research projects.

HIS300BE

西洋近代史演習

高澤　紀恵

授業コード：A3151　｜　曜日・時限：**木曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年度春学期は、コンドルセ『フランス革命期の公教育論』を背景を調べつつ丁寧に読み、その主張と内容を正確に理解することを目指す。主として日本語版を用いるが、フランス語によるオリジナル、英語版を常に参照し、古典の翻訳という知的営為についての理解を深める。
秋学期は、David Garrioch の英文テクストを精読する。テクストはフランス語版もあるので、フランス語講読を希望する学生はそちらを用いて報告することも可。

【到達目標】
古典と呼ばれるテクストを精読できる力の習得を到達目標とする。春学期は、近世・近代ヨーロッパ史、政治学、思想史、教育史など広範な専門領域で読み継がれてきたコンドルセのテクストを、彼が生きた 18 世紀のコンテクストの中で読み解く。
秋学期は、英語のテクストに慣れ、よくわからない言葉、概念、出来事に出会ったときに、徹底的に調べる方法を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業である。学生たちの間で分担を決め、レジュメを用意して報告をすること。毎回、短くグループ毎に議論する時間を設ける。
☆４月２２日の授業時間までに授業支援システムを通して指示を出します。見落とさないようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	今、コンドルセを読む意味について考える
第 2 回	テクストの背景	著者とその時代
第 3 回	『フランス革命期の公教育論』（1）	「一　公教育の全般的組織」講読と解説（1）
第 4 回	『フランス革命期の公教育論』（2）	「一　公教育の全般的組織」講読と解説（2）
第 5 回	『フランス革命期の公教育論』（3）	「二　公教育にかんする報告と審議」講読と解説
第 6 回	『フランス革命期の公教育論』（4）	「三　国民教育論」講読と解説
第 7 回	『フランス革命期の公教育論』（5）	「四　国民教育と民衆教育」講読と解説
第 8 回	『フランス革命期の公教育論』（6）	「五　共和暦の成立』講読と解説
第 9 回	『フランス革命期の公教育論』（7）	「六　フランス語教育」講読と解説
第 10 回	『フランス革命期の公教育論』（8）	「七　理工科学校の設立」『八　国立工芸院の設立」講読と解説
第 11 回	『フランス革命期の公教育論』（9）	「九　師範学校の設立」講読と解説
第 12 回	『フランス革命期の公教育論』（１０）	「一〇　中央学校の設立」講読と解説
第 13 回	『フランス革命期の公教育論』（１１）	「一一　公教育の成立」講読と解説
第 14 回	まとめ	総括討論

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	クラスの導入	著者、ガリオックをめぐって
第 16 回	Introduction	講読と解説
第 17 回	I. The Patterns of Urban Life	講読と解説
第 18 回	2.　The Poor You Have with You Always	講読と解説
第 19 回	3. Not Servants but Workers	講読と解説
第 20 回	4. Each According to His Station	講読と解説
第 21 回	5. Bread, Police, and Protest	講読と解説
第 22 回	6. Wolves in Sheep's Clothing: Religion and Politics	講読と解説
第 23 回	7. Affaires du Temps	講読と解説
第 24 回	8. Secularization	講読と解説
第 25 回	9.Urbanism or Despotism?	講読と解説
第 26 回	10.The Integration of the City	講読と解説
第 27 回	11.Plebeian Culture, Metropolitan Culture	講読と解説
第 28 回	12.The City and the Revolution	講読と解説と総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、担当者を決めるが、全員がテクストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期：コンドルセ他著（坂上孝編訳）『フランス革命期の公教育論』岩波書店、2002 年
秋学期： David Garrioch, *The Making of Revolutionary Paris*, University of California Press, 2002.

【参考書】
永見瑞木『コンドルセと〈光〉の世紀』白水社、2018.

【成績評価の方法と基準】
平常点　50 %　+期末レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
通年のゼミの良さを最大限に生かすためには学生たちの主体性を尊重して授業をすすめる大切さに気がつくことができました。昨年同様、今年度も学生グループで短く議論する時間を毎回とりたいと思います。

【その他の重要事項】
☆４月２２日の授業時間までに授業支援システムを通して指示を出します。見落とさないようにしてください。

【Outline and objectives】
This course aims to get an academic skill to read Japanese and English books and deepen the knowledge of European Modern History. This year we will study on Condorcet and David Garrioch. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

日本考古学

小倉　淳一

授業コード：A3113　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】
物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う予定。プリント等の資料も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。
レポートを課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
白石太一郎編（2002）『日本の時代史　1　倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史　2　倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権　シリーズ日本古代史 2』岩波新書
大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史　第 1 巻　原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席等）（30 %）、提出されたレポートの成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】
物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館で考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を充分に養ってほしい。
授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。板書はあまり行わないので、画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成する必要があることを念頭に措いてほしい。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

HIS200BE

日本古代史

春名　宏昭

授業コード：A3114　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】
平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけることができます。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
平安前期の改革の時代から平安中期の王朝貴族の時代への移行期間に関しては、嵯峨天皇・藤原良房・藤原基経・宇多天皇に注目して国家・政治のあり方の変化を見ていきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない貴族たちのあり方を見ていきます。
講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。
授業開始日は 4 月 22 日（水）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概容の説明
第 2 回	平安前期の改革	光仁朝～嵯峨朝
第 3 回	もうワンランク上の国家	新しい国家の目指すもの
第 4 回	官人の性格変化	摂関政治への序奏
第 5 回	嵯峨天皇（1）	良吏政治
第 6 回	嵯峨天皇（2）	太上天皇制の改変
第 7 回	藤原良房（1）	摂関政治
第 8 回	藤原良房（2）	安定の時代へ
第 9 回	藤原基経（1）	陽成天皇の廃位
第 10 回	藤原基経（2）	光孝天皇の擁立
第 11 回	藤原基経（3）	阿衡の紛議
第 12 回	摂関時代（1）	貴族の時代
第 13 回	摂関時代（2）	推移と展開
第 14 回	平安時代概観	これまでの授業をふまえて平安時代を概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要ですし、奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解は必要です。それらを得るためには、どれでもいいですから参考書（該当巻）を読んでみましょう。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。
この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、講義の対象とする嵯峨朝の前の時代を知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第５巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春名宏昭『〈謀反〉の古代史』（吉川弘文館）。
授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】
中央公論社 (文庫)・小学館 (文庫)・集英社・講談社 (文庫) から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』(新書)、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポートで評価します。
基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】
板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につきません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。

【Outline and objectives】
This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristcracy". We try to understand how should be the nation and aristcrats in the former term of the Heian period when the political innovation was extensively carried out.

HIS200BE

日本中世史

及川　亘

授業コード：A3115　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古文書・古記録や絵画などの各種史料の読解を通じて、日本中世における人々の旅行の在り方やそれを取り巻く諸問題について考える。

【到達目標】
１、日本中世の旅行や交通制度について学ぶことを通じて、日本中世史に関する基礎的な知識や概念を理解し、説明すること。
２、それらの知識や概念のもととなっている文献（古文書・古記録）や絵画・地図などの史料を、自分自身で読むための初歩的な技能を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
中世の公家・武士をはじめとする諸階層の日記・紀行文や旅行の帳簿などを利用して、当時の旅の様子を復元する。あわせてそれらの旅の前提となる交通制度に関するトピックをいくつか取り上げ、文献や絵図・地図などの史料にもとづいて考察する。利用する史料のプリントをあらかじめ配布して、それを読解することによって授業を進めるので、予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方について説明
第 2 回	日記にみる中世人の旅①	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その一）
第 3 回	日記にみる中世人の旅②	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その二）
第 4 回	日記にみる中世人の旅③	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その三）
第 5 回	日記にみる中世人の旅④	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その四）
第 6 回	日記にみる中世人の旅⑤	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その五）
第 7 回	日記にみる中世人の旅⑥	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その六）
第 8 回	日記にみる中世人の旅⑦	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その七）
第 9 回	日記にみる中世人の旅⑧	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その八）
第 10 回	日記にみる中世人の旅⑨	公家の日記から中世の旅行を読み解く（その九）
第 11 回	旅行帳簿にみる中世人の旅①	地方大名の使者の旅行帳簿から中世の旅行を読み解く（その一）
第 12 回	旅行帳簿にみる中世人の旅②	地方大名の使者の旅行帳簿から中世の旅行を読み解く（その二）
第 13 回	旅行帳簿にみる中世人の旅③	地方大名の使者の旅行帳簿から中世の旅行を読み解く（その三）
第 14 回	まとめ	中世人の旅行と中世社会の特質について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回に利用するテキストのプリントを配布するので、語彙を調べたり、文意を考えるなどの史料読解の予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は利用しない。レジュメと史料プリントを配布して利用する。

【参考書】
『中世法政史料集』第二巻～第六巻、『群書類従』第十一輯（紀行部）、『静岡県史』資料編 7・8、今谷明『戦国大名と天皇』(講談社学術文庫、2001 年)、同『言継卿記』（そしえて、1980 年）、永原慶二『室町戦国の社会―商業・貨幣・交通』(吉川弘文館、2006 年)、高橋慎一朗・千葉敏之編『移動者の中世―史料の機能、日本とヨーロッパ―』（東京大学出版会、2017 年）など

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 50 %、試験 50 %で評価する。授業への参加度は、出席回数だけでなく、史料読解の予習と参加度により評価する。自分なりの解釈でも構わないので、史料にまじめに向き合う姿勢はプラスに評価する。試験では講義のなかで紹介した概念や用語に関する理解度と、史料読解（単に現代語訳するだけでなく、そこから何が分かるか）について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、それらをなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
日本中・近世史
＜研究テーマ＞
中世・近世の都市／流通誌の研究、中近世移行期の社会経済変動の研究
＜主要研究業績＞
論文「現場監督する大名―多久家文書にみる公儀普請―」小宮木代良編『近世前期の公儀軍役負担と大名家―佐賀藩多久家文書を読みなおす―』（岩田書院、2019 年）
論文「旅行者と通行証―関所通過のメカニズム―」高橋慎一朗・千葉敏之編『移動者の中世―史料の機能、日本とヨーロッパ―』（東京大学出版会、2017 年）
編著『薬師寺の中世文書』東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-3、2016 年
論文「中世の戦争と商人」（高橋典幸編『生活と文化の歴史学 5　戦争と平和』竹林舎、2014 年）
論文「町の経済―算用帳にみる京都の人的結合―」（高橋慎一朗・千葉敏之編『中世の都市―史料の魅力、日本とヨーロッパ―』東京大学出版会、2009 年）
論文「戦国期の薬師寺と唐招提寺」（勝俣鎮夫編『寺院・検断・徳政―戦国時代の寺院史料を読む―』山川出版社、2004 年）

【Outline and objectives】
Through reading various historical materials such as old documents, old records, and paintings, we consider the way people travel in the medieval period of Japan.

HIS200BE

日本近世史

松本　剣志郎

授業コード：A3116　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】
①城下町の特質を説明できる。
②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。図や表、活字史料のプリントを配布して授業を進める。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市とは何か
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の支配	道奉行
第 13 回	公共負担の行方	道造組合と上水組合
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。プリントを配布する。

【参考書】
高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会）
吉田伸之編『日本の近世』９（中央公論社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline and objectives】
This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course.The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town.

HIS200BE

日本近代史

長井　純市

授業コード：A3117　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：日露戦争後の明治時代の政治史を学ぶ。20 世紀初頭の日露戦争での勝利を経て、世界の列強の注目する軍事力を有することとなった大日本帝国が、経済・産業・生活などの分野における後進性の克服に努める様相を学ぶ。
目的：１）大日本帝国の政治に関する知識を得る。２）アジア地域唯一の列強となった大日本帝国の国際社会における影響力行使と問題点とに関する知識を得る。３）日本近代史研究の現状に関する情報を得る。４）大日本帝国と日本国との連続性と断絶とについて考える手がかりを得る。

【到達目標】
到達目標：１）日露戦争後の政治、とりわけ桂園体制と称される政治状況に関する知識を得る。２）当該期の経済・産業・文化・生活の発展・向上に関する知識を得る。３）そうした知識の修得を通して、今日の日本との連続性と断絶を捉え、20 世紀日本の総合的理解と 21 世紀日本の展望とを併せ持つ手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
進め方：講義形式である。
方法：受講生の能動的な学習と双方向的な授業運営に努め、授業での配布プリントに記載された史料を受講生が音読することや、教員・受講生間の質疑応答、受講生同士のディスカッションを取り入れる。下の「その他の重要事項」を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	帝国議会と国会	国会開設百年に関するビデオの視聴とその解説。
第 3 回	帝国議会の制度と人（1）	帝国議会に関する制度の解説。
第 4 回	帝国議会の制度と人（2）	帝国議会に関わる人々の解説。
第 5 回	第 24 回帝国議会	第 24 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 6 回	第 24 回帝国議会後の社会情勢	第 24 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 7 回	第 25 回帝国議会	第 25 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 8 回	第 25 回帝国議会後の社会情勢	第 25 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 9 回	第 26 回帝国議会	第 26 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 10 回	第 26 回帝国議会後の社会情勢	第 26 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 11 回	第 27 回帝国議会	第 27 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 12 回	第 27 回帝国議会後の社会情勢	第 27 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 13 回	第 28 回帝国議会	第 28 回帝国議会の状況と争点の解説。

第 14 回　まとめ　　授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：授業テーマに関する記事や参考書を読んでおくこと。
復習：授業後に授業プリントを読み直すこと。
本授業の準備・復習時間は、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
刊本としてのテキストは使用しない。授業内容をまとめたプリントを配布する。

【参考書】
佐々木隆『日本の歴史 21 明治人の力量』（講談社）
小風秀雅『日本の時代史 23 アジアの帝国国家』（吉川弘文館）
飯塚一幸『日本近代の歴史３日清・日露戦争と帝国日本』（吉川弘文館）
宮田昌明『英米世界秩序と東アジアにおける日本』（錦正社）
アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館の各ウェブサイトにおける日本近代史関連解説コラム

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末試験 60 %。なお、特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは期末試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本近代史に関する基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、授業内容の理解と定着に資する質疑応答を積極的に行い、受講生の学習の動機付けや意欲を高めるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の要点を記すので、それを利用することができるＩＴ機器。

【その他の重要事項】
「日本近代史料学」（秋学期）との継続履修を強く推奨する。
大学院における学部合同科目（「日本近代史研究Ⅰ」）である。
やむを得ない事情により授業を欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。
新型コロナウィルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学 Web 学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。
今学期の授業初日は、4 月 27 日である。

【Outline and objectives】
This class has four main points. The first point is to study the politics of Japan in the early 20th century, the period from the end of the Russo-Japanese War to the end of the Meiji Era. The second one is to study how Japan developed economy, industry, or life style in the above period as one of the Great Powers. The third is to get a basic information on the academic trends in the study of Japanese modern history. The fourth is to get clues for a comprehensive image of the 20th century Japan and a prospect of the 21st century Japan.

HIS200BE

日本現代史

劉　傑

授業コード：A3118　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。
昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】
内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策を影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義を受けての討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解読」する方法を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第 2 回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第 3 回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第 4 回	外務省と軍部（1）	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第 5 回	外務省とメディア（2）	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第 6 回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第 7 回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第 8 回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第 9 回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策を討論する。
第 10 回	満州事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第 11 回	満州事変と日本外交 (2)	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第 12 回	満州事変と日本外交 (3)	満洲国の成立、満州国が目指したもの、満州国の評価について討論する。
第 13 回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第 14 回	昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】
参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくと便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史: 黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房 (2016 年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック――解説と資料――』（有信堂、2007 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、平常点 3 割。

【学生の意見等からの気づき】
講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染防止対策として、Web 学習支援システムを利用して授業を展開すると共に、内容を一部変更する。掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。
なお、春学期の授業開始日は 4 月 24 日です。

【Outline and objectives】
This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.
Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and the diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

HIS200BE

日本史特講Ⅰ

中山　学

授業コード：A3154　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業のテーマ：享保改革期の医薬政策
1700 年代の前期から中期にかけて実施された江戸幕府の行財政改革は、享保改革の称で呼ばれる。8 代将軍・徳川吉宗の親裁によって実施された一連の政策を改革であったとして高く評価しようとする感覚は、吉宗没後それほど間をおかずに定着した可能性があり、後代の人々の意識に影響少なからぬものとなった可能性がある。それでは、吉宗ないし吉宗の親裁が後に高く評価され続けることになったのはなぜか。この授業では、このような関心を基底に置きながら、徳川吉宗と医薬とのかかわりについて考える。

【到達目標】
享保改革期に実施された医薬政策の内容とその特質を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システムにて教材用資料を配布するとともに課題を出します。
なお、4 月 22 日に第一回目の教材を配布しましたので、受講を希望される方は、登録後、速やかに学習支援システムの「教材」タグより配布物をダウンロードしてください。
また、いくつかお知らせを出しておりますので、過去のお知らせは全て確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	当授業の目的を説明する
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (1)	権力と医薬のかかわり
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (2)	権力と医薬のかかわり（続）
第 4 回	医薬政策の前提 (1)	医学界の新機軸「古医方」の出現
第 5 回	医薬政策の前提 (2)	医学界の新機軸「古医方」の出現（続）
第 6 回	医薬政策の前提 (3)	都市社会の形成と薬材需要の高まり
第 7 回	医薬政策の前提 (4)	都市社会の形成と薬材需要の高まり（続）
第 8 回	医薬政策の前提 (5)	薬材流通をめぐる公的課題
第 9 回	医薬政策の前提 (6)	薬材流通をめぐる公的課題（続）
第 10 回	医薬政策の展開 (1)	特殊人材の採用と薬草調査
第 11 回	医薬政策の展開 (2)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 12 回	医薬政策の展開 (3)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 13 回	医薬政策の展開 (4)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 14 回	まとめ	享保改革期医薬政策の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】
特に指定しません（プリントを配布します）。

【参考書】
辻　達也『徳川吉宗』吉川弘文館 (1985 年)
安田　健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社 (1987 年)
新村　拓『日本医療史』吉川弘文館 (2006 年)

【成績評価の方法と基準】
小リポート（50 %）、期末リポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
日本史特講Ⅳのテーマと関連します。

【Outline and objectives】
Understand the historical significance of medical policy promoted by Tokugawa Yoshimune.

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚　紀弘

授業コード：A3155　｜　曜日・時限：**金曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世前期（平安時代後期から南北朝時代）の日中文化交流についての理解を深めるため、中国（南宋）文化に関係する題材を取り上げ、伝記や図像なども活用して多角的に学ぶ。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得することを目的する。

【到達目標】
経済的関係に起因する日中間の交通が、中世前期の社会・国家に及ぼした影響の実態について、文化交流史の視点から説明することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
６章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、授業中に回答する。
※授業開始日は４月２４日とする。
※対面授業が行なえない場合、「学習支援システム」の「教材」で各章毎に配布プリント、スライド文面および課題論文をＰＤＦファイルでアップロードする予定。
また、「学習支援システム」の「テスト／アンケート」で各章毎の小テストを公開する予定。所定の締切日までに提出されたもののみ採点対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世前期の唐船貿易と文化交流	履修のガイダンスと概説
第 2 回	鎌倉時代における宋式喫茶の展開（1）	喫茶文化の伝播と受容
第 3 回	鎌倉時代における宋式喫茶の展開（2）	喫茶文化の伝播と受容
第 4 回	鎌倉仏教と印刷メディア（1）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第 5 回	鎌倉仏教と印刷メディア（2）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第 6 回	日宋の王権と仏牙舎利信仰（1）	ブッダの歯への信仰と日中の王権
第 7 回	日宋の王権と仏牙舎利信仰（2）	ブッダの歯への信仰と日中の王権
第 8 回	日宋の王権と仏牙舎利信仰（3）	ブッダの歯への信仰と日中の王権
第 9 回	渡唐天神説話と神仏習合（1）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第 10 回	渡唐天神説話と神仏習合（2）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第 11 回	渡唐天神説話と神仏習合（3）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第 12 回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（1）	特異な舎利塔図像の伝播と受容
第 13 回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（2）	特異な舎利塔図像の伝播と受容
第 14 回	日宋文化交流の歴史的意義	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「学習支援システム」にアップロードされたパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
『週刊朝日百科　週刊新発見！ 日本の歴史２１　鎌倉時代４　鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、２０１３年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、２０１７年）
その他は、授業の際、各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テストの点数２６％、学期末試験の点数７４％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。
※試験が行なえない場合、各章毎の小テストの合計点数（１７点 × ４回＋１６点 × ２回）で評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】
授業評価は概して低かったが、記名・無記名のアンケートを合わせても、複数の学生に指摘された問題点はなかった。そこで、改善すべき点について、さらに学生に積極的に意見を出してもらう取り組みをしたい。

【Outline and objectives】
Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS200BE

日本史特講Ⅲ

稲田　奈津子

授業コード：A3156　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鎌倉時代初期に成立した説話集『古事談』には、平安時代後期を中心に、多彩な話題が掲載されている。歴史的事実に即した内容もあれば、史実とは異なる虚構や怪異譚なども含まれている。しかしそこには、平安時代の具体像を彷彿とさせる様々な要素が散りばめられているようだ。そこで本講義では、『古事談』所載の説話を糸口に、平安時代の文化・社会・精神などが窺われるトピックスを取りあげ、歴史学的に検討を加えることを通して、時代の雰囲気を捉えていきたい。

【到達目標】
ある出来事が、伝えるメディアによってそれぞれ異なる切り口で語られるのは、今も昔も同じである。本授業では、『古事談』の説話を基本にしつつ、関連する歴史史料と読み比べていくことで、平安社会の具体像に迫るとともに、それぞれの史料（メディア）の性格も考えていきたい。こうした作業を通して、史料読解や史料批判など、歴史史料の基本的な取り扱い方を学ぶとともに、ひとつのメディアを鵜呑みにしない批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式であるが、指名によって史料を音読してもらうことがある。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加して欲しい。またパワーポイントによって画像も多数提示する予定であるので、積極的に教室の前方に着席して欲しい。
毎回、リアクションペーパーを提出してもらうので、講義の感想や質問、要望などを自由に記入して欲しい。
最終回には到達度確認テストを実施する。また必要に応じて、授業内容の理解度を確認するための小テストやレポートを課す場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1) ―『古事談』について―	説話集『古事談』の概説
第 2 回	ガイダンス (2) ―花山帝の出家の真相―	「花山院出家の事」
第 3 回	内裏焼亡と神鏡 (1)	「村上天皇の時、内裏焼亡の事」
第 4 回	内裏焼亡と神鏡 (2)	「内裏焼亡に内侍所女官夢想の事、神鏡残欠求め出づる事」
第 5 回	除目―人事の悲喜劇― (1)	「藤原為時、詩の功に越前守補任の事」
第 6 回	除目―人事の悲喜劇― (2)	「藤原経平赴任の時、反閉、逆鞍を置く事」
第 7 回	天皇の死と皇位継承 (1)	「一条院手習の反古を、藤原道長破却の事」
第 8 回	天皇の死と皇位継承 (2)	「後一条院の死に藤原顕基出家の事」
第 9 回	説話からみる出土文字資料 (1)	「源公忠冥宮へ到る事、醍醐天皇堕地獄の事」
第 10 回	説話からみる出土文字資料 (2)	「永超僧都魚食の事、魚味を献ぜし者疾病を免るる事」
第 11 回	貴族と信仰の世界 (1)	「聖徳太子廟近く未来記文堀り出だす事」
第 12 回	貴族と信仰の世界 (2)	関係史料の検討
第 13 回	まとめ	総括と補足
第 14 回	到達度確認テストと解説	講義内容の理解度を確認するためのテストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと。（120 分程度）
【復習】プリントを読みなおし疑問を残さないようにする。（120 分程度）

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
ただしパワーポイントで示す画像のすべてを配布するわけではないので、毎回の出席が肝要となる。

【参考書】
新日本古典文学大系 41『古事談　続古事談』（岩波書店、2005 年）
浅見和彦編『『古事談』を読み解く』（笠間書院、2008 年）

【成績評価の方法と基準】
・到達度確認テスト　… 50 %
・平常点（授業の参加姿勢およびリアクションペーパー、小テスト、レポート等）　… 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
In this class, we will read the “Kojidan,” a collection of tales written in early Kamakura period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students’interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山　学

授業コード：A3157　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業のテーマ：徳川吉宗と書物
８代将軍・徳川吉宗は、いわゆる享保改革の実施者として著名である。その歴史的評価は、周知のごとく、主に幕府の組織改革、行財政改革において定着した感がある。だが、とくに行財政面で実績をあげたと評価される当の本人が、徳川宗家相続のため江戸城へ入城して真っ先に着手したのは将軍家蔵書の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、将軍家蔵書の保存・管理を使命とした書物方役人は激務を担い、吉宗の直接的指示のもと、20 年以上にわたって古典をはじめとするあらゆる種類の書物の校合、校勘といった作業、またはその補助作業に追われ続けることになる。要するに、吉宗は各種書物の真正なテキストの作成、あるいは証本の作成を組織的かつ大規模的に実施したと考えられるのだが、彼はなぜそのような作業に熱中したのか。授業では如上の事実について理解を深めるところから、吉宗政権の歴史的意義について考える。

【到達目標】
権力が文字知識に拠る文化といかに関係しているかという観点から、いわゆる享保改革期の特質、画期性について論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。文献資料の初歩的読解を前提とした講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	当授業の目的
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗と幕政改革
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第 4 回	将軍家の文庫 (1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第 5 回	将軍家の文庫 (2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 6 回	将軍家の文庫 (3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 7 回	吉宗と書物 (1)	『御代々文事表』を読む
第 8 回	吉宗と書物 (2)	『御代々文事表』を読む（続）
第 9 回	吉宗と書物 (3)	『御代々文事表』を読む（続）
第 10 回	吉宗と書物 (4)	『御代々文事表』を読む（続）
第 11 回	吉宗の目的 (1)	吉宗の指令の内実
第 12 回	吉宗の目的 (2)	吉宗の指令の内実（続）
第 13 回	吉宗の目的 (3)	吉宗の指令の内実（続）
第 14 回	まとめ	将軍家蔵書の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】
特に指定しません（プリントを配布します）。

【参考書】
福井　保『江戸幕府の参考図書館　紅葉山文庫』郷学舎 (1980 年)
小川剛生『日本史リブレット 78　中世の書物と学問』山川出版社 (2013 年 3 刷)

【成績評価の方法と基準】
小リポート（50 %）、期末リポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline and objectives】
Tokugawa Yoshimune used the books of Shogun Tokugawa to inspect many books including classical literature and made efforts to make those sentences and letters error free. It is the purpose of this lesson to think about what this historical fact means.

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

友田　昌宏

授業コード：A3158　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から約 150 年前、日本は大変大きな変革を体験しました。明治維新です。ペリーの来航、つづく開国によって、日本はいやおうなく国際社会のなかに組み込まれることになりました。それに呼応するかたちで国内でも改革の気運が高まります。幕府・朝廷・諸藩、そして、庶民たち、あらゆる階層の人々が、大なり小なり国難に向き合って行動し、その結果、日本には、天皇を君主とする新しい政府が生まれ、その政府のもと様々な改革が行われます。この講義はペリー来航から西南戦争までの日本の国内政治に関して概観します。現在、日本は国内外に様々な問題を抱えています。150 年前の日本がどのような問題に直面し、そのなかで人々はいかに行動したのかを知ることは、私たちが現在の日本を深く知る上でも重要なことでしょう。

【到達目標】
①幕末維新期の政局の流れが理解できる。
②様々な勢力の目指していたもの、その相違・共通点を理解できる。
③授業の内容から自分なりの問題意識をもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。折に触れてリアクションペーパーを提出していただきます。また、授業中に知識や意見を問うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス＋ペリー来航の衝撃～諸藩・朝廷の台頭～	これからの授業の概要を示したうえで、幕末の動乱の幕開けと言われるペリー来航が国内政治にどのような影響を与えたのかを考察する。
第 2 回	条約締結と将軍継嗣をめぐって	通商条約の締結をめぐって幕府と諸大名・朝廷の対立がおこり、諸大名が将軍継嗣に介入、朝廷との結びつきを強めていく様相を探ります。
第 3 回	安政の大獄と桜田門外の変～井伊直弼の危機感～	条約調印への批判を安政の大獄で弾圧し、桜田門外の変で倒れた大老井伊直弼。彼は何に危機感をいだき一連の政策に踏み切ったのか探ります。
第 4 回	諸藩の国事周旋活動と幕政改革～公武合体の諸相～	公武合体により権威の再建を図ろうとする幕府。公武合体を掲げ幕政への介入を目論む諸藩。公武合体をめぐる諸勢力の動きを探ります。
第 5 回	破約攘夷をめぐって～長州攘夷派の台頭～	長州藩をはじめとする尊王攘夷派は天皇の意を体する形で攘夷を主張、彼ら尊攘派に席巻された朝廷に、幕府が追いつめられていく様相を探ります。

第 6 回	八月十八日の政変から禁門の変へ〜一会桑勢力の台頭〜	8 月 18 日の政変、禁門の変で、長州藩が京都から駆逐され、朝敵とされるなか、京都で一橋慶喜らが朝廷との結びつきを強めていく様相を探ります。
第 7 回	長州処分問題と兵庫開港問題	禁門の変後、長州藩の処分問題と、兵庫開港問題を二大案件として政局は展開します。これらをめぐる幕府・朝廷・諸藩の動向を探ります。
第 8 回	大政奉還と王政復古〜天皇と公議輿論〜	慶応 3 年、将軍徳川慶喜は朝廷に大政奉還、その 2 ヶ月後、薩摩藩は慶喜を排除する形で王政復古を断行、ここではその間の慶喜と薩摩藩の駆け引きを探ります。
第 9 回	戊辰戦争〜維新官僚の台頭とそれへの抵抗〜	薩長と旧幕府との対立は、戊辰戦争に帰結します。戦争の過程において薩長の藩士層が新政府の実権を握っていく様相とそれへの反発を探ります。
第 10 回	廃藩置県への道〜中央集権体制の礎〜	戊辰戦争に勝利した新政府は、藩への統制を強めていき、それは廃藩置県に帰結します。廃藩置県はどのような過程を経て実現したのか探ります。
第 11 回	岩倉使節団と留守政府	廃藩置県後、岩倉具視ら一行が、欧米へと向かいます。一方、留守を預かった政府は改革を押し進めます。改革をめぐる両者の相違を考察します。
第 12 回	大久保政権の成立	明治 6 年政変、佐賀の乱、台湾出兵などの危機を乗り越え、政府内では指導権を握ったのは大久保利通でした。大久保政権の成立の意義を探ります。
第 13 回	大久保政権の士族対策	改革に異を唱える士族は政府にとって厄介な存在でした。また、士族への家禄は財政的に大きな負担でした。大久保政権の士族対策について考察します。
第 14 回	士族反乱から自由民権へ＋まとめ	政府の士族対策は不平士族の決起を引き越します。士族反乱が目指したものは何だったのか、それは自由民権運動にいかに受け継がれたのか探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に配布されたプリントや紹介した参考文献に目を通して復習してください。復習時間は概ね 4 時間といたします。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定しません。毎時間プリントを配布いたします。

【参考書】
参考文献はその都度紹介いたしますが、さしあたり、井上勲編『開国と幕末の動乱（日本の時代史 20）』（吉川弘文館、2004 年）および松尾正人編『明治維新と文明開化（日本の時代史 21）』（吉川弘文館、2004 年）の通史部分、青山忠正著『明治維新（日本近世の歴史 6）』（吉川弘文館、2012 年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業へ取り組む姿勢（10 %）、リアクションペーパーの内容（20 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
Japan was embedded into the Western international system without any choices after Perry came from America to Japan in 1853 and the Tokugawa Shogunate entered into the Treaty of Amity and Commerce with five countries in 1858. Following the opening of the country to the world, the spirit of the domestic reform grew in Japan. Not only the Tokugawa Shogunate, but also the Imperial Court, the clans and the common people more or less faced national crisis and reacted to it. Therefore the new government was established under the Emperor and various reforms were carried out. This class focuses on The Meiji restoration, especially the domestic politics from the Perry's arrival in 1853 to the Seinan War in 1877.
It is important for us to know what crisis Japan faced and how the people reacted to it about 150 years ago, for understanding domestic and diplomatic problems that today's Japan have.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎　清実

授業コード：A3159　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】
・地域史研究の意義を理解します。
・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第 2 回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第 3 回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第 4 回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第 5 回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人家の種類、村役人制
第 6 回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第 7 回	支配のしくみと地域社会	非領国地域の特質、幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割
第 8 回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、諸役を負担するしくみと意識
第 9 回	地域社会の身分集団	村を訪れる人々、地域社会の身分集団、村人と身分集団
第 10 回	村人の信仰と文化活動	村人の信仰、村社会と寺院、旅と参詣、村人の文化活動
第 11 回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織、若者仲間の役割、祭祀組織、祭りと喧嘩
第 12 回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、飢饉と救恤、民衆運動の意識
第 13 回	村社会と家族の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第 14 回	まとめ	近世から近代へ、現代と近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。3 回程度、地方文書（活字にしたもの）を解読して、一つのテーマについてまとめてもらうレポートを課します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
木村礎『近世の村』（1980 年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本的社会の確立』（1987 年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000 年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003 年、山川出版社）、水本邦彦『村―百姓たちの近世―』（2015 年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】
少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
資料（配布資料）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【担当教員の専門分野等】
日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline and objectives】
Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan.In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents.In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田　康弘

授業コード：A3160　｜　曜日・時限：**金曜１限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦国時代の足利将軍・室町幕府研究を素材に「歴史学は何のためにあるのか」を考える。一体、歴史学の存在意義とは何だろうか。今から 500 年も昔の戦国時代を研究することに、何か現代的な意味はあるのだろうか。また我々は、直接知覚することのできない過去の「事実」を認識することができるのか。さらに、歴史学研究と「趣味」や「考証学」とはどう違うのか――本講義では、こういった歴史学研究に伴うさまざまな疑問を、遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会、２０１８年。初版は２０１０年）に導かれつつ思索し、解答を引き出していくこと目的とする。

【到達目標】
歴史学の存在意義を認識しうるとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の約束事を理解することができる。また、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの研究手法を把握することができ、さらに、歴史学研究の「社会的使命」や、歴史学のもつ「限界」をきちんと理解したうえ、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
５章構成とし、講義形式で進める。配布プリントを使って解説する。授業の最後に理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する。
なお、授業開始日は非常事態宣言解除後の最初の金曜日であり、今のところ５月８日（金）を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	明治以来の日本歴史学の経緯を確認し、現在の歴史学が直面している種々の問題を紹介する
第 2 回	戦国期足利将軍とは何であったのか（1）	「傀儡」「無力」と信じられてきた戦国期足利将軍に関するこれまでの研究の推移を概観する
第 3 回	戦国期足利将軍とは何であったのか（2）	将軍研究が戦国期列島全体の「構造」解明を必要とするに至った経緯について解説する
第 4 回	戦国期足利将軍とは何であったのか（3）	戦国期日本列島全体の「構造」を示し、「過去を知ることは現代を知る」ことを説明する
第 5 回	戦国期将軍研究はどう進められたのか（1）	戦国期足利将軍研究を素材に、問題設定から歴史像構築にいたる研究手法を紹介していく
第 6 回	戦国期将軍研究はどう進められたのか（2）	戦国期将軍研究において「歴史像を構築する」際に援用した、さまざまな「理論」を解説する
第 7 回	戦国期将軍研究は「反省的歴史学」に通ず（1）	遅塚忠躬の整理した「尚古的」「反省的」「発展的」という三つの歴史学を紹介する
第 8 回	戦国期将軍研究は「反省的歴史学」に通ず（2）	三つの歴史学における相互関係を説き、また、趣味や考証学に堕ちない方法を伝授する
第 9 回	なぜ信長包囲網は失敗したのか（1）	15 代将軍・足利義昭と織田信長との抗争の経緯とその原因を概観していく
第 10 回	なぜ信長包囲網は失敗したのか（2）	信長包囲網が機能しなかった要因を、歴史学の隣接諸科学における理論を使いながら探求する
第 11 回	なぜ信長包囲網は失敗したのか（3）	「人びとを思索に誘う」という歴史学の使命をどう果たしうるか、という問題を考える
第 12 回	本能寺の変の「真相」は解明しうるのか（1）	本能寺の変の背景を探るとともに「人の心の動き」には関与しえない歴史学の「限界」を説く
第 13 回	本能寺の変の「真相」は解明しうるのか（2）	歴史学と文学との関係を整理したうえで、歴史学研究の「社会的使命」を解説していく
第 14 回	まとめ	これまでの内容を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会、２０１８年。初版は２０１０年）。
山田康弘『足利義輝・義昭――天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、２０１９年）。
その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テストの点数４０％、学期末試験の点数５０％、平常点１０％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline and objectives】
Learn historical research methods of reading historical materials,pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS200BE

日本史特講Ⅸ

長井　純市

授業コード：A3201　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：欧米人の見た 20 世紀前半期の大日本帝国と日本人の種々相を、日本滞在経験を有する欧米人、とりわけ米国人が残した英文の著述や公文書などの一節を読むことを通して、学ぶ。
目的：１）日本近代史全般に関わる知識を得、あるいは増やす。２）今日の日本と将来の日本を考える手がかりを得る。３）異文化との衝突や交流について考える手がかりを得る。

【到達目標】
到達目標：１）日本近代史に関する英文資料の読解力を養い、向上させること。２）英文資料の講読を通して、日本近代史全般に関する知識を得、理解を深めること。３）欧米人の近代日本及び日本人に対する多様な見方や解釈を理解すること。４）異文化との衝突や交流、共生について考える手がかりを得ること。５）グローバリゼーションという現象を多様な視点から考える手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
進め方：講義形式である。
方法：受講生の能動的な学習を促し、双方向的な授業運営とするために、受講生による英文の和訳や解釈、教員・受講生間の質疑応答、受講生同士の助け合い学習を取り入れる。
下の「その他の重要事項」を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（1）	英文資料―日本観と日本人観―
第 3 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（2）	英文資料―政治（1）―
第 4 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（3）	英文資料―政治（2）―
第 5 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（4）	英文資料―政治（3）―
第 6 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（5）	英文資料―経済―
第 7 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（6）	英文資料―産業―
第 8 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（7）	英文資料―植民地（1）―
第 9 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（8）	英文資料―植民地（2）―
第 10 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（9）	英文資料―文化（1）―
第 11 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（10）	英文資料―文化（2）―
第 12 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（11）	英文資料―生活（1）―
第 13 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（12）	英文資料―生活（2）―
第 14 回	まとめ	授業の総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：授業プリントの英文資料を和訳しておくこと。また、記載項目の中から１つ以上のトピックを選び、それに関連する記事や参考書を読んでおくこと。
復習：授業プリントを読み直すこと。
本授業の準備・復習時間は、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
刊本としてのテキストは使用しない。英文資料プリントを配布する。

【参考書】
オリーブ・チェックランド『明治日本とイギリス』（法政大学出版局）
ジョセフ・ヘニング『アメリカ文化の日本体験』（みすず書房）
ポール・クローデル（奈良道子訳）『孤独な帝国日本の 1920 年代』（草思社）
中條忍『ポール・クローデルの日本』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末試験 60 %。なお、特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは期末試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本近代史に関する知識の不足を感じたり、英文の和訳や解釈に手間取ったりする受講生がいることから、受講生の学習の動機付けや意欲を高める質疑応答や、受講生同士の助け合い学習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを利用することができるＩＴ機器。

【その他の重要事項】
やむを得ない事情により授業を欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。
新型コロナウィルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学 Web 学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。
今学期の授業初日は、4 月 23 日である。

【Outline and objectives】
This class has three main points. The first point is to study the Japanese modern history through reading and translating handouts of English sentences extracted from the Foreign Relations of the United States or the books or articles written by American intellectuals in the early 20th century. The second one is to study the viewpoints on Japan and the Japanese in modern times from the eyes of the Westerners. The third is to study the cultural exchange and conflicts between different cultures. This class makes you obtain ability and skill of critical thinking on the Japanese modern history.

HIS200BE

日本史特講X

森田　貴子

授業コード：A3202　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代日本経済史について、研究史上、重要な課題とされてきた問題を軸に理解を深める。

【到達目標】
本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について、理解を深めることを目標とする。日本の近現代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
近現代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら検討を行う。
時系列的に講義を進めながら、研究史上、何が問われ、何が明らかにされ、何が今後の課題として残されているのか、についても考える。
毎回、リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業について。近代日本経済史について。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	日本資本主義論争	「日本資本主義論争」について、論争の過程で提出された論点について考える。
第 3 回	新政府の財政	明治政府による財源確保について、地租改正の意義とあわせて考える。
第 4 回	華族資本	明治維新以後、華族が日本の工業化・資本主義化に対して果たした役割について考える。
第 5 回	松方財政	激しいデフレを招いた松方財政について、その意義と社会との関連について考える。
第 6 回	地主制	第二次世界大戦までの日本の農村の社会構造の特徴である、地主制について考える。
第 7 回	日清戦争と戦後経営	日清戦争と日清戦後経営について、戦後経営の特徴と内閣・政党との関連を考える。
第 8 回	日露戦争と戦後経営	日露戦争と日露戦後経営について、戦後経営の特徴を考える。
第 9 回	第一次世界大戦と戦後恐慌	第一次世界大戦争時の経済状況と、戦後恐慌について考える。
第 10 回	金融恐慌（1）	金融恐慌の実状と日本銀行の役割について考える。
第 11 回	金融恐慌（2）	金融恐慌の実状と財閥の形成について考える。
第 12 回	昭和恐慌	昭和恐慌の実情と政府・軍部・財閥の関連について考える。
第 13 回	占領下の日本経済	第二次世界大戦後の占領下の経済政策について考える。
第 14 回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、特に指定しない。
教場で、資料レジュメを配布する。

【参考書】
教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）と、学期末の試験１回（60 %、持ち込み不可）による。

【学生の意見等からの気づき】
３分の２以上の出席は必須です。

【Outline and objectives】
This course aims for students to study modern Japanese economic history, focusing on issues that have been regarded as important issues in research history.

HIS200BE

東洋古代史

飯尾　秀幸

授業コード：A3135　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】
家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
4 月 27 日（月）より「学習支援システム」で開始。
講義形式
文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代、および殷代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モソ族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一を家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	中国考古学の成果	中国文明の地域的多様性を考える。
第 8 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 9 回	ボロロ族の紹介	レヴィストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 10 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 11 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 12 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考え、春学期のまとめをする。
第 13 回	なし	なし
第 14 回	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学修支援システムを利用してアップロードしたレジュメ、およびそこに挙げた参考資料（可能な限りインターネットで参照できるものにする）で予習をして、授業時間帯で質問を受け付ける。また課題も提示するのでそれに応えながら復習をする。その予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】
課題への解答を主とする。場合によっては、最終週の後に少し長めのレポートの提出を考えている。その場合は追って通知する。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく説明することとに心がける。

【その他の重要事項】
Eメールアドレスを提示するので、質問は、メールで受け付けることとします。学修支援システムに、教材（レジュメ）と課題をアップロードします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

HIS200BE

東洋中世史

山﨑　美保

授業コード：A3136　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアには古い時代にさかのぼる多数の遺跡があり、世界遺産として登録されているものも多い。世界遺産ではない遺跡でも、歴史的に重要なものも多く、これらの遺跡は古代に興亡した国々によって建造され、当時の文化や社会を反映している。これらの国々の歴史は、現在の東南アジア地域の枠組みに基づき説明されることが多いが、その場合、個々の特異性や他との結びつきなど重要なことがらを見失いがちである。この講義では、東南アジア地域に興亡した諸政体の 14 世紀までの歴史の流れを把握し、これらを体系的に関連付けて理解できるようにする。

【到達目標】
この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、東南アジア中世史（～ 14 世紀）に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。歴史的な知識を基盤として、現在の東南アジア地域の様々な問題を筋道立てて理解することができるようにする。
欧米を介した知識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
＊講義の開始日は予定通り、4 月 24 日（金）とし、教室での講義が開始できるまで、学習支援システムにて課題を提示（詳細は学習支援システムを見ること）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東南アジア地域の地理的概観	自己紹介、授業の進め方を説明する。
第 2 回	東南アジアの先史時代	考古学の成果から、東南アジアの先史時代に関する知見を取り上げる。
第 3 回	初期国家の誕生：林邑と扶南	現在のベトナム中部に誕生した林邑、ベトナム南部からカンボジア南部にかけて存在した扶南について扱う。
第 4 回	東南アジアの「インド化」	東南アジアのほぼ全域において見られた「インド化」という現象について考察する。
第 5 回	マラッカ海峡ルートの発展：シュリーヴィジャヤ、シャイレーンドラ	マラッカ海峡地域を支配したシュリーヴィジャヤの展開を見る。
第 6 回	プレ・アンコールのカンボジア	アンコール以前のカンボジア平原の状況を扱う。
第 7 回	ドゥヴァーラヴァティー、ピュー	現在のタイ中部・東北部およびミャンマーの平原地域の状況を扱う。
第 8 回	三仏斉（マラッカ海峡）	宋代以降のマラッカ海峡地域の状況を見る。
第 9 回	ジャワ	ジャワ島の古代史を概観する。
第 10 回	大越とチャンパー	自立後の紅河デルタ地域および現在のベトナム中部地域に存在したチャンパー史の展開を追う。
第 11 回	アンコール（カンボジア）	大陸部東南アジアの広い領域を支配したアンコールの統治構造を考察する。
第 12 回	パガン（ミャンマー）	現在のミャンマーの平原地域の状況を見る。
第 13 回	アンコールの支配圏の解体と地域の再編	大陸部東南アジアにおいてアンコールの支配圏が解体し、現在の国々の萌芽が現れてくる経緯を概観する。
第 14 回	まとめ、試験	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に配布資料やノートを整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次回の授業で質問できるようにまとめておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社

桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 1 原史東南アジア世界』2001 年、岩波書店
石澤良昭他編『岩波講座東南アジア史 2 東南アジア古代国家の成立と展開』2001 年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、試験（80 %）→ 変更：平常点（40%）、期末レポート（60%）
＊詳細は学習支援システム「お知らせ」にて掲示

【学生の意見等からの気づき】
配布資料における要点をより明確にし、より良く理解するために写真などの補助資料を増やす。

【Outline and objectives】
This class is aim to understand the ancient history (~14th century) and culture of Southeast Asia.

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢　知絵

授業コード：A3208　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「中国・香港・台湾からみる東アジア近現代史」をテーマとする。
現在「両岸三地」と総称される中国・香港・台湾は、それぞれ歴史的に異なる背景を持った地域である。特に近代以降は、植民地統治や政治的対立の時代を経て、互いに複雑な関係の下に置かれてきた。それは今日の日本を含む東アジア全体の国際関係にも、大きな影響を及ぼしている。
本授業では、こうした近現代における中国・香港・台湾の交流と対立の歴史をたどりながら、現在の東アジアの国際関係がどのように形成されてきたのか概観する。その上で、昨今の三地域および東アジア全体をめぐる諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国・香港・台湾の歴史をたどり、東アジア近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の東アジアの国際関係について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。
（オンライン授業実施にともなう変更)
第 1 回はオンライン授業を行い、以後状況に合わせてオンライン授業を継続する。
オンライン授業の進め方は、学習支援システムによる講義動画・資料の配信、およびレポート課題とリアクションペーパーの提出を基本とする。
本授業の開始日は、4 月 24 日（金曜 2 時限）とし、この日までに授業方法の詳細を、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジア近現代史入門	東アジア近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	東アジアの近代	アヘン戦争とイギリスの香港統治
第 3 回	清朝の衰退	日清戦争と日本の台湾統治
第 4 回	中華民国の成立	辛亥革命と民族主義の高揚
第 5 回	南京国民政府の樹立	国民党の中国統一と国家建設
第 6 回	日本の対中進出	満州事変と日本帝国圏の拡大
第 7 回	日中戦争の勃発	戦時下の中国・香港・台湾社会
第 8 回	戦後の冷戦突入	国共内戦と国民政府の台湾遷移
第 9 回	中華人民共和国の成立	共産党の一党独裁と社会主義体制
第 10 回	冷戦下の台湾	台湾海峡危機と白色テロ
第 11 回	冷戦下の中国	大躍進運動と文化大革命
第 12 回	冷戦体制の終結	中国の改革開放と台湾民主化
第 13 回	現在の東アジア	香港返還と中台関係の変化
第 14 回	東アジア近現代史の課題と展望	中国・香港・台湾をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国・香港・台湾に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史――両岸三地 100 年の歩み（第 2 版）』東京大学出版会，2019 年.
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑤』岩波書店（岩波新書），2010～14 年.
倉田徹・張彧暋『香港――中国と向き合う自由都市』岩波書店（岩波新書），2015 年.
若林正丈『台湾――変容し躊躇するアイデンティティ』筑摩書房（ちくま新書），2001 年.

【成績評価の方法と基準】
① 平常点　30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末試験　70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。
（オンライン授業実施にともなう変更）

成績評価の方法と基準も一部変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of the modern east Asia focusing on China, Hong Kong and Taiwan area. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and current issues about international relations of east Asia.

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢　裕仁

授業コード：A3209　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】
高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。
中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。
青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。
本年度は、5 月 7 日（木）より、授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	中国考古学の現状
第 2 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第 3 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第 4 回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第 5 回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第 6 回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第 7 回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第 8 回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第 9 回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第 10 回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第 11 回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第 12 回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第 13 回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第 14 回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。
また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）などには目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline and objectives】
On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

HIS200BE

東洋史特講Ⅰ

飯尾　秀幸

授業コード：A3162　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とは居住単位としての家族と如何なる関係をもち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

【到達目標】
青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文献史料を読み込む力をつける。
出土資料（竹簡・木簡）を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
西周時代・春秋戦国時代・秦漢時代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、周代青銅器銘文・出土竹簡資料などを概観しつつ、前漢時代後半期から後漢時代にかけて、この三者が合一することを考える。
現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	西周史とその方法	周代青銅器銘文の扱い方を紹介し、研究史を整理する。
第 2 回	西周時代の「家族」－封建制度－	周代封建制度を説明する。
第 3 回	西周時代の「家族」－昭穆制度－	宗廟制度である昭穆制度を婚姻制度として読み替える視点を紹介する。
第 4 回	孔子の「孝」と政治単位	居住単位を政治単位とする孔子の理論の先見性を考察する。
第 5 回	商鞅の変法	居住単位を現実に政治単位にした商鞅の変法を説明する。
第 6 回	秦・前漢史研究と出土簡牘	秦・前漢史研究の現状と、出土資料である竹簡を紹介する。
第 7 回	秦律にみえる「家族」－集落・家屋－	出土資料である秦の法律文書から在地社会を解説する。
第 8 回	秦律にみえる「家族」－経済単位－	秦の法律から鉄製農具と牛耕の問題を再検討する。
第 9 回	漢律にみえる「家族」－戸－	出土資料である漢の法律文書から戸籍問題を考察する。
第 10 回	漢律にみえる「家族」－後継－	漢の法律から家族の後継者規定を検討する。
第 11 回	簡牘にみえる家族のまとめ	経済単位としての家族がいまだ居住単位としての家族と合一していないという観点を提起する。
第 12 回	後漢時代の豪族と家族	豪族の出現と集落内の変化を考察する。
第 13 回	戦国・秦漢時代の鉄器と牛耕	考古学の成果からみた鉄器と牛耕の普及状態を検証する
第 14 回	授業内試験とその解説、および家族の成立	試験とそのまとめ・解説、並びに中国における家族の成立を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で配布する資料、および各授業において紹介する参考文献に対する準備・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。
また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】
授業内テスト　100 %

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく説明することと、板書を丁寧に書くなどの学生からの要望について、これにでき得るがぎり応えたい。
現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】
授業開始時にＥメールアドレスを提示するので、質問などはメールにて受け付けることとしたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

山﨑　美保

授業コード：A3163　｜　曜日・時限：**金曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、東南アジア近世史（14 世紀～ 19 世紀）を概説する。いわゆる東南アジア諸国とは、ASEAN ＋１の 11 か国をいう。現在、東南アジアは１つの地域として存在感を持っているが、それぞれ言語や宗教が異なっており、政治史を軸とした１本の歴史として「東南アジア史」を叙述することは難しい。このことは、歴史的に形成されてきた、東南アジア地域の特徴といえる。この授業では、東南アジアの域内・域外のさまざまな勢力との関わりあいのなかで、現在の東南アジア諸国の領土的枠組みが形成されていく過程を学び、それぞれの地域的特性を理解できるようする。

【到達目標】
この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、東南アジア近世史（14 世紀～19 世紀）に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。
歴史的な知識を基盤として、現在の東南アジア地域の様々な問題を筋道立てて理解することができるようにする。
欧米を介した知識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「東南アジア」地域とは	自己紹介、授業の進め方を説明する。「東南アジア」という地域概念が形成されてきた過程を概説する。
第 2 回	マラッカ王国	港市国家マラッカの形成過程と構造を概説する。
第 3 回	アユタヤ（タイ）	アユタヤ史の展開を追う。
第 4 回	北方「タイ人」諸王国	現在の東南アジアと中国、インドのあいだに広がる山間盆地の状況を見る。
第 5 回	タウングー朝ビルマと周辺地域	現在のミャンマー地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 6 回	ベトナム	現在のベトナム地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 7 回	島嶼部の港市国家群	東南アジア島嶼部の 16～17 世紀の状況を見る。
第 8 回	大陸部における「大国」の形成	18 世紀の大陸部東南アジアを概観する。
第 9 回	ポスト・アンコールのカンボジア	アンコール王都放棄後のカンボジア史の展開を追う。
第 10 回	オランダ東インド会社のジャワ島支配	18 世紀のジャワ島の状況を見る。
第 11 回	海域の分割	19 世紀の島嶼部東南アジアを概観する。
第 12 回	陸域の分割	19 世紀の大陸部東南アジアを概観する。
第 13 回	植民地支配下の東南アジア	植民地支配下での東南アジア社会の変容を概観する。
第 14 回	まとめ、試験	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に配布資料やノートを整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次回の授業で質問できるようにまとめておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史 3 東南アジア近世の成立』2001 年、岩波書店
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 4 東南アジア近世国家群の展開』2001 年、岩波書店
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史 5 東南アジア世界の再編』2001 年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
配布資料における要点をより明確にする。

【Outline and objectives】
This class is aim to understand the early modern history (14th~19th century) and culture of Southeast Asia.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢　知絵

授業コード：A3164　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。
中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。
本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会，2013 年.（第 4・5 章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会，2016 年.
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣，2013 年.

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
②　期末レポート　70 %
授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of the modern Chinese economy. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and problems of China's economic growth.

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢　裕仁

授業コード：A3165　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】
高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。
中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。
青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	長安の都市と陵墓	前漢景帝陽陵の出土遺物
第 2 回	洛陽の都市と陵墓	洛陽墓葬の出土遺物
第 3 回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第 4 回	六朝期の文化 1	青磁の発展と越州窯
第 5 回	六朝期の文化 2	王羲之と書の発展
第 6 回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第 7 回	仏教文化 1	西域・敦煌・甘粛の仏教遺跡
第 8 回	仏教文化 2	雲崗・龍門・天竜山石窟
第 9 回	唐の長安・洛陽 1	隋唐の都市文化
第 10 回	唐の長安・洛陽 2	陵墓壁画と唐三彩
第 11 回	宋の文化	「清明上河図」と宮廷文化
第 12 回	宋元の陶磁器	白磁と青磁
第 13 回	明清の北京	故宮の建築美術
第 14 回	明清の陵墓建築	明の十三陵と清の東陵・西陵

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。
また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）には目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline and objectives】
On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

HIS200BE

東洋史特講Ⅴ

宇佐美　久美子

授業コード：A3166　｜　曜日・時限：**金曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。
ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。
さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。
学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

【到達目標】
海洋史研究の方法論を習得する。
遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。
環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更は学習支援システムでその都度提示する。本授業開始日は 4 月 24 日とする。授業方法などの詳細は学習支援システムを確認してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	インド洋交流史の枠組（その１）	海上交流の捉え方など
第 2 回	インド洋交流史の枠組（その２）	自然条件など
第 3 回	インド洋交流史の枠組（その３）	ダウ船について
第 4 回	インド洋交流史の枠組（その４）	時代区分・特産品など
第 5 回	スワヒリ社会の成立	スワヒリ社会の成立
第 6 回	スワヒリ地域とインド洋（その１）	スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシャ湾岸地域との交流
第 7 回	スワヒリ地域とインド洋（その２）	『キルワ年代記』
第 8 回	ポルトガルの進出（その１）	スワヒリ地域の事例
第 9 回	ポルトガルの進出（その２）	インド洋西海域の事例
第 10 回	スワヒリ地域とオマーン（その１）	オマーンについて
第 11 回	スワヒリ地域とオマーン（その２）	ザンジバルへの進出
第 12 回	スワヒリ地域とオマーン（その３）	インド洋奴隷貿易
第 13 回	インド人移民（その１）	19 世紀まで
第 14 回	インド人移民（その２）	20 世紀

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地図や年表を活用して、事前に対象地域の概略を押さえておく。
毎回、講義の復習を行い、必修項目を確認し身に付ける。
重要事項に関する予習・復習課題に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
家島彦一『海域から見た歴史―インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会　2006 年
富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』(世界史リブレット) 山川出版社　2008 年
この他にも講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、下記に示す当初の成績評価の方法と基準の内容も変更する。具体的な説明は授業開始日に学習支援システムに提示するとともに、オンライン講義で説明する。
【当初の成績評価の方法と基準】
不定期に実施する小テストなどの平常点 (50 %) と期末レポート (50 %) の評価を総合して成績を決定する。
小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。
期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱くきっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。
また、「東洋とは？」「東洋史とは？」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室において質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
This lecture deals with the historical development of maritime activities in the western part of the Indian Ocean.
It introduces how the long-distance maritime trade using dhows contributed to develop the vibrant interregional connection in the Indian Ocean World, from the Red Sea, the Arabian Peninsula, the Persian Gulf, to the west coast of the Indian Sub-Continent and to the east coast of Africa also known as Swahili coast.
Focuses are set on the historical development of this East African coastal communities.
It also deals with the various effects of arrival of European Powers, Portuguese and British and others in the Indian Ocean World.
The students will be provided the opportunity to speculate historiography further comparing their majoring subjects with the history of Indian Ocean World.

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

久野　美樹

授業コード：A3217　｜　曜日・時限：**木曜１限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア美術史。インド、中央アジア、中国の文化を絵画を中心とした造形から読み解きます。

【到達目標】
アジアの物質文化を視覚的、思想史的に学ぶことで、現在の各国の人々の考え方の理解につなげることができます。また日本文化がアジアからいかに影響を受けているかを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
4 月 23 日更新。本日、東洋史特講Ⅶの授業資料３点を配布しました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	上座部仏教と大乗仏教、その美術	仏教というアジアの精神世界の根幹を学びます
第 2 回	古代インド絵画史	アジャンタ石窟壁画
第 3 回	中央アジア絵画史	キジル、ホータンの壁画
第 4 回	古代中国の死生観	漢・三国の出土物と壁画
第 5 回	魏晋の絵画と理論	魏晋の絵画と絵画理論
第 6 回	南北朝期の墓葬美術	南北朝期の出土物と壁画
第 7 回	敦煌の美術：北魏	北魏の美術と思想
第 8 回	敦煌の美術：西魏	莫高窟第 285 窟の造形に中国人の精神世界をみます
第 9 回	敦煌の美術：大乗仏教の世界へ	画巻形式から大画面形式へ
第 10 回	敦煌の美術：極楽浄土の世界	日本の精神世界にも大きな影響を与えた阿弥陀信仰の美術
第 11 回	密教美術	曼荼羅の世界
第 12 回	大唐長安の栄華	唐の墓室からの出土物、壁画、日本の正倉院宝物から唐の文化を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記した参考図書で各２時間の準備学習・復習時間をしてください。物質文化の学習は
本物の作品を観察することが重要です。新型コロナの流行が去った後、東京国立博物館等を見学してください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
『世界美術大全集　東洋編』全 18 巻各国・時代別有　小学館　1997～2001、『中国の美術』昭和堂　2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局　2016、『増補新訂　カラー版東洋美術史』美術出版社　2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術　2012、『中国石窟　キジル石窟』全 3 巻　平凡社　1983～1985、『中国石窟　敦煌莫高窟』1 巻～3 巻 1980～1981、高田修『アジャンタ』平凡社　1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、『日本美術全集 3　東大寺・正倉院と興福寺』小学館　2013

【成績評価の方法と基準】
期末に提出するレポート 100 %。評価の内訳は、造形の観察ができているか 50 %、学習した内容に基づき論理の構築をして造形についての理解を示しているか 50 %。

4 月 23 日更新。レポートはテストに近い記述式です。授業の中でお見せした画像数点について記述式で解説していただこうと考えています。

【学生の意見等からの気づき】
より分かり易い授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
どのようなことでも遠慮なく質問メールをください。

【Outline and objectives】
Art History of Asia(India,Central Asia and China).

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

小澤　一郎

授業コード：A3218　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、サファヴィー朝 (1500-1722) から 20 世紀初頭までのイランの歴史を、主に「近代」にあたるガージャール朝（1798-1925）に力点を置いて学んでいきます。イランについてはイスラーム共和制という特異な政治体制や反米的外交姿勢が強調される傾向がありますが、そのような状況がいかにして生まれたのかは一般にほとんど注目されていません。この授業では現代の直接となる近代のイランの歴史を深く掘り下げることで、現代イランがいかにして成立したのか、その背景を明らかにします。また、イランの経験した近代はその歴史的前提から、おのずと日本の近代とは異なるものになりました。近代イランの歴史をを学ぶことで、我々が当たり前だと思っている「近代」という時代を再検討することも目指します。

【到達目標】
この授業によって、高校の世界史レベルでは断片的な情報しか得られないイランの歴史について、一つの明確な像を描けるようになることを目指します。これは現代のイランや中東地域を理解する助けになります。
欧米中心の見方を乗り越え、現地の視点からイランの歴史を見ることができるようになることを目指します。このことはイランだけでなく日本を含めた他地域の歴史を見直すうえでも大きな力となります。
イランを語るうえで不可欠なイスラーム・シーア派に関する知識を深め、イスラームに関する理解を広げ、深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度の授業は、当面の間オンデマンドでの教材配信による遠隔授業とし、既定の日時までに①テキストの該当部分を読み、②毎回の教材を視聴したうえで、③オンラインでリアクションペーパーを提出する、という手順で行います。質問がある場合もリアクションペーパーに記入してください。次回の授業の際に取りまとめてフィードバックします。また、授業の出欠もリアクションペーパーの提出をもって代えるので、忘れずに提出してください。
なお、教材を配信する本格的な授業開始は 5 月 1 日（金）からとしますが、4 月 26 日（日）に授業実施方法に関する詳細を学習支援システムにアップロードしますので、よく読んでおいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イランの自然・人文地理	授業の進め方を説明したのち、イラン高原を中心とする地域の自然・人文地理を概説する。
第 2 回	前提：シーア派①	イランで現在多数派となっているイスラームの宗派シーア派についてその成り立ちと特徴を抑える。
第 3 回	前提：シーア派②	イランで現在多数派となっているイスラームの宗派シーア派についてその成り立ちと特徴を抑える。
第 4 回	サファヴィー朝	サファヴィー朝の国家体制とその意義・問題点について扱う。
第 5 回	18 世紀のイラン	サファヴィー朝滅亡後、「地方の時代」とも評価される 18 世紀のイランについて扱う。
第 6 回	ガージャール朝①	サファヴィー朝滅亡後、「地方の時代」とも評価される 18 世紀のイランについて扱う。
第 7 回	ガージャール朝②	ガージャール朝前半期における対外関係について扱う。
第 8 回	ガージャール朝③	ガージャール朝の後半期の概要と、イランを取り巻く国際関係の変化について扱う。
第 9 回	ガージャール朝④	ガージャール朝後半期に試みられた国家体制の改革の試みとその問題点について扱う。
第 10 回	ガージャール朝⑤	ガージャール朝におけるイスラーム知識人と西欧的知識人について扱う。
第 11 回	ガージャール朝⑥	ガージャール朝後半期におけるイギリス・ロシアのイランへの進出と、それに対する抵抗運動を扱う。
第 12 回	まとめ	一連の授業を総括するとともに、近代日本との比較を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業のテキストと授業教材を使用して復習し、合わせて参考文献を読んで授業内容を整理してください。疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次回の授業のコメントシートで質問できるようにまとめておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
永田雄三編『イラン・トルコ』（世界各国史 9・西アジア史 2）、山川出版社、2002。
吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』、有志舎、2011。　など各回に該当する箇所の PDF ファイルを事前に学習支援システムにアップロードします。
これに加え、パワーポイントによる授業教材を使用します。

【参考書】
その他の参考書はダウンロードリンクを指定するか、該当箇所を PDF ファイルで学習支援システムにアップロードします。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出のリアクションペーパー（40 %）、期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
イランの歴史のみならず、現代情勢などについても適宜触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
配信する教材は最初の数回についてはパワーポイントのスライドショーを基本とし、大容量の動画教材などは使用しない予定です（受講者の通信環境やデバイスの保有状況によっては変更の可能性あり）。そのため、PC やタブレットがあれば受講可能です。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化によって変更される可能性がありますが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is to grasp the historical development of modern Iran. It mainly covers the history of Iran during the Qajar era (1798-1925), making reference to such important topics as the modernization reforms attempted by the Qajar government, the Great Power's Iranian policies, and the role of the Twelver Shia Islam in the history. Students will not only learn deeply about the history of modern Iran, but also develop their understanding about "modern" era in general. through the comparison between the Iranian case and that of the other country, e.g. Japan.

HIS200BE

西洋古代史

後藤　篤子

授業コード：A3143　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教が絡んだ対立は現代世界が抱える深刻な問題の一つです。この授業では、多くの神々が共存していた古代ローマの宗教世界の多様性、キリスト教の成立過程、および初期キリスト教世界が孕んでいた多様性について学び、宗教的対立を生みだす諸要因について考えます。

【到達目標】
古代ローマの伝統宗教に関する基本的知識を習得し、それが「国家宗教」と言われる理由を考察できる。さまざまな「東方密儀宗教」に関する基本的知識を習得し、それらが帝政前期のローマ社会に広がった理由を考察できる。キリスト教の成立過程に関する基本的知識を習得し、初期カトリシズムの形成について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
共和政期～帝政前期のローマ帝国の宗教世界について、ユダヤ教・キリスト教も含めて講述します。講義形式の授業ですが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質問やコメントに応える時間を設けます。また学期半ばで、古代ローマ人の死生観に関する討議（関連史料は事前に配布）の時間を取る予定です。
【追記】春学期は当面、学習支援システムの教材・課題・掲示板等の諸機能を使ってのオンライン授業となります。それに伴う授業計画の変更等については、学習支援システムで提示します。本授業の開始日は 4 月 24 日としますので、学習支援システムを必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ローマ史の基本的流れと「異教」という用語について
第 2 回	古代ローマの伝統宗教（1）	王政期～共和政期における神々の世界の拡大
第 3 回	古代ローマの伝統宗教（2）	ローマ人の宗教観と「国家宗教」
第 4 回	伝統と刷新	アウグストゥスの宗教政策と属州の状況
第 5 回	ローマ世界における東方密儀宗教（1）	ディオニュソス（バッコス）
第 6 回	ローマ世界における東方密儀宗教（2）	キュベレとアッティス、イシスとセラピス
第 7 回	ローマ世界における東方密儀宗教（3）	シリアの神々、ミトラス教、および古代ローマ人の死生観
第 8 回	帝政前期の宗教世界の多様性	多様性の背景と、支配層の対応
第 9 回	一神教の出現	ユダヤ略史と古代ユダヤ教の確立
第 10 回	キリスト教の成立（1）	紀元前後のユダヤの状況とイエスの運動
第 11 回	キリスト教の成立（2）	原始教会の成立とパウロ
第 12 回	初期キリスト教の展開	パウロ以後の状況
第 13 回	初期キリスト教世界の多様性	「異端」の出現と、初期カトリシズムの形成
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で使用するプリントは原則として 1 週間前に配布するので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の授業テーマに関連する参考文献などで下調べをしておくこと。授業後は、配布プリントやノートで復習し、疑問点や不明箇所があれば、プリント記載の参考文献を読むなどして、まず自分で調べる努力をすること。そのうえで残る疑問点・不明箇所については、授業時に質問して解決を図ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。授業時に講義内容のレジュメと関連史料・図版を記載したプリントを配布します。

【参考書】
小川英雄『ローマ帝国の神々―光はオリエントより』中公新書、2003 年。
加藤隆『一神教の誕生―ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書、2002 年。
後藤篤子「ローマ帝国における『異教』とキリスト教」、歴史学研究会編『地中海世界史 1・古代地中海世界の統一と変容』(青木書店、2000 年) 所収。
その他の参考文献は、授業の進行に合わせて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の授業が当面はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準については、授業開始日にその時点での方針を学習支援システムで提示します。その後に何らかの変更をする場合も、必ず学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
「時々（配布プリントの）どこを話しているか、分からなくなることがあった」というコメントがありました。話の進行がプリント記載の順序とずれる時などは、参照すべき箇所を言っているつもりなのですが、参照箇所の明示をより徹底するようにします。

【Outline and objectives】
This course deals with the religious worlds of ancient Rome, including ancient Judaism and early Christianity.

HIS200BE

西洋中世史

小沼　明生

授業コード：A3144　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の国際社会を理解するために不可欠な知識を中心に、古代ローマ世界の終わりから１５世紀までを扱います。巨大な文明の崩壊後、新しい世界の萌芽となる古代末から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生みだした中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。

【到達目標】
この授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。現代を生きる上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。
【追記】授業は４月２４日より行います。OATube での動画視聴と GoogleMeet でのやりとりを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	西洋前近代の歴史を学ぶこと
第 2 回	ローマ世界の終焉	民族大移動と古代の終わり
第 3 回	フランク王国の成立と発展	カールの戴冠と西ヨーロッパ世界
第 4 回	ローマカトリックの伝播	聖歌の成り立ちから見る典礼の成立
第 5 回	聖職叙任権闘争	カノッサの屈辱から見えること
第 6 回	十字軍	西ヨーロッパの拡大とその目的
第 7 回	中世の世界観	地図から見る世界観の変遷
第 8 回	サンチャゴ巡礼とレコンキスタ	巡礼の書と巡礼地の発展
第 9 回	教会建築の変化	ゴシック建築の誕生
第 10 回	黒死病と死の舞踏	パンデミックとその原因・結果
第 11 回	百年戦争	中世的国家の変質
第 12 回	中世の終焉とルネサンス	ルネサンスの源流を探る
第 13 回	宗教改革	ウィクリフから、フス、ルターまで
第 14 回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。
また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週４時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】
木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、２００８年

【成績評価の方法と基準】
学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：
出席と授業参加： 30
レポートＡ： 10
レポートＢ： 20
レポートＣ： 40

【学生の意見等からの気づき】
毎回課題に回答してもらいますが、正解を求めるというより想像力を働かせて推理するという気持ちでやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどでの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくとよいでしょう。

【Outline and objectives】
This is the lecture about European history focusing on the middle ages. The lecture, based on the basic knowledge of world history, begins with the post-Roman era and ends with the 15th century. Students in this class will get a historical point of view and the techniques to read historical texts critically.

HIS200BE

西洋近代史

中嶋　毅

授業コード：A3145　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

【到達目標】
近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業計画の変更が必要となる場合には、学習支援システムでその都度指示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、具体的なオンライン授業の方法などは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア帝国の形成（1）	ピョートル 1 世と帝国の形成
第 2 回	ロシア帝国の形成（2）	ピョートルからエカチェリーナへ
第 3 回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ 2 世とロシア帝国の発展
第 4 回	19 世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第 5 回	19 世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ 1 世と帝国の安定化
第 6 回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル 2 世の「大改革」
第 7 回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第 8 回	帝国の安定化	アレクサンドル 3 世からニコライ 2 世へ
第 9 回	日露戦争と 1905 年革命（1）	近代ロシアの危機
第 10 回	日露戦争と 1905 年革命（2）	「革命」と「反動」
第 11 回	第一次世界大戦とロシア帝国（1）	総力戦への対応
第 12 回	第一次世界大戦とロシア帝国（2）	専制体制と「対抗エリート」
第 13 回	全体のまとめ（1）	近代ロシアの特徴（1）
第 14 回	全体のまとめ（2）	近代ロシアの特徴（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】
和田春樹編『世界各国史 22　ロシア史』（山川出版社、2002 年）。田中陽兒・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全３巻（山川出版社、1994-97 年）。参考文献リストは授業時間に配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業中に課する課題の提出（50 %）と学期末レポート（50 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
An overview of modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

HIS200BE

西洋現代史

古川　高子

授業コード：A3146　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】
西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、特に多言語地域における国民国家の形成や地球全体にまたがる人の移動とそれらの歴史的変容過程を学ぶことで、現在の諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、多言語地域における国民形成に関する事例研究や政治文化等を交えて、西洋現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 2 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 3 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 4 回	自由主義と国民主義– 事例研究（1）ハプスブルク帝国	19 世紀後半における国民形成運動、多言語使用地域、「民族」対立
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	戦間期から第二次世界大戦直後までの国民形成– 事例研究（2）子供をいかにして国民とするか	多言語地域、国民的帰属への無関心、ユダヤ教徒の子供、連合国による国民化政策
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に用いない。

【参考書】
参考書は授業中に適宜指示する。
但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年　国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.
・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）.

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、筆記試験（80 %）による総合評価を行う。筆記試験は、ノート・レジュメのみ持ち込み可の論述試験とする。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記試験に臨むこと。試験は思考力と論理力を求めるものとなるため、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Understanding the meanings and roles of nations, ethnic groups and areas in world history of 19. and 20. century.
Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups.

HIS200BE

西洋史特講Ⅰ

後藤　篤子

授業コード：A3168　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教間の対立、さらには一神教内部で生じる対立は、現代世界が抱える深刻な問題の一つです。この授業では、多神教世界であったローマ帝国が「キリスト教化」していく過程、西洋史上の一大画期とされるコンスタンティヌス帝の「改宗」とその影響について学ぶことで、種々の宗教的対立を生み出す諸要因について考察します。

【到達目標】
ローマ帝国におけるキリスト教徒迫害の背景と変化について説明し、迫害の諸要因について考察できる。コンスタンティヌス帝の「改宗」をめぐる史料状況や諸説を知り、その「改宗」の性格について自分なりの考察ができる。帝政後期の宗教世界について説明し、キリスト教と国家権力との結びつきが与えた種々の影響について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進めますが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質問・コメントに応える時間を設けます。また、キリスト教徒迫害を伝える諸史料や、コンスタンティヌス帝の「改宗」をめぐる諸史料を使って、グループディスカッションを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	古代ローマの「宗教」観
第 2 回	１世紀後半～２世紀前半におけるローマ帝国とキリスト教	ネロ帝・ドミティアヌス帝の「迫害」、トラヤヌス・プリニウス往復書簡について
第 3 回	２世紀中葉～３世紀初頭におけるローマ帝国とキリスト教	『殉教者行伝』が伝える「迫害」と、諸史料を踏まえたグループディスカッション
第 4 回	「３世紀の危機」と宗教世界の変化 (1)	３世紀の諸帝の宗教的模索
第 5 回	「３世紀の危機」と宗教世界の変化 (2)	新しい宗教的心性―禁欲への志向
第 6 回	帝国によるキリスト教徒迫害の「終結」	最後のキリスト教徒大迫害とガレリウス帝の寛容勅令
第 7 回	コンスタンティヌス帝の「改宗」をめぐって (1)	「改宗」をめぐる史料状況と諸学説
第 8 回	コンスタンティヌス帝の「改宗」をめぐって (2)	コンスタンティヌス帝の諸政策からの考察
第 9 回	コンスタンティヌス帝の「改宗」をめぐって (3)	コンスタンティヌス帝の「改宗」をどう考えるかのグループディスカッション
第 10 回	皇帝の「改宗」のインパクト	ローマ帝国の「キリスト教化」の進展
第 11 回	帝政後期の「異教」世界	「異教」の終焉？
第 12 回	皇帝の「改宗」のキリスト教世界へのインパクト (1)	「正統」と「異端」の対立の先鋭化―ドナティズム
第 13 回	皇帝の「改宗」のキリスト教世界へのインパクト (2)	アリウス派問題
第 14 回	まとめ	古代キリスト教から中世キリスト教へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で使用するプリントは原則として１週間前に配布するので、記載されている関連史料を事前に読んだうえで授業に臨むこと。授業後は配布プリントやノートで復習し、疑問点や不明箇所があれば、プリント記載の参考文献を読むなどして、まず自分で調べる努力をすること。そのうえで残る疑問点・不明箇所については、授業時に質問して解決を図ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。授業時に講義内容のレジュメと関連史料を記載したプリントを配布します。

【参考書】
R. L. ウィルケン『ローマ人が見たキリスト教』三小田敏雄・松本宣郎・阪本浩・道躰滋穂子訳、ヨルダン社、1987 年。
松本宣郎『ガリラヤからローマへ―地中海世界をかえたキリスト教徒―』、山川出版社、1994 年。
島創平『初期キリスト教とローマ社会』、新教出版社、2001 年。
後藤篤子「キリスト教ローマ帝国における宗教闘争」、弓削達・伊藤貞夫編『ギリシアとローマ―古典古代の比較史的考察』河出書房新社、1988 年。
その他の参考文献は、授業の進行に合わせて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末リポート試験 90 %、平常点（質問、グループディスカッションでの発言等、授業への積極的参加度）10 %で評価します。期末リポート試験の具体的な論題と枚数、リポート内容の評価基準については、時間的余裕をもって事前公表しますが、参考文献からの引き写しに過ぎないリポートは不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度については、授業改善アンケートの回答率は 32.5 %で、平均を上回る評価が多かったものの、授業外学習の時間だけが平均を下回っていました。「前期の授業で行なったような、史料を読んで意見を共有するグループワークを 1 回はやってほしかった」というコメントもあったので、今年度は受講生が史料を事前に読んできてグループディスカッションする時間を設ける予定です。

【Outline and objectives】
This course deals with the persecutions of the Christians by the Romans, the 'conversion' of Constantine the Great, and the religious world in the 4th and 5th centuries.

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

小沼　明生

授業コード：A3169　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の西洋中世史では有名な事件やトピックを中心に紹介しましたが、後期のこの講義では西洋中世の社会構造や思考・行動の在り方を中心に見ていきます。時系列ではなく、社会を構成していた要素、つまり皇帝、国王、貴族、聖職者、都市、農民などに注目していきます。授業ごとに紹介する史料から、過去の社会を想像することを通じて理解を深めていきます。

【到達目標】
この授業には二つの目的を設定します。一つ目は西洋文化の基礎を作った時代である中世の歴史的知識を、またそれを通じて歴史的な見方・考え方を身につけます。二つ目は文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。西洋中世史を学ぶ上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	異世界としての中世・ルーツとしての中世
第 2 回	王と皇帝と教皇	中世的世界の成立とその本質
第 3 回	騎士と貴族の世界	貴族的社会と文化の成立と発達
第 4 回	修道院と修道士の世界 1	修道院の始まりとその発展
第 5 回	修道院と修道士の世界 2	托鉢修道会の成立と発展
第 6 回	ローマカトリック教会の発展	教会の構造とその発達
第 7 回	ローマカトリック教会の変質	教会分裂と公会議
第 8 回	都市の成立と発展	西洋における都市の成立過程とその特徴
第 9 回	手工業者と都市住民	手工業と手工業者の発展
第 10 回	ドゥームズデイブックと中世の農村	農村の形態と農民・領主関係
第 11 回	中世農村と農奴制	農奴制の成立と変化
第 12 回	西洋中世の貨幣と貨幣制度	貨幣単位の由来と互換関係、購買力
第 13 回	１４世紀の危機	黒死病の流行と中世後期の世界
第 14 回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。
また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週４時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】
木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、２００８年
甚野尚志『中世の異端者たち』世界史リブレット２０、山川出版社、１９９６年
朝倉文市『修道院にみるヨーロッパの心』世界史リブレット２１、山川出版社、１９９６年
河原温『中世ヨーロッパの都市世界』世界史リブレット２３、山川出版社、１９９６年
堀越宏一『中世ヨーロッパの農村世界』世界史リブレット２４、山川出版社、１９９７年など

【成績評価の方法と基準】
学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：
出席と授業参加： 30
レポートＡ： 10
レポートＢ： 20
レポートＣ： 40

【学生の意見等からの気づき】
毎回課題に回答してもらいますが、正解を求めるというより想像力を働かせて推理するという気持ちでやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどでの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくとよいでしょう。

【Outline and objectives】
This is the lecture about European history focusing on the middle ages. Its time scope is from the 5th through the 15th century and we will work on the society and culture of each social stratum in this era; emperors, kings and nobles, the clergy and monks, citizens and farmers. Students in this class will get a historical point of view and the techniques to read historical texts critically

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

篠原　琢

授業コード：A3170　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
冷戦終結から 30 年、中央ヨーロッパ諸国では、社会主義体制下で研究することが事実上禁じられていた現代史研究が大きく進展した。第二次世界大戦とホロコースト、住民追放の歴史は大きく塗り替えられ、この 10 年は社会主義の時代も歴史研究の対象となって、さまざまな問題が発見されるとともに、よりニュアンスん富んだ歴史像が提示されるようになった。ところが近年、それに対する揺り戻しのように、歴史は政治的に利用され、過去のできごとをめぐる議論は、社会的に感情的な反応を引き起こすようになった。授業では、現代史研究の進展と新しい研究視角を示した上で、「記憶の政治」の問題点とそのメカニズムを明らかにする。

【到達目標】
中央ヨーロッパの現代史研究は過去 10 年の間に目覚ましい進展を遂げた。その一方で、現代史のさまざまな問題をめぐって、過去の出来事は過度に政治化され、「記憶の政治」といわれる紛争が起こっている。授業では、第二次世界大戦と社会主義の歴史について、現代史研究の成果を理解した上で、「記憶の政治」の基本的な構図を把握することを目指す。こうして得られた視点によって、東アジアをはじめとする世界各地域の「記憶の政治の問題点を各自、考察する能力を獲得することが授業の最終的な目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進める。途中一回、授業で扱う中央ヨーロッパの記憶の政治と東アジアにおける記憶とを比較するグループ・ディスカッションの回を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：中央ヨーロッパにおける「記憶の政治」	中央ヨーロッパとはどのような地域を指し、また現代史においてどのような経験を辿ってきたのか、概説する。
第 2 回	「歴史家論争」と「ゴールドハーゲン論争」：ドイツ連邦共和国の自己理解とホロコースト	1980 年代後半から 1990 年代のドイツ連邦共和国における現代史、特にナチズムの過去をめぐる論争を検証する。
第 3 回	「東ヨーロッパ」における現代史像：受難の物語と英雄譚	社会主義時代の「東ヨーロッパ」における現代史の描き方の構図を検討する。
第 4 回	異論派の歴史像：「チェコスロヴァキア・ドイツ人」の追放問題	異論派が「公式史学」に対置した現代史論の独自性とその後の歴史論に与えた影響を考える。
第 5 回	歴史研究におけるドイツ系住民の追放問題 1	異論派の現代史論が歴史研究に開いた新たな地平について論じる。
第 6 回	歴史研究におけるドイツ系住民の追放問題 2	ドイツ系住民の追放問題について、研究の現状をまとめる。
第 7 回	ユダヤ人絶滅政策と中央ヨーロッパ 1 ：研究の進展	1990 年代以降の「絶滅政策」研究の進展の特徴について論じる。
第 8 回	ユダヤ人絶滅政策と中央ヨーロッパ 2 ：在地の反ユダヤ主義	東ヨーロッパにおける「体制転換」以後、盛んになった、「絶滅政策」の現場における反ユダヤ主義を検討する。
第 9 回	「ホロコースト」の記憶をめぐって：ポーランド共和国の場合 1.「哀れなポーランド人がゲットーを見つめている」	ポーランドにおける「絶滅政策」の記憶の転換点となったエッセーとそれが呼び起こした社会的な議論をたどる。
第 10 回	「ホロコースト」の記憶をめぐって：ポーランド共和国の場合 2.「隣人たち」	1999 年に刊行された『隣人たち』は、ポーランド社会における反ユダヤ主義の存在と「絶滅政策」への関与を明るみに出した。そのインパクトと問題点を検証する。
第 11 回	「ホロコースト」の記憶をめぐって：ポーランド共和国の場合 3.「ユダヤ人を救けたポーランド人たち」	ポーランドにおける「絶滅政策」研究の到達点を示すと同時に、保守的・弁明論的な記憶の政治を批判的に検討する。
第 12 回	「ホロコースト」の記憶をめぐって：チェコ共和国の場合	チェコ共和国における「絶滅政策」の記憶の政治を考える。
第 13 回	グループ・ディスカッション：競合する「犠牲者性」をめぐって	現代史における「記憶の政治」は、自国民の「犠牲者性」を競うものとして展開されてきた。中央ヨーロッパの例と東アジアの例を比較して考える。
第 14 回	まとめ：「ホロコースト」の特異性をめぐって	「犠牲者性」の競合のなかで「ユダヤ人」の犠牲は相対化されることが多くなった。はたして、「ホロコースト」の唯一一回性をめぐる議論は、アクチュアリティを失ったのだろうか。授業のまとめとして考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時に指示する。

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
グループ・ディスカッションの結果をレポートとして提出する： 30%
期末に提出する最終レポート： 70%

【学生の意見等からの気づき】
今年度がはじめての授業なので該当しない。

【Outline and objectives】
Since the end of the Cold War historical research on Central European contemporary history has made great achievements. History of the Second World War, the Holocaust, population expulsions, etc. has essentially revised in the last few decades. Now history of socialist countries has become to a subject to historical inquiry, and now historians can offer more detailed and nuanced image of it. On the other hand, history of the recent past is now politically utilized, and evokes very emotional reaction from society, as if it were a kind of backlash to the development of historical knowledge. This course will show the newest achievements of historiography on Central European contemporary history, and at the same time problematics and mechanism of the "politics of memory."

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤　紀恵

授業コード：A3171　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世西ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という 4 つの視角から検討する。対象とする時期は 16 世紀から 18 世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、16 世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追い、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。
リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。
☆４月２２日から授業支援システムを用いて授業をすすめます。お知らせ、課題など見落としがないようにきをつけてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会史とはなにか
第 2 回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第 3 回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第 4 回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第 5 回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第 6 回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第 7 回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第 8 回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第 9 回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第 10 回	緊張と排除 （1）	魔女
第 11 回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第 12 回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第 13 回	ディスカッション（2）	近代と排除
第 14 回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30 分）を準備すること。
ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えを A 4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに定めず

【参考書】
ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール―― 16 世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993 年ほか。
参考文献表を配布する。

【成績評価の方法と基準】
報告への評価（４０％）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（２０％）
エッセイ形式の期末試験（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、受講生はあまり活用していないことに気がつきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思います。

【その他の重要事項】
☆４月２２日から授業支援システムを用いて授業をすすめます。お知らせ、課題など見落としがないようにきをつけてください。

【Outline and objectives】
Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

HIS200BE

西洋史特講Ⅴ

高澤　紀恵

授業コード：A3172　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2020 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、見えないもの（信仰）の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「ポリス」といった概念が、どのような歴史的現実の中で育まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つめは、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	市庁舎を歴史する
第 8 回	建物を読む（2）	市庁舎でなぜ闘う？
第 9 回	建物を読む（3）	市庁舎でなぜ祝う？
第 10 回	建物を読む（4）	市庁舎をなぜ守る？
第 11 回	ディスカッション	自治と公共性をめぐって
第 12 回	見えないものを読む（1）	都市と信仰、都市の信仰
第 13 回	見えないものを読む（2）	秩序維持と信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
吉田伸之・伊藤毅（編）『伝統都市　全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる――ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度のクラスでは、ディスカッションに際して多くの学生がよく考えて準備してくれたと思いますが、2020 年度は短時間のディスカッションを頻繁に行うスタイルと組み合わせることで、より能動的に学生が参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】
This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, police, religion, and labor. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

高田　馨里

授業コード：A3173　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋史特講 VI の主題は、「アメリカと戦争」である。植民地初期から 21 世紀に至る現在まで、戦争がアメリカ合衆国を形作り、政治、経済、社会、文化に影響を与えてきた。またアメリカの指導者たちは、しばしばキリスト教的「正戦」論を唱え、市民を動員してきた。この授業では、植民地時代から 19 世紀末までの時期について、さまざまな資料を紹介しながら、戦争に焦点を当てることで、政治、経済、社会的な変動や変革を学ぶと同時に、国家への忠誠とアメリカ市民の問題についても検証する。

【到達目標】
・本授業の到達目的は、アメリカと戦争をテーマに、アメリカ政治、経済、社会、文化、外交を包括的に学ぶことである。
・西洋史を学ぶ学生も日本史を学ぶ学生も、この授業を通じて、自分の専攻にとどまらず幅広い学識、比較史的な方法論、世界史的な視野を得ることができる。英米文学を学ぶ学生も歴史的知識やアメリカ的価値観を学ぶことが可能である。さまざまな専攻の学生の参加を歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年 5 月 7 日（木）より、授業支援システムを用いた資料配配信型授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカと戦争を考えるとは？
第 2 回	植民地時代における戦争	メタカム戦争・ナサニエル・ベーコンの反乱など植民地初期の先住民との関係、奴隷制の確立などを考える
第 3 回	フレンチ＝インディアン戦争	イギリスとフランスによる世界戦争の一部として行われた戦争の意義を考える
第 4 回	アメリカ独立戦争	アメリカ国内の内部分裂問題と戦争が建国後のアメリカに与えた影響を考える
第 5 回	1812 年の戦争（アメリカ＝イギリス戦争）	ヨーロッパにおけるナポレオン戦争と連動した戦争がアメリカ社会に与えた影響を考える
第 6 回	領土拡張と平原インディアン戦争	1812 年の戦争後に本格的な領土拡張時代を迎えたアメリカと先住民の関係を考える
第 7 回	自由州と奴隷州の対立	ハイチ革命後の奴隷反乱以降の奴隷制をめぐる南北の対立原因を考える
第 8 回	アメリカ＝メキシコ戦争	自由州と奴隷州のバランスが崩壊することになった戦争とジョン・ブラウンの反乱の意義を考える
第 9 回	南北戦争（1）	サムター要塞の戦いから始まった南北戦争における最高司令官としてのリンカンと国家権力の拡大を考える
第 10 回	南北戦争（2）	シャーマンの「海への進軍」からみる「殲滅戦争」としての「アメリカの戦争様式」を考える
第 11 回	再建期南部	南部「民主化」のための軍政支配と新しい人種秩序の形成について考える
第 12 回	世界的国家統一戦争とアメリカ	南北戦争と同時期に起こったイタリア、ドイツ、日本の「国家統一戦争」におけるアメリカの影響を考える
第 13 回	インディアン征服戦争からアメリカ＝スペイン戦争へ	帝国主義戦争の時代の人種的「殲滅戦争」の展開を考える
第 14 回	20 世紀の戦争へ	日米関係を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業支援システムにアップする資料を読んでおくこと。授業後のまとめとして課題を提出すること（【成績評価の方法と基準】を参照すること）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。

【参考書】
和田　光弘『植民地から建国へ 19 世紀初頭まで』岩波新書、2019 年；貴堂　嘉之『南北戦争の時代　19 世紀』岩波新書、2019 年；ケネス・ヘイガン/イアン・ビッカートン（高田馨里訳）『アメリカと戦争　1775-2010,「意図せざる結果」の歴史』大月書店、2010 年。

【成績評価の方法と基準】
採点は、授業のフィードバック（コメントペーパーや授業支援システムで提出する宿題など）40 %、中間課題 20 %、学期末課題 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用するので、対応可能にしておくこと。

【その他の重要事項】
欠席するときは、大学所定の欠席届を提出すること。

【Outline and objectives】
In this lecture, we focus on "the United States and Wars." From the early colonial era to the twenty-first century, wars have effected and affected American politics, economy, society, and culture.We consider the changes and reforms of the United States, dealing with various materials like primary sources and other materials on each wars. At the same time, the government acquired citizens and immigrants to show their loyalty. Considering war means to deliberating the certification of American citizenship.

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

高田　馨里

授業コード：A3174　｜　曜日・時限：木曜２限
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、20 世紀初頭から 21 世紀にかけて、アメリカが関与した戦争を中心に、アメリカ合衆国の歴史、政治、経済、社会、文化、外交を包括的に学ぶことを目的としている。20 世紀のアメリカの戦争は、「超大国」アメリカを作り出す一方で、国内における差別への内省を促し、また社会変革をもたらした。アメリカと戦争の連関を理解することで、現代アメリカへの造詣を深めてほしい。

【到達目標】
・本授業の到達目的は、アメリカと戦争をテーマに、アメリカ政治、経済、社会、文化、外交を包括的に学ぶことである。
・西洋史を学ぶ学生も日本史を学ぶ学生も、この授業を通じて、自分の専攻にとどまらず幅広い学識、比較史的な方法論、世界史的な視野を得ることができる。英米文学を学ぶ学生も歴史的知識やアメリカ的価値観を学ぶことが可能である。さまざまな専攻の学生の参加を歓迎する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワーク（資料講読やディスカッション）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション－日本とアメリカ	20 世紀初頭の帝国主義の時代において帝国化した日本とアメリカの関係を考える
第 2 回	ヨーロッパの紛争と大量移民の発生	アフリカ分割、オスマン帝国の弱体化、バルカン戦争、ユダヤ人迫害などヨーロッパの紛争による大量移民問題を考える
第 3 回	第一次世界大戦とアメリカ社会	ウィルソン大統領の「正戦」論ともいえる「宣教師外交」と国内における移民・黒人・先住民の「国民化」プロセスを考える
第 4 回	戦間期の世界とアメリカ	「危機の 20 年」と論じられた戦間期におけるアメリカ外交二つの潮流―国際主義と孤立主義―を考える
第 5 回	第二次世界大戦と「アメリカの戦争様式」	南北戦争における「殲滅戦争」は第二次世界大戦における戦略爆撃へと引き継がれた経緯を考える
第 6 回	米ソ冷戦の時代	軍政による民主化が実践された日本とドイツの占領政策の現代的意義について考える
第 7 回	朝鮮戦争と第三世界の出現	東西に分裂した世界において本格的に行われた初めての「代理戦争」である朝鮮戦争の意義について考える
第 8 回	中東戦争の火種	第二次世界大戦後にアメリカが協力に支持したイスラエル建国と中東諸国との対立構造を考える
第 9 回	ヴェトナム戦争	植民地独立戦争から民族統一戦争へと転化したヴェトナムへのアメリカの関与とその結果について考える
第 10 回	新冷戦から冷戦の終結へ	ヴェトナムでの敗北によるアメリカ社会の停滞を打開しようとした「保守派」の台頭と冷戦終結への経緯を考える
第 11 回	民族紛争とアメリカ合衆国	冷戦終結は平和ではなく民族紛争をもたらした。イラクのクウェート侵攻に始まる湾岸戦争、アフリカ、アジアの内戦へのアメリカの関与を考える
第 12 回	9.11 の衝撃	同時多発テロがもたらした世界的な衝撃とその後の対アフガニスタン・イラク戦争について考える
第 13 回	「悪の枢軸」とは何か？	歴代共和党政権が名指してきた「悪の帝国」や「悪の枢軸」とは何か、新冷戦、9.11、トランプ政権による対イラン政策を軸に考える
第 14 回	総論　アメリカと戦争	アメリカ社会に深く根差した戦争について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業支援システムにアップする資料を読んでおくこと。授業後のまとめとして課題を提出すること（【成績評価の方法と基準】を参照すること）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。

【参考書】
中野耕太郎『20 世紀　アメリカの夢』岩波新書、2019 年；高田馨里編『航空の二〇世紀　航空熱・世界大戦・冷戦』日本経済評論社、2020 年；ケネス・ヘイガン／イアン・ビッカートン著（高田馨里訳）『アメリカと戦争』大月書店、2010 年。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価の方法と基準】
採点は、授業のフィードバック（コメントペーパーや授業支援システムで提出する宿題など）40 %、中間課題 20 %、学期末課題 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
西洋史 VII では、講義に加えてさまざまなドキュメンタリー映像資料を用いたが、それらが理解に役立ったようなので、活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用するので、対応可能にしておくこと。

【その他の重要事項】
実習などやむを得ず欠席するときは、大学所定の欠席届を提出すること。

【Outline and objectives】
In this lecture, we focus on Wars that the United States have waged, and learn American history,politics, economy, society,culture and foreign relations comprehensively. On one hand, the wars of the 20th century made the United States a super power, on the other hand,these wars triggered the reconsideration of discrimination and repression towards minorities, and brought social reforms. Learning the relations between war and American society, students can understand contemporary American society and culture.

HIS200BE

西洋史特講Ⅸ

大和久　悌一郎

授業コード：A3219　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代の西洋史において重要な論点の一つは、福祉や慈善、あるいは社会政策である。そこでは、国家による政策のみでなく、社会状況や市民による自主的な活動など、多様な角度から貧困や失業に取り組もうとする人々の姿が取りあげられてきている。本講義では、特に２０世紀半ばにいわゆる「福祉国家」を提唱して実現し、そののちサッチャー主義を始めとする改革を受けて現在に至るイギリスの事例から、福祉国家を軸に、人々の生活や国家のあり方を含めて、近現代における市民社会の性格に迫っていきたい。

【到達目標】
講義をつうじて、イギリス史を中心に、西洋近現代の状況についての知見を得ることができます。また、近現代イギリスについては、政治・経済・社会についての歴史的経緯をふまえた説明や、国際比較における議論をすることができます。とくに、社会政策などについての基本的な知見を得、福祉政策や財源などについての一般的な考え方を踏まえた議論ができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に、各回ごとにプリントを配布し、その内容に沿った講義を行います。またスライドやパワーポイントで映像資料によるイギリスの紹介なども随時おこないます。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布し、質問などをいただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イギリスの現在の地理について
第 2 回	イギリスの歴史と地理１　近世	宗教改革から名誉革命まで
第 3 回	イギリスの歴史と地理２　近代	産業革命と大英帝国、EU まで
第 4 回	イギリスにおける福祉国家の起源１　近世	救貧法から１８世紀における慈善まで
第 5 回	イギリスにおける福祉国家の起源２　産業革命以後	１９世紀における慈善活動と、貧困とのたたかい
第 6 回	イギリスにおける福祉国家の起源３　20 世紀初頭	チャーチルとロイド＝ジョージを中心に
第 7 回	イギリスにおける福祉国家の起源４　20 世紀中葉	二度の世界大戦と社会変容
第 8 回	イギリスにおける福祉国家１　構想	ベバレッジ報告を中心に
第 9 回	イギリスにおける福祉国家２　政策と実現	ケインズ主義と福祉国家について
第 10 回	イギリスにおける福祉国家３　停滞	イギリス病と福祉国家について
第 11 回	イギリスにおける福祉国家４　破綻から改良へ	サッチャー主義の挑戦
第 12 回	イギリスにおける福祉国家５　見直し	ブレア政権の改革と現在
第 13 回	ブレグジット前後の社会と福祉	イギリスの現在の経済・社会と福祉政策について
第 14 回	福祉国家論の現状と課題	これまでのまとめと今後の課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必須ではありませんが、事前に世界史、とくに西洋近現代史についての予習をしておくことを推奨します。授業後は、プリントに掲載した参考文献を図書館などで読むことを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示します。

【参考書】
イギリス現代史の概説書としては、長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017 年。ピーター・クラーク著、市橋秀夫他訳『イギリス現代史　1900 − 2000』名古屋大学出版会、2004 年、など。イギリスの福祉国家については、パット・セイン著、深沢和子、深沢敦監訳、『イギリス福祉国家の社会史　経済・社会・政治・文化的背景 (MINERVA 福祉ライブラリー)』ミネルヴァ書房、2000 年。二宮元『福祉国家と新自由主義　イギリス現代国家の構造とその再編』旬報社 2014 年、など。
また、授業内で適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%、期末試験 40%（平常点は授業内で配布するコメントシートの内容を含む）。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline and objectives】
Welfare policy is so important in British history, and also for Japanese. In this lecture, I will discuss the process of making and changing of welfare-state in Britain, especially in 20th century. From New Liberalism in early 1900s to Beveridge Report and Keynesian economic model in WWII, and British welfare state after the war. After that, we will talk about the changing of welfare state itself, so discuss situation of “winter of discontent” in 1970s, and the rise of Thatcherism in 1980s to 1990s, also so-called globalization in 1990s to 21st century. With analysis of social and cultural situation in each era, we will consider the political and economic character of 20th century.

HIS100BE

日本史序説 I

川上　真理

授業コード：A3212　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、芸能と儀礼の場に注目して日本の歴史を学び、それを東アジアとの関係性の中で理解します。その際に、歴史史料の読解を通じて、歴史を多面的に見る目を養います。

【到達目標】
日本史の流れを、文化の視点から理解できるようになります。
事実を検証する姿勢と手法が身につくようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画に基づいてプリントを配布して、その内容を説明しながら授業を行います。各回とも、授業の感想・意見・質問等を書くリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容を次回の授業で紹介し、課題や関心を受講生の間で共有して進めていきます。また、中間まとめでは、歴史史料を用いて受講生全員での質疑応答を行います。
上記の方法で進める予定でしたが、春学期の開講当初はオンライン授業となるため、授業計画も変更します。変更の内容については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスを用いたガイダンス／歴史とは何か、芸能とは何か
第 2 回	入門（1）	日本の文字社会
第 3 回	入門（2）	日記を読む
第 4 回	古代（1）	在来楽と外来楽
第 5 回	古代（2）	笛をめぐる宮廷の秩序化
第 6 回	中世（1）	琵琶をめぐる天皇の権威化
第 7 回	中世（2）	笙をめぐる家の分立
第 8 回	中世（3）	民間芸能の展開
第 9 回	中間まとめ	史料講読と質疑応答
第 10 回	近世（1）	芸能者と身分制
第 11 回	近世（2）	儀式と芸能
第 12 回	近世（3）	庶民と芸能
第 13 回	近代（1）	儀式と「文明国」
第 14 回	試験・まとめと解説等	授業のまとめ/授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習します。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館見学等）によって得られた知見を補足します。
・史料を選択し分析します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布します。

【参考書】
○『岩波ジュニア新書　日本の歴史』全 9 巻、岩波書店、1999〜2000 年、￥780 ＋税。
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000 年、￥700 ＋税
○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史 00）講談社、2000 年、￥2,200 ＋税
○佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017 年、￥2,500 ＋税。
その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）、中間まとめ（25 %）、試験（50 %）で評価します。
上記の予定でしたが、春学期の開講当初がオンライン授業となることにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
各回の目的を明瞭に示します。

【その他の重要事項】
著しい遅刻は欠席とみなします。
質問は授業の前後に教室で受け付けます。

【Outline and objectives】
We learn the Japanese history by the performing art and ritual, on relationship with east Asia. So, we'll have multifaceted points of view by reading documents.

HIS100BE

日本史序説Ⅱ

齋藤　智志

授業コード：A3213　｜　曜日・時限：**月曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際に、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代の特徴がどのような視点から描かれてきたかを考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識や考え方を身につけることを目的とします。

【到達目標】
日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業（第 2 回～第 12 回）は前半・後半に分けます。前半は時代の概観をおこない、後半はテーマを定めてそれぞれの時代の多角的な捉え方について学びます。
プリントとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する課題に取り組みます。
毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概論	授業方針について 歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第 2 回	文化の黎明と国家形成	日本列島における文化の黎明 日本の黎明の描かれ方
第 3 回	古代の国家と社会	律令国家の成立と変容 復元される古代
第 4 回	中世社会の成立	院政から武家政権へ 絵巻物から見る中世社会
第 5 回	中世社会の諸相	室町・戦国時代の動乱 戦乱の時代の英雄像と庶民像
第 6 回	幕藩体制の成立	江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 江戸ブームの歴史と現在
第 7 回	幕藩体制の動揺	社会の変動と幕政改革 村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第 8 回	近代国家の形成	明治維新と立憲国家の成立 明治イメージの諸相
第 9 回	近代国家の展開	デモクラシーと帝国主義 帝国を見せる：第五回内国勧業博覧会
第 10 回	近代の社会と文化	明治・大正期の文化変容と工業化 伝統文化の発見：文化財保護前史
第 11 回	第二次世界大戦と日本	軍部の台頭と総力戦 戦時下の雑誌を読む
第 12 回	戦後日本の歩み	戦後改革と高度経済成長 戦後の戦争観
第 13 回	歴史叙述の歴史と現在	日本の歴史はどのように描かれてきたか 現代社会のなかの歴史
第 14 回	まとめと試験	授業全体のまとめ 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるプリントは、原則として前の回の授業で配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はプリントを読み返して復習し、内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。配布するプリント等を用いて授業を行います。

【参考書】
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000 年
藤井譲司・伊藤之雄編著『日本の歴史　近世・近現代編』ミネルヴァ書房、2010 年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全４巻）山川出版社、2016 年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、試験 60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
より双方向的な授業となるよう工夫します。

【その他の重要事項】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline and objectives】
This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

HIS100BE

東洋史序説

塩沢　裕仁

授業コード：A3214　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界史的な視点から東洋の独自性と人類社会の普遍的な営みを概観・考察することで、21 世紀の世界において極めて重要な役割を果たすことになるアジアという地域の歴史、民族などに対する知識の拡大を図り当該地域に対する理解を促進することができます。

【到達目標】
アジアという地域の歴史に対して，これまでとは違ったものの見方，考え方，接し方，ひいては世界史上の新たな歴史認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ，時間的・空間的に地域相をとらえながら，世界史の流れの中にみるアジア世界、特に東アジアの歴史とその問題点への理解を深めてもらいたいと思います。
本年度は、5 月 7 日（木）より、授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業のねらいと参考書などの紹介
第 2 回	文明発生論と新石器時代の文化	文明の一元・多元発生論、並びに新石器時代の諸問題
第 3 回	草創期の国家	夏・殷・周三代王朝の性格と研究の現状
第 4 回	春秋戦国時代の意義	封建制度の問題と文化変革期としての春秋戦国時代
第 5 回	統一王朝の成立	秦始皇帝の統一と崩壊、並びに漢帝国の成立と拡大
第 6 回	東アジアが経験した最初の民族問題	三国世界の崩壊、並びに五胡十六国、南北朝の盛衰と諸問題
第 7 回	東アジアの国際化	隋唐王朝の盛衰と大運河・シルクロードをめぐる流通問題
第 8 回	経済国家宋の登場	時代区分論における宋登場の意義と宋の経済・文化
第 9 回	北アジア遊牧民族Ⅰ	モンゴル帝国登場以前の草原遊牧騎馬民族の興亡
第 10 回	ベトナム王朝国家の成立	秦漢から唐までの中国支配とベトナム独立王朝の成立
第 11 回	中央アジアオアシス国家の興亡	タクラマカン砂漠におけるオアシス国家の興亡とその性格
第 12 回	朝鮮半島の諸王朝	朝鮮半島における王朝興亡史（渤海を含む）と現在の朝鮮半島
第 13 回	北アジア遊牧民族Ⅱ	モンゴル帝国の盛衰と北京
第 14 回	明・清と東アジアの近代社会	中国近代社会の様相と西洋世界との接触

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特定の教科書は使用しませんが、講談社『ビジュアル版世界史』シリーズの内、『5、中国文明の成立』『8、東アジアの世界帝国』『17、東アジアの近代』『12、東南アジア世界の形成』などには目を通しておいてもらいたいと思います。写真や図版が多用されており比較的理解しやすい参考書であると思いますので。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜教材としてプリントは配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして講談社『ビジュアル版世界史』シリーズや『東アジア史入門』（布目潮渢・山田信夫著、法律文化社、1995 年改訂版）、『中国の歴史　上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・冨谷至、昭和堂、2009 年改訂版）を紹介しておきます。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。欠席は理由の如何を問わず自己責任とします。欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】
On a survey of the Oriental identity and development from perspectives of the World History,we will be able to understand the various issues on the Chinese History, the Asian Peoples and Culture.

HIS100BE

西洋史序説

志内　一興

授業コード：A3215　｜　曜日・時限：**木曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】
歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようになることを目指します。
また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。
最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、第２週（4 ／ 30）の開始を目指して準備を進めています。
授業の進め方については、方針が固まり次第またお伝えします。
「学習支援システム」に「お知らせ」として掲示する予定です。
各回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、それまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。毎回リアクションペーパーを配布しますので、質問やみずからの考えを記してください。随時授業内小レポートを課すこともあります。その内容に応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第 2 回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ
第 3 回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第 4 回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第 5 回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：付　歴史的事実の解釈について
第 6 回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ピレンヌ・テーゼ」「アナール学派」
第 7 回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第 8 回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第 9 回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第 10 回	文明の衝突？　：中世シチリア王国と「１２世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える

第 13 回	16 世紀：ハプスブルクの時代	中世から、近世・近代への転換
第 14 回	授業の総括	授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。
また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。

【参考書】
参考文献は、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価（40 %）、および学期末の筆記試験ないしレポート（60 %）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】
授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuchi@rku.ac.jp までメールをください。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the modern era.The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

HIS200BE

美術史（日本）A

稲本　万里子

授業コード：A3176　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ
日本彫刻史概説
授業概要
飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を中心に、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。
授業の目的・意義
作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。

【到達目標】
・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史と仏教彫刻についての概説をおこなったうえで、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテクストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。
緊急事態宣言による変更点
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	仏教彫刻の見方	尊像名と図像
第 4 回	飛鳥時代の仏教彫刻Ⅰ	法隆寺金堂釈迦三尊
第 5 回	飛鳥時代の仏教彫刻Ⅱ	法隆寺救世観音像と百済観音像
第 6 回	白鳳時代の仏教彫刻	薬師寺薬師三尊像の制作期
第 7 回	天平時代の仏教彫刻	塑像と脱活乾漆造
第 8 回	天平時代の工芸	正倉院宝物
第 9 回	天平・平安時代の仏教彫刻	木彫の成立
第 10 回	平安時代の仏教彫刻Ⅰ	東寺講堂諸尊と両界曼荼羅
第 11 回	平安時代の仏教彫刻Ⅱ	平等院鳳凰堂の世界
第 12 回	鎌倉時代の仏教彫刻	運慶と快慶
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	飛鳥時代～鎌倉時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。
緊急事態宣言による変更点
水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』（岩波書店、1985）を教科書として使用する。
図書館が使えないので、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001）の図版も参照してもらいたい。

【参考書】
参考図版として、『奈良六大寺大観』全 14 巻（岩波書店、1968～1973）、『大和古寺大観』全 7 巻（岩波書店、1976～1978）、『平等院大観』全 3 巻（岩波書店、1987～1992）。
入門書として、水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』（岩波書店、1985）、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の冷暖房についての苦情は教授室へ。講義用のスライドの映写は黙認されているが、所蔵者の許可がなければ学生に配布することはできないので、試験対策には参考図版を見てもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はなし。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【Outline and objectives】
In this class, basic knowledge will be explained mainly on Buddhist sculptures from the Asuka period to the Kamakura period. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles.
Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style.

HIS200BE

美術史（日本）B

稲本　万里子

授業コード：A3177　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ
日本絵画史概説
授業概要
平安時代から江戸時代の絵画作品を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても講義する。
授業の目的・意義
作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造を理解することも目標にする。

【到達目標】
・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。
・日本美術史における和漢の二重構造について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史についての概説をおこなったうえで、平安時代から江戸時代の絵画作品を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテクストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか解説するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。さらに、中国絵画の模倣からはじまった日本の絵画が、平安時代にオリジナルバージョンを確立したあとも、和と漢の二種類の作品を併存させていたことの意味を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	平安時代の絵画Ⅰ	やまと絵と唐絵
第 4 回	平安時代の絵画Ⅱ	女絵と男絵
第 5 回	平安・鎌倉時代の絵画Ⅰ	来迎図
第 6 回	平安・鎌倉時代の絵画Ⅱ	六道絵
第 7 回	鎌倉・南北朝時代の絵画	肖像画
第 8 回	室町時代の絵画Ⅰ	水墨画
第 9 回	室町時代の絵画Ⅱ	やまと絵屏風
第 10 回	室町・桃山時代の絵画Ⅰ	狩野派
第 11 回	室町・桃山時代の絵画Ⅱ	土佐派
第 12 回	桃山・江戸時代の絵画	琳派
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	平安時代～江戸時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】
参考図版として、『原色日本の美術』全 32 巻（小学館、1966～1972）、『日本美術全集』全 25 巻（学習研究社、1977～1980）、『日本美術全集』全 25 巻（講談社、1990～1994）、『日本美術全集』全 20 巻（小学館、2012～2016）。
入門書として、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』（美術出版社、1991）、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史年表』（美術出版社、2002）、古田亮編著『教養の日本美術史』（ミネルヴァ書房、2019）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の冷暖房についての苦情は教授室へ。講義用のスライドの映写は黙認されているが、所蔵者の許可がなければ学生に配布することはできないので、試験対策には参考図版を見てもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はなし。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【Outline and objectives】
In this class, I will cover paintings from the Heian period to the Edo period and explain the basic knowledge. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles. In the fall semester, we will also give a lecture on the dual structure of Japanese and Chinese.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. In the fall semester, students will also understand the dual structure of Japanese and Chinese.

GEO100BF

地理学概論（1）

小寺　浩二

授業コード：A3401　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎を確認する点にある。この講義の目標は、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認すること、あるいは復習すること、2. 高校の地理と大学の地理学との違いを意識しつ理解に努めること、3. 自然地理学を中心とする導入部分を学ぶこと、の 3 点にある。

【到達目標】
高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の地理と大学の地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身につけ、今後の学年進行に伴う学習の土台に寄与するよう、しっかりとした能力を見につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この地理学概論（1）は春学期に開講し、1 名の教員が半年間講義を担当する。
・太陽系惑星の一つであるこの地球の誕生過程について考える。
・地球の内部の構造と、地表面の形態である地形の成り立ちについて説明する。
・気候・気象現象の生ずる根本的な背景について考究する。
・地球上の各気候帯の違いによる植生や土壌の多様性を理解する。
・地球上に認められる気候の地域区分と気候の分類の思潮の変遷を知る。
・地球上の水循環・水収支を理解し、水資源や洪水などを巡る様々な問題について解説する。
・人間の生活の場として自然環境を捉え、自然史、生物多様性、生態系などについて解説し、地球温暖化や越境汚染など、様々な環境問題や自然環境の変化について講義する。なお、本講義の性格上、講義が中心となるが、受講生の理解度をはかるために適宜、自宅学習の課題、講義内小テスト、講義の要点と質問記述のリアクションペーパー配布などを実施する。
授業は、4 月 23 日に開始し、毎週、Zoom 授業を行う。
Zoom 授業はこちらから
https://zoom.us/j/94323428410　　ミーティング ID: 943 2342 8410

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と自然地理学	系統地理学と地誌学、自然地理学分野について説明する。
第 2 回	地球惑星科学と（自然）地理学	地球惑星科学の一分野としての（自然）地理学について、最新の研究成果を踏まえて説明する。
第 3 回	気候①＜大気大循環と気候要素・因子＞	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する。
第 4 回	気候②＜世界の気候区分と気候変動＞	ケッペンをはじめとした様々な気候区分について説明し、気候変動や気候の変化について説明する。
第 5 回	気候③＜日本の気候と局地気候＞	日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第 6 回	地形①＜世界と日本の地質・大地形＞	地質年代、世界の地質、プレートテクトニクス、日本の地質構造と造山運動、火山分布について。
第 7 回	地形②＜第四紀と山地の地形＞	第四紀、氷河・周氷河地形、山地と丘陵地、変動地形、河谷と水系、地形の「営力論」について。

第 8 回	地形③＜平野と海岸の地形＞	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形、平野の開発と改変、「地形発達史」概念について。
第 9 回	水文①＜水循環と流域＞	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、河川学の基礎について。
第 10 回	水文②＜地下水と湖沼＞	水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について。
第 11 回	水文③＜雪氷と海洋＞	陸水中最も多い雪氷と地球上の水のほとんどを占める海洋について。
第 12 回	植生＜植生分布・植生景観・文化＞	世界の植生分布、日本の植生分布、原植生の衰退・日本の植生景観・アジアと日本の森林と文化について。
第 13 回	自然災害と応用自然地理	地震・火山・気象・土砂・洪水・高潮などの自然災害と自然地理学の応用について。
第 14 回	環境問題と応用自然地理	地球規模から身近なものまで様々な環境問題、それらに対する自然地理学の応用的な側面について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で扱う内容に関するテキスト（高等学校の「地理」の教科書と地図帳．もし手元にない場合には、別途に入手することが望ましい）の該当箇所を予め読んだ上で受講すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは、小寺浩二 (2020)『自然地理学概論（1）』通信教育部テキストを用いるが、参考書として各自、高等学校で使用した「地理」の教科書があればそれを持参してもらいたい。ただし、手元にない場合には購入することが望ましい。また、帝国書院『新詳高等地図』や『新詳地理資料』なども、この機会に購入するを推奨する。

【参考書】
必要に応じてその都度講義内で紹介する。しかし、各自、適宜、図書館や地理学科事務室の図書を閲覧して読むことが肝要である。とくに高等学校で地歴科「地理」を履修していない場合には、この点に努めて欲しい。

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・試験で総合的に評価する。平常点は、毎回の講義のまとめとコメントで評価し、学期末の課題と試験を合わせて総合的に判断する。平常点 30 %、課題 30 %、試験 40 %の予定である。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義に出席して要点を理解してほしい。初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、原則として授業支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】
1 年生から履修可能にしている数少ない基礎的必修科目であ。毎回の講義をきちんと受講しできれば 1 年時に修得して欲しい科目である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge to be learned by high school geographic department geography, 2. To strive to understand the difference between high school geography and university geography, 3. And learning the introduction part centered on natural geography.

GEO100BF

地理学概論（2）

中俣　均

授業コード：A3402　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学、とくに人文地理学と称される問題群＝学問分野の全体像を把握すること。−というのはあくまでカリキュラム上の本科目の建て前的趣旨である。さしあたっては、受講者が今後学んでゆくことになる地理学の、どういった方面にとくに興味や関心を抱くかを自覚した際に、そのことがこの学問全体の中でどう位置づけられるのかを認識する、そのための参照系（の一例）を提示することが目的である。

【到達目標】
上記の目的のような意味で、この授業は「概論」というよりはむしろ、地理学「原論」に近い性格を帯びることになる。だとすると、到達目標は容易に列挙できるような類いのものにはならない。これもさしあたりだが、例えば 4 年間の学生生活の総体としての卒業論文制作にあたって、適切なテーマを設定しそれに真摯に取り組んで成果をあげること（つまり合格すること）。あるいは、自分が学んだ地理学というものを、他者に簡潔かつ要領を得たことばで説明できるようになること。それが到達目標の一つの表現のしかたということであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主とする。時に応じてミニ・レポートを提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学的発想	・生活の身近にみられる地理学的発想について
第 2 回	地域差の存在と認識	・世界の多様さ ・他者認識から自己相対化へ
第 3 回	地域差の表現法としての主題図	・地理学的「言語」といわれる地図表現について
第 4 回	地域差存在の理由の説明と解釈　その 1	・主題図の作成法とその読み方
第 5 回	地域差存在の理由の説明と解釈　その 2	・主題図読解の具体的実例
第 6 回	地域の概念と地域区分　その 1	・地域概念の操作性 ・地域区分と地域分類という思想
第 7 回	地域の概念と地域区分　その 2	・地域区分の実例とそれらの意味
第 8 回	地域と空間	・人文地理学の対象としての地域 ・地域（空間）とそのスケールについて
第 9 回	現代の地理空間	・都市地域と村落地域 ・社会地域と産業地域（農業地域・鉱工業地域・商業地域） ・空間的分業
第 10 回	地理学の二元性	・系統地理と地誌（地域地理） ・自然地理学と人文地理学
第 11 回	人文地理学の構成	・具体的な人文地理学的研究の事例
第 12 回	地域研究と地域地理学	・地誌（地域地理学）の有用性について
第 13 回	地理学の応用	・国民国家と人文地理学 ・国土空間と地域開発 ・政策科学としての人文地理学
第 14 回	総まとめ	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに紹介する文献を読んで、講義内容をより深く正確に身につけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。毎回、教材プリントを配布する。

【参考書】
毎回の授業時に必要なものを指示する。それをよく読んで、次回の授業に備えること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果 (70 %) と平常点（30 %）を成績判定の材料とする

【学生の意見等からの気づき】
毎回、教室に「存在している」のは、単位取得のための当然の前提としても、そのことだけでは合格は至難であろう。次の段階は、教室に「存在して講義を聴く」ことだが、教員の語りを「耳に入れる」だけでも十分とは言えまい。すなわち、「聴いてその場で考える（できれば批判的・懐疑的に）」というステップまで到達することが必須である。そのためには、毎回体調を整え適度な緊張感をもって受講する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
This course deals with the fundamental thinking about Human Geography, especially on thematic maps.

GEO100BF

地理実習（1）

小原　丈明

授業コード：A3403　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には，人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について，資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】
本授業を通じて，人文地理学という学問の性質を理解できるようになり，また，人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まずは，人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして，さまざまな作業を通じて，それら知識や方法を修得できるようにします。したがって，授業の半分は講義形式で行い，残り半分は実習形式（作業）で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ，地図，各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	主題図の作成：定量図
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成：定性図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	地図表現を考える
第 10 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味，準備作業
第 11 回	フィールドワークの手法②	踏査・観察による調査
第 12 回	フィールドワークの手法③	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法④	ヒアリング調査
第 14 回	総括	人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の性格上，授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので，それらにしっかりと取り組んでください。また，本授業で学ぶ資料や図表については，日常生活でも目にする機会が多々ありますので，日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）はおおよそ 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明編著（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社，2,500 円（税抜）．
●その他に，担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】
参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席，受講態度など）：30 %，各種課題：70 %で評価します。平常点については，出席することは当然として，積極的に取り組む姿勢を重視します。また，課題については，提出状況や正確性，丁寧さなどを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline and objectives】
This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

GEO100BF

地理実習（1）

小原　丈明

授業コード：A3404　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には，人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について，資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】
本授業を通じて，人文地理学という学問の性質を理解できるようになり，また，人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まずは，人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして，さまざまな作業を通じて，それら知識や方法を修得できるようにします。したがって，授業の半分は講義形式で行い，残り半分は実習形式（作業）で行います。
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更は授業を通じてあらためて提示します。本授業の開始日は 4 月 23 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ，地図，各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	主題図の作成：定量図
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成：定性図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	地図表現を考える
第 10 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味，準備作業
第 11 回	フィールドワークの手法②	踏査・観察による調査
第 12 回	フィールドワークの手法③	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法④	ヒアリング調査
第 14 回	総括	人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の性格上，授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので，それらにしっかりと取り組んでください。また，本授業で学ぶ資料や図表については，日常生活でも目にする機会が多々ありますので，日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）はおおよそ 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明編著（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社，2,500 円（税抜）．
●その他に，担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】
参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席，受講態度など）：30 %，各種課題：70 %で評価します。平常点については，出席することは当然として，積極的に取り組む姿勢を重視します。また，課題については，提出状況や正確性，丁寧さなどを重視します。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより，成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は学習支援システムや授業を通じて提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline and objectives】
This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

GEO100BF

地理実習（2）

羽佐田　紘大

授業コード：A3405　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】
地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【変更前】
毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
【変更後】
学習支援システム上で地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが自宅等で課題に取り組んでいく。紙地図を用いることができないため、オンラインで取り組むことができる範囲で距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地形図の基本	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 2 回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 3 回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第 4 回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第 5 回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第 6 回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第 7 回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第 8 回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第 9 回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第 10 回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 11 回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 12 回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 13 回	接峰面図の作成（4）	接峰面図（埋積法）を作成する。
第 14 回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さと距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【変更前】
毎回の課題（90 %）、平常点（10 %）に基づいて評価する。原則 1 ／ 3 以上の欠席者は評価の対象としない。
※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
【変更後】
課題（90 %）、平常点（10 %）に基づいて評価する。原則全課題のうち 1 ／ 3 以上未提出の受講生は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
定規や色鉛筆があるとよい。
※学習支援システム上で授業を実施するため、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

GEO100BF

地理実習（2）

羽佐田　紘大

授業コード：A3406　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】
地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地形図の基本	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 2 回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 3 回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第 4 回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第 5 回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第 6 回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第 7 回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第 8 回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第 9 回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第 10 回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 11 回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 12 回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 13 回	接峰面図の作成（4）	接峰面図（埋積法）を作成する。
第 14 回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さと距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（90 %）、平常点（10 %）にもとづいて評価する。原則 1 ／ 3 以上の欠席者は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
定規があるとよい。

【Outline and objectives】
This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

GEO200BF

現地研究

片岡　義晴

授業コード：A3407　｜　曜日・時限：**集中・その他**
年間・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「現地研究」は、他の学科にはない地理学科特有の科目です。いわゆる「野外調査 (フィールドワーク) 実習」を、法政大学の地理学科ではこう呼んでいます。
地理学は、「地域」と密接に関係した学問です。地理学の研究に当たっては、ふだん教室で学んだことがらを、直接、「地域」の現地（＝現場）におもむいて確認・検証することが必要です。また現地で種々の手法を用いてデータを収集することも大切ですし、そうした過程で現地ならではの新しい発見も得られることになります。さらに、4 年生になると、必修科目としての卒業論文の作成が課されますが、卒業論文の執筆に際しては、一般に現地調査を必要とする場合が多くあります。そのための調査技術の訓練をおこない、各自が主体的に現地調査ができるようになることが、この科目の目標です。

【到達目標】
教室で学んだことがらを「地域」の現地（＝現場）で確認・検証し、さらにはデータを収集する方法を併せて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各専任教員が、それぞれ年 1～2 回、いろいろな地域において「現地研究」を実施します。テーマとしては、自然地理学的な「現地研究」では地形調査、土壌調査、植生調査、気候調査、水文調査等が、人文地理学的な「現地研究」では農牧業、水産業、あるいは工業、交通などの経済活動、村落、都市などの社会生活、地域文化などについての調査が主となります。それらのテーマにしたがって、観察・観測・測定、聞き取り調査や質問票調査などが実施されます。したがって、休日以外に実施されることが多くあります（欠席せざるをえなかった授業の担当教員宛に、地理学科では、「現地研究参加証明書」を発行していますが、その取り扱いは各担当教員に任されています）。
各「現地研究」の実施案内と参加者募集の要領は、その都度掲示を通じて学生諸君にはお知らせしますので、掲示板確認を怠らないようにした上で、掲示の指示通りに参加手続きをとってください。卒業論文作成に生かすためにも、なるべく早い学年のうちに、「現地研究」を履修することを勧めます。現地研究は必修科目です。従って単位不足で卒業できないという事態にならないようにして下さい。
各「現地研究」の前には、事前に「説明会」が必ず実施されます。「説明会」では、参加希望者と教員相互で、フィールドワークの企画を行います。それは、準備し、仮説を立て、詳細な地域設定、調査の実施、まとめに至るという過程を確認、実行するためのものです。フィールドワークの実施のためには、事前に文献、地図・地形図、史資料の収集整理が必要ですが、それについては教員が概略を説明し、参加者は企画に基づいてさらに詳細な文献・地図・史資料を収集整理していきます。参加者はそれらを読みこなした上で、調査項目の検討を行います。得たそれら資料を予め地図化しておくことも必要です。実施日程やおおよその実施地域は教員が決定する場合が多いですが、それから先の詳細は参加者が主体的に企画に参加、実行していくことになります。したがって参加者募集は現地研究実施の数ヶ月前に行い、参加者が主体的に企画それ自体から積極的に参加できるように、「説明会」も複数回実施される場合が出てきます。説明会に出席しなければ、「現地研究」への参加は当然、認められません。
それらの上に「現地研究」本番、つまりフィールドワークの実施に臨むことになります。具体的には、それぞれの企画に従って観察・測定・面接等を行います。しかし、いくら参加者の主体性が重視されるとはいっても、機器を使った測定、観測等においては、教員が適切な機器使用方法を一から指導していかなければならないこともあり得ます。
「現地研究」終了後には、フィールドワークのまとめとして、指示に従ってレポートを作成、提出します。そのためには事前に収集整理した文献・地図・史資料等を使って、その上にフィールドワークで得た結果を図表化・分析・仮説検証することが必要になります。当然、報告会などに出席する必要があります。これらをすべてクリアして初めて、単位の認定が受けられることになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	参加者の募集	募集通知は掲示を通じて行なう。これを見て、各自が参加を申し込む。宿泊施設や交通手段の関係などから定員が設けられるのが通常であるから、確実に参加するためには日ごろから掲示板によく注意していることが大切である。

第 2 回	事前説明会	各「現地研究」のおおまかな内容、実施時期、注意点などについて説明し、同時に「現地研究」実施のための企画を行う。これに欠席すると、当該「現地研究」への参加は認められない。
第 3 回	現地研究本番	集合（現地集合となることが多い）から解散まで、各教員の指導のもとに観測・観察、計測、聞き取り調査などを行ない、それらの結果を現地でとりまとめて議論する。
第 4 回	レポート作成・報告会	帰学後、現地研究の成果についてのレポートを作成し提出する。その上で報告会も実施する。 以上のような過程をすべて経たうえで、単位認定がなされることになる。

秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記の授業の概要と方法を参照して下さい。通常の授業では予習、復習時間、各 2 時間を標準としますが、この現地研究においては、上記のように準備、本番、リポート作成・報告会等をそれぞれ行っていきますので、通常授業の予習復習各 2 時間ではなく、各現地研究ごとに、各段階でその数倍の時間を費やすことが求められます。

【テキスト（教科書）】
各「現地研究」ごとに指示します。

【参考書】
各「現地研究」ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】
参加申し込み、説明会への参加、「現地研究」本番への参加、事後のレポート提出および報告会等への参加が、それぞれの現地研究の単位認定の必須条件であり、それらを総合して成績評価します。また、「現地研究」の単位は、4 年次にまとめて認定されます。履修登録は 4 年次に必ず行って下さい。2〜4 年次の間に合計 2 回以上、履修して、総合した成績が合格基準に達していることを条件として、必修 2 単位が認定されます。各自の認定された参加回数は 1 年に 2 回、地理学科掲示板に掲示されますので、各自必ず確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各現地研究ごとに指示します。

【その他の重要事項】
現地研究は、2 年生以上が参加可能です。各現地研究ごとに参加条件等が異なる場合もありますので、掲示に注意して下さい。参加申し込みは、BT12 階の地理学科事務室で各学期、受け付けます。参加申し込みは、必ず本人が行って下さい。現地研究への参加は、各学期、1 回を原則とします。申込時に「参加予約金」を徴収する場合があります。なお、参加費用は全て自己負担です。

【Outline and objectives】
field work,excursion

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺　浩二

授業コード：A3408　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成

【到達目標】
「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。
また、授業の流れに沿って指示される２つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。
さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第 2 回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第 3 回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第 4 回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第 5 回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第 6 回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第 7 回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第 8 回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第 9 回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第 10 回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第 11 回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第 12 回	自分誌	自分誌の定義と事例
第 13 回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第 14 回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。
自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』, 古今書院
・配布プリント資料

【参考書】
・長谷川典夫 (1994) ：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』, 大明堂
・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』, 大明堂
・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版- , 大明堂
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
平常点３割、課題３割、試験４割とする。

【学生の意見等からの気づき】
今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の欠課からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
原則として、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのＧＩＳ活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】
地理学科２年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

GEO200BF

地誌学概論（２）

小原　丈明

授業コード：A3409　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学とは，特定の地域の様々な事象について，有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え，理解する学問です。今年度はさまざまな観点から地誌学を捉える授業を行います。つまり，さまざまな地誌学の観点に立脚し，その上で地域がどのように捉えられるのか考えていきます。

【到達目標】
本授業を通じて，地域に関する知識を修得できるようになるだけでなく，それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けられるようになることを目標とします。特に，さまざまな地域の見方・地誌学の観点を修得できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず，地誌学とはどのような学問であるかについて理解します。その上で，具体的な事例を題材として，さまざまな観点から地域について考えていきます。また，授業内外で課す課題に取り組んでもらいます。それらの作業を通じて，多様な地誌学的なモノの見方について考えていきます。
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更は授業を通じてあらためて提示します。本授業の開始日は 4 月 24 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地誌学とは？	講義の進め方／さまざまな地誌学
第 2 回	地誌学のさまざまな視点	地誌学の考え方・見方・方法
第 3 回	地域形成と変化①	時間軸からのアプローチ：地域の形成過程
第 4 回	地域形成と変化②	時間軸からのアプローチ：地域の歴史性
第 5 回	地域構造①	地域構造から地誌を考える：自然・文化・生活
第 6 回	地域構造②	地域構造から地誌を考える：人口・経済活動
第 7 回	多様性と普遍性①	地域の記述と一般化：多様性と統一性の関係性
第 8 回	多様性と普遍性②	地域の記述と一般化：部分と全体
第 9 回	空間スケール①	多様な空間スケールと地誌的事象：マルチな空間スケール
第 10 回	空間スケール②	多様な空間スケールと地誌的事象：空間スケールの不一致
第 11 回	身近な地域の地誌①	東京の地誌
第 12 回	身近な地域の地誌②	千代田の地誌
第 13 回	地誌的記述①	作品にみる地誌的記述：地理書
第 14 回	地誌的記述②	作品にみる地誌的記述：旅行記

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内外で課すレポート等に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題については，テーマに基づいて受講生自身が調べ，分析・考察することが求められます。また，講義中に紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。本授業の授業外学習時間（準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業レジュメや資料は担当教員で作成・準備し，配布します。

【参考書】
・伊藤喜栄ほか監修，帝国書院編集部編（2009）：『Discovering Japan: a new regional geography』帝国書院.
・矢ヶ崎典隆ほか編著（2007）：『地誌学概論　地理学基礎シリーズ 3』朝倉書店.
・『都市の景観地理』古今書院　のシリーズ。
・『日本の地誌』朝倉書店　のシリーズ。
・その他は，講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %，期末試験（持ち込み不可）：70 %で評価します。
それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

なお，春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は学習支援システムや授業を通じて提示します。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが，多くの資料・データを提示することで，受講生自身が考察を行った上で，講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline and objectives】
This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

GEO200BF

日本地誌（1）

中俣　均

授業コード：A3410　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の中の「異文化」地域である「沖縄」について考えることを通じて、日本の実態＝実体を相対化する視点を養うことが目標である。スケールこそ違え、日本が大小さまざまな島嶼からなる一つの地域的まとまり（システム）であるように、沖縄もいわゆる沖縄本島を中心にした大小の離島の集合体である。したがって、それら日本の島嶼群が構成する地域システムの在り方を考えるためには、沖縄の島々が形作る地域システムは、格好の比較対照軸を提供してくれるはずである。

【到達目標】
世界を構成するある地域について語る (「説明する」) こと、そうしたある地域を認識することとはどのようなことかを知ること。また、具体的には現在の沖縄という地域に関する知識・認識を深め、そのことを通じて「日本という地域」のありようとそれが抱える矛盾・問題点を認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が主であるが、できるだけ視覚に訴える材料を提示しながら授業を進めたい。なお、春学期の少なくとも前半オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更について、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：「沖縄」について考えることの意味	地誌を考えるスケール、地域システムとしての島嶼群，異文化認識と理解，講義内容の説明，参考文献の指示
第 2 回	外から見る「沖縄」・内から見る「沖縄」	「沖縄」と「琉球」，島々の実像と呼称
第 3 回	高い島・低い島－島嶼群の自然的基盤	高島と低島，サンゴ礁とその性質，サンゴ礁の環境と人々の生活
第 4 回	「亜熱帯」？ の自然と景観	台風銀座，多雨地域の旱魃，特異な生物相
第 5 回	琉球王国以前：歴史論①	群雄割拠，グスク時代，古琉球
第 6 回	琉球王国の成立：歴史論②	三山統一，交易国家，島津の琉球入り
第 7 回	「世」替わりの中で：歴史論③	琉球処分，ヤマト世・アメリカ世・ウチナー世
第 8 回	沖縄の人口変動と都市・村落	海外移民，人口の偏在，高失業率と相互扶助
第 9 回	基地依存経済と観光振興：第 3 次産業論	基地依存経済，財政依存経済，観光化
第 10 回	沖縄の生業と産業：第 1 次産業論	農業の特色，サトウキビ・モノカルチュア，イモ・キビ・マメ・ブタ体系，電照菊
第 11 回	ふるわないモノ造り：第 2 次産業論	地場産業，伝統工芸，インフラ (交通網)、県土 (国土）開発の矛盾
第 12 回	カミ観念と祭祀世界	ノロ (神女)，御嶽，ニライカナイ
第 13 回	風水思想と二元論的生活空間	風水思想，地割制集落，集落移動，二棟造り，方位観
第 14 回	せめぎ合う文化層	琉球方言の実相と方言論争，同化と異化，伝統の創造：太平洋の要石，NYMBY としての米軍基地，島嶼群としての沖縄と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時課題を指示する小レポートの作成。また、新聞などのメディアで取り上げられる「沖縄」関連の出来事などへも目配りすることを忘れないようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、参照すべき文献については講義の中で随時指示する。またほとんど毎回、教材プリントを数枚ずつ配布する。

【参考書】
参照すべき文献については講義の中で随時指示する。それ以外に、下記の概説書をぜひ通読しておいてほしい。
・外間守善 (1986)『沖縄の歴史と文化』(中公新書)
・櫻澤　誠 (2015)『沖縄現代史』(中公新書)

【成績評価の方法と基準】
　当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業に関係する事項の、主体的な情報収集（既存メディアなどからの）を促すようつとめる。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to know the regional geography of OKINAWA,

GEO200BF

日本地誌（2）

中山　大地

授業コード：A3411　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と，そこで生活する人々との関わりを理解することを目標とする．主に地形・水文・気候といった自然分野について幅広く講義するが，人間と環境との相互作用といった内容も含んでいる．このため，人文地理学に興味がある学生の皆さんにもぜひ出席してもらいたい．

【到達目標】
日本列島を構成する自然環境について，基本的な知識を習得できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントや Google Earth などを用い，ビジュアルな授業を行う．また，理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う．
新型コロナウイルス対応のため，学習支援システム上での授業開始日を 5 月 8 日とします．
Google Classroom のクラスコードは
sqwuqqw
です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自然環境と人びとの暮らし (1)	地形図を用いた相模原の土地利用分類
第 2 回	自然環境と人びとの暮らし (2)	相模原の土地利用と地下水
第 3 回	自然環境と人びとの暮らし (3)	相模原の地形・水文環境と人々の生活
第 4 回	日本列島の生い立ちと自然環境 (1)	海水準変動と日本の平野地形
第 5 回	火山国・日本 (1)	日本人にとって火山とは何か
第 6 回	火山国・日本 (2)	九州の巨大カルデラ
第 7 回	火山国・日本 (3)	カルデラ噴火と九州の縄文文化
第 8 回	火山国・日本 (4)	雲仙の火山災害
第 9 回	日本列島の生い立ちと自然環境 (2)	日本周辺の火山と地震
第 10 回	日本列島の生い立ちと自然環境 (3)	プレートテクトニクスと島弧—海溝系
第 11 回	大気の循環と日本の気候 (1)	北西モンスーンと日本の冬の気候・局地風と人々の暮らし
第 12 回	大気の循環と日本の気候 (2)	日本の豪雪災害
第 13 回	大気の循環と日本の気候 (3)	北東ユーラシアの気候と偏西風
第 14 回	大気の循環と日本の気候 (4)	大気大循環と世界の気候帯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
5 月か 6 月の日曜日（目安として第 3 回授業の終了後）に日帰りの巡検（相模原近辺）を行う．参加は自由であり，出欠は成績に一切影響しない．
授業時に提示するキーワードについて調べてくる．
授業の内容に関するクイズを考える．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わないが，参考書を一読しておくことを勧める．

【参考書】
米倉ほか（2001）「日本の地形 I 総覧」東京大学出版会
中村ほか（1996）「日本の気候」岩波書店
町田・小島（1986）「自然の猛威」岩波書店
杉谷ほか（2005）「風景のなかの自然地理 改訂版」古今書院

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%），小テスト（40%），平常点 (10%）を 100%まで加算して成績を決める．小テストは授業支援システムを用いて行う．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline and objectives】
The aim of this course is to understand interrelationships between natural environments and human activities.

GEO200BF

地球科学概論Ⅰ

宍倉　正展

授業コード：A3412　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか，またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し，地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】
我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題について、レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
4 月 21 日に学習支援システム上に春学期の指針を知らせる（最初の授業から課題有り）。
基本的には毎回、学習支援システム上にアップされた教材を見てもらい、それに関する課題についてレポートを提出してもらうが、適宜動画配信についても行う予定である。
レポートについては課題の難易度に応じて、その都度提出期限を設ける（当日、翌日、週末まで等）ので、それまでに提出する。期限までの提出が無かった者はその授業は欠席扱いとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 12 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から宇宙や地球，地震，火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】
西本昌司「改訂新版　地球のはじまりからダイジェスト–地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊 次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容　戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうレポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 12 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席（レポートの提出）をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
コンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】
The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This lecture explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, explain the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

宍倉　正展

授業コード：A3413　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球表層の気圏，水圏・地圏それぞれで生じる現象は，我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題についてグループワークを通して議論をしていく。

【到達目標】
我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、またグループワークでは論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、適宜グループワークを行う。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業において出席の確認も兼ねて講義やグループワークの感想や質問を書いてもらい、授業終了時に提出してもらう。
補講として校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	前半でこの講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	津波 3 およびグループワーク	津波災害に関する課題について説明し、グループワークを行う。
第 4 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 5 回	地殻変動	地殻変動の観測方法や地震に伴う緩急様々な様式の地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の評価と防災施策について説明する。
第 7 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 8 回	気候変動 2 およびグループワーク	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考え、グループワークを行う。
第 9 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 10 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山や河川の侵食について説明。
第 11 回	侵食と堆積 2	河川から運ばれた土砂が堆積して形成される平野や海岸の侵食・堆積について説明。
第 12 回	土砂災害およびグループワーク	土砂災害をテーマにしたディスカッションを行う。
第 13 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 14 回	防災教育と地球科学	地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で使用したスライドは本講義の web にアップするので授業でよく理解できなかった点などを復習をする。
津波、地殻変動、気候変動、土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめ、グループワーク等で役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】
杉村　新「大地の動きを探る」岩波書店
https://www.iwanami.co.jp/.BOOKS/11/7/1151980.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション　災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html

【成績評価の方法と基準】
1・期末にレポートの提出を求める（40 %）。
2・毎回提出してもらう授業の感想の内容（50%）。
3・グループワークを取り組む姿勢（10 %）。
なお、講義回数の 3 分の 2 以上の出席者のみ評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この授業は原則として春学期の地球科学概論 I から連続して受講するもの以外は受講を認めない。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】
Phenomena occurring in the aerosphere, hydrosphere and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. This lecture explains the mechanism of such phenomena and also discuss associated disasters and its issues through the group work.

GEO100BF

地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）

小寺　浩二

授業コード：A3509　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水の量と質に関する特徴およびその変化について，水収支・水循環の視点から，水の性質が，その場所の環境とどのように反応し，その場所に則した存在となるか，といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】
水環境としての重要性を人間活動との関わりを視点に，基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の修得を目的とする。また、本授業が終えたとき、特に、個人およびグループ作業において地学的な実験技術の修得だけでなく、コンピュータによる作図作業をする能力が身に着けられていることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な基礎的な実験・実習を行い，実験器具・測定器材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など、各種自然環境上を収集する方法、利用することで、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の修得も目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実験の概要と注意	授業計画と履修の注意
第 2 回	水文科学の基礎知識	水収支計算
第 3 回	水文科学の応用	水環境問題と水質
第 4 回	水温に関する基礎知識と実験	水温の性質・温度計器差
第 5 回	電気伝導度実験に関する基礎知識と実験	EC の性質・測器の特性
第 6 回	ｐ H 実験に関する基礎地誌式とと実験	pH の性質・測器の特性
第 7 回	水の汚れに関する基礎知識と実験	COD・TOC・DOC・NO3 など
第 8 回	様々な水質表現法	ヘキサダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 9 回	地域特性	対象地域地域特性解析
第 10 回	調査・分析・解析①	調査計画・調査機材準備
第 11 回	調査・分析・解析②	記録簿の整理・簡易濾過
第 12 回	調査・分析・解析③	分析・解析
第 13 回	調査・分析・解析④	コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	まとめ	考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において、予習・復習を行い、新たな課題に向けて解決する方法を修得すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部.

【参考書】
「水環境調査の基礎」改訂版（新井正，古今書院，1994 年）
その他、適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】
実験科目なので出席を重視し，レポートにより成績評価を行う。平常点 50%、課題 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】
苦手意識のある学生も興味を持って取り組めるよう，実験・実習の説明などを丁寧に行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
データ整理・解析などにパソコンを用いるので、基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】
実験では、コンピュータを活用するので、基礎的な知識・能力を身につけておくこと。自信のないものは、電算実習科目を履修すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
The importance as the aqueous environment, concerning with human activity, I have teaching of an elementary knowledge of a earth science (the water sentence field) for my object while making a basic experiment to a viewpoint. When this tuition has finished it, in particular, the individual and the thing by which the ability to do drawing work by a computer as well as learning of earth science-like experimental technique in group work is learned are made a target.

GEO100BF

地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）

小寺　浩二

授業コード：A3510　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水の量と質に関する特徴およびその変化について，水収支・水循環の視点から，水の性質が，その場所の環境とどのように反応し，その場所に則した存在となるか，といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】
水環境としての重要性を人間活動との関わりを視点に，基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の修得を目的とする。また、本授業が終えたとき、特に、個人およびグループ作業において地学的な実験技術の修得だけでなく、コンピュータによる作図作業をする能力が身に着けられていることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な基礎的な実験・実習を行い，実験器具・測定器材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など、各種自然環境上を収集する方法、利用することで、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の修得も目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実験の概要と注意	授業計画と履修の注意
第 2 回	水文科学の基礎知識	水収支計算
第 3 回	水文科学の応用	水環境問題と水質
第 4 回	水温に関する基礎知識と実験	水温の性質・温度計器差
第 5 回	電気伝導度実験に関する基礎知識と実験	EC の性質・測器の特性
第 6 回	ｐ H 実験に関する基礎地誌式とと実験	pH の性質・測器の特性
第 7 回	水の汚れに関する基礎知識と実験	COD・TOC・DOC・NO3 など
第 8 回	様々な水質表現法	ヘキサダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 9 回	地域特性	対象地域地域特性解析
第 10 回	調査・分析・解析①	調査計画・調査機材準備
第 11 回	調査・分析・解析②	記録簿の整理・簡易濾過
第 12 回	調査・分析・解析③	分析・解析
第 13 回	調査・分析・解析④	コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	まとめ	考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において、予習・復習を行い、新たな課題に向けて解決する方法を修得すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部.

【参考書】
「水環境調査の基礎」改訂版（新井正，古今書院，1994 年）
その他、適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】
実験科目なので出席を重視し，レポートにより成績評価を行う。平常点 50%、課題 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】
苦手意識のある学生も興味を持って取り組めるよう，実験・実習の説明などを丁寧に行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
データ整理・解析などにパソコンを用いるので、基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】
実験では、コンピュータを活用するので、基礎的な知識・能力を身につけておくこと。自信のないものは、電算実習科目を履修すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
The importance as the aqueous environment, concerning with human activity, I have teaching of an elementary knowledge of a earth science (the water sentence field) for my object while making a basic experiment to a viewpoint. When this tuition has finished it, in particular, the individual and the thing by which the ability to do drawing work by a computer as well as learning of earth science-like experimental technique in group work is learned are made a target.

GEO100BF

地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）

加藤　美雄

授業コード：A3511　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の１つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】
次の３つを到達目標とする。
①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。
②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。
③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第 2 回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。また、高気圧、低気圧、前線などについて把握する。
第 3 回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第 4 回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計の使用方法、及び読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第 5 回	外濠での気温・相対湿度の小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の定点観測と移動観測を実施する。
第 6 回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第 7 回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計の使用方法を把握するとともに、実際に使用して風の測定方法を学習する。
第 8 回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第 9 回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第 10 回	風配図の作成	アメダスの風のデータから様々な風配図を作成し、検討する。
第 11 回	アイソプレスの作成	２次元上での３変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。また、作成した図の考察を行う。
第 12 回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島における数枚の気候学図を作成する。更に、図を比較して検討する。
第 13 回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を実施し、図の読み取りも行なう。また、移動平均を解説し、作図を行うとともに、図について考察する。
第 14 回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編　気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習してくることで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
地理調査法（自然編）. 東郷正美・佐藤典人・ 井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象や気象災害に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】
実験・実習には、色鉛筆（12 色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30 ㎝程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】
実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので充分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。
観測や作業は２人１組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので充分に注意すること。
なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline and objectives】
Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.
The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.
The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

GEO100BF

地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）

加藤　美雄

授業コード：A3512　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の１つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】
次の３つを到達目標とする。
①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。
②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。
③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業内容の１例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。
気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、１～３回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第 2 回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。また、高気圧、低気圧、前線などについて把握する。
第 3 回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第 4 回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計の使用方法、及び読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第 5 回	外濠での気温・相対湿度の小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の定点観測と移動観測を実施する。
第 6 回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第 7 回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計の使用方法を把握するとともに、実際に使用して風の測定方法を学習する。
第 8 回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第 9 回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第 10 回	風配図の作成	アメダスの風のデータから様々な風配図を作成し、検討する。
第 11 回	アイソプレスの作成	２次元上での３変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。また、作成した図の考察を行う。
第 12 回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島における数枚の気候学図を作成する。更に、図を比較して検討する。
第 13 回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を実施し、図の読み取りも行なう。また、移動平均を解説し、作図を行うとともに、図について考察する。

第 14 回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編　気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習してくることで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
地理調査法（自然編）. 東郷正美・佐藤典人・ 井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】
実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。
評価の配分は、各実習課題の報告物が 70 %、平常点が 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象や気象災害に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】
実験・実習には、色鉛筆（12 色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30 ㎝程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】
実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので充分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。
観測や作業は２人１組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので充分に注意すること。
なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline and objectives】
Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.
The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.
The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

GEO300BF

地質・岩石学及び実験

外田　智千

授業コード：A3416　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地質学及び岩石学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
地球の成り立ちや歴史への認識、また、地球表層の地殻を構成している地質と岩石について理解を深める。岩石標本に直に触れることで岩石に現れている組織や現象について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 22 日とする。具体的なオンライン授業の方法などは学習支援システムで提示する。受講希望学生は 4 月 22 日までに仮登録をおこない、学習支援システムを使える状態にしておくこと。
【重要】
抽選等で受講生の選抜をおこなうので、仮登録の期限を 4 月 22 日とします。（教室授業に戻った後の教室座席数の制約のため）
【追加事項】
Google Classroom を用いて授業をおこなうことを検討している。学習支援システムで説明をおこなう。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。オンライン期間の授業の進め方として、毎週（水曜日）授業用の教材を学習支援システムにあげるので、それを用いて自己学習をおこない、毎回の課題を金曜日までに提出する。それをもって出欠・評価とする。
地質学と岩石学の基本概念と基礎知識を最初に概説し、さらに個々の実例を紹介する。また、実習等によって岩石や鉱物の標本を観察し、その組織などからでき方を講義内容と比較して理解し，識別をしてもらう。また、簡単な計算等の演習などによって地質や岩石の構成についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明、空間・時間スケール
第 2 回	地球の内部構造	地球の層構造、地球内部を調べる方法
第 3 回	地殻の構成物質	地殻の化学組成、岩石の分類と特徴
第 4 回	造岩鉱物	造岩鉱物の特徴、種類
第 5 回	火成岩（1）	火成岩の成因、マグマの形成場
第 6 回	火成岩（2）	火成岩マグマの結晶作用、分類
第 7 回	火成岩（3）	火成岩の種類、標本観察、特徴
第 8 回	堆積岩（1）	堆積岩の成因、侵食・運搬・堆積作用
第 9 回	堆積岩（2）	堆積岩の種類、標本観察、特徴
第 10 回	変成岩（1）	変成岩の成因、大陸の進化と変成作用
第 11 回	変成岩（2）	変成岩の種類、標本観察、特徴
第 12 回	地球史（1）	年代測定法、地球の形成と初期の地殻
第 13 回	地球史（2）	地球の歴史と環境変遷、超大陸の形成
第 14 回	試験	全体のまとめ、評価のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。地球の成り立ちに興味を持ち、地球の進化や岩石・鉱物に関する参考書、写真集、DVD 等を見ることで、自ら授業への動機付けをおこなう。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを利用する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。
※このまま対面授業ができない場合は、毎回の課題提出により評価する。定期試験が実施できる場合は、毎回の課題による通常時の評価（50%）、定期試験による評価（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
標本観察や演習をおこなうため、受講人数が多すぎると実習に支障が出たり、座席の確保自体が難しくなる。そのため、受講生の選抜が必要。

【学生が準備すべき機器他】
簡単な計算をおこなうことがあるので、計算機を持参してもよい。

【その他の重要事項】
国内外での地質調査の経験を持つ教員が、実試料・標本を用いた実習をおこなう。
初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明し、また教室の収容人数の制約のため抽選等の選抜をおこなうので、必ず出席すること。
【重要】
授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知する。

【Outline and objectives】
This subject aims at the understanding of basic knowledge of geology and petrology.

GEO200BF

自然環境論

羽佐田　紘大

授業コード：A3417　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の流域・沿岸域（一部に海外の例を含む）に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】
さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【変更前】講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、地形図を用いた簡単な作業（授業時間内に実施）を行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、要望、質問など）を提出してもらう。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
【変更後】
当初の授業計画通りに実施することは困難なため、授業内容の中からいくつかのトピックをピックアップし、学習支援システムに教材として提示する。教材を使って各自自宅等で学習し、トピックについてコメント（考えや感想、質問など）してもらう。提出されたコメントの内容に応じて、適宜フォローを行う。また、授業内容に関連したレポート課題にも取り組んでもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境（地形や気候など）を概説する。
第 3 回	気候変動と地形の成り立ち	流域・沿岸域の自然環境のうち、地形に着目してその成り立ちを解説する。
第 4 回	沖積低地の形成（１）	人々が多く暮らす沖積低地（沖積平野）を中心に、それを構成する地形とその成り立ちについて説明する。
第 5 回	沖積低地の形成（２）	人々が多く暮らす沖積低地（海岸平野）を中心に、それを構成する地形とその成り立ちについて説明する。
第 6 回	地形図からみる自然環境の変化	新旧地形図を読み取り、さまざまな地域の自然環境の変遷を考える。
第 7 回	流域・沿岸域と水害・治水	濃尾平野や関東平野の水害・治水の歴史について述べる。

第 8 回	流域・沿岸域と台風	伊勢湾台風を例に流域・沿岸域での台風による被害について考える。
第 9 回	流域・沿岸域と地震	沖積低地を中心に地震の影響を説明する。
第 10 回	流域・沿岸域の人為的影響（1）	流域・沿岸域で行われてきた地形改変について説明する。
第 11 回	流域・沿岸域の人為的影響（2）	上流域での人間活動と下流域への影響について説明する。
第 12 回	流域・沿岸域の管理・保全・利用	流域・沿岸域の管理・保全・利用状況を確認する。
第 13 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：サンゴ礁	熱帯・亜熱帯の自然環境の例としてサンゴ礁を取り上げ、人々の暮らしとのかかわりについて述べる。
第 14 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：マングローブ	熱帯・亜熱帯の自然環境の例としてマングローブを取り上げ、その特徴を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習する。
日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【変更前】
レポート（70%）および毎回のコメントシートの提出状況･内容（30%）により評価する。
※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
【変更後】
中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントの提出状況・内容（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシートの質問について、スライドを用いて説明していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにより授業を実施するため、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline and objectives】
This course introduces mainly from geomorphological perspective about the natural environment of drainage basin and coastal zone in Japan.

GEO200BF

地形学及び実験Ⅰ

前杢　英明

授業コード：A3418　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともない授業計画は当初のものからの変更となるが、学習支援システムにて具体的に提示する。第一回は 21 日に行う。受講希望学生は 21 日から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。具体的には毎回授業用のプレゼンを教材としてあげるので、それで自己学習し、毎回の課題を金曜日までに提出する。それをもって評価・出欠とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地形と生活	地形と我々の暮らし。日本の地形と地質の特徴。
第 2 回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、第四紀の環境変動
第 3 回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第 4 回	マス・ムーブメント	集塊移動のメカニズム
第 5 回	河川による侵食地形	河川の形成、侵食の様式、さまざまな侵食地形
第 6 回	河川による堆積地形	堆積作用と堆積低地、地形と自然災害
第 7 回	海岸における作用	波の作用、沿岸流
第 8 回	海岸地形	海岸での堆積地形､侵食地形
第 9 回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第 10 回	周氷河地形	周氷河作用と微地形
第 11 回	氷河作用	氷河の形成と流動
第 12 回	氷河地形	氷河による地形形成
第 13 回	カルスト地形	石灰岩特有の地形について
第 14 回	人間生活と地形	増え続ける人類の地形への影響について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに授業内容の要約をアップするので、復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを利用する。

【参考書】
『地形学入門』A.L. ブルーム、榧根　勇訳、1970 年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007 年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998 年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010 年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011 年
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977 年

【成績評価の方法と基準】
試験 (85 ～ 95%)、小課題 (0 ～ 10%)、態度意欲 (5%) から総合的に判断する。1/3 以上の欠席は評価しない。小課題は行った回数によって割合が変化する。
評価の方法は変更になる可能性がある。このまま対面授業ができないとなると、学習支援システムによる課題提出により評価することになる。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の課題の提出がないものは、自動的に E 評価とする。4 月 21 日分からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度を調整し、シラバス通り消化できるようにする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究．地理科学，vol.60-3，pp.136-142．
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
Lecture on fundamental geomorphology

GEO200BF

地形学及び実験Ⅱ

前杢　英明

授業コード：A3419　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識や考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形と災害（特に内作用による）の関係を理解し、地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
最近の地球科学の成果をまず最初に概説し、そこから地球内部の構造が地球表面の形態とどのような関係にあるのかを考えていく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用と、地球環境変動による地形変化への影響について取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクスと大陸の配置、プリュームテクトニクスの研究を紹介する。地形のスケール。
第 2 回	プレートテクトニクスと大地形（2）	内作用の種類、変動地形と変動帯の研究を紹介する。曲隆、曲降運動と山地の地形などを紹介する
第 3 回	プレートテクトニクスと大地形（3）	大地形とプレートテクトニクス、資源との関係などについて
第 4 回	断層変位地形	断層、褶曲、撓曲などによる変動地形の研究を紹介する
第 5 回	活断層と地震	地震の発生と断層運動の研究を紹介する
第 6 回	津波の原理と過去の津波	津波の原理と堆積物の研究を紹介する。古津波研究の紹介も行う。
第 7 回	火山の原理と火山地形	火山地形の形成過程と噴火様式、マグマの関係。地形と自然災害。
第 8 回	気候変動と氷河性海水準変動	氷河性海水準変動の理論の研究を紹介する。第四紀の環境変動。
第 9 回	氷河性海水準変動と海成段丘	氷河性海水準変動と海成段丘の形成過程について
第 10 回	最後の海進と沖積平野	沖積平野の地下構造と後氷期海進の関係について
第 11 回	地震性地殻変動と過去の巨大地震	海成段丘の変形と広域的地殻変動や地震性地殻変動の研究を紹介する。地形と地震災害。
第 12 回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	氷河性アイソスタシーによる隆起海岸地形と大陸氷床変動の研究を紹介する
第 13 回	火山灰と地形研究	地形研究に大きな進歩をもたらしたテフラ研究の概要
第 14 回	年代測定	地形研究に利用する年代測定法の概説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに授業内容の要約をアップするので、復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを利用する。

【参考書】
『変動地形を探るⅠ･Ⅱ』太田陽子、古今書院、1999 年
『環太平洋の自然史』米倉伸之、古今書院、2000 年
『地震と断層』島崎邦彦/松田時彦、東大出版会、1994 年
『写真でみる火山の自然史』町田洋/白尾元理、東大出版会、1998 年
『プレート収束帯のテクトニクス学』木村学、東大出版会、2002 年

【成績評価の方法と基準】
試験 (85 ～ 95%)、小課題 (0 ～ 10%)、態度意欲 (5%) から総合的に判断する。1/3 以上の欠席は評価しない。小課題は行った回数によって割合が変化する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究．地理科学，vol.60-3，pp.136-142．
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
Lecture on fundamental geomorphology

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅰ

小川　滋之

授業コード：A3420　｜　曜日・時限：**火曜１限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，アジア，ヨーロッパ，オセアニアの寒帯から熱帯，乾燥帯など様々な地域の植生を取り上げ，その成因について気候や地質，地形などとの関係から考える．また植生分布は，その地域に見られる動物や人間などにも関わりがあるため，植生のみの話題ではなく，動物の形態や人間の生活や文化，習慣との関係についても扱う．
世界中には植物が見られない地域はほとんどなく，どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる．ただ見ていれば“植物”で終わるが，それぞれ地域ごとに特徴がある．こうしたことから，たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に，どんな植物が分布するのか．なぜ，そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる．以上のように，植生地理学的な考え方を学ぶのがこの授業の目的である．

【到達目標】
（1）世界には様々な植生分布があることを理解すること．
（2）その地域の気候，地質，地形などから植生分布を考えられるようになること，あるいは植生分布から気候，地質，地形などが考えられるようになること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
植生地理学を学ぶ上で重要な理論を，日本を含む各地域の植生分布の事例をもとに紹介する．授業は講義形式のみではなく，観察や実験を行う．必要に応じて意見を求めることやディスカッションを行う．毎回の授業の終わりには，内容に関連した課題の小レポートを作成してもらう．野外実習は，講義で紹介した植生分布を実際に観察し，現地でその成因についてディスカッションしてもらう．
［4 月 17 日追記］授業開始は 4 月 21 日（火）1 限（8:50～10:30）からとする．詳細は「学習支援システム」上でお知らせする．授業はミーティングアプリ ZOOM を使用してオンライン配信するが，その後に公開する録画を視聴してもよい．講義資料も事前にアップする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか．
第 2 回	植生分布に影響を及ぼす要因	気候，地質，地形が植生分布に及ぼす要因を解説する．
第 3 回	アジアの植生①　極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する．
第 4 回	アジアの植生②　朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴．世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する．
第 5 回	野外実習［2020 年度は中止］	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する．
第 6 回	アジアの植生③　屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する．
第 7 回	アジアの植生④　沖縄島，台湾，香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する．
第 8 回	アジアの植生⑤　東南アジア	熱帯林の種類と特徴．フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する．
第 9 回	ヨーロッパの植生①　北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例をもとに，北東アジアの植生分布との関係を解説する．
第 10 回	ヨーロッパの植生②　自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に，ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する．
第 11 回	ヨーロッパの植生③　南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する．
第 12 回	ヨーロッパの植生④　スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に，海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する．
第 13 回	オセアニアの植生　ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題．温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する．
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業の最後に次回内容の予告をする．次回，どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと．準備学習・復習時間は各１時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用せず．毎回の授業で必要な資料を配布する．

【参考書】
地図帳があると役立つ．参考文献や資料は授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 点満点＋ α（小レポートなど，50 点満点）で評価する．
小レポートは，授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う．
［4 月 17 日追記］今後の状況次第で変更が予想されるが，期末試験あるいは代替レポート＋小レポートで採点する．小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする．

【学生の意見等からの気づき】
小レポートの課題については次の授業で解説する．質問や要望については可能な限り対応する．

【学生が準備すべき機器他】
必要があれば授業中に指示する．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する．
野外実習は 5 月中に行う［2020 年度は中止］．

【Outline and objectives】
This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川　滋之

授業コード：A3421　｜　曜日・時限：**火曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う．前半は土壌の性質や構造，生成という土壌の基礎を学び，世界中にみられる土壌の分布と成因について考える．後半は，野菜種子との関係，有機農業，アジアの伝統農業など，比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ．
土壌は，その地域の気候や地質，地形，植生などの影響を強く受けて成立したものであり，人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる．しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある．授業を通して，人間が生活する上で欠かせないものだということを理解できるようになることが目的である．

【到達目標】
（1）土壌の必要性について考えられるようになる
（2）土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
（3）何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業の内容は，「土壌とは何か」，「土壌の分布」，「土壌と農業」，「野菜の地理学」の４部構成で解説する．
講義形式のみではなく，実際に観察や実験を行う．必要に応じて意見を求めることやディスカッションをしてもらう．野外実習は，授業で紹介した事柄を実際に野外で観察や簡単な実験して，現地でその要因について考えてもらう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか．講義の内容と目標を紹介．
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造．
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成．異なる生成段階の土壌を室内で観察．
第 4 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは．
第 5 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布．
第 6 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布．
第 7 回	土壌と農業①	農地の土壌環境，土壌の状態を診断する方法とは．
第 8 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係．
第 9 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは．
第 10 回	実験実習①	土壌の性質と構成を野外で観察．
第 11 回	実験実習②	様々な土壌を診断．
第 12 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは．東南アジア山岳少数民族の事例から解説．
第 13 回	野菜の地理学	野菜は，どのように生まれて，どこから来たのか．野菜の伝播について解説．
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業の最後に次回の内容について予告を行う．事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと．準備学習・復習時間は，各１時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．毎回の授業で必要な資料を配布する．

【参考書】
適宜，授業中に参考文献や資料を紹介する．

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 点満点＋ α（小レポート等、50 点満点）で評価する．
小レポートは，毎回の内容に関わるテーマを講義中に出題して終了までに提出するという方法で行う．

【学生の意見等からの気づき】
小レポートの課題については次の授業で解説する．質問や要望については可能な限り対応する．

【学生が準備すべき機器他】
必要があれば授業内で指示する．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する.
実験実習： 11 月中に東京近郊あるいは室内で行う.

【Outline and objectives】
This class introduces basic thinking of soil geography. Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅰ

山口　隆子

授業コード：A3422 ｜ 曜日・時限：**火曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』. ペレ出版, pp1 − 261.
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学　第 4 版』. 古今書院, pp1 − 144.
小倉義光（2016）：『一般気象学　第 2 版補訂版』. 東京大学出版会, pp1 − 320.

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め 1 年生に開講されている「地学実験」(気候・気象）を履修していることが望ましい。 なお、実験等があるため履修上限人数は 64 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口　隆子

授業コード：A3423　｜　曜日・時限：**火曜１限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 2 回	世界の気圧分布と地上風系	大気大循環、偏西風
第 3 回	モンスーン	季節風
第 4 回	世界の海流	風成循環と熱塩循環
第 5 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 6 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 7 回	世界の気候区分	ケッペンの気候区分
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	酸性雨	大気汚染
第 11 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 12 回	気候変動	第四紀の気候変化
第 13 回	古気候	歴史時代以降の気候変化
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』. ベレ出版, pp1 − 261.
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学　第 4 版』. 古今書院, pp1 − 144.
小倉義光（2016）：『一般気象学　第 2 版補訂版』. 東京大学出版会, pp1 − 320.

【成績評価の方法と基準】
筆記試験： 70 %　課題： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
講義資料は講義後 1 週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を２年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 64 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

小寺　浩二

授業コード：A3424　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。
また、具体的な地域の水のサンプリングから分析まで行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二 (2019)：『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部

【参考書】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏ー海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，￥2,625.
・新井　正（1994）：『水環境調査の基礎』，古今書院，168p，￥2,625.
その他　授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席３割・課題４割・試験３割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】
実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺　浩二

授業コード：A3425　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。
特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果の GIS を用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第 2 回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第 3 回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第 4 回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第 5 回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第 6 回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第 7 回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第 8 回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第 9 回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第 10 回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第 11 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・ｐ H
第 12 回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全燐
第 13 回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 14 回	総合的な解析・考察	GIS による分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二 (2019):『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部

【参考書】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏一海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，￥2,625
・新井　正（1994）：『水環境調査の基辞』，古今書院，168p，￥2,625.
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験３割、課題４割、試験３割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】
国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

HUG200BF

社会経済地理学（１）

小原　丈明

授業コード：A3426　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は「地域の資源」をテーマとします。自然環境や風土をはじめとして，どのようなモノが資源として利活用されているのか，そしてその利活用にどのような問題があるのかを考えます。

【到達目標】
本授業を通じて，地理学の立場から地域の問題や「地域の資源」について理解できるようになります。また，それらの様々な資源が社会経済的にどのように利活用されているのかを把握し，その有効性や問題点を考察することで，地域が直面する現状や今後の動向について考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。まず，自然環境の減少や過疎など地域の現状・問題点を整理・把握します。その上で，自然環境や文化，歴史，景観を活かした産業・活性化・観光について理解します。そして，それらの事象の有効性や問題点を考察し，地域の今度の動向について考えます。
講義形式の授業であるため，担当者による話題提供が中心となりますが，講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから，授業内ならびに授業外で課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地域の資源とは？	講義の方針・進め方について／自然環境・文化・歴史・景観など
第 2 回	地域の現状①	自然環境の変化
第 3 回	地域の現状②	農村地域における問題点
第 4 回	地域の現状③	地方都市における問題点
第 5 回	地域と産業①	「衣」に関する地場産業
第 6 回	地域と産業②	「食」に関する地場産業
第 7 回	地域と産業③	「住」に関する地場産業
第 8 回	地域の活性化①	「景観」を活かしたまちおこし
第 9 回	地域の活性化②	「文化」・「歴史」を活かしたまちおこし
第 10 回	地域の活性化③	「食」を活かしたまちおこし
第 11 回	地域と観光①	自然環境・風土の観光利用（グリーン・ツーリズム）
第 12 回	地域と観光②	自然環境・風土の観光利用（エコ・ツーリズム，ジオパーク）
第 13 回	地域と観光③	施設・作品の観光利用
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示する課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外の課題では，簡単な調査を行ってもらいます。また，講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】
・石川義孝・井上　孝・田原裕子編（2011）：『地域と人口からみる日本の姿』古今書院.
・伊藤喜栄・藤塚吉浩編（2008）：『図説　21 世紀日本の地域問題』古今書院.
・伊藤　実（2011）：『成功する地域資源活用ビジネス―農山漁村の仕事おこし―』学芸出版社.
・大野　晃（2008）：『限界集落と地域再生』京都新聞出版センター.
・片柳　勉・小松陽介編著（2013）：『地域資源とまちづくり―地理学の視点から―』古今書院.
・加藤正明（2010）：『成功する「地域ブランド」戦略』PHP 研究所.
・橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編（2011）：『都市と農村―交流から協働へ―』日本経済評論社.
・藤塚吉浩・高柳長直編（2016）：『図説　日本の都市問題』古今書院.
・矢作　弘・小泉秀樹編（2005）：『シリーズ都市再生 3　定住型都市への模索―地方都市の苦闘―』日本経済評論社.
・『日本の地誌 1～10』朝倉書店.　など

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %，期末試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容は，できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが，受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また，課題に対する受講生の成果をフィードバックできるように授業を組み立てるようにします。

【Outline and objectives】
This course introduces various regional problems and efforts towards regional revitalization to students taking this course.
The goals of this course are to understand the causes of regional problems, and the merits and demerits of the efforts from the point of view of geography.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

中川　秀一

授業コード：A3427　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資源の分布とその利用は、人々の活動の地域に影響を与え、それぞれの地域に固有の社会文化や経済活動の基盤となってきました。また、時に重要なコンフリクトの一因となり、紛争や戦争の要因になってきました。他方、資源の不均等な利用は、地域の格差を生む要因となって特定の国や地域に貧困を生み出しており、地球規模で環境問題の深刻化とともに、これまでの資源利用のあり方を国際的な課題として見直すことを迫っています。偏在する資源がグローバルな経済システムの展開の下でどのように利用されてきたのか、「資源と環境」をテーマに、日本の産業経済、地域及び地球的課題を講義します。受講生のみなさんが、未来の世界に思いをはせる、考える手がかりを得ることを目指します。

【到達目標】
身のまわりの生活を成り立たせている資源の検討を通じ、地球規模の課題や日本の産業を考える手がかりを得ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の前に Web システムから資料を配布します。
準備し、目を通して講義に臨むようにして下さい。
講義内容に関連したショートレポートを課すことがあります。
成績評価には直接関連しませんが、取り組むことで講義内容についてより深く理解することができるので、できるだけ作成するようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションション－資源論と地理学	本講義のねらいと構成を説明
第 2 回	資源の定義をめぐって	本講義で扱う対象について説明
第 3 回	資源と産業	資源と人類社会との関係を概説
第 4 回	希少性と必要性	資源概念のもつ属性を通じて資源問題を考察する。
第 5 回	工業立地と原料の性質	工業立地論を通じて、資源の偏在と産業の空間性との関係を考察する。
第 6 回	地球の人口可能容量	食糧問題をグローバルな観点で概説
第 7 回	食糧問題とフードシステム	フードシステムの観点から諸 k ル酔う問題を考える
第 8 回	グローバル化と地域森林管理	グローバル化と限界化から日本の森林資源問題の構図を概説
第 9 回	水産資源問題とその課題	日本の水産資源をめぐる状況を概説
第 10 回	エネルギーとコンフリクト	エネルギー資源をめぐる世界のコンフリクトについて検討
第 11 回	エネルギー問題の新局面	新エネルギーの社会に対する影響を検討
第 12 回	資源の循環利用	循環の観点から資源利用の問題と課題を検討
第 13 回	水資源政策と水資源問題	水資源政策の件渡欧を通じて、水資源御性質を考える
第 14 回	資源問題としての土地利用	土地が資源としてどう捉えられるかを検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原子力発電、産業廃棄物、遺伝子組み換え作物やバイオマスや自然エネルギー利用への注目、埋蔵エネルギー資源をめぐる国際関係…。「資源と環境」をめぐる報道などにふだんから目を向けるように心がけて欲しいと思います。また、講義についての連絡を Web 上で行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中藤康俊・松原　宏編『現代日本の資源問題』古今書院

【参考書】
石井素介『国土保全の思想』古今書院
伊藤達也『水資源開発の論理』成文堂
山本健兒『経済地理学入門』原書房
高柳長直ほか編『グローバル化に対抗する農林水産業』農林統計

【成績評価の方法と基準】
論述形式の定期試験に基づいて成績評価をします。また、講義内容の理解度を把握するためにショート・レポートを課すことがあり、優れた内容のレポートについては、成績評価に加味することがあります。

定期試験 (70 %）+レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していないため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
大学の授業支援システムから講義に関する情報を取り出せるようにしておいて下さい。また、テキストに即して解説する講義の時もあります。必ず準備しておくこと。

【Outline and objectives】
I will lecture on industry, economy and regional problems of Japan and global iussues of the earth under the theme of "resources and environment".

HUG200BF

社会経済地理学（3）

片岡　義晴

授業コード：A3428　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「山村」を対象にして，その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】
山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくりなど、日本の「山村」が抱える問題点に関する客観的な理解度が深化し、それを通して日本社会の構造（＝仕組み）の一端が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。
【授業の方法】
講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の山村の現局面 (1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第 2 回	日本の山村の現局面 (2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第 3 回	過疎化の進展と山村振興策 (1)	過疎化の進展過程
	日本の山村の現局面 (3)	山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第 4 回	過疎化の進展と山村振興策 (2)	山村振興法、過疎法
第 5 回	限界集落・消滅集落 (1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第 6 回	限界集落・消滅集落 (2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第 7 回	「平成の大合併」と山村	大合併の要因と山村の危機
第 8 回	山村の産業 (1)	日本林業の動向
第 9 回	山村の産業 (2)	環境問題への注目と林業振興策
第 10 回	山村の産業 (3)	中山間地域農業の現状
第 11 回	山村の産業 (4)	中山間地域等直接支払制度
第 12 回	地域づくり (1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第 13 回	地域づくり (2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】
小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を超えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（論述式試験）100 %で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはずです。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
Rural Problems in Japan.

HUG200BF

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽　正昭

授業コード：A3481　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域的スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】
この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念　―観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 2 回	観光・ツーリズムの構造　―観光・ツーリズムの要素と構造	観光の要素や構造を解説します
第 3 回	観光地理学の概念　―概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 4 回	観光地域の変容プロセス　―モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 5 回	観光・ツーリズムの変遷　―古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 6 回	自然環境と観光・ツーリズム　―自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第 7 回	エコツーリズムの定義　―エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第 8 回	エコツーリズムの発展　―エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 9 回	エコツーリズムの特徴と展望　―西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 10 回	ジオツーリズムの特徴と展望　―ヨーロッパアルプスのジオツーリズム	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、ヨーロッパアルプスの事例をもとに解説します
第 11 回	日本の自然ツーリズム（1）　―避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本の自然ツーリズム（2）　―湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本の自然ツーリズム（3）　―リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第 14 回	日本のルーラル・ツーリズム　―ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】
岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣.
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房.
（財）日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社.
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社.
ピアス，D. 著，内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店.
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版.
呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店.
矢ヶ﨑典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション　縮小する世界』朝倉書店.

【成績評価の方法と基準】
この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の 60 %）で評価します。また、毎時間提出してもらうリアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline and objectives】
Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣　均

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(人文) 地理学の本流である (と私は考える）文化地理学について，古典的・基本的な知識や概念，方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的・基本的な知識や概念，方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするバークレイ学派の文化地理学を中心に講義し，併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学ー文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史（1）	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史（2）	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史（3）	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史（4）	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】
◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）￥3980.
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）￥2575.
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）￥2520.
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】
当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic Cultural Geography.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣　均

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：**金曜１限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(人文) 地理学の本流である (と私は考える）文化地理学について，古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念，方法を解説する。したがって，春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので，文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念，方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の講義を踏まえながら，1980 年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と，いわゆる Cultural Turn(文化論的転回) を経た「新しい文化地理学」について紹介し，同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習と補足
第 2 回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第 3 回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第 4 回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第 5 回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第 6 回	風水論 (1)	景観創造の主観の解読
第 7 回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第 8 回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第 9 回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第 10 回	文化概念の再考	構築主義へ
第 11 回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第 12 回	伝統文化の創造	Invented Tradition　という考え方について
第 13 回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第 14 回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】
◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥3980.
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）￥2575.
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）￥2520.
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】
原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み可能）の結果 (100%) により成績を評価する。なお，ここ数年，出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約 70 % (昨年度までは 80 %と書いていたものだった！) にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】
１限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが，その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】
できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of contemporary Cultural Geography.

GEO300BF

地理学史

中俣　均

授業コード：A3513　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学という「思想」の発生と展開、およびその背景を、過去の時代の文脈に即して理解し、現在の、そして将来の地理学のありかたを模索するのが、地理学史を学ぶ意味であろう。本科目では、A.Humboldt 以降の近代地理学の歩みを概観し、現代の地理学の存立基盤について講義する。半期授業なので、網羅的というよりはトピカルにエピソードを取り上げていくが、それら個々のことがらにこだわるよりも、おおまかな「思想」の流れを理解することが大切である。

【到達目標】
近代地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどういったところに位置付けられるものかを自覚できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
近代地理学におけるパラダイム転換に寄与したと考えられるいく人かの人物や業績について、適宜具体的に取り上げてその意味を考える。初めに、世界の地理学の歩みについて概観したあと、日本の、とくにアカデミズムの地理学の歴史を、いくつかの「論争」を題材にしながら講義する。なお、主題はもっぱら、人文地理学分野を中心としたものになろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	Darwin と進化主義思想の浸透	サンゴ礁の多様性
第 3 回	自然環境決定論	ハンチントンの気候決定論の問題点
第 4 回	景観概念の成立	関係から景観へ
第 5 回	Hartshorn の地理学方法論	地誌こそ地理学
第 6 回	Shaefer の「例外主義」批判	理論・計量地理学へ
第 7 回	Harris の都市の機能分類	計量地理学の盛衰
第 8 回	Relpf の近代主義批判	没場所性
第 9 回	Tuan の Humanism	トポフィリア
第 10 回	空間論的転回	20 世紀末の地理学の革新
第 11 回	帝国大学の地理学	日本のアカデミズムの地理学
第 12 回	和辻哲郎と「風土」	「風土」概念の問題点について
第 13 回	砺波散村成立論争	日本の人文地理学の黎明
第 14 回	総まとめと整理	世界地理学の地理学と日本の

秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容を、かならず振り返ってノートを整理しておくこと。また、できるなら各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよいから読んでみようとすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しない。

【参考書】
◎杉浦芳夫 (1999)：地理学の歴史　歴史の地理学.
『AERA MOOK 地理学がわかる』（朝日新聞社）
◎手塚章 (1988)：地理学の伝統と革新.
中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座 1　地理学への招待』（古今書院）
◎岡田俊裕 (2002)：『地理学史　人物と論争』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】
原則として学期末の筆記試験（持ち込み自由）の結果により成績を評価する (100%)。なお、継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】
普段の授業ではあまり登場しない地理学者や地理学概念が頻出するであろうから、そういったトピックを受講者自身の興味関心にできるだけ引きつけて理解できるように心がけてほしい。

【Outline and objectives】
This course deals with the brief history of Human Geography.

GEO400BF

自然地理学演習（1）

山口　隆子

授業コード：A3434　｜　曜日・時限：**火曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。３年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。４年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】
本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあって、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにある。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生を中心に運営していく予定である。４年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取組んでいくとともに、３年生にアドバイスすることを通して、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととする。具体的な運営方法は、第１回目のゼミで話し合う予定である。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	１年間のゼミ運営について説明・決定
第 2 回	卒論構想発表	４年生の卒論構想発表
第 3 回	卒論構想発表	４年生の卒論構想発表
第 4 回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第 5 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 6 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 7 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 8 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 9 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 10 回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第 11 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 12 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 13 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 14 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 16 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 17 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 18 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 19 回	グループ発表	グループごとに中間発表
第 20 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 21 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 22 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 23 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 24 回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第 25 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 26 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 27 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 28 回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、２週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3 もしくは A4　1 枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】
泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』. 古今書院，120 p.

【成績評価の方法と基準】
ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」（30 %）、「討論への参加と応答」（30 %）、「発表内容」（40 %）などを重視する。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションの時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、プロジェクター

【その他の重要事項】
地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline and objectives】
Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

GEO400BF

自然地理学演習（2）

小寺　浩二

授業コード：A3435　｜　曜日・時限：**木曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自然地理学」に関する調査・研究を行う基本的な能力を総合的に養う。原則として、各地で顕在化している水環境にかかわる課題に取り組む上で必要な水環境データの考察手法について習熟し，その手法，解釈・考察に関しても学ぶ。
一方、地理空間情報解析を唯一重点的に扱うゼミとして、自然地理学・人文地理学の分野にかかわらず、ＧＩＳを用いた地理学諸分野の研究についての基礎と応用についても学ぶ。

【到達目標】
水環境を中心とした自然地理学の基礎知識と調査・研究の基礎能力を修得する。
地理空間情報解析についても、基礎的な知識を身につけ、GIS を自由に活用できる能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「海洋・陸水学及び実験Ⅰ、Ⅱ」の講義内容に沿った具体的な課題に対する演習を中心とするが、環境問題に関わる異分野の文献も取り上げる。また、研究テーマ選定から、現地調査により得られる観測データに基づき，解析と図化の方法などの課題を通じて，研究遂行上必要な基本的能力の修得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	概要と計画	ゼミの概要と年間計画
第 2 回	様々な水環境問題	3 分間スピーチ
第 3 回	研究・調査法	研究手法調査と方法論
第 4 回	先行研究と課題	該当課題の概略理解
第 5 回	現地調査法	機材の整備と準備
第 6 回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第 7 回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第 8 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 9 回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第 10 回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第 11 回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第 12 回	分析結果表現③	複合表現
第 13 回	水文誌	水環境情報の整理
第 14 回	地域特性解析	複合的な情報解析

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	まとめと課題	春学期の反省と秋学期計画
第 16 回	夏期休暇活動報告	休暇中の研究報告
第 17 回	秋学期の課題と展望	研究結果中間報告
第 18 回	研究・調査計画	研究・調査方法修正
第 19 回	先行研究と課題	該当課題理解を深める
第 20 回	現地調査法	新調査法開発
第 21 回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第 22 回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第 23 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 24 回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第 25 回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第 26 回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第 27 回	分析結果表現③	複合表現
第 28 回	まとめ	結果の整理と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自然環境・水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
課題・テーマに沿った発表を中心とするので、テキストは使用しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点と最終的なゼミ論によって評価を実施する。調査地域の水環境を事前に文献で調査し、与えられた課題についての文献調査結果をとりまとめ発表し、討論に参加することを期待する。平常点 50%、ゼミ論 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】
水環境分野に限らず、環境にかかわる幅広い分野に対応するように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
データ整理・解析などにパソコンを用いる。

【その他の重要事項】
受講に際しては、「地学実験」、「海洋・陸水学」及び「地理情報システム（GIS）」の履修を原則とするが、本分野で卒論を書かない学生（4 年生含む）の履修も歓迎する。
様々な分野の研究事例を学ぶことで，調査・研究の遂行上必要な基礎知識・データ管理・処理方法などの修得が可能である。異分野専攻の学生にも実感してもらいたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
The basis ability of the elementary knowledge, the investigation and the study of the physiography which made the aqueous environment the center is acquired.
I also put on basic knowledge about a geographical spatial information analysis and bring the ability for which GIS can be utilized freely up.

GEO400BF

自然地理学演習（3）

前杢　英明

授業コード：A3436　｜　曜日・時限：**火曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】
自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミは 3 年生を中心に運営して行く予定である。4 年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第 1 回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。春学期はオンラインにて 4 月 21 日から開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間のゼミ運営について議論・説明する
第 2 回	卒論構想発表 1	4 年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第 3 回	卒論構想発表 2	4 年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第 4 回	学生文献発表 1	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第 5 回	学生文献発表 2	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 6 回	学生文献発表 3	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 7 回	学生文献発表 4	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 8 回	学生文献発表 5	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 9 回	学生文献発表 6	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 10 回	学生文献発表 7	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 11 回	学生文献発表 8	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 12 回	学生文献発表 9	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 13 回	卒論中間発表 1	4 年生の卒論中間発表
第 14 回	卒論中間発表 2	4 年生の卒論中間発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ガイダンス	秋学期のゼミ運営について議論・説明する。
第 16 回	学生文献発表 10	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 17 回	学生文献発表 11	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 18 回	学生文献発表 12	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 19 回	学生文献発表 13	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 20 回	卒論中間発表 3	4 年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第 21 回	卒論中間発表 4	4 年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第 22 回	学生文献発表 14	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 23 回	学生文献発表 15	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 24 回	学生文献発表 16	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 25 回	学生文献発表 17	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 26 回	学生文献発表 18	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 27 回	3 年生卒論構想発表 1	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）
第 28 回	3 年生卒論構想発表 2	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%
発表､議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず 1/3 以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
powerpoint

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究．地理科学，vol.60-3，pp.136-142.
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
Training to make research work on Physical Geography

HUG400BF

人文地理学演習（1）

片岡　義晴

授業コード：A3437　｜　曜日・時限：**月曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「本を読みこなす」ことを目標にします。「本を読みこなし」、そしてディスカッションすることによって、理解を深めていきます。読む本は日本の社会経済問題、地域問題に関わるものです。

【到達目標】
本に「読まれる」のではなく、「批判的」かつ「客観的」に本を読むことができるようにしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
「本を読みこなす」ことは難しいことです。私自身も自信がありません。しかし，皆さんと一緒に本を「読みこなせる」ように努力していきたいと思います。参加者をいくつかの班に編制して，班内・班間で議論していくつもりです。地域問題，社会問題に関する本を読んでいきます。ディスカッションすることによって、本の中での議論に対する理解を深めていきます。
一方で 4 年生は卒論作成に向けて準備しなければなりません。そのためには論文を読み、論理の組み立て方、論証の仕方を学ぶ必要があります。したがって本を読むことと並行して、論文を読んでいこうと思います。論文選択は各自に任せます。
公式のゼミ運営方針は以上の通りですが、今年は社会に対する関心を深めるため、各自でテーマを設定し、何度か発表してもらうつもりです。テーマは自由で、特に 3 年生にそれを課します。春学期中に 1 回、秋学期終了時に 1 回、各自設定した「社会問題」について発表して下さい。地理学的であるか否かは問いません。
【授業の方法】
本を読む際は、参加者を 4〜5 名程度に班編制し、毎回順番にどこか 1 つの班が報告班となって，報告班は要約とキーワード，質問をプリントして全員に配布します。
「本を読む」こと以外では、論文発表をしてもらいます。論文発表に関しては、各自で論文を選択し、プリントアウトした論文を事前に全員に配布し、全員その論文を読んでいることを前提にして発表してもらいます。
各自のテーマに関しては、年に 2 回程度、発表してもらいますが、論文発表がそれに役立つはずです。つまり両者は連動しています。
また、4 年生を対象にした卒論向けサブゼミを、秋学期の 6 時限目に設けます。
2020 年度春学期授業は予定通りに進められそうもなく、学習支援システムと併用して ZOOM 等を使って、新たな試みを模索するしかありません。一番困るのは「本を読む」ことがどこまで可能かということです。解決策が当初から用意されてはいないため、指呼錯誤すること必定です。あらかじめお詫びします。
2020 年度春学期受業は 4 月 27 日（月曜日）から開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の説明、ゼミ参加の意思確認
第 2 回	班編制	ゼミ参加者の確定、班編制
第 3 回	第 1 回テキスト選定	テキスト選定
第 4 回	輪読と討論（1）	ディスカッションの仕方の説明
第 5 回	輪読と討論（2）	テキストの概要説明
第 6 回	輪読と討論（3）	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論（4）	ディスカッション
第 8 回	4 年生卒論構想発表（1）	ディスカッション
第 9 回	論文発表 (1)	ディスカッション
第 10 回	論文発表 (2)	ディスカッション
第 11 回	論文発表 (3)	ディスカッション
第 12 回	論文発表 (4)	ディスカッション
第 13 回	まとめ	ディスカッション
第 14 回	まとめ	ディスカッション

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	第 2 回テキスト選定	テキスト選定
第 16 回	輪読と討論（1）	ディスカッション
第 17 回	輪読と討論（2）	ディスカッション
第 18 回	輪読と討論（3）	ディスカッション
第 19 回	輪読と討論（4）	ディスカッション
第 20 回	論文発表 (5)	ディスカッション
第 21 回	論文発表 (6)	ディスカッション
第 22 回	論文発表 (7)	ディスカッション
第 23 回	論文発表 (8)	ディスカッション
第 24 回	論文発表 (9)	ディスカッション
第 25 回	論文発表 (10)	ディスカッション
第 26 回	3 年生、卒論構想（1）	3 年生の卒論構想発表（1）
第 27 回	3 年生、卒論構想（2）	3 年生の卒論構想発表（2）
第 28 回	4 年生の卒論体験発表	卒論作成の失敗、手法の体験談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本当に「理解」するということは、読むだけ、聞くだけでは達成できません。自らの意見を発表し、相手を説得する技術を身につけることも重要です。それは同時に、相手の意見を正確に理解することなくしては達成できません。テキストを正確に把握し、それへの賛同、批判を説得的に表明できるようにするためには幅広い知識が必要になります。一見、地理学的でない現象についての知識を、書籍からだけではなく報道等からも積極的に収集して下さい。
今年度は、ゼミの進め方を本格的に変更するつもりです。4 年生の卒論は、6 月頃、構想発表、夏休み前にテーマ決定、10 月までの調査終了、11 月下旬には下書き作成を求めます。3 年生にも各自のテーマ（社会科学としてのテーマ）の探求、卒論仮テーマの検討を求めるつもりです。そのつもりで受講して下さい。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1 年間（春学期と秋学期の前半）で本を 2 冊読む予定ですが、テーマ等についてはそれぞれ相談して決めます。

【参考書】
とりあえず友原章典（2020）『移民の経済学』中公新書を挙げておきます。その他、授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
使用テキストの内容をつかむことはもちろんですが、ディスカッションの仕方を学ぶことも重要です。そのためにはコンスタントな出席が必要です。発表の仕方、その内容、ディスカッションへの参加の程度、出席状況、それらを総合的に判断して成績評価します。要するに平常点 100 %で成績評価します。
2020 年春学期は出席確認が難しいですが、それに代わる参加状況確認方法を取り入れようと思います。

【学生の意見等からの気づき】
参加者すべての関心を引くようなテーマの本を選択したいのですが、これは難しい問題です。受講生の皆さんすべての興味を充たすことは難しく、悩んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
主として 4 年生を対象にした卒論だけに特化したサブゼミを別途、実施（秋学期）するつもりです（月曜日 6 時限目を予定）。4 年生の卒論予定の学生は出席が望まれます。

【Outline and objectives】
This course aims to read geographical books about regional and social probkems in Japan, especially immigrants in Japan, and to have a lively discussion on the problems.

HUG400BF

人文地理学演習（2）

中俣　均

授業コード：A3438　｜　曜日・時限：**木曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このゼミで体得すべきことは，
①　書物や論文を「批判的に」読みこなす
②　発表の際のレジュメを「説得的に」書く
③　特定のテーマを特定の場で発表（プレゼンテーション）しそれについて「生産的に」議論する の 3 点である。したがって，必然的に「出席なくして発言なし，発言なくして議論なし，議論なくして単位なし」ということになる。とくに肩肘はらずにフランクに，しかし節度を守って活発に議論するという習慣を身につけることを重視したい。議論に加わることは最初はなかなか勇気のいることかもしれないが、自分で自分の殻を破って活発に発言できるよう、ぜひつとめてほしい、そうした過程を経てこそ，お互いに真の意味での学友となり得ると考えるからである。

【到達目標】
上記①～③に習熟すること。特に、①と③を具体的目標として強調しておく。また 4 年生にとってはきちんとした卒業論文を執筆するための準備をこの授業を通じて行なうことが大きな目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	参加者の確定など
第 2 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（1）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (1)
第 3 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（2）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (2)
第 4 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（3）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (3)
第 5 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（4）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (4)
第 6 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（5）	同 2～3 年生の課題論文読みこなしと発表（5）
第 7 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（6）	同 2～3 年生の課題論文読みこなしと発表（6）
第 8 回	卒業論文作成に向けた共同指導（1）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (1)
第 9 回	卒業論文作成に向けた共同指導（2）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (2)
第 10 回	卒業論文作成に向けた共同指導（3）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (3)
第 11 回	卒業論文作成に向けた共同指導（4）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (4)
第 12 回	卒業論文作成に向けた共同指導（5）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (5)
第 13 回	参加者全体での議論（1）	共通テキスト読解と報告・議論 (1)
第 14 回	参加者全体での議論（5）	共通テキスト読解と報告・議論 (2)

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	参加者全体での議論（3）	共通テキスト読解と報告・議論 (3)
第 16 回	参加者全体での議論（4）	共通テキスト読解と報告・議論 (4)
第 17 回	参加者全体での議論（5）	共通テキスト読解と報告・議論 (5)
第 18 回	参加者全体での議論（6）	共通テキスト読解と報告・議論 (6)
第 19 回	参加者全体での議論（7）	共通テキスト読解と報告・議論 (7)
第 20 回	参加者全体での議論（8）	共通テキスト読解と報告・議論 (8)
第 21 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ (1)	4 年生の卒論最終中間発表 (1)
第 22 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ（2）	4 年生の卒論最終中間発表 (2)
第 23 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ（3）	4 年生の卒論最終中間発表 (3)
第 24 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ（4）	4 年生の卒論最終中間発表 (4)
第 25 回	卒業論文作成に向けた共同指導（5）	4 年生の卒論最終中間発表 (5)
第 26 回	参加者全体での議論の総まとめ（1）	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (1)
第 27 回	参加者全体での議論の総まとめ（2）	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (2)
第 28 回	参加者全体での議論の総まとめ (3)	共通テキスト関連文献の読解と報告・議論 (3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　所定の時間内では議論が収束しないこともしばしばある。そうした場合にはサブゼミ的な時間（毎週の本ゼミ直後の時間帯）を設けるので、学生同士で主体的に議論を深化させてほしい。また、上記と同じ趣旨で、年に 1 回、ゼミ合宿を実施するので、費用の工面などあらかじめ準備をして、できるだけ参加してほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　第一四半期の論文読解トレーニングの材料は、自分で担当する文献のコピーをとってもらう（費用は不要）。第三四半期のテキストは，参加者と相談しながら決める。ただし年間数千円程度をテキスト購入等に充てる覚悟が必要である。月額にすれば，たいした数字ではあるまい。

【参考書】
　随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
　当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ多くの学生に発表と議論の機会を保証するようこころがけたい。また参加者はそうした機会を利用しての主体的な学習を心がけてほしい。

【Outline and objectives】
This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography.

HUG400BF

人文地理学演習（3）

小原　丈明

授業コード：A3439　｜　曜日・時限：**木曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では各種の作業や調査，プレゼンテーションを通じて，自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には，3 年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4 年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして，オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】
上記のように，本授業を通じて，人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに，各種の作業や調査，プレゼンテーションを通じて，自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。
具体的には，4 年生には適切な問題意識，課題設定，知識（地理学・関連学問），資料，方法，論理展開，図表作成，文章作成，既往研究上の位置づけの下で，オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また，3 年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて，4 年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
●本授業はゼミ形式で行います。上記のように 3 年生と 4 年生とでは到達目標が異なることから，2 つのゼミに分けて（木 5 ： 3 年生用，木 6 ： 4 年生用）演習を行います。ただし，受講生は全員シラバスの記載通り，木曜日 5 時限目に受講登録をして下さい。
● 3 年生用ゼミでは，春学期には学術書の講読，各自が関心のある学術論文の紹介，研究における方法論についての概観，秋学期には調査方法や分析方法の検討，グループによる地域調査（グループワーク）および現地案内，卒業論文に向けての構想など各自が関心のあるテーマについての発表を予定しています。
● 4 年生用ゼミでは，一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は春秋学期ともに 3 回ずつの発表を行い，皆で討論を展開します。
● 3・4 年生全員が集まる合同ゼミも開催し，学年間の交流も図りたいと考えています。また，4 年生も 3 年生ゼミのグループワークに参加してもらい，3 年生をサポートしてもらいます。
●なお，4 月最初の時間には具体的なスケジュールなどを相談の上で決めますので，必ず出席するようにしてください。
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更は授業を通じてあらためて提示します。本授業の開始日は 4 月 23 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	3 年生：ガイダンス 4 年生：ガイダンス	3 年生：ゼミの進め方の説明 4 年生：ゼミの進め方の説明
第 2 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：グループワークのテーマ決定 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 3 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 4 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 5 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 6 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 7 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 8 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：調査の準備 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 9 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 10 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 11 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 12 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 13 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 14 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：総合討論	3 年生：調査の準備 4 年生：卒論研究に関する意見交換

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 16 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 17 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 18 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 19 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 20 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 21 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査の中間報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 22 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査の中間報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 23 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 24 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 25 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 26 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 27 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：調査の報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 28 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：調査の報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当然のことですが，ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また，自分の興味・関心事項に限らず，常日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって，本授業の授業外学習の時間は各 4 時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】
●野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社.
→ 本書は地理学を学び，研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて，研究を行う上での方法論を学びます。
●「卒業論文について」Ver. 3.7（法政大学文学部地理学科発行）

●学術書の講読（3 年生ゼミ）の際に用いるテキストは，ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】
人文地理学分野の文献に限らず，授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表・課題・成果： 60 %，討論： 40 %で評価します。当然ながら，ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で，発表内容や討論への参加などゼミへの取り組む姿勢・意欲を重視して評価します。
なお，春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は学習支援システムや授業を通じて提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者数により，受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【Outline and objectives】
This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The forth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

HUG400BF

人文地理学演習（4）

中川　秀一

授業コード：A3440　｜　曜日・時限：**月曜４限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生は卒業論文を作成します。3 年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】
4 年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3 年生は次年度からの卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で行います。4 年生と 3 年生一緒のゼミ実施を前提とします。4 年生は前期 3 回、後期 2 回の発表を行い、卒論制作に備えます。2 月下旬には学科卒論発表会を行います。3 年生は本や論文の講読と地域調査を行います。すでに Hoppii でお知らせしたように４月２７日からゼミを開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます
第 2 回	文献検索法	文献の探し方を学びます
第 3 回	卒論発表 1 回目	4 年生全員がパワーポイントで発表します
第 4 回	卒論発表 2 回目 (1) －テーマの決め方－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。卒論のテーマの決め方について学びます
第 5 回	卒論発表 2 回目 (2) －客観性の確保①－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、文献提示について学びます
第 6 回	卒論発表 2 回目 (3) －客観性の確保②－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、データの収集について学びます
第 7 回	卒論発表 2 回目 (4) －引用の仕方－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。引用の仕方について学びます
第 8 回	地域調査の準備 (1) －テーマ、フィールド、調査担当の決定—	3 年生が行う地域調査の準備を行います。テーマ、フィールド、調査担当を決定します
第 9 回	卒論発表 3 回目 (1) －参考文献の提示－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。参考文献の提示について学びます
第 10 回	卒論発表 3 回目 (2) －アンケート票の作成①－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます①
第 11 回	卒論発表 3 回目 (3) －アンケート票の作成②－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます②
第 12 回	卒論発表 3 回目 (4) －統計データ収集－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。統計データの収集について学びます
第 13 回	地域調査の準備 (2) －調査内容の決定－	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査内容を決定します
第 14 回	地域調査の準備 (3) －調査の具体的日程の決定－	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査の具体的日程を決定します

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	後期のゼミガイダンス	4 年生は卒論制作の発表、3 年生は地域調査の報告書と卒論構想の発表をします
第 16 回	卒論発表 4 回目 (1) －アンケート票の集計－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の集計について学びます
第 17 回	卒論発表 4 回目 (2) －単純集計－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。単純集計について学びます
第 18 回	卒論発表 4 回目 (3) －クロス集計－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。クロス集計について学びます

第 19 回	卒論発表 4 回目 (4) －検定－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。検定について学びます
第 20 回	卒論発表 4 回目 (5) －報告書のまとめ方－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。報告書のまとめ方について学びます
第 21 回	卒論発表 5 回目 (1) －漢字とひらがな－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文における漢字とひらがなの使い分けについて学びます
第 22 回	卒論発表 5 回目 (2) －読点－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。読点の使い方について学びます
第 23 回	卒論発表 5 回目 (3) －段落－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。段落の作り方について学びます
第 24 回	卒論発表 5 回目 (4) －細かな規則－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。西暦と元号、英数字の半角等について学びます
第 25 回	卒論発表 5 回目 (5) －表表現－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。表の作成について学びます
第 26 回	卒論の構想発表 (1) －図表現－	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。図の作成について学びます
第 27 回	卒論の構想発表 (2) －理論とは①－	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論ついて学びます①
第 28 回	卒論の構想発表 (3) －理論とは②－	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論ついて学びます②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定すること。4 年生は卒論制作に打ち込むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房
藤井　正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
富田和暁（2006）『地域と産業（新版）－経済地理学の基礎』原書房
山本健兒（2005）『経済地理学入門新版－地域の経済発展』原書房

【成績評価の方法と基準】
成績評価はゼミでの発表内容（50 %）と討論への参加程度（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

【Outline and objectives】
4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.

HUG400BF

人文地理学演習（5）

米家　志乃布

授業コード：A3441　｜　曜日・時限：**火曜５限**
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、人文地理学の卒業論文を書くことができるように、学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。4 年生は卒業論文作成を中心に行います。担当教員の専門の関係から、歴史地理・観光地理分野の卒業論文の作成ができるように、日本の歴史地理・観光地理の基礎的な知識や方法論もゼミで学びます。

【到達目標】
(1) 学術論文（卒業論文）のテーマを設定し，そのもとになるデータの取り方、その扱い方や分析ができること。
(2) グループワークを通して，フィールドワークや議論の方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループワークを通して，テーマの設定，データの収集，分析，まとめの方法を学びます。さらにその成果をレジュメにまとめて発表して議論します。4 年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。随時、卒業論文の調査結果とまとめを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	グループの決定，発表順番の決定など
第 2 回	研究テーマの設定について①	人文地理学の学術論文を作成する方法を学ぶ～研究テーマの設定，文献収集の方法
第 3 回	研究テーマの設定について②	人文地理学の学術論文の作成する方法を学ぶ～調査の方法・データの分析
第 4 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 5 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 6 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 7 回	4 年生による卒業論文の進捗報告④	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 8 回	3 年生による文献購読①	『東京の歴史　第 1 巻』序章・第 1 章を読む
第 9 回	3 年生による文献購読②	『東京の歴史　第 1 巻』第 2 章・第 3 章を読む
第 10 回	3 年生による文献購読③	『東京の歴史　第 2 巻』序章・第 1 章を読む
第 11 回	3 年生による文献購読④	『東京の歴史　第 2 巻』第 2 章・第 3 章を読む
第 12 回	3 年生による文献購読⑤	『東京の歴史　第 3 巻』序章・第 1 章を読む
第 13 回	3 年生による文献購読⑥	『東京の歴史　第 3 巻』第 2 章・第 3 章を読む
第 14 回	夏季休暇前の最終報告およびグループワークの計画について	4 年生および 3 年生の発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	夏季休暇中の成果報告について	4 年生および 3 年生の発表
第 16 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 19 回	3 年生によるグループワークの発表①	フィールドワークの結果報告
第 20 回	3 年生によるグループワークの発表②	フィールドワークの結果報告
第 21 回	3 年生によるグループワークの発表③	フィールドワークの結果報告
第 22 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する

第 23 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告④	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告⑤	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマの発表①	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマの発表②	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。4 年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークでは，授業時間外の作業が多くなります。図書館での文献調査やレジュメの作成などを授業外で行います。また特に，フィールドワークを必要とするテーマを選んだグループは，必ず，現地に赴き，資料を収集する必要があります。

【テキスト（教科書）】
3 年生のグループワークは「江戸・東京の歴史・観光地理」からテーマと対象地域を選んでもらいます。そのため『東京の歴史』第 1 巻～第 3 巻、吉川弘文館、2017 年をテキストとして読みます。3・4 年生に共通して、人文地理学関係の学術雑誌『人文地理』『歴史地理学』『地理学評論』から、自分の関心にもとづいて、歴史・観光地理関係の論文を選択して読み込む必要があります。各雑誌は、法政大学図書館および地理学事務室に備えてありますので、適宜、各自でコピーして利用してください。

【参考書】
適宜、各自の研究テーマに即して，授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。）特にグループワークでは、メンバーで協力して、発表をつくりあげるようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文の進捗状況の発表を，3 年生の秋学期から行うことにいたしました。それにより，調査の準備を早くはじめてもらうようにします。

【学生が準備すべき機器他】
3 年生は、グループワークの作業時間を設けますので、必ずＰＣを持参してください。

【その他の重要事項】
3,4 年生の 2 学年が履修するゼミのため，正規の時間内では各自の成果発表のみで時間が一杯になります。学生主体のサブゼミを行いますので，そちらにも積極的に参加するようにしてください。

【Outline and objectives】
This course examines building foundation skills to write papers in human geography, especially historical tourism in Japan.

GEO200BF

世界地誌（1）

狩野　真規

授業コード：A3443　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この地域の成り立ちや日本との関係性ならびに近年の状況を踏まえつつ、オセアニアの地域的特徴について注目していく。それらを通じて、オセアニア地域の概観や地域の特色について理解する内容とする。

【到達目標】
オセアニア地域における地理的特色を理解するとともに、分布図の見方やその説明のための表現方法などの獲得も目指す。具体的な到達目標としては、オセアニア地誌についてそれらを説明するのに必要なキーワードを交えた説明ができることや、対象地域に関する分布図やグラフから特徴を見出し、その説明ができることなどを目安とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、各回に取り組む前に学習支援システムに課題を提示し、解答した後にその内容に沿う内容の資料をシステムにて配布、それらについて掲示板等で補足などを行うことをルーチンとする。なお、本講義の初回は 4/27 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オセアニアの概要	オセアニア地域の範囲を確認しつつ、その概要を紹介する。
第 2 回	オセアニアの歴史	人類の進出とその歴史からオセアニア地域の形成を考える。
第 3 回	オーストラリアの自然環境	オーストラリア大陸の自然環境とその成り立ちについて考える。
第 4 回	オーストラリアの農業・その 1	オーストラリアの農業、特に小麦生産について注目していく。
第 5 回	オーストラリアの農業・その 2	オーストラリアの農業、特に牛肉などについて注目していく。
第 6 回	オーストラリアの農業・その 3 ＋鉱物資源	オーストラリアのコメ生産と鉱物資源の事態に迫る。
第 7 回	オーストラリアの工業	自動車産業を中心にその実態を考えていく。
第 8 回	ニュージーランドの自然環境・その 1	ニュージーランドの自然とその成り立ちについて考える。
第 9 回	ニュージーランドの自然環境・その 2	日本と比較しながらその自然環境を考える。
第 10 回	ニュージーランドの産業	ニュージーランドの農業などを見つめていく。
第 11 回	ニュージーランドの氷河	かかる地域における氷河の動きとその要因についてみていく。
第 12 回	洋上国家の成り立ち・その 1	小さな島における歴史からその成り立ちについて考える。
第 13 回	洋上国家の成り立ち・その 2	小さな島における経済からその問題点を探る。
第 14 回	オセアニアとは？	これまでの内容に関して振り返りをしていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題を提示するので、それに取り組むことが予習となり必須となる。それから、オセアニア地域についてまとめられた文献などを日常的に手に取って読んでおくことが理想である。また、高校で地理を履修していなかった場合はできるだけ高等学校の地理Ｂの教科書を全体的に読んで、その内容を把握することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
現段階では特に指定はしない。

【参考書】
由井浜省吾編（1991）世界地誌ゼミナールⅧ　新訂　オセアニア　大明堂
菊地俊夫・小田宏信 編 (2014) 世界地誌シリーズ 7 東南アジア・オセアニア 朝倉書店　などがあげられる。これらについては目を通しておくとよいが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回冒頭に実施する小テストについては、やや難しいとの意見があった。一方で、緊張感を保つことが出来たという意見もあった。講義以外の学習時間の確保の意味でも毎回の課題への取り組みについては踏襲していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
当面の講義は授業支援システムを通じて行うことを前提する。従って、授業支援システムを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
毎回課題を提示するので、提出が無ければ評価が下がるので、各自システム上の課題の確認を忘れないようにすること。

【Outline and objectives】
This course deals with the geographical characteristics of the Oceania area.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1.Obtain basic knowledge about the regional geography of the Oceania area.
2.Understand the relationship between Japan and the Oceania area from the viewpoint of the geography.

GEO200BF

世界地誌（2）

小原　丈明

授業コード：A3444　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学とは，特定の地域の様々な事象について，有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え，理解する学問です。本授業では北米各国・各地域の歴史・文化や産業，都市の発展に焦点を当てて授業を行っていきます。とりわけ，国境を越えて展開される産業（アグリビジネス，製造業など）について学びます。

【到達目標】
本授業を通じて，世界における北米地域の位置づけや同地域の産業の展開を理解することができるようになります。また，本授業では，北米地域の地誌についての知識を修得するだけでなく，それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず，北米地域全体の自然環境や人口分布，世界における位置づけ，アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性などについて学びます。それらを踏まえて，各国の歴史・文化や産業などについて考えます。そして最後に，都市ならびにエスニックマイノリティ（日本人）に焦点を当て，都市・都市圏構造や都市開発，エスニックビジネスなどについて考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／北米の概略①	授業の進め方／自然環境
第 2 回	北米の概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第 3 回	アメリカ合衆国の地誌①	歴史・文化／人口
第 4 回	アメリカ合衆国の地誌②	産業①：農業の展開
第 5 回	アメリカ合衆国の地誌③	産業②：工業の展開
第 6 回	カナダの地誌①	歴史・文化／人口
第 7 回	カナダの地誌②	産業①：農業の展開
第 8 回	カナダの地誌③	産業②：工業の展開
第 9 回	メキシコの地誌①	歴史・文化／人口
第 10 回	メキシコの地誌②	産業：農業の展開
第 11 回	メキシコの地誌③	産業：工業の展開
第 12 回	北米における都市発展	都市・都市圏／都市システム／都市開発
第 13 回	北米における日本人	エスニックタウン／エスニックビジネス
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また，授業で紹介する参考文献については，自主的に読むことを求めます。
なお，本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず，授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し，配布します。

【参考書】
・小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座―大地と人間の物語― 13　アメリカ・カナダ』朝倉書店.
・国本伊代編著（2011）：『現代メキシコを知るための 60 章』明石書店.
・坂井正人・鈴木　紀・松本栄次編（2007）：『朝倉世界地理講座 14　ラテンアメリカ』朝倉書店.
・田辺　裕監修（1997）：『図説大百科世界の地理 1・2　アメリカ合衆国Ⅰ・Ⅱ』朝倉書店.
・田辺　裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理 4　中部アメリカ』朝倉書店.
・田辺　裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ　ベラン世界地理体系 17』朝倉書店.
・矢ヶ崎典隆編（2011）：『世界地誌シリーズ 4　アメリカ』朝倉書店.
・矢ヶ崎典隆（2010）：『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会.
・矢ヶ崎典隆ほか編著（2003）：『アメリカ大平原―食糧基地の形成と持続性―』古今書院.
・その他の参考文献については，授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %，期末試験（持ち込み不可）：70 %。それぞれの事象の背景や要因，結果について総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが，多くの資料・データを提示することで，受講生自身が考察を行った上で，講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline and objectives】
This course introduces the regional geography of the north American counties to students taking this course. The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the area, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO200BF

世界地誌（5）

吉村　郊子

授業コード：A3447　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアフリカについて、自然・生態・文化・社会・歴史・現代における諸課題や他地域とのかかわり等、さまざまな観点から学びます。そして、地誌学や地域研究、人類学他の関連諸分野の手法も学びつつ、アフリカの特色と多様性について理解を深めることを目指します。さらには、その過程を通して、さまざまな地域や対象・事象を理解し、総合的にとらえるために必要な視座と思考力を養ってほしいと思います。

【到達目標】
アフリカについて幅広く学び、適切に理解することを目指します。また、地誌学や関連諸分野の手法を用いて、多様な世界とそこで今、生じている問題を的確に捉え、考えていくために必要な視座と思考力を養います。そうして理解し、考えた内容を表現することにも慣れていきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントおよび板書を使用して、講義形式で進めます。授業で用いる参照資料のうち、個々の学生の手元に必要なものについては、その都度、配布します。また、映像資料等も適宜、活用する予定です。受講生には、授業後にペーパーまたは学習支援システムを通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。
（＊以下、4/9 追記）授業の実施形態の変更にともない、今期は、こちらの「授業の進め方と方法」を含めて、いくつかの点において変更があります。詳細は、4/20 から適宜、「学習支援システム」上にて、受講生のみなさんにおしらせする予定です。本科目の受講を考えている方は、仮登録のうえ、そちらを参照してください。
（＊以下、4/15 追記）なお、本授業の開始日（＝授業の初回ガイダンス）は、4 月 21 日からとします。オンライン授業の具体的な方法や当面の授業の進め方等については、その前日である 4 月 20 日に、「学習支援システム」のお知らせ欄に掲載する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方を説明した後、アフリカのイメージをふり返る。
第 2 回	アフリカの概要 1	地形・気候・植生等、アフリカの自然環境的な側面を概観し、学ぶ。
第 3 回	熱帯雨林における自然と人のかかわり	湿潤な熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の事例を学びつつ、アフリカの地理と文化・歴史について考える。
第 4 回	アフリカの概要 2	人口・言語・文化・歴史等、アフリカにおける人の営みの側面を概観し、学ぶ。
第 5 回	半砂漠における自然と人のかかわり	乾燥帯に暮らす狩猟採集民の事例を学びつつ、アフリカの地理と文化・歴史や変容について考える。
第 6 回	狩猟採集民の暮らしの特色と多様性・歴史と変遷	これまでの授業内容をふまえつつ、多様な要素・観点から本テーマについて考える。
第 7 回	ドメスティケーションと農耕・牧畜 1．乾燥サバンナにおける自然と人のかかわり	ドメスティケーションについて学んだ後、牧畜民の事例から、アフリカの多様性を知り、学ぶ。
第 8 回	ドメスティケーションと農耕・牧畜 2．湿潤サバンナにおける自然と人のかかわり	農耕民の事例から、アフリカの多様性を知り、学ぶ。
第 9 回	自然環境と植民地支配、近年の環境変動	アフリカの自然環境と植民地支配やその変遷について学ぶ。また、補足的なトピックスとして、近年の環境変動と砂漠化や、それに対する人びとの取り組み等にも目を向ける。
第 10 回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり 1	これまでの授業内容をふまえ、参照しつつ、本テーマについて学び、考える。
第 11 回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり 2	前回に続き、本テーマについて学び、考える。

第 12 回	アフリカにおける現代的な課題 1	これまでの授業内容をふまえつつ、アフリカにおける現代的な課題を取りあげて、学ぶ。
第 13 回	アフリカにおける現代的な課題 2	前回に続き、本テーマについて学び、考える。
第 14 回	アフリカの特色と多様性（まとめ）	これまでの授業内容をふまえて、本テーマについて総合的に捉え、考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容をふり返って復習する他に、ふだんから関連する書籍や多様な資料・ニュース等にも目を向けて、日常の暮らしの中でも視野を広げていきましょう。そのうえで、課題や試験に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 1.5 時間を標準とし、課題に取り組む時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし
（＊以下、4/9 追記）授業の実施形態の変更にともない、今期は、次の書籍を教科書として使用する予定です。
『世界地誌シリーズ 8 アフリカ』朝倉書店（島田周平・上田元編、2017 年初版発行）
https://www.asakura.co.jp/books/isbn/978-4-254-16928-7/
詳細は、4/20 以降に「学習支援システム」上でお伝えしますので、そちらを参照してください。

【参考書】
授業の内容と進捗状況に応じて適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参画度とミニ課題の提出： 30 %）と試験（70 %）の総合評価とします。
（＊以下、4/9 追記）授業の実施形態の変更にともない、成績評価の方法と基準についても、変更が生じます。その詳細については、「学習支援システム」上でおしらせしますので、そちらを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】
多様な資料を活用して、わかりやすい授業の進行を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
ミニ課題の提出には、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】
質問があれば、授業終了時に教室で声をかけてください。その場で対応します。なお、ミニ課題はごく簡単な内容ですので、指定された期間内に所定方法で提出してください（課題の内容と提出方法は、その都度、授業内で提示し、説明します）。

【Outline and objectives】
Students will learn about Africa from various perspectives such as nature, ecology, culture, society, history, transitions and other issues. They'll also learn about the knowledge and method of some disciplines such as geography, regional studies, anthropology, and so on. I would like students to understand the characteristics and diversity of Africa with reality. Furthermore, I hope students to develop their skills for knowing and understanding diversity of world comprehensively.

GEO200BF

世界地誌（6）

加賀美　雅弘

授業コード：A3448　｜　曜日・時限：**オータムセッション**
オータムセッション/Autumn Session・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食に着目してヨーロッパ地誌を考える。具体的には，ヨーロッパ固有の食文化の形成過程を，①自然環境に適応した農業，②近代化と社会構造の変化，③工業化，の 3 点に着目し，地域の変化と関連づけながら考察する。今日あるヨーロッパの食文化がいかに多様な要因によって形成されてきたかを学習し，ヨーロッパ特有の社会を理解することにつなげる。なお，必要に応じて，日本との違いにもあわせて追及する。

【到達目標】
ヨーロッパの食に着目し，食を規定する地域的要因としての自然環境と農業，社会構造，近代化との関係を学び，ヨーロッパの地域的な多様性，EU による統合が進められる中での地域的な個性の顕在化，社会の構造の特徴について理解する．また，日本との比較を通じて，ヨーロッパの特性について考察を進める．ヨーロッパという地域についての理解を深めると同時に，現代世界を相対的にとらえる視点も養うことを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し，配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また，毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認する。なお，本講義はオータムセッション期間中に集中授業として行う（9 月 11，12，14，15 日）．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像，進め方などを説明する。また，地域としてのヨーロッパの概要を解説する。
第 2 回	地理的スケールでとらえる食	食からみる世界の地域差について説明する。さらに食と文化，社会との関係について解説する。
第 3 回	自然環境と結びついたヨーロッパの食（1）	自然環境および農業と対応するローカルな食文化について解説する。その際，特にコムギと油脂に着目する。
第 4 回	自然環境と結びついたヨーロッパの食（2）	北西ヨーロッパの農業の歴史について解説する。その際，特に豚肉と牛乳に着目する。
第 5 回	外来作物が変えたヨーロッパの食（1）	貧困層の食となったトウモロコシの歴史について解説する。さらに，社会的弱者の特性を，病気（ペラグラ）に着目して検討する。
第 6 回	外来作物が変えたヨーロッパの食（2）	貧困層の食となったジャガイモの歴史について解説する。さらに，アイルランド飢饉の事例から，社会的弱者の特性を考察する。
第 7 回	外来作物が変えたヨーロッパの食（3）	産業化によって出現した富裕層の暮らしについて解説する。そして，近代化とともに発展した華やかな都市文化を説明する。

第 8 回	外来作物が変えたヨーロッパの食（4）	華やかな都市文化を砂糖と関連づけて解説する。また，砂糖の栽培と消費から，世界の格差について考察する。
第 9 回	外来作物が変えたヨーロッパの食（5）	富裕層の食としてのコーヒーの歴史について解説する。さらに，ヨーロッパの市民社会の形成をコーヒーに着目して説明する。
第 10 回	近代化で変わった食（1）	近代化によって深刻化した都市の環境汚染と飲料水の関係を説明する。そして，ステイタスシンボルとしての飲料水について解説する。
第 11 回	近代化で変わった食（2）	ミネラルウォーターと健康や保養地との関係について解説する。その上で，ヨーロッパ社会における富裕層の特性について整理する。
第 12 回	工業化で変わったヨーロッパの食（1）	特権階級の食だったチョコレートの歴史を解説する。さらに，工業化によるチョコレートの大衆化について説明する。
第 13 回	工業化で変わったヨーロッパの食（2）	農産加工品としてのビールの特徴を説明する。その上で，工業化によるビールのグローバル化について解説する。
第 14 回	まとめ（試験を含む）	授業内容を整理し，ヨーロッパの地域的特性についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として，テキストを読んで内容を整理しておく。復習として，授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『食で読み解くヨーロッパ―地理研究の現場から』　加賀美雅弘著，朝倉書店，3000 円

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終時限に実施する試験： 40 %，授業中に課すリアクションペーパーの内容： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって，その内容をできるだけ次回の授業に反映させる。

【Outline and objectives】
For the study on regional geography of Europe we will grasp European culture and society with attention to food custom and dishes which show regional variety. In particular, the next three points will be focused; regional distinctive agriculture adapting to physical environment, change of social structure during modernization era, and industrialization since 19th century. The goal of this lecture is understanding of European society with geographical contexts, using food custom and dishes as index to get a handle on regional characteristics. We will also use a comparative viewpoint on society and culture of Europe and Japan.

GEO300BF

地理学読図演習（1）

山口　隆子

授業コード：A3449　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国土地理院の 1:25,000 地形図をはじめとした地形図から、地形や土地利用を含めた環境に関する情報を読み取る技術を、地図作業を通じて習得する。

【到達目標】
地形図から地形や土地利用を含めた環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明。
第 2 回	1:25,000 地形図の基本	地形図のあらましと地図記号・方位・縮尺など。
第 3 回	1:25,000 地形図における起伏の把握	等高線の読み取り、尾根と谷の把握、地形断面図の作成。
第 4 回	ハザードマップの作成	等高線の読み取りの応用として、ハザードマップを作成する。
第 5 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握	水系図の作成。
第 6 回	ダムの集水域の把握	水文環境の応用として、ダムの集水マップを作成。
第 7 回	1:25,000 地形図における土地利用の把握	現在、そして過去の地形図から土地利用の変遷を把握する。
第 8 回	その他の自然環境マップの読図	植生図等、地形図以外の自然環境に関する読図。
第 9 回	読図総合	東京近郊を対象に、これまでの学習を振り返り、読図作業を行う。
第 10 回	読図総合	東京近郊を対象に、これまでの学習を振り返り、読図作業を行う。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の演習において、理解が不十分な内容や終えることができなかった作業などを、各自で最後まで行なうこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
地形図などは必要に応じて毎回の講義内で配布する予定である。

【参考書】
東郷正美・佐藤典人・井上奉生 (1983) ：法政大学通教テキスト『地理調査法（自然編）』

【成績評価の方法と基準】
演習なので出席・作業への取組状況（50 %）や課題の提出物（50 %）を評価の基礎にする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義を希望する学生がいますが、演習という講義名からも分かる通り、実習を中心に進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
硬質色鉛筆、30 ㎝程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの、読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】
現地踏査については、第 1 回目に日程等を調整する。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、実践的な課題をテーマとしていきます。

【Outline and objectives】
From the topographical map including the 1: 25,000 topographic map of the Geographical Survey Institute, we acquire the technique to read information on the environment including the topography and land use through map work.

GEO300BF

地理学読図演習（2）

山口　隆子

授業コード：A3450　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国土地理院の 1:25,000 地形図をはじめとした地形図や雨温図・アイソプレス図などの気候図から、環境に関する情報を読み取る。

【到達目標】
地形図や気候図から環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。その上で作業や作図結果から読み取れる内容に関する意見交換を通じて、受講生相互に理解を共有することに努める。３～５回はグループごとに読図を行い、その結果を、グループごとに６、７回で発表する。11～14 回については、現地踏査を行い、読図結果の確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明。
第 2 回	地質図	東京の立体地質図の作成と考察。
第 3 回	読図総合	グループごとに読図を行う。（自然）
第 4 回	読図総合	グループごとに読図を行う。（人文）
第 5 回	読図発表	グループごとに読図結果を発表する。
第 6 回	読図発表	グループごとに読図結果を発表する。
第 7 回	読図発表	グループごとに読図結果を発表する。
第 8 回	気候・気象データ	気候・気象データの統計解析。
第 9 回	アイソプレス	アイソプレス図の作成と考察。
第 10 回	器差補正	移動観測結果の作図と考察。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の演習において、理解が不十分な内容や終えることができなかった作業などを、各自で最後まで行なうこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
地形図などは必要に応じて毎回の講義内で配布する予定である。

【参考書】
東郷正美・佐藤典人・井上奉生 (1983) ：法政大学通教テキスト『地理調査法（自然編）』

【成績評価の方法と基準】
演習なので出席・作業への取組状況（50 %）や課題の提出物（50 %）を評価の基礎にする。現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象にしない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること。）。

【学生の意見等からの気づき】
講義を希望する学生がいますが、演習という講義名からも分かる通り、実習を中心に進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
硬質色鉛筆、30 ㎝程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの、読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】
現地踏査については、第 1 回目に日程等を調整する。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、実践的な課題をテーマとしていきます。

【Outline and objectives】
Read information on the environment from the topographic map including the 1: 25,000 topographical map of the Geographical Survey Institute and the climate diagram such as rain temperature map and isopress diagram.

GEO300BF

自然地理学特講（1）

羽佐田　紘大

授業コード：A3500　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、自然地理学、特に地形学・堆積学分野の調査方法を修得していく。

【到達目標】
地形学・堆積学分野における地形や堆積物の観察・解析・分析方法を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義および実習形式で進めていく。適宜プリントを配布する。講義ではスライドを投影して説明していく。スライドやプリントに多くの図や写真を示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、実習として、野外での地形・地質の観察、屋内での堆積物の観察・分析、地質断面図等の図作成を行う。実習での成果をレポートとして提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／日本の沖積低地	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。日本における沖積低地の分布を解説する。
第 2 回	沖積低地での調査	沖積低地での地形学・堆積学的な調査について述べる。
第 3 回	沖積低地と沖積層	沖積低地と沖積層について説明する。
第 4 回	堆積相と堆積システム	堆積相と堆積システムについて解説する。
第 5 回	沖積低地と土砂供給	過去数千年間の土砂供給量の変化について説明する。
第 6 回	関東平野の地形・地質	関東平野の地形・地質について概説する。
第 7 回	野外実習：地形・地質の観察	野外において地形や地質を観察する。
第 8 回	野外実習：地形・地質の記録	野外で観察した地形や地質をフィールドノートに記録する。
第 9 回	コア堆積物の観察	実際のボーリング調査で得られた堆積物を観察する。
第 10 回	コア堆積物の記載	コア堆積物を基に柱状図を作成する。
第 11 回	堆積物の分析	堆積物の目視での観察結果と泥分含有率の測定結果を比較する。
第 12 回	地質図：地層境界線	地質図とは何か、地層境界線の引き方を説明する。
第 13 回	地質図：地質断面図	地質断面図を作成する。
第 14 回	ボーリング柱状図と地下構造の復元	ボーリング柱状図に基づく地下構造の復元について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習する。
野外実習の実施にあたって事前に行き先に関する準備学習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（70 %）および平常点（30 %）により評価する。原則 1 ／ 3 以上の欠席者は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
実物（地形や堆積物）に直接触れられる機会を増やすことを心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
Word 等で作成した課題（デジタルデータ）を提出する際には授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
野外実習は 10〜11 月中の土曜日に行う予定である。
野外実習の日程次第で授業回が前後する可能性がある。
最終的な日程は履修生の予定を確認した上で決定する。

【Outline and objectives】
This course introduces geomorphological and sedimentological survey methods.

GEO300BF

自然地理学特講（3）

山口　隆子

授業コード：A3453　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候学・生気象学を研究していくうえで必要となる環境気候学を学ぶ。

【到達目標】
環境と気候のとらえかたを学び、気候学に関する研究テーマを設定できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを読み、担当範囲についてレジュメの作成・発表を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講生との講義内容に関する意見交換
第 2 回	明治時代の気候と気象災害	明治時代の気候や気象災害の様子を、過去のデータから読み解く。
第 3 回	地球温暖化の実態とメカニズム	地球温暖化の実態とは
第 4 回	ヒートアイランドの性質	ヒートアイランドの実態とは
第 5 回	都市気候をめぐる話題	都市気候とは
第 6 回	気候変動の信頼性に関する問題	観測データの均質性、統計的な方法
第 7 回	夏の局地風と広域ヒートアイランド	海陸風と広域ヒートアイランド
第 8 回	猛暑の実態とその長期変化	猛暑とフェーン現象
第 9 回	気候変動と降水の変化	日本の大雨の特徴と降水の変化の実態
第 10 回	都市が降水に与える影響	都市と降水の関係
第 11 回	観測準備	都市気候に関する観測の準備
第 12 回	観測	観測実施
第 13 回	解析	観測データの解析
第 14 回	まとめ	都市気候の仕組みと実態に関するまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメ作成に際し、担当範囲の参考文献はすべて読み、まとめることも含む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤部文昭 (2012) ：『都市の気候変動と異常気象』. 朝倉書店,161p.

【参考書】
講義内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】
Learn the environmental climatology that is necessary for studying climatology and biometeorology.

GEO300BF

自然地理学特講（4）（生態学）

近藤　博史

授業コード：A3488　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上では未知な生物を含めて現在 870 万種もの生物が存在すると言われている．それら生物は様々なスケールで環境に影響を与え，また環境は生物に影響を与えている．生態学とは，生物と環境が関係する自然全体を理解する学問であり，基礎的なものから応用的なものまで様々な分野から構成されている．この授業では，生態学の基礎知識と概念を身につけ，実際に自然環境で起こっている現象の解明や諸問題を解決する為の知識と思考力を養う．

【到達目標】
生態学の基本的理論を理解することができる．
様々な地域やスケールにおける生態系の仕組みを理解することができる．
世界の様々な場所で起こっている環境諸問題の背景を理解することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
★【2020 年度の本授業開始日について】
本年度の本授業の開始日は現時点で「5 月 7 日（木）」とします．
講義前半はオンラインでの開講となると思われます．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示します．少なくとも授業開始前日までに具体的なオンライン授業の方法などを，学習支援システムで提示する予定です．今後の状況次第では変更となる場合がありますが，その場合はその都度連絡します．

【以下、従来のシラバス内容（参考まで）】
講義期間の前半において，生態学を学ぶ上で重要な考え方や基本的理論を解説する．後半では，身近で起こっている現象や世界レベルでの事例について，最新の研究成果を取り上げつつ，生態学的に解説していく．
毎回の授業では，プリントを配布し，スライドを用いて講義を行う。必要に応じて学生に意見を求め，ディスカッションを行う．
授業の終わりには，毎回の授業に関連したテーマで簡単な課題を出題し，次回の授業時に提出してもらう．
今まで生態学（生物学含む）に関する学問に触れたことがなかったり，数式や専門用語などを覚えるのが苦手だったりする学生でも興味を持ってもらえるように授業を行う．
自然地理学的，および人文地理学的背景を取り上げつつ，それらと生態系との関わりなど，地理学の分野で学んできたことを活かせるような授業を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 生態学とはどういう学問か	生態学の分野について，生態系の概念，生物圏
第 2 回	生物多様性とは	種の分布，生態系の多様性，種多様性，遺伝的多様性，生物多様性の評価
第 3 回	生物の進化について	突然変異と自然選択，性比の決定，個体群の遺伝的構成の維持と変化
第 4 回	生物の生活史と繁殖戦略	生物の生活史，繁殖戦略，r-K 戦略，生存曲線，生物密度と分布，環境収容力
第 5 回	生物間相互作用	生物間の相互作用，エネルギーや栄養の循環，ニッチ，競争，共存，生態系機能
第 6 回	森林の生態学	森林の遷移・更新，自然攪乱と人為攪乱，樹木の共存，種子散布など
第 7 回	身近な自然の生態学	田んぼ，ため池，草原，雑木林の生態系について
第 8 回	都市域の生態学	都市の空間構成，都市化と環境負荷，環境との共生，生態系サービス，コケの生態など
第 9 回	島の生態学	生物の種数平衡，移入，定着，絶滅，固有種
第 10 回	外来種について	外来種の問題、外来種の分布拡大、国内外来種など
第 11 回	海の生態学	海洋の微生物・プランクトン・海藻・魚類・海洋哺乳類などの分布・行動・進化，有機物生産，物質循環
第 12 回	生態系の保全について	生態系サービスの保全，持続的利用，レジリエンス，環境問題
第 13 回	生態系の管理について	森林再生，移入種駆除，生態系の復元，生態系管理と生態系サービス

第 14 回　まとめ　　総括，重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に当日の授業のテーマに関する内容・キーワードについて簡単に調べておくことを推奨します．
普段の毎日の生活の中でも生態学的な事例はたくさん起こっています．
授業の内容に関する生態学的な事例を見つけたらメモなどをしておくとレポートやディスカッションなどに役立ちます．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない．ただし，毎回の授業で必要な資料を配布します．

【参考書】
参考書は授業中に随時紹介しますが，入門としては以下の参考書が良いでしょう．
1. 生態学入門, 日本生態学会編, 東京化学同人
2. アメリカ版大学生物学の教科書第 5 巻生態学, デイヴィッド・サダヴァ他著, ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】
【2020 年度の成績評価方法】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準の変更を予定しています．具体的な方法と基準は、授業開始日（5 月 7 日）に学習支援システムで提示する予定です． 現時点では「期末試験を取り止め，小レポート課題（100%）」で評価する予定です．詳細は授業開始日に指示します．
【以下，変更前の成績評価の方法と基準（参考まで）】
期末試験（50 %）と小レポート課題（50 %）で成績評価を行います．
小レポート：授業中にその回の内容に関わる簡単なテーマを出題し，次回までに提出するという方法で行います．また，授業中の質疑応答や発言などは随時記録し，授業参加度として平常点（＋ α）を加算する場合もあります．

【学生の意見等からの気づき】
・講義後のディスカッション・個別対応について
受講学生から質疑応答の時間を増やしてほしいという意見が多かったので、できるだけ講義中や講義後に時間を設けるようにします。また、個別対応もできる範囲で受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
必要があれば授業中に指示します．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室，もしくはメールで随時対応します．また，授業に関する質問や要望のある学生は，不定期で行う小レポートに記入してもよい．

【Outline and objectives】
The earth has 8.7 million species of plant and animal, including unknown creatures, according to a one of the studies. Those organisms affect the environment on various scales, and the environment affects organisms. Ecology is one of the natural sciences which studies the interactions among organisms and their environment. In this lecture, all students can learn the basic knowledge and concept of ecology, cultivate ecological knowledge and skills to elucidate and solve various problems and phenomena occurring in the natural environment.

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田　宏信

授業コード：A3455　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学のなかでも産業立地論と製造業分野の研究について基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて，地理的見方，考え方を培い，現代の経済社会をみつめる一助とする。

【到達目標】
1．経済地理学の視点から，地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2．産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
2．産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
3．主題図やグラフ等から事象を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は火曜 1 限に設定されていますが，とくにその時間に遠隔会議システム（Zoom など）を用いたオンライン授業は予定しておりません。毎回、月曜の夜（火曜の朝？）までにコンテンツを準備し、それに対する小課題に取り組んでいただく予定です（ただし 5 月 5 日を除く）。この形での授業は 4 月 28 日より開始します。
（追加情報）学習支援システムを基軸とします。各週のミッションは「お知らせ」欄をご覧ください。VOD（動画教材）へのリンクも「お知らせ」欄に掲出します。プリントを「教材」よりダウンロード、印刷の上、動画を視聴し、課題に取り組んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 0 回（4/21）	ガイダンス	対面授業できない期間の授業実施方法についてお知らせします。
第 1 回（4/28）	産業立地論の基本概念：距離と拡がり	産業活動にとっての距離と拡がりについて考えます。
第 2 回（5/12）	産業立地論の古典 (1): チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。
第 3 回（5/19）	産業立地論の古典 (2)：ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。
第 4 回（5/26）	産業立地論の古典 (3)：クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を再考します。
第 5 回（6/2）	集積と外部経済の理論 (1)：グローバル化の中でのローカリゼーション	グローバル化の中で、ローカルなもののもつ役割について考えます。
第 6 回（6/9）	集積と外部経済の理論 (2)：マーシャルとヴァーノンの外部経済論	ウェーバー，マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に，産業集積論の基本的な考え方を学びます。
第 7 回（6/16）	立地分散と企業内地域間分業	工業立地の分散と企業内地域間分業について，事例を通じて考えます。
第 8 回（6/23）	多国籍企業の理論と実際	直接投資の理論を紹介するとともに，日本の自動車メーカーを事例に，海外展開の実際を紹介します。
第 9 回（6/30）	東京のものづくり産業（1）：城東の消費財産業	台東区，墨田区中心に，皮革製品，ニット製品など，消費財産業の集積に着目します。
第 10 回（7/7）	東京のものづくり産業（2）：城南の資本財産業	大田区中心に機械工業集積の形成と特性について考えます。
第 11 回（7/14）	東京のものづくり産業（3）：産業のまちづくり	東京の地域産業政策のこれまでと現在について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には，それに取り組んで下さい。参考書にはなるべく目を通して下さい。

【テキスト（教科書）】
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年（近日発売）。
このテキストの、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 10 章の部分を扱います。

【参考書】
経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年.
小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年.
竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年.
貝沼恵美・小田宏信・森島済『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年.
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。

杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年.
青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年.
菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年.
加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年.
矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店，2018 年.
サクセニアン，A.（山形浩生・柏木亮二訳）『現代の二都物語』日経 BP、2009 年.
サクセニアン，A.（酒井泰介訳）『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年.
フロリダ，R.（井口典夫訳）『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社，2009 年.

【成績評価の方法と基準】
平常時の小課題（10 割）より評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ものづくりの話はなかなかイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、目の前にある品物がどのような材料を用いてどうやって作られるのか、そしてそれがどのような地理的経路を経て作られていくのか、興味を持ってもらえると幸いです。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
配布プリントは毎回，A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。プリントを印刷の上，動画を視聴してください。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

HUG300BF

人文地理学特講（2）

片岡　義晴

授業コード：A3456　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
農業は土壌条件や気候条件に規定されているという、一見「地理学的」な説明を脱却して、世界の政治・経済の仕組み、それに規定された日本の農業政策、日本の経済動向を踏まえて、日本農業の実態に迫っていきます。例えば日頃飲む牛乳のパッケージに記載されている内容は日本の酪農の実態を反映した「具体的」なものであり、そうした身近な具体例を通して日本農業の実態に迫っていきます。それらを通じて日本農業の本質が理解できるようになります。

【到達目標】
現代日本の農業の実態を知ることをめざし、それを通して日本農業の本質が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
土壌条件や気候条件による農業の地域性とかいう、一見「地理学的」説明であるかのごとき、悪しき農業地理学を廃して、世界の政治経済の仕組み、そしてそれに従属、いや「ただ乗り」しようとする日本農政、経済界の思惑に翻弄され続けている日本農業を概観したいと思います。
【授業の方法】
講義形式で授業していきます。
2020 年度春学期受業は 4 月 27 日（月曜日）から開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業と環境 (1)	日本の食料自給率
第 2 回	日本の農業と環境 (2)	フードマイレージとバーチャルウォーター
第 3 回	戦後日本の農業政策 (1)	第二次世界大戦前から戦後復興期、高度経済成長期
第 4 回	戦後日本の農業政策 (2)	農業基本法農政から総合農政
第 5 回	戦後日本の農業政策 (3)	GATT・WTO 体制下農政
第 6 回	北海道農業 (1)	北海道農業の地域性と加工原料農産物への特化
第 7 回	北海道農業 (2)	北海道畑作の展開
第 8 回	北海道農業 (3)	北海道酪農と日本の酪農政策
第 9 回	稲作の変容	減反政策の展開と廃止
第 10 回	畜産業の展開 (1)	輸入飼料と飼料コンビナート
第 11 回	畜産業の展開 (2)	畜産インテグレーション―ブロイラー生産を事例に―
第 12 回	卸売市場の展開と農産物流通	卸売市場法の変化と形骸化
第 13 回	まとめ	まとめ
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ニュース、新聞等の報道において、どれだけ食料・農業・農村に関する話題が示されているか、注意を向けて下さい。そしてそれらはいったい「誰」の立場に立脚しているものなのか、それを意識して報道に注意を向けるようにして下さい。「消費者の立場」という「立場」も、決して一様ではないのです。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
樫原・江尻（2006）『現代の食と農を結ぶ』大月書店を一応の参考文献としますが、その他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（論述式試験）とレポートを組み合わせて成績評価します（期末試験 80 %、レポート 20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料が多すぎるとの指摘がありますが、必要なものは提示せざるを得ません。資料の基となる一次資料の意義、限界についてもお話しできればと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
2020 年度春学期は 4 月 27 日（月曜日）から開始します。

【Outline and objectives】
Ariclutural problems under Japanese gavernment's policies on agriculture.

HUG300BF

人文地理学特講（3）

小原　丈明

授業コード：A3457　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は地理学（主として都市地理学，経済地理学，社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ，都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか，都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど，都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】
本授業を通じて，都市開発に関わる諸事象を題材にして，地理学，とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また，都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから，隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。まず，都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ，土地利用や土地所有，地価・地代，立地，デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び，その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。
本講義では，授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ，適宜，小レポートを課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更は授業を通じてあらためて提示します。本授業の開始日は 4 月 21 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第 2 回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第 3 回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第 4 回	土地所有①	土地所有の変遷
第 5 回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第 6 回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第 7 回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第 8 回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第 9 回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第 10 回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第 11 回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第 12 回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第 13 回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また，授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお，本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】
・橘川武郎・粕谷　誠編（2007）:『日本不動産業史』名古屋大学出版会.
・實　清隆（2008）:『都市における地価と土地利用変動』古今書院.
・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会.
・堤　純（2009）:『土地利用変化のメカニズム』古今書院.
・松原　宏（1988）:『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房.
・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版.
・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %，期末試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で，そえぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。
なお，春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は学習支援システムや授業を通じて提示します。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが，多くの資料・データを提示することで，受講生自身が考察を行った上で，講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline and objectives】
This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.

HUG300BF

人文地理学特講（４）

中川　秀一

授業コード：A3538　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化が進んだ社会では、大都市圏が多くの人々の主たる生活舞台となっています。また、都市生活を支えるさまざまな資源を供給してきた農山村は、第一次産業が変容・衰退する中でその姿・役割を変えてきています。地域や地域間の関係の変化はどのように生起し、私たちの身のまわりの空間をどう変えてきたのでしょうか。「都市と農村」をテーマに、地域や空間を通じた考え方を講義します。

【到達目標】
東京都心の大学から、国土の周辺地域まで見据えることのできる、知的視力を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
商店街や地域の振興、望ましいコミュニティづくり、過疎対策や都市空間の整備…。地域や空間をめぐるさまざまな現在の取り組みに目を向けて、「都市と農村」の文脈から再検討して欲しいと思います。
なお、新型コロナウィルス感染症の流行にともなう措置に応じて講義方法を変更することがあります。**４月２７日**から、順次講義資料を配布することから授業を開始します。講義に関する解説などを**５月１１日**から毎週この時間帯にオンラインで行います。随時課題を提示します。Hoppie の掲示板で告知しますので確認するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション－地理学について	方法論の学問としての地理学の性格を解説します。
第 2 回	さまざまな生業と空間	自然的基礎を基盤として、グローバルな観点からみた地域の文化的多様性の根源を探ります。
第 3 回	村落の空間構造	列島レベルでみた農耕文化の地域性と村落空間がどのように成り立っているのかを考えます。
第 4 回	村落構造とその地域性	村落の社会構造の考え方を解説し、そこに地域的傾向がみられると言えるかどうかを検討します。
第 5 回	市（いち）の成立	生産余剰はどのようにして交換の場、市を生み出し、また特定の場に市場が生まれてくるのはなぜかを考えます。
第 6 回	都市の起源について	都市の本質、属性などを検討したうえで、都市の起源についての諸説を解説します。
第 7 回	農業生産の空間構造	特定の場所に都市がうまれると、食糧を生産する農村空間はどう編成されるか、チューネンモデルを例にとって考えます。
第 8 回	農村空間の構造変容	都市化した社会では、生産の空間としての農村の位置は大きく変容してきました。イギリスの農村社会論の系譜から考察します。
第 9 回	自然の時間と郊外の起源	生命資源の再生産の時間から産業の時間への変化はどのようにして起きたのかを考えます。
第 10 回	産業の時間と都市の計画	産業時間規律が近代において郊外空間を生みだすに至る過程を検討します。
第 11 回	ベッドタウンとベビーブーマー	第二次世界大戦後に先進諸国の大都市圏に形成されてきたベッドタウンの成り立ちと比較しながら、日本のベッドタウンを考えます。
第 12 回	大都市圏の構造変容	日本の人口構造の変容は、ベッドタウンに何をもたらしたのか、大都市の多核化とその意味を考えます。
第 13 回	情報化とジェンダーと都市空間	日本の家族のあり方は都市空間の構造とどうかかわっているか、情報化社会はどのような変容をもたらしたのかを検討します。

第 14 回	田園回帰とカウンター・アーバニゼーション	田園回帰とは何か、先進国のカウンターアーバニゼーションを日本と比較しながら、これからの地域のあり方を展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前に授業支援システムから資料を配布します。
準備し、目を通して講義に臨むようにして下さい。
講義内容に関連したショートレポートを課すことがあります。
取り組むことで講義内容についてより深く理解することができるよう課しているので、積極的に取り組むことを望みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜指示します。

【参考書】
M. ウッズ（高柳長直・中川秀一監訳）『ルーラル：農村とは何か』農林統計協会,2018 年.
石原潤監訳『農村問題と地域計画』古今書院、1993 年.
山本健兒『経済地理学入門』原書房、2005 年。

【成績評価の方法と基準】
論述形式の定期試験に基づいて成績評価をします (70 %)。また、講義内容の理解度を把握するためにショート・レポートを課すことがあり、優れた内容のレポートについては、成績評価に加味することがあります (30 %)。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レポート提出を授業支援システムを通じて行うので、利用できるよう準備しておくこと。

【Outline and objectives】
In a highly urbanized society, metropolitan areas are where many people lead their everyday lives. Rural villages that have supplied various resources that support urban life are undergoing changes in form and transitioning to a different role as the primary industry is changing and declining. How did the changes in regions and interregional relationships occur? How did those changes transform our surroundings? The course will cover regional and spatial ideas under the topic of “the city and rural villages.”

The goal is to make the students develop intellectual perspectives that cover areas ranging from a university campus in the heart of Tokyo to the environs of the country.

GEO200BF

地図学 I

若林　芳樹

授業コード：A3459　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】
地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・利活用するための GIS の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。
なお、学習支援システムによる授業は 4 月 24 日（金）から開始し、当面は Hoppii を通じた資料配付によるオンライン授業として実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第 2 回	地図の歴史と空間情報伝達の変化	地図の歴史、メディアと伝達様式の変化
第 3 回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第 4 回	地図の分類と基本要素	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第 5 回	地図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第 6 回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第 7 回	さまざまな主題図	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第 8 回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第 9 回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック
第 10 回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第 11 回	地図の収集と評価	既存の地図を収集しグループで討論する
第 12 回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第 13 回	地図と GIS	空間データの構造、空間データの視覚化
第 14 回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力

秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない（プリントを配布）

【参考書】
『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983 年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984 年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999 年）、『地図を学ぶ』（菊地・岩田編、二宮書店、2005 年）、『オン・ザ・マップ』（ガーフィールド著、太田出版）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、小テスト 10 %、レポート 40 %で総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to an increased use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to aquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps.

GEO200BF

地図学Ⅱ

鈴木　厚志

授業コード：A3460　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地図学や地理学との関わりのなかで地理情報科学をめぐる基本的 事項について、適用事例を紹介しながら講義する。この授業では、 地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、地 理情報システムの概念と構成要素、地理空間情報の構造とその操作、 地理空間情報の視覚化、そして地図表現のもつ社会的意義と課題を 学ぶ。

【到達目標】
1 地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
2 地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
3 地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形態と一部作業を行いながら授業を進める。授業内容に関連し、各自のスマートフォンやタブレット端末等を使用して WebGIS を活用する。また、リアクションペーパーの提出を複数回求める予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・地図学と地理情報科学	授業概要と注意事項、地図学と地理情報科学との関わりを解説
第 2 回	地理情報科学と地理情報システム	地図学や地理学との関係、発達、構成要素を説明
第 3 回	空間モデリングとデータ構造-1	空間モデリングの考え方を説明
第 4 回	空間モデリングとデータ構造-2	空間データ構造を解説
第 5 回	空間モデリングとデータ構造-3	属性データ構造を解説
第 6 回	地理空間情報-1	「数値地図」「国土数値情報」「地球地図」について解説
第 7 回	地理空間情報-2	「基盤地図情報」「電子国土基本図」等について解説
第 8 回	地理空間情報の作製-1	印刷地図・デジタル地形測量・GNSS からのデータ取得と作製方法を解説
第 9 回	地理空間情報の作製-2	リモートセンシング・レーザ計測等からのデータ取得と作製方法を解説
第 10 回	地理空間情報の視覚化	地図表現、総描、地図レイアウトと出力の基本を説明
第 11 回	地理情報システムによる分析	空間検索、重ね合わせ、バッファリング、空間分割等を解説
第 12 回	地図表現と社会-1	行政、防災分野における地理空間情報の活用を解説
第 13 回	地図表現と社会-2	ビジネス、教育等の分野における地理空間情報の活用を解説
第 14 回	地理情報科学と未来社会	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地図学と地理情報科学をめぐる記述動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。授業時に図書や論文講読の指示、そしてレポート等の作成を課す予定。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木厚志編『地図表現と地理情報システム (2020 年版)』→ プリントとして配付予定

【参考書】
『地理情報科学 GIS スタンダード』(古今書院，2015)
『地理情報科学事典』(朝倉書店，2004)
『地図と測量の Q&A』(一財) 日本地図センター，2013)

【成績評価の方法と基準】
・出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としない。
・授業中に行う小テスト (10 点 ×3 回) と学期末試験 (70 点) の合計得点により評価する。
・リアクションペーパーの提出を数回求める予定。

【学生の意見等からの気づき】
授業用スライドの不明点を少なくするための改善に心掛け、テキスト内容の不明点の解説も授業中に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this class, I will lecture the following contents. 1. Relationship between geographic information science and cartography and geography 2. History of geographic information science 3. Concept and elements of geographic information system 4. Structure of geospatial information and its operations 5. Visualization of geospatial information 6 Map representations and their social significance and problems.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅰ

川本　利一

授業コード：A3461　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である．位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である．この授業では，測量に関する基礎理論を学ぶとともに，実習を行い，測量の基礎的技術の習得を目指す．特に，測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う．

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する．測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる．距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
測量法及び測量の資格と社会との関係，測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義，測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習，測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う．教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ．測量結果に基づき計算を行い，最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	測量とは	測量の概要と歴史について講義する
第 2 回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格について講義する
第 3 回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ，形と測量の原理について講義する
第 4 回	誤差論１	誤差の種類と対処方法について講義する
第 5 回	誤差論２	誤差に関わる計算方法と計算実習
第 6 回	各種測量とその原理	角測量，距離測量，GPS 測量，トータルステーションを用いた測量，簡易測量の原理と方法について講義する
第 7 回	水準測量の原理	水準測量の原理，使用する機器について講義する
第 8 回	水準測量実習１	レベルの使用方法
第 9 回	水準測量実習２	観測方法の習得
第 10 回	水準測量実習３	水準測量の観測実習（往）
第 11 回	水準測量実習４	水準測量の観測実習（複）
第 12 回	水準測量のデータ処理１	観測データの整理方法について講義する
第 13 回	水準測量のデータ処理２	実習で行った観測データの整理
第 14 回	まとめ	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂新版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量　第２版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度 (30%) を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅰを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅱも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅰだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．また，実習内容について判りやすい説明を行う．

【その他の重要事項】
関数電卓を必ず持参すること．
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する．

【Outline and objectives】
The most fundamental information regarding space is information regarding position.Surveying is the method used to get this information regarding position. In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying. In particular, leveling, which is one of the pillars in the basic handling of surveying data and in surveying will be the focus of this lesson's study and practice.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅱ

川本　利一

授業コード：A3462　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き，測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い，測量に関する基礎的技術の習得を目指す．特に，トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量である GNSS 測量を中心に講義・実習する．

【到達目標】
基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる．GNSS 測量の原理，方法を理解できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び，実習を行う．実習で得られたデータに基づいて誤差処理，計算を行う．また，GNSS 測量などについても簡単な実習を行う．この授業では，教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせて測量の方法について学ぶ．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第 2 回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第 3 回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第 4 回	基準点測量の観測１	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第 5 回	基準点測量の観測２	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第 6 回	基準点測量の実習１	トータルステーションを用いた観測点１の観測を実習する
第 7 回	基準点測量の実習２	トータルステーションを用いた観測点２の観測を実習する
第 8 回	基準点測量の実習３	トトータルステーションを用いた観測点３の観測を実習する
第 9 回	基準点測量データの処理１	観測データ整理を行う
第 10 回	基準点測量データの処理２	距離補正計算を行う
第 11 回	基準点測量データの処理３	標高計算を行う
第 12 回	基準点測量データの処理４	座標計算を行う
第 13 回	GNSS 測量１	GNSS 測量の原理及び測量について講義する
第 14 回	GNSS 測量２	ハンディー GPS を用いて GPS 単独測位を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．また，授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までに各自終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂新版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程　TS-GPS による基準点測量　三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度 (30%) を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．
また，実習内容について判りやすく説明を行う．

【その他の重要事項】
関数電卓および直定規を必ず持参すること．三角関数を用いた計算を行う．
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する．

【Outline and objectives】
In succession of [surveying and survey training Ⅰ], study along with training will be held for one more of the pillars in surveying, the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying.

GEO300BF

写真判読Ⅰ

宮内　崇裕

授業コード：A3463　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空中写真の実体視や 3D 画像による地形判読および図化作業を通じて，「地形学」で学習した地形単元の特徴を理解する技術を習得する。本講義ではとくに平野地形・火山地形・変動地形・侵食地形の判読を行う。

【到達目標】
地理学の幅広い修得には，人間活動の舞台である多種多様な地形単元の実例を数多く判読・観察・議論・図化する技術の修得が必要である。本講義では，空中写真実体視の光学的理論を理解し，代表的な地形要素を一人で判読・抽出・図示することができるまでのレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン授業を４月２２日（水）より開始する。
空中写真のレビューと実体視理論を解説した後で，個々の地形単元ごとに判読資料を配付し，実体視を行う。実体視を通じて得られた地形イメージを地形図等へ図化表現（移写）することにより，判読実体を明確に記録し，地形形成プロセス理解へのてがかりとする。従って，各回の地形判読結果とその図示成果が習熟度の評価となるので，欠席せず毎回地形判読の作業を実施しレポートを提出することが必須である。なお，課題においた作業地形図を印刷し，地形判読結果を図化したものをスマホ等のカメラで撮影し，電子ファイルで提出すること。
学習支援システム Hoppii のほかに Google Classroom にもクラス「写真判読Ⅰ」をセットし，同じ資料と課題をアップロード。クラスコード su2z7pm を入力すれば各位参加可能。学習支援システム Hoppii がつながりにくい時にはこちらから関係資料をダウンロード可能。なお，レポート課題の提出は Hoppii 上で提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地形判読とは	空中写真の歴史とそれを活用した地形判読を知る。
第 2 回	空中写真の実体視	空中写真の本質，歴史，種類，入手法，実体視について知る
第 3 回	実体視の原理とアナグリフの作成	光学的な視点から実体視の意味を理解し，アナグリフの作成法を学ぶ
第 4 回	平野地形１	河成段丘の判読・図化
第 5 回	平野地形２	沖積扇状地の判読・図化
第 6 回	平野地形３	河成低地の微地形判読と図化
第 7 回	平野地形４	海成段丘・離水海岸地形の判読と図化
第 8 回	東京（市ヶ谷キャンパス）の地形判読	多種多様な構成地形単元の同時判読
第 9 回	火山地形１	単成火山の判読と図化
第 10 回	火山地形２	複成火山（火砕流・溶岩・カルデラがつくる地形）の判読と図化
第 11 回	変動地形１	縦ずれ断層変位地形の判読と図化
第 12 回	変動地形２	横ずれ断層変位地形の判読と図化
第 13 回	変動地形３	地震性隆起海岸地形の判読と図化
第 14 回	地すべり地形	マスウエイスティングの代表である地すべり地形の判読と図化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記参考書において，各回に該当する地形判読項目について読んでおく。また毎回の実習内容は宿題となるので，次週までに仕上げて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度必要資料を配付する。

【参考書】
貝塚ほか編「写真と図で見る地形学」，東京大学出版会．
東京地図研究社「東京の凹凸地図」，技術評論社．
(財) 日本地図センター「空中写真の知識」，日本地図センター．

【成績評価の方法と基準】
毎回配布される資料に，判読結果を図化し，地形学図を作成する。その提出と成果内容（100 %）によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
簡便な実体視技術を用いて，平易に図化できる教材とする。

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリ（容量 1GB），フリクションペン（0.5mm、赤青 1 本ずつ），12 色色鉛筆セット

【Outline and objectives】
This lecture aims to learn tecniques for undertstanding topopgraphic units and featrues throuh stereopcopic reading and mapping using air-photos and 3D images. Especially, we perform the reading and mapping works on plain, volcannic, tectonic and erosinal landforms.

GEO300BF

写真判読Ⅱ

郭　栄珠

授業コード：A3464　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
航空写真及び人工衛星画像からどのような情報が読み取れるのか、目視による判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から地理学で重視する地域ごとに異なる空間的異質性・地域性・歴史性を結びつくことが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、効率的な災害状況把握など衛星画像の応用例の可視化や実務スキルにも役に立つ画像判読などの手法を学ぶ。

【到達目標】
高分解能光学衛星画像は航空写真と同様に肉眼判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、航空写真から衛星画像に至るまでさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術を深く理解し、地理情報システム (GIS) 学をもとに簡便に計算できるデータ分析、その判読応用スキルを身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の前半は、理論講座式で地形判読において衛星画像の原理について学ぶこと 、講義の後半は GIS ソフトウェアとデジタル画像解析による地形判読のトレーニングを行う。実際に日本全国を対象域にして、各自で自分の興味ある地域を選定、衛星画像の実習データをダウンロードしてから画像判読まで企画・分析できる力を身につけるアクティブラーニング手法である 。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	衛星リモートセンシングとは？	航空写真と衛星画像との違いを理解する。
第 2 回	画像処理の基礎：電磁波	衛星画像の原理を把握する。
第 3 回	画像処理の基礎：投影法	衛星画像のマッピング原理（座標系）を理解する。
第 4 回	画像処理の基礎：幾何補正	統合型 GIS 上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。
第 5 回	宇宙から撮った画像から地形判読 （1）：地形分類	高地地形、低地地形、海岸地形
第 6 回	宇宙から撮った画像から地形判読 （2）：可視化	地形の可視化（リニアメント）から断裂系の分布を判読する。
第 7 回	衛星データ準備：データダウンロード	JAXA の ALOS 衛星画像と NASA の Landsat, MODIS 衛星画像の実習データをダウンロードする。
第 8 回	3 次元地形判読：数値標高モデル (DEM) データ分析実習	地形判読に重要な数値標高モデル (JAXA W3D, SRTM, ASTER) の理解およびその 3 次元分析できる技術を習得する。
第 9 回	衛星画像を用いた土地被覆分類	衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。
第 10 回	水災害による地形判読：洪水氾濫	国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。
第 11 回	土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊	国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。
第 12 回	植生指標による地形判読	衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標 (NDVI) による植生分類図を試作する。
第 13 回	GIS データの変換	衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせて使うため GIS 標準フォマットのデータ変換手法を習得する。
第 14 回	実習による各自の成果発表	実習で学んだ内容を基に応用力向上のための各自 1 分スピーチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ArcGIS のような地理情報関連ソフトウェアーの基礎を十分にマスターし、日本の国土地理院、JAXA などの最近動向に興味を持ちながら写真判読の関連情報を調べておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料は各講義・実習中に配布

【参考書】
1）JAXA と NASA のウェブサイト
2）改訂版 図解リモートセンシング　日本リモートセンシング研究会編　（社）日本測量協会
3）Multi-spec のマニュアル
(英語版)
https://engineering.purdue.edu/~biehl/MultiSpec/download_win.html
（日本語版）
http://itcweb.cc.affrc.go.jp/affrit/_media/sidab-info/satellite/all.pdf

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（10 %）、実習による成果のスピーチ（30 %）、期末試験（40 %）、平常点（20 %）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
従業時間内、地理情報システム (GIS) ソフトウェアの簡単な操作かつ簡潔な説明による指導を行い（授業改善）、リモートセンシング技術が容易で応用できるように、 各自でスキルを身につける時間を増やす。

【Outline and objectives】
This lecture introduces advanced topics, which give information created by interpretation of image data from air-photos and satellite images. Based on Spatial heterogeneity, locality, and historical geography, the ultimate objective is to learn the new skills at high work-level using advanced Remote-Sensing technology.

GEO200BF

数理地理学（2）

永保　敏伸

授業コード：A3466　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なデータの特徴を理解し，研究目的に応じた解析を行う．その際の，解析方法や視覚化方法などの基礎的な技術を習得する．

【到達目標】
地域的分布や経年的傾向の特徴を見出すために，現地調査の結果や，既存の統計資料など，様々なデータから統計処理を行い，解析結果を求められるよう必要な手順を習得する．そして，多変量解析などより高度な解析を行う準備ができるようにする．
また，各自が地域特性分析の方針をたて，求める結果に到達できるようにする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【重要】2020.04.29 更新
初回講義は，2020 年 5 月 6 日（水）13:00～行います．
法政大学学習支援システム (hoppii）と法政大学 Web サーバの稼働が安定してきたので，最新情報は次のページから行います．
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~fb60065/2003s/index-1.html
＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋
パソコンを用いた実習形式で講義を行う．その際，地理学に関わるデータを用いて基本的な統計解析を行う．
これらの実習は，主に表計算ソフト（Excel）を用いて作業・解析した結果を可視化（図化）する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	統計と地域統計	「統計リテラシー」概要と，地理学で扱う各種統計の概要.
第 2 回	調査・観測方法	現地調査でのデータ収集に先立った，必要事項の整理.
第 3 回	データの種類と特徴	データの種類（質的・量的）を知り，それぞれの特徴を理解する.
第 4 回	基礎統計量①	質的データの扱い方. 度数分布表. パレート分析.
第 5 回	基礎統計量②	量的データの扱い方. 度数分布表. ヒストグラム.
第 6 回	データの可視化	地理学に関するデータを用いた基礎統計量算出の実習．また，主題図としての統計地図を知る.
第 7 回	基礎統計量とグラフ表現	その特性に合わせたデータの可視化方法の検討.
第 8 回	サンプリングと調査法	適切なデータ収集のための質問票の作成と現地調査の概要.
第 9 回	データの要約	複数の変量を持つデータを用いて，クロス集計など，属性間の関係をみる.
第 10 回	時系列データ	時点変化の記述と時系列データの変動成分の分析方法を知る.
第 11 回	相関係数と散布図	２つの変量の関係の強さをみる.
第 12 回	回帰分析	説明変数を用いて，目的変数を求める方法を知る.
第 13 回	地域の分類	統計量を用いた地域特性の解析.
第 14 回	地域変化と予測	ある時間を経た前後における同一地域の状況を比較し，今後の変化を予測する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で紹介した話題や技術の習熟度を確認するために，各回終了後に小課題を課す．内容は各回の到達状況によって変わるが，基本的に講義で習得した技術を各自が深める努力を求める．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義内容に応じて，適宜紹介する．

【参考書】
柏木吉基　2012.『明日から使えるシンプル統計学』．技術評論社，175p.
高橋麻奈　2015.『統計学』．技術評論社，220p.
村上和也　2014.『ビジネスで本当に使える超統計学』．秀和システム，243p.

吉岡茂・千歳壽一　2006.『地域分析調査の基礎』. 古今書院, 158p.

【成績評価の方法と基準】
平常点および課題（60 %）
実習を中心に講義を行う．その際，講義に臨む姿勢（実習への取り組みや作業進行具合など）も重要である．
また，テーマ毎にその講義終了後，講義内で扱った事項に関する小課題を課す．その課題を提出してもらい，講義の習熟度を確認する．

最終試験（演習）（40 %）
期末に，講義内で扱った内容の総合的な習熟度をみる。

【学生の意見等からの気づき】
講義と実習のバランス，進度や難易度，講義資料の提示方法，実習時間などは，出来る限り学生のレベルに応じて調整する．

【その他の重要事項】
情報科学実習等の科目で，既に Excel の扱いに慣れていることを求める．特にオートフィルタや並べ替え，基本的な関数が扱えること．またそれら関数をネストし，計算式を組み立てられること．
作図をする場合，GIS ソフトを用いるので，GIS に関わる電算科目は履修済みであること．本講義では，GIS の扱い方自体の紹介は行わない．
なお，初回講義時に，受講希望者の技術的な到達度確認試験を行うので，履修希望者は必ず出席すること．

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける．

【Outline and objectives】
To understand the characteristics of various data(especially Geographical) and analyze according to research purpose. for that , to acquire basic techniques such as analysis method and visualization method is aquired and that is the purpose of this lecture.

GEO300BF

外書講読（1）

前杢　英明

授業コード：A3469　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目標は、自然地理学を構成する主要な柱とも言える気候，地形，水文などの各分野に関する外国語 (主として英語) の文献をバランスよく読み，その内容を適正に理解することにある。

【到達目標】
本講義を受講する学生のすべてが基本的な英語の自然地理学分野の教科書を辞書を使いながら自ら精読することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
自然地理学の各分野に関連する基礎的な外国語の文献をコピーして，あらかじめ受講者に配布する。講義中に受講者に順次，和訳を求め，その内容に関して受講者相互に意見交換をして内容の正しい理解に努めつつ，進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	本講義への導入と簡単な英文の説明	本講義の方針，授業の方法を説明する。その後に使用する文献を配布する。
第 2 回	地形分野の文献講読（1）	地形分野の文献を読んで議論を進める。
第 3 回	地形分野の文献講読（2）	第２回目と同様
第 4 回	地形分野の文献講読（3）	第２回目と同様
第 5 回	地形分野の文献講読（4）	第２回目と同様
第 6 回	地形分野の文献講読（5）	第２回目と同様
第 7 回	気候分野の文献講読（1）	気候分野の文献を読んで議論を進める。
第 8 回	気候分野の文献講読（2）	第７回と同様
第 9 回	気候分野の文献講読（3）	第７回と同様
第 10 回	気候分野の文献講読（4）	第７回と同様
第 11 回	気候分野の文献講読（5）	第７回と同様
第 12 回	水文分野の文献講読（1）	水文分野の文献を読んで議論を進める。
第 13 回	水文分野の文献講読（2）	第１２回と同様
第 14 回	授業の振り返り	振り返りのための確認小テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布する文献を読み，和訳できるように準備した上で出席すること。また関連する事柄について調べたり，質問事項をまとめておくことが望ましい。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自予習復習に利用して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
アメリカの自然地理学の大学生レベルの教科書、もしくはワークブックを使用する。これをコピーして配布するので，受講者がテキストを購入する必要はない。

【参考書】
とくに無い。ただし，受講者は辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
本科目の性格上，出席することを前提とし，かつ講義中の発表内容や意見交換などを総合して評価する。最後に振り返りのための小テストを行う（20%）。プラス平常点 (80%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回，可能な限り多くの学生が和訳して発表できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、パソコン、タブレット（支援システムを画面で見る場合）。

【Outline and objectives】
Read English textbook to improve English skill

GEO300BF

外書講読（2）

中俣　均

授業コード：A3470　｜　曜日・時限：木曜３限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部におけるこの授業の意義は，
① 外国語（もっぱら英語。以下も同じ）に少しでも慣れること
② 「古典」との定評の確立した外国語の地理学文献に取り組む、あるいはそのための下準備をする
③ 外国における最新の学界動向を垣間見ること
などが考えられよう。しかし，半期という時間的制約があるため，これらをすべて満足させ ることは到底不可能である。本年は、上記②を重点的に意図し、地理学の「古典」といわれる著名な論文に取り組んでみたい。

【到達目標】
テキストとする英語論文の内容を正しく理解するとともに、自らの（卒業）論文執筆に資するよう取り組む地理学の幅を広げることが目標である。ありていに言うなら、入学時の英語の学力を取り戻すことを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本年は、地理学を学ぶ学生に向けた入門書である下記の文献を取り上げる。
Alister Rogers,Heather Viles and Andrew Goudie(1992)"The Student's Companion to Geography."(Blackwell)
Alister Rogers and Heather Viles(2002)"The Student's Companion to Geography. second edition"(Blackwell)
この中から 人文地理学に関わるいくつかのエッセイを選んで読み進める。初回時にテキストのコピーを渡し，担当を決めて次回から読み進めていく。
なお受講希望者は初回の授業時に必ず出席すること。例外は認められない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	英文文献読破のための基礎知識・方法について 輪読するテキストについての説明
第 2 回	テキストの読解と議論（1）	テキスト① 第 1 回
第 3 回	同上（2）	テキスト① 第 2 回
第 4 回	同上（3）	テキスト① 第 3 回
第 5 回	同上（4）	テキスト① 第 4 回
第 6 回	同上（5）	テキスト② 第 1 回
第 7 回	同上（6）	テキスト② 第 2 回
第 8 回	同上（7）	テキスト② 第 3 回
第 9 回	同上（8）	テキスト② 第 4 回
第 10 回	同上（9）	テキスト③ 第 1 回
第 11 回	同上（10）	テキスト③ 第 2 回
第 12 回	同上（11）	テキスト③ 第 3 回
第 13 回	同上（12）	テキスト③ 第 4 回
第 14 回	総まとめ	読み進んできたエッセイに関する総括と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の分担者は、各自の分担部分について、英和辞書などを用いた単語などの下調べはもちろんのこと、登場する術語や人物についてもしかるべき事典を用いて調べておくこと。またほかの受講者もテキストをざっと読んで、そこでどのようなことが論じられているか、おおよその見通しをつけたうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。。

【テキスト（教科書）】
初回時にテキストのコピーを配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
随時に課せられる和訳レポートの質 (50%)，および毎回の議論の内容とによる平常点 (50%) で評価する。自分の担当部分はもちろんのこと，自分以外の人の担当部分についても毎回ちゃんと読んで（あるいは目を通して）授業に出席し、議論に加わるとともに，その内容の理解に努めることが大切である。であれば当然のこと，授業に出席することが成績評価に当たっては重要視される。

【学生の意見等からの気づき】
ただ単にテキストを読むだけでなく、その内容に関しての「議論」をできるだけ行ないたい。

【その他の重要事項】
地理学への入門の仕方は世界の各国ごとに違っている。本書は主にイギリスの大学での地理学入門書であるが、受講生が地理学に関心を持ち始めたころどのようなイントロダクションを受けてきたかを各自で振り返りながら、それと比較してほしい。

【Outline and objectives】
This course aims to brush up students' ability in English, and also to know new current themes and topics in western Human Geography.

GEO300BF

地理情報システム（ＧＩＳ）Ｉ

中山　大地

授業コード：A3471　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて，GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする．本講義ではさまざまな GIS データを用いて，ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ．

【到達目標】
GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う．
新型コロナウイルス対応のため，学習支援システム上での授業開始日を 5 月 8 日とします．また，5 月 1 日までにこの実習のオンライン授業方針に関するお知らせを学習支援システム上に公開します．
Google Classroom のクラスコードは
bxwo4f6
です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ArcGIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成，空間データの視覚化
第 2 回	ArcGIS の基本的な操作 2	地図と GIS，空間データの構造，地図の投影法，地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念，基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製，座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート，座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが，興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わないが，参考書に挙げる文献が役立つ．

【参考書】
野上ほか (2001)『地理情報学入門』，古今書院．
佐土原ほか (2005)『図解!ArcGIS ―身近な事例で学ぼう』，古今書院．
高橋ほか (2005)『事例で学ぶ GIS と地域分析― ArcGIS を用いて』，古今書院．
村井ほか (2005)『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』，日本測量協会．

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（80%），平常点（20%）で成績を決める．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．
レポートは ArcGIS の操作マニュアルの作成である．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【学生が準備すべき機器他】
情報教室を使用する．

【その他の重要事項】
ArcGIS は使用可能台数が限られているため，受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう．受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること．受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる．他の学生に迷惑をかけないよう，選抜されたという意識を持って授業に臨むこと．遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である．10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn the principles and basic techniques of Geographic Information Systems (GIS) using ArcGIS.

GEO300BF

地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅱ

中山　大地

授業コード：A3472　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて，GIS の応用的な分析手法を学ぶ．

【到達目標】
ArcGIS を用いた分析能力を習得し，課題を解決するために自らデータを収集・作成し，分析し，結論を導き出せるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
数名でグループを作り，PBL (Problem Based Learning) を行う．グループごとにある地域の災害避難場所を仮定し，GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時にグループごとの計画書を提出する．それ以降は必要なテクニックを教授しながらグループワークを行う．グループワーク時には毎回作業報告を作成し，レポートとして最終報告書を提出する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを持ちいた避難圏の人口推定
第 3 回	グループワーク計画書の作成	グループの作業方針を決定
第 4 回	グループワーク 1	災害弱者の定義，避難所選定方針の決定
第 5 回	グループワーク 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより，避難所データを入手・作成する）
第 6 回	グループワーク 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	グループワーク 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスタデータへの変換，空間分割）
第 8 回	グループワーク 5	ジオプロセシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	グループワーク 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	グループワーク 7	キャッチアップ
第 11 回	グループワーク 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	グループワーク 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	グループワーク 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	グループワーク 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが，興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わない．適宜プリントを配付する．

【参考書】
参考書については地理情報システム (GIS)I を参照すること．

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 1 回（最終報告書，100 点満点）で成績を決める．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【学生が準備すべき機器他】
情報教室を使用する．

【その他の重要事項】
ArcGIS は使用可能台数が限られているため，受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう．受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること．受講を許可されたにもかかわらず授業に 出てこない学生が毎年いる．他の学生に迷惑をかけないよう，選抜されたという意識を持って授業に臨むこと．遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である．10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS.

PHY900BF

物理学概論Ⅰ

石川　壮一

授業コード：A3514　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、物理学の基本分野のうち、力学、熱力学に関する内容を理解することを目的とする。
　個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】
　運動、熱　等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	物理学の世界	授業内容全般の説明
第 2 回	力学（1）	力のつり合い
第 3 回	力学（2）	速度、加速度
第 4 回	力学（3）	ニュートンの運動法則
第 5 回	力学（4）	万有引力の法則
第 6 回	力学（5）	仕事とエネルギー
第 7 回	力学（6）	運動量
第 8 回	力学（7）	円運動
第 9 回	力学（8）	その他の運動
第 10 回	熱学（1）	熱に関する現象
第 11 回	熱学（2）	熱と仕事
第 12 回	熱学（3）	理想気体
第 13 回	熱学（4）	分子運動
第 14 回	まとめ	力学と熱学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グラフィック講義　物理学の基礎」　和田純夫著　（サイエンス社、2013）

【参考書】
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「歴史で学ぶ物理学入門」　足利裕人著（ふくろう出版、2012

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of Newtonian mechanics and thermal dynamics, which are fundamental fields in physics.
Students will learn not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.

PHY900BF

物理学概論Ⅱ

石川　壮一

授業コード：A3515　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、物理学の基本分野のうち電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。
　個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】
電磁気、波動、光等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	電磁気学（1）	電荷と電流
第 2 回	電磁気学（2）	回路
第 3 回	電磁気学（3）	電場と磁場
第 4 回	電磁気学（4）	発電機とモータ
第 5 回	電磁気学（5）	電磁波
第 6 回	波動（音、光）（1）	波動の基本
第 7 回	波動（音、光）（2）	偏光、回折、干渉
第 8 回	波動（音、光）（3）	屈折、分散、全反射
第 9 回	現代物理学（1）	光の粒子性
第 10 回	現代物理学（2）	熱放射と原子スペクトル
第 11 回	現代物理学（3）	原子モデル
第 12 回	現代物理学（4）	ミクロ世界の法則
第 13 回	現代物理学（5）	光の不思議な性質（相対性理論）
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グラフィック講義　物理学の基礎」　和田純夫著　（サイエンス社、2013）

【参考書】
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「歴史で学ぶ物理学入門」　足利裕人著（ふくろう出版、2012

【成績評価の方法と基準】
　レポート試験（80%）、演習・出席等の授業への貢献度（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of electromagnetism, waves, and light,which are fundamental fields in physics.
Students will learn not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.
Also, some selected topics in modern physics will be presented.

CHM900BF

化学概論Ⅰ

中島　弘一

授業コード：A3516　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】
化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
（授業は 4 月 21 日から、学習支援システムを使って始めます。初日に、授業内容や当分の間の授業の進め方、履修予定の皆さんの学習環境のアンケートを取るつもりですので、21 日にまずは学習支援システムにアクセス願います。）
この授業は、理科の教職資格取得のために設定された科目であるので、内容的には、高校の教科書で扱う無機化学、物理化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を充分に理解するために、高校教育で教える範囲を大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の歴史	元素とは何か？ 発見に至る過程から学ぶ
第 2 回	原子の構造（1）	原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ
第 3 回	原子の構造（2）	原子量と同位体、モルの概念について学ぶ
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道が解明される過程から電子配置の考え方を学ぶ
第 5 回	電子配置と化学的性質	電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ
第 6 回	物質の構成と結合	化学結合の種類と反応性について学ぶ
第 7 回	物質の三態（1）	単位、並びに温度と圧力の考え方を学ぶ
第 8 回	物質の三態（2）	固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ
第 9 回	気体の性質（1）	気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ
第 10 回	気体の性質（2）	理想気体と実在気体の違いは何か
第 11 回	濃度表示法	濃度の種類とそれらの違いを学ぶ
第 12 回	溶液の性質	溶液の振る舞いについて学ぶ
第 13 回	熱力学と反応	化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ
第 14 回	反応速度と平衡	平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テキスト、参考図書の章末問題を事前に解いたうえで、授業に臨む。
近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】
「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】
「検定外　高校の化学」坪村　宏ほか著（化学同人）
「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】
単元ごとに行う練習問題の正答率（20 %）と期末試験の結果（80 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート未実施

【Outline and objectives】
This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules.

CHM900BF

化学概論Ⅱ

中島　弘一

授業コード：A3517　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマ
高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】
化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、理科の教職資格取得のために設定された科目であるので、内容的には、高校の教科書で扱う無機化学、物理化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を充分に理解するために、高校教育で教える範囲を大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	酸と塩基（1）	酸と塩基の種類と定義について学ぶ
第 2 回	酸と塩基（2）	水素イオン濃度指数の概念を学ぶ
第 3 回	酸化還元（1）	酸化還元反応の考え方を学ぶ
第 4 回	酸化還元（2）	電池と電気分解を学ぶ
第 5 回	無機化学（1）	金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 6 回	無機化学（2）	非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 7 回	有機化合物（1）	有機化合物の構造の特徴を学ぶ
第 8 回	有機化合物（2）	官能基による化合物の分類について学ぶ
第 9 回	有機化合物（3）	異性体の考え方と特徴を学ぶ
第 10 回	有機化合物（4）	脂肪族化合物と芳香族化合物の反応性の違いを学ぶ
第 11 回	有機化合物（5）	合成高分子化合物の種類と特徴を学ぶ
第 12 回	生化学（1）	糖質の構造と種類とその生体内での働きを学ぶ
第 13 回	生化学（2）	アミノ酸とタンパク質の生体内での働きを学ぶ
第 14 回	生化学（3）	遺伝子の構造と生体内での働きを学ぶぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テキスト、参考図書の章末問題を事前に解いたうえで、授業に臨む。
近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】
「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】
「検定外　高校の化学」坪村　宏ほか著（化学同人）
「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】
単元ごとに行う練習問題の正答率（20 %）と期末試験の結果（80 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート未実施

【Outline and objectives】
This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course. By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules.

BIO900BF

生物学概論Ⅰ

植木　紀子

授業コード：A3518　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「生物学概論Ⅰ」では、はじめに生物学の基本概念を理解した後、遺伝、膜構造、細胞骨格など、主に細胞レベルの生命現象を取り上げます。生物が長い年月をかけて作り上げてきた巧妙で美しいしくみを、生物学全体における位置付けを確認しながら学んでいきます。

【到達目標】
生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。
※当面の間、Zoom を用いたオンライン授業とします。本授業の開始日は 4 月 22 日（水）です。具体的な方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	生物の基本概念と基本構造	生物学の学習のはじめにあたり、生物には多様性と共通性があること、生物の基本的属性として、膜、増殖、遺伝、代謝、恒常性と環境応答などがあることを学びます。
第 2 回	生物の増殖と恒常性	細胞生物も多細胞生物も、自分と同じ形をした生物体を生み出して数を増やしていきます。細胞分裂、有性生殖、無性生殖、核相、生活環について解説します。また、温度、圧力、浸透圧などの外部環境に適切に応答して内部環境を一定に保つ恒常性のしくみを学びます。
第 3 回	個体-環境相互作用	生物は環境から影響を受け、逆に生物も環境に影響を与えています。そして生物同士も相互に関わりあっています。自然選択・環境応答・光合成による生産や生態系について学ぶことで、生物と環境との関わりを理解します。
第 4 回	タンパク質と酵素	タンパク質は生体有機化合物の中で最も量が多く、あらゆる生命活動において重要な役割を果たしています。酵素タンパク質は、生物のほぼ全ての化学反応を触媒します。タンパク質の構造と酵素の特異性や活性、その調節について学びます。
第 5 回	核酸の構造と DNA の複製	DNA には、親から子へ遺伝情報を伝える役割と、その遺伝情報を使って細胞を作り機能をもたらすという二つの役割があります。細胞増殖の際には DNA 分子を正確に複製して娘細胞に分配しなくてはなりません。この DNA の構造と複製のしくみを学びます。
第 6 回	遺伝子の発現	遺伝情報が DNA、mRNA、タンパク質という流れで発現する概念をセントラルドグマと呼びます。この一連の流れに基づいて、遺伝子やクロマチンの構造、転写と翻訳について学びます。
第 7 回	有性生殖と個体の遺伝	形質を親から子へ継承する遺伝という現象は、メンデルの法則の発見に始まり、モルガンの染色体説などを経て、生物学の広い領域を占める現代の遺伝学へと発展を遂げました。この遺伝の法則性とそのプロセスを解説します。

第 8 回	バイオテクノロジー	生命現象に関わる新しい知見は新しい技術を生み出し、それによって更なる知見が得られるというサイクルがあります。画期的な進歩をもたらした技術を学ぶことで、現代に至る生命科学の発展の歴史を感じてください。
第 9 回	生体膜と細胞の構造	生体膜は細胞と外界を隔て、細胞内にも多様な膜区画を形成します。また、仕切りとして機能するだけではなく、物質の輸送やシグナル伝達などの重要な機能に関与しています。生体膜の構造とはたらきを理解した上で、原核生物と真核生物の違いを学びます。
第 10 回	代謝と生体エネルギー生産	生命活動に必要なエネルギーを生み出し、生体物質の合成や分解をする生化学過程を代謝と言います。細胞内の基本的な代謝の流れを理解し、代謝の要になる解糖系、クエン酸回路、呼吸鎖について学びます。
第 11 回	光合成	30 億年ほど前にエネルギーを太陽光に求める生物が出現して以来、生物は無限のエネルギー源を手にすることになりました。ここでは、現在の地球の光環境と、植物が行う光合成のプロセスについて学びます。
第 12 回	細胞内輸送と細胞内分解	細胞内ではその構成成分が絶え間無く取り込まれ、もしくは合成され、細胞内外の適所へと輸送され、そして分解されています。細胞内で物質を「運ぶ」しくみ、「壊す」しくみを解説します。
第 13 回	細胞骨格と細胞運動	全ての真核細胞は、運動を発生する共通のメカニズムを持っています。細胞骨格と呼ばれるタンパク質繊維の上をモータータンパク質が滑走することで、細胞の運動、筋収縮、物質の輸送や染色体の分配などが起こるしくみを学びます。
第 14 回	細胞間シグナル伝達系	多細胞生物が個体として統一のとれた反応や内部の恒常性を維持するためには、細胞間の情報のやりとりが重要です。ホルモンやサイトカイン、神経伝達物質などの分子を介した細胞間のコミュニケーションを紹介し、その原理を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次回までの課題（教科書を事前に読む、演習問題を解く、等）を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『理系総合のための生命科学　第４版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』
東京大学生命科学教科書編集委員会／編
羊土社　定価 3,800 円＋税

【参考書】
参考書は必要に応じて授業において提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から始める授業になります。

【Outline and objectives】
This class presents an overview of basic biological concepts and provides cellular-level biological subject such as genomics, membrane biology, cytoskeleton and cell motility. The goal is to provide students with extensive knowledge and perspective on fundamental life science.

BIO900BF

生物学概論Ⅱ

植木　紀子

授業コード：A3519　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の「生物学概論 II」では、多細胞生物の形づくり、進化、生態、生物多様性といったマクロレベルの生命現象を扱います。また、感染症や免疫、がん、創薬、脳などの医学に関連する生物学や、情報科学が推し進めた生物学の発展について学びます。

【到達目標】
生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	細胞内シグナル伝達系	細胞は、細胞表面の受容体と呼ばれるタンパク質でシグナル分子を受け取ります。それをきっかけにして細胞内のタンパク質がさまざまに変化し、情報が伝えられます。そのしくみを、人の細胞を例にとって解説します。
第 2 回	神経系の機能と生体恒常性	ヒトや動物の脳は約 1000 億個の神経細胞から成っています。神経細胞は、イオンの移動によって細胞膜の電位を変化させることで、非常に速い情報伝達を行うことを可能にしています。この巧妙なしくみについて学びます。
第 3 回	細胞周期	太古の昔から、一個の親細胞が分裂して二個の娘細胞になるというサイクルが繰り返されて今の生物世界があります。このサイクルが進むしくみ、さらに、このサイクルが間違いなく正確に進むために何重にも制御されているしくみについて学びます。
第 4 回	動物の発生	動物の形づくりでは、たった一個の受精卵が分裂を繰り返し、細胞が特殊化し、正しい場所と形に配置されて機能するようになって、親と同じ一個体が作り出されます。ここでは、動物の複雑な構造と機能を持つ体が自律的につくられる基本的なしくみを解説します。
第 5 回	植物の発生	植物は、太陽光という無限のエネルギー源を利用し、動物とは全く異なる戦略をとって地球上に繁栄しています。ここでは陸上の植物の基本的な構造とそれがどのように形成されるかについて学びます。
第 6 回	遺伝子発現の制御	生物は持っている多くの遺伝子全てを常に利用しているわけではなく、その細胞の環境やタイミングに適した遺伝子が発現したり、不向きな遺伝子の発現が抑制されたりしています。その調節の分子メカニズムを概説します。
第 7 回	ゲノムと進化	生物の持つ遺伝情報全体の一セットをゲノムと言います。ゲノム情報の解読技術の向上は、分類学や進化学の分野に大きなインパクトを与えました。その歴史を学び、生命科学の今後について考えます。
第 8 回	生物群集と生物多様性	ある一種の生物は独立して生きているわけではなく、多くの生物と関係しながら生きています。ここでは、生物多様性とは具体的にどのようなことなのか、そしてそれが生態系の保全にとってどのように重要になるのかを学びます。

第 9 回	感染と免疫	免疫学の発展の歴史はヒトと感染症との戦いの歴史でもあります。ここでは、ペニシリンの発見から始まる 20 世紀の医学生物学の領域における重要な発見を紹介し、免疫とは何か、その応答のしくみについて解説します。
第 10 回	がん	近年のがん研究によって、がんにおけるさまざまな異常が遺伝子、タンパク質、細胞、個体レベルで明らかになってきました。それにより、新たな治療法の開発が進められています。ここでは、がんの原因や進展に至る経緯、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について学び、がん治療の発展についても見ていきます。
第 11 回	創薬と生命科学	ヒトは何千年も前から動植物からの抽出物などを薬として利用してきました。一方、化学合成による薬の開発が始まったのは 1890 年代という比較的最近のことです。薬の開発の歴史を紹介し、候補となる薬の選別のしかたや創出までの過程を解説します。
第 12 回	生活・環境と微生物	微生物には、人間の役に立つものや、逆に害をなすもの、ほぼヒトとは関与しない微生物もあり、多様な生物世界を作っています。ここでは、微生物と人との関わり、遺伝子の多様性という考え方、これからの微生物学について学びます。
第 13 回	生物の情報科学	膨大なデータが蓄積する現代の生命科学にとって、情報科学はその基盤となっていると言えます。ここでは、DNA 配列やタンパク質のアミノ酸配列がデーターベース化された 1980 年代に始まる生物情報科学の進展と、その基本的な考え方を学びます。
第 14 回	脳	脳は環境から入力された情報を処理・統合し、運動・出力するための情報処理装置であるとみなすことができます。一方で、我々人間には心があり、それは脳が司ると言われるものの、研究の方法論すら確立していない状況です。脳の構造やはたらきの何がどこまで明らかになっているのかを概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次回までの課題 (教科書を事前に読む、演習問題を解く、等) を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『理系総合のための生命科学 第 4 版~分子・細胞・個体から知る “生命” のしくみ』
東京大学生命科学教科書編集委員会/編
羊土社 定価 3,800 円+税

【参考書】
参考書は必要に応じて授業において提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から始める授業になります。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with basic biological concepts of macro-level biological subject such as developmental biology, ecology, evolution, biodiversity, medical biology and bioinformatics.

PHY900BF

物理学実験Ⅰ (コンピュータ活用含)

吉田　智

授業コード：A3520　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、重力、波動、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】
実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行う。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用いる予定である。実験にはテキストの他に、ノート、定規と電卓が必要である。
本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	身近な量の測定	身近な量を測定してみることにより、器具の使用方法を学ぶ。
第 2 回	誤差、近似	誤差や近似について理解を深める。
第 3 回	重力について	第 4 回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。
第 4 回	落体実験	落体実験を行う。
第 5 回	波動について	第 6、7 回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。
第 6 回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定実験を行う。
第 7 回	音さの振動数の測定	音さの振動数の測定実験を行う。
第 8 回	光の波動性について	第 9 回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。
第 9 回	レンズの曲率半径の測定	レンズの曲率半径の測定実験を行う。
第 10 回	光の粒子性について（エネルギー量子）	第 12、13 回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。
第 11 回	光の粒子性について（光量子仮説）	第 10 回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。
第 12 回	光電流の測定	光電流の測定実験を行う。
第 13 回	プランク定数の測定	プランク定数測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	第 1 回から第 13 回までに実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要である。また、実験後はデータ整理とレポート作成が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
各実験のレポート (90%) と平常点 (10%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が少ないためアンケートは実施していない。学生から要望があれば対応したい。

【Outline and objectives】
This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on gravity, wave, light and so on.

PHY900BF

物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

吉田　智

授業コード：A3521　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、熱、電気や光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】
実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行う。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用いる予定である。実験にはテキストの他に、ノート、定規と電卓が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	熱・エネルギーについて	第 2、3 回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。
第 2 回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定実験を行う。
第 3 回	金属の比熱の測定	金属の比熱の測定実験を行う。
第 4 回	分子運動について	第 5 回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。
第 5 回	線膨張係数の測定	線膨張係数の測定実験を行う。
第 6 回	電気について	第 7 回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。
第 7 回	平行板コンデンサーの電気容量の測定	平行版コンデンサーの電気容量測定実験を行う。
第 8 回	原子・原子核について	第 9 回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。
第 9 回	電子の比電荷の測定	電子の比電荷の測定実験を行う。
第 10 回	レーザーについて	第 11 回に実施する実験で使用するレーザーについて、理解を深める。また、干渉実験の解析方法を理解する。
第 11 回	光の干渉実験	光の干渉実験を行う。
第 12 回	剛体について	第 13 回に実施する実験に関連する剛体について、理解を深める。
第 13 回	振り子による重力加速度の測定	ボルタの振り子による重力加速度の測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	この授業で実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要である。また、実験後はデータ整理とレポート作成が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
各実験のレポート (90%) と平常点 (10%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が少ないためアンケートは実施していない。学生から要望があれば対応したい。

【Outline and objectives】
This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on heat, electricity, light and so on.

CHM900BF

化学実験Ⅰ (コンピュータ活用含)

向井　知大

授業コード：A3522　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は５月８日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	炎色反応	炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。
第 3 回	秤量と測容	質量と体積の測定における器具の選定や大気圧、温度の影響について。
第 4 回	測容器の精度	いくつかの測容器の精度を、純水を使って求める。
第 5 回	溶液の濃度	様々な濃度の計算方法と、その換算方法について。
第 6 回	溶液の調製	中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。
第 7 回	酸と塩基	酸と塩基の定義の種類、pH についての講義。
第 8 回	中和滴定実験 1	シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。
第 9 回	pH 変化のシミュレーション	中和滴定における pH 変化を Excel で計算する。
第 10 回	中和滴定実験 2	pH メーターを用いた、滴下量と pH 変化の関係。
第 11 回	実験レポートの点検	これまでの実験レポートの見直し。
第 12 回	金属イオンの沈殿生成	金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。
第 13 回	金属イオンの系統分析 1	金属イオンの分属と分離について。
第 14 回	金属イオンの系統分析 2	未知試料に含まれる金属イオンの分析。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】
随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】
高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認（質問）しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
pH 変化のシミュレーションを行うときに PC を使います。

【Outline and objectives】
This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure. The aim of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

CHM900BF

化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

向井　知大

授業コード：A3523　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	ファラデーの法則	電気量と物質量について
第 3 回	無電解めっき	銀鏡反応と自己触媒無電解めっきの実験。
第 4 回	分子模型 1	有機化合物の立体構造と、構造異性体について。
第 5 回	分子模型 2	共役二重結合を持つ分子の立体構造について。
第 6 回	分子模型 3	立体異性体、分子構造可視化ソフトの利用について。
第 7 回	アルコールの性質	アルコールの特徴とその反応について。
第 8 回	アルコール発酵	酵母を用いた糖の分解実験。
第 9 回	エステルの合成	脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。
第 10 回	アミンの性質	アミノ基を持つ化合物、特にアニリンの特徴とその反応。
第 11 回	アセトアニリドの合成	アニリンと無水酢酸の反応、反応生成物の精製。
第 12 回	アゾ染料の合成	ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。
第 13 回	ナイロンの合成	ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。
第 14 回	まとめ	これまでの実験レポートの見直し。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】
随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】
高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認（質問）しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
分子構造可視化ソフトの紹介の際、PC を使います。

【Outline and objectives】
This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure. The aim of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

BIO900BF

生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用含)

島野　智之

授業コード：A3524　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学・生命科学のさまざまな問題について，可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して，教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に，自然に対する認識をより深め，物事を生物学的に探求する能力を高める．

【到達目標】
教育の現場で使える生物学実験を計画でき，かつ教えることができるようになる．使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し．生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば，実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める．主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。
※ 4 月 21 日からの週の授業は練習（=ガイダンス）として，授業開始は来週（4 月 28 日からの週）を予定しています．システムが少し不安定な面が残されているためです．来週には落ち着くとおもいますので，それから始めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	顕微鏡の使用方法（含マイクロミクロメーターの使用法）	顕微鏡の使用方法の説明．顕微鏡の手入れと道具の作成
第 2 回	細胞・気孔の観察と顕微鏡での計測	植物細胞の観察．顕微鏡での計測方法．
第 3 回	原形質流動と原形質分離の観察	植物細胞の観察．顕微鏡での生細胞の観察．
第 4 回	細胞分裂と染色体の観察	細胞分裂の観察．染色体の観察．
第 5 回	昆虫の採集及び観察	野外にでて節足動物を調査する．レポートの作成
第 6 回	無脊椎動物の解剖	無脊椎動物（大型節足動物）の生理を学び，体の仕組みを理解する．
第 7 回	プランクトンの採集と観察	野外に出てプランクトンを採集し，顕微鏡観察するテクニックを学び，同定する方法を理解する．レポートの作成
第 8 回	土壌動物の抽出法	野外での土壌の観察と土壌動物の採集方法を学ぶ．
第 9 回	土壌動物の採集・分類と観察（コンピュータを使用した統計処理）	土壌動物とはなにか，図鑑の使い方，調査方法概説
第 10 回	群集生態学的解析（コンピュータを使用した統計処理）	コンピューターの統計解析ソフトを使って，土壌動物の群集データを統計処理する方法を学ぶ．
第 11 回	細菌の観察（コンピュータを使用した統計処理）	細菌数を計測し，成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く
第 12 回	真菌（不完全菌，接合菌，子のう菌，担子菌）の観察	真菌を採集し同定する．レポートの作成
第 13 回	植物の葉の内部構造の観察	単子葉，双子葉の茎頂などを観察し，植物の生長点について学ぶ．
第 14 回	試験，まとめ（レポートの書き方）	試験，まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。
次回の実験内容を毎回つたえるので，必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）．また，実験の後は，必ずレポートを課すので，実験の目的および背景，方法，結果，考察の 4 点について，これをまとめて提出すること．本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
生物学辞典 - 株式会社東京化学同人 (2010 年)

【成績評価の方法と基準】
レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する.
※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】
授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

【Outline and objectives】
In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

BIO900BF

生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

島野　智之

授業コード：A3525　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学・生命科学のさまざまな問題について，可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して，教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に，自然に対する認識をより深め，物事を生物学的に探求する能力を高める.

【到達目標】
教育の現場で使える生物学実験を計画でき，かつ教えることができるようになる．使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し．生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば，実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める．主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	光学顕微鏡と電子顕微鏡の比較	光学顕微鏡と電子顕微鏡の仕組みを理解する.
第 2 回	植物組織と動物組織の観察	動物細胞（頬の粘膜細胞，その他，動物細胞）と，植物細胞の違いを学ぶ.
第 3 回	呼吸 [酵母の無気呼吸（発酵）による二酸化炭素の測定]	呼吸 [酵母の無気呼吸（発酵）による二酸化炭素の測定]
第 4 回	細胞運動 [魚鱗色素胞の観察]	魚鱗色素胞の観察
第 5 回	プランクトンの観察	多細胞性のプランクトンの体の構造や，クマムシのクリプトビオシスについて観察し理解する
第 6 回	カタラーゼとアミラーゼ（酵素活性測定実験）	酵素活性の測定
第 7 回	図鑑の使い方：学名の仕組み	苦手にされやすい，学名の構造について理解し，図鑑の使い方を学ぶ.
第 8 回	図鑑を作る：大学周辺の動物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の動物の写真を撮影し同定後，データベースを作成する
第 9 回	図鑑を作る：大学周辺のコケ（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺のコケの写真を撮影し同定後，データベースを作成する.
第 10 回	図鑑を作る：大学周辺の維管束植物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の維管束植物を撮影し同定後，データベースを作成する.
第 11 回	無菌操作の習得	クリーンベンチを用いた無菌操作の習得
第 12 回	プラスミド DNA の調製	プラスミド DNA と遺伝子組換えについて学ぶ
第 13 回	アガロースゲル電気泳動	得られたプラスミド DNA とゲノム DNA について，アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ.
第 14 回	試験，まとめ（レポートの書き方）	試験，まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。
次回の実験内容を毎回つたえるので，必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）．また，実験の後は，必ずレポートを課すので，実験の目的および背景，方法，結果，考察の 4 点について，これをまとめて提出すること．本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
生物学辞典 - 株式会社東京化学同人 (2010 年)

【成績評価の方法と基準】
レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する.

【学生の意見等からの気づき】
言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】
授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

【Outline and objectives】
In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

PSY100BG

心理学概論

福田　由紀

授業コード：A3601　｜　曜日・時限：**金曜３限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
****
【皆様，本年度のシラバスには，変更があります。学習支援システムで仮登録をしてください。その後，「教材」にある「心概_オリエンテーション_2020_5月末」を読んでください。登録するかどうかの判断資料になるでしょう。受講希望者は，そのまま資料に書いてあるとおりに学習活動を行ってください。一方，希望しない人は，学習支援システムから本授業への「参加解除」手続きを行ってください。】
****
心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより，日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また，法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①心理学の基礎知識が身につく。
②心理学的な見方ができる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
****
【授業は 4 月 24 日から始まります！ 授業の概要と目的に追加した情報を読んでください】
****
基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また，授業のまとめをシャトルシートに記述し，提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，心理学的な見方	授業の進め方の説明，心理学的な見方とは
第 2 回	感覚・知覚	知覚の特性，視覚システムの特徴
第 3 回	行動の形成	遺伝－環境論争，人間の行動の特徴
第 4 回	学習理論とその応用	古典的条件づけ，道具的条件づけ，社会的学習
第 5 回	記憶とその変容	ワーキングメモリ，記憶の変容
第 6 回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第 7 回	思考	問題解決，人の思考のクセ
第 8 回	中間テストとその解説。自他のこころの理解	中間テストの実施とその解説。その後に授業を行う。自己意識の発達，心の理論
第 9 回	動機づけ	動機づけの機能と種類，ストレス
第 10 回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第 11 回	集団の中の個人	集団の圧力，研究の倫理的な問題
第 12 回	帰属過程	帰属理論，帰属のバイアス
第 13 回	性格	性格の記述の考え方，性格測定法
第 14 回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて，短い宿題が出ます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。
第 1 回　錯視を体験する。
第 2 回　ヒトの行動の形成に影響する要因を考え，書く。
第 3 回　自動的に行っている日々の行動を省察する。
第 4 回　自分の記憶術を振り返る。
第 5 回　行間を理解することを体験する。
第 6 回　覆面算と水がめ問題を体験する。
第 7 回　中間テストの準備を行い，自己評価する。
第 8 回　日常のストレス状態を省察する。
第 9 回　保存課題を体験する。
第 10 回　一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
第 11 回　他者の行動の帰属を推測する。
第 12 回　性格テストを体験する。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「心理学要論-こころの世界を探る-」福田由紀編　培風館　2010 年

【参考書】
適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 10%と中間テストの結果 10%，期末テストの結果を 80%として，総合点により決定されます。平常点には，授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。中間テストには追試はありません。一方，期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
心理学概論の 2019 年度の授業では，約 8 割が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述を見ると，例年少なからずあった「スライドを移動が速すぎてメモ取れない」という不評コメントが減少し，「説明の速度がちょうどよかった」と改善されました。皆さんの授業改善アンケートが活かされた例ではないでしょうか！

【その他の重要事項】
この授業は，初回から実質的な内容に入ります。また，授業計画に変更がある場合には第 1 回の授業中にお知らせをする予定です。そのため，受講希望者は，必ず初回の授業を受けて下さい。また，毎回異なったテーマを扱いますので，各授業がそれぞれ重要となります。さらに，授業中作業をする機会がありますので，積極的に参加してください。そして，中間テストによって自分の学習活動状況を確認しましょう。

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn psychology widely. Students will be expected to to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology.

PSY100BG

心理学史

高砂　美樹

授業コード：A3602　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】
この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の 3 大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の 3 要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の 3 要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の 3 大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の 3 大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の 3 大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理検査の拡大と資格について
第 14 回	まとめ	授業内容を理解しているかどうかのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使いません。

【参考書】
サトウタツヤ・高砂美樹　2003　流れを読む心理学史　有斐閣アルマ
高砂美樹　2011　心理学史はじめの一歩　アルテ

【成績評価の方法と基準】
期末試験　100 %

【学生の意見等からの気づき】
1 年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。

【その他の重要事項】
出席をとらないので、怠けて出てこない人もいましたが、最後の試験にはどのくらい出席していたのかが判定できる問題が出ていますので、自己管理をしっかりしてください。

【Outline and objectives】
The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures.

PSY100BG

脳の科学

高橋　敏治

授業コード：A3619　｜　曜日・時限：**木曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
神経伝達物質から高次脳機能まで，心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます．精神生理精神薬理など神経化学に関係する医師としての経験を活かし，心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や，認知科学の現場の最新のトピックスをを取り上げます．

【到達目標】
健康や臨床との関わりの中で，脳の役割の重要性を説明できるようにします．心，身体，自律神経，脳の各部位がそれぞれどのように結びつき，どのように反応するのかを概略し，説明できるようにします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖，脳の生理的な働き，神経細胞の機能，最新の脳内の伝達物質などを学びます．心の働きと脳の基本的な関係を学習します．毎回の授業では，初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り，新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史，授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉，頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉，側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳，橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳，延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能，構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害，ストレス障害，統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	睡眠覚醒機構・生体リズム，性別の問題	睡眠と覚醒はどこで調整されるのか，男性と女性の脳の分化やその仕組みや機能
第 13 回	知識の復習	達成度テストの復習・まとめ
第 14 回	総合的な振り返り，脳の科学の今後の展望	うつ病は学生時代の不眠と関係する？うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割をする？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています．
第 2 回～14 回　達成度テストで成果を確認するので復習してください．
数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）．

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します．

【参考書】
新井康充（2000）．脳とニューロンの科学．裳華房，東京．
緑川晶・山口加代子・三村將（編）（2017）．公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学．医歯薬出版株式会社，東京．

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い，復習します．また期末に試験を行い，評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います．

【学生の意見等からの気づき】
92 人の受講者のうち 52 名から回答者を頂きました．4 － 5 の段階が，授業の工夫では 58 %，理解できたかで 43 %，履修してよかったかは 65 %と評価をしてくれていました．1 時間以内の授業外学習が 86 %とこの点は例年より少なく，自宅での課題学習やそれを実施した上での授業内の議論などの時間を増やしたいと思います．自由記述では，「脳について知ることが出来た」などのコメントの一方で，「理解することが難しい」や「なじみのない用語の理解についていけなかった」などのコメントも寄せられました．この授業を受けて多くの資格試験に臨む学生さんもいるため，その点も考慮した内容となっているため，入門編としてはややハードルが高いかもしれません．

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を使用して，パワーポイントを使用します．授業支援システムを利用して，授業内配布のプリントや資料を掲載します．また，「お知らせ」を使用します．普段使用しているメイルを授業支援システムに登録しておいて下さい．

【その他の重要事項】
実施の順序については変更することがあるため，授業支援システムや授業の中で案内しますので，注意してください．オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．

【Outline and objectives】
From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

PSY200BG

認知心理学

吉村　浩一

授業コード：A3620　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の知覚を中心とする認知研究が、心理学の中でどのように行われているかの全体的流れを解説します。特に、知覚の中心的研究対象である視覚だけでなく、視覚と他の感覚様相との関係に焦点を当てます。

【到達目標】
「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることほど確かなことはないようにいわれがちです。しかし、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができるはずです。本授業では、知覚し認知するという心のはたらきを扱う認知心理学の概要を学ぶことにより、そのような能力の基礎を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、さまざまな画像の呈示を必要とするためパワーポイントを使って行いますが、毎回の授業では、それに先立ち理解のアンカーポイントをあらかじめ示しておくため、板書による講義を先行させて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	心理学の中で「認知」という考え方がどう位置づけられているかの概要説明
第 2 回	思考過程まで守備範囲とする認知心理学	素朴物理学やヒューリスティックなど人間特有の思考法の解説
第 3 回	情報論的アプローチ	認知心理学の重要な特徴であるコンピュータ・アナロジーの説明と人工知能研究との分かれ目の指摘
第 4 回	心のはたらきのモデル化	3 つのタイプのモデルの提示と構成概念との関係の解説
第 5 回	知覚とイメージ	イメージすることと知覚することの類同性を裏づける実験
第 6 回	知覚の病理	脳損傷による知覚機能の障害例を紹介し、脳機能が知覚することにいかに重要に関わっているかの理解を促す
第 7 回	目の構造	ヒトの眼の構造の解説
第 8 回	眼球運動	視覚情報をキャッチするための目の動きの理解
第 9 回	逆さめがね実験（1）	目から入る映像情報が逆さになるめがねを着けたときどのようなことが起こるか、さらにはそれを長期間着け続けることによりどのような変化が生じるかの事実を解説する
第 10 回	逆さめがね実験（2）	上記の実験により生じる変化について、これまで心理学が行ってきた研究的解釈の紹介
第 11 回	視覚の優位	逆さめがね研究のように、視覚情報とそれ以外の感覚情報（触覚・聴覚・自己受容感覚など）が矛盾する情報を与えられたとき、原則的には視覚情報に沿う空間認知が卓いることの解説
第 12 回	視覚の優位に反する知見	近年は、視覚の優位に反する事例が多く紹介されている。それらについての解説
第 13 回	資料に基づく議論の構築	心理学では実験を行うなど、取り組むテーマに関するデータを自ら生成し、それに基づいて議論を組み立て主張を行う。そのスタイルの意義についての解説
第 14 回	期末テストと全体の総括	期末テストを行った上で、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマや内容について、ほぼ毎回の授業から試験問題を提示する。受講者はそれぞれの課題について文献やインターネットで情報を収集し、そのテーマについて各自の考え方をまとめ評価する作業を授業時間外に行うとともに、学期末試験に備える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
三浦佳世（編著）『現代の認知心理学 1：知覚と感性』2010（北大路書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %と期末テスト 50 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教材の配布が少ないとの指摘を受け、毎回の授業で使うパワポ資料を授業の前の週に教材としてアップして配布します。

【Outline and objectives】
This course deals with the cognitive processes of human, especially with perceptual system concerning vision and other modal systems.

PSY200BG

発達心理学

渡辺　弥生

授業コード：A3622　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達的特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】
心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。
（1）人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
（2）人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
（3）生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオや DVD などの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。アクティヴラーニングをできるだけ取入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について 理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第 6 回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第 7 回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第 8 回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第 9 回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第 10 回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第 11 回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。

第 12 回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物的な違いなのか後天的な違いなのか、 いくつかの研究から考えてみる。
第 13 回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？ ：道徳的な人とそうでない人は、発達的に違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第 14 回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレヴューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。予習復習には、各2時間かけるようにする。

【テキスト（教科書）】
『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代　編著（福村出版）

【参考書】
『子どもの「１０歳の壁」とは何か？ ー乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）
『発達心理学（シリーズ　心理学と仕事）』二宮克美・渡辺弥生編著（北大路書房）
『まんがでわかる発達心理学（仮）』（５月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席を前提として、レポート (40%) と学期末の筆記試験（60 %）で評価する。
＊これについては、２０２０年の春学期は、学習支援システムのお知らせで対応の変更を知らせています。必ずそちらをみて、登録ください。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の予習および復習ができるような課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】
テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】
授業支援システムに登録すること。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
From the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly, we will attempt to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified. We will aim to consider how to contribute to society by the researches.

PSY200BG

言語心理学

福田　由紀

授業コード：A3667　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
****
【皆様，本年度のシラバスには，変更があります。学習支援システムで仮登録をしてください。その後，「教材」にある「言心_オリエンテーション_2020_5月末」を読んでください。登録するかどうかの判断資料になるでしょう。受講希望者は，そのまま資料に書いてあるとおりに学習活動を行ってください。一方，希望しない人は，学習支援システムから本授業への「参加解除」手続きを行ってください。以上です。】
****
ヒトが文章を読む時に，どのようなことが頭の中で起こっているか，言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
②①について他者に説明ができる。
③言葉の働きについて，心理学的な見方でできる。
④聞きながらメモをとることができる。
⑤階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
****
【授業は 4 月 23 日から始まります！ 授業の概要と目的に追加した情報を読んでください】
****
基本は講義形式です。授業中，教科書を使いますので毎回持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，その内容を体験したり，グループで討論したりしてもらいます。また，授業のまとめをシャトルシートに記述し，提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方，心的表象の特徴と種類
第 2 回	言語力の発達	語彙の発達，読み書きの発達の概観
第 3 回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第 4 回	単語認知に影響する要因	心的辞書，認知に影響する要因，材料を統制するとは？
第 5 回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第 6 回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文，作業記憶量
第 7 回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか，読み手の推論の力
第 8 回	文章理解に影響する要因１：既有知識	物語文法，物語スキーマ
第 9 回	文章理解に影響する要因２：既有知識	スクリプト，視点
第 10 回	文章の理解モデル	状況モデル
第 11 回	状況モデルの新たな展開１：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第 12 回	状況モデルの新たな展開２：対象の広がり	メタ認知，自己概念，感情
第 13 回	状況モデルの新たな展開３：日常生活への応用	広告の作成や教育
第 14 回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。
第 1 回　モーラの概念を使えるようにする。
第 2 回　コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え，書く。
第 3 回　類似語を選定する。

第 4 回　規則語と例外語の例を書く。
第 5 回　ガーデンパス文を修正する。
第 6 回　Sacks の実験材料を読み，質問に答える。
第 7 回　桃太郎の物語の要約を書く。
第 8 回　行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。
第 9 回　Morrow et al. の実験材料である地図を記憶する。
第 10 回　文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
第 11 回　小説を読んだときの体験を書く。
第 12 回　大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編　培風館　2012 年

【参考書】
適宜，紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 10%と期末テスト 90%により決定されます。平常点には，授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末テストでは，選択問題を予定しています。選択式問題の内容は知識の確認と応用問題です。

【学生の意見等からの気づき】
言語心理学の 2019 年度の授業では，約 7 割が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述をみると，シャトルシートの記入が授業のメリハリになっている，自分でまとめられるので良かった等，好評でした。今後も続けていきますね。

【その他の重要事項】
この授業は，初回から実質的な内容に入ります。また，授業計画に変更がある場合には第 1 回の授業中にお知らせをする予定です。そのため，受講希望者は，必ず初回の授業を受けて下さい。
また，授業の基本は講義形式ですが，授業中に作業等してもらいます。積極的な取り組みを期待します。質問やコメントも大歓迎です。
文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から，本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

【実験参加へのお願い】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn various activities of language in terms of psychological perspective. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language.

PSY200BG

学習心理学

藤田　哲也

授業コード：A3624　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＊初回授業は 23 日で，オンデマンド形式（必ずしも授業開始時刻に学習支援システムに接続しなくても大丈夫です）で行います。ただし，毎週の課題提出が必須になります。
詳細は 23 日の早朝までに学習支援システムで説明します。23 日までに仮登録をしてください。
－－－－－－－－－－－－－－－
人間の活動に不可欠な「学習」という現象を，心理学的に幅広く捉え，理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】
単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなくて，実際に自分自身の日常生活に応用できるように理解することを到達目標とします。また，そうすることで自分の生活を有意義なものにしていくという考え方を身につけてもらいたいと思います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが，動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に，主に教育場面における学習活動を客観的に捉え，動機づけや学習方略，メタ認知などについて学びます。また，知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り，自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが，より深い理解を促すために，ペア・ワークなど用いて，受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に，授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて，自分自身の学習過程についても見つめる機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	○○恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に，一回の授業で教科書の 1 章分進み，毎回の授業は，予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく，内容を把握することを目的意識に持って，予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために，毎回「予習シート」を完成させた上で授業に臨んでください。また，毎回発行する「授業通信」を読んで，前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に 2 回，それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「絶対役立つ教育心理学　実践の理論, 理論の実践」藤田哲也 (編)(2007) ミネルヴァ書房

【参考書】
毎回の授業内容に合わせて，随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。
「大学基礎講座」藤田哲也 (編)(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）…授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや，予習シートを作成してくること，授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。
期末レポート（60%）…授業内容についての基本的な理解と，その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
毎年高い評価を得ているので，授業内容には大きな変更はしませんでしたが，「履修してよかった」の評価は 4.51 と，及第点でした。「理解度」は 4.32 と昨年と同程度でした。ただ，「授業外学習時間」での最頻値が昨年は週 1 時間〜2 時間未満（50%）だったのが今年は週 30 分〜1 時間未満（71%）と下がってしまいました。受講生数が約 2 倍になっていることも一因かもしれませんが，もう少し予習に力を入れてくれるよう早期の介入をしたいと思います。自由記述には肯定的意見しかなかったので，その他の授業方法はこのままでよかろうと思っています。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明をしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。この授業の運営の仕方それ自体が，学習心理学の教材となっていますので，毎回，積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし，解説もしていきますので，授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline and objectives】
In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

PSY200BG

行動分析学

島宗　理

授業コード：A3670　｜　曜日・時限：金曜３限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

【到達目標】
○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC 分析、AB 分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
○日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。授業は 4/24 からですが，すでに補習教材を用意してありますので，各自，取り組んで下さい。
学習支援システムがつながらないようなので，直接，下記の授業ノートへアクセスしてください。
https://docs.google.com/document/d/1TFic66VEm0NeMZqonk4I7kNf1okA98cwikBwRjcwu0Q/edit?usp=sharing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。
第 2 回	「問題」とは？ 心と行動の区別	解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。個人攻撃の罠について学びます。
第 3 回	好子と嫌子	生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。
第 4 回	強化と弱化	基本的な行動随伴性について学びます。
第 5 回	課題分析	標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。
第 6 回	シェイピング	新しい行動レパートリーを教えるシェイピングの技法を学びます。
第 7 回	ABC 分析#1	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。
第 8 回	ABC 分析#2	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。
第 9 回	AB 分析#1	オペラントとレスポンデントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第 10 回	AB 分析#2	情動の条件付けや知覚学習について学びます。
第 11 回	ABC 分析#3	ABC 分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。
第 12 回	観察法	インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第 13 回	行動分析学の実験計画法	シングルケース研究法（反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法）について学びます。
第 14 回	まとめ	授業で学んだ行動分析学の考え方を使って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。 レポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、web クイズに取り組んで予習してきます。
最終回までに、行動分析学を用いて、社会的な問題を解決する具体的な方法について考え、まとめるレポートを作成します。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○『パフォーマンス・マネジメント– 問題解決のための行動分析学』島宗 理（著） 2000 年 米田出版

【参考書】
○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房
○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】
○クイズ 50%、授業内演習課題 50%として成績を評価します。
○授業を欠席したときには授業内課題を補完するレポートを書いて提出してください。10 点満点で採点します。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内の課題得点を補完できるものとします。授業内クイズの得点は該当する web 学習プログラムに取り組み，満点をとっていれば 10 点を補填します。どちらも期限は欠席した次の授業時間の開始時刻です。

【学生の意見等からの気づき】
（2019 年度の授業改善アンケートより）
64 人中 40 人が回答してくれました（63%）。そのうち 37 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（93%）。
成績評価の方法については意見を書いてくれた人（ほぼ全員）が例外なく「絶対評価」を支持していました。理由も明確で納得のいくものでした（そうだよね）。大学からクレームがついたら，学生の声として，みなさまの意見を伝えます。ありがとう。
シングルケースデザイン法の演習ネタとしては，時間計測，震源地ゲーム，効き茶，なんじゃもんじゃなどを提案していただけました。複雑でよく考えてみないとわからないものもありますが，参考にして，来年度いずれかを採用しようと思います。こちらもありがとう。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムへのアクセスやレポートの作成などに PC を多用します。

【その他の重要事項】
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

PSY200BG

社会心理学

越智　啓太

授業コード：A3625 ｜ 曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：
人間の社会行動を科学的に解明する
社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などというと難しそうな感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのがいやなのか、勉強してきたくせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」っていうのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買い続けるのか、なぜ本屋と CD ショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けない人がいるのか、いらいらするといじわるしたくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。
授業の目的・意義
社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】
(1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようになる。
(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業内容：
我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。
授業方法：
講義形式
記憶する必要のある用語のリストや基本的な授業のまとめノートは授業支援システムからダウンロードできる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究方法
第 2 回	対人印象形成（1）	中心特性、初頭効果
第 3 回	対人印象形成（2）	ステレオタイプ、ステレオタイプの形成、ステレオタイプの維持
第 4 回	外見的魅力	美人、ハンサム、外見的魅力を規定する平均顔仮説
第 5 回	恋愛行動（1）	恋愛行動の形成、進展、SVR 理論、情動と恋愛、錯誤帰属、恋愛のスキル
第 6 回	恋愛行動（2）	恋愛の類型論、恋愛と情動、恋愛進展
第 7 回	恋愛行動（3）	恋愛の個人差、愛の結晶化現象、愛の再確認傾向と恋愛
第 8 回	ノンバーバルコミュニケーション	表情、動作、しぐさ、うその見破り
第 9 回	自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第 10 回	セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第 11 回	攻撃行動（1）メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響
第 12 回	攻撃行動（2）	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム
第 13 回	援助行動（1）	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第 14 回	援助行動（2）	社会的インパクト理論と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自受講に際しては、あらかじめ授業支援システムから該当する講義のプリントをダウンロードして読んでくること。ただし、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）を提示するので、この用語を記憶し、使いこなせるようしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。プリントを使用する。プリントは授業支援システムで配布する。

【参考書】
中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開　八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。
筆記試験（８０％）＋小レポート・授業コメント（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
毎回、比較的良い評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】
（1）「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。
（2）試験の記述問題については、専門用語を使用し、現象を実証的に説明していくことが必要。ただの具体例や感想だけではもちろん点数にならない。
（3）授業時のパワーポイントの撮影は禁止。その代わりに資料を配付する。
（4）他の教員の授業に比べて、A ＋、A は少ない。毎年、D 評価のものが５％程度でているので、楽勝科目ではないと思う。

【Outline and objectives】
Overview of psychology on social-human relationship

PSY100BG

認知科学入門

田嶋　圭一

授業コード：A3621　｜　曜日・時限：**火曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
見る，聞く，言葉を話す，覚える，考える，他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心を働きを，学際的な観点から追究する「認知科学」という学問について学びます。

【到達目標】
認知科学の歴史と，視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について，各自の具体的な経験を踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行いますが，適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また，授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり，コメントシートを作成することで，授業への能動的な参加が期待されます。およそ 3 回に 1 回の頻度で授業時間の一部を使って小テストを行う予定です。【重要】キャンパス入構制限に伴う変更点や授業開始日については学習支援システムで本科目を仮登録して確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，「認知科学」とはどんな学問か，認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴，認知科学の誕生，認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚，感覚の範囲，物理量と心理量の関係，感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性，形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚，高次知覚過程（パターン認識，トップダウン処理とボトムアップ処理，文脈効果），顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体，音の大きさ・高さ・音色の知覚，聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意，音声の知覚，視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか，言語知識，言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分，短期記憶と長期記憶，日常生活と記憶，記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識，心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか），命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考，推論，問題解決
第 12 回	情動	情動とは，情動と脳，情動を認知するためのメカニズム，情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か，社会的条件の影響，対人認知, 認知科学の今後の展望
第 14 回	試験	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムに事前にアップされた資料を読んだり，授業後に内容を振り返ったりすることで，毎回の授業の予習・復習を行ってください。また，小テストに備えることで，内容の理解度を段階的に確かめましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】
行場次郎・箱田祐司（編）（2014）．新・知性と感性の心理　―認知心理学最前線―　福村出版.
鈴木宏昭（2016）．教養としての認知科学　東京大学出版会.
内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）．はじめての認知科学　新曜社.

大津由紀雄・波多野誼余夫（編著）（2004）．認知科学への招待　―心の研究の面白さに迫る―　研究社．
都築誉史（編）（2002）．認知科学パースペクティブ　―心理学からの 10 の視点―　信山社．
大島尚（編）（1986）．ワードマップ：認知科学　新曜社．

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%，小テスト 30%，期末試験 50%の割合で評価する予定です。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合，または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。【重要】キャンパス入構制限に伴う採点方法の変更点などについては学習支援システムで本科目を仮登録して確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度春学期は，回答者 88 名のうち，「履修してよかった」という問「5」または「4」と回答してくれた人が 79 名（90%，前年は 91%），「理解できた」が 68 名（77%，前年は 81%），「工夫されていた」が 82 名（93%，前年は 86%）でした。いずれも前年度と大きく変化はなく，おおむね高い評価をいただきました。授業内容，レジュメ，小テスト，グループワーク，いずれについても肯定的なコメントをたくさんいただきました。中には「素晴らしい授業」「先生が優秀」といった嬉しいコメントもありました。授業外学習時間については「1〜2 時間」が 33%，「30 分〜1 時間」が 41%，「ほとんど行っていない」が 23%でした。成績の 3 割を占める合計 4 回の小テストがあるため学期中も授業外で定期的に復習などをしていた受講生が比較的多かったと考えられます。小テストの頻度・回数については「多すぎ」「少なすぎ」といった意見もありましたが，「ちょうどよかった」という意見が最も多かったです。「レジュメに余白が少なくて，自分で補足を書き込むと見にくくなってしまいます」というコメントがありました。ごもっともなご意見ですが，余白を増やすと印刷枚数が増えるので，他のノートなどに補足を書き込んでもらうのが良いのかも知れません。授業中の教え合いの時間は好評でした。その場で理解度チェックができ学生同士で質問し合えるので，今後も続けたいと思います。遅刻者が入室するとコメントシートを渡すのに授業が中断されるので改善してほしいというご意見がありました。改善策を考えたいと思います。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

PSY100BG

心理統計法 I

三浦　大志

授業コード：A3701　｜　曜日・時限：**木曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

【到達目標】
この授業の目標は
・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる
・これらの値を算出できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習 (統計処理の作業) やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。
【4/21 追記】
5 月 7 日（木）3 限を第 1 回授業日とする予定です。学習支援システムの「お知らせ」に現況を記しておりますので (4/17)、まだ見ていない人はそれを読んでおいて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・心理統計とは	授業内容・方針についてのガイダンス、心理統計について
第 2 回	記述統計とは	記述統計
第 3 回	尺度水準	尺度水準
第 4 回	分布と代表値	度数分布、代表値
第 5 回	分布と散布度	分散、標準偏差
第 6 回	標準化	標準得点
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	2 つの変数の関係 1	相関の図と共分散
第 9 回	2 つの変数の関係 2	相関係数
第 10 回	2 つの変数の関係 3	連関
第 11 回	推測統計とは	母集団と標本
第 12 回	標本から母集団を推測する 1	正規分布
第 13 回	標本から母集団を推測する 2	点推定と区間推定
第 14 回	ここまでの事項の確認	最終テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】
山内光哉「心理・教育のための統計法＜第 3 版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

【成績評価の方法と基準】
１．授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
２．授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。
【4/23 追記】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に授業内で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシートの回答から、高校の授業で統計に触れたことがある人と、統計がほぼ初めての人の両方が履修していることが分かりました。統計を既習の人で、油断をしてテストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学習に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with descriptive statistics.

PSY100BG

心理統計法Ⅱ

三浦　大志

授業コード：A3702　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

【到達目標】
この授業の目標は
・t 検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
・これらの検定を実行できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習 (統計処理の作業) やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法 I を受講したことを想定して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容、方針についてのガイダンス
第 2 回	統計的仮説検定 1	検定とは・二項検定
第 3 回	統計的仮説検定 2	仮説、有意水準、2 種類の誤り
第 4 回	統計的仮説検定 3	適切な検定の選択
第 5 回	t 検定 1	独立した標本の検定
第 6 回	t 検定 2	対応のある標本の検定
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	分散分析 1	対応のない 1 要因
第 9 回	分散分析 2	対応のある 1 要因
第 10 回	分散分析 3	交互作用
第 11 回	分散分析 4	2 要因
第 12 回	その他の検定 1	相関係数の検定・回帰分析
第 13 回	その他の検定 2	カイ二乗検定
第 14 回	ここまでの事項の確認	最終テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】
山内光哉「心理・教育のための統計法＜第 3 版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房
森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

【成績評価の方法と基準】
1．授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2．授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】
「他の授業でも統計が出てくるので、必要性を感じた」「丸暗記でなく、意味から理解することの大切さを学んだ」といったコメントをいくつかいただきました。推測統計は非常に利用頻度の高い重要なものなので、知的好奇心がかき立てられ、かつ最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with inferential statistics.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅰ

伊藤　尚枝

授業コード：A3703　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。
・実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・統計ソフト JSAP の基本操作法を習得する。

【到達目標】
到達目標は、以下の４点です。
（１）実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
（２）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（３）JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（４）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 22 日とします。具体的なオンライン授業の方法などは、学習支援システムにアクセスして確認してください。
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量（平均値、分散、標準偏差など）
第 2 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 3 回	統計的仮説検定１	統計的仮説と判定
第 4 回	統計的仮説検定２	判定に伴う２つの過誤、片側検定と両側検定
第 5 回	等分散性の検定	分散と F 分布の関係、等分散性の検定の手順
第 6 回	対応のない t 検定	考え方と手順
第 7 回	対応のない t 検定	結果の整理
第 8 回	対応のある t 検定	考え方と手順
第 9 回	対応のある t 検定	結果の整理
第 10 回	一元配置の分散分析１	実験計画と分散分析の実行
第 11 回	一元配置の分散分析２	多重比較、結果の整理
第 12 回	二元配置の分散分析１	考え方と手順
第 13 回	二元配置の分散分析２	二元配置以上の分散分析での検定の効果
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
そのほかの参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to statistical analyses of psychological research.
In this course, students will learn fundamental skills of inferential statistics and basics of hypothetical testing. Students will also learn how to organize, analyze, and present quantative data collected under experimental designs.
In this course we will be using JASP.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅰ

伊藤　尚枝

授業コード：A3704　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。
・実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・統計ソフト JSAP の基本操作法を習得する。

【到達目標】
到達目標は、以下の４点です。
（１）実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
（２）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（３）JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（４）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 22 日とします。具体的なオンライン授業の方法などは、学習支援システムにアクセスして確認してください。
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量（平均値、分散、標準偏差など）
第 2 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 3 回	統計的仮説検定１	統計的仮説と判定
第 4 回	統計的仮説検定２	判定に伴う２つの過誤、片側検定と両側検定
第 5 回	等分散性の検定	分散と F 分布の関係、等分散性の検定の手順
第 6 回	対応のない t 検定	考え方と手順
第 7 回	対応のない t 検定	結果の整理
第 8 回	対応のある t 検定	考え方と手順
第 9 回	対応のある t 検定	結果の整理
第 10 回	一元配置の分散分析１	実験計画と分散分析の実行
第 11 回	一元配置の分散分析２	多重比較、結果の整理
第 12 回	二元配置の分散分析１	考え方と手順
第 13 回	二元配置の分散分析２	二元配置以上の分散分析での検定の効果
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
そのほかの参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to statistical analyses of psychological research.
In this course, students will learn fundamental skills of inferential statistics and basics of hypothetical testing. Students will also learn how to organize, analyze, and present quantative data collected under experimental designs.
In this course we will be using JASP.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

伊藤　尚枝

授業コード：A3705　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・質的データの分析に必要な統計的仮説検定の考え方を身につける。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】
達目標は以下の４点です。
（１）データの性質や研究目的にあった分析方法を選択できる。
（２）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（３）JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（４）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 2 回	度数のカイ二乗検定１	適合度の検定（1 変数）
第 3 回	度数のカイ二乗検定２	独立性の検定（2 変数）
第 4 回	因果関係と相関関係	散布図の読み取り
第 5 回	相関係数の算出	相関係数の有意性
第 6 回	単回帰分析	相関と回帰の意義
第 7 回	重回帰分析１	考え方と手順
第 8 回	重回帰分析２	変数の選択、多重共線性の問題と対策
第 9 回	重回帰分析３	結果の整理
第 10 回	主成分分析	考え方と手順、結果の整理
第 11 回	因子分析１	因子分析の考え方と手順
第 12 回	因子分析２	初期解の算出、軸の回転
第 13 回	因子分析３	結果と解釈
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with statistical methods and techniques used in psychological research. Students will learn fundamental skills needed in analyzing qualitative data. Students will also learn a wide variety of methods for multivariate statistical techniques as applied to psychological research.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

伊藤　尚枝

授業コード：A3706　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・質的データの分析に必要な統計的仮説検定の考え方を身につける。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】
達目標は以下の４点です。
（１）データの性質や研究目的にあった分析方法を選択できる。
（２）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（３）JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（４）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 2 回	度数のカイ二乗検定１	適合度の検定（1 変数）
第 3 回	度数のカイ二乗検定２	独立性の検定（2 変数）
第 4 回	因果関係と相関関係	散布図の読み取り
第 5 回	相関係数の算出	相関係数の有意性
第 6 回	単回帰分析	相関と回帰の意義
第 7 回	重回帰分析１	考え方と手順
第 8 回	重回帰分析２	変数の選択、多重共線性の問題と対策
第 9 回	重回帰分析３	結果の整理
第 10 回	主成分分析	考え方と手順、結果の整理
第 11 回	因子分析１	因子分析の考え方と手順
第 12 回	因子分析２	初期解の算出、軸の回転
第 13 回	因子分析３	結果と解釈
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with statistical methods and techniques used in psychological research. Students will learn fundamental skills needed in analyzing qualitative data. Students will also learn a wide variety of methods for multivariate statistical techniques as applied to psychological research.

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅰ

島宗　理

授業コード：A3707　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】
○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレセンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。
レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。
授業は 4/27 からですが，すでに補習教材を用意してあります。各自，取り組んで下さい。
学習支援システムがつながらないようなので，以下の授業ノートに直接アクセスしてください。

https://docs.google.com/document/d/1KC6HNrUrlpGNQ0fbROE3faCS0Uwt0dmlPZg1h5wMjUw/edit?usp=sharing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。後の実験に使うアンケートも実施します。
第 2 回	実験実習 (その 1）：対人関係における初頭効果　あなたの第一印象は？	対人関係における初頭効果について、クラス全体で実験をし、データを集計します。 前回回答したアンケートのデータを PC で入力します。
第 3 回	データの分析とレポートの執筆（その 1）心理学のイメージ：大学 1 年生はどんなイメージをいだいて入学してくるのだろう？	心理学に対して受講生の皆さんがいだくイメージを KJ 法を使って分析します。
第 4 回	データの分析とレポートの執筆（その 2）データの視覚化：データが語るところを視える化する。	初頭効果の実験のデータと心理学のイメージのデータを Excel を使って集計し、グラフにします。
第 5 回	データの分析とレポートの執筆（その 3）	初頭効果の実験と心理学のイメージについてレポートを書きます。レポートの書き方を解説し、練習します。
第 6 回	実験実習（その 2）記憶の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	記録の実験をクラス全体で実施してデータを集計します。
第 7 回	データの分析とレポートの執筆（その 4）	心理学の研究論文には書き方の約束事があります。これを解説し、記憶の実験のデータを使って約束事を守ってレポートを書く練習をします。
第 8 回	実験実習（その 3）運動の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	学習の実験をクラスごとに実施してデータを集計します。

第 9 回	実験実習（その 4）知覚の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	感覚モダリティ間の相互作用を検討する実験を行い、データを分析します。
第 10 回	データの分析とレポートの執筆（その 5）	前回の実験のレポートを書きながら、論文を推敲する練習をします。
第 11 回	研究発表（準備その 1）	プレゼンテーションの方法について説明します。研究からわかったことをわかりやすく伝えること、聞き手からの質問に答えて、次の研究のヒントになるアイディアをみつけることが目標です。 各チームで前期に行った実験から一つ選び、プレゼン資料を PowerPoint を使って作成し、発表の準備と練習をします。
第 12 回	研究発表（準備その 2）	同上
第 13 回	研究発表（本番）	チームごとにクラスの前に出てプレゼンテーションをします。質疑応答の練習もします。
第 14 回	レポート作成	春学期に行った実験やレポートを振り返り、まとめ、レポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウエアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

○ 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき　日本心理学会（2015）
○心理学実験ノート 心理学実験ノート編纂委員会 （2001）二瓶社
○パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
○実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
○心理学のためのレポート・卒業論文の書き方　杉本 敏夫（2005）サイエンス社
○ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方　石井一成（2011）ナツメ社
○この 1 冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本　石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

○実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50%で成績をつけます。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
○実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

（2019 年度の授業改善アンケートより）

78 人中 59 人が回答してくれました（76%）。そのうち 52 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（88%）。

海の日に授業をすることについては，なんと!! 賛成が 31 人，反対が 5 人という結果でした。賛成の理由は「他にも授業がある」，「この日を休みにすると空きコマになる」などで，予想外だったのは「電車がすいている」でした。なるほど，そういう見方もあるわけですね。反対の理由は特に書かれていませんでした（「海に泳ぎに行きたいとか」を期待していましたが匿名とはいえ，書きにくかったのかも）。というわけで，来年度も海の日に最終発表をすることにします。

授業の感想としては「たいへんだったけど，レポートの書き方や作文について学べてよかった」が多かったです。No Pain, No Gain. はほんとは好きではなく，だから web 教材やチェックリストなど，さまざまな補助教材を作っているのですが，それでもなかなか楽ちんにはならないですね。

気になったのは「自習のようだった」や「もっと説明が欲しい」といった感想でした。心理学基礎実験 I/II は他の講義科目とは異なり，そして心理学科の授業では唯一の「実習科目」です。そもそも講義がメインではなく実習中心の授業科目なのです。また，大学での学びは，授業で教員から提供される情報より，学生がそれをヒントに自分で調べ，考え，発見していくことの方がはるかに大きく，重要です。これに気づかないといつまでも永遠の待ち人になってしまってもったいないのでこの機会に指摘しておきます。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

○ W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

PSY100BG

心理学基礎実験 I

島宗　理

授業コード：A3708　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】
○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。
レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。
授業は 4/27 からですが，すでに補習教材を用意してあります。各自，取り組んで下さい。
学習支援システムがつながらないようなので，以下の授業ノートに直接アクセスしてください。

https://docs.google.com/document/d/1KC6HNrUrlpGNQ0fbROE3faCS0Uwt0dmlPZg1h5wMjUw/edit?usp=sharing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。後の実験に使うアンケートも実施します。
第 2 回	実験実習 (その 1）：対人関係における初頭効果　あなたの第一印象は？	対人関係における初頭効果について、クラス全体で実験をし、データを集計します。 前回回答したアンケートのデータを PC で入力します。
第 3 回	データの分析とレポートの執筆（その 1）心理学のイメージ：大学 1 年生はどんなイメージをいだいて入学してくるのだろう？	心理学に対して受講生の皆さんがいだくイメージを KJ 法を使って分析します。
第 4 回	データの分析とレポートの執筆（その 2）データの視覚化：データが語るところを視える化する。	初頭効果の実験のデータと心理学のイメージのデータを Excel を使って集計し、グラフにします。
第 5 回	データの分析とレポートの執筆（その 3）	初頭効果の実験と心理学のイメージについてレポートを書きます。レポートの書き方を解説し、練習します。
第 6 回	実験実習（その 2）記憶の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	記録の実験をクラス全体で実施してデータを集計します。
第 7 回	データの分析とレポートの執筆（その 4）	心理学の研究論文には書き方の約束事があります。これを解説し、記憶の実験のデータを使って約束事を守ってレポートを書く練習をします。
第 8 回	実験実習（その 3）運動の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	学習の実験をクラスごとに実施してデータを集計します。
第 9 回	実験実習（その 4）知覚の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	感覚モダリティ間の相互作用を検討する実験を行い、データを分析します。
第 10 回	データの分析とレポートの執筆（その 5）	前回の実験のレポートを書きながら、論文を推敲する練習をします。
第 11 回	研究発表（準備その 1）	プレゼンテーションの方法について説明します。研究からわかったことをわかりやすく伝えること、聞き手からの質問に答えて、次の研究のヒントになるアイディアをみつけることが目標です。 各チームで前期に行った実験から一つ選び、プレゼン資料を PowerPoint を使って作成し、発表の準備と練習をします。
第 12 回	研究発表（準備その 2）	同上
第 13 回	研究発表（本番）	チームごとにクラスの前に出てプレゼンテーションをします。質疑応答の練習もします。
第 14 回	レポート作成	春学期に行った実験やレポートを振り返り、まとめ、レポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。
また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。
授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウエアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。

【参考書】
○ 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき　日本心理学会（2015）
○心理学実験ノート 心理学実験ノート編纂委員会 （2001）二瓶社
○パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
○実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
○心理学のためのレポート・卒業論文の書き方　杉本 敏夫（2005）サイエンス社
○ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方　石井一成（2011）ナツメ社
○この 1 冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本　石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
○実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50%で成績をつけます。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
○実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
（2019 年度の授業改善アンケートより）
78 人中 59 人が回答してくれました（76%）。そのうち 52 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（88%）。
海の日に授業をすることについては，なんと!! 賛成が 31 人，反対が 5 人という結果でした。賛成の理由は「他にも授業がある」，「この日を休みにすると空きコマになる」などで，予想外だったのは「電車がすいている」でした。なるほど，そういう見方もあるわけですね。反対の理由は特に書かれていませんでした（「海に泳ぎに行きたいとか」を期待していましたが匿名とはいえ，書きにくかったのかも）。というわけで，来年度も海の日に最終発表をすることにします。
授業の感想としては「たいへんだったけど，レポートの書き方や作文について学べてよかった」が多かったです。No Pain, No Gain. はほんとは好きではなく，だから web 教材やチェックリストなど，さまざまな補助教材を作っているのですが，それでもなかなか楽ちんにはならないですね。
気になったのは「自習のようだった」や「もっと説明が欲しい」といった感想でした。心理学基礎実験 I/II は他の講義科目とは異なり，そして心理学科の授業では唯一の「実習科目」です。そもそも講義がメインではなく実習中心の授業科目なのです。また，大学での学びは，授業で教員から提供される情報より，学生がそれをヒントに自分で調べ，考え，発見していくことの方がはるかに大きく，重要です。これに気づかないといつまでも永遠の待ち人になってしまってもったいないのでこの機会に指摘しておきます。

【学生が準備すべき機器他】
実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】
○ W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

矢口　幸康

授業コード：A3709　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の重要な研究法として実験法があります。この授業では、心理学実験プログラム SuperLab5 を使って、実験を遂行する能力を身に付けます。

【到達目標】
心理学実験プログラム SuperLab5 は、心理学実験の中でも特に反応時間まで測定することができます。反応時間に関わる 4 つの基本的テーマの実験を自分たち自身でプログラムし、データ測定を行い、実験レポートとして完成させる能力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
複数班に分かれ、班員が協力して実験計画を細部まで詰めて実験プログラムを完成させ、実験を実施し、データ整理を行います。その作業を通して、4 つの実験ごとに「目的と方法」「結果の整理」「考察」の枠組みをもった実験報告レポートを各自が提出します。4 つの実験は以下の通りです。
1　単純反応時間の測定：視覚刺激と聴覚刺激の比較
2　選択反応時間：単純反応時間と選択反応時間の比較
3　注意の効果：ポズナーの Cost-Benefit 法
4　心的回転：Rとその裏文字の同定作業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	4 つの実験概要の説明
第 2 回	実験プログラムの学習（1）	SuperLab5 の使い方の学習（1）
第 3 回	実験プログラムの学習（2）	SuperLab5 の使い方の学習（2）
第 4 回	選択反応時間の実験（1）	選択反応時間の実験プログラムの作成
第 5 回	選択反応時間の実験（2）	選択反応時間実験の実施とデータ整理
第 6 回	選択反応時間の実験（3）	選択反応時間実験の提出されたレポートの相互検討
第 7 回	単純反応時間の実験（1）	単純反応時間の実験プログラムの作成
第 8 回	単純反応時間の実験（2）	単純反応時間実験の実施とデータ整理
第 9 回	単純反応時間の実験（3）	単純反応時間実験の提出されたレポートの総評
第 10 回	注意の効果の実験（1）	注意の効果の実験プログラムの作成
第 11 回	注意の効果の実験（2）	注意の効果実験の実施とデータ整理
第 12 回	注意の効果の実験（3）	注意の効果実験の提出されたレポートの総評
第 13 回	心的回転の実験（1）	心的回転の実験プログラムの作成
第 14 回	心的回転の実験（2）	心的回転実験の実施とデータ整理、及びレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の進捗状況に合わせて、遅れている作業のカバーと次回に必要な作業をグループで協力または分担して授業時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
用いません

【参考書】
統計処理法の解説書などを適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %とレポート 40 %で評価します。
なお以下の条件に当てはまる場合は上記の基準を満たしていても成績評価を E 判定とします。
① 3 回以上の欠席（出講禁止となる感染症・忌引き・全日運休交通トラブルによる欠席はカウントから除外します）
②授業進捗を妨害する言動に対する注意が 3 回以上

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当科目のため無し

【その他の重要事項】
クラス授業で、W クラスが受講対象です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a psychological experiments using SuperLab5.

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

矢口　幸康

授業コード：A3710　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の重要な研究法として実験法があります。この授業では、心理学実験プログラム SuperLab5 を使って、実験を遂行する能力を身に付けます。

【到達目標】
心理学実験プログラム SuperLab5 は、心理学実験の中でも特に反応時間まで測定することができます。反応時間に関わる 4 つの基本的テーマの実験を自分たち自身でプログラムし、データ測定を行い、実験レポートとして完成させる能力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
8 つの班に分かれ、班員が協力して実験計画を細部まで詰めて実験プログラムを完成させ、実験を実施し、データ整理を行います。その作業を通して、4 つの実験ごとに「目的と方法」「結果の整理」「考察」の枠組みをもった実験報告レポートを各自が提出します。4 つの実験は以下の通りです。
1　単純反応時間の測定：視覚刺激と聴覚刺激の比較
2　選択反応時間：単純反応時間と選択反応時間の比較
3　注意の効果：ポズナーの Cost-Benefit 法
4　心的回転：R とその裏文字の同定作業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	4 つの実験概要の説明
第 2 回	実験プログラムの学習（1）	SuperLab5 の使い方の学習（1）
第 3 回	実験プログラムの学習（2）	SuperLab5 の使い方の学習（2）
第 4 回	選択反応時間の実験（1）	選択反応時間の実験プログラムの作成
第 5 回	選択反応時間の実験（2）	選択反応時間実験の実施とデータ整理
第 6 回	選択反応時間の実験（3）	選択反応時間実験の提出されたレポートの相互検討
第 7 回	単純反応時間の実験（1）	単純反応時間の実験プログラムの作成
第 8 回	単純反応時間の実験（2）	単純反応時間実験の実施とデータ整理
第 9 回	単純反応時間の実験（3）	単純反応時間実験の提出されたレポートの総評
第 10 回	注意の効果の実験（1）	注意の効果の実験プログラムの作成
第 11 回	注意の効果の実験（2）	注意の効果実験の実施とデータ整理
第 12 回	注意の効果の実験（3）	注意の効果実験の提出されたレポートの総評
第 13 回	心的回転の実験（1）	心的回転の実験プログラムの作成
第 14 回	心的回転の実験（2）	心的回転実験の実施とデータ整理、及びレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の進捗状況に合わせて、遅れている作業のカバーと次回に必要な作業をグループで協力または分担して授業時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
用いません

【参考書】
統計処理法の解説書などを適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %とレポート 40 %で評価します。
なお以下の条件に当てはまる場合は上記の基準を満たしていても成績評価を E 判定とします。
① 3 回以上の欠席（出講禁止となる感染症・忌引き・全日運休交通トラブルによる欠席はカウントから除外します）
②授業進捗を妨害する言動に対する注意が 3 回以上

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当科目のため無し

【その他の重要事項】
クラス授業で、X クラスが受講対象です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a psychological experiments using SuperLab5.

PSY200BG

心理学測定法Ⅰ

藤田　哲也

授業コード：A3611　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＊この授業は当面，オンデマンド方式（必ずしも授業開始時刻に学習支援システムに接続しなくても大丈夫です）で行います。ただし，毎週の課題提出が必須になります。
授業開始は 4 月 27 日です。当日の朝には第一回の教材を学習支援システムにアップしますので，それを確認の上，課題に取り組んでください。
心理学の測定法の中でも一般的な，質問紙（アンケート）法を用いて，自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】
半期の授業が終了した時点で，以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1．質問紙作成のための基礎的な知識を理解し，説明すること。
2．既存の質問紙（心理尺度）を利用して，質問紙研究を計画・実施すること。
3．得られたデータに対して，適切な分析および解釈をすること。
4．発表の場で，的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について，基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意，技術的な側面から始め，質問紙を配付し，データを回収する上での留意点を学びます。そして，既存の質問紙を利用して，実際にデータを採り，基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。
2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め，班活動が中心になりますから，必ず責任持って出席することが受講の条件となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，班構成，受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは，信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成，具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と，結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力

第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には，練習を授業外で自主的に行うことが有効です。内容は積み上げ形式ですから，毎回，以前までの授業の復習をすることも必要です。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房,1998 年)
他に，適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出すること，授業内および学習支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40 %）…実際に作成した質問紙の適切さ，発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ，質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20 %）…班ごとの研究に対する評価と，授業への参加回数を考慮して，班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業を履修してよかったか」の評価は W=4.31，X=4.43 と，例年に比べて 0.4 点ほど上がりました。おそらく昨年より班活動がうまく進んだ結果だろうと思います。予習課題を未提出だと平常点が 0 点になるシステムだと，提出忘れの人が欠席しやすくなるので一部減点にしてはという意見もありましたが，これは昨年度までに検証しており，予習をせずに授業に来る人が増えてしまう危険性があります。予習をせずに授業に来ても班活動にほぼ貢献できませんので，むしろ予習課題の未提出を防ぐような工夫をしていきたいと思います（僕も別に減点したいわけではないのです）。

【その他の重要事項】

詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

PSY200BG

心理学測定法 I

藤田　哲也

授業コード：A3612　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＊この授業は当面，オンデマンド方式（必ずしも授業開始時刻に学習支援システムに接続しなくても大丈夫です）で行います。ただし，毎週の課題提出が必須になります。

授業開始は 4 月 27 日です。当日の朝には第一回の教材を学習支援システムにアップしますので，それを確認の上，課題に取り組んでください。なお，この授業は学習支援システム上は月 5（W クラス）に集約された形で運用します。仮登録すると W クラスに登録されたように見えると思いますがエラーではないので安心してください。

心理学の測定法の中でも一般的な，質問紙（アンケート）法を用いて，自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で，以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1．質問紙作成のための基礎的な知識を理解し，説明すること。
2．既存の質問紙（心理尺度）を利用して，質問紙研究を計画・実施すること。
3．得られたデータに対して，適切な分析および解釈をすること。
4．発表の場で，的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について，基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意，技術的な側面から始め，質問紙を配付し，データを回収する上での留意点を学びます。そして，既存の質問紙を利用して，実際にデータを採り，基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め，班活動が中心になりますから，必ず責任持って出席することが受講の条件となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，班構成，受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは，信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成，具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と，結果の入力	データのコーディングと入力方法

第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には，練習を授業外で自主的に行うことが有効です。内容は積み上げ形式ですから，毎回，以前までの授業の復習をすることも必要です。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房,1998 年)
他に，適宜プリントを配布します。

【参考書】
レジュメの作り方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）…平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出すること，授業内および学習支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。
研究（40 %）…実際に作成した質問紙の適切さ，発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ，質疑応答の適切さが評価の対象です。
班活動（20 %）…班ごとの研究に対する評価と，授業への参加回数を考慮して，班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「授業を履修してよかったか」の評価は W=4.31，X=4.43 と，例年に比べて 0.4 点ほど上がりました。おそらく昨年より班活動がうまく進んだ結果だろうと思います。予習課題を未提出だと平常点が 0 点になるシステムだと，提出忘れの人が欠席しやすくなるので一部減点にしてはという意見もありましたが，これは昨年度までに検証しており，予習をせずに授業に来る人が増えてしまう危険性があります。予習をせずに授業に来ても班活動にほぼ貢献できませんので，むしろ予習課題の未提出を防ぐような工夫をしていきたいと思います（僕も別に減点したいわけではないのです）。

【その他の重要事項】
詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

PSY200BG

心理学測定法 Ⅱ

芳賀　道匡

授業コード：A3613　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学を学ぶにあたり、必要な測定法の理論と具体的な技法を学ぶ。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得する。

【到達目標】
心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけること。
（1）心理尺度の構成ができるようになる。
（2）因子分析の基本を習得する。
（3）相関分析の基本を習得する。
（4）パス解析、共分散構造分析の基礎を習得する。
（5）研究結果について効果的にプレゼンテーションできるようにする。
（6）質問紙調査実験について、文献収集から実験実施、分析までの流れを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業である。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学ぶ。作業は、4〜5 人のグループ単位で行う。また展開によって生きた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。また展開によって生きた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認。予備調査の検討
第 2 回	研究計画 1	予備調査結果検討と研究計画の再検討
第 3 回	研究計画 2	予備調査結果検討と研究計画の再検討
第 4 回	研究計画報告 1	予備調査の結果と本調査の研究計画報告会
第 5 回	研究計画報告 2	予備調査の結果と本調査の研究計画報告会
第 6 回	質問紙作成・実施 1	本調査質問紙の作成および実施
第 7 回	質問紙作成・実施 2	本調査質問紙の作成および実施
第 8 回	質問紙作成・実施 3	本調査質問紙の作成および実施
第 9 回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、因子分析	データ分析および研究報告会の準備
第 10 回	データ分析・検討 2 相関分析、信頼性分析	データ分析および研究報告会の準備
第 11 回	データ分析・検討 3 相関分析、 t 検定、分散分析	データ分析および研究報告会の準備
第 12 回	データ分析・検討 4 クラスター分析、重回帰分析	データ分析および研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1 リハーサルとプレゼンチェック	研究報告会の準備
第 14 回	報告会 2 プレゼンテーションとその評価実習	研究報告会の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループでの話し合いや、先行研究の検索、関連する文献の講読については、授業外で積極的に行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
おもにプリントを使用

【参考書】
浦上・脇田「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」東京図書

【成績評価の方法と基準】
受講態度 20%、プレゼンテーション 50%、期末試験 30%（試験期間中に実施）

【学生の意見等からの気づき】
グループ討議を促進し、各人が等質なスキルを身につけることを心がけて授業を進める。

【その他の重要事項】
最終回の授業で実習結果のプレゼンテーションを行う。

【Outline and objectives】
Practice and learn about creating psychological tests and analysis methods.

PSY200BG

心理学測定法Ⅱ

芳賀　道匡

授業コード：A3614　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学を学ぶにあたり、必要な測定法の理論と具体的な技法を学ぶ。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得する。

【到達目標】
心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけること。
（1）心理尺度の構成ができるようになる。
（2）因子分析の基本を習得する。
（3）相関分析の基本を習得する。
（4）パス解析、共分散構造分析の基礎を習得する。
（5）研究結果について効果的にプレゼンテーションできるようにする。
（6）質問紙調査実験について、文献収集から実験実施、分析までの流れを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業である。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学ぶ。作業は、4〜5 人のグループ単位で行う。また展開によって生きた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。また展開によって生きた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認。予備調査の検討
第 2 回	研究計画１	予備調査結果検討と研究計画の再検討
第 3 回	研究計画２	予備調査結果検討と研究計画の再検討
第 4 回	研究計画報告１	予備調査の結果と本調査の研究計画報告会
第 5 回	研究計画報告２	予備調査の結果と本調査の研究計画報告会
第 6 回	質問紙作成・実施１	本調査質問紙の作成および実施
第 7 回	質問紙作成・実施２	本調査質問紙の作成および実施
第 8 回	質問紙作成・実施３	本調査質問紙の作成および実施
第 9 回	データ分析・検討１ データ分布、項目分析、因子分析	データ分析および研究報告会の準備
第 10 回	データ分析・検討２ 相関分析、信頼性分析	データ分析および研究報告会の準備
第 11 回	データ分析・検討３ 相関分析、ｔ検定、分散分析	データ分析および研究報告会の準備
第 12 回	データ分析・検討４ クラスター分析、重回帰分析	データ分析および研究報告会の準備
第 13 回	報告会１リハーサルとプレゼンチェック	研究報告会の準備
第 14 回	報告会２プレゼンテーションとその評価実習	研究報告会の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループでの話し合いや、先行研究の検索、関連する文献の講読については、授業外で積極的に行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
おもにプリントを使用

【参考書】
浦上・脇田「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」東京図書

【成績評価の方法と基準】
受講態度 20%、プレゼンテーション 50%、期末試験 30%（試験期間中に実施）

【学生の意見等からの気づき】
グループ討議を促進し、各人が等質なスキルを身につけることを心がけて授業を進める。

【その他の重要事項】
最終回の授業で実習結果のプレゼンテーションを行う。

【Outline and objectives】
Practice and learn about creating psychological tests and analysis methods.

PSY300BG

心理検査法Ⅰ

石川　菜津美

授業コード：A3615　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。心理検査を行うことで、短時間に多面的な情報を得ることができるため、支援方略を立てる際に有効です。本授業では、日本で使用されている代表的な心理検査の理論を学ぶとともに、正しい実施方法や結果の分析方法を身につけ、理解を深めることを目指します。

【到達目標】
①心理検査とはどのようなものか、その基本的な知識を身につける。
②代表的な発達検査・知能検査・神経心理学的検査の実施法と結果の解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上での正しい実施の仕方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
心理検査に携わる者は、各検査そのものについてはもちろんのこと、検査の理論的側面に関する知識や、検査に対する基本姿勢を十分に身につけておく必要があります。そのため、授業の前半は、心理検査の理論的側面を理解することと、心理検査を行う際のテスターの心構え、倫理的問題への配慮、検査が成立した歴史的背景、実施時における注意点、報告書の書き方について学びます。前半の授業は講義が中心になりますが、心理検査の効用と限界について受講者各々が能動的に考える機会をもちたいと思います。後半は、代表的な発達検査と知能検査、神経心理学検査を実施します。授業は実習形式で進め、グループ内で相互に検査者、被検査者の役割をとり、検査用具を実際に用いて検査の実施方法を体験学習します。これらの内容を通して、検査の実施法、採点法、結果の考察の仕方や、報告書の作成の仕方を学び、テスターとしての基本的な力を養います。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な自習課題やオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価基準の説明
第 2 回	心理検査とは	心理検査に共通するテスト理論と検査の種類、各検査の歴史的背景について学ぶ
第 3 回	臨床における心理検査の役割	心理検査を臨床で使用する上での倫理的配慮や、テスターとしての基本姿勢を学ぶ
第 4 回	検査実施上の留意点と報告書の作成	検査実施と採点の際の留意点、および検査報告書の書き方を学ぶ
第 5 回	知能・発達検査について	田中ビネー式検査の実習を通して、日本で使用されている代表的な知能検査・発達検査の概要を学ぶ
第 6 回	新版 K 式発達検査①	新版 K 式発達検査の解説と実習
第 7 回	新版 K 式発達検査②	新版 K 式発達検査の結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 8 回	神経心理学的検査	日本で使用されている代表的な神経心理学的検査の概要を学ぶ
第 9 回	WISC-Ⅳ①	WISC-Ⅳの解説と実習
第 10 回	WISC-Ⅳ②	WISC-Ⅳの結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 11 回	WAIS-Ⅲ①	WAIS-Ⅲの解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 12 回	WAIS －Ⅲ②	WAIS-Ⅲの解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 13 回	テストバッテリーの組み方	複数の心理検査を組み合わせて使用する臨床的意義と注意点
第 14 回	心理検査を支援に活かす	実習を踏まえた心理検査の支援への展開について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上、事前に検査内容・解釈方法を予習する必要はありませんが、オンライン授業期間中は自習課題を出します。授業後には、学習した内容を、レジュメや参考書、検査手引書を利用して復習し、知識の定着をはかってください。さらに、実習した検査結果を分析し、検査報告書（レポート）作成に取り組み、期日までに提出してください。レポートは４課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版　2011
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店　2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版　2009
その他の参考書は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①授業参加態度 (20%)、②実習への関与度 (20%)、③レポート成績 (60%) の総合点から評価します。各回の体験の積み重ねが重要となる授業のため、出席はもちろんのこと、実習に積極的に取り組む姿勢、態度などを重視します。また、実習した各検査について、その結果を整理、考察し、検査報告書としてレポートを提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を理解しているか、②その検査を適切に使用することができるか、③検査の結果を解釈し適切に伝えることができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「検査の内容・目的、結果、解釈」の形式で作成し（フォーマットは授業で指定）、提出してください。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケートより、授業資料配布のタイミング、レポート添削についてフィードバックを元に改善しました。今年度もアンケートで指摘された点を授業に反映し、よりわかりやすい授業になるよう改善します。課題（レポート）は多いですが、受講生の力が確実についていくことが実感できるので、今後も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業資料は、授業支援システムを利用し配布します。各自授業前にダウンロードして持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画・評価方法についての詳しい説明を行いますので、受講希望者は初回ガイダンスの資料及び動画を参照してください。

【Outline and objectives】
This course hopes to have students learning how to use intelligence tests and understanding the analysis of results.

PSY300BG

心理検査法Ⅰ

石川　菜津美

授業コード：A3616　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。心理検査を行うことで、短時間に多面的な情報を得ることができるため、支援方略を立てる際に有効です。本授業では、日本で使用されている代表的な心理検査の理論を学ぶとともに、正しい実施方法や結果の分析方法を身につけ、理解を深めることを目指します。

【到達目標】
①心理検査とはどのようなものか、その基本的な知識を身につける。
②代表的な発達検査・知能検査・神経心理学的検査の実施法と結果の解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上での正しい実施の仕方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
心理検査に携わる者は、各検査そのものについてはもちろんのこと、検査の理論的側面に関する知識や、検査に対する基本姿勢を十分に身につけておく必要があります。そのため、授業の前半は、心理検査の理論的側面を理解することと、心理検査を行う際のテスターの心構え、倫理的問題への配慮、検査が成立した歴史的背景、実施時における注意点、報告書の書き方について学びます。前半の授業は講義が中心になりますが、心理検査の効用と限界について受講者各々が能動的に考える機会をもちたいと思います。後半は、代表的な発達検査と知能検査、神経心理学検査を実施します。授業は実習形式で進め、グループ内で相互に検査者、被検査者の役割をとり、検査用具を実際に用いて検査の実施方法を体験学習します。これらの内容を通して、検査の実施法、採点法、結果の考察の仕方や、報告書の作成の仕方を学び、テスターとしての基本的な力を養います。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な自習課題やオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価基準の説明
第 2 回	心理検査とは	心理検査に共通するテスト理論と検査の種類、各検査の歴史的背景について学ぶ
第 3 回	臨床における心理検査の役割	心理検査を臨床で使用する上での倫理的配慮や、テスターとしての基本姿勢を学ぶ
第 4 回	検査実施上の留意点と報告書の作成	検査実施と採点の際の留意点、および検査報告書の書き方を学ぶ
第 5 回	知能・発達検査について	田中ビネー式検査の実習を通して、日本で使用されている代表的な知能検査・発達検査の概要を学ぶ
第 6 回	新版 K 式発達検査①	新版 K 式発達検査の解説と実習
第 7 回	新版 K 式発達検査②	新版 K 式発達検査の結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 8 回	神経心理学的検査	日本で使用されている代表的な神経心理学的検査の概要を学ぶ
第 9 回	WISC-Ⅳ①	WISC-Ⅳの解説と実習
第 10 回	WISC-Ⅳ②	WISC-Ⅳの結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 11 回	WAIS-Ⅲ①	WAIS-Ⅲの解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 12 回	WAIS －Ⅲ②	WAIS-Ⅲの解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 13 回	テストバッテリーの組み方	複数の心理検査を組み合わせて使用する臨床的意義と注意点
第 14 回	心理検査を支援に活かす	実習を踏まえた心理検査の支援への展開について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上、事前に検査内容・解釈方法を予習する必要はありませんが、オンライン授業期間中は自習課題を出します。授業後には、学習した内容を、レジュメや参考書、検査手引書を利用して復習し、知識の定着をはかってください。さらに、実習した検査結果を分析し、検査報告書（レポート）作成に取り組み、期日までに提出してください。レポートは４課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版　2011
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店　2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版　2009
その他の参考書は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①授業参加態度 (20%)、②実習への関与度 (20%)、③レポート成績 (60%) の総合点から評価します。各回の体験の積み重ねが重要となる授業のため、出席はもちろんのこと、実習に積極的に取り組む姿勢、態度などを重視します。また、実習した各検査について、その結果を整理、考察し、検査報告書としてレポートを提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を理解しているか、②その検査を適切に使用することができるか、③検査の結果を解釈し適切に伝えることができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「検査の内容・目的、結果、解釈」の形式で作成し（フォーマットは授業で指定）、提出してください。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケートより、授業資料配布のタイミング、レポート添削についてフィードバックを元に改善しました。今年度もアンケートで指摘された点を授業に反映し、よりわかりやすい授業になるよう改善します。課題（レポート）は多いですが、受講生の力が確実についていくことが実感できるので、今後も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業資料は、授業支援システムを利用し配布します。各自授業前にダウンロードして持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画・評価方法についての詳しい説明を行いますので、受講希望者は初回ガイダンスの資料及び動画を参照してください。

【Outline and objectives】
This course hopes to have students learning how to use intelligence tests and understanding the analysis of results.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

石川　菜津美

授業コード：A3617　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。特に人格検査は、他者のこころの状態を多面的に理解することに役立ちます。本授業では、日本で使用されている代表的なパーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通してその概要を学びます。また、検査結果の自己分析を通して、自己理解を深め、今後の自己成長への方向性を探る機会とします。

【到達目標】
①代表的なパーソナリティ検査の特徴や実施法と解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上で、正しい利用方法を身につける。
②臨床心理アセスメントの方法論を、心理検査を用いて実践的、体験的に習得する。
③検査結果を自己理解を深める形で考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パーソナリティーを客観的に測定する方法として、パーソナリティ検査が数多く開発されています。この授業では、いくつかの代表的なパーソナリティ検査について学びます。授業は、体験的な学びの機会となるよう、講義・実習形式を適宜組み合わせて進めます。
実習では、検査の詳細を実践的に吟味するとともに、各自が実際に検査を体験し、その自己結果を分析します。さらに、授業後に検査の特徴と、自己結果の分析、解釈をまとめ、レポートとして提出してもらいます。これらの実習を通して、心理アセスメントに必要とされる実践的な力を身につけ、心理検査を適切に利用できる力を養います。また、パーソナリティの自己分析に取り組むことで、自己理解を深め、今後の自己成長に向けた方向性のヒントを得てもらえればと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要・授業計画及び発表方法の説明
第 2 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 3 回	質問紙法について	質問紙法の解説、STAI、BDI-R の実習
第 4 回	YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）	YG 性格検査の解説と実習
第 5 回	５因子モデルに基づく検査①	５因子モデルの質問紙の解説と実習①
第 6 回	５因子モデルに基づく検査②	５因子モデルの質問紙の解説と実習②
第 7 回	投映法について①	投映法の解説、TAT、風景構成法の実習
第 8 回	投映法について②	バウムテストの解説と実習
第 9 回	PF スタディ①	PF スタディの解説と実習 (1)
第 10 回	PF スタディ②	PF スタディの解説と実習 (2)
第 11 回	SCT（文章完成法テスト）	SCT の解説と実習
第 12 回	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストの解説と実習
第 13 回	臨床現場におけるパーソナリティ検査	臨床現場でパーソナリティ検査がどのように実施されているのか、事例を通して学びます。
第 14 回	パーソナリティ検査の支援への展開	心理検査で得られた知見を支援にどう活かすのかを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上、事前に検査内容・解釈方法を予習する必要はありません。授業後には、学習した内容を、レジュメや参考書、検査手引書を利用して復習し、知識の定着をはかってください。さらに、実習した検査結果を分析し、検査報告書（レポート）作成に取り組み、期日までに提出してください。レポートは４課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版　2011
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店　2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版　2009
その他は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①授業参加態度 (20%)、②実習への関与度 (20%)、③レポート成績 (60%) の総合点から評価します。各回の体験の積み重ねが重要となる授業のため、出席はもちろんのこと、実習に積極的に取り組む姿勢、態度などを重視します。また、実習した各検査について、その結果を整理、考察し、検査報告書としてレポートを提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を理解しているか、②その検査を適切に使用することができるか、③検査の結果を解釈し適切に伝えることができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「検査の内容・目的、結果、解釈」の形式で作成し（フォーマットは授業で指定）、提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケートより、授業資料配布のタイミング、レポート添削についてフィードバックを元に改善しました。今年度もアンケートで指摘された点を授業に反映し、よりわかりやすい授業になるよう改善します。課題（レポート）は多いですが、受講生の力が確実についていくことが実感できるので、今後も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業資料は、授業支援システムを利用し配布します。各自授業前にダウンロードして持参してください。

【その他の重要事項】
心理検査の体系的な理解のために、受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。また、授業計画・評価方法についての詳しい説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。自己の内省や深い洞察が求められる授業ですので、心の状態によっては心理的負担を感じる場合もあります。この点を考慮して授業に臨んでください。

【Outline and objectives】
This course hopes to have students learning how to use personality tests and understanding the analysis of results.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

石川　菜津美

授業コード：A3618　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。特に人格検査は、他者のこころの状態を多面的に理解することに役立ちます。本授業では、日本で使用されている代表的なパーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通してその概要を学びます。また、検査結果の自己分析を通して、自己理解を深め、今後の自己成長への方向性を探る機会とします。

【到達目標】
①代表的なパーソナリティ検査の特徴や実施法と解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上で、正しい利用方法を身につける。
②臨床心理アセスメントの方法論を、心理検査を用いて実践的、体験的に習得する。
③検査結果を自己理解を深める形で考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パーソナリティーを客観的に測定する方法として、パーソナリティ検査が数多く開発されています。この授業では、いくつかの代表的なパーソナリティ検査について学びます。授業は、体験的な学びの機会となるよう、講義・実習形式を適宜組み合わせて進めます。
実習では、検査の詳細を実践的に吟味するとともに、各自が実際に検査を体験し、その自己結果を分析します。さらに、授業後に検査の特徴と、自己結果の分析、解釈をまとめ、レポートとして提出してもらいます。これらの実習を通して、心理アセスメントに必要とされる実践的な力を身につけ、心理検査を適切に利用できる力を養います。また、パーソナリティの自己分析に取り組むことで、自己理解を深め、今後の自己成長に向けた方向性のヒントを得てもらえればと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要・授業計画及び発表方法の説明
第 2 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 3 回	質問紙法について	質問紙法の解説、STAI、BDI-R の実習
第 4 回	YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）	YG 性格検査の解説と実習
第 5 回	５因子モデルに基づく検査①	５因子モデルの質問紙の解説と実習①
第 6 回	５因子モデルに基づく検査②	５因子モデルの質問紙の解説と実習②
第 7 回	投映法について①	投映法の解説、TAT、風景構成法の実習
第 8 回	投映法について②	バウムテストの解説と実習
第 9 回	PF スタディ①	PF スタディの解説と実習 (1)
第 10 回	PF スタディ②	PF スタディの解説と実習 (2)
第 11 回	SCT（文章完成法テスト）	SCT の解説と実習
第 12 回	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストの解説と実習
第 13 回	臨床現場におけるパーソナリティ検査	臨床現場でパーソナリティ検査がどのように実施されているのか、事例を通して学びます。
第 14 回	パーソナリティ検査の支援への展開	心理検査で得られた知見を支援にどう活かすのかを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上、事前に検査内容・解釈方法を予習する必要はありません。授業後には、学習した内容を、レジュメや参考書、検査手引書を利用して復習し、知識の定着をはかってください。さらに、実習した検査結果を分析し、検査報告書（レポート）作成に取り組み、期日までに提出してください。レポートは４課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版　2011
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店　2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版　2009
その他は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①授業参加態度 (20%)、②実習への関与度 (20%)、③レポート成績 (60%) の総合点から評価します。各回の体験の積み重ねが重要となる授業のため、出席はもちろんのこと、実習に積極的に取り組む姿勢、態度などを重視します。また、実習した各検査について、その結果を整理、考察し、検査報告書としてレポートを提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を理解しているか、②その検査を適切に使用することができるか、③検査の結果を解釈し適切に伝えることができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「検査の内容・目的、結果、解釈」の形式で作成し（フォーマットは授業で指定）、提出してください。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4/22 とし、この日までに具体的な自習課題やオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケートより、授業資料配布のタイミング、レポート添削についてフィードバックを元に改善しました。今年度もアンケートで指摘された点を授業に反映し、よりわかりやすい授業になるよう改善します。課題（レポート）は多いですが、受講生の力が確実についていくことが実感できるので、今後も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業資料は、授業支援システムを利用し配布します。各自授業前にダウンロードして持参してください。

【その他の重要事項】
心理検査の体系的な理解のために、受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。また、授業計画・評価方法についての詳しい説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。自己の内省や深い洞察が求められる授業ですので、心の状態によっては心理的負担を感じる場合もあります。この点を考慮して授業に臨んでください。

【Outline and objectives】
This course hopes to have students learning how to use personality tests and understanding the analysis of results.

PSY200BG

演習Ⅰ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3627　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に, 文献検索のしかた, 論文の構成, 専門用語の用い方, 文献の書き方など基本的ルールを学びます. また, データに基づき論証するテクニックまで, 優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます. さらに, 理解した内容をレジュメにして, プレゼンテーションし討論する力も養います.

【到達目標】
具体的な目標として,
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する. キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（3）論文の内容を理解し, 論理的また批判的に読む態度を身につける.
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や, 書く上でのルールを理解する.
（5）レジュメをもとに, 発表し討論するスキルを獲得する.
以上, 一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら, 研究に必要なこれらの技能の習得を目指します.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み, 論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます. 図書館で検索のスキルを学び, 自分の関心のある領域の論文を探したり, 情報を得るスキルを獲得します. 研究論文を書く上での倫理的な規定や, 書き方のルールについて理解します. 日本語論文については, レジュメを用いて発表し, 英語論文については, レジュメを書くことで内容を把握し, クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します. 作成したレジュメは提出します. 授業内に図書館利用ガイダンスを利用します. アクティブラーニングをできるだけ取入れます.
正式な開始日は 5 月第 1 週 (5 月 7 日）に予定しますが、オンラインの授業環境の設定のため、
4 月 23 日木曜日の第 4 限目（時間割の演習Ⅰ（1）の時間帯）は Zoom によるトライアルを行います
ので必ず参加して下さい。この 5 月 7 日は変更される可能性もありますので、その場合は学習
支援のお知らせを使用して皆さんに正確な情報を届けます。
試行錯誤（うまく行かなくても大丈夫ですから）でトライして下さい。
Zoom を音声しか使用できない場合は、資料を授業支援にアップします。
Zoom の操作資料は、Hoppii の教材に上げてありますので、それを参考にして下さい。対面授業が可能になるまで皆さんの可能な方法でオンライン授業を継続します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく. この回で, 日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく.
第 2 回	論文の種類の説明, 論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録, 問題提起, 方法, 結果, 考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）.
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明. 教員側から, さらに, 検索に関するスキルを説明する.
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの, レジュメの作成のしかたとポイントを解説する.
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ. 質問が活発になるよう, コメントシート, リアクションペーパー, パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）.
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）.
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）.

第 9 回	日本語論文の個人発表４	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）. ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め, 適切な英語論文を選択しているかを確認する.
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた, 発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明. パワーポイントのスキルを教える.
第 11 回	英語論文１	発表（パワポによる発表）レジュメの提出.
第 12 回	英語論文２	発表（パワポによる発表）レジュメの提出.
第 13 回	英語論文３	発表（パワポによる発表）レジュメの提出.
第 14 回	全体統括	文献検索, 日本語論文・英語論文の発表を通し, 全体の振り返り, 反省を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく, 他の人が発表する論文も読み, 授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）. 本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています.
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし, 専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし, 発表に備える.
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく.
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成, レジュメ提出.
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施.

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが, 資料を準備しています. 授業支援システムでダウンロード, あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます.

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します.

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが, 毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します. 授業の評価は, 単位認定は授業回数の３分の２以上（１０回以上）の出席を前提とし, 参加態度（意見や質問など）による平常点を４０%, 日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０%, 英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０%, の配分で総合評価します.
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない, 成績評価の方法と基準も変更します. 具体的な方法と基準は, 上記を参考に授業開始後に学習支援システムで提示します.

【学生の意見等からの気づき】
13 人の受講者のうち 12 名から回答者を頂きました. 4 － 5 の段階が, 授業の工夫では 100 %, 理解できたかで 100 %, 履修してよかったかは 86 %と高い評価をしてくれていました. 週 2 時間以上の授業外学習が 57 %と課題に取り組んでくれたようです. 自由記述では, 授業の雰囲気がよくストレスなく受講出来たようです.

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC, パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）.

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります. 授業の運営方針や授業計画の説明, 発表順の決定などをしますので, 受講者は初回の授業に必ず出席してください. 文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは, 図書館の日程調整が必要です. 実施の順序については変更することがあるため, 授業の中で案内しますので, 注意してください.

【Outline and objectives】
We will learn basic rules in the field of psychology such as how to search literature, composition of articles, how to use technical terms with the aim of being able to write research papers.

PSY200BG

演習Ⅰ（2）

渡辺　弥生

授業コード：A3628　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます. また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます. さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います.

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける.
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する.
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する.
　以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます. 図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します. 研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します. 日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します. 作成したレジュメは提出します. 授業内に図書館利用ガイダンスを利用します. アクティヴラーニングをできるだけ取入れます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく. この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく.
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索１	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない.）
第 4 回	文献検索２	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する.
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する.
第 6 回	日本語論文の個人発表１	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい.（日本語論文においてはレジュメのみとする.）
第 7 回	日本語論文の個人発表２	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表３	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表４	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する.
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える.
第 11 回	英語論文１	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.

第 12 回	英語論文２	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 13 回	英語論文３	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）.
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
予習復習には各２時間をかけることとする。
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく.
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出.
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます.

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します.

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します．授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０%、の配分で総合評価します.

【学生の意見等からの気づき】
13 人の受講者のうち 12 名から回答者を頂きました．4 － 5 の段階が, 授業の工夫では 100 %, 理解できたかで 100 %, 履修してよかったかは 86 %と高い評価をしてくれていました．週 2 時間以上の授業外学習が 57 %と課題に取り組んでくれたようです．自由記述では, 授業の雰囲気がよくストレスなく受講出来たようです.

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）.

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください．文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください.

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ｉ（３）

三浦　大志

授業コード：A3629　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得。
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
　以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取り入れます。
【4/21 追記】
正式な開始日は 5 月第 1 週 (5 月 7 日) を予定しておりますが、演習 I の教員間の話し合いで変更される可能性もありますので、その場合は学習支援 (授業支援) システムの「お知らせ」を使用して皆さんに正確な情報を届けます。その他の情報も「お知らせ」を通じて連絡しますので、そちらを見るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第 2 回	論文の種類の説明、 論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索１	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）
第 4 回	文献検索２	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	和文論文の個人発表１	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 7 回	和文論文の個人発表２	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	和文論文の個人発表３	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	和文論文の個人発表４	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	欧英文論文１	発表（パワポによる発表）
第 12 回	欧英文論文２	発表（パワポによる発表）
第 13 回	欧英文論文３	発表（パワポによる発表）
第 14 回	欧英文論文４	発表（パワポによる発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　レジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英文選択を同時並行して行っておく。
第 10-14 回　欧英文論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
(講義を通してのまとめや改善点のアンケート)
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０%、和文論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０%、欧英文論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０%、の配分で総合評価します。
【4/23 追記】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に授業内で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
「論文は、ちゃんと読んでみると面白い」というコメントをいただきました。論文はとっつきにくい印象があるかもしれませんが、コメントの通りしっかり読むと発見があるかと思います。是非しっかり論文を読んでみて下さい。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ⅰ（4）

下山　晃司

授業コード：A3630　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に, 文献検索のしかた, 論文の構成, 専門用語の用い方, 文献の書き方など基本的ルールを学びます. また, データに基づき論証するテクニックまで, 優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます. さらに, 理解した内容をレジュメにして, プレゼンテーションし討論する力も養います.

【到達目標】
具体的な目標として,
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する. キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（3）論文の内容を理解し, 論理的また批判的に読む態度を身につける.
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や, 書く上でのルールを理解する.
（5）レジュメをもとに, 発表し討論するスキルを獲得する.
　以上, 一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら, 研究に必要なこれらの技能の習得を目指します.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【重要】正式な開始日は 5 月第 1 週 (5 月 7 日）に予定しますが, オンラインの授業環境の設定のため, 4 月 30 日木曜日の第 4 限目（時間割の演習 I の時間帯）は Zoom によるトライアルを行いますので必ず参加して下さい。この 5 月 7 日は変更される可能性もありますので、その場合は学習支援のお知らせを使用して皆さんに正確な情報を届けます。試行錯誤（うまく行かなくても大丈夫ですから）でトライして下さい。Zoom を音声しか使用できない場合は、資料を授業支援にアップします。Zoom の操作資料は、Hoppii の教材に上げてありますので、それを参考にして下さい。対面授業が可能になるまで皆さんの可能な方法でオンライン授業を継続します。
査読論文を全員が読み, 論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます. 図書館で検索のスキルを学び, 自分の関心のある領域の論文を探したり, 情報を得るスキルを獲得します. 研究論文を書く上での倫理的な規定や, 書き方のルールについて理解します. 日本語論文については, レジュメを用いて発表し, 英語論文については, レジュメを書くことで内容を把握し, クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します. 作成したレジュメは提出します. 授業内に図書館利用ガイダンスを利用します. アクティブラーニングをできるだけ取入れます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく. この回で, 日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく.
第 2 回	論文の種類の説明, 論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録, 問題提起, 方法, 結果, 考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）.
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明. 教員側から, さらに, 検索に関するスキルを説明する.
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの, レジュメの作成のしかたとポイントを解説する.
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ. 質問が活発になるよう, コメントシート, リアクションペーパー, パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）.
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）.
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）.

第 9 回	日本語論文の個人発表４	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）. ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め, 適切な英語論文を選択しているかを確認する.
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた, 発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明. パワーポイントのスキルを教える.
第 11 回	英語論文１	発表（パワポによる発表）レジュメの提出.
第 12 回	英語論文２	発表（パワポによる発表）レジュメの提出.
第 13 回	英語論文３	発表（パワポによる発表）レジュメの提出.
第 14 回	全体統括	文献検索, 日本語論文・英語論文の発表を通し, 全体の振り返り, 反省を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく, 他の人が発表する論文も読み, 授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）. 本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています.
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし, 専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし, 発表に備える.
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく.
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成, レジュメ提出.
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施.

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが, 資料を準備しています. 授業支援システムでダウンロード, あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます.

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します.

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが, 毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します. 授業の評価は, 単位認定は授業回数の３分の２以上（１０回以上）の出席を前提とし, 参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％, 日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％, 英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％, の配分で総合評価します.

【学生の意見等からの気づき】
14 人の受講者のうち 6 名から回答を得ました。授業を理解できたか、授業を履修してよかったかについては、全て 4 以上の回答でした。授業の工夫や授業外学習時間については、やや低い回答も一部見られましたので、今年度の課題とします。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC, パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）. 授業支援システム.

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明, 発表順の決定などをしますので, 受講者は初回の授業に必ず出席してください. 文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは, 図書館の日程調整が必要です. 実施の順序については変更することがあるため, 授業の中で案内しますので, 注意してください.

【Outline and objectives】
We will learn basic rules in the field of psychology such as how to search literature, composition of articles, how to use technical terms with the aim of being able to write research papers.

PSY200BG

演習Ⅰ（５）

矢口　幸康

授業コード：A3631　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
　以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。
授業開始は 5 月 7 日の予定です (変更の場合は hoppii 経由で連絡します)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 全体計画と進行の紹介	＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索１	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索２	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表１	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表２	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表３	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表４	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	英語論文１	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。

第 12 回	英語論文２	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 13 回	英語論文３	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく。
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の多くから高評価をいただきました。積極的に課題に取り組んでくれたことも伺える評価でした。講義の特性上、自発的な取り組みが必須となりますので今年度の受講生にもそれを求めます。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ⅱ（１）

福田　由紀

授業コード：A3711　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎１	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎２	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎３	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備１	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備２	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備１	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備２	実験の実施
第 10 回	本発表準備３	データ分析
第 11 回	本発表準備４	考察
第 12 回	本発表準備５	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
2017 年度の気づきです。回答率 75%，満足度 77%でした。皆さん，授業外学習にきちんと取り組んでいたようですね！ 週 3 時間以上 1 名，週 2 時間以上から 3 時間未満 4 名，週 1 時間以上から 2 時間未満 4 名。えらい！ 自力で卒論作成できるように今後もがんばって下さい。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（2）

藤巻　峻

授業コード：A3712　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（3）

吉村　浩一

授業コード：A3713　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
14 名中 3 名が回答してくれました。この授業は「反転授業」という形で行っているため、私のほかの講義授業と違い、授業外学習時間が全員、週 1 時間以上と長い回答であったのが特長でした。私の立場から残念だったのは、昨年まではグループ発表や実験実施の回に欠席する人がほとんどいなかったのに 2019 年度は誰かが欠席していました。2020 年度には、このようなことにならないよう、事前に強くアナウンスしたいと思います。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（4）

藤田　哲也

授業コード：A3714　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定

第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
回答してくれた 11 名のうち，「この授業を履修してよかった」で 5 が 7 名，4 が 4 名となりました。ただ，理解度の最頻値は 4 で，3 も 2 名いたので，もう少し定着を図るために反活動の仕方に工夫が必要だと感じました。授業の進め方についての改善要求は特になかったのですが，「後半の予習課題に意味がないと感じた」という意見もありました。予習課題には，知識定着の役割だけでなく，授業内での班活動の事前準備という役割もあり，授業後半では後者が中心となります。主体的に班活動に参画するためにも，全回を通じて予習課題に取り組んでもらいたいと思っています。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（5）

田嶋　圭一

授業コード：A3715　｜　曜日・時限：**火曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を最後に担当した 2018 年秋学期のアンケートによると，回答者 11 名のうち，82%が「積極的な工夫がされていた」，73%が「理解できた」，64%が「受講してよかった」に対して「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習の時間については，「週 1-2 時間」が約 1/3 で最も多かったですが，「ほとんど行っていない」から「週 3 時間以上」まですべての選択肢に回答が分散しました。例年に比べて今年は満足度が低かった（「履修してよかった」が去年は 100%でしたが今年は 64%）のが気になったので，「履修してよかった」の得点と授業外学習時間の得点との相関を調べてみたところ，r=.541 という中程度の正の相関がありました。つまり，今年は授業への取り組みについてかなりの個人差があり，それが満足度の低下につながったようです。この授業を履修する意義や授業の位置づけについて，説明しているつもりではありますが，十分に伝わっていないのかも知れません。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY300BG

研究法Ｉ（１）

高橋　敏治

授業コード：A3643　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒論を含めた心理学研究の方法（問題提起，目的・仮説設定，方法，統計分析，結果の表示，考察の仕方など）について学びます．心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します．

【到達目標】
教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し，できるだけ早い時期に研究テーマを設定し，実際の調査や実験を行い，論文の執筆に結び付けられるようにします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい，それを討論するということを繰り返します．各自の発表の準備および実際の発表を通じて，自分の考えを整理して，そこで提出されたコメントを参考にしながら，客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます．また，研究質問紙や実験方法の完成版の作成，実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます．
ゼミ（研究法 I) の開始日は 4 月 22 日とします。
ただし 1 回目は Zoom によるオンラインですので、その環境になれることを中心に、自己紹介を中心に実施します。
1 回目は、Zoom の操作や画像の有無などのオンライン授業の環境を確認しますので必ず参加して下さい。対面授業が可能になるまでオンライン授業を継続します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究計画発表【1-1】	順番を決めた上で各自の計画の検討 1
第 3 回	研究計画発表【1-2】	順番を決めた上で各自の計画の検討 2
第 4 回	研究計画発表【1-3】	順番を決めた上で各自の計画の検討 3
第 5 回	研究計画発表【1-4】	順番を決めた上で各自の計画の検討 4
第 6 回	研究計画吟味 1	予備研究の実施 1
第 7 回	研究計画吟味 2	予備研究の実施 2
第 8 回	研究計画吟味 3	予備研究の実施 3
第 9 回	研究計画発表【2-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 10 回	研究計画発表【2-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 11 回	研究計画発表【2-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 12 回	研究計画発表【2-4】	順番を決めた上で計画の吟味検討 4
第 13 回	研究計画実施 1	手順や方法の確立
第 14 回	研究計画実施 2 総括・まとめ	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています．
第 1 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 1
第 2 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回　予備研究の実施要領作成
第 6 回　予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
第 7 回　予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
第 8 回　予備研究実施による問題点のレポート作成
第 9 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成
第 10 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 11 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 12 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 13 回　研究計画の手順や方法のレポート作成
第 14 回　研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成
卒論問題提起を夏休み前に完成し提出

【テキスト（教科書）】
特に，テキストは用いません．各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %），発表（30 %），レポート課題（30%）によって総合的に評価します．発表については，発表原稿だけでなく，発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ，発表後にレポートとして提出して下さい．春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します．具体的な方法と基準は，上記を参考に授業開始後に学習支援システムで提示します．

【学生の意見等からの気づき】
16 名の受講者中 10 名から回答を頂きました．4 − 5 の段階が、授業の工夫では 60 %，理解できたかで 70 %，履修してよかったかは 70 %と評価をしてくれていました．週 1 時間以上の授業学習が 80 %とやはり課題が多くて大変だったようです．ゼミの議論は、3 年生と 4 年生の参加を考えながら，自主的な学習態度を高めて，秋学期の卒論作成にプラスに役だててもらうように工夫します．

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC，パワーポイントを使用しますので，ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます．授業支援システムを利用して，資料配布やお知らせをします．必ずファイルが添付できるメイルを授業支援システムに登録して下さい．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は，必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします．また，卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は，必ず精神生理学特講の履修をお勧めします．

【Outline and objectives】
We will study about psychology research methods (raising questions, setting purpose / hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

PSY300BG

研究法Ⅰ（2）

吉村　浩一

授業コード：A3644　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の興味関心に基づいて研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】
3 年次生は，関心ある研究テーマに対し文献的知識の蓄積を中心に学び、実践的研究の計画を作り上げる準備をします。4 年次生は、自分自身で研究を実践・考察する能力を身につけることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインによる授業開始日は 4 月 21 日です。その日までに第 1 回の課題を提出しますので、学習支援システムの当該科目に仮登録し、お知らせ・掲示板・教材・課題を確認してください。
3 年次と 4 年次の合同授業ですが，単なる合同ではなく、協同となる授業を目指します。そのために、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢が重要です。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかと探る態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特、，研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する作業なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。それらに加え、必要に応じて SuperLab を使った実験法、SPSS を使ったデータ処理法などのスキルも協力し合って身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方の説明と質疑応答
第 2 回	研究テーマについて	3 年次生は関心のあるテーマの提示，4 年次生はテーマ確定。
第 3 回	文献の検索	データベースを利用して関連論文を検索する。
第 4 回	文献の講読・発表（1）	4 年次生の文献発表と 3 年次生を中心とする質疑応答
第 5 回	文献の講読・発表（2）	4 年次生の文献発表と 3 年次生を中心とする質疑応答
第 6 回	テーマ構築（1）	3 年次生のテーマ構築のための文献講読と全員でのアドバイス
第 7 回	テーマ構築（2）	3 年次生のテーマ構築のための文献講読と全員でのアドバイス
第 8 回	実験・調査の立案（1）	4 年次生の実験・調査の研究立案を全員で検討
第 9 回	実験・調査の立案（2）	4 年次生の実験・調査の研究立案を全員で検討
第 10 回	調査研究の分析法	分析法まで見通した調査研究立案の解説
第 11 回	実験研究の分析法	分析法まで見通した実験研究立案の解説
第 12 回	発表の仕方	口頭発表の仕方と心得，プレゼン／配布用資料の作り方
第 13 回	成果発表（1）	成果発表，質疑応答
第 14 回	成果発表（2）	成果発表，質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各人の研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画）に沿って，ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し，次の回までに研究を進展させます。具体的には、授業の進捗に合わせ、自分が関心を持つテーマに関する文献をはじめさまざまな情報収集，手に入れた文献の読み込みと質問事項の整理，研究法の立案などの下準備を，授業外に行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いません。

【参考書】
研究テーマや課題に応じて適宜，各人に対して参考文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %，他者の発表へのコミットメント 10 %，成果発表 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
全員に関わる問題は、全員に問いを投げかけ，全員で検討していくスタイルの構築に努めます。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

PSY300BG

研究法Ⅰ（3）

渡辺　弥生

授業コード：A3645　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業研究を対象とした専門演習です。2 年次、3 年次の演習の成果をふまえて、各自研究の計画を立案します。最新の論文を収集し、興味をもった研究の動向を明らかにします。先行研究の理解をもとに、問題点を明確にし、改善するオリジナリテイのある理論的展開や方法について検討します。また、研究にとどまらず、社会人として与えられた課題をこなし、成果を広く発表し、伝えていくためのソーシャルスキルも学びます。

【到達目標】
論文を書くことだけではなく、各自が社会にでて活かせるような力として、論理的思考、創造力、情報収集能力、計画遂行力をふくむソーシャルスキルを育むことを目標とします。
（1）専門の論文を検索できる。
（2）論文から研究の流れを理解する。
（3）先行研究の目的から考察迄の内容を理解できる。
（4）先行研究を批判し、オリジナリティを加えられる。
（5）具体的に自分の研究計画を立案する。
こうした、研究のスキルだけでなく、ゼミのネットワークを強める貢献をし、互いにペアやグループワークを活用し、相互に研究力だけでなく人間力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学習内容：自分の決めたテーマにかかわる文献を集め整理し、問題意識を明らかにします。そこから、仮説を立て研究計画を完成させます。その際、発達や臨床にかかわる研究の難しさや倫理的な配慮、モラルについても学びます。毎回、全員が何かしら発言し、互いの考えを共有できるようアットホームな形でのぞんでいきます。
授業方法：演習・実習方式
2020 年度は, 学習支援システムを活用してオンライン授業を基本に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の枠組みについて確認	スキーマの獲得:研究のイメージをつかむことができる ようになることを目標とする。
第 2 回	研究計画 1	テーマ決定：一口に心理学と言っても、かなりバリエーションがある。どのようなテーマがあるかを概観したうえで、興味あるテーマを決定する。
第 3 回	研究計画 2	先行研究のリスト：興味あるテーマを絞ったとしても、その歴史は長く、研究の経緯がある。まずは、s のリストをつくる。
第 4 回	研究計画 3	先行研究の理解：これまでの研究の流れを、理解 → 批判 → 問題提起という作業の枠組みを通して考える。
第 5 回	研究計画 4	先行研究の理解：前の時間をさらに継続する。
第 6 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り： ビジュアルに理解できるように、ノートを工夫してまとめる作業をする。
第 7 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り： 先の作業を完成させる。
第 8 回	問題提起の作成	論理的な構造作り：マッピングした流れを、文章に書いてみる。論文の書き方を体験する。
第 9 回	問題と目的を書く 1	論理的な構造で書けているかをチェックする。
第 10 回	問題と目的を書く 2	ライティングの完成
第 11 回	方法について検討	その目的を実行するためにどのような方法が必要かを考える。協力者へのお願いの手紙など、協力者を得るための手続きも確認する。
第 12 回	発表	プレゼンテーション
第 13 回	発表	プレゼンテーション
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、各授業内で消化できないことが出てくるので、授業時間外で予習復習に各２時間を補っておく。互いに、意見を交換したり、質問しあったり、活動レベルを高められるよう工夫します。研究論文を読みながら研究の流れを知ることと同時に、レヴュー本を読んで研究論文で扱われている問題が、広い領域のなかのある一部だということを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時に適宜紹介する。

【参考書】
授業開始時に適宜紹介する。論文の書き方をタイトルとした本を一冊準備する。改訂新版　心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 単行本 – 2010/7/13　松井 豊 (著)　などこの種の本を１冊読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題遂行 (70%) とプレゼンテーション (3 ０%)

【学生の意見等からの気づき】
かなり勉強したと評価している人がいるので、このペースで。「判断力」「苦手克服」という点がのびるようにしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントやＤＶＤなど。

【その他の重要事項】
上記計画は、研究の進み具合によって、多少変更します。研究法をコアにした授業外のゼミ活動（ゼミ行事、合宿）で総合力を養ってほしい。授業支援システムに登録する。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students are expected to collect the latest theses and formulate their interest in researching trends. From the knowledge obtained from the collected theses, students will have to determine currently existed issues. Furthermore, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, not stopping at researches, this training will also provide the necessary social skills for students to correctly convey the outcomes of the study which they conducted, helping students to become more confident as a member of the society.

PSY300BG

研究法Ｉ（４）

福田　由紀

授業コード：A3646　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
****
【受講希望者の皆様へ　本年度のシラバスには変更があります。すでに学習支援システムの教材に授業の進め方をアップしています。そちらを参照ください。】
****
この授業では、演習Ｉと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て，実施し，分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！ そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

【到達目標】
＊３年生:実際に実験を行い，分析し考察し，発表を行う。この一連の過程により，研究における注意事項を確認できるようになる。また，様々な装置を用いてその使い方を知る。そして，４年生の発表に対して積極的に聴くことにより，自分の研究テーマを絞り込んでいく。
＊４年生：３年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして，目的にあった研究を自分自身で計画し，実施し発表する。その結果，一人で問題を発見し，それを解決できるようになる。また，自分の研究を発表することにより，よりよいプレゼンテーションができ，わかりやすい文章を書くことができるようになる。
＊共通の目標：論文として的確な文章を書ける。また，授業中，みんなの前で発表したり，それに対してクリティカルな意見を発言したり，他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果，他者の仕事（発表・文書）に対して，建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
****
【授業は 4 月 22 日から始まります。授業の概要と目的に追加した情報を読んでください】
****
３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。両学年とも自分の研究を個別に発表したり，それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際，他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には，発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかかという態度で注意深く聞き，分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に，研究計画書の書き方，発表の仕方，論文の書き方などは全員に共通する課題なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。卒論の概要説明。
第 2 回	発表スキル 1・文章力 1 アップ	PPT を使った自己紹介，文章力アップ１のピアレビュー。
第 3 回	分析力 1・文章力アップ 2	分析や結果を表現するための表計算ソフトの習得と確認，文章力アップ２のピアレビュー。
第 4 回	分析力 2・文章力アップ 3	分析ソフトの習得と確認，文章力アップ３のピアレビュー。
第 5 回	研究力 1・発表スキル 2 アップ	３年生：眼球運動測定装置の講習。 ４年生：研究の進捗状況の発表。
第 6 回	研究力 2・文章力 3 アップ	３年生：種論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第 7 回	研究力 3・発表スキル 4 アップ	３年生：種論文の発表２。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：コメントシートの修正のピアレビュー。
第 8 回	研究力 4・文章力 4 アップ	実験・調査前後に作成する書類の書き方のコツの講習。 文章力アップ４のピアレビュー。
第 9 回	研究力 5・発表スキル 5 アップ	３年生：研究の構想発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス

第 10 回	研究力 6・文章力 5 アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー１：研究計画申請書，同意書。
第 11 回	研究力 7・文章力 6 アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー２：デブリーフィング用紙，参加者募集のちらし。 文章力アップ５のピアレビュー。
第 12 回	文章力 7 アップ	やり取りのある文章の書き方講習会
第 13 回	文章力 8 アップ	段落とは何か？ の講習会。 文章力アップ６のピアレビュー。
第 14 回	研究力 8・文章力 9 アップ	序論のピアレビュー。 Touch & Go!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，発表や作業があります。授業計画に沿って，事前の課題を行い，自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し，コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜，授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 60 %とコメント 20 %，事前の課題提出 20%によって決められます。発表は，わかりやすく的確に説明することが求められます。また，コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度の気づきです。アンケートでは，すべてに高評価で，ありがとうございました。授業外の学習も多く，充実したゼミ活動ができたようでうれしいです。自由記述欄に「４年生の姿が来年の自分を見ているようで，ためになりました」というコメントがありました。そうなのです。複数学年いっしょのゼミ運営の目的の一つは，モデルを見てそれを活用することです。来年度，素敵な姿を新３年生に見せられるように，今から準備しましょう。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また，この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn how to psychological research. Students will be expected to make a plan of one's research, and carry it out, and analyze it appropriately.

PSY300BG

研究法Ⅰ（5）

田嶋　圭一

授業コード：A3647　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで学んできた心理学の知識を活かし，高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し，みずから設定したテーマに沿って研究を行い，成果としてまとめ発信していくことを目指します。

【到達目標】
1. 論文検索を適切に行うことができ，論文の内容を正確に読解し，批判的に読めるようになること。
2. 1 の活動を踏まえて先行研究のレビューができ，心理学的研究に値する独自の問題点が提示できること。
3. （3 年生）種論を基本とした「追試＋ α 」の研究計画を立案できるようになること。（4 年生）複数の先行研究を基に独自の問題意識に基づく研究計画を立案できるようになること。
4. 研究計画を基に研究の実施に向けて素材・装置・倫理審査書類等が適切に準備できること。
5. 自分の研究成果を効果的に発表できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み，授業にて発表・ディスカッションを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく，他者の取り組みにも関心を寄せ，建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって，個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用したピアレビュー活動など取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，達成目標の設定
第 2 回	文献レビュー（1）	【4 年生】卒論を見据えたテーマ設定と文献講読 1・発表。【3 年生】関心のあるテーマの選定と文献講読 1，4 年生へのコメント。
第 3 回	文献レビュー（2）	【4 年生】文献講読 2，3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 2・発表。
第 4 回	文献レビューと研究計画の立案（1）	【4 年生】文献講読 3，問題点の精査，発表。【3 年生】文献講読 3，問題点の精査，4 年生へのコメント。
第 5 回	文献レビューと研究計画の立案（2）	【4 年生】文献講読 4，問題点の精査，3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 4，問題点の精査，発表。
第 6 回	研究計画発表（1）	【全員】研究計画書の作成。【4 年生】発表。
第 7 回	研究計画発表（2）	【全員】研究計画書の作成。【3 年生】発表。
第 8 回	研究計画の具体化	変数の整理，刺激・材料等の準備
第 9 回	問題の設定，研究倫理	問題意識と研究目的の設定，研究倫理について
第 10 回	4 年次春成果発表（1）	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備，4 年生へのコメント。
第 11 回	4 年次春成果発表（2）	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備，4 年生へのコメント。
第 12 回	3 年次春成果発表（1）	【4 年生】倫理審査書類提出，3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 13 回	3 年次春成果発表（2）	【4 年生】倫理審査書類提出，3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 14 回	まとめと展望	春学期の総括，秋学期に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画など）に沿って，ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し，次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し，授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワー（火曜 4 限）を活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため，ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。また，研究の「お作法」を解説した文献を必要に応じて読んでもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）(2001)．心理学研究法入門　―調査・実験から実践まで―　東京大学出版会.
高野陽太郎・岡　隆（編）(2004)．心理学研究法　―心を見つめる科学のまなざし―　有斐閣アルマ.
松井豊（2006）．心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社.

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%，発表 60%，コメント 20%の割合で評価する予定。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合や発表を怠った場合は単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度春学期は，回答者 11 名全員が「履修してよかった」「理解できた」「工夫されていた」という問に「4」または「5」と回答してくれました。また，授業外学習時間は 8 割以上の人が「週 3 時間以上」と回答しており，皆さんがとても熱心に授業に取り組んでいることがうかがえます。「課題の指示が的確で分かりやすいと思った」と評価していただきました。グループディスカッションがあること，また発表者がローテーションで複数のグループを回れることが好評でした。自分の研究について色々な意見がもらえるだけでなく，自分にとってなじみのない研究テーマについて興味を持つことができた，というコメントをいただきました。素晴らしいです。自分のことだけでなく周囲の人にも関心を寄せることは，結果的に自分自身をさらに伸ばすことにつながりますね。一方，「ディスカッションは上の学年しか基本的に話していない（話せない）ので三年生も話すような動機づけが必要かなと思いました」という意見がありました。学年や経験値にとらわれずに自由に発言できるような場になるように私も努めますので，皆さんも協力してもらえたらと思います。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
　なお，授業計画や運営方針の説明などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the skills necessary to conduct their own research project in psychology. Based on the knowledge that they have acquired so far, they will formulate their own research questions, conduct the research using appropriate methods, analyze the results, and present their achievements.

PSY300BG

研究法Ⅰ（6）

藤田　哲也

授業コード：A3648　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　卒業論文に向けて，心理学の研究計画の立て方から論文の書き方まで，実践的・体系的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】
　半期の授業が終了した時点で，以下のことができるようになっていることが到達目標です。
＜４年生＞
１．自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている，具体的な実験・調査の方法や，論文の構成，データ分析法について正確に読解すること。
２．複数の先行研究をレビュー（概観）し，批判的な読み方をすること。
３．１，２をふまえて，独自性のある研究計画を立てること。
４．発表の場で，効果的なプレゼンテーションを行うこと。
＜３年生＞
１．自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている，具体的な実験・調査の方法や，論文の構成，データ分析法について正確に読解すること。
２．１をふまえて，先行研究の追試を基本とした研究計画を立て，実施し，適切な方法で分析できること。
３．発表の場で，効果的なプレゼンテーションを行うこと。
４．研究成果を論文形式でまとめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　３年生と４年生が合同で授業をします。研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが，この授業の具体的な作業目標となります。まず，自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を，心理学の研究分野（記憶，認知，動機づけ，自己など）に関連づけて整理しましょう。その上で，自分の興味に近い先行研究がないか，探してみましょう（必ず見つかるはずです）。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め，実験・調査の実際の方法，得られたデータを適切に分析する方法まで，一通りの過程を，先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。４年生は複数の先行研究を概観するレビュー発表と，そのレビューによって明確になった問題意識を発展させた卒論中間発表の 2 回の発表機会があります。３年生は一つの先行研究を熟読し，改善点などの自分なりのオリジナルな視点を加え，実際に研究を行った成果発表を行った上で，発表によって明らかになった改善点を踏まえ，ミニ論文として論文形式で研究成果をまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，卒論とは何かについての概説，受講上の注意，発表順の決定
第 2 回	それぞれの研究課題	４年：レビューの仕方，３年：研究テーマの決定と先行研究の選定
第 3 回	レビュー発表１	４年：発表，３年：発表へのコメント，実験材料・調査用紙の作成
第 4 回	レビュー発表２	４年：発表，３年：発表へのコメント，実験・調査の準備および実施開始
第 5 回	レビュー発表３	４年：発表，３年：発表へのコメント，自分の研究の実施と平行して分析法の確認，結果の分析

第 6 回	研究実施	４年と３年：３年生の調査実施
第 7 回	中間まとめ	４年：これまでのレビュー発表総括，３年：研究中間報告
第 8 回	卒論中間報告１	４年：発表，３年：発表へのコメント，自分の発表用資料の構成
第 9 回	卒論中間報告２	４年：発表，３年：発表へのコメント，自分の発表用資料の作成
第 10 回	卒論中間報告３	４年：発表，３年：発表へのコメント，自分の発表練習
第 11 回	３年生研究発表１	４年：発表へのコメント，３年：発表
第 12 回	３年生研究発表２	４年：発表へのコメント，３年：発表，論文の構成について
第 13 回	ミニ論文仮提出	４年と３年：受講生同士によるミニ論文の相互評価
第 14 回	総括とミニ論文本提出	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが，他の受講生の発表に対して，学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また，発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから，本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
テキストはありませんが，レジュメおよびミニ論文の書き方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）。

【成績評価の方法と基準】
４年生：
平常点（40 %）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと，授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。
研究発表（60 %）…自分で選択したテーマに沿ったレビュー発表と，自分自身の研究の中間計画を発表してもらいます。それぞれの発表において，発表の内容と発表のしかた，発表資料（レジュメ）の正確さとわかりやすさ，質疑応答の適切さが評価の対象です。
３年生：
平常点（40 %）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと，授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。
研究発表（30%）…研究内容に加え，レジュメの体裁，プレゼンの仕方，質疑応答がそれぞれ評価対象となります。
ミニ論文（30%）…研究内容と論文の体裁が評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
「履修してよかった」の評価は 4.85，「理解度」は 4.46 で，ほぼ例年通りの高評価となりましたが，授業外学習時間の個人差が大きいようです。3 時間以上が 3 人いるのに対して，1 時間未満が 1 人となっていましたが，これは学年差でしょうか…。この授業では，掲示板への書き込みなど指示された課題だけでなく，自主的に自分の研究を進めるための課題を見つけてもらいたいと思っています。

【その他の重要事項】
研究法 I・II は，通年で同じ教員の授業を履修してください。その際，どの教員の研究法を履修するのかは，原則として４年生は３年次に行った「卒業論文指導希望調査」，３年生は２年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また，授業の運営方針や授業計画の説明，発表順の決定などをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students will learn how to set up psychology research plans and how to write papers in a practical and systematic manner with the goal of approaching graduation theses.

PSY300BG

研究法 I （7）

島宗　理

授業コード：A3649　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。受講生は、それぞれ自分の問題意識から研究テーマを選び、標的となる行動を決め、その制御変数を実験によって見つけながら、この方法論を習得します。卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で卒業後にも役立つ技術を習得することを目指します。

【到達目標】
研究法 I で主に目指すのは以下の知識や技術の習得です： 特定の標的行動として具体化すること、解決に役立つ関連情報を調べること、行動の制御変数の候補を複数推定し、その中から実験で検討する変数を選び、先行研究を元に実験計画を立案すること、実験計画書を作成し、発表すること、実験装置や測定システムなどを準備し、予備実験からそれを改善すること、本実験を実施し、データを分析し、まとめて図表や文章、口頭発表などでコミュニケーションすること。
これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で、課題の発表と討論を中心に進めます。3 年次には卒論の準備として小実験に取組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使います。積極的に参加して下さい。
授業は 4/8 からオンラインで開始します。連絡はゼミ掲示板で。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。実験計画のプレゼン方法、注意すべきこと、研究倫理（倫理委員会に提出する書類など）について解説します。 3 年次生： 小実験の候補を紹介します。
第 2 回	実験計画の発表 (1)	全員： 独立変数と従属変数、変数の統制、実験計画法、行動の観察と記録、仮説の立案や変数の探索などを学びます。 3 年次生： 小実験について討論し、予備実験の準備を進めます。 4 年次生： 各自、実験計画を発表し、討論します。GO サインがでたら予備実験に移れるように、実験計画は「概要」ではなく、刺激や記録用紙なども用意してプレゼンして下さい。
第 3 回	実験計画の発表 (2)	同上
第 4 回	実験計画の発表 (3)	同上
第 5 回	予備実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（本実験の計画）などを学びます。 3 年次生も 4 年次生も、予備実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第 6 回	予備実験の報告 (2)	同上
第 7 回	予備実験の報告 (3)	同上
第 8 回	先行研究をまとめる (1)	全員： 先行研究や参考書、統計資料などを読み、現在の研究の流れや社会のニーズの中に自分の実験を位置づけます。研究のストーリーをまとめあげる方法について解説します。

第 9 回	先行研究をまとめる (2)	同上
第 10 回	先行研究をまとめる (3)	同上
第 11 回	本実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（継続実験の計画）などをさらに学びます。 3 年次生も 4 年次生も、本実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第 12 回	本実験の報告 (2)	同上
第 13 回	本実験の報告 (3)	同上
第 14 回	まとめ (1)	全員： 各自、自分の研究のセールスポイントを抜き出し、これを伝える題目を考えて発表します。卒論のストーリーを端的に伝える練習をします。 3 年次生は小実験、4 年次生は本実験のレポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。
○興味がある実験について標的行動（従属変数）、介入方法（独立変数）、実験計画法の 3 つを考え、提案するための資料を作成する。
○実験計画について予測する結果を作図する。
○ 5 つ以上の先行研究を表にまとめる。

【テキスト（教科書）】
『ワードマップ：応用行動分析学』（島宗、2019）

【参考書】
研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下はシングルケースデザイン法に関する参考書の例）。
○ Alberto, P., & Troutman, A. C. (1999). Applied behavior analysis for teachers. Prentice Hall.（アルバート, P. A.・トルートマン, A. C. 佐久間 徹・谷 晋二・大野裕史 (監訳) はじめての応用行動分析 日本語版 第 2 版 (2004) 二瓶社）
○ Barlow, D. H., & Hersen, M. (1984). Single case experimental designs: Strategies for studying behavior change. Pergamon. （バーロー, D. H.・ハーセン, M. 高木俊一郎・佐久間 徹（監訳）一事例の実験デザイン ―ケーススタディの基本と応用― 二瓶社）
○ Cooper, J. C., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007). Applied Behavior Analysis. Pearson Education. （クーパー, J. C., ヘロン, T. E., & ヒューワード, W. L. 中野良顯（訳）(2013) 応用行動分析学　明石書店）
○岩本隆茂・川俣甲子夫 (1990). シングル・ケース研究法―新しい実験計画法とその応用―　勁草書房.

【成績評価の方法と基準】
○授業への参加（課題の発表や討論）（40 %）、課題遂行（40 %）、レポート提出（20 %）から成績を評価します。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】
（2019 年度の授業改善アンケートより）
やっちまいました。回答者 0 人，0%です。発表会の打ち上げなんかしている場合ではなかったです。来年度というか研究法 II では最終回の時間内にアンケートを実施することにします。

【その他の重要事項】
○ この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
○ 研究テーマは受講生の興味を最優先して決めます。行動分析学は研究対象を限定しません。基本的に何でも研究できると考えて下さい。ただし、大学生活のかなりの部分をかけて取り組む研究ですから、自分の得意なこと、興味があること、これだけは人に負けないぞと自信があること、そういう自信をつけたいことなどを選んで下さい。こんなことでも実験できるのだろうか？と思いとどまらず、ぜひ一度相談して下さい。卒論ですから、大がかりな実験はできませんが、世界に二つとない実験を共につくりましょう。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including functional analyses of behavior, systematic observation and recording procedures, single-case designs, and visual inspection of time series data to evaluate effectiveness of an intervention. Students will select their own research topic, conduct a literature review, develop a research proposal, and run experiments.

PSY300BG

研究法Ⅰ（8）

越智　啓太

授業コード：A3650　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜授業概要＞
いままで学んできた知識を総合して自ら心理学研究を行う！
本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろくて構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。
研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。
＜学習目標＞
①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
③実験・調査計画を立て、それを実施する
④調査・実験結果を分析する
⑤分析結果から論理的に考察を行う
⑥結果を論文にする
⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【到達目標】
自分で心理学の研究を出来るようになる。具体的には以下の点である。
研究のテーマ選択
先行文献の検索と整理
実験計画の作成
実験結果の分析
レポート・論文の作成
オーラルでの発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、各自の研究報告とディスカッションを行う。
１～2 回程度土曜日か日曜日に長時間の補講を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、研究ポリシー、研究倫理などについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、文献収集指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。文献収集についての個別指導
第 3 回	研究発表 2、文献収集指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。文献収集についての個別指導
第 4 回	研究発表 3、文献収集指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。文献収集についての個別指導
第 5 回	研究発表 4、実験調査指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 6 回	研究発表 5、実験調査指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。

第 7 回	研究発表 6、実験調査指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 8 回	研究中間発表会	自分の研究の現状について 15 分でプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 10 回	研究発表 8、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 11 回	研究発表 9、実験調査指導 5	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 12 回	研究発表 10、実験調査指導 6	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 13 回	研究発表 11、実験調査指導 7	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 14 回	研究発表 12、実験調査指導 8	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回必ず、自分の研究の進行状況について説明してもらいますので、説明用資料を作成してくること。
その前提として、毎週必ず、自分の研究を少しずつでも進展させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
共通の参考書は指定しない。各自のテーマに従って個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
< 成績評価の方法と基準>
授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
例年、高く評価されています。本年度もさらに興味深くスキルの身につく演習になるようにがんばります。とくにプレゼンテーションの指導に力を入れます。

【その他の重要事項】
楽しい授業にしたいと思います。そのため、各自が積極的に発言するなどの参加をお願いします。
この授業は出席することが重要である。出席が規定日数に達さない場合には、就職が決まっていても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【Outline and objectives】
Do psychology research, learn analytical method, presentation method etc.

PSY300BG

研究法Ⅱ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3651　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに，卒業研究を実施する上での必要な能力を習得します．論文作成上の問題点を，ゼミ形式で検討します．

【到達目標】
実際の調査や実験を行い，論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします．まとめに至る段階で何回か，議論し，修正し，卒論を準備します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい，それを討論するということを繰り返します．各自の発表の準備および実際の発表を通じて，自分の考えを整理して，そこで提出されたコメントを参考にしながら，客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます．また，研究質問紙の完成版の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 3 回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 4 回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 5 回	データ整理	Excel の使い方、データの扱い方など
第 6 回	研究相談 1	問題点や疑問点の整理
第 7 回	データ処理	データ処理，統計分析など
第 8 回	研究相談 2	問題点や疑問点の整理
第 9 回	図表のまとめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第 10 回	研究相談 3	論文の記載上の問題
第 11 回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 12 回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2，卒論仮提出
第 13 回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 14 回	よく見かける論文記載上の間違い（実例） 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています．
第 1 回　3 回目研究発表の原稿作成 1
第 2 回　3 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回　3 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回　3 回目研究発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回　卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成 1
第 6 回　卒論データの統計上の問題点レポート作成
第 7 回　卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
第 8 回　卒論図表作成上の問題点レポート作成
第 9 回　卒論作成上の問題点レポート作成 1
第 10 回　4 回目研究発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 11 回　4 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 12 回　4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 13 回　4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 14 回　卒論仮提出用原稿修正版の作成
要旨原稿の作成

【テキスト（教科書）】
特に，テキストは用いません．各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %），発表（30 %），参加態度（20%）によって総合的に評価します．発表については，発表原稿だけでなく，発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ，それを再提出して下さい．

【学生の意見等からの気づき】
16 名の受講者中 6 名から回答を頂きました．4-5 の段階が，授業の工夫では 100 %，理解できたかで 100 %，履修してよかったかは 100 %と評価をしてくれていました．授業学習は 3 時間以上の人と 2 時間未満の人とスプリットする傾向がみられました．今年は，3 年は卒論の準備を具体的に，4 年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を変えたので，その影響があると思われます．自由記述にもその点を工夫点として挙げたコメントがありました．学生のいろいろな実情を考慮しながら授業の内容の工夫や進行を考えたいと思います．今年も夏休みにゼミ合宿を行い，皆さんとの親交を深めました．特に，就職活動に関する質疑応答の場面は，どの学年の人も授業では見られない真剣な様子を知ることができて非常に興味深いシーンを見ることができました．

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC，パワーポイントを使用しますので，ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます．授業支援システムを利用して，資料配布やお知らせします．必ずファイルが添付できるメイルを授業支援システムに登録して下さい．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします．また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします．

【Outline and objectives】
Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.

PSY300BG

研究法Ⅱ（2）

吉村　浩一

授業コード：A3652　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の力で実践的研究を設計・実施し、考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】
3 年次生は、関心ある研究テーマに対し、実践的研究の計画を作り上げる準備をすることを目標とします。4 年次生は、3 年次に獲得した知識・能力に基づいて、自分自身の研究を実施し、それにより生み出したデータを整理する技能と考察する能力を身につけることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年次と 4 年次の合同授業ですが，単なる合同に終わらず，協同作業となる授業を目指します。3 年次と 4 年次とのあいだで共通するテーマや研究法があれば，3 年次生は 4 年次生の知識や技能を踏まえて発展させる努力を行ってください。逆に 4 年次生は、3 年次生に対して積極的にアドバイスすることを通して、自分の研究の進め方を客観的に捉え・評価する姿勢で臨んでください。特に、研究計画書の書き方や発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現在位置の確認	3・4 年次生とも，現時点での到達点の自己評価
第 2 回	仮説の提示と検討	4 年次生は計画している研究での仮説を明確化し，3 年次生とともに検討
第 3 回	心理学的研究の土俵に載せる	3 年次生は関心あるテーマを心理学的に検討できる様式として提案し，全員で評価検討
第 4 回	研究倫理の確保	4 年次生の実施計画を研究倫理の観点から全員で検討
第 5 回	研究テーマの確立（1）	3 年次生は心理学的研究としてテーマを整理し、研究法を具体化
第 6 回	研究テーマの確立（2）	3 年次生は心理学的研究としてテーマを整理し、研究法を具体化
第 7 回	データの整理（1）	4 年次生が産出したデータの整理方法の検討
第 8 回	データの整理（2）	4 年次生が産出したデータの整理方法の検討
第 9 回	実験計画の立案（1）	3 年次生による実証的研究計画の構築
第 10 回	実験計画の立案（2）	3 年次生による実証的研究計画の構築
第 11 回	発表の仕方	口頭発表の仕方と心得，プレゼン／配布用資料の作り方
第 12 回	論文の書き方	学術論文と同様の内容・形式のミニ論文の書き方の実現
第 13 回	成果発表（1）	成果発表，質疑応答
第 14 回	成果発表（2）	成果発表，質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各人の研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画と遂行，データの分析，成果発表）に沿って，ほぼ毎回、各人ごとの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させ発表する準備を授業時間外に行います。具体的には、関心を持っているテーマに関する情報収集、文献の読み込み、研究法の立案などの下準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いません。

【参考書】
研究テーマや課題に応じて適宜，各人に対して参考文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %と，他者の発表へのコミットメント 10 %，成果発表 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
全員に関わる問題は全員に対して問いを投げかけ、全員で検討していくスタイルの構築に努めます。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the knowledge and skills to perform a psychological research.

PSY300BG

研究法Ⅱ（3）

渡辺　弥生

授業コード：A3653　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業研究をめざした専門演習の最終ステップ。研究法Ⅰで完成させたプランを実行にうつす。問題と目的のもとにどのような方法を実行するかを決定します。対象者、調査・観察・実験などの確定。実施する時期やデータの収集方法や手続きについて計画を練り、結果の分析方法および考察の進め方などについても学びます。研究の遂行とともに推敲ともに各自論文の作成を実行します。

【到達目標】
心理学研究の論文の書き方について習得し集大成できる力を獲得します。同時に、プレゼンテーションなどについてのスキルや研究協力者を得たり、フィードバックできるソーシャルスキルを獲得します。すなわち、論文を書くということが、課題をくりクリエイティブに考えだし、効果的な方法で探求し、結果を適切に分析し、なぜそのような結果が得られたのか
深く考察するといった総合力を身につけることにつながり、結果的にキャリア形成に必要なスキルを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
一人一人の予習・復習がベースになり、授業では集団の良さを生かした演習方式をとります。他人の考えを聞き、自分の考えを述べることができるようにします。ペアワーク、グループワークなどをもとに、課題解決をしていきます。全員が意見や質問を発言できることをめざします。アクティヴラーニングを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画のまとめ	全体の確認 問題と目的のライティング
第 2 回	方法論について	方法の確認：方法をライティング
第 3 回	材料および手続きの決定	ライティング
第 4 回	分析方法の想定	問題と目的で書いた仮説を検討するためにどのような方法が望ましいか決定。
第 5 回	分析方法について 1	分析を始める。データセットを確認してメインの分析をする。その結果を図表にしライティングする。
第 6 回	分析方法について 2	前の授業の継続
第 7 回	結果1	結果についてライティングする。
第 8 回	結果2	前の時間の継続
第 9 回	考察	結果を考察し、ライティングする。引用文献を入れて考察する。
第 10 回	研究発表 1 ４年生発表	プレゼンテーション
第 11 回	研究発表 2 ４年生発表	プレゼンテーション
第 12 回	研究発表 3 ３年生発表	プレゼンテーション
第 13 回	研究発表 4 ３年生発表	プレゼンテーション
第 14 回	シェアリング 予備	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、各時間に消化できなかったことを補います。個人差が生じると予想されるが、遅れている人は時間外に補うようにします。個人、ペア、グループなどを効果的に用いて、応用力を伸ばせるようにします。予習復習に各２時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】
適宜授業時に伝える。

【参考書】
研究Ⅰで紹介。論文を書くためのテキストで読みやすい本を一読しえおく。

【成績評価の方法と基準】
　質問や意見をいうなど参加態度を含む平常点（５０％）とプレゼンテーション（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
個人の進行の差があるが、個人及び全体の観点からも充実した内容にしたい。また、議論が積極的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤなど。

【その他の重要事項】
上記の進行は多少状況によって変化します。授業外のゼミ活動、研究協力者へのフィードバックを重視します。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, this training will also provide the necessary writing skills for students to correctly organize, discuss, and write the outcomes of the study which they conducted.

PSY300BG

研究法Ⅱ（４）

福田　由紀

授業コード：A3654　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、演習Ⅰ，演習Ⅱと研究法Ⅰで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめて，効果的に発表することが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公刊できる形にまとめていきましょう。

【到達目標】
＊３年生:自分の関心ある研究テーマに対し，心理学研究の計画を作り上げる。これにより，自分自身で問題を発見し，それを解決できるようになる。そして，４年生の発表に対して積極的に聴くことにより，分析技能や考察する力が身につく。
＊４年生：春学期で蓄えた知見や技能を用いて，適切な分析や考察を行い，発表する。これにより，高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また，ピアに発表することにより，自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。
＊共通の目標：論文として的確な文章を書ける。また，授業中，みんなの前で発表したり，それに対してクリティカルな意見を発言したり，他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果，他者の仕事（発表・文書）に対して，建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。３年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。４年生は個人の研究を個別に発表したり，それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際，他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には，発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかかという態度で注意深く聞き，分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に，発表の仕方，論文の書き方などは全員に共通する課題なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション・文章力１アップ	授業の進め方とアジェンダの確認。各自の進捗状況の報告。
第２回	研究力１・文章力２アップ	方法のピアレビュー。 文章力アップ７のピアレビュー。
第３回	発表スキル１アップ	３年生：４年生へアドバイス。 ４年生：結果・考察の発表１。
第４回	発表スキル２アップ	３年生：４年生へアドバイス。 ４年生：結果・考察の発表２。
第５回	研究力２・発表スキル３アップ	３年生：関連論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第６回	研究力３・発表スキル４アップ	３年生：関連論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：文章力アップ８のピアレビュー
第７回	研究力４・発表スキル５アップ	３年生：プレ論文の結果・考察の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第８回	研究力５・発表スキル６・文章力３アップ	３年生：プレ論文の結果・考察の発表２。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：結果のピアレビュー。
第９回	研究力６・文章力４アップ	修正された結果と考察のピアレビュー。 Touch & Go!
第10回	研究力７・文章力５アップ	引用文献・図表・要旨のピアレビュー。
第11回	文章力６・発表スキル７アップ	共通：論文の仮提出。 文章力アップ９のピアレビュー。 効果的な発表のコツの講習会
第12回	発表スキルアップ８	３年生：卒論構想発表１ ４年生：発表予行練習１
第13回	発表スキルアップ９	３年生：卒論構想発表２ ４年生：発表予行練習２
第14回	発表スキルアップ10とまとめ	３年生：卒論構想発表３ 共通：Touch & Go!　授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，発表や作業があります。授業計画に沿って，事前の課題を行い，自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し，コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜，授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 60 %とコメント 20 %，事前の課題提出 20%によって決められます。発表は，わかりやすく的確に説明することが求められます。また，コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度の気づきです。授業外学習の時間は回答してくれた人 80%が「週 1 時間以上」でした。うーん，全員少なくとも 1 時間以上にしたいところです。一方で，週 3 時間以上の人が 30 %いました。偉い！ 長くやれば良いという話では無いのですが，ある程度の時間を割いた方が良い論文を書けるよね。また，好評な点として，卒論の進捗デットラインが明示されたことが挙がっていました。タイムマネジメントはこれからの人生に役立ちますね。役立てね。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また，この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn how to psychological research. Students will be expected to make a papar of one's research, and present it effectively.

PSY300BG

研究法Ⅱ（5）

田嶋　圭一

授業コード：A3655　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで学んできた心理学の知識を活かし，高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し，みずから設定したテーマに沿って研究を行い，成果としてまとめていくことがテーマです。

【到達目標】
1. 心理学的に意義があり倫理的に適切な研究計画を立案できること。
2. 自分が立案した研究計画に沿って研究を的確に遂行できること。
3. 収集したデータを図表にまとめ，適切な統計的手法を用いて分析・解釈できること。
4. 研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できること。4 年生は卒業論文を，3 年生はミニ卒論を完成させることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み，授業にて発表・ディスカッションを行います。毎回休まずに出席する心構もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく，他者の取り組みにも関心を寄せ，建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって，個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用したピアレビュー活動など取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，研究計画の確認，発表順の決定
第 2 回	研究の準備	実験・調査の準備，倫理審査
第 3 回	研究の実施	研究の実施，進捗状況報告
第 4 回	研究の実施，論文執筆：目的，方法	研究の実施，研究目的から方法までの書き方
第 5 回	研究中間発表（1），研究の実施	【3 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 6 回	研究中間発表（2），データの整理・加工	【3 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 7 回	研究中間発表（3），記述統計量の計算	【4 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 8 回	研究中間発表（4），推測統計の実施	【4 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 9 回	結果の解釈，論文執筆：結果，考察	効果的な図表の作成，結果（事実）と考察（解釈）の書き方
第 10 回	論文執筆：導入から引用文献まで	問題と目的，引用文献などの書き方，論文全体の執筆・推敲
第 11 回	研究最終発表（1）	【3 年生】成果発表。【4 年生】論文仮提出。【全員】ピアレビュー。
第 12 回	研究最終発表（2）	【3 年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。
第 13 回	研究最終発表（3）	【4 年生】成果発表。【3 年生】ミニ論文提出。【全員】ピアレビュー。
第 14 回	研究最終発表（4），総括	【4 年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画）に沿って，ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し，次の回までに研究を進展させます。関心を持っているテーマに関する情報収集，文献の読み込み，研究法の立案などの下準備は，授業外に行ってください。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し，授業にて適宜配布・説明してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）．心理学研究法入門　―調査・実験から実践まで―　東京大学出版会.
高野陽太郎・岡　隆（編）（2004）．心理学研究法　―心を見つめる科学のまなざし―　有斐閣アルマ.
松井豊（2006）．心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社.

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%，発表 50%，コメント 30%の割合で評価する予定です。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合や発表を怠った場合は単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度秋学期は，全員が「積極的な工夫がされていた」「履修してよかった」に対して，89%の人が「理解できた」に対して「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習時間については 89%の人が「週 3 時間以上」という結果でした。秋学期は春より忙しかったですが，しっかりやる時と少し緩めにやる時とメリハリをつけて授業を展開したこと，こまめに課題の連絡などを行ったこと，ピアレビューを通してお互いに論文に対してコメントし合えたこと，論文執筆を数回に分けて行ったことなどが好評だったようです。一方で，グループディスカッションの時にどうしても 4 年生が中心となって話してしまい 3 年生がディスカッションに入りにくいこと，発表準備と別の課題（ピアレビューなど）が同時期にあって負担が大きいことなどは改善の余地があるかも知れません。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
なお，授業計画や運営方針の説明などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the skills necessary to conduct their own research project in psychology. Based on the knowledge that they have acquired so far, they will formulate their own research questions, conduct the research using appropriate methods, analyze the results, and present their achievements.

PSY300BG

研究法Ⅱ（6）

藤田　哲也

授業コード：A3656　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文を視野に入れ，心理学の研究の実施方法を実践的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】
半期の授業が終了した時点で，以下のことができるようになっていることが到達目標です。
＜４年生＞
１．先行研究を踏まえ，妥当性の高い方法で実験や調査を行えるようになること。
２．得たデータに適した正しい分析を行えること。
３．客観的かつ正確な文章および的確な図表によって研究成果を表現できるようになること。
４．研究成果について，わかりやすく魅力的なプレゼンテーションを行えること。
＜３年生＞
１．自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている，具体的な実験・調査の方法や，論文の構成，データ分析法について正確に読解すること。
２．複数の先行研究をレビュー（概観）し，批判的な読み方をすること。
３．発表の場で，効果的なプレゼンテーションを行うこと。
４．他者の発表に対して的確なコメントを行い，他者の書いた論文に対し有益な改善アドバイスをすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生と４年生が合同で授業をします。４年生は，実際に研究を行うことでデータを収集し，分析をしながら，適切な解釈ができるように発表および討論を２回行います。研究法の時間は，実験や調査，分析を行うための時間ではなく，それらについての議論を行う時間だと理解してください。３年生は，次年度に行う研究に向けて，a. 論文紹介＋批判的コメントの発表，b. 自分が選択したテーマに関するレビュー論文の紹介＋自分の問題意識の発表を行います。全員，ほかの受講生の発表内容に対して，適切にコメントをしてください。また，首尾一貫した論文を書くため」のポイントについてアドバイスします。研究論文は，作文やレポートとは質・量ともに別物です。第三者に的確に情報を伝えるために，十分に推敲するためのポイントを把握してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のスケジュール	全員：シラバス記載事項の確認と補足説明，授業内容と目標の明確化
第 2 回	卒論中間発表１	４年：発表と研究準備，３年：発表へのコメントと先行研究の選定
第 3 回	卒論中間発表２	４年：発表と研究準備，３年：発表へのコメントと選定した論文の読解
第 4 回	３年生論文発表１	４年：発表へのコメントと研究実施，３年：発表と発表へのコメント
第 5 回	３年生論文発表２	４年：発表へのコメントと結果分析，３年：発表と発表へのコメント
第 6 回	卒論最終発表１	４年：発表と結果の分析，３年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第 7 回	卒論最終発表２	４年：発表と結果の考察，３年：発表へのコメントとレビュー論文の読解

第 8 回	卒論最終発表３	４年：発表と卒論の執筆，３年：発表へのコメントと自分の発表準備
第 9 回	３年生レビュー論文発表１	４年：発表へのコメントと卒論執筆，３年：発表と発表へのコメント
第 10 回	３年生レビュー論文発表２	４年：発表へのコメントと卒論推敲，３年：発表と発表へのコメント
第 11 回	卒論学生相互コメント	４年：卒論の推敲，３年：卒論に対するコメント
第 12 回	卒論仮提出	４年：卒論の改稿，３年：卒論に対するコメント
第 13 回	卒論要旨集原稿確認	４年：要旨集原稿の修正，３年：要旨集原稿へのコメント
第 14 回	総括と卒論発表会準備	全員：授業の振り返り，到達状況の確認，４年：プレゼンテーションの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが，他の受講生の発表に対して，学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また，発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから，本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しません。

【参考書】
テキストはありませんが，レジュメおよび卒業論文の書き方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）。

【成績評価の方法と基準】
４年生：
平常点（40 %；授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと，授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象）
卒論計画発表（20 %；発表内容 10 %，レジュメ 5 %，発表の仕方・質疑応答 5 %）
卒論最終発表（40 %；発表内容 20 %，レジュメ 15 %，発表の仕方・質疑応答 5 %）
各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）
３年生：
平常点（40 %；授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと，授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象）
論文発表（20 %；発表内容 10 %，レジュメ 5 %，発表の仕方・質疑応答 5 %）
レビュー論文発表（40 %；発表内容 20 %，レジュメ 15 %，発表の仕方・質疑応答 5 %）
各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

【学生の意見等からの気づき】
例年通り全員から「この授業を履修してよかった (5)」と回答してもらえました。授業外学習時間は 5 人が 3 時間超，6 人が 2 時間以上と，例年よりかなり長い人がほとんどでしたが，2 時間未満と「ほとんど行ってない」が 1 名ずついたのが気になります。自由記述において，論文推敲のやり方がよかったという意見が複数ありました。3 年生・院生の協力があったからこそですね。よい意味での「お互い様」を継続させられるよう，今後も働きかけていきますので皆さんも積極的によろしく。

【その他の重要事項】
研究法 I・II は，通年で同じ教員の授業を履修してください。その際，どの教員の研究法を履修するのかは，原則として４年生は３年次に行った「卒業論文指導希望調査」，３年生は２年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また，授業の運営方針や授業計画の説明，発表順の決定などをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
n this class, students practically learn how to prepare psychology research plans, analysis methods, how to write papers, etc. with the goal of approaching graduation thesis.

PSY300BG

研究法Ⅱ（7）

島宗　理

授業コード：A3657　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。研究法 II では、3 年次生は小実験の報告書と卒論の実験計画書、4 年次生は卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で、論理的な文章作成や根拠に基づいた提案、プレゼン、討論の練習をしていきます。

【到達目標】
研究法 II で主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：自分の実験を社会的、学術的な文脈に位置づけること、実験から得られたデータを分析し、わかったこと、わからなかったことを整理し、わからなかったことはどうすればわかるようになるかを提案すること。わかったことを数量化し、図表にまとめ、読み手や聞き手にわかりやすいように発表すること、論理的に一貫した、読みやすい文章を書くこと。詳細な規定にきめ細かく対応した校正を行うこと。締切から逆算して計画をたて、遂行すること。自分では解決できない問題について仲間や指導教員から助言をもらうこと、助言すること。
これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で、課題の発表と討論を中心に進めます。3 年次には研究法 I で行った小実験と次年度に行う卒論実験を題材に課題に取り組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使いますので積極的に参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。 3 年次生は小実験、4 年次生は卒論実験の内容を 1 分間でプレゼンする練習をします。
第 2 回	論文を書く： アウトラインを書く	全員： アウトラインを書いてから本文を書く方法を解説します。卒論の方法の章を使って練習をします。日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の参照方法も解説します。 3 年次生は小実験のレポートを執筆します。4 年次生は卒論実験を論文にしていきます。
第 3 回	論文を書く： データの視覚的な提示	全員： 実験の中心的なデータを選び、それを視覚的に伝える図を描きます。独立変数と従属変数の関係性がわかりやすく提示できているかどうか、「手引き」やゼミの「チェックリスト」にそっているかどうかを確認します。
第 4 回	論文を書く： 推敲する (1)	全員： 方法の章の完成版を提出し、チェックリストに基づいて推敲します。方法の章で最も重要なのは読み手がその実験を追試できるように書かれているかどうかです。読み手の立場から自分の論文を読み直して推敲する練習をします。
第 5 回	論文を書く： 事実を書く	全員： アウトラインから書く方法を結果の章を使って練習します。読み手に自分の研究のセールスポイントをわかりやすく伝えるために、順序や論理展開を工夫する練習です。

第 6 回	論文を書く： 先行研究をまとめる	全員： 春学期にまとめた先行研究を表にし、「手引き」に即した作表方法を学びます。先行研究を紹介する段落を書き、文献引用の作法を練習します
第 7 回	論文を書く： 研究を位置づけるアウトラインを書く	全員： 第 6 回でまとめた先行研究の展望を活かし、また春学期に作成したストーリーを振り返り、序論のアウトラインを作成します。パラグラフ・ライティング法（段落をトピック文とサポート文で構成する手法）を解説し、練習します。
第 8 回	論文を書く： 推敲する (2)	全員： 第 5 回で作成したアウトラインに肉付けをして結果の章をまとめます。データの分析や統計が適切に、かつ充分に行われているかどうかを確認します。
第 9 回	論文を書く： 推敲する (3)	全員： パラグラフ・ライティング法を使って序論を完成させます。日本語の作文技術について確認し、推敲の練習をします。さらに、チェックリストを使って、「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。
第 10 回	論文を書く： 執筆ルールに基づいて校正する	全員： 引用文献一覧を作成します。「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。また、本文と見合わせて、引用の方法が適切かどうかを確認します。
第 11 回	論文を書く： 推敲する (4)	全員： 小実験レポート、卒論のゼミ内提出の前の最終確認とチェックリストを使った推敲の練習をします。また、自分で書いた文章を自分で推敲するのは困難であることを自覚するために、他の受講生の卒論を校正する練習もします。校正に使う一般的な記号を習得しましょう。
第 12 回	研究計画 (1)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。 4 年次生： 卒論を推敲し、提出します。
第 13 回	研究計画 (2)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。 4 年次生： 卒論の要旨を作成して提出します。要旨は卒論のストーリーをわかりやすく伝える文章です。セールスポイントの抽出と伝達、文字数が限られている場合の推敲方法について解説し、練習します。
第 14 回	研究計画 (3)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。 4 年次生： 卒論発表会に備え、卒論研究の発表練習をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。
○春学期に実施した実験の発表資料を作成し、練習をする。
○自分の研究の社会的意義を示す資料を収集し、発表資料としてまとめる。
○日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」およびゼミの論文推敲チェックリストを用いて、「結果」の章を推敲し、提出する。

【テキスト（教科書）】
島宗 理 (2019). ワードマップ　応用行動分析学 新曜社

【参考書】
○論理が伝わる世界標準の「書く技術」 倉島保美（2012） 講談社
○ 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき　日本心理学会（2015）

【成績評価の方法と基準】
○授業への参加（課題の発表や討論）（40 %）、課題遂行（40 %）、レポート提出（20 %）から成績を評価します。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】
（2019 年度の授業改善アンケートより）
「行動分析学だけでなく社会の常識や作文などの指導も行ってくださり非常に自分の力になる授業だったと思います」,「ゼミ内で学べる技術は今後の社会に出ても生かせる事ばかりなので良かった」という感想をいただきました。うちのゼミでは論文の執筆に丸々一学期を費やしますが，それはそれで学べること，しかも社会に出てから一生の宝になることが沢山あるからです。卒業しても磨き続けて下さいね。

【その他の重要事項】
○ この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。本年度は旧カリの 4 年次生と新カリの新 3 年次生の合同授業となります。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including evaluation of single-case design data with visual inspection, and interpretation of functional relationship between dependent and independent variables. Student will also aim to master how to write a research paper, by learning about paragraph writing, Japanese Psychological Association's publication manual, and other miscellaneous rules in academic writing.

PSY300BG

研究法Ⅱ（8）

越智　啓太

授業コード：A3658　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜テーマ＞
心理学研究を形にしていく！
本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろくて構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。
研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

【到達目標】
①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
③実験・調査計画を立て、それを実施する
④調査・実験結果を分析する
⑤分析結果から論理的に考察を行う
⑥結果を論文にする
⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回各自の研究の進展状況をパワーポイントで発表し、ディスカッションを行う。実験や調査を授業外で行ってもらうほか、２～３回程度土曜か日曜に集中的な補講を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、採点ポリシーなどについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、分析方法指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 3 回	研究発表 2、分析方法指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 4 回	研究発表 3、図表レイアウト指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 5 回	研究発表 4、図表レイアウト指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 6 回	研究発表 5、参考文献記法指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。参考文献リストの作成についての指導
第 7 回	研究発表 6、論文の構成指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。論文作成に当たっての構成についての個別指導を行う。
第 8 回	研究中間発表	各自の研究を 15 分間で効果的にプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、論文指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 10 回	研究発表 8、論文指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 11 回	研究発表 9、論文指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 12 回	研究発表 10、論文指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 13 回	プレゼンテーション演習 1	各自の研究発表について個別に指導する
第 14 回	プレゼンテーション演習 2	各自の研究発表について個別に指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回必ず、その週に行った研究活動について報告してもらいますので、その準備をしてくること。
その前提として、毎週、少しずつでも自分の研究を進展させること。
パワーポイントの使い方、オーラルでの発表について、毎回、練習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。個別の研究テーマに従った文献を紹介する。

【参考書】
使用しない。各自の研究テーマに従った文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
例年、高い評価を得ています。本年度はさらに受講者に興味深く、スキルの修得が出来るような演習にするようにがんばります。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
各自、パワーポイントのスキルをあらかじめ、つけておくこと。

【その他の重要事項】
大学 4 年間の総仕上げの授業なので、全力でがんばろう！
この授業は出席をもっとも重視する。出席が規定日数に達さない場合には、就職が決まっていても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。
正規の授業時間以外に１～２回、土曜１～5 限を使用した集中授業（研究のための集中作業日）を行う。1 月には、同様に 1 日かけて、口述試験用のプレゼンテーション練習会を行う。

【Outline and objectives】
Do psychological study and learn writing papers

PSY300BG

研究法Ⅰ（１０）

林　容市

授業コード：A3717　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究のレビュー，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し，情報を取りまとめる（レビュー）ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て，研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究課題の設定，文献のレビュー，研究仮説の設定，研究計画書の作成，実験計画，実験・調査の遂行，統計解析，レポートの作成，プレゼンテーションなどの各方法を学び，実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが，最終的には個人ごとにテーマを設定し，研究計画諸の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。
　〇身体活動・スポーツ中の感覚認知 / 心理的情報と生理的状態の対応
　〇体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
　〇痩身指向に関与する性格・意識の特徴
　〇高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに，データ分析，結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し，まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ），プレゼンテーションの準備，研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成，発表準備をしてきてください。各授業における準備および復習等の時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。
また，個人研究，グループ研究共に，授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
浦上昌則，脇田貴文．心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方．東京図書．

【成績評価の方法と基準】
評価は，1) 実験・調査・発表の内容： 50%，2) 最終的な個人研究の研究計画書の内容： 20%，3）授業への参画状況（出席・発言など）： 30%，で行います。
なお，当面の間，オンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します。
具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度休講のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。
万が一、希望者が定員を超過した場合は，GPA および「演習Ⅱ事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop a study of research with a view to paper preparation by raising problems and problems and solving them through reviews of previous research, experiments, surveys, and data analysis.

PSY300BG

研究法Ⅱ（１０）

林　容市

授業コード：A3719　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに修得した知識，経験，手法等を用いて実際に情報収集，データ収集・分析，文章作成を行い，卒業論文を作成すること。

【到達目標】
・研究テーマ・課題を設定でし，適切な研究計画を立案できる。
・妥当な方法を用いてデータ収集・分析し，適切に図表を用いて結果を提示できる。
・得られた結果に対して，論理的な考察ができる。
・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し，研究計画について発表し，全体で論議を行います。計画が立案した後は，各自でデータ収集や分析を行い，結果について発表を行い，履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。
第 2 回	研究計画発表	研究計画を発表し，問題点などを含めて全体で論議する。
第 3 回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する。
第 4 回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し，全体で論議する。
第 5 回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し，発表する。
第 6 回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 7 回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 8 回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し，意見交換を行う。
第 9 回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う。
第 10 回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ，発表する。
第 11 回	プレゼンテーション（1）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う（1）。
第 12 回	プレゼンテーション（2）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う（2）。
第 13 回	口頭発表練習（1）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い，内容などについて討議する（1）。
第 14 回	口頭発表練習（2）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い，発表内容の改善に向けて意見交換する（2）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での予習・復習の作業が，論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って，資料作成や発表準備を行って下さい。また，各回のテーマ・内容に沿って，授業内活動の補足など，必要な作業をしてください。なお，各授業における準備および復習等の時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
・松井豊（2010）心理学研究法改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために．河出書房新社
・酒井 聡樹（2007）これからレポート・卒論を書く若者のために．共立出版

【成績評価の方法と基準】
1）研究実施状況・研究論文の内容： 70%，2）発表・質疑応答の内容 20%、2）発表への質問状況・論議への参加状況： 10%，として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度休講のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・シラバスの内容については，授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is creating a graduation thesis through the conduct of collect data, analyze, sentence writing with the aid of the knowledge, experience, and methods learned while one is still in university.

PSY200BG

生理心理学

松田　いづみ

授業コード：A3665　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学では一般に，主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え，生理の側面を知ることで，心をより多角的にとらえることができる。本講義では，中枢・末梢神経系のしくみと機能を学んだうえで，心理学研究においてそれらがどのように活用されるかを学ぶ。

【到達目標】
(1) 中枢・末梢神経系のしくみと機能を理解する。
(2) 感情・認知と中枢・末梢神経系とのかかわりを理解する。
(3) 心理学において中枢・末梢神経系がどのように測定・解析されるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な知識を講義形式で学んだのち，実際に生理反応の測定を観察・体験することで理解を深める。授業は 4 月 23 日（木）から開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 ：生体信号を測る意義	心理学における生体信号測定の意義と高校公民の教育における本授業の意味について学ぶ。
第 2 回	生理心理学の論文を読む	論文を読み，興味を持った点，疑問に思った点をまとめる。
第 3 回	オリエンテーション 2 ：脳と身体の基礎知識 1	中枢・末梢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第 4 回	脳と身体の基礎知識 2	末梢神経系のしくみと機能を学ぶ。情動との関係を学ぶ。
第 5 回	生体信号計測の基礎知識	フィルタ・サンプリング周波数などの基礎知識を学ぶ。
第 6 回	皮膚電気反応	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 7 回	心拍数	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 8 回	呼吸	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 9 回	皮膚電気反応・心拍数・呼吸の測定デモ	実際にどのように測定され，解析されるのかを学ぶ。
第 10 回	眼電図・筋電図	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 11 回	脳波	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 12 回	事象関連電位	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 13 回	脳波・事象関連電位の測定デモ	実際にどのように測定され，解析されるのかを学ぶ。
第 14 回	まとめ	半期の内容の復習・まとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に学習予定の生理指標の予習をし，疑問点を明確にしておくことが望ましい。各授業のあとに課題が出ることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】
堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房，2017

【成績評価の方法と基準】
課題（80%）と授業への積極的な参加態度（20%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【その他の重要事項】
生理機器の個数の都合上，受講希望者が多数の場合は抽選となる場合がある。初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】
In psychology, we usually evaluate mind from subjective and behavioral measures. In addition to these measures, physiological measures enable us to evaluate mind more deeply.In this lecture, we learn structures and functions of central and peripheral nervous system. Moreover, we learn how to measure those systems in psychological research.

PSY200BG

生理心理学実習

松田　いづみ

授業コード：A3666　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学では一般に，主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え，生理の側面を測ることで，心をより多角的にとらえることができるようになる。本講義では，実際に生理指標を測定して心理状態を推定することで，心理生理学的なアプローチを体験的に学ぶ。

【到達目標】
(1) 心理学研究でよく用いられる生理指標を正しく測定できるようになる
(2) 心理状態と生理反応との関係を理解できるようになる
(3) 心理状態を測るのに適切な実験手続き・生理指標を選択できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業はグループでの実習形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習グループを決定する。高校公民の教育における本授業の意義を学ぶ。
第 2 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験①	実験計画を理解する。教示など，実験に必要な資料を作成する。
第 3 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験②	データを取得する。
第 4 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験③	データを取得する。
第 5 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験④	データの分析・レポートの作成を行う。
第 6 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定①	実験計画を理解する。教示など，実験に必要な資料を作成する。
第 7 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定②	データを取得する。
第 8 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定③	データを取得する。
第 9 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定④	データの分析・レポートの作成を行う。
第 10 回	脳波・事象関連電位による興味の測定①	実験計画を理解する。教示など，実験に必要な資料を作成する。
第 11 回	脳波・事象関連電位による興味の測定②	データを取得する。
第 12 回	脳波・事象関連電位による興味の測定③	データを取得する。
第 13 回	脳波・事象関連電位による興味の測定④	データの分析・レポートの作成を行う。
第 14 回	まとめ	これまでの実験をまとめ，新たな実験を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に学習予定の生理指標について予習し，不明点などを明らかにしておくことが望ましい。各実習のあとにはレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】
堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房，2017

【成績評価の方法と基準】
課題（60%）と授業への積極的な参加態度（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【その他の重要事項】
春学期の生理心理学を受講し基礎的な知識をすでに学んでいることが望ましい。測定機器の関係上，グループによる実習を予定している。その割り振りを初回授業で行うため，受講希望者は初回授業に必ず参加すること。受講希望者が許容範囲を超える場合は制限を行うことがある。

【Outline and objectives】
In psychology, we usually evaluate mind from subjective and behavioral measures. In addition to these measures, physiological measures enable us to evaluate mind more deeply. In this lecture, we perform several experiments that record physiological measures to estimate mind.

PSY200BG

感情心理学

足立　にれか

授業コード：A3668　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学において感情は人の理性や思考・認知プロセスにおいて邪魔な存在とされ、またそれゆえ研究対象からも除外されてきた。近年、感情についてのそうした見方が変わり、感情は人の様々な発達的局面における重要な基盤であること、また、認知的側面を支える機能を果たしていることが確認されている。本授業では、主要な感情研究と理論を踏まえながら、感情と心理的諸側面との関連性について学んでいく。具体的には、発達、認知、社会、臨床の各心理学領域における感情研究の基本理論や知見を概観しながら、心理学的観点から見た感情の役割や機能について理解を深める機会を提供する。

【到達目標】
人間の「感情」がどのように発達し、機能しているのか、また「感情」が心理的・行動的側面にどのような影響を与えるか等、心理学における感情の捉え方を、思想的背景も含めながら理解すること。併せて、感情を扱う心理学的な実験手続き等の基礎的な知識を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式とし、適宜、必要に応じてディスカッション等のやりとりを含めながら進めたい。感情および心理学領域での感情研究について具体的にイメージしやすくなるよう、単元によってはビデオ鑑賞や、簡単な実験、心理尺度の実施を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	感情の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	感情研究の理論と研究（1）	感情研究の生理的・認知的理論と研究について
第 3 回	感情研究の理論と研究（2）	感情研究の進化適応的理論と研究について
第 4 回	感情の発達	感情のめばえと感情発達について
第 5 回	感情と非言語的行動	表情、音声、動作などの非言語的行動と感情認知の関連について
第 6 回	感情の操作と測定	感情の操作方法、および、測定方法の説明
第 7 回	対人魅力と恋愛	対人魅力の理論、および、アタッチメントと対人関係について
第 8 回	感情と社会的判断	感情と社会的判断の関連について
第 9 回	感情と自己	感情と自己認知の関連について
第 10 回	感情のコントロール	ストレス・コーピング、感情制御について学ぶ
第 11 回	うつの病理と治療	うつ状態とその治療方法について
第 12 回	不安の病理と治療	不安障害とその治療方法について
第 13 回	幸福論	幸福感を心理学的観点から考える
第 14 回	まとめと試験	感情心理学について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごとに配布する文献・資料を熟読した上での授業参加を前提とする。その他、興味を持ったトピックについては、授業内で紹介する文献を含む関連図書・文献を読み、積極的に知識を深めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、毎回プリントおよび資料を配布する

【参考書】
授業で配布するプリントを参照すること

【成績評価の方法と基準】
試験（100 %）。試験は、授業内で取り上げた理論や研究例を理解し、基本的な知識を踏まえて説明できるかどうかを基準として評価する（資料持ち込み不可）。

【学生の意見等からの気づき】
Power Point を使用した講義の希望者が多いので、配布資料について、特に重要ポイントを示すなどスライドで提示する。講義を聞くだけでなく、履修者が理解を深められるよう、DVD 教材や簡単な質問紙、ワークシートを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
随時、授業資料等を授業支援システムにアップするので、必要に応じて利用すること。

【Outline and objectives】
There is a prevalent view in psychology about human emotion. One of the notion is that human emotion is obstacle to rational thinking and therefore has negative influence on cognitive processing. Although this view seems to be plausible and robust, many investigations have re-evaluated the nature and the function of emotion. It has been revealed that psychological systems are related to emotion and the emotion itself is the important basis of human development and cognition.
At the end of the course, participants are expected to understand and obtain basic knowledge about psychological view of and important function of emotion.

PSY200BG

対人認知論

足立　にれか

授業コード：A3671　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは日常生活の様々な局面で、他者や事象について判断したり推論したりする。この講義では、主にそうした判断や推論を導く心理特性や心理的プロセス、それらに影響を与える内的・外的諸要因について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
私たちが人や物事をとらえる際に影響する様々な心理特性や心理的プロセスについて学ぶことはもちろん、教科書的な理解にとどまらず、それらがどのように、日常生活や社会問題に密接に関わっているか理解できるようにすることが本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は一部もしくは全てオンラインでの開講とする。それにともなうシラバスの変更については、学習支援システムでその都度提示する。なお、本授業の開始日は 5 月 6 日（水）とし、具体的なオンライン授業の方法などについても事前に学習支援システムで提示する（2020/04/15 更新）。

前半では、印象形成やステレオタイプ研究など他者に関する判断や推論に関わる対人認知について学び、さらに併せて「他者」認知と密接に関わる「自己」認知プロセスについて学ぶ。後半では、人から事象へと対象を広げ、社会的事象に関する態度、推論や意思決定等についての認知プロセスを取り上げる。授業は講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	対人認知の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	古典的対人認知研究の理論と研究	認知革命以前の対人認知研究の理論と研究の紹介
第 3 回	近年の対人認知研究の理論と研究	認知革命以後の対人認知研究の理論と研究の紹介
第 4 回	ステレオタイプに関する基礎知識	ステレオタイプの基礎的知識を学ぶ
第 5 回	ステレオタイプの維持	ステレオタイプがどのように維持されるかを学ぶ
第 6 回	ステレオタイプの変容	ステレオタイプがどのように変容するかを学ぶ
第 7 回	メディアと対人認知	対人認知に関わるメディア研究について学ぶ
第 8 回	対人認知と対人関係の発達	対人認知と対人関係の発達的側面について学ぶ
第 9 回	自己認知と他者	他者が自己認知に及ぼす影響について学ぶ
第 10 回	社会的推論と原因帰属	人や社会的事象を判断する際の、原因推論に関わるエラーとバイアスについて学ぶ
第 11 回	メディアと社会的認知	メディアと、人や社会事象に対する認知との関係性について学ぶ
第 12 回	ヒューリスティック	社会的推論をする際に使用されやすい直観的な判断方略について学ぶ
第 13 回	態度と説得	社会的態度および経済・消費行動にはたらく心理メカニズムについて学ぶ
第 14 回	試験	対人認知について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んで授業に臨むこと。課題は提出日が示されない限り、翌週の授業時に提出することを原則とする。興味を持ったトピックやテーマについては授業で紹介する関連図書や文献に当たるなどして積極的に知識を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期、一部もしくは全てオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準については授業開始日に学習支援システムで提示する。(2020/04/11 更新)。

【学生の意見等からの気づき】
Power Point を使用した講義を希望する者が多いので、配布資料について、特に重要ポイントを示すなどスライドで提示する。講義を聞くだけでなく、履修者が理解を深められるよう、DVD 教材や簡単な実験、質問紙形式のワークシートを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
随時授業資料等を授業支援システムにアップするので、必要に応じて利用すること。

【その他の重要事項】
※※※※※※！！！！ 重要！！！ ※※※※※※※※※
コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、今期はリモート（遠隔）によるオンライン授業がメインになります。授業内容や方法の変更等については、今後、学習支援システムを通じて告知していきます。必ず確認するようにしてください。
※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

【Outline and objectives】
This course introduces the influence of psychological and social factors on interpersonal cognition as well as our everyday causal inference.
At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge and understand how those factors function and form our social realities especially from the perspective of social cognition.

PSY200BG

産業組織心理学

島宗　理

授業コード：A3721　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】
企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことを授業の最初にクイズで確認します。
講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1 ：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2 ：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1 ：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析
第 5 回	テーマパークその 2 ：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS ： Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES ： Employee Satisfaction）、ロイヤルティー
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介します。これに関連して、経営目標（売上，利益，粗利，利益率などなど），目標管理制度（MBO），バランス・スコアカード（BSC），PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。５大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力ー報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合 (連合) と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム (EAP)、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンズ、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱： QSP、マーケティング・チャネル、コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告 (/質問紙法) の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値 (プロダクト)、無形価値 (ブランド)、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。
第 13 回	グローバリゼーションとローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャネル（コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
第 14 回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので，自習を含めた復習をしてください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。

【参考書】
研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
○島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
○授業内クイズ 100%で成績を評価します。
○授業を欠席したときには授業内クイズを補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内クイズの得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】
（2019 年度の授業改善アンケートより）
高い評価をいただきました。特別講義については特別講師招聘希望と通常授業希望の比がおよそ 1:2 でした。通常授業を希望する人も特別講義の分野については希望を書いてくれた人が多く，順不同ですが，以下のような業種や人物が挙げられていました；コンサルティング, 広告, 塾などの教育関係，人事，公務員，アパレル，イーロン・マスク，旅行や航空。最後の３つ以外は招聘したことがある領域です。アパレルや航空などのコンサルティング事例を追加するという手もありそうです。検討します。
スライドの数が多く，スライドの進行速度が早すぎるという感想を何人かからいただきました。スライドは授業ノートで公開していますから，事前に読むこともできますし，授業で見逃したところは後で復習することもできるようになっています。適切な進行速度には個人差があるので，どうしても「早すぎる」,「遅すぎる」という感想をいただく人がでてくるものです。ついていくのが大変だと思う場合は《予習する》ことで，見逃した場合には《復習する》ことで対応してもらえればと思います。

【その他の重要事項】
○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

PSY200BG

人工知能

市瀬　龍太郎

授業コード：A3674　｜　曜日・時限：**火曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です．この授業では，人間の知能を機械で実現する方法を通して，人間の知能を考えていきます．

【到達目標】
人工知能を通して，人間や機械の知能の仕組み，考え方についての説明ができるようになることを目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
人工知能の仕組みを紹介することによって，人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点，相違点についての理解を深め，知能について考えていきます．授業は，主に講義形式で行います．また，適宜，ビデオなどの視聴覚教材も使用します．本授業は，４月２１日から開講します．詳しくは学習支援システムをご参照ください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは？	人工知能の概要
第 2 回	人工知能の研究分野	人工知能研究全体像の概観
第 3 回	知的エージェント	人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論
第 4 回	認知アーキテクチャ	知的動作を実現するための内部構造を解説
第 5 回	問題解決・探索	問題解決を行う方法を解説
第 6 回	ゲーム	知能の一つとしてゲームを取り上げ，機械の知能の実現方法を解説
第 7 回	中間まとめ	人工知能の授業についての中間まとめ
第 8 回	推論	論理を使った思考方法について解説
第 9 回	知識の表現	知識の表現方法について解説
第 10 回	機械学習	機械が学習する手法について解説
第 11 回	データマイニング	データからの知識発見手法について解説
第 12 回	自然言語処理	言語をどのように機械が理解するかについて解説
第 13 回	人工知能と社会	人工知能技術の応用と社会的影響について解説
第 14 回	まとめ	人工知能の授業についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業の内容に応じて，文献調査．復習のためのレポート作成などの課題を行う．本授業の学習・復習時間は、各 2.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
人工知能　改訂２版，本位田監修，松本，宮原，永井，市瀬著，オーム社，2016
その他，授業の内容に則して，適宜，参考文献を紹介します．

【参考書】
エージェントアプローチ人工知能，第２版，Russell ら著，古川監訳，共立出版，（2008）

【成績評価の方法と基準】
授業レポート（60 %），中間レポート（20 %），期末レポート（20 %）の合計により評価．

【学生の意見等からの気づき】
授業内容・配布資料の改善，および，授業における復習の強化．

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを閲覧できる環境，および，学習支援システムに投稿できる文書の作成環境

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of artificial intelligence to students taking this course.

PSY200BG

精神生理学特講

高橋　敏治

授業コード：A3659　｜　曜日・時限：**木曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます．専門医として臨床経験を活かし，睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます．

【到達目標】
健康や臨床との関わりの中で，睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする．精神生理学的領域の研究を再現し，論文作成に活用できるようにすること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら，精神生理学のアプローチの成果を学びます．心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら，睡眠の基礎から，睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます．睡眠，過眠，リズム障害をキーワードにして，24 時間社会の問題点を最新の論文，トピックスなどから取り上げます．
授業開始は 5 月 7 日（木）を予定します。
それまでに履修登録、よく使用するメイル登録をお願いします。
Youtube 等による限定配信などを考えていますが、未確定の部分もあるため確定次第、学習支援のお知らせを用いて皆さんに周知します。
また課題などが出ますので、添付可能なメイルを必ず登録して下さい。
対面授業が可能になるまでオンライン授業を継続します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第 2 回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM 睡眠・NREM 睡眠の違い
第 3 回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第 4 回	睡眠測定法 1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第 5 回	睡眠測定法 2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際
第 6 回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第 7 回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）
第 8 回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第 9 回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第 10 回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第 11 回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当に REM 睡眠に関係するのか？
第 12 回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第 13 回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群，むずむず脚症候群，REM 睡眠行動障害など
第 14 回	睡眠とメンタルヘルス 総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？ うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています．
第 1 回　睡眠に関した精神生理学的基礎知識確認レポート作成
第 2 回～第 10 回　授業内容で扱う睡眠全般に関関したレポート作成
第 11-13 回　期末レポートに関する質問や参考事項
第 14 回　期末試験（時期は授業内で指示）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いませんが，事前に文献・プリントを配布します．

【参考書】
堀忠雄（2008）．睡眠心理学．北大路書房，京都．
堀忠雄（2008）．生理心理学．培風館，東京．

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題提出を含む平常点（50 %），期末試験（50 %）で評価を行います．春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します．具体的な方法と基準は，上記を参考に授業開始後に学習支援システムで提示します．

【学生の意見等からの気づき】
22 人の受講者のうち 6 名から回答を頂きました．授業の工夫では 4.5 の評価をしてくれていました．授業以外の課題も多かったのですが，週 1 時間から 2 時間が一番多い結果でした．自由記述では，「生活上とても大切な睡眠について学べてよかった」「毎回楽しく，休まず出席した」など，自分の生活習慣を見直すきっかけとしてくれた意見がありました．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンや授業支援システム（資料配布，課題提出，お知らせのため）を使用します．授業支援システムには，必ず普段よく使用するメイルを登録してください．

【その他の重要事項】
実施の順序については変更することがあり，授業の中や授業支援を用いて案内しますので，注意してください．オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．

【Outline and objectives】
In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

PSY200BG

言語学特講Ⅰ

田嶋　圭一

授業コード：A3660　｜　曜日・時限：**木曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは，ことばを無意識に，かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では，その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。春学期では，言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。

【到達目標】
言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論の基礎的枠組みを学び，その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し，問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して，無意識に使っている言語の背後にある知識を意識化し，言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論），単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。また，授業内容に関する課題を学習支援システム経由で出題します。【重要】キャンパス入構制限に伴う変更点や授業開始日については学習支援システムで本科目を仮登録して確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入，言語と言語学	シラバスの説明，言語とは，「真の言語」の特徴
第 2 回	言語知識	2 種類の言語，言語に関する様々な知識，言語学の諸分野
第 3 回	形態論への導入	心内辞書と一般辞書，形態論と形態素，形態素の種類
第 4 回	語形成過程（1）：様々な語形成過程	語形成過程の種類，偶発的な語形成，少し規則的な語形成，規則性の高い語形成：複合
第 5 回	語形成過程（2）：複合，派生	複合語の意味，主要部の考え方，派生語
第 6 回	語形成過程（3）：派生，転換，屈折	複雑な派生語の構造，語の樹形図，転換，屈折・活用
第 7 回	形態素解析（1），異形態	形態素解析の方法と練習問題，異形態とは
第 8 回	形態素解析（2），語彙範疇，格	形態素解析の練習問題つづき，日英語の語彙範疇格とその種類
第 9 回	統語論（1）：導入	構成素，句構造，句の主要部
第 10 回	統語論（2）：カテゴリー，意味役割，マージ	言語の階層構造，文を作り上げるための材料：カテゴリー，項と意味役割，文を組み立てる仕組み：マージ，様々な種類の句
第 11 回	統語論（3）：文の組み立て	英語の文・日本語の文の組み立て，VP の組み立て，屈折辞と格，一般的な句の構造
第 12 回	統語論（4）：補文	VP の拡張，補部と指定部，文の中の文＝補文
第 13 回	統語論（5）：補文つづき，授業のまとめ	課題の復習，授業のまとめ
第 14 回	期末試験，授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定範囲を読んだり，出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して，授業内容を復習し次の回に備えること。さらに，学期中に数回小テストを実施するので，これらに備えることで，内容の理解度をこまめにチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。レジュメ等をエチュード経由で配布します。

【参考書】
参考書として以下を挙げておきます。

西光義弘（編集）（1999）．日英語対照による英語学概論：増補版　くろしお出版.
上山あゆみ（1991）．はじめての人の言語学　―ことばの世界へ―　くろしお出版.
星浩司（2006）．言語学への扉　慶應義塾大学出版会.
大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）．言語研究入門　―生成文法を学ぶ人のために―　研究社.
Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.
Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題 30%、小テスト 20%、期末試験 50%の割合で評価する予定です。言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また，積み重ねの要素が大きく，授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し，授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また，小テストや課題を通して，内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合，または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。【重要】キャンパス入構制限に伴う採点方法の変更点などについては学習支援システムで本科目を仮登録して確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度春学期は，回答者 28 名のうち，25 名（89%）が「履修してよかった」（前年 95%），24 名（86%）が「理解できた」（前年 95%），28 名（100%）が「工夫されていた」（前年 95%）と回答してくれました。いずれも高い評価をいただき大変嬉しく思います。授業外学習時間については「30 分～1 時間」と「週 1 時間以上 2 時間未満」という回答がおよそ 4 割ずつで，こちらも前年度と同程度でした。授業内容，配布資料，小テスト，課題，グループワーク，いずれについても肯定的なコメントを多くいただきました。授業中に講義内容に関連する問題を自分で解いてみる → グループワークの時間に学生同士で理解度チェックや不明な点を確認し合う → 家に帰って課題に取り組む → 課題提出後に表示されるフィードバックを読んで間違えた箇所をチェックする → 次回の授業で特に誤答の多かった問題に関する解説を聞く，という一連の流れが効果的だったようなので，今後も続けたいと思います。一方，配布資料が多かった，課題の問題数が多かった，課題提出のリマインダーが欲しい，といったコメントもいただきました。リマインダーについては，エチュードにそういう機能がないので仕方ありません。配布資料の多さは否めませんが，資源の無駄遣いにならない他の配布方法が今のところ思い当たりません。課題の問題数の多さは，内容の定着にはやむを得ないと考えていますが，見直してみる余地はあるかも知れません。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Being able to speak a particular language requires knowledge of many aspects of that language. This course introduces students to the field of linguistics, which attempts to uncover this tacit knowledge of language. The spring semester will focus on morphology and syntax, which deal with the structure of words and sentences.

PSY200BG

言語学特講Ⅱ

田嶋　圭一

授業コード：A3661　｜　曜日・時限：**木曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、ことばを無意識に、かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では、その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。秋学期では，言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。

【到達目標】
言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び，その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し，問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して，無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し，言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な言語音の発音方法や表記方法（音声学），日本語や英語など色々な言語の音の特徴や決まり（音韻論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。また，授業内容に関する課題を学習支援システム経由で出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入，音声学と音韻論	シラバスの説明，音声学と音韻論の違い
第 2 回	音声学への導入，発話のメカニズム	音声学とは，発話のメカニズム，音声器官，音声学的直観を磨く：母音
第 3 回	母音	母音の調音的記述・有標性，音声学的直感を磨く：子音
第 4 回	子音	子音の調音的記述・有標性，自然音類
第 5 回	音声を書き起こす方法	日本語の音素表記と音声表記
第 6 回	日本語の発音	長音，促音，撥音，ガ行鼻音化，母音無声化など
第 7 回	英語の発音	英語の音素表記と音声表記
第 8 回	音韻論への導入，音素	音と意味との関係，音素，ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性，音素分析
第 9 回	日本語の音韻変化	撥音の同化，ハ行音の同化，母音の融合・交替，連濁など、音素分析の練習問題
第 10 回	音象徴	音象徴，オノマトペ，音素分析の練習問題つづき
第 11 回	リズム	日本語のリズム，モーラ，英語のリズム，音節
第 12 回	アクセント	アクセントとは，東京方言のアクセント，アクセントの規則と表記法
第 13 回	アクセントと方言，複合語のアクセント，イントネーション，授業のま	アクセントの方言差，複合語のアクセント変化，イントネーション
第 14 回	期末試験，授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定範囲を読んだり，出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して，授業内容を復習し次の回に備えること。さらに，学期中に数回小テストを実施するので，これらに備えることで，内容の理解度をこまめにチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。レジュメ等をエチュードに掲示します。

【参考書】
参考書として以下を挙げておきます。
西光義弘（編集）（1999）．日英語対照による英語学概論：増補版　くろしお出版.
上山あゆみ（1991）．はじめての人の言語学　―ことばの世界へ―　くろしお出版.
星浩司（2006）．言語学への扉　慶應義塾大学出版会.
大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）．言語研究入門―生成文法を学ぶ人のために―　研究社.
Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.
Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題 30%、小テスト 20%、期末試験 50%の割合で評価する予定です。言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また，積み重ねの要素が大きく，授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し，授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また，小テストや課題を通して，内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合，または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度秋学期は，回答者 18 名のうち，95%が「積極的な工夫がされていた」，89%が「理解できた」，同じく 89%が「受講してよかった」という問に「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習については，過半数の人が「週 30 分― 1 時間」という回答でしたが，「ほとんど行っていない」と回答した人も数名いました。具体的な感想として「課題、小テストは覚える量や理解度が重要なこの授業内容において非常に効果的なものだったと思う」「内容の興味深さもさることながら、課題や小テストなど、勉強そのものが楽しいと感じられる構成になっていたことが、やはり素晴らしいと感じる」といったありがたいコメントをいただきました。ペアワークについては，肯定的な意見（理解が深まるなど）が多かったですが否定的な意見（毎回組む人が変わると辛い）もゼロではありませんでした。苦痛を感じながら授業を受けるのはとても気の毒に思いますが，「誰でも対応できる力」は社会人にとって重要なスキルです。今から授業を通して磨くのも悪くないと思います。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Being able to speak a particular language requires knowledge of many aspects of that language. This course introduces students to the field of linguistics, which attempts to uncover this tacit knowledge of language. The fall semester will focus on phonetics and phonology, which deal with the sounds of language.

PSY200BG

認知科学特講

田嶋　圭一

授業コード：A3662　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は言語を「話す」または「聞く」能力を 3-4 歳までにある程度習得しますが，「読む」または「書く」能力はより時間と労力を要します。また，人間同様に流暢に会話ができるコンピュータは未だ完成していません。これはなぜでしょう？　本授業ではこのような疑問を出発点に，話し言葉の認知処理過程について学びます。具体的には，音声言語の発話と知覚の仕組み，音声の物理的な特徴，乳幼児による母国語の知覚能力の発達，成人による外国語音声の学習などについて，音声科学，音響学，心理学といった分野の知見を学びます。

【到達目標】
話し言葉が話し手にどのように産出され，音としてどのような特徴を持ち，聞き手にどのように知覚されるのかについて，説明できるようになることが目標です。音声分析ソフトを使って話し言葉の特徴を分析できるようになることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式ですが，視聴覚教材を使ったデモや，個別やグループで課題に取り組む時間などを取り入れます。また，音声分析ソフト Praat を使った演習も実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，コミュニケーションの手段，音声言語と文字言語，「言葉の鎖」
第 2 回	音声とは	音声の確実性と速さ，音声産出のメカニズム，母音と子音
第 3 回	音響音声学の基礎（1）	音の正体，音の種類，音を可視化する方法，音声のデジタル化
第 4 回	音声の音響分析	Praat を使った音声の録音・可視化・編集・分析
第 5 回	音響音声学の基礎（2）	フィルタ，音声産出の音源フィルタ理論，基本周波数，フォルマント周波数
第 6 回	母音の知覚	分節音とプロソディ―，聴覚器官，母音の特徴と知覚，母音の正規化
第 7 回	子音の知覚（1）	音響的不変性の欠如，ローカス理論，音声の符号化
第 8 回	音声の再合成	Praat を使った音声の録音・分析・再合成
第 9 回	子音の知覚（2），カテゴリー知覚	調音点の知覚，声の有無の知覚，カテゴリー知覚とは，同定と弁別
第 10 回	音声知覚の実験	Praat を使った同定課題と弁別課題の演習
第 11 回	音声知覚の発達	生得と学習，乳児の音声知覚，満 1 歳までに起こる変化
第 12 回	外国語の音声知覚	成人でも外国語が聞き取れるようになるか，知覚と産出との関係，外国語音の知覚的同化
第 13 回	文脈の影響	トップダウン処理とボトムアップ処理，音声知覚と単語認知のモデル
第 14 回	音声と社会的認知，総括	話し方と対人認知の関係，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業にて指示されたテキストの範囲を読み，復習問題に回答し，次の授業までに学習支援システム経由で回答を提出すること。また，音声分析用フリーソフト Praat を使った課題を学期中に数回課すので，課題を行い成果を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下の本を授業で参照したり，関係する章を宿題として読んでもらったります。該当部分を学習支援システムにアップしますので，各自保存・印刷してください。
ジャック・ライアルズ（著），今富摂子他（訳）（2003）．音声知覚の基礎　海文堂.

【参考書】
音声科学，言語心理学などの入門書として，以下を挙げておきます。
北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳（2017）．音声学を学ぶ人のための Praat 入門　ひつじ書房.
石川圭一（2005）．ことばと心理　くろしお出版.
針生悦子（編）（2005）．朝倉心理学講座 5　言語心理学　朝倉書房.
廣谷定男（編著）（2017）．聞くと話すの脳科学　コロナ社.
川崎恵里子（編著）（2005）．ことばの実験室　ブレーン出版.
森　敏昭（編著）（2001）．おもしろ言語のラボラトリー　北大路書房.
重野　純（2003）「音の世界の心理学」ナカニシヤ出版.
ダニー・スタインバーグ（著），竹中龍範，山田純（訳）（1995）「心理言語学への招待」大修館書店.
Denes, P. & Pinson, E. (1993). *The Speech Chain: The Physics and Biology of Spoken Language*, W H Freeman & Co.

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%，課題 40%，期末レポート 40%の割合で評価する予定です。原則として，授業を 4 回を超えて欠席した場合，期末レポートの提出がなかった場合，あるいは Praat を使った課題の提出がなかった場合は，単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が少なかったですが，そのぶん受講者の理解度に合わせて授業を進められたように思います。「積極的な工夫がされていた」「受講してよかった」については 100%の人が，「理解できた」については 75%の人が「5」または「4」と回答してくれました。授業内容が難しかったため，理解度が不十分と感じた人がいたのかも知れません。授業外学習については，「週 30 分― 1 時間」が 1 名，「週 1-2 時間」が 1 名，「週 2-3 時間」が 2 名いました。「授業中のグループワークや課題が理解度のチェックになった」「学べたことが多い良い授業でした」といった肯定的なコメントもありましたが，「エチュードの課題提出ページがギリギリまで上がっていないことがあった」といった改善点の指摘もいただきました。以後気を付けたいと思います。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
People can learn to talk by the time they are 3-4 years old, but learning to read and write takes more time and effort. Meanwhile, building computers that can talk as fluently as people has been and continues to be a challenge. Why is this? This course addresses these questions by introducing students to the cognitive processes underlying the use of spoken language. Students will learn about how spoken language is produced and perceived, what physical characteristics spoken language havw, and how it is processed by adults, children, and non-native speakers.

PSY200BG

認知心理学特講

吉村　浩一

授業コード：A3663　｜　曜日・時限：**木曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知覚心理学が扱っているいくつかのテーマを取り上げ、知覚という機能の重要性を理解することを目的とします。

【到達目標】
「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることほど確かなことはないようにいわれがちですが、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができるはずです。本授業では、認知心理学の中でも知覚機能に焦点を当て、大学生のみならず中高生にとっても興味関心の高いアニメーションの動き・色彩やアート、食べ物の食感などの知覚のありようを捉え、個々人の知覚を絶対視せず、公正に評価できる能力を育てる一助となることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインによる授業開始日は 4 月 21 日です。その日までに第 1 回の課題を提出しますので、学習支援システムの当該科目に仮登録し、お知らせ・掲示板・教材・課題を確認してください。
　講義形式での授業ですが、知覚心理学における画像や運動現象を中心に扱うので、パワーポイントなどを活用し、授業で取り上げるさまざまな知覚現象をデモンストレーションしつつ進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の概要説明
第 2 回	視覚の神経メカニズム	講義全体を理解する基礎的知識としての知覚神経生理の解説
第 3 回	知覚の諸理論	知覚に関わる諸現象を理解する枠組みとして必要な主要な知覚理論の解説
第 4 回	左右の混同と鏡像反転問題	空間の左右性をめぐる諸問題の解説
第 5 回	運動知覚の不思議	動き始めるとそれまでとはまってく違って見える諸現象の紹介
第 6 回	アニメーションと運動知覚（1）	仮現運動とアニメーションの動きについて解説
第 7 回	アニメーションと運動知覚（2）	実写映画とアニメーションの動きの違い
第 8 回	アニメーションと運動知覚（3）	アニメーションの技法としての「オバケ」の解説
第 9 回	不可能図形への心理学からの取り組み	平面図形のもつ不思議さの解説
第 10 回	アート鑑賞	絵画の展示解説文から知覚と鑑賞との関係を捉える
第 11 回	色彩の心理学	色彩は知覚対象であるだけでなく、イメージなど印象形成にも大きく貢献する。色彩についての知覚的アプローチとイメージ研究とを比較しながら解説
第 12 回	食感の感性	「味覚」と考えられているもののかなりの部分は「食感」が担っている。食感についての心理学的研究を解説
第 13 回	言葉のもつ多感覚性	多感覚的情報をもつ語彙群というべき「オノマトペ」を認知心理学的に利用する研究の可能性を紹介
第 14 回	全体の総括	授業で取り上げてきた内容を振り返り、相互の関連性を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１、２回ごとに１問、授業についての問いを掲げそれを学レポートのテーマとしますので、各回の授業終了後、記憶が鮮明な打ちに復習し、授業内容を補足する情報を収集し、自分の考えとしてまとめる作業を授業時間外に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使いません

【参考書】
吉村浩一『運動現象のタキソノミー：心理学は“動き”をどのように捉えてきたか』2016 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %と期末テスト 30 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
解説内容が抽象的にならないよう、授業者自身が実際に行ってきた研究を使って解説を組み立てます。また、授業で使うパワーポイントの原稿は、授業の前の週にアップするようにします。

【Outline and objectives】
This course deals with some topics in the field of perceptual psychology, and the aim of this course is to help students understand the importance of the function.

PSY200BG

言語心理学特講

福田　由紀

授業コード：A3723　｜　曜日・時限：**木曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の目的は，私たちが日々直面している言語的コミュニケーションの問題を心理学的なアプローチから解決することです。その方策をグループ活動（実習）を通して考えて，自分の言語力をあげていきましょう。この授業では，言語力とは，１つの能力だけでなく，話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】
①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
②言語心理学的知識を基礎にして，日常への応用への提言ができる。
③自分の言語力を省察し，開発することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本は講義形式です。授業中，教科書を使いますので毎回持参してください。様々な問題について 10 回の実習を行います。そこでは，グループで討論をし、発表します。。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，言語力とは	授業の進め方の確認，言語力とは？
第 2 回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第 3 回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第 4 回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し，より良い合意形成を目指す
第 5 回	伝わる文章１：言葉の特性，実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第 6 回	伝わる文章２：実習④悪文から学ぶ	校正を通して，分かりやすい文章を作成する
第 7 回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して，わかりやすく説明をする
第 8 回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解，イメージ能力，心情理解，感情推論
第 9 回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	ＰＩＳＡの読解力，米国の実践例，眼球運動の実験
第 10 回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語の RST	第二言語の難しさ
第 11 回	発達性読み書き障がいとは１	ビデオの視聴
第 12 回	発達性読み書き障がいとは２：実習⑨支援をグループディスカッションから考える	どのような支援ができるか，洗練された討論を通じて合意形成を目指す
第 13 回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方，支援の考え方
第 14 回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。
第 1 回　言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り，書いてください。
第 2 回　集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がいいと思いますか？
第 3 回　合意形成の極意は何だと思いますか？ 1 番重要だと思う事から順に３つ挙げてください。
第 4 回　言葉にまつわることで，何か誤解したことや，笑い話しはありませんか？
第 5 回　『彼女 (あなたの友人) は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。
第 6 回　スキーマの定義を書いてください
第 7 回　次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？
第 8 回　文章の挿絵は理解を促進しますか？
第 9 回　あなたはどのくらい英語が得意ですか？
第 10 回　発達性読み書き障がい字・者の日常生活上の困難を予想する。
第 11 回　WAIS-R の数唱は何を調べているか？
第 12 回　模擬期末テストを作成する。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」　福田由紀編　培風館　2012 年

【参考書】
適宜，紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は，平常点 20%と期末試験 80%により決定されます。平常点には，授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末試験では，選択問題（含む応用問題）を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】
　2019 年度の気づきです。この授業の特徴は，「実習」と「心理学的事象の解説」がセットになっている点です。心理学が日常にどう役立てるのか，「言語力を伸ばそう！」という目的を掲げてやっています。よって，心理学の基礎知識があることが前提ですが，今年度から他学科に開きました。そのため，理解度が気になっていましたが，すべての人が５件法で３以上を選択してくれていて，安心しました。
　また，コメント見ると，グループワークが良い刺激になった，就活の予行練習ができたなど好評でした。一方，授業のワークに使う宿題の点数を上げることにより，忘れる人が少なくなるのでは？ という貴重なご意見もいただきました。それを踏まえて，2020 年度の評価基準を見直しました。ありがとうございました。

【その他の重要事項】
　この授業は，初回から実質的な内容に入ります。また，授業計画に変更がある場合には第 1 回の授業中にお知らせをする予定です。そのため，受講希望者は，必ず初回の授業を受けて下さい。
　また，文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた知見に基づき，受講生の言語力をあげるためのグループワークを行います。

【実験や調査への参加】
　授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn various psychological approaches trying to solve the problems in our communication. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language by participating in group activities.

PSY200BG

行動分析学特講

島宗　理

授業コード：A3669　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行動分析学は「人はなぜそのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード A3670）の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。
また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】
以下の２つを目標とします。
(1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
(2) 日常生活における行動問題に対し、ABC 分析や AB 分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
(3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
発達臨床（自閉症や ADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。
毎回、「じぶん実験」に関する演習を行います。そして学期末には「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。 ・じぶん実験の標的行動を決定します。
第 3 回	発達臨床 II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第 4 回	“理解” の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係フレーム理論。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第 7 回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第 9 回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。
第 10 回	“記憶” の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。 ・じぶん実験で介入の効果を視覚化し、検証します。
第 11 回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数にいて考察します。
第 12 回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数にいて考察します。
第 13 回	“動機づけ” の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。
第 14 回	プレゼンテーションとまとめ	・じぶん実験の結果を発表します。 ・じぶん実験のレポートを作成し、提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、「じぶん実験」に関する課題を出します。教科書を読みながら課題に取り組んで下さい。最終的に「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房

【参考書】
○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館
○『ワードマップ：応用行動分析学』（島宗、2019）
他にも、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
○毎回授業内で提出してもらう演習のワークシートもしくはクイズを採点し得点化します。配分はじぶん実験に関する課題が最終レポートを含めて 50%、その他の授業内課題が 50%です。但し、最終レポートを提出しないと成績はつきませんので注意して下さい。
○授業を欠席したときには授業内課題を補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内の課題得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】
（2019 年度の授業改善アンケートより）
高い評価をいただきました。昨年度の気づきを読み直すと「じぶん実験を主とし，授業内容を大幅に刷新したのですが，欲張りすぎたかもしれません」と書いてあります。今年度は講義の分量を減らしたのですが，それでも，じぶん実験以外に，発達障がい，記憶，理解，言語行動，スポーツなどを扱い，さらに論文読解まで課題にしまいました。欲張りすぎてオーバーワークだったかもしれません。けん玉課題に 3 回かかってしまった原因なども調べつつ，来年度は課題一つひとつの習得度を上げるために内容を精選しようと思います。

【その他の重要事項】
○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

PSY200BG

学習心理学特講

藤田　哲也

授業コード：A3682　｜　曜日・時限：**木曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習の中でも中核をなす「記憶」について学ぶことを通じて，自分自身を客観的に見つめ直すことがこの授業の目的です。

【到達目標】
授業を通じて，以下の要素について理解を深め，自分自身の日常生活との関連をふまえて説明できるようになることが到達目標です。
1．人間の記憶は，その種類や特徴によって多面的に捉えることが可能であること。
2．それぞれの記憶が，自分自身を含めた人間の認知活動において重要な役割を果たしていること。
3．そのような記憶を研究するためには，適切な実験法を用いることが有効であること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
「人間の記憶」についての心理学研究の歴史的流れをふまえながら，記憶の多様性について，具体的な実験データに基づいて説明します。人間の記憶には様々な特徴があり，果たしている機能の違いによって分類され，研究されているということを理解します。そのために，ほぼ毎回の授業で，簡単な記憶実験のデモンストレーションを行います。積極的に参加することで，それぞれのトピックおよび実験法についての理解を深めてください。実験のデモは行いますが，基本的には講義形式の授業です。
授業内では理解深化のために学生同士のペアワークを行います。また授業終了時には振り返りを行った上で感想を記入し，提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	短期記憶と作動記憶	両者の重要な違い
第 3 回	意味記憶	意味記憶ネットワーク
第 4 回	エピソード記憶	最も一般的な実験とは
第 5 回	目撃証言	記憶の歪み
第 6 回	偽りの記憶	記憶は簡単に作れる
第 7 回	展望的記憶	未来の行為も記憶
第 8 回	潜在記憶	無意識的な記憶
第 9 回	自動的 vs. 意図的記憶	潜在記憶の応用
第 10 回	メタ記憶	自分の記憶を把握する
第 11 回	自伝的記憶	記憶こそが人生の要
第 12 回	レポート回収と解説	レポート自己評価
第 13 回	脳と記憶	実際の事例による理解
第 14 回	レポート返却と総括	到達度の自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の授業外学習は，準備学習を兼ねた復習の 4 時間を標準とします。毎回，新たな記憶のトピックを紹介しますが，以前の授業内容との関連が深いので，毎回配付される授業通信に基づき，復習をすることが準備学習を兼ねます。また，各回の授業後には，レポートに備えて，授業内容を自分自身の日常生活・認知活動と関連づけて考えておきましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
毎回の授業内容に合わせて，随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。
「大学基礎講座」藤田哲也 (編)(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）…授業に出席し，実験に参加するだけでなく，「自分にとっての記憶」について考えを深めた結果を，毎回の授業終了時に感想用紙に記入して提出してください。
期末レポート（60%）…授業内容について基本事項を理解しているかどうかと，その内容を自分自身の問題意識に適切に結びつけているかどうか，そして適切な先行研究を参照することで，授業で学んだ内容を，自分でさらに発展させることができているかどうかを主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度は受講生自体が少なめでしたが，5 名が「履修してよかったか」で (5)，1 名が (4) という回答でしたので，及第点をもらえたと受け止めています。自由記述はほとんどなくて，「実験をやってから授業を行うので理解しやすい」という意見のみいただきました。この方針は今後も継続します。授業外学習時間については最頻値が 2 時間～1 時間で 3 名，長い人で 3 時間以上が 1 名である一方で，「ほとんど行っていない」も 2 名いました。この授業では特に予習などの課題を課しておらず，自主的かつ発展的な学習に委ねていたのですが，今後は復習を中心に，授業後の課題を出したいと思います。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明をしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。授業の冒頭に行う実験自体が教材となっていますので，毎回，遅刻せず，積極的に授業に参加することを求めます。

【Outline and objectives】
In this class, students objectively reconsider themselves through learning about "memory" which is the core of learning.

PSY200BG

情報処理技法 I

山口　剛

授業コード：A3675　｜　曜日・時限：**水曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について，必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは，レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際，あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。
（なお，上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため，基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は，他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて，上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。
＜ Word ＞
ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また，Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。
＜ Excel ＞
基本操作を身につけ，実験や調査の準備に用いることができる。そして，実験あるいは調査で得られたデータについて，適切な形成や処理を行うことができる。また，処理の結果を表や図で表現することができる。
＜ PowerPoint ＞
プレゼンテーションの基礎を理解し，自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
特別措置の間は，学習支援システムに学習内容の教材をアップします。その資料を用いて学習を進めてください。そして，各回の課題もアップされているので，それも実施してください。質問等にも対応します。4 月 22 日 (水) より開始します。
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認，タッチタイピングやショートカットキーについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か，基本操作	Word の基本操作の確認，論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト，スタイル，ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入，関数とは，オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照，複合参照，よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数，擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か，フィルターなど
第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形，用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か，基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（50%）：一度だけ出題されます。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，「最終課題」を提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。授業時間外に課題に取り組む場合，あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

PSY200BG

情報処理技法 I

山口　剛

授業コード：A3676　｜　曜日・時限：**水曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について，必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは，レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際，あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。
（なお，上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため，基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は，他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて，上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。
＜ Word ＞
ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また，Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。
＜ Excel ＞
基本操作を身につけ，実験や調査の準備に用いることができる。そして，実験あるいは調査で得られたデータについて，適切な形成や処理を行うことができる。また，処理の結果を表や図で表現することができる。
＜ PowerPoint ＞
プレゼンテーションの基礎を理解し，自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
特別措置の間は，学習支援システムに学習内容の教材をアップします。その資料を用いて学習を進めてください。そして，各回の課題もアップされているので，それも実施してください。質問等にも対応します。4 月 22 日 (水) より開始します。
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認，タッチタイピングやショートカットキーについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か，基本操作	Word の基本操作の確認，論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト，スタイル，ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入，関数とは，オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照，複合参照，よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数，擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か，フィルターなど
第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形，用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か，基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（50%）：一度だけ出題されます。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，「最終課題」を提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。授業時間外に課題に取り組む場合，あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

PSY200BG

情報処理技法 II

山口　剛

授業コード：A3677　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば PsychoPy），および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また，実験に関して学ぶ内容は，調査においても用いることができる。
（なお，扱う内容は実験や調査，統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が，その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，各アプリケーションを適切に用いることができる。また，設定のミスなどに自ら気がつくことができ，適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。
＜実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy）＞
適切な実験計画を立て，その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。
（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な，比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）
＜統計解析ソフトウェア（JASP）＞
研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また，その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か，その注意点，どのような機能があるか
第 3 回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点，刺激ファイルの取り込み
第 4 回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か，その注意点，実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 8 回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また，回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 10 回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か，どのようなときに使うのかを把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か，測定方程式と構造方程式は何か把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（25%×2）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリを使用する可能性があります。大学 PC で扱うことのできる USB を準備しておいてください（USB 3.0 など）。
授業時間外に課題に取り組む場合，あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。また，扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので，自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので，本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。上記の定員を超えた際の措置に，「春学期も履修していたか」が含まれる可能性もあります。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy which can visually construct experiments and JASP which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

PSY200BG

情報処理技法 II

山口　剛

授業コード：A3678　｜　曜日・時限：**水曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば PsychoPy），および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また，実験に関して学ぶ内容は，調査においても用いることができる。
（なお，扱う内容は実験や調査，統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が，その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，各アプリケーションを適切に用いることができる。また，設定のミスなどに自ら気がつくことができ，適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。
＜実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy）＞
適切な実験計画を立て，その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。
（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な，比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）
＜統計解析ソフトウェア（JASP）＞
研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また，その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か，その注意点，どのような機能があるか
第 3 回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点，刺激ファイルの取り込み
第 4 回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か，その注意点，実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 8 回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また，回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 10 回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か，どのようなときに使うのかを把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か，測定方程式と構造方程式は何か把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（25%×2）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリを使用する可能性があります。大学 PC で扱うことのできる USB を準備しておいてください（USB 3.0 など）。
授業時間外に課題に取り組む場合，あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。また，扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので，自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので，本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。上記の定員を超えた際の措置に，「春学期も履修していたか」が含まれる可能性もあります。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy which can visually construct experiments and JASP which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

PSY200BG

心理学英語Ⅰ

常深　浩平

授業コード：A3720　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
【開始日について】4/27（月）10:40 までに，初回の内容を学習支援システムに配信します。案内が遅れまして申し訳ありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる
第 2 回	Nature and Nurture	生まれか育ちかを巡る心理学小史の英文読解例を聞き、今後の発表形式を理解する
第 3 回	Contemporary psychological perspectives	自分の関心のある心理学の領域についての小文を和訳して発表する
第 4 回	Attachment (1)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 5 回	Attachment (2)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第 6 回	Obedience to Authority (1)	ミルグラムの服従の研究の読解（なぜこのような研究を行ったかを理解する）
第 7 回	Obedience to Authority (2)	ミルグラムの服従の研究の読解（この研究の社会的影響を考察する）
第 8 回	Identity Development (1)	アイデンティティーの発達に関する英文の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 9 回	Identity Development (2)	アイデンティティーに関する内容に基づいて考察し、簡単な英文で表現する
第 10 回	Identity Development (3)	アイデンティティーに関する内容を相互に発表し合う
第 11 回	Brain and Neuron	脳と神経細胞に関する英文の読解
第 12 回	Brain and Area	脳領域に関する英文の読解および読解内容に基づくディベート
第 13 回	A study of Infant Memory	乳児の記憶についての小文を読み，元となった論文について知る
第 14 回	学術論文を読む練習	論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、 リーディング教材を配布する。

【参考書】
英語辞典

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内課題）60%
発表（担当箇所のレジュメ作成・発表）40%

【学生の意見等からの気づき】
リーディング課題は下読みの時間に余裕が取れるよう早めに提示する。

【Outline and objectives】
This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

PSY200BG

教育心理学

福田　由紀

授業コード：A3623　｜　曜日・時限：**金曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は，発達心理学や学習心理学，言語心理学，脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日，皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
②教育という営みを心理学的な観点から分析できる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式です。教科書を中心に進めていきます。ですから、講義中教科書を必ず持参してください。適宜，作業もしてもらいます。授業のテーマにも記しましたが，教育心理学は応用心理学の一つです。そのために，心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には，心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また，授業では，時間の制約のために，基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は，自分で読んできてください。さらに，授業のまとめをシャトルシートに記述し，提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明，教育心理学の目標・対象・研究法，教育心理学への３つのアプローチ
第 2 回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第 3 回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達，道徳性の発達
第 4 回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達，他者理解の発達，円滑なコミュニケーション
第 5 回	深い理解とは	適応的熟達者，知識のネットワーク
第 6 回	読み書きからの学習	文章による学習，読解力，書くことの学習
第 7 回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム，いじめ防止策
第 8 回	上手に教える 1	授業過程，伝統的な教授法
第 9 回	上手に教える 2	最近流行の教授法，素朴概念への挑戦
第 10 回	上手に学ぶ	メタ認知，学習方略
第 11 回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第 12 回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がい，ADHD など
第 14 回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業支援システムから授業前に提出して下さい。
第 1 回　自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
第 2 回　一番好きだった先生は，いつのどの教科，あるいは部活の先生でしたか？
第 3 回　記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも，睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム 3 ！ "
第 4 回　使える知識にするためには，学習者にはどのような工夫が必要ですか？
第 5 回　読書の効用を３つ挙げてください。
第 6 回　生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために，どうしたらいいと思いますが？ 自分の意見を書いてください。
第 7 回　どのような形式の授業が一番好きでしたか？
第 8 回　小集団に分かれての授業形式の良い点を２つと悪い点を２つ挙げてください。

第 9 回　添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が 2 カ所あります。これらは，ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて，その心理学的な概念は何でしょうか？
第 10 回　添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形 A から F の中から 1 つ選んでください。
第 11 回　テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたらいいと思いますか？
第 12 回　模擬期末試験問題を 2 つ作成して下さい。一つは基礎問題，もう一つは応用問題を用意して下さい。また，授業支援システムで提出するだけでなく，授業時に印刷して持参して下さい。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「教育心理学 -言語力からみた学び-」　福田由紀他　培風館　2015 年

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 10%と期末試験 90%により決定されます。平常点には，授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末試験では，選択問題を予定しています。選択式問題の内容は知識の確認と応用問題です。

【学生の意見等からの気づき】
教育心理学の 2018 年度の授業は，アンケートの結果は概ね好評でした。特に，授業を前半後半に分け，それぞれのまとめをシャトルシートに書いてもらっている方法が好評ですね。2020 年度も続けますね。また，学習者と教授者の両方の視点から考察したことも良かったようです。一方，教室が狭かった等，学習環境に関する言及が複数ありました。教室問題は大学全体の課題で，1 つの授業単位でどうすることも出来ないのが現状です。残念です。

【その他の重要事項】
この授業は，初回から実質的な内容に入ります。また，授業計画に変更がある場合には第 1 回の授業中にお知らせをする予定です。そのため，受講希望者は，必ず初回の授業を受けて下さい。
また，教育心理学では，皆さん自身が今いる世界，大学，つまり教育現場を扱います。そのため，毎日の生活を振り返りながら授業に参加することによって，より深い理解が得られると思います。積極的な授業への参加を期待します。

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn educational activities in terms of psychological perspective. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about educational psychology.

PSY200BG

学校心理学

原田　恵理子

授業コード：A3626　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校における全ての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整，校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められています。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、IoT 社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
「3 つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになることを目標とします。また、発達障がいなどのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について、具体的な支援策や指導計画について考え、提案することができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメ・配布資料と場所を用いた講義形式を基本としながら、視聴覚教材を適宜用います。また、アセスメント，カウンセリング，コンサルテーションなどの技法を実習し，不登校やいじめなど具体的な事例に即して，有用な視座や方法論について学ぶことを通して，学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。ロールプレイや事例検討、話し合い等の活動を行うため、受講者には授業への積極的な参画を期待します。リアクションペーパーは毎回提出とし、理解度や疑問点の把握をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史	授業内容や評価方法など/学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史を説明する
第 2 回	3段階の心理的援助サービス	援助する対象と 4 つの援助/3 段階の心理的援助サービスについて説明する
第 3 回	心理教育的アセスメント	子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて説明する
第 4 回	学校心理学に基づく実践（1）カウンセリング	カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 5 回	学校心理学に基づく実践（2）コンサルテーション	学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 6 回	学校心理学に基づく実践（3）チーム学校	チーム援助の在り方、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活動の実際について説明する
第 7 回	心理教育的援助の実践（1）不登校	子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例から支援の在り方の工夫について話し合う
第 8 回	心理教育的援助の実践（2）いじめ	いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方の工夫について話し合う
第 9 回	心理教育的援助の実践（3）発達障がいの特徴と援助	発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う
第 10 回	心理教育的援助の実践（4）家庭・地域社会	虐待など、家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を検討する
第 11 回	心理教育的援助の実践（5）学校・教師	教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める
第 12 回	心理教育的援助の実践（6）キャリア教育	キャリア発達を支えるキャリア教育について説明し、事例と受講生自身の経験をふまえて話し合いをして理解を深める
第 13 回	学校危機予防（1）予防的・開発的教育（社会性・道徳性・情報モラル）	予防的・開発的教育について説明し、実際に体験を通して学ぶ

第 14 回	心理教育的援助の課題と展望	心理教育的援助およびチーム学校での効果的な援助の課題と今後の展望について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、指定された資料等を読み、テーマについて理解を深めてください。また、事後学習として、紹介する資料や図書等で授業内容の復習と知識の定着をはかってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。

【参考書】
石隈利紀　学校心理学　誠心書房
渡辺弥生・西山久子編　生徒指導・教育相談　北樹出版
これ以外にも、必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー (30%)、話し合い、事例検討など授業内課題 (20%)、期末の筆記試験 (50 %) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を紹介しながら、ロールプレイや話し合い活動など体験活動も取り入れた授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of school psychology. It also enhances the development of students' skill in the skills of counseling and support to the school community. By the end of the course, students should be able to do the following:
· Recognize and recall major terms and concepts in school psychology,
· Describe and explain major assistance service methods and theories,
· Apply theories or practices to real world situations.

PSY200BG

発達臨床心理学 I

桜井　美加

授業コード：A3683　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童期から思春期の発達に伴う臨床心理的諸問題を把握し、適切な配慮や判断を行う力を身に付けることができる。そのための知識、アセスメント、考えられる様々な対応について学ぶ。

【到達目標】
近年、虐待、不登校、いじめ、非行、自殺など、様々な問題が子どもを巡って生じているが、それぞれの発達段階においてどのような臨床的関わりが望ましいか、理論と実践を理解できるようになる。
これらの知識については、授業内における口頭発表やリアクションペーパーなどの記述による表現ができるようになることが求められる。
また、得られた知識を実践することに向けて、応用力を得られるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では履修者の知識習得および質疑応答を行う。自宅学習も可能にするために、必ず教科書を購入し、熟読し考察を加えてレポート形式で進める。さらに、得られた知識の応用力や実践力を身に着けることができるようにする。
4 月 29 日（水）に授業開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回 5/13	教育相談とは何か	教科書第 1 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 2 回	児童・思春期の発達とアセスメント	教科書第 2 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 3 回	カウンセリングの基本を学ぶ	教科書第 3 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 4 回	学校における連携と協働	教科書第 4 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 5 回	児童虐待への理解と対応	教科書第 5 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 6 回	特別支援教育で必要とする子どもたちー発達障害の理解と対応・ADHD の理解と対応ー	教科書第 6 章第 1 節、2 節の内容を要約し、学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 7 回	特別支援教育で必要とする子どもたちー LD の理解と対応・ASD の理解と対応ー	教科書第 6 章第 3 節、4 節の内容を要約し、学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 8 回	不登校の子どもの理解と対応	教科書第 7 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 9 回	いじめの被害者・加害者への理解と対応その 1	教科書 8 章第 1、2、3、4、5 節の内容を要約、学んだこと、考え感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 10 回	いじめの被害者・加害者への理解と対応その 2	教科書 8 章第 6、7、8、9 節の内容を要約、学んだこと、考え感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 11 回	学校における危機介入と心のケア	教科書第 9 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 12 回	非行問題への理解と対応	教科書第 10 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。

第 13 回	保護者の理解と対応	教科書第 11 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。
第 14 回	教師のメンタルヘルス	教科書第 12 章の内容を要約し、そこから学んだこと、考えたこと、感じたことをレポート A4 の 2 枚以内にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に与えられた授業テーマに関する疑問点などをあらかじめ書いておき、それについて自力で調べておく。
復習については、履修した内容について、本もしくは学術論文を 1 本以上読んでおくことで、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井美加・齋藤ユリ・森平直子著　2016　教育相談ワークブック－子どもを育む人になるために－　北樹出版

【参考書】
渡辺弥生・榎本淳子編　2012　発達と臨床の心理学　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
レポート 14 回分のうち、成績上位 2 回、下位 2 回を除いた 10 回分のレポートを合計し、レポート 1 回分 10 点満点 ×10 回分の 100 点満点で評価します。考察の部分が評価で重視されます。

【学生の意見等からの気づき】
レジメや資料などわかりやすい教材の準備などを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Goal to achieve is to understand psychological development from childhood through adolescents. Participants should be able to enhance skills to solve psychological problems. They should be able to learn acknowledgements, assessment and skills regarding counseling skills.

PSY200BG

発達臨床心理学Ⅱ

桜井　美加

授業コード：A3684　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。

【到達目標】
生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章や口頭で適切に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義およびアクティブラーニングを実践するため、ペアワークおよびグループワークを行う。また授業内発表を通じて口頭による表現を、リアクションペーパ記入による文章による表現を磨く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	適切に表現する能力や態度、論述・討論ができるための双方授業を説明する。
第 2 回	心理教育 1	構成的グループエンカウンターについて実践的に学ぶ。
第 3 回	心理教育 2	リフレーミングワークについて、実践的に学ぶ。
第 4 回	心理教育 3	コンセンサスグループワークについて、実践的に学ぶ。
第 5 回	心理教育 4	アサーショントレーニングについて、実践的に学ぶ。
第 6 回	心理教育 5	学校生活における関係性攻撃への対処について、実践的に学ぶ。
第 7 回	児童期の子どもが罹患する場面緘黙・愛着障害の理解と対応	愛着形成の理論から愛着障害について理解を深める。また場面緘黙など心身相関についても学ぶ。
第 8 回	思春期の子どもが罹患する精神障害の理解と対応 1	うつ病や摂食障害への心理臨床的アプローチを学ぶ。
第 9 回	思春期の子どもが罹患する精神障害の理解と対応 2	自傷行為の事例を扱いつつ、子どもへの個人面接、保護者面接、教師との連携を学ぶ。
第 10 回	成人期に見られる精神障害の理解と対応 1	不安障害や引きこもりの症状や対応について学ぶ。
第 11 回	成人期に見られる精神障害の理解と対応 2	アルコール・ドラッグ・ギャンブル依存の特徴と対応を学ぶ。
第 12 回	中年期にみられる危機と対応	中年期における発達臨床的課題と心理臨床的アプローチについて学ぶ。
第 13 回	高齢期にみられる危機と対応	高齢期における発達臨床的課題と心理臨床的アプローチについて学ぶ。
第 14 回	試験とまとめ	思春期から高齢期まで発達段階でみられる諸問題について、振り返り総合的に論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。
復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を 1 本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井美加・齋藤ユリ・森平直子著　2016　教育相談ワークブック－子どもを育む人になるために－　北樹出版

【参考書】
渡辺弥生・榎本淳子編　2012　発達と臨床の心理学　ナカニシヤ出版
杉原一昭監修　2001　発達臨床心理学の最前線　教育出版

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーなど平常点が 30 %、定期テストが 70 %で到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークなどの進め方について工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Goal to achieve is to understand psychological development from childhood through adulthood including midlife crisis and aging issues. Participants should be able to enhance skills to solve problems such as bullying. They are able to learn acknowledgement, assessment and counseling skills to address those issues.

PSY200BG

精神保健学 I

高橋　敏治

授業コード：A3685　｜　曜日・時限：**金曜２限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます．精神科医として 35 年以上活動している臨床現場での経験をもとに，学生が知っておくべき臨床の知識，対処法や予防法を取り上げます．

【到達目標】
メンタルヘルスの基礎，重要性を説明できるようにすること．メンタルヘルスに関連した法律，実例を説明できるようにすること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます．また，どのような種類の異常な状態があるのかを，なるべく実例をひも解きながら学んでいきます．基本的には講義形式です．適宜，視聴覚教材などを用います．できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したい．
授業開始は 5 月 8 日を予定します。
それまでに履修登録、よく使用するメイル登録をお願いします。
Youtube 等による限定配信などを考えていますが、未確定の部分もあるため確定次第、学習支援のお知らせを用いて皆さんに周知します。
また課題などが出ますので、添付可能なメイルを必ず登録して下さい。
対面授業が可能になるまでオンライン授業を継続します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	精神保健の基礎知識	ICD-10 と DSM-IV など診断基準，心理の正常異常
第 3 回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題（幼児，青年期，成人，老人）
第 4 回	精神保健主要症候学 1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第 5 回	精神保健主要症候学 2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第 6 回	精神保健主要症候学 3	意識のレベルの問題の種類（せん妄など）
第 7 回	精神保健主要症候学 4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第 8 回	自殺	自殺の種類，日本の現状や問題点，予防法
第 9 回	ターミナルケア	がん患者の心理，そのケアの方法
第 10 回	法律と精神保健	精神保健福祉法，触法精神障害の歴史や問題点
第 11 回	精神保健治療学総論 1	薬物療法の概観（種類，副作用など）
第 12 回	精神保健治療学総論 2	非薬物療法の概観（心理療法，リハビリテーション技法など）
第 13 回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第 14 回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています．
第 1 回　精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
第 2 回　ICD と DSM による診断課題
第 3 回　達成度の確認（診断基準）
第 4 回　達成度の確認（ライフサイクル精神保健）
第 5 回　達成度の確認（幻覚妄想）
第 6 回　達成度の確認（気分）
第 7 回　達成度の確認（せん妄など）
第 8 回　達成度の確認（自殺）
第 9 回　達成度の確認（ターミナルケア ）
第 10 回　達成度の確認（精神保健福祉法）
第 11 回　達成度の確認（薬物療法の種類，副作用）
第 12 回　達成度の確認（心理療法など）
第 13 回　達成度の確認（リハビリテーション技法）
第 14 回　達成度の確認（春学期期全般）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません．適宜プリントを配布します．

【参考書】
柄沢昭秀（2006）．精神医学入門．中央法規．東京．
尾崎紀夫 (2018)．標準精神医学 第 7 版. 医学書院, 東京.

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します．平常点（30 %）, 数回の課題レポート（20 %）, 期末試験（50 %）で総合的に評価します．
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない, 成績評価の方法と基準も変更します．具体的な方法と基準は, 上記を参考に授業開始後に学習支援システムで提示します．

【学生の意見等からの気づき】
45 名の受講者のうち 6 名から回答を頂きました．授業の工夫では 4.17, 授業外学習ではバラバラな時間でした（今学期は, 授業外学習のレポート課題が少なかったことが影響した結果と思います）．自由記述では,「解説がわかりやすかった」「体験を聞くのが毎回楽しみでした」「基礎的な知識がみについきました」など．次回の授業の予習になるような課題の設定などの工夫を考えて行きたいと思います．

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して, 授業内配布のプリントや資料を掲載します．また, 授業支援システムのお知らせを使用します．普段使用しているメイルを授業支援システムに登録しておいて下さい．

【その他の重要事項】
授業計画の順序が入れ替わることがあります．適宜授業内で案内しますが, その点を注意して下さい．オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．2022 年度から正式に国際疾病分類 第 11 版（ICD-11）が発行する予定ですが, まだ日本語訳が未完成の問題やパブリックコメントが募集段階にあるため, 本授業では ICD-10 の分類で実施します．

【Outline and objectives】
In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.

PSY200BG

精神保健学 Ⅱ

高橋　敏治

授業コード：A3686　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では, いろいろな種類の精神障害を, 他の障害と比べながら, 症状の特徴, 治療法を学びます．精神科医として 35 年以上活動している臨床現場での経験をもとに, 学生が知っておくべき臨床の知識, 対処法や予防法を取り上げます．

【到達目標】
メンタルヘルスの各論を通して, 人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること．その異常心理が, どのような特徴を持ち, どのように診断を受けるのかを理解しながら, 精神保健の実態を説明できること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式です．適宜, 視聴覚教材を用い, 最新の知見を紹介します．前期と同じく, できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	症状性を含む器質性精神障害（F0-1）	脳の感染症, 外傷、身体障害時の精神症状
第 3 回	老人性器質性障害（F0-2）	アルツハイマー型, 脳血管性の痴呆
第 4 回	薬物使用による精神および行動の障害（F1-1）	大麻, 覚せい剤, 麻薬, コーヒー, ニコチンなど
第 5 回	アルコールによる精神および行動の障害（F1-2）	アルコール依存やその周辺の障害, 家族問題
第 6 回	統合失調症とその関連障害（F2-1）	統合失調症の歴史, 原因や診断の基準
第 7 回	統合失調症とその関連障害（F2-2）	統合失調症の症状や主な病型, 予後, 問題点
第 8 回	統合失調症とその関連障害（F2-3）	統合失調症の治療法（薬物療法, リハビリテーション）
第 9 回	気分障害とその関連障害（F3-1）	気分障害の症状（そうとうつ）, 病型, 原因
第 10 回	気分障害とその関連障害（F3-2）	気分障害の治療（薬物療法, 認知行動療法）
第 11 回	神経症障害, ストレス関連障害（F4）	ストレスに関連した病態の種類, 原因, 治療法
第 12 回	摂食障害と睡眠障害（F5）	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類, 原因
第 13 回	人格の障害（F6）	人格障害の歴史, 種類, 問題点
第 14 回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています．
第 1 回　精神保健学に関する基礎知識レポート作成
第 2 回　達成度の確認 (摂食障害)
第 3 回　達成度の確認（器質性精神障害）
第 4 回　達成度の確認（老人性痴呆）
第 5 回　達成度の確認（物質常用障害）
第 6 回　達成度の確認（アルコール精神障害）
第 7 回　達成度の確認（統合失調症 1）
第 8 回　達成度の確認（統合失調症 2）
第 9 回　達成度試験の勉強（統合失調症 3）
第 10 回　達成度の確認（気分障害 1）
第 11 回　達成度の確認（気分障害 2）
第 12 回　達成度の確認（ストレス関連障害）
第 13 回　達成度の確認（摂食障害と睡眠障害）
第 14 回　達成度の確認（人格障害および全体のまとめ）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません．適宜プリントを配布します．

【参考書】
柄沢昭秀（2006）精神医学入門　中央法規, 東京.
尾崎紀夫 (2018) 標準精神医学 第 7 版. 医学書院, 東京.

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します．平常点（30 %, 数回の課題レポート（20 %）, 期末試験（50 %）で総合的に評価します．

【学生の意見等からの気づき】
41 名の受講者のうち 7 名から回答を頂きました．4-5 の段階が, 授業の工夫では 85 %, 理解できたかで 80 %, 履修してよかったかは 71 %の人が評価をしてくれていました．今年は, 授業の課外レポート作成課題が例年より少なめとなりましたが, 授業外の学習時間例年より少なく, 課題の設定などをもう少し身近な問題として考えて行けるように工夫したいと思います．自由記述は, 特にありませんでした．

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して, 授業内配布のプリントや資料を掲載します．また, 授業支援システムのお知らせもよく使用します．普段使用しているメイルを授業支援システムに登録しておいて頂けると便利です．

【その他の重要事項】
授業計画の順序が入れ替わることがあります．適宜授業内で案内しますが, その点を注意して下さい．オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．2022 年度から正式に国際疾病分類 第 11 版（ICD-11）が発行する予定ですが, まだ日本語訳が未完成の問題やパブリックコメントが募集段階にあるため, 本授業では ICD-10 の分類で実施します．

【Outline and objectives】
In this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn characteristics of symptoms and treatment.

PSY200BG

人格心理学

杉山　崇

授業コード：A3724　｜　曜日・時限：**金曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。
人格には 1）人間の心理的な個人差（特徴）、2）個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3）生得的な生理・反応・行動傾向、4）後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について実例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

【到達目標】
1）「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身につける
2）人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語れるようになる。
3）人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め，自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・この授業は 4 月 24 日からスタートします。
・「学習支援システム Hopii」を活用します。授業時間に必ず Hopii にアクセスし、「お知らせ」の支持に従って学修を進めて下さい。
・担当教員が配布した講義動画の視聴、または講義資料を熟読した後、課題を提出する形で行います。
・課題には「より深く学ぶための質問」も可能にしています。このシステムを活用して双方型授業として行います。
・課題の提出がない場合は欠席とみなします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人格とは	ガイダンスと人格心理学の人間観
第 2 回	人格の理論①	精神分析的アプローチ
第 3 回	人格の理論②	学習理論、自己理論
第 4 回	人格の病理	パーソナリティ障害
第 5 回	類型論①	ユングのタイプ論：パーソナリティと職業
第 6 回	類型論②	ミロンの類型論
第 7 回	特性論①	因子分析と特性５因子論
第 8 回	特性論②	生物学的特性論
第 9 回	パーソナリティと欲求，恋愛	パーソナリティの偏り
第 10 回	人格の発達と統合①	遺伝行動学と生涯発達心理学
第 11 回	人格の発達と統合②	人格（スキーマ）形成と初期経験，スキーマ療法と人格の最適化
第 12 回	人格の発達と統合③	心理－社会的要因による情動調整
第 13 回	人格と進化論①	扁桃体の 3F とその統制の進化論
第 14 回	人格と進化論②	日本文化と謙遜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】次回授業のキーワードを 2 時間ほど調べ理解しておくこと。なお，キーワードを事前に知らせます。
【事後学習】人格心理学を通した 2 時間程度の自己理解の課題を毎回課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。
なお，資料は web で配布するので授業支援システムにアクセスできる環境が必須である。

【参考書】
『心理学要論』培風館
『心理学ビジュアル百科』創元社

【成績評価の方法と基準】
平常点（各授業における課題の提出）50%とレポート（到達目標の達成度）50%
レポートは授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【その他の重要事項】
この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。
人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経－生理心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。
担当教員 HP ： sugys-lab.com

【Outline and objectives】
Let's deepen the psychological understanding of human beings and society with this clue as a clue of "personality " in this class. In addition, let's deepen your understanding of self-understanding, others understanding, and human relations through work and reports.

PSY200BG

集団社会心理学

越智　啓太

授業コード：A3725 ｜ 曜日・時限：**火曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜授業概要＞
人間の社会行動を科学的に解明する
社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集団社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング (キャラを作っていくこと)、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすれば良いのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3 人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国どおしが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。
＜学習目標＞
社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】
＜到達目標＞
(1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようになる。
(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
＜ 授業内容＞
我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。
講義形式、授業のまとめのノートはウェブ上で公開する（予定）
授業後には毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	集団社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究方法
第 2 回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第 3 回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第 4 回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第 5 回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第 6 回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第 7 回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第 8 回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第 9 回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第 10 回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第 11 回	集団意思決定（1）	社会的手抜き現象
第 12 回	集団意志決定（2）	集団意志決定におけるバイアス、リスキーシフト
第 14 回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM 理論
第 14 回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス＝ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。授業資料には、各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）と設問が書かれているので、この用語を記憶し、使いこなせるようにするとともに、設問を解いておくこと。設問についてはレポートとして提出させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。プリントを使用する。プリント（パワーポイントの抄録版）は、授業支援システムからダウンロードできるようにしておく

【参考書】
中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開　八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。
筆記試験（８０%）＋ レポート・コメント（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
毎回、比較的良い評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】
（1）「社会心理学」（哲学科は心理学２社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。
（2）D 評価のものが毎年５%～１０%程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。
（3）授業のパワーポイントの撮影を禁止する。重要なことはダウンロード資料に書かれている。

【Outline and objectives】
Lecture on psychology of group and communication

PSY200BG

臨床心理学

杉山　崇

授業コード：A3690　｜　曜日・時限：**金曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】
臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能，および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して，人間への深い理解を形成する。また，人間への深みのある理解を通して，自己理解，他者理解，人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理－社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。
そのため社会心理学、認知心理学、神経－生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。
ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実際に関わっているが、この 10 数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第 2 回	臨床心理学総論②	目的と対象
第 3 回	力動的アプローチ	境界性パーソナリティ心性①－精神分析とユング心理学
第 4 回	認知行動的アプローチ－学習心理学と認知心理学	境界性パーソナリティ心性②
第 5 回	認知行動療法①	・ネガティブ思考の方程式 ・ストレスプロセス ・ネガティブ認知の正体
第 6 回	認知行動療法②	認知再構成①－コラム法
第 7 回	認知行動療法③	認知再構成法②－損益比較法とのコラボレーション
第 8 回	行動療法	セリフモニタリングと活動記録
第 9 回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第 10 回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第 11 回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第 12 回	臨床心理学と人格心理学	パーソナリティ障害の心理療法
第 13 回	臨床心理学と認知神経科学	マインドフルネス技法
第 14 回	臨床心理学と社会心理学の接点	対人関係療法 被受容感 自尊心

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：配布資料およびテキストの指定範囲を読み込み，専門用語について 2 時間ほど調べてくること。
復習：各回あたり 2 時間程度の復習課題を課し，復習のためのレポートを随時課す。

【テキスト（教科書）】
『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】
『カウンセリングの援助と実際』北樹出版
臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。
http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data
『事例でわかる，基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版
心理学がどのように心理療法に活かされているか，事例を通して学ぶ画期的な図書。

https://7net.omni7.jp/detail/1106063973

【成績評価の方法と基準】
平常点（復習課題＋授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline and objectives】
Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

PSY200BG

犯罪心理学

越智　啓太

授業コード：A3691　｜　曜日・時限：**火曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜授業概要＞
犯罪者の行動を科学的に分析する
犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBI の捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。
＜授業目標＞
犯罪者行動に関する最先端の研究を理解する。

【到達目標】
（1）犯罪についての科学的研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
（2）各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
（3）各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
＜授業方法＞
授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第 2 回	連続殺人（1）	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第 3 回	連続殺人（2）	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第 4 回	連続殺人（3）	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第 5 回	大量殺人 (1)	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第 6 回	大量殺人（2）	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第 7 回	テロリズム（1）	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第 8 回	テロリズム（2）	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第 9 回	テロリズム（3）	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第 10 回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第 11 回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第 12 回	子どもに対する性犯罪（3）	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第 13 回	非行（1）	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割
第 14 回	非行（2）	非行の原因に関する諸理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ配布する授業キーワード集をもとに毎回取り上げる、テーマのキーワードについて説明できるようにしておく。また、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておくこと。適宜そのまとめを小レポートとして提出させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
越智啓太　ケースで学ぶ犯罪心理学　北大路書房

【参考書】
越智啓太　犯罪心理学　朝倉書店
越智啓太　プログレス＆アプリケーション　犯罪心理学　サイエンス社
越智啓太ほか（編著）　法と心理学の事典　朝倉書店
越智啓太　ワードマップ　犯罪捜査の心理学　新曜社
越智啓太　桐生正幸（編著）　テキストブック司法犯罪心理学　北大路書房

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（１００％）が基本だが、毎回提出させるコメントシートの内容によって得点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、本年は新しい事例をくわえ、さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
（1）本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるので、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
（2）授業のパワーポイントを撮影することを禁止する。重要なことはテキストに書いてありますし、不足の部分があれば資料を配付します。
（3）例年、５％～１０％がD評価になります。他の教員に比べてA,A+はつきにくいので楽勝科目ではありません。
（4）講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどと関連付けながら講義を行う。

【Outline and objectives】
Learn about scientific analysis and profiling of criminal behavior

PSY200BG

カウンセリング心理学

下山　晃司

授業コード：A3726　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（対象者・創始者の哲学）や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようになることを目標とします。
授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけではなく、対人援助における「実践の技（アート）」としても理解することを目指します。

【到達目標】
各理論の基礎的な内容（理論・対象者等）を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。
ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って講義形式で解説していきます。ロールプレイングでは、小グループに分かれ、各自がCo（カウンセラー）、Cl（クライエント）、Ob（オブザーバー）役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。
授業毎にリアクションペーパーを回収し、授業で得た問題点に対し、教員が補足説明を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント・各理論の共通基盤	授業の進め方
第 2 回	精神分析１	理論と対象者
第 3 回	精神分析２	防衛機制・転移感情
第 4 回	パーソン・センタード・アプローチ	カウンセラーの態度とグループエンカウンター
第 5 回	行動療法	基盤となる理論と対象者
第 6 回	行動変容	基盤となる理論と対象者
第 7 回	認知行動療法	理論と対象者
第 8 回	中間試験	前半部分の理解度測定
第 9 回	ロールプレイング１	4 種類のサポート実習
第 10 回	ロールプレイング２	テーマが決められた面接１
第 11 回	ロールプレイング３	テーマが決められた面接２
第 12 回	ロールプレイング４	テーマが決められた面接３
第 13 回	ロールプレイング５	テーマが自由な面接１
第 14 回	ロールプレイング６	テーマが自由な面接２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習すること。
ロールプレイングで習得した内容を実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
窪内節子・吉武光世　2003　やさしく学べる心理療法の基礎　培風館

【参考書】
W. ドライデン & J. ミットン著　酒井汀訳　2005　カウンセリング／心理療法の 4 つの源流と比較　北大路書房
ポール・ワクテル著　杉原保史訳　2002　心理療法の統合を求めて　精神分析・行動療法・家族療法　金剛出版

【成績評価の方法と基準】
主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します（50%）。
反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します（50%）。レポートの評価の観点は、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
30 名中、7 名から回答を得ました。授業を履修してよかったかについては、4 名の回答が 4 以上でしたので、概ね満足していると考えられます。自由記述や一部の受講生の行動を見ていると、外発的に強く動機づけられた学生が居ることが判明しました。このような学生にどう対処するのかが、今年度の課題です。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the major counseling methods. It also enhances the development of students' skill in listening to others. Through consecutive role-playing, participants are expected to understand counseling as an 'art,' as well as theory of human understanding.

PSY200BG

発達心理学特講

渡辺　弥生

授業コード：A3680　｜　曜日・時限：**火曜２限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の発達過程のうちの幼児期から青年期に焦点を当て、子どもの社会性や道徳性の発達を中心に最新の発達心理学研究に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説する。したがって、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

【到達目標】
発達心理学研究の知識を身につけ、どのようなことを解明するためにどういった研究方法の工夫が必要かを考え、実際に自分が発達心理学の研究を行うのに必要な知識の獲得をめざす。いまだ解明されていないことも多く、問題提起しそれを研究する意欲を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式。人間の発達の奥深さを実感できるように、できるだけビデオや DVD などの視聴覚教材を用いる。ペア・ワークやグループ・ワークなどアクションラーニングを盛り込みながら、発達心理学研究のテーマやさまざまな研究アプローチがあることを理解できるようにする。受講希望者は初回時には必ず出席する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自己の発達１ 鏡に映っている顔は自分の顔とわかるのはいつ？	自己と発達：自己という概念がどのように生じるかについて理解する。
第 2 回	自己の発達２ 相手の心の吹き出しが読めるのはいつから？	自己認知と他者認知：自分を知ることは他人を自分と違う存在として理解することでもある。このテーマの興味深い研究を概観する。
第 3 回	親子関係の発達１ 親子の絆はどうやってできるの？	乳幼児期の愛着、養育態度：親になるということはどういうことなのか、親子の愛情のきずなはどのように形成されるのかを理解する。
第 4 回	親子関係の発達２ アイデンティティが確立するってどういうこと？	青年期の親子関係―精神的自立：依存していた関係から、独り立ちしていくことは意外と難しい。思春期の葛藤などを理解する。
第 5 回	感情の発達１ 表情から感情が理解できるの？	喜怒哀楽といった感情をどのように理解できるようになるのかを学ぶ。表情、しぐさ、状況との関係性について学ぶ。
第 6 回	仲間関係の発達１ 遊びって、年齢とともに変化するの？	幼児期の遊びと友情の概念の発達：他者への関心、物の取り合い、遊びの変化など。
第 7 回	仲間関係の発達２ 友達関係はどうやって決まるの？	青年期の仲間関係：グループの変化、友達関係の変化など。
第 8 回	思いやりの発達 なぜいじめが起きるの？思いやりを育てるために大事な事は？	共感性の発達―相手の気持ちが分かるために、どのような発達段階があるのかを理解する。
第 9 回	レジリエンスやセルフコントロールの発達 しなやかな心はどうやって育つの？	セルフ・コントロール―がまんする心：したいことをやめ、したくないことをできるようになる力がどのように育まれるのか。
第 10 回	ソーシャルスキルをを育てる授業とは？	ソーシャルスキル―社会に適応するために：うまく対人関係が形成できない人に、対人関係を築くコツを教えるにはどうすればよいのかを学ぶ。
第 11 回	道徳感情の発達 うしろめたいとか、恥とかの気持ちはどうやって獲得できるの？	道徳的感情―罪悪感の発達：うしろめたい気持ちを抱くのはなぜかを考える。
第 12 回	道徳判断の発達 正しいことが必ずしもできないのはなぜ？	道徳的判断―善悪の判断：どちらが正しいのか、判断をすることが難しいときがある。こうした思考の発達について考える。

第 13 回	道徳行動の発達 あなたは車内で席をゆずっていますか？	向社会的行動―ひとはなぜひとを助けるか：人を助ける人もあれば傷つける人もいる。この違いは何かを考えてみる。
第 14 回	発達心理学と仕事の関係	発達心理学を学ぶと役立つ仕事とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
どのような研究者がどういった背景からどのような研究を行い理論を提唱できたかという大枠をつかんでいく。毎回ミニテストを実施し、各授業のポイントを押さえているかを確認する。試験の課題については、授業時に説明する。予習復習に各２時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】
『発達心理学　シリーズ　心理学と仕事』二宮克び・渡辺弥生編著　北大路書房

【参考書】
『原著で学ぶ社会性の発達』渡辺弥生・伊藤順子・杉村伸一郎編　ナカニシヤ出版
『子どもの１０歳の壁とは何か？』渡辺弥生著（光文社）
『中１ギャップを乗り越える方法』渡辺弥生著（宝島社）

【成績評価の方法と基準】
授業への出席は単位修得の前提条件であり、その上でレポート課題（25%）を２回と総括テスト（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2017 年度は国内研究のためこの科目を担当しなかったので気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】
各時間のテーマを変更する場合あり。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
We will understand a developmental perspective including the background, challenges, and methodology of related research, focusing on infancy, childhood, and adolescence. We will aim to understand the diversity and variability of human development.

PSY200BG

スポーツ心理学特講

日比　千里

授業コード：A3664　｜　曜日・時限：**水曜３限**
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ心理学の基本的なテーマ（スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ）を学習することを目的とする。

【到達目標】
スポーツ心理学の研究や知見を理解することにより、「こころの仕組み」に関する理解を深め、スポーツ・運動・身体活動場面において心理学的な支援を実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となります。ただし、一方的な講義ではなく、できるだけ学生との対話形式、グループワーク、意見交換などを行いながら進めます。なお、スポーツ心理学の知識・技法などは、就職活動や社会人になってからの生活にも適用できるものが多いため、スポーツを実践していない学生にも履修を勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ心理学とは何か？ を学ぶ	スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	オリンピック・パラリンピックを学ぶ	オリンピックやパラリンピックについて理解し、説明できるようになる。
第 3 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ①	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 4 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ②	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 5 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ③	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 6 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ④	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 7 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2）チームビルディングを学ぶ①	チームビルディングの概要を理解し、説明できるようになる。
第 8 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2）チームビルディングを学ぶ②	他者とのコミュニケーションについて理解し、実践し、活用できるようになる。
第 9 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2）チームビルディングを学ぶ③	体験の共有を用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 10 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2）チームビルディングを学ぶ④	対話を用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 11 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3）スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第 12 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1）運動とメンタルヘルスとの関係を学ぶ	健康のために実施する運動の効果について説明できるようになる。
第 13 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 2）運動を促進させるための働きかけを学ぶ	行動科学の方法論を用いて、自分や周りの人に対して、運動を促進するための働きかけができるようになる。
第 14 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 3）総合型地域スポーツクラブについて学ぶ	総合型地域スポーツクラブについて理解し、活用できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に実施する課題、グループワーク、意見交換などへの参加状況が 60 %、期末レポートが 40 %です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
初回の授業には、必ず出席してください。
対話形式での講義、グループワークなどを行いますので、協力的・主体的な姿勢で授業に参加してください。

【Outline and objectives】
To learn the basic theme of sports psychology (e.g. psychological approach to sports, exercise, and physical activity).

PSY200BG

心理学英語Ⅱ

常深　浩平

授業コード：A3730　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、 クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	各自今学期の到達目標を決める
第 2 回	長文読解になれる（1）	言語発達に関する文献の読解（前半部分の読解）
第 3 回	長文読解になれる（2）	言語発達に関する文献の読解（後半部分の読解）
第 4 回	読解内容を要約する	言語発達に関する文献の読解をもとに要約を作成し、相互に発表する
第 5 回	Memory (1)	記憶に関する論文の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 6 回	Memory (2)	記憶に関する論文の読解（引用文献の理解）
第 7 回	ジャーナル論文を読む（1）	論文の構成をつかむ タイトルとアブストラクトから何がわかるか
第 8 回	ジャーナル論文を読む（2）	研究課題と結論は何かを理解し、概要を理解する
第 9 回	ジャーナル論文を読む（3）	実験を分析する（データの読み取り方）
第 10 回	ジャーナル論文を読む（4）	情報のつながりをつかむ練習（接続表現、論理構成）
第 11 回	英語レポートを書く（1）	1パラグラフのレポートを書く練習
第 12 回	英語レポートを書く（2）	1ページ（数百語）のレポートを書く練習
第 13 回	ジャーナル論文を読んで、それをレポートする（1）	課題論文の読解と確認／論文の要約とプレゼンテーションの準備
第 14 回	ジャーナル論文を読んで、それをレポートする（2）	課題論文の読解と確認／論文の要約とプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、 リーディング教材を配布する。

【参考書】
Oxford Advanced Learns' Dictionary

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内課題）60%
期末レポート　40%

【学生の意見等からの気づき】
授業内で論文を扱う回を前年度より増やすこととする。

【Outline and objectives】
This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

PSY200BG

心理学特殊講義 I

島宗　理

授業コード：A3722　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる，刺激提示や行動測定，データの視覚的分析の方法を学びます。プログラミング言語としては Python（パイソン）を用います。プログラミングの基本を学ぶと伴に，こうしたプロジェクトをチームで円滑に進めるための技術も習得します。

【到達目標】
Python を使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。
①画像や文字，音声などの刺激をディスプレイに提示する。
②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
③その他の外部入力装置を用い，より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画，音声データを測定して数量化するなど）。
④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。
さらに，プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や，困ったときに他の人に相談したり，困っている人に助言したりするスキルなど，研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要となる知識や技術の習得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週プログラミングの課題を用意しますので，授業時間内外に関わらず，各自で自主的に取り組んでください。授業内ではチーム内で課題の進捗を報告し，情報を共有したり，プログラミングについて相談したり，協力して問題解決していくことに時間をかけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Python の基本と開発環境	○課題と課題の進め方，提出方法，評価について説明します。 ○ Python と PyCharm をインストールし，開発環境をセットアップします。
第 2 回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第 3 回	刺激制御	○ Kivy をインストールし，ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第 4 回	刺激制御	○ Kivy を使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。
第 5 回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第 6 回	刺激制御	○音源データを提示し，キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第 7 回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第 8 回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第 9 回	データの視覚化	○ Matplotlib をインストールし，データからグラフを作成するプログラムを作成します。
第 10 回	プログラム開発 (1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し，開発計画を立案します。
第 11 回	プログラム開発 (2)	○自作プログラムを開発します。
第 12 回	プログラム開発 (3)	○自作プログラムを開発します。
第 13 回	プログラム開発 (4)	○自作プログラムを開発します。
第 14 回	プログラム開発 (5)	○自作プログラムを公表し，評価し合います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○全 14 回ぶんの課題をできるだけ早く提供します（期限の 2-3 週間前には提供できるように準備します）。受講生は授業時間外に自主的に課題に取り組んでください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。ただし，プログラミングには，予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまって時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
何冊か例示しますが，図書館や書店に足を運んで，自分でページをめくり，読みやすそうなもの，必要な情報の例が多い本を選びましょう。
○プログラミング演習 Python 2019 喜多一（2020）https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698 からダウンロードできます(無料)。
○東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Python で手を動かして学ぶデータ分析~　塚本ら　マイナビ出版 (2019)
○エキスパート Python プログラミング 改訂 2 版　Jaworski　ら　ドワンゴ (2018)
○入門 Python 3 (日本語) Lubanovic　オライリージャパン (2015)
○独学プログラマー ~Python 言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経 BP (2018)
○ Python 実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~　陶山 技術評論社 (2020)

【成績評価の方法と基準】
○課題得点を 70%，授業内活動への参加を 30%で評価します。
○授業を欠席した場合には課題を期限までに提出してください。欠席しても課題得点は 6 回ぶんまでは補填できるものとします。ただし，授業内活動の得点は補填できません。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度から開講する授業なので気づきはまだありません）

【学生が準備すべき機器他】
○毎回，ノート PC を持参してください。
○大学のノート PC には管理者権限がなく，自分でソフトなどをインストールできないので，自分の PC を使うことをお勧めしますが，持っていなかったりしてマイ PC を持参することが難しい場合には相談してください。

【その他の重要事項】
○本授業では民間のソフトウエア開発会社でプログラマー・SE として勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.” Another goal of this course is to obtain skill sets that facilitates collaboration when working on a team project involving computer programming.

PSY200BG

身体運動の心理と生理

林　容市

授業コード：A3738　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，身体運動の基礎となる心理的・生理的基礎を学び，様々な身体活動やスポーツ実践時における身体動作の学習や発達について理解することを目的とします。

【到達目標】
・身体運動に関わる心理的・生理的基礎を学習する。
・様々な身体運動の制御や発達に関する知識・情報を学習する。
・自身の身体運動についてそのメカズムを理解し，必要に応じて改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体運動に関連した心理的・生理的知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を，日常における自らの身体運動時にどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め，その内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業内容に関連した個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め，評価の一部とします。
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 5 月 11 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，身体活動に関わる諸要因について学ぶ
第 2 回	身体運動時における骨格筋の働き	骨格筋の構造・機能や筋力・筋パワーについて学ぶ
第 3 回	身体運動時における神経系の働き・調節 1	身体運動時の神経系の基礎的な働きについて学ぶ
第 4 回	身体運動時における神経系の働き・調節 2	神経系による身体動作の調節，運動と様々な反射について学ぶ
第 5 回	身体運動の知覚と運動の意図	身体運動時の感覚に関するメカニズムを学ぶ
第 6 回	身体運動の制御と学習	身体運動制御に関する 2 つのアプローチについて学ぶ
第 7 回	身体運動とイメージ	身体運動や身体のイメージの知覚に関する基礎を学ぶ
第 8 回	身体運動の動作を分析する	スポーツの動作を分析する手法や解釈を学ぶ
第 9 回	複雑な身体運動の獲得	複合運動学習について学ぶ
第 10 回	姿勢制御のメカニズム	姿勢を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 11 回	移動性機能制御のメカニズム	歩行等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 12 回	物品操作時の身体運動制御のメカニズム	把握やリーチ等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 13 回	身体運動の感覚と個人差	子供の身体運動感覚と発達における個人差について学ぶ
第 14 回	身体運動の発育・発達と幼児期の身体運動の考え方	幼児期・児童期における身体の発育・発達と身体運動のあり方について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また，ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめておいてください。なお，これらの授業に向けた準備および復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%，2）ミニレポート：30%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。
なお，当面の間，オンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します。
具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn the psychological and physiological factors underlying body movements and exercise and to understand the learning and development of body movements and exercise during various physical activities and sports.

EDU200BC

国語科教育法（1）

須貝　千里

授業コード：A2724　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国語科の歴史と課題を踏まえて、学習指導要領に示された国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点などを取り上げる。こうしたことを前提にして、教材研究の方法、学習評価のあり方、発展的な学習内容の学習指導への位置づけなどについて取り上げる。

【到達目標】
学習指導要領に示された中学校、高等学校の国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点、学習評価の考え方を把握することができる。3つの資質・能力（知識・技能　思考力・判断力・表現力等　学びに向かう力・人間性等）を育成するために、国語科を支える国語学、国文学、教育学などの成果を踏まえて教材研究をし、その上で、発展的な学習内容を学習指導に位置づけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義と学生による教材研究の取り組みの発表を組み合わせて授業を進めていく。
ただし、本講義の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンラインシステム授業の方法等を、学習支援システムで提示する。同システムの「お知らせ」「教材」「課題」を確認のこと。春学期の前半が少なくともオンラインシステムでの開講となることに伴う授業計画の変更については、学習支援システムで、その都度、提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：到達目標	学習指導要領の内容を把握し、教材研究に取り組むこと。
第 2 回	国語科の歴史	国語科の整理と意義について把握すること。
第 3 回	国語科の課題	今日の国語科の課題について把握すること。
第 4 回	国語科の授業設計	年間指導計画の作成と単元の構想について把握すること。
第 5 回	学習指導要領（1）	3つの育成すべ資質・能力と学習評価について把握すること。
第 6 回	学習指導要領（2）	中学校国語科の学習指導要領の構成と目標・内容について把握すること。
第 7 回	学習指導要領（3）	高等学校国語科の学習指導要領の構成と目標・内容について把握すること。
第 8 回	学習指導要領（4）	「主体的・対話的で深い学び」について把握すること。
第 9 回	国語科教科書（1）	国語教科書の構成原理について把握すること。
第 10 回	国語教科書（2）	国語教科書の各単元のあり方について把握すること。
第 11 回	教材研究（1）	「読むこと」（説明文・評論教材、言語事項を含む）の教材研究の方法を把握すること。
第 12 回	教材研究（2）	「読むこと」（物語・小説教材、言語事項を含む）の教材研究の方法を把握すること。
第 13 回	教材研究（3）	「話すこと・聞くこと」（言語事項を含む）の教材研究の方法を把握すること。
第 14 回	教材研究（4）	「書くこと」（言語事項を含む）の教材研究の方法を把握すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 具体的な教材について取り上げる際には、前週に教材文を配布するので、読んできて授業に参加すること
2. 講義に際してはレジュメを配布するので、授業後、講義内容との照らし合わせを
すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、各授業時にプリントを配布する。

【参考書】
○『学習指導要領』及び解説書（中学校国語科・高等学校国語科　最新版、文部科学省）
○『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』（須貝他編　明治図書）
○『言語活動ハンドブック』（読解力向上のための言語活動推進協議会編　山梨県教育委員会）
○『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ　』文学編・評論編・古典編　全 14 巻
（須貝他編　右文書院）
○『文学の力 × 教材の力』全 10 巻（須貝他編　教育出版）

【成績評価の方法と基準】
「学習指導要領を理解している、教材研究に取り組むことができる」という 2 つの観点に留意して評価する。具体的には、ミニレポート 20 %（2回）、まとめのレポート 80 %（1回）とする。定期試験は実施しない。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、上記にこだわらず、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法は、課題に対する複数回のレポート。評価基準は、課題に対する理解度と問題提起がなされていること。

【学生の意見等からの気づき】
教材研究に取り組むことによって、学習指導要領の内容を、実践的に学ぶことができた、との声が寄せられている。

【学生が準備すべき機器他】
講義内容の記録、講義資料の保管に役立つものを準備すること。

【その他の重要事項】
自分が教員採用を目指している地域、及び私学の情報については、個別にご相談ください。

【Outline and objectives】
The course of Teaching Method of Japanese (Kokugo-ka Kyoiku-ho) is consisted of the four classes, Teaching Method (1), (2), (3) and (4). The objective of Teaching Method (1) is to understand and learn the goals, contents, curriculum structure and points to note for instruction on Subject of Japanese Language

EDU200BC

国語科教育法（2）

須貝　千里

授業コード：A2725　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生・高校生の認識や思考、学力などの実態や実践研究の動向を視野に入れて、授業設計の重要性を理解し、国語科の特性に応じた情報機器及び機材の効果的な活用を組み込んだ学習指導案の作成に取り組む。模擬授業の実施とその振り返りを通して、国語科における実践研究の動向を知り、授業をよりよく改善していくことに取り組む。

【到達目標】
国語科教育法（1）の授業のテーマ及び到達目標を前提にして、国語科における基礎的な学習指導理論を学び、具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成することができる。模擬授業に取り組むことによって、授業を改善することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業に取り組むことによって、学習指導案の書き方、授業の工夫の仕方について、実践的に学ぶ。
ただし、本講義の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンラインシステム授業の方法等を、学習支援システムで提示する。同システムの「お知らせ」「教材」「課題」を確認のこと。春学期の前半が少なくともオンラインシステムでの開講となることに伴う授業計画の変更については、学習支援システムで、その都度、提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（到達目標）と学習指導案（1）	1. 学習指導案づくりと授業づくり。 2. 学習指導案の基本的な書式（①教材について、②教材研究、③学習目標、④学習計画、⑤本時の展開案、⑥評価）を把握すること。（第 4 回に提出する課題を提起）。
第 2 回	学習指導案（2）	①「教材について」、②「教材研究」の記載内容について把握すること。
第 3 回	学習指導案（3）	③「学習目標」、④「学習計画」の記載内容をはあ 1 くすること。
第 4 回	学習指導案（4）	⑤「本時の展開案」、⑥「評価」の記載内容を把握すること。（課題提出）。
第 5 回	学習指導案（5）	前時提出の学習指導案に基づいて、改善案（「情報機器及び機材の効果的な活用法」を踏まえて）を探究すること。（改善案のいくつかに基づいて、第 6 回から第 12 回まで模擬授業を行う）。
第 6 回	模擬授業（1）	学習指導案に基づく模擬授業（説明文教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点を探究すること。
第 7 回	模擬授業（2）	学習指導案に基づく模擬授業（評論教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 8 回	模擬授業（3）	学習指導案に基づく模擬授業（物語教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 9 回	模擬授業（4）	学習指導案に基づく模擬授業（小説教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 10 回	模擬授業（5）	学習指導案に基づく模擬授業（古典教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 11 回	模擬授業（6）	学習指導案に基づく模擬授業（話すこと・聞くことの教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 12 回	模擬授業（7）	学習指導案に基づく模擬授業（書くことの教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 13 回	学力の形成と教育課程（1）	年間指導計画の作成の方法について把握すること。
第 14 回	学力の形成と教育課程（2）	年間指導計画の分析の方法について把握すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 具体的な教材について取り上げる際には、前週に配布するので、読んできて授業　に参加すること
2. 講義に際してはレジュメを配布するので、授業後、講義内容との照らし合わせを　すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、各授業時にプリントを配布する。

【参考書】
○『学習指導要領』及び解説書（中学校国語科・高等学校国語科　最新版　文部科学省）
○『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』（須貝他編　明治図書）
○『言語活動ハンドブック』（読解力向上のための言語活動推進協議会編　山梨県教育委員会）
○『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ　』文学編・評論編・古典編　全 14 巻（須貝他編　右文書院）
○『文学の力 × 教材の力』全 10 巻（須貝他編　教育出版）

【成績評価の方法と基準】
学習指導案を作成できる、模擬授業に取り組むことができる、という 2 つの観点に留意して評価する。具体的には、ミニレポート 20 %（2 回）、まとめのレポート 80 %（1 回）とする。定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
学習指導案の作成と模擬授業にに取り組むことのよって、学習指導要領の内容を、実践的に学ぶことができた、との声が寄せられている。

【学生が準備すべき機器他】
講義内容の記録、講義資料の保管に役立つもの。

【その他の重要事項】
自分が教員採用を目指している地域、及び私学の情報については、個別にご相談ください。

【Outline and objectives】
On the basis of Teaching Method (1), the objective of Teaching Method (2) is for students to learn basic theories of Japanese language instruction and to master how to plan, do and check the lessons through trying to practice them for themselves.

EDU200BC

国語科教育法（3）

福田　淑子

授業コード：A2727　｜　曜日・時限：**火曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育学と現代言語学・文学の理論をベースに、中学校や高等学校の国語科で扱うテキストの教材化のための分析解釈を行い、さまざまな教室環境の中で、実際に授業を展開するためのスキルを身につけ、授業実習演習を行う。具体的には、『羅生門』（芥川龍之介）などの定番作品を既成の読みから解放する自ら考え、「疑問を作り出す」読解の授業実践力を培う。

【到達目標】
言語による思考力、判断力、表現力等を問う読解力や記述式問題、知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こる様々な問題を想定しながら、さまざまな背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生きる力につながる指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって実践力や、授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。
本科目は、4 月 28 日（火）から授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「学習指導要領解説」国語編の学習	国語の授業とは何かについて 「現代文学理論」文学表現とは、言語とはなにかについて
第 2 回	高等学校定番小説教材の分析と実践例①	『羅生門』はがなぜ小説教材の導入に用いられる教材価値があるのか。
第 3 回	小説『羅生門』の教材分析と授業実践の展開	メタファー、語りの構造、人物像を探る 模擬授業実践
第 4 回	小説の読み方概論	小説『羅生門』の様々な作品分析の紹介と主題文の作成演習
第 5 回	現代文学理論概要	現代文学理論による教材分析の方法と国語教材の傾向と選定の方法
第 6 回	中学校定番小説教材の分析と実践例②	教材例としての、小説『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開
第 7 回	小説『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開 模擬授業演習①	模擬授業実践演習の在り方の指導
第 8 回	小説『高瀬舟』の教材分析と模擬授業演習②	小説『高瀬舟』を語りの構造から読み解き、模擬授業実践演習に取り入れる
第 9 回	小説教材の授業計画法と評価法	模擬授業実践演習の指導助言と小説教材の学習指導案作成。テスト問題の作成法の指導
第 10 回	詩歌句の読解と指導	詩歌句の指導法とテスト問題の作成の指導
第 11 回	授業教材例として詩歌句の模擬授業演習	「中村草田男」「与謝野晶子」「正岡子規」などの作品の授業実践方法
第 12 回	古典教材の教材分析と授業法	古典教材の価値と授業で扱う意義などを学ぶ
第 13 回	古文教材での授業法実践と模擬授業演習	教材例として「伊勢物語」「枕草子」など古典教材の授業実践と模擬授業実践演習
第 14 回	漢文教材での授業法	第１４回：漢文教材の指導法と授業実践（教材例として司馬遷「史記」または漢詩文など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料検索、読書、レポート作成、授業見学、ディスカッションなど。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領』最新版　文部科学省）、『高等学校学習指導要領解説　国語編』（最新版　文部科学省）、『教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会）、『実践国語科教育法』（学文社）、『あたらしい国語科教育法』（学文社）、
『相手依存の自己規定』（鈴木孝夫）、『安楽への全体主義』（藤田省三）、『少年の日の思い出』（ヘッセ）、『山月記』（中島敦）、『鞄』（安部公房）、『掟の門』（カフカ）、など（いずれも国語検定教科書より）

【参考書】
参考書・参考資料等 『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『文学理論』（ひつじ書房）、『教師の条件』（学文社）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）、『小説作品論集』（クレス出版）、他

【成績評価の方法と基準】
学生に対する評価
レポート（30 %）、学習指導案（20 %）、模擬授業実践演習（20 %）、質問シートの作成（10 %）、授業への貢献度（20 %）など

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をもっと取り入れてほしい。読書意欲を促してほしい。

【Outline and objectives】
The objectives of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, are for students to learn both the theories on modern language and literature and the skills to cultivate the learner’ s abilities of thinking, judging and expressing, to analyze the contents of teaching and learning materials for Japanese language, and to try to practice the lessons for themselves.

EDU200BC

国語科教育法（4）

福田　淑子

授業コード：A2728　｜　曜日・時限：**火曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育学と現代言語学・文学の理論をベースに、中学校や高等学校の国語科で扱うテキストの教材化のための分析解釈を行い、さまざまな教室環境の中で、実際に授業を展開するためのスキルを身につけ、授業実習演習を行う。具体的には、『羅生門』（芥川龍之介）などの定番作品を既成の読みから解放する自ら考え、「疑問を作り出す」読解の授業実践力を培う。

【到達目標】
言語による思考力、判断力、表現力等を問う読解力や記述式問題、知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こる様々な問題を想定しながら、さまざまな背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生きる力につながる指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって実践力や、授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	評論文の教材分析と授業実践	評論文の読み方、論理展開の解読方法、教材としての評論文の扱い方など
第 2 回	評論文教材分析と授業実践と模擬授業実践演習の指導助言	教材例として評論『相手依存の自己規定』（鈴木孝夫）などを例に挙げて、模擬授業を行う
第 3 回	評論文教材の模擬授業の振り返りと指導	評論文の論旨、論証方法、概念用語の扱いについての学習
第 4 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習①	前回の授業理論を踏まえて、評論教材の授業実践を行う。指導助言をする。
第 5 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習②	評論文を用いて、アクティブラーニング、グループ演習の方法を学ぶ
第 6 回	翻訳文学の授業方法	教材例として『少年の日の思い出』の教育観、授業観と教材分析
第 7 回	翻訳文学の授業実践	教材例として『少年の日の思い出』の教育観と模擬授業実践演習
第 8 回	現代文学作品の授業法①と教育観	「鞄」や「掟の門」などメタファーの強い小説の教材分析と教育観、授業実践方法
第 9 回	現代文学の授業法②と模擬授業演習	教材例小説『鞄』（阿部公房）の授業法と模擬授業実践演習
第 10 回	現代文学講義と現代文学理論	文学におけるメタファーとは何か、文学表現の神髄について
第 11 回	小説の教材の分析と授業実践について例：『山月記』	小説教材の分析と授業実践例を踏まえた指導案作成と模擬授業実践演習
第 12 回	教材例として小説『山月記』の教材分析と授業実践モデル	実践分析をいかした指導案作成、授業実践にむけて、「疑問を作り出す」発問例の作成と授業 小説教材の分析と授業実践例
第 13 回	小説教材の模擬授業実践	小説『山月記』の教材分析と模擬授業実践演習（グループ学習の方法）
第 14 回	小説教材の指導案の書き方と教育実習に向けての助言	小説『山月記』の学習指導案の書き方と教育実習の心得と指導助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料検索、読書、レポート作成、授業見学、ディスカッションなど。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領』最新版　文部科学省）、『高等学校学習指導要領解説　国語編』（最新版　文部科学省）、『教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会）、『実践国語科教育法』（学文社）、『あたらしい国語科教育法』（学文社）、『相手依存の自己規定』（鈴木孝夫）、『安楽への全体主義』（藤田省三）、『少年の日の思い出』（ヘッセ）、『山月記』（中島敦）、『鞄』（安部公房）、『掟の門』（カフカ）、など（いずれも国語検定教科書より）

【参考書】
参考書・参考資料等 『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『文学理論』（ひつじ書房）、『教師の条件』（学文社）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）、『小説作品論集』（クレス出版）、他

【成績評価の方法と基準】
学生に対する評価
レポート（30 %）、学習指導案（20 %）、模擬授業実践演習（20 %）、質問シートの作成（10 %）、授業への貢献度（20 %）など

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をもっと取り入れてほしい。読書意欲を促してほしい。

【Outline and objectives】
The objectives of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, are for students to learn both the theories on modern language and literature and the skills to cultivate the learner’ s abilities of thinking, judging and expressing, to analyze the contents of teaching and learning materials for Japanese language, and to try to practice the lessons for themselves.

EDU200BF

理科教育法（1）

狩野　真規

授業コード：A3527　｜　曜日・時限：**水曜５限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】
教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。学習支援システムに課題を提示して、講義前にそれを提出してもらう。また、講義資料はシステムにて配布し、必要に応じてシステム上の掲示板に意見などを書き込んでもらう。なお、本講義の開始日は 4/22 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第 2 回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 5 回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第 6 回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第 7 回	中学理科の科目研究・その 1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第 8 回	中学理科の科目研究・その 2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第 9 回	中学理科の科目研究・その 3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。
第 10 回	中学理科の科目研究・その 4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第 11 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備 (第 1 回)	学習指導案の作成について確認していく。
第 12 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備 (第 2 回)	学習指導案を作成し、その内容を確認していく。
第 13 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の準備 (第 3 回)	学習指導案の修正を通じて、指導実践に必要な要素を確認していく。
第 14 回	実際の授業で活用できるもの	授業で活用できそうな教材を探っていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているが、昨今の状況では難しいのでそれに代わるものを検討してみたい。

【学生が準備すべき機器他】
講義は授業支援システムを通じて行うことを基本とするので、本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

EDU200BF

理科教育法（2）

狩野　真規

授業コード：A3528　｜　曜日・時限：**水曜５限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT 教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第 2 回	発展的学習内容について	高校理科における発展的学習内容に対する実践的指導とそのあり方について考察する。
第 3 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ ICT 教材の効果的活用法について理解し、理科の授業設計に活かせる考え方を身に付ける。
第 4 回	高校理科の学習評価	高校理科における定期テストやレポートなどを通じた学習評価について、その方法や考え方を理解する。
第 5 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について基本的な事項の検討をする。
第 6 回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

EDU200BF

理科教育法（3）

狩野　真規

授業コード：A3530　｜　曜日・時限：**月曜４限**
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、実際の教科書を使った教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習だけではなく実際に教壇に立った時に役立つようなより実践的な内容も行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。
第 2 回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 5 回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第 6 回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第 7 回	中学理科の発展的学習・その 1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 8 回	中学理科の発展的学習・その 2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 9 回	中学理科の発展的学習・その 3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 10 回	中学理科の発展的学習・その 4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 11 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 1 回)	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 12 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 2 回)	生徒の実態 (認識力・思考力・学力など) に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 13 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 3 回)	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第 14 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 4 回)	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).

EDU200BF

理科教育法（4）

狩野　真規

授業コード：A3531　｜　曜日・時限：**月曜４限**
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、実際の教科書を使った教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習だけではなく実際に教壇に立った時に役立つようなより実践的な内容も行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第 2 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ ICT 教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第 3 回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第 4 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第 5 回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第 6 回	SSH について	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール (SSH) について、その取り組みから実態を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対処法を考える。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).

法政大学
HOSEI University